

博士前期課程

# シラバス

(令和6年度)

2024

日本大学大学院総合社会情報研究科

## 日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

### 日本大学マインド

- ・ **日本の特質を理解し伝える力**  
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。
- ・ **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**  
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- ・ **社会に貢献する姿勢**  
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

### 「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

#### < 自ら学ぶ >

- ・ **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**  
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- ・ **世界の現状を理解し、説明する力**  
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

#### < 自ら考える >

- ・ **論理的・批判的思考力**  
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
- ・ **問題発見・解決力**  
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

#### < 自ら道をひらく >

- ・ **挑戦力**  
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- ・ **コミュニケーション力**  
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- ・ **リーダーシップ・協働力**  
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
- ・ **省察力**  
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

# 日本大学教育憲章ルーブリック

		初年領域： Basic		中上級領域： Intermediate and Advanced		
		1	2	3	4	
		自主創造	自ら学ぶ	A-1：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、倫理的な課題を理解し説明することができる。	経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の倫理観をもって、倫理的な課題に向き合うことができる。
A-2：世界の現状を理解し、説明する力	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状を概説できる。			世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、自己の世界観をもって説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を、複数の世界観に立って解釈し説明できる。	世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条などの現状および相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。
自ら考える	A-3：論理的・批判的思考力		仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察することの重要性を説明できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的な考察を通じて、課題に対する見解を示すことができる。	仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。
	A-4：問題発見・解決力		事象を注意深く観察して、解決すべき問題を認識できる。	問題の意味を理解し、助言を受けて複数の解決策を提示し説明できる。	問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。	創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力または他者と協働して問題を解決することができる。
	A-5：挑戦力		新しいことに挑戦する気持ちを持つことができる。	新しい挑戦への計画を立て、準備することができる。	責任と役割を担い、新しいことに挑戦することができる。	責任と役割を担い、あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
自ら道をひらく	A-6：コミュニケーション力		親しい人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互に意思を伝達することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて相互の意思伝達を自由かつ確実に行い、他者との良好な関係を確立することができる。	さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。
	A-7：リーダーシップ・協働力		集団の活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重することができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者のもとで他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、指導者として他者と協働し、作業を行うことができる。	集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
	A-8：省察力		自己の学修経験の振り返りを継続的に行うことができる。	自己の学修に関する経験と考えを振り返り、分析できる。	学修状況を自己分析し、その成果を評価することができる。	学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学修に活かすことができる。

# 目次

## 国際情報専攻

### 必修科目

国際情報論特講	神井 弘之・加藤 孝治	2
---------	-------------	---

### 国際（関係）・政治コース

現代政治学特講	井手 康仁	5
国際法特講	本吉 祐樹	8
国際政治論特講	信夫 隆司	11
国際政治論特講	大八木時広	14
多文化共生論	市岡 卓	17
国際関係論特講	日吉 秀松	20
行政論特講	関根二三夫	23
危機管理論特講	大瀨 明弘	26
組織倫理論特講	神井 弘之	29
日本政治史論特講	瀧川 修吾	32
都市計画論特講	山岸 輝樹	35
地方共生論特講	神井 弘之	38
知的財産論特講	宮下 義樹	41
国際メディア論特講	安江 伸夫	44
日中比較社会論特講	高綱 博文	47
日中比較社会論特講	松重 充浩	50

### 経営・経済コース

経済理論特講	後藤 康雄	53
国際経済政策論特講	前野 高章	56
国際経済政策論特講	陸 亦群	59
グローバル経営戦略論特講	黒澤 壮史	62
現代ファイナンス論特講	建宮 努	65
アカウンティング論特講	丸森 一寛	68
アカウンティング論特講	青木 隆	71
マーケティング論特講	雨宮 史卓	74
人材マネジメント論特講	加藤 孝治	77
多国籍企業論特講	諸上 茂登	80
多国籍企業論特講	井上 葉子	83
流通ビジネス論特講	白鳥 和生	86
ビジネス法特講	中村 良	89
ファミリービジネス論特講	加藤 孝治	95
ファミリーガバナンス論特講	階戸 照雄	98
事業承継論特講	曾根 秀一	101
事業創造論特講	中村裕一郎	104
地方創生・振興論特講	片上 敏喜	107
ローカルビジネス論特講	佐藤 奨平	110

### 専攻共通科目

調査分析特講	田中堅一郎	113
統計基礎Ⅰ	佐藤 友彦	116
統計基礎Ⅱ	佐藤 友彦	119
ゲーム理論	米田 紘康	122

## 文化情報専攻

### 必修科目

文化情報論特講	島田めぐみ・保坂 敏子	128
---------	-------------	-----

### 文化研究コース

比較文学特講	秋草俊一郎	131
世界文学特講	秋草俊一郎	134
翻訳論特講	秋草俊一郎	137
メディア文化論特講	小澤 英実	140
日本文化論特講 I	野口 恵子	143
日本文化論特講 II	山崎真紀子	146
アジア文化論特講	清水 享	149
英語圏文化論特講	猪野 恵也	152

### 言語教育研究コース

言語教育学特講	保坂 敏子	155
言語教育研究特講	島田めぐみ	158
言語学特講	保坂 道雄	161
異文化間コミュニケーション論特講	小川 直人	164
社会言語学特講	石部 尚登	167
第二言語習得論特講	田嶋 倫雄	170
言語教育工学特講	保坂 敏子	173
言語教育デザイン論特講	谷部 弘子	176
言語教育デザイン論特講	萩原 幸司	179
日本語学特講	森 篤嗣	182
日本語教育方法論特講	島田めぐみ	185
日本語教育研究法特講	野田 尚史	188
英語学特講	川嶋 正士	191
英語教育方法論特講	ロックリー・トーマス	194

### 専攻共通科目

調査分析特講	田中堅一郎	197
統計基礎 I	佐藤 友彦	200
統計基礎 II	佐藤 友彦	203
ゲーム理論	米田 紘康	206

# 人間科学専攻

## 必修科目

人間科学特講	田中堅一郎・釋 文雄	212
--------	------------	-----

## 哲学コース

社会哲学特講	中澤 瞳	215
哲学史特講	齋藤 宜之	218
宗教哲学特講	石浜 弘道	221
科学哲学特講	大熊 圭子	224
生命倫理学特講	吉田一史美	227
社会思想史特講	岡山 敬二	230

## 心理学コース

心理学史特講	荒川 歩	233
心理学研究法特講	眞邊 一近	236
認知心理学特講	山本 真菜	239
認知心理学特講	望月 正哉	242
社会心理学特講	和田 万紀	245
産業・組織心理学特講	田中堅一郎	248
臨床心理学特講	菊島 勝也	251
臨床心理学特講	北村 世都	254
医療心理学特講	鎌倉やよい	257
行動分析学特講	杉本 任士	260
コミュニケーション心理学特講	眞邊 一近	263

## 教育学コース

生涯学習論特講	古賀 徹	266
学校教育学特講	黒田 友紀	269
教育心理学特講	時田 学	272
教育臨床学特講	井上 雅彦	275
生徒指導論特講	柴山 英樹	279
教育評価論特講	藤田 主一	282

## 医療・安全学コース

健康科学特講	釋 文雄	285
健康科学特講	丹羽 秀夫	288
安全学特講	河野龍太郎	291
人間工学特講	河野龍太郎	294
環境生理学特講	泉 龍太郎	297
環境生理学特講	釋 文雄	300

## 医療・安全学コース

スポーツ運動学特講	森長 正樹	303
スポーツ医学特講	秦 光賢	306
スポーツ心理学特講	橋口 泰一	309
コーチング学特講	山本 大	312
コーチング学特講	上野 広治	315

## 専攻共通科目

調査分析特講	田中堅一郎	318
統計基礎Ⅰ	佐藤 友彦	321
統計基礎Ⅱ	佐藤 友彦	324
ゲーム理論	米田 絃康	327



# 国際情報専攻

(シラバス)



## シラバス

シラバスには、教材の概要・参考図書・履修上のポイント・レポート課題が掲載されています。履修登録時に参照してください。

レポートの提出期限は、9月・1月（予定）となっています〔詳細は研究科報（ホームページ）にてお知らせします〕。

科目名	国際情報論特講	担当者	カミイ ヒロユキ 神井 弘之 カトウ コウジ 加藤 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>国際情報分野（国際・政治・経済・経営）において諸領域の研究を行う際に必要なリテラシーを学び、以下の能力を身に着ける。</p> <p>I. 問題発見・解決力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。</p> <p>II. 論理的・批判的思考力：得られた情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。</p> <p>III. 倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。</p> <p>具体的な項目としては、①研究を行う上で欠かせない論文作成上の注意事項、②研究倫理、③文献検索の方法等の理解、及び④専攻の研究基盤となる知識・教養の涵養を含む。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際情報分野で研究および論文を作成するうえで「常識」とされる知識を理解する。</li> </ul> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>修士論文を作成するまでに必要な3つのリテラシーを理解できる。</li> <li>①研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件の把握</li> <li>②自分の研究課題に関する先行研究を文献検索する方法</li> <li>③研究を進める上でやってはいけない研究倫理上の問題</li> <li>自分の研究領域において必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。</li> </ul>		
学修方略（方法）	<p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>&lt;基本教材1：在宅学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、manaba folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。</li> </ul> <p>&lt;基本教材2：スクーリング&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2024年4月27日～4月29日に実施される実質3日間の集中講義に出席することが、単位取得の要件となる。レポート課題についてはスクーリング後、指定された期限までにmanaba folioに提出する（ディベート、自主研究）。研究計画の作成にあたっては、指導教員と綿密に情報交換を行うこと</li> </ul> <p>&lt;学修時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅学修では、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20時間、2)レポート執筆；10時間、3)レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)；15時間。</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの推敲過程において、manaba folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>この講義は大学院の初年度教育に関する内容なので、日程調整し、初年度に履修すること。</p> <p>&lt;通信授業（在宅学習） 2単位：基本教材1&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>基本教材1.のレポート課題1(前期課題提出期間に提出) 初稿〆切 2023年6月末日 → 最終稿は学事暦に定める前期レポート提出期限</li> <li>基本教材1.のレポート課題2(後期課題提出期間に提出) 初稿〆切 2023年11月末日 → 最終稿は学事暦に定める後期レポート提出期限</li> </ol> <p>&lt;スクーリング 2単位&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三専攻合同講義及び専攻別講義は4月に、原則、対面にて実施（ただし、状況に応じてオンライン講義に変更する可能性あり）</li> <li>前半：研究、及び論文作成に必要なリテラシー（三専攻合同講義）</li> <li>後半：国際情報専攻分野における様々な課題（担当：各科目担当教員） <ol style="list-style-type: none"> <li>スクーリング・レポート課題1：提出期限8月第1週</li> <li>スクーリング・レポート課題2：提出期限8月末日</li> <li>科目担当教員からレポート提出を求められた場合は別途指示する期限までに提出</li> </ol> </li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	通信授業 (在宅学習)	50 %	レポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%
	スクーリング	50 %	レポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な学習のため、履修届を提出したら担当教員（<a href="mailto:kamii.hiroyuki@nihon-u.ac.jp">kamii.hiroyuki@nihon-u.ac.jp</a>）にメールにて連絡すること。</li> <li>学修およびレポート作成についての注意事項については、全てmanaba Folioの「国際情報論特講」の掲示板で告知するので、必ず定期的にチェックすること。</li> <li>レポートを作成する際には、事実と意見を峻別すること。また、意見のうち他者の意見と自分の意見を峻別し、前者については引用部分と出典を明らかにし、後者についてはその根拠を論理的に説明すること。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1 (通信授業/在宅学習用)	
教材の概要	著者名： 船橋洋一編 教材名： 『検証 日本の「失われた20年」』(東洋経済新報社, 2015年) ISBN:978-4492396179 3,080円+税
参考図書	(1) 著者名： 山家悠紀夫 教材名： 『日本経済30年史 バブルからアベノミクスまで』(岩波新書, 2019年) ISBN:978-4004317999 900円+税
	(2) 著者名： 博報堂生活総合研究所 教材名： 『生活者の平成30年史 データで読む価値観の変化』(日本経済新聞社, 2019年) ISBN:978-4532176549 2,080円+税
	(3) 著者名： 日本経済新聞社(編) 教材名： 『令和につなぐ平成の30年』(日本経済新聞社, 2019年) ISBN:978-4492396179 2,800円+税
履修上のポイント	国際情報専攻で学ぶ領域は、政治・経済・企業経営と幅広い分野に渡るが、それぞれの分野の研究に必要な知識は独立しているのではなく相互に関係している。近現代の日本の歴史を振り返りつつ、研究に必要な論点を幅広く把握してほしい。 本専攻における学修にあたり、浅くとも広い知識を持つこと(多様な視点)が、自分の研究テーマに沿った深い研究を進めることに役に立つものとなることを理解してほしい。
レポート課題1	自らが研究テーマとして取り上げる内容に <b>最も近い章</b> を一つ選び、その内容を要約し、筆者の意見に対して賛成するか反対するかを明確にして、自らの意見を述べてください(3000字程度)。レポート作成にあたり、課題図書以外の参考文献(必ずしも参考図書を含む必要はない)も読み。その文献タイトルを記入すること。
レポート課題2	自らが研究テーマとして取り上げる内容とは <b>異なるテーマを取り上げている章</b> を一つ選び、その内容を要約し、筆者の意見に対する自らの意見を述べてください(3000字程度)。レポート作成にあたり、課題図書以外の参考文献(必ずしも参考図書を含む必要はない)も読み。その文献タイトルを記入すること。

基本教材 2 (スクーリング)	
教材の概要	著者名： 小熊英二著 教材名： 『基礎からわかる 論文の書き方』(講談社, 2022年) ISBN:978-4065280867 1,320円(税込)
	論文を書くためには、基本的な条件を満たす必要がある。レポート課題2の研究計画を作成するために、必ず本書を読み、自分の研究したい内容を説得力のある形で伝えるように研究計画を作成してください。
参考図書	上記図書のほかに、自らの研究を進めていくために必要な参考図書・論文について、指導教員と相談してください。研究計画書には、選択した参考図書・論文を記載してください。
履修上のポイント	スクーリング前半の「大学院における研究及び論文作成に必要な基礎的事項」には、①研究及び論文を遂行するための最低条件を理解する、②研究倫理を理解し研究を進めるための基本的なスキルを身につける、③研究及び論文作成のモチベーションを高める、という3つの目的がある。スクーリングを通じて修士論文を作成するために必要な研究リテラシーを涵養する。後半の「国際情報専攻分野における様々な問題」の学修において、自らの研究基盤となる知識・教養の涵養に努めること。 研究計画は、上記スクーリング内容を踏まえ、指導教員と相談のうえ、「研究課題の明確化」と「実現可能な範囲」を意識して作成すること
レポート課題1	スクーリングの概要を要約し、それについての意見をまとめて提出すること。その際に、前半の共通講義と後半の専攻ごとの講義を分けて意見をまとめてください(1,000字から1,500字)。
レポート課題2	スクーリングにおける各研究分野の研究手法の講義や基本教材および参考図書、並びにスクーリングでのディスカッションを踏まえて、「入学前に検討していた研究計画」を見直し、より精緻に再作成した <b>研究計画書</b> (3,000字から4,000字)を提出すること。 なお、提出に先立ち、必ず指導教員のレビューを受けてください。

## 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」「研究の取り組み方」について全体的な理解をする
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、大学院の学び方を理解する
第 3 回	教材に基づく学修（第 1 章から第 8 章につき通読する）
第 4 回	教材に基づく学修（第 9 章から第 15 章につき通読する）
第 5 回	「学修の進捗状況・課題の取組方針」について、担当教員と認識を共有する（自らの取り組むテーマ 2 つを確定し、レポート作成方針のすり合わせを行う）
第 6 回	教材に基づく学修（テーマ①の対象章につき精読し、初期原稿を作成する）
第 7 回	教材に基づく学修（テーマ①に係る参考文献を探索し、提出原稿—初稿—を作成する）
第 8 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 9 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 10 回	教材に基づく学修（テーマ②の対象章につき精読し、初期原稿を作成する）
第 11 回	教材に基づく学修（テーマ②に係る参考文献を探索し、提出原稿—初稿—を作成する）
第 12 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

## 基本教材 2

第 1 回	三専攻合同講義 専攻主任が 分担して担当	研究、及び論文作成に求められるもの（加藤孝治）
第 2 回		主な研究スタイルと論文の構成—研究目的の決め方と論証・検証の方法」（神井弘之・島田めぐみ・田中堅一郎・釋文雄）
第 3 回		先行研究のレビューとその利用方法（島田めぐみ）
第 4 回		研究倫理 1（田中堅一郎・釋文雄）
第 5 回		研究倫理 2（田中堅一郎・釋文雄）
第 6 回		研究・論文についての意見交換（グループワーク）① （加藤孝治・島田めぐみ・田中堅一郎・神井弘之・釋文雄）
第 7 回		研究・論文についての意見交換（グループワーク）② （加藤孝治・島田めぐみ・田中堅一郎・神井弘之・釋文雄）
第 8 回	国際情報専攻 講義の順番は 変更される 可能性がある	人材マネジメント論
第 9 回		多国籍企業論
第 10 回		日中比較社会論
第 11 回		国際経済論
第 12 回		国際関係論
第 13 回		グローバル経営戦略論
第 14 回		ファミリービジネス論
第 15 回		地方共生論

※各講義については、1回あたり90分で実施する。

科目名	現代政治学特講	担当者	イデヤスヒト 井手 康仁	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座はそもそも政治学の基本的テーマである民主主義とは何かという知識を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>コロナは言うに及ばず、格差や貧困、テロなど我々の生活を脅かす問題に対しての情報を集め、分析ができる。</p> <p>既存の政治がそれらに応えることが可能なのか、あるいは限界があるのか、自ら考えることができる。</p> <p>現代の民主主義について、より深い見地から理解することが出来るようになることで、有権者としての自らの行動に責任を持ち、政治についてより深く理解することが出来るようになる。</p> <p>現代政治の病巣でもあるポピュリズムや排外主義的な主張に対してどのような対処が可能なのか、より深い理解に到達することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>世界の現状を理解して説明し、有益な情報を選別するとともに、多角的に事象を分析し、独自の視点から解説できる力を身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 学修者が世界各国の民主主義制度に関する情報を得た上で、各国の民主主義の特徴を比較して理解する。(知識)</p> <p>② 具体的に各国の民主主義制度に関する情報を得た上で、各国の民主主義の特徴を比較して理解する。(技能)</p> <p>③ 政治学的な理論(理想)と具体的な各国の民主主義制度(現実)の間には差異があり、そのことを理解しつつ各国の特徴にあわせた考え方を応用的に適用することで、例えば様々な選挙制度の比較や統治組織の比較など、テーマに応じて使いこなせるような思考・行動がとれる。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba folio 並びにメールのやり取りによるインタラクティブな添削指導を実施する。また、科目の性質上、受講生の考え方を最大限に尊重してそれを発展させられるように、科目担当者の意見を押し付けるようなやり方の指導は行わない。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>まず教材を読み込むことが第一である。教科書そのものは1日あれば十分読破可能なものを選んで、真に内容を理解するためには、具体的な事例の考察を自らやってみることが大切である。そのためにも、図書館を活用して教科書に挙げられている参考文献を調査するところまで進んで欲しい。そのためにも、教科書読破にかかった時間の4~5倍の時間が必要であることを肝に命じて欲しい。以上より、レポート1本あたり、基本教材の熟読、初稿の作成、教員指導に基づく提出原稿の修正をあわせて45時間程度を要する。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題1の最終稿は7月末までに提出。レポート課題2の最終稿は9月初旬までに提出。最終期限は学事暦に従う。</p> <p>後期：基本教材1のレポート課題の最終稿は11月末までに提出。レポート課題2の最終稿は1月初旬までに提出。最終期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	教材の内容を十分に理解し、かつ自分の意見や主張を反映させたレポートになっているかどうか。
	平常評価	30 %	意見交換などのプロセスを含めて、その取り組みの姿勢などを平常評価として勘案する。
履修者への要望	<p>各教材、参考図書の意味内容の把握だけに終わることなく、こんにちの政治状況全般に関心を持ち、問題点を把握し、改善策を考えるなど、自らの意見が持てるように努力をすること。そのためにも、日頃から各種のニュースに関心を持ってほしい。他方で、ニュースで取り上げられた出来事だけが全てではないということにも注意して欲しい。例えば、最近の日本では高齢ドライバーの事故のニュースが連日のように報道されていて、ともすれば若者に比べて高齢者は非常に事故を起こしやすいので運転免許を取り上げなければといった議論に行き着きやすいが、実際には、10代、20代のドライバーによる事故発生率の方がはるかに高いのが現実である。マスコミが選んだ報道した出来事がニュースとなり、報道されなかったことに関しては、我々が知らないだけである。報道のみに依拠して議論することは危険であり、何事においても議論をする際には、自分の力で正しい資料を入手した上で議論をはじめると心掛けて欲しい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 森政稔 教材名： 『迷走する民主主義』（筑摩書房，2016年） ISBN:978-4-480-06881-1 1,000円+税
	主に最近の日本政治を題材として、民主主義の意義と限界を思想的に問い直して、現在の閉塞状況を打破するためにはどうすればよいかについて考える。
参考図書	荻部直・鶴の重規・中本義彦編『政治学をつかむ』（有斐閣，2011年） ISBN:978-4-641-17715-4 2,200円+税
履修上のポイント	世界が目まぐるしく変動する中で、現代の民主主義が直面している困難について考えるとともに、民主主義をどのように変革していくべきかを考える。民主主義の起源は紀元前に遡るが、近・現代の民主主義は、時代に合わせて何度もモデルチェンジされながら、それぞれの時代に適応させて生き続けてきた。民主主義を我々の生活に活かすためにはどうすれば良いか、自分自身のこととして考えてみよう。
レポート課題 1	現代の民主主義のメリットとデメリットとはどういった点だろうか。独裁体制のメリットとデメリットと比較しながら論じなさい。 <b>留意点：</b> 教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。
レポート課題 2	弱者に厳しく彼らの利益にはなりそうにない新自由主義的な政府が、なぜ弱者によって支持される傾向が世界各地でみられるのか考察しなさい。 <b>留意点：</b> 教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 中谷義和・川村仁子・高橋進・松下洸編 教材名： 『ポピュリズムのグローバル化を問う 揺らぐ民主主義のゆくえ』（法律文化社，2017年） ISBN:978-4-589-03839-5 4,800円+税
	最初にポピュリズムとはどのような性格を持つものであるかについて検討した上で、各国のポピュリズムについて、それぞれの国の歴史的・文化的背景から分析するものである。
参考図書	W. リップマン著，掛川トミ子訳『世論(上・下)』（岩波書店，1987年） ISBN:978-4-589-03839-5 4,800円+税
履修上のポイント	21世紀になってから、ポピュリズム、ポピュリストという言葉がメディアに登場するようになった。そしてトランプ・アメリカ大統領登場以降、ポピュリズムという言葉は現代政治を説明するために不可欠な言葉となった感がある。ポピュリストと呼ばれるこんにちの政治家達は、どのようにして世論を動かし、味方に付けているのか考えてみよう。
レポート課題 1	世論はどのように形成されるのか。世論はどのように操作される可能性があるのか。例えば日本の原発問題や、アメリカ大統領選挙後の一連のトランプの行動など、具体的な事例を挙げて論じなさい。 <b>留意点：</b> 教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。
レポート課題 2	あなたがポピュリストであると考えて現代の政治家1人を挙げて、どのような点においてそう考えられるか、具体的な政策や言動について検証しながら論じなさい。 <b>留意点：</b> 教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」についての全体像を理解し、教材に基づく学修①を行う
第 2 回	「学修の進め方」について理解を深め、教材に基づく学修②を行う
第 3 回	教材に基づく学修③(そもそも民主主義とは何か)
第 4 回	教材に基づく学修④(民主主義の歴史と成り立ち)
第 5 回	教材に基づく学修⑤(日本の民主主義度は他の民主主義国と比べてどの程度か)
第 6 回	教材に基づく学修⑥(理想の民主主義の条件について考える)
第 7 回	教材に基づく学修⑦(最もあなたの理想に近い民主主義国はどこか考える)
第 8 回	教材に基づく学修⑧(失敗した民主主義について考える)
第 9 回	教材に基づく学修⑨(民主主義の限界について考える)
第 10 回	レポート課題 1 に取りかかる
第 11 回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第 12 回	レポート課題 1 を完成させる
第 13 回	レポート課題 2 に取りかかる
第 14 回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第 15 回	レポート課題 2 を完成させる

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」についての全体像を理解し、教材に基づく学修①を行う
第 2 回	「学修の進め方」について理解を深め、教材に基づく学修②を行う
第 3 回	教材に基づく学修③(そもそもポピュリズムとは何か)
第 4 回	教材に基づく学修④(ポピュリズムの歴史)
第 5 回	教材に基づく学修⑤(ポピュリズムの危険性)
第 6 回	教材に基づく学修⑥(世界のポピュリズム)
第 7 回	教材に基づく学修⑦(日本のポピュリズム)
第 8 回	教材に基づく学修⑧(ポピュリズムとナショナリズム)
第 9 回	教材に基づく学修⑨(ポピュリズムと世論)
第 10 回	レポート課題 1 に取りかかる
第 11 回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第 12 回	レポート課題 1 を完成させる
第 13 回	レポート課題 2 に取りかかる
第 14 回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第 15 回	レポート課題 2 を完成させる

科目名	国際法特講	担当者	モトヨシ 本吉 ユウキ 祐樹	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	国際法は国家間関係を規律する法であるが、今日、その規律対象は国家に留まらず、国際機関、個人などにも及ぶ。本講座は、こうした点を念頭に、国際法の形成と発展、国際法の主体、領域、武力行使禁止原則など、国際法の基本構造を理解したうえで、現代の国際社会が直面している個別具体的な論点や課題について国際法の観点から検討し、理解する力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の現状を理解し、自らの言葉で説明する力を身に付けることができる。</li> <li>現代の国際社会が直面する諸問題を発見し、国際法を手掛かりに論理的かつ批判的に思考することができる。さらにそれら諸問題の解決策について提案することができる。</li> </ul> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国際法の形成と発展について、国際法の主体（国家、国際機関、個人など）について留意しつつ、理解する（知識）。</li> <li>国際紛争の平和的解決における国際法の役割について、自らの言葉で説明する力を身につける（知識、技能、態度）。</li> <li>国際安全保障、紛争解決、領域などをめぐる現代的な諸問題について、国際法を手掛かりに検討し、自らの言葉で説明する力を身につける（知能、技能、態度）。</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>学修方略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材、参考図書を熟読する（自習：SB0s①）。必要に応じて関連図書・文献などを参照する（自主研究：SB0s②）。そのうえで、レポート課題に沿って各レポートを作成する（レポート作成：SB0s③）。</li> <li>レポート作成に際しては、オンラインを通じた教員からの指導、コメントや双方向的な質疑応答に基づいて修正を重ね、最終的なレポートを完成させる。また必要に応じて対面指導も取り入れ、レポートの作成、履修生の学修を補完する（ディベート：SB0s④）。</li> </ul> <p>学修時間</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに最低45時間の学修時間を要するものとする。目安の時間は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材および参考文献の読み込み：20時間以上／レポート1本</li> <li>レポート執筆：10時間以上／レポート1本</li> <li>レポートの推敲・最終稿の完成（教員とのやり取りを含む）：15時間以上／レポート1本</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folioを使用し、教員と院生との間での双方向性を重視した添削指導を実施する。</p>		
スケジュール	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1については草稿を7月末、レポート課題2については草稿を8月中旬（目安）に提出すること。その間、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じて対応する。</li> <li>最終稿は、レポート課題1、2ともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul> <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1については草稿を11月中旬、レポート課題2については草稿を12月中旬（目安）に提出すること。その間、取り上げるテーマ、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じ指導、対応する。</li> <li>最終稿は、レポート課題1、2ともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材、参考図書、その他の文献を用い、課題に沿った十分な検討がなされているか。</li> <li>レポートの構成、論理展開が明確か。</li> <li>脚注、参考文献リスト等レポートの体裁が整っているか。</li> </ul>
	観察記録	20%	教員からのコメントに対する対応、質疑応答など、レポートの最終稿提出までの取り組みを評価する。
履修者への要望	<p>基本教材の理解を前提としつつ、参考図書やそれ以外の関連文献をリサーチしたうえで、テーマ設定、レポート作成を行うことが求められる。</p> <p>レポート作成にあたっては、単に基本教材等をまとめるだけではなく、国際社会における現代的な問題に関心を寄せ、それらの問題について、国際法をとおり論理的に議論を展開することを心掛けてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 渡部茂己、河合利修編 教材名： 『国際法（第4版）』Next 教科書シリーズ（弘文堂、2022年） ISBN:978-4335002472 2,420円＋税
	国際法のスタンダードな概説書であり、領域主権、国際安全保障等について充実した記述がなされている。
参考図書	大沼保昭『国際法』（筑摩書房、2018年）ISBN:978-4480071651 1,210円＋税 植木俊哉ほか『国際条約集 2023年版』（有斐閣、2023年）ISBN: 978-4641001596 3190円＋税 （なお、『国際条約集』は最新版のものでなくとも構いません。）
履修上のポイント	それぞれのレポート課題の留意点に沿って、基本教材のほかにも、参考図書や必要に応じて、関連の文献なども参照しつつレポートをまとめること。特に、国際法の形成と発展の過程、国際法の基本原則たる武力行使禁止原則について十分に理解し考えることは、今後の学修における基盤となる。
レポート課題 1	国際法の形成と発展について、国際法の主体にも留意しつつ論じなさい。（4000字程度）。 <b>留意点：</b> 基本教材第1～2章などを参照しつつ、国際法の形成と発展について論ずること。
レポート課題 2	戦争違法化、武力行使規制の歴史について整理したうえで、武力行使禁止原則の例外について国連憲章の規定を挙げつつ論じなさい（4000字程度）。 <b>留意点：</b> 基本教材第15章などを参照しつつ、戦争違法化の系譜と国連憲章の規定について留意しつつ論ずること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 渡部茂己、河合利修編 教材名： 『国際法（第4版）』Next 教科書シリーズ（弘文堂、2022年） ISBN:978-4335002472 2,420円＋税
	国際法のスタンダードな概説書であり、領域主権、国際安全保障等について充実した記述がなされている。
参考図書	大沼保昭『国際法』（筑摩書房、2018年）ISBN:978-4480071651 1,210円＋税 植木俊哉ほか『国際条約集 2023年版』（有斐閣、2023年）ISBN：978-4641001596 3190円＋税 （なお、『国際条約集』は最新版のものでなくとも構いません。）
履修上のポイント	それぞれのレポート課題の留意点に沿って、基本教材のほかにも、参考図書や必要に応じて、関連の文献なども参照しつつレポートをまとめること。特に、「紛争解決」、「国際裁判」、「領域」の諸原則について十分に理解し考えることは、今後の学修における基盤となる。
レポート課題 1	「紛争解決」をめぐる現代的問題からテーマを1つ設定し、国際法の観点から論じなさい（4000字程度）。 <b>留意点：</b> 基本教材第14章を参照しつつ、どのような観点から「紛争解決」の課題について取り上げるか担当教員と相談のうえ、レポート課題に取り組むこと。
レポート課題 2	「領域」をめぐる現代的問題からテーマを1つ設定し、国際法の観点から論じなさい（4000字程度）。 <b>留意点：</b> 基本教材第6章を参照しつつ、どのような観点から「領域」の課題について取り上げるか担当教員と相談のうえ、レポート課題に取り組むこと。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学習および本講座の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 に基づく学修①（国際法の形成と発展について）
第 3 回	基本教材 1 に基づく学修②（国際法の法源について）
第 4 回	参考図書に基づく学修（国際法のはたらき、ありかたについて）
第 5 回	レポート課題 1 の作成：初校の執筆
第 6 回	レポート課題 1 の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 の作成：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1 の作成：最終稿の作成
第 9 回	基本教材 2 に基づく学修③（戦争違法化について）
第 10 回	基本教材 2 に基づく学修④（国際安全保障について）
第 11 回	参考図書に基づく学修（戦争と平和について）
第 12 回	レポート課題 2 の作成：最終稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 の作成：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2 の作成：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学習および本講座の課題の理解、課題として取り上げる題材の検討
第 2 回	基本教材 1 に基づく学修①（紛争解決について）
第 3 回	基本教材 1 に基づく学修②（国際裁判について）
第 4 回	参考図書に基づく学修（国際紛争と国際法について）
第 5 回	レポート課題 1 の作成：初校の執筆
第 6 回	レポート課題 1 の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 の作成：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1 の作成：最終稿の作成
第 9 回	基本教材 2 に基づく学修③（領域主権について）
第 10 回	基本教材 2 に基づく学修④（領域取得について）
第 11 回	参考図書に基づく学修（「領域」について）
第 12 回	レポート課題 2 の作成：最終稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 の作成：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 の作成：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2 の作成：最終稿の作成

科目名	国際政治論特講	担当者	シノブ 信夫 タカシ 隆司	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義は、以下のふたつを目的とする。</p> <p>ひとつは、国際政治とは何か、現在の国際政治状況において何が問題になっているのか、問題の解決策として何が考えられているのかについて、総合的な理解を得ることができるようにすることである。</p> <p>もうひとつは、日本外交においてもっとも重要な対米関係の理解に資することである。とくに、米兵の刑事裁判の問題を取り上げる。これにより、個別・具体的な事例を通して、日米間に横たわる本質的な問題とは何かを理解できるようにする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>国際政治の全般的な理解に資するとともに、具体的な事例を通して、問題の掘り下げ方、資料収集・分析の仕方を学び、国際政治の問題をいかに掘り下げるか・考えるかを学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在の国際政治事象について、歴史的経緯を踏まえながら、体系的に説明できるようにする (知識・想起)</li> <li>歴史的事象の理解にあたり、国際政治に関する理論がどのように役立っているのか、論理的かつ批判的な思考ができる (知識・解釈)</li> <li>具体的な事例を通して、その問題点とは何か、どのような考察が可能かを展開できる (技能・問題解決)</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>レポートの作成1本につき、最低 45 時間を要する。具体的には、基本教材の理解 (10 時間)、レポート課題に関する参考文献の理解 (10 時間)、レポートの初校作成 (15 時間)、レポートの加筆・修正 (10 時間) である。レポートの作成方法がわからない場合には、事前に連絡のこと。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba-Folio・メール・Zoom などを利用し、教員と院生との間で、双方向による指導をおこなうこととする。</p>		
スケジュール	<p>(1) 最終レポートの提出は、学年暦で定められた期限によること。</p> <p>(2) レポート初校の提出は、前期では7月中旬、後期では11月中旬までとする。その過程で、必要に応じ、質疑応答をおこなう。</p> <p>(3) 初校レポートに修正を施し、訂正を加えたうえで、期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題に沿って、レポートが作成されていること。</li> <li>レポート作成に必要なリサーチが十分におこなわれていること。</li> <li>レポートとしての形式を備えていること。</li> </ul>
	観察記録	30 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員とのやりとりが十分におこなわれていること。</li> <li>初校へのアドバイスが最終稿に反映されていること。</li> </ul>
履修者への要望	<p>国際政治が扱うテーマは、往々にして、われわれの身近な生活とは無関係なように思われるかもしれませんが、しかし、軍事的な安全保障の問題は言うに及ばず、通商問題あるいは地球環境問題などは、われわれの生活に密接に関連しています。</p> <p>そこで、世界ではあんなことが起こっているんだ、こんなことが起こっているんだという事実関係を知るだけではなく、それがわたしたちの暮らしにどのように影響を及ぼすのか、あるいは、今後の日本社会がどのように変わっていくのかという視点から、自らの問題としてとらえ、自分なりの考え方を養っていった欲しいと思います。</p> <p>なお、レポートをどのように書いたらよいかかわからない場合には、事前に必ず連絡してください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄（編） 教材名： 『国際関係論（第3版）』、弘文堂、2018年。 ISBN：9784335002335 2,200円＋税
	本書は、「国際関係論」というタイトルがついているが、内容は「国際政治」と変わらない。国際政治の歴史、国際政治の現状分析、国際政治の理論、現代国際政治の課題についてまんべんなく取り扱われており、国際政治全般を理解するのに役立つ。
参考図書	参考図書はかならずしもどれか一冊というわけではないので、受講者の履修の進行に応じ、その都度、適切な参考図書を紹介することとする。
履修上のポイント	(1) 国際政治学が誕生したといわれる第一次世界大戦以降から今日までの国際政治の歴史的な流れを理解する。 (2) 国際政治理論とはなにか、その役割は何か、理論はどの程度役立つのかを理解する。 (3) 冷戦終焉後のグローバリゼーション、安全保障問題、日本外交の概要を理解する。 (4) 現代国際政治の課題である南北問題、地球環境問題、非国家アクターや市民社会のあり方を理解する。
レポート課題 1	冷戦期の国際政治と冷戦後の国際政治とを比較しながら、何がどのように変わったのか、国際政治の理論と関連づけて論じなさい(4,000字程度)。 <b>留意点：</b> 歴史的経緯と理論とを結びつけて考える。
レポート課題 2	基本教材 I の第Ⅱ編および第Ⅲ編から、自ら関心を有するテーマをひとつ選択し、そのテーマの概要・問題点を論じるとともに、そのテーマに関する私見を述べなさい(4,000字程度)。 <b>留意点：</b> 客観的に論じる部分と私見はきちんとわけること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 信夫隆司 教材名： 『米兵はなぜ裁かれないのか』、みすず書房、2021年。 ISBN：9784622090380 3,800円＋税
	本書は、日本に駐留する米兵が日本法に触れる刑事上の罪を犯した場合、その者がどの程度裁かれているのかを明らかにしたものである。こうした問題が世間の耳目に触れる場合は多くはないが、今日の日米関係を理解するうえにおいて重要なテーマである。
参考図書	信夫隆司 『米軍基地権と日米密約—奄美・小笠原・沖縄返還を通して』岩波書店、2019年。 ISBN：9784000247269 5,800円＋税
履修上のポイント	(1) なぜ米兵の刑事裁判権が問題となるのかを理解する。 (2) 1995年以降において、日米地位協定の運用がどのように改善されたのかを理解する。 (3) 他国、とりわけ、フィリピン、韓国、アイスランド、オランダ、ドイツ等がアメリカと締結した地位協定の刑事裁判権条項がどのようになっているかを理解する。 (4) 刑事裁判権における公務犯罪、刑事裁判権放棄、身柄拘束の問題を理解する。
レポート課題 1	日米地位協定における刑事裁判権条項は、1995年以降、運用の改善がはかられている。どのようなことを契機に、いかに運用が改善されたのか、その問題点を論じなさい(4,000字程度)。 <b>留意点：</b> 地位協定の規定と運用が改善された点を明確にすること。
レポート課題 2	基本教材Ⅱの「第二部 変わらない地位協定」の第四章から第六章のうち、自ら関心のあるテーマを選択し、そのテーマを論じるとともに、私見を述べなさい(4,000字程度)。 <b>留意点：</b> 客観的に論じる部分と私見はきちんとわけること。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修（第 1 章 国際関係論はどのような学問か、第 2 章 20 世紀の国際関係）
第 2 回	教材の学修（第 3 章 今日の国際関係）
第 3 回	教材の学修（第 4 章 グローバリゼーション、第 5 章 現代の安全保障）
第 4 回	教材の学修（第 6 章 北東アジア、第 7 章 国際社会における日本の位置づけ）
第 5 回	教材の学修（第 8 章 国際関係理論、第 9 章 国際レジーム論）
第 6 回	教材の学修（第 10 章 リージョナリズムと欧州統合、第 11 章 南北問題）
第 7 回	教材の学修（第 12 章 地球環境問題）
第 8 回	教材の学修（第 13 章 非国家アクター、第 14 章 市民社会）
第 9 回	教材の学修（第 15 章 国際紛争・国内紛争）
第 10 回	レポート課題 1、2 の初校提出
第 11 回	添削指導に基づき、関連文献の Research
第 12 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 15 回	最終稿提出

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修（序章 刑事裁判権問題とは何か）
第 2 回	教材の学修（序章 刑事裁判権問題とは何か）
第 3 回	教材の学修（第一章 日米地位協定の運用改善）
第 4 回	教材の学修（第一章 日米地位協定の運用改善）
第 5 回	教材の学修（第二章 米比軍事基地協定の失効）
第 6 回	教材の学修（第三章 米韓地位協定の改正）
第 7 回	教材の学修（第四章 公務犯罪）
第 8 回	教材の学修（第五章 刑事裁判権放棄）
第 9 回	教材の学修（第六章 身柄拘束）
第 10 回	教材の学修（終章 刑事裁判権条項をどのように変えるか）
第 11 回	レポート課題 1、2 の初校提出
第 12 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき、加筆・修正
第 15 回	最終稿提出

科目名	国際政治論特講	担当者	オオヤギ トキヒロ 大八木 時 広	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	<p>現代国際政治の多面的性質を把握し理解することを目的として国際政治学を学ぶ。具体的にはまず前半では国際政治学のテキストを用いて、紛争、対立、外交、グローバルな課題といったテーマを柱に歴史と理論の両面において学習者が自発的な学びを進めていく。</p> <p>また後半は現代のウクライナ戦争の事例を取り上げて、前半の基礎編で学んだ知見を具体的事例の解明と把握に役立てていくことにより国際政治の学びの力を身に付けていく。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>国際政治の基本的性質を全般的に理解し、個別具体的な事件や事例を通して、問題を掘り下げる方法、資料の収集や分析の方法を学ぶ。あわせて国際問題をどのように掘り下げ、かつ考察していくかを学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的背景や経緯を踏まえつつ、現代の国際政治に関して体系的に説明できるようにする (知識・想起)。</li> <li>・歴史上の出来事を理解し説明する際に、国際政治学の知識と理論を駆使して論理的、批判的な思考ができる (知識・解釈)。</li> <li>・具体的な出来事や事例において、その問題が何であるか、どのように解釈するか展開できる (技能・問題解決)。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>レポートの作成 1 本につき、最低 45 時間が必要となる。その内訳は、基本教材の理解 (10 時間)、レポート課題に関する参考文献の理解 (10 時間)、レポートの初校作成 (15 時間)、レポートの加筆・修正 (10 時間) となる。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>NU メール、Zoom などのオンラインツールなどを用いて、教員と院生の間で双方向による指導をおこなう。</p>		
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 最終レポートの提出締め切りは、学事暦で定められた期限による。</li> <li>2) レポートの初校提出は、前期は 7 月中旬を予定し、後期は 11 月中旬を予定する。その間に必要に応じて質疑応答をおこなう。</li> <li>3) レポートの初校に必要なに応じて修正をおこない、訂正をしたうえで期限までにレポートの最終稿を提出する。</li> </ol>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題に沿ってレポートが作成されていること。</li> <li>・レポートの作成に必要なリサーチが十分になされていること。</li> <li>・レポートの形式を踏まえていること。</li> </ul>
	観察記録	30%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員側とのコミュニケーションが十分にとられていること。</li> <li>・教員側からのアドバイスがレポートの最終稿に適切に反映されていること。</li> </ul>
履修者への要望	<p>国際政治は「大きなお話」であり、私たちの日常とはあまり関係ないように思われがちです。どこか遠くで起こっている、私たちとは無縁の出来事のようにみえます。しかしその「大きなお話」が私たちの社会に入り込み、私たちの安全や暮らしを脅かすかもしれない、あるいはすでに脅かしている、といった問題意識をぜひもっていただけたらと思います。</p> <p>思い込みや常識はいったん捨てて、研ぎ澄ました目、現実をしっかりと見据えた目で世界を見ていきましょう。新たな発見、思わぬ視点が見つかるかもしれません。そうした「気づき」も大事にしていきましょう。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： ジョセフ・S・ナイ・ジュニア/デイヴィッド・A・ウエルチ            教材名： 『国際紛争-理論と歴史（原書第10版）』有斐閣，2023年            ISBN:978-4-641-14917-5 3,000円＋税</p> <p>アメリカの著名な国際政治学者によるテキストで、日本でも広く使われている定評のある本です。理論的記述を含めて中級以上のないようであり、必ずしも読みやすいテキストではありませんが、学修の発展性を考慮すると大学院生向けの内容と言えます。本講座では[第10版]を使いますのでご注意ください。</p>
参考図書	テキストには豊富に参考文献が紹介しており、その中から適時紹介する。
履修上のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 主な国際政治理論の概要を把握する。</li> <li>(2) 冷戦を中心とした20世紀以降の国際政治の大きな流れを把握する。</li> <li>(3) 新たな国際政治理論の潮流を把握する。</li> <li>(4) 現代のグローバルな課題を、紛争と協調の観点から理解する。</li> </ol>
レポート課題 1	<p>リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムそれぞれの国際政治理論の概要をまとめ、現実の国際政治を説明する上での利点と欠点を述べてください。(4,000字程度)  <b>留意点：</b>それぞれの理論の違いをあらかじめ整理しておくとう理解しやすいと思われます。</p>
レポート課題 2	<p>情報革命が国際政治にどのような影響をもたらすかまとめてください。(4,000字程度)  <b>留意点：</b>情報革命が身近にどのような影響を与えているかを整理し、その視点を世界に広げていくとまとめやすいかと思われます。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 池内恵，宇山智彦，川島真，小泉悠，鈴木一人，鶴岡路人，森聡            教材名： 『ウクライナ戦争と世界のゆくえ』東京大学出版会，2022年            ISBN:978-4-13-033305-4 1,700円＋税。</p> <p>現在進行形のロシア・ウクライナ戦争について、経済制裁、軍事、欧州政治、米国外交、中ロ関係、中央アジアとロシア関係、中東諸の立ち位置など多彩な視点から分析されている。ロシア・ウクライナ戦争を通して現代の国際関係を考える材料が提供されている。</p>
参考図書	テキストの参考文献から適時紹介する。
履修上のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各章の論点を押さえつつ読解することが求められる。</li> <li>(2) グローバリゼーション下の世界で経済制裁がいかなる意義をもつかを把握する。</li> <li>(3) 国際関係における軍事の役割の変遷を理解する。</li> <li>(4) アメリカ、欧州、中国がロシア・ウクライナ戦争にどのように対応しているか理解する。</li> <li>(5) 国際関係における中央アジア諸国や中東諸国の位置づけを、ウクライナ戦争を手掛かりにして把握する。</li> </ol>
レポート課題 1	<p>ロシア・ウクライナ戦争において軍事の何が変化し、何が変化しなかったのかについてまとめてください。(4,000字程度)  <b>留意点：</b>テキストにおいて何が新しく、何が新しくないのかについての記述に留意してください。</p>
レポート課題 2	<p>アメリカ、欧州、中国それぞれがロシア・ウクライナ戦争にどのように対応したのかについてまとめてください。(4,000字程度)  <b>留意点：</b>それぞれの国が何を最も重視したのかについて留意してまとめてください。</p>

基本教材 1

第 1 回	教材の学修（第 1 章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか？）
第 2 回	教材の学修（第 2 章 紛争と協調を説明する-知の技法）
第 3 回	教材の学修（第 3 章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで）
第 4 回	教材の学修（第 4 章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦）
第 5 回	教材の学修（第 5 章 冷戦）
第 6 回	教材の学修（第 6 章 冷戦後の紛争と協調）
第 7 回	教材の学修（第 7 章 現代の発火点）
第 8 回	教材の学修（第 8 章 グローバリゼーションと相互依存）情報
第 9 回	教材の学修（第 9 章 情報革命と非国家的主体～10 章 未来に何を期待できる？）
第 10 回	レポート課題 1, 2 の初校提出
第 11 回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第 12 回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第 15 回	最終稿提出

基本教材 2

第 1 回	教材の学修（第 1 章 戦争と相互依存）
第 2 回	教材の学修（第 2 章 古くて新しいロシア・ウクライナ戦争）
第 3 回	教材の学修（第 3 章 欧州は目覚めたのか 1～3）
第 4 回	教材の学修（第 3 章 欧州は目覚めたのか 4～5）
第 5 回	教材の学修（第 4 章 ウクライナと「ポスト・プライマシー」時代のアメリカによる現状防衛 1～2）
第 6 回	教材の学修（第 4 章 ウクライナと「ポスト・プライマシー」時代のアメリカによる現状防衛 3～4）
第 7 回	教材の学修（第 5 章 制限なきパートナーシップ？）
第 8 回	教材の学修（第 6 章 ウクライナ侵攻は中央アジアとロシアの関係をどう変えるか）
第 9 回	教材の学修（第 7 章 ロシア・ウクライナ戦争をめぐる中東諸国の外交）
第 10 回	レポート課題 1, 2 の初校提出
第 11 回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第 12 回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第 13 回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第 14 回	添削指導に基づき, 加筆・修正
第 15 回	最終稿提出

科目名	多文化共生論	担当者	イチオカ 市岡 タカシ 卓	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>グローバリゼーションの進展に伴う社会の多文化化は、世界の各地で進展している。このような状況を踏まえ、多文化化が進展する社会において、多様なアイデンティティを持つ人々の共生がいかに実現するかを考察することを通じて、現代社会に対する深い洞察力を得ることを目的とする。</p> <p>そのための前提として、グローバルな人の移動によって社会にどのような変化が生じているのか、特に、トランスナショナリズムと呼ばれる現象について理解を深める。また、多文化主義の理念や政策の背景にある考え方、その実践、それに内在する課題についても理解を深める。その上で、具体的事例について調査し、最新時点の状況を踏まえ分析・考察を行う能力を身に着ける。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>多文化社会に関する基本的な知識に基づき、グローバルな人の移動によって生まれる課題に対し、十分な調査と考察に基づく解決策を提案できるようになる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①トランスナショナリズムや多文化主義に関する基本的な考え方について理解する。(知識)</p> <p>②具体的な事例について文献やデータを探索し、調査・分析することで、自分なりの視点や考察結果を論理的に提示できる。(技能)</p> <p>③多文化社会に生きる人々の立場を想像し、その社会の改善の方向を真摯に考える姿勢を身に着ける。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材・参考図書を熟読し、そこで示された関連文献も参考にしつつ、レポートのドラフトを作成する。ドラフトの前にスケルトン(骨子案)を作成すると、考察を進めやすい。【15時間/レポート1本】</li> <li>さらに考察を深め、レポートの初稿案を作成し提出する。教員との意見交換を行い、さらに材料を集めたり考察を深めたりするべきポイントについて指摘を受ける。受講者同士のディスカッションにより互いに学び合う場も設ける。【15時間/レポート1本】</li> <li>教員からの指摘を踏まえて内容の修正・充実を図り、レポートの最終稿を完成させる。【15時間/レポート1本】</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員と十分に意見交換をしながら進める。</li> <li>必要に応じ、レポート案についての受講者同士のディスカッションなど協働学修を取り入れる。(アクティブラーニング)</li> <li>具体的な事実に基づく考察が不可欠であるため、教材・参考図書以外の書籍、論文、記事等についても十分に調査を行う必要がある。関係する学会誌に掲載された論文や、ネットメディアの記事もチェックすることが求められる。</li> </ul>		
スケジュール	<p>①受講開始から約1か月後の時点でレポート作成の方向性が定まらない場合は、教員と意見交換を行うこと。</p> <p>②レポートの初稿提出前のスケルトンあるいはドラフトの段階で、教員と意見交換を行うことを推奨する。</p> <p>③最終稿提出までにレポート案を提出してもらい、複数回の意見交換を行っていくので、遅くとも最終稿提出期限の1か月前には初稿を提出すること。</p> <p>④最終稿提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>①教材の内容を十分に理解できているか。</p> <p>②教材以外の資料、文献等を十分に調査できているか。</p> <p>③独自の考察ができているか。</p> <p>④主張したいことを論理立てて明確に表現できているか。</p>
	観察記録	20%	<p>①初稿提出の期限(最終稿提出の1か月前)が守られたか(減点項目)。</p> <p>②最終稿提出までに教員と複数回のレポート案の交換ができたか。</p>
履修者への要望	<p>事実に基づく適切な考察ができるよう、材料集め(調査)に十分な時間をかけていただきたい。また、レポートでは自分独自の考察をすることが必要であるので、すでに分かっていること、既存の研究で言われていることをまとめるだけではなく、自分の主張を最大限盛り込むよう取り組んでいただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 西原和久・樽本英樹編 教材名： 『現代人の国際社会学・入門』（有斐閣、2016年） ISBN:978-4-641-17421-4 2,300円＋税
	国境を越える人の移動に伴う「トランスナショナリズム」という現象の意味、その意義や帰結について論じている。また、各地域の専門家による世界各地のトランスナショナリズムについて、その歴史的経緯、現状、課題などを分かりやすく解説している。本書は、多文化共生について学修する本授業の導入として有益である。
参考図書	宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』（有斐閣、2015年） ISBN:978-4-641-17406-1 2,500円＋税 石井香世子編『国際社会学入門』（ナカニシヤ出版、2017年） ISBN:978-4-7795-1134-9 2,200円＋税
履修上のポイント	まず、基本教材により、トランスナショナリズムの概念について理解を深める必要がある。その上で、参考図書も参考にし、トランスナショナリズムというパースペクティブを踏まえながら、国境を越える人の移動によって起こっている多文化化という状況、それがもたらす社会課題について理解を深める。これらの学修を通じ、グローバル化の中の社会のありさまを見る目を養っていただきたい。
レポート課題 1	トランスナショナリズムとはどのような現象か、また、それは単なる「人の移動の増加」とどう異なるのかについて、具体的な国または社会における事例をもとに考察し、自分の考えを論じる。（3,000～4,000字程度。目安であり、これを超えてもよい。） <b>留意点：</b> 参考図書も参照しながら、トランスナショナリズムという現象の意味や意義について十分に理解を深める必要がある。
レポート課題 2	国際社会学の観点から、グローバル化による変化に対応するために社会が取り組むべき課題と、それへの対応の方向性について、具体的な国または社会におけるテーマを設定し、自分の考えを論じる。（3,000～4,000字程度。目安であり、これを超えてもよい。） <b>留意点：</b> 最新時点の特定の国や社会の状況について調べた上で、課題への対応の方向性について具体的に論じる必要がある。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 塩原良和 教材名： 『変貌する多文化主義：オーストラリアからの展望』（法政大学出版局、2010年） ISBN:978-4-588-60312-9 3,000円＋税
	社会における多様性を承認し、尊重する「多文化主義」の思想・政策の歴史、実践、変容について論じている。刊行から10年以上がたっているが、多文化主義に内在する問題についても論じられており、2010年代に入ってヨーロッパで「多文化主義は失敗した」という言説が出てきたことも含め、多文化主義について理解する助けになる内容である。
参考図書	宮島喬『多文化であることとは：新しい市民社会の条件』岩波現代新書（岩波書店、2014年） ISBN:978-4-00-029121-7 2,300円＋税 飯田文雄編『多文化主義の政治学』（法政大学出版局、2020年） ISBN:978-4-588-60359-4 3,800円＋税
履修上のポイント	多文化主義は、「移民国家」と呼ばれるカナダやオーストラリアで1970年代から導入された思想・政策であり、その後ヨーロッパにも広まっている。特定の国の政策というよりは、多様性を積極的に承認・尊重しようとする理念、政策の方向性ととらえるべきである。「多文化主義は失敗した」という言説が出てきているが、多様性の承認・尊重という多文化主義の意義自体が失われたわけではないと考えられるが、どうだろうか。こういった点も含め考察を深めていただきたい。
レポート課題 1	文化的差異の承認はなぜ重要なのかについて、具体的な事例を踏まえ考察し、自分の考えを論じる。（3,000～4,000字程度。目安であり、これを超えてもよい。） <b>留意点：</b> 最新時点の状況について自分で調べ、論拠を示しながら論じる。
レポート課題 2	多文化主義に内在する課題と、それをいかに乗り越えるべきかについて、具体的な事例を踏まえ考察し、自分の考えを論じる。（3,000～4,000字程度。目安であり、これを超えてもよい。） <b>留意点：</b> 多文化主義をめぐる様々な論議を踏まえて論じる。

### 基本教材 1

第 1 回	学ぶべき課題について理解をしてから、教材に基づく学修①（グローバリゼーションの状況）を行う
第 2 回	学修の進め方について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（トランスナショナリズムとは何か）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（人の移動と移民ネットワーク）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（移民と社会階層）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（日本におけるトランスナショナリズム）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（アジアにおけるトランスナショナリズム）
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（ヨーロッパ・アメリカにおけるトランスナショナリズム）
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑧（グローバル化とジェンダー）
第 9 回	教材 1 に基づく学修⑨（グローバル化とメディア）
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑩（グローバル化と宗教・アイデンティティ）
第 11 回	レポート課題 1・2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 13 回	レポート課題 2 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 14 回	レポート課題 1・2 について教員と意見交換を行い、内容の充実を図る
第 15 回	レポート課題 1・2 の最終案を教員と共有し、了承を得たうえで、最終稿を提出する

### 基本教材 2

第 1 回	学ぶべき課題について理解をしてから、教材に基づく学修①（多文化主義の歴史）を行う
第 2 回	学修の進め方について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（多文化主義の理念）を行う
第 3 回	教材 2 に基づく学修③（多文化主義の政策）
第 4 回	教材 2 に基づく学修④（管理のための多文化主義）
第 5 回	教材 2 に基づく学修⑤（ネオリベラル多文化主義）
第 6 回	教材 2 に基づく学修⑥（差異の承認）
第 7 回	教材 2 に基づく学修⑦（移民とシティズンシップ）
第 8 回	教材 2 に基づく学修⑧（人の移動と子ども）
第 9 回	教材 2 に基づく学修⑨（日本社会の多文化化）
第 10 回	教材 2 に基づく学修⑩（日本における「多文化共生」）
第 11 回	レポート課題 1・2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 13 回	レポート課題 2 について教員からのコメントを踏まえ再検討を行う
第 14 回	レポート課題 1・2 について教員と意見交換を行い、内容の充実を図る
第 15 回	レポート課題 1・2 の最終案を教員と共有し、了承を得たうえで、最終稿を提出する

科目名	国際関係論特講	担当者	ヒヨシ ヒデマツ 日吉 秀松	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、以下の通りである。</p> <p>ひとつは、国際関係論の基本的な理論を理解し、複雑な国際関係を分析することを目的とする。具体的には、リアリズム、リベラリズム、従属論、世界システム論、政策決定論、安全保障論、地政学などの理論を学習し、国際社会に現れる諸事象を様々な視点から捉え、総合的に分析することである。</p> <p>もう一つは、中国政治の学習を通して、現代中国政治の本質を理解したうえで、現代日中関係に関する分析力を身につけることである。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>国際社会に現れる様々な事象を独自の視点で分析する力を身につける。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時々刻々変化する国際社会を国際関係論におけるリアリズムやリベラリズムなどの視点から理解する (知識)</li> <li>・ 国際社会に現れる様々な事象について、国際関係論の知識をもって体系的に説明できる (技能)</li> <li>・ 国際社会に現れる様々な事象の歴史的な背景を的確に捉え、それらの事象全体像を理解し、定説とされる事柄の虚構を暴き、真実を探る。(態度)</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定教材や参考図書を十分に学修し、常に疑問を持って現実の国際社会を考察し、さまざまな出来事との関連性を見出す。</p> <p>1つのレポート課題を作成するためには、最低45時間の学修時間が必要である。</p> <p>① 指定教材や参考図書の学修：(20時間)、②参考文献の調べ、理解：(10時間)、③レポートの初稿作成：(10時間)、④教員の指導を受け、レポート再考と最終稿の完成：(15時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 指定教材や参考図書の熟読とレポート作成の準備</li> <li>② Manaba folio・メール・ZOOM を利用し受講者からの質疑応答を行う。</li> </ul>		
スケジュール	<p>レポートの提出時期について、以下の通りである。</p> <p>① 最終稿は学事暦で定められた日まで提出する。</p> <p>② 前期のレポート課題1の初稿提出期限：6月30日 前期のレポート課題2の初稿提出期限：7月30日</p> <p>③ 後期のレポート課題1の初稿提出期限：10月30日 後期のレポート課題2の初稿提出期限：11月30日</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材と参考図書の内容をよく理解し、ほかの文献をも利用し、自分の意見や観点をレポートの中に論理的に反映させているかどうか。</li> <li>・引用・参照を適切に記述したか。</li> </ul>
	観察記録	20 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指摘を受け、再考を行ったか。</li> <li>・指定教材および参考図書の他の文献を用いたか。</li> </ul>
履修者への要望	<p>レポート課題を作成するため、さまざまな事象の関連性を考察する必要がある。具体的には、文献や資料などの収集に努めていただきたい。</p> <p>学修を通じて、論理的思考力や批判的思考力を身につけ、積極的に自分の意見や主張を形成させ、とくに、レポート課題に自己の意見と主張を論理的に盛り込むよう最大限の努力をしていただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 滝田賢治，大芝 亮，都留康子編 教材名： 国際関係学（第3版）（有信堂，2021年） ISBN：978-4641149052 3,200円（税別）  ウェストファリア体制の成立後の国際政治史，国際関係理論（リアリズム、リベラリズム、従属論、世界システム論、政策決定論），グローバリゼーションの動き，安全保障論，地政学などについて詳しく説明しており，国際関係論の展開への理解やレポートの作成に役に立つ。
参考図書	① Z・ブレジンスキー著 山岡洋一訳『ブレジンスキーの世界はこう動く』（日本経済新聞社，1998年） ISBN：978-4532146313 2,200円（税別） ② ジョン・J・ミアシャイマー著 奥山真司訳『大国政治の悲劇』（五月書房新社，2019年） ISBN：978-4909542175 5,500円（税込）
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウェストファリア体制と現代国際政治の関係を理解する。</li> <li>・ 国際関係論におけるリアリズムとリベラリズムを比較し二者の現実性を理解する。</li> <li>・ 大陸国家系地政学と海洋国家系地政学の知識をもって国際社会の諸事象を分析する。</li> <li>・ 安全保障とはなにか，主権国家と安全保障の関係を学習したうえで，個別自衛権と集団自衛権を理解する。</li> </ul>
レポート課題 1	国際関係論における古典的リアリズムと勢力均衡論の関係について論じなさい（3000字以上） <b>留意点：</b> 教材の第Ⅱ部第1章～3章，第Ⅳ部第3章をよく学習し，勢力均衡論の現実性を分析したうえでレポートを作成してください。
レポート課題 2	米中関係の変化について述べよ（3000字～4000字） <b>留意点：</b> 教材の第Ⅳ部第1章，参考図書第2章を十分学習したうえでレポート課題を作成してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 毛里和子 教材名： 『現代中国政治—グローバル・パワーの肖像』第3版（名古屋大学出版会，2012年） ISBN：978-4815807009 2,800円（税別）  1949年以降の中国を毛沢東時代、鄧小平時代そしてポスト鄧小平時代に分け，それぞれの時代の政治プロセスを詳しく論じ，中国における国家・党・軍隊の関係や改革開放政策を実施する中国の政治変化などを検証した本書は，国際関係のなかの中国政治の理解を深める教材である。
参考図書	高原明生，服部龍二編『日中関係史：1972-2012 I 政治』（東京大学出版会，2012年） ISBN：978-4130230612 4,180円（税込）
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毛沢東時代の政治プロセスを理解する。</li> <li>・ 鄧小平時代の政治プロセスを理解する。</li> <li>・ 党・国家・軍の関係を理解する。</li> <li>・ 中国式の圧力活動：陳情の政治学を理解する。</li> <li>・ グローバリゼーションの中の中国を理解する。</li> </ul>
レポート課題 1	改革開放前後における中国政治の変化について述べよ（4000字以上） <b>留意点：</b> 教材の全体内容をよく学習したうえで，レポート課題を作成してください。
レポート課題 2	日中関係における歴史認識問題について述べよ（4000字以上） <b>留意点：</b> 教材の第2章～第3章，第5章を吟味し，参考図書の第5章～第6章をよく学習したうえで，レポート課題を作成してください。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修（第 I 部 近現代国際政治史）
第 2 回	教材の学修（第 II 部 国際関係理論 第 1 章～第 4 章）
第 3 回	教材の学修（第 II 部 国際関係理論 第 5 章～第 6 章）
第 4 回	教材の学修（第 III 部 アクター：地球社会という舞台の役者たち 第 1 章～第 6 章）
第 5 回	教材の学修（第 V 部 地球社会のアジェンダ 第 1 章～第 5 章）
第 6 回	教材の学修（第 V 部 地球社会のアジェンダ 第 6 章～第 9 章）
第 7 回	教材の学修（第 IV 部 主権国家と安全保障をめぐるイシュー 第 1 章～第 2 章）
第 8 回	教材の学修（第 IV 部 主権国家と安全保障をめぐるイシュー 第 3 章～第 4 章）
第 9 回	教材の学修（第 V 部 地球社会のアジェンダ 第 1 章～第 5 章）
第 10 回	教材の学修（第 V 部 地球社会のアジェンダ 第 6 章～第 10 章）レポート課題 1 の初稿を作成する
第 11 回	レポート課題 1 の初稿に関して教員の指摘を受け、それに基づき初稿の内容を再考し修正する
第 12 回	レポート課題 1 を完成させ、提出する
第 13 回	レポート課題 2 の初稿を作成する
第 14 回	レポート課題 2 の初稿に関して教員の指摘を受け、それに基づき初稿の内容を再考し修正する
第 15 回	レポート課題 2 を完成させ、提出する

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修（序章 現代中国への新たなアプローチ）
第 2 回	教材の学修（第 1 章 毛沢東時代の政治プロセスと毛型リーダーシップ）
第 3 回	教材の学修（第 2 章 鄧小平時代の政治プロセス—脱社会主義の道）
第 4 回	教材の学修（第 3 章 ポスト鄧小平時代の政治プロセス—資本主義への道）
第 5 回	教材の学修（第 4 章 国家の制度とその機能）
第 6 回	教材の学修（第 5 章 党・国家・軍三位一体のなかの共産党）
第 7 回	教材の学修（第 6 章 政治的軍隊—人民解放軍）
第 8 回	教材の学修（第 7 章 党と国家の政策形成のメカニズム）
第 9 回	教材の学修（第 8 章 大変身する共産党 第 9 章 陳情の政治学）
第 10 回	教材の学修（第 10 章 比較のなかの中国政治 終章 「中国モデル」をめぐって） レポート課題 1 の初稿を作成する
第 11 回	レポート課題 1 の初稿に関して教員の指摘を受け、それに基づき初稿の内容を再考し修正する
第 12 回	レポート課題 1 を完成させ、提出する
第 13 回	レポート課題 2 の初稿を作成する
第 14 回	レポート課題 2 の初稿に関して教員の指摘を受け、それに基づき初稿の内容を再考し修正する
第 15 回	レポート課題 2 を完成させ、提出する

科目名	行政論特講	担当者	セキネ 関根 フミオ 二三夫	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>20世紀になり顕著になってきた行政の多様化・複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。本来、政策の執行を扱うとされた行政が、今や派生的とも言える政策の立案や決定に大きな影響力を持つようになり、議会政治の危機が生じております。行政が持つ制度面や機能面での特徴を国家との関連において把握し、行政と国家とが如何なる関係にあるかを学びます。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 国家概念を理解することで、国家と社会、社会と個人、個人と国家との関係を理解することができるようにします。国家につきましては、19世紀の立法国家から20世紀の行政国家へ、また社会につきましては、19世紀の市民社会から20世紀の大衆社会へと変遷してきており、それぞれの特徴を把握します。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 国家法人説や国家有機体説を理解できるようになる。</li> <li>② 国家と社会、社会と個人、個人と国家との関係を理解できるようになる。</li> <li>③ 国家と国家機関との関係を理解できるようになり、体系的に説明できるようになる。</li> <li>④ 行政国家と関連して官僚政治を理解できるようになる。</li> <li>⑤ 官僚政治と議会政治の原理との関係を理解できるようになる。</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 テキスト及び参考書を基本に、メールを用いた質疑応答を行います。レポート提出期間内に草稿をなるべく早く提出して頂きまして、問題点を把握しながら完成稿（最終稿）に近づけていきます。レポート完成稿の提出につきましては、学事暦において定められた提出期間内の提出を厳守して頂きたく存じます。 学修時間につきましては、基本教材1及び2同様に、レポート1課題につきまして45時間を費やすことを目安に下さい。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 課題に関する質疑応答をメールのやり取りを中心に行います。その際、課題の要点を理解するような問いかけを行い、問題点を自発的に整理し、解決策を探ることができるようにします。</p>		
スケジュール	<p>大学院が指定しました提出期間内に、課題についてのレポートを提出して頂きます。提出期間内におきまして余裕をもって草稿を提出して頂き、何度かやり取りをしました後、完成稿を提出して頂きます。</p> <p>完成稿の提出期限は学事暦に従って行います。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	履修上のポイントや到達目標、レポート課題の留意点を参考に評価します。
	観察記録	30%	質疑や添削草稿への対応を中心に評価します。
履修者への要望	<p>テキスト及び参考書を熟読して頂きますと共に、内閣や大統領を頂点とする行政部でどのようなことが行われているか、また内閣や大統領と議会との関係はどのようになっているかを、メディアの報道や記事などを参考にして考えて頂き、行政部の問題点を把握するように心掛けて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 関根二三夫、岩井奉信、黒川貢三郎、杉山逸男、外山公美、松木修二郎 教材名： 『教養政治学』（南窓社、2013年） ISBN:978-4-81-650187-6 2,900円+税
	政治学の研究対象は、広範囲に及びます。本書は、一般教養の政治学として執筆されたものでありますが、現代の政治を理解し得るのに必要な内容を含むものです。政治学の沿革、政治権力、国家と政府、政治過程、選挙と投票行動、政治と世論などが含まれており、国家に生起する政治現象の理解に役立つものです。
参考図書	山田光矢編『政治学』（弘文堂、2011年） ISBN:978-4-33-500192-5 2,000円+税
履修上のポイント	国家に生起する現象を政治面や社会面から把握することで、国家を立体的に把握することが可能になると考えられます。国家を成立させる要素を伝統的に考えますと、国民、領域そして主権があります。それらの要素には、人間が深く係わりを有しており、政治現象や社会現象を理解する必要があります。現代国家におきましては、個人が国家を離れて生活することが不可能と思われるので、国家に生起する問題を理解することが必要です。
レポート課題 1	近代国家の成立と発展について述べよ。 <b>留意点：</b> 近代の市民社会から現代の大衆社会への変化において、国家の機能が如何に変遷してきたのかを考察して欲しいと思われます。
レポート課題 2	国家と社会との関係について述べよ。 <b>留意点：</b> 一元的国家論と多元的国家論との相違について考察して欲しいと思われます。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西尾勝 教材名： 『行政学』（有斐閣、2001年） ISBN:978-4-64-104977-2 3,200円+税
	本書は、行政の制度を中心に管理や政策に重点を置いて記述しています。国家行政や地方行政が円滑に遂行されるためには、行政の諸局面を考慮しなければなりません。行政と行政学の背景、行政制度の構造、行政過程の展開、行政管理の充実、行政統制の推進等が、その内容になっています。
参考図書	外山公美『行政学』（弘文堂、2011年） ISBN:978-4-33-500195-6 2,400円+税
履修上のポイント	行政概念については、憲法、行政法、行政学などからの把握が可能です。三権分立的控除説や国家目的実現説などの法的把握以外に、行政過程説や統治機能説などの行政学的把握があります。行政学において行政概念がどのように把握されているのか、また概念の把握に至る過程がどのようなものであるかを、行政の諸局面を考察しながら考えて欲しいと思われます。
レポート課題 1	ロレンツ・フォン・シュタインの行政学について述べよ。 <b>留意点：</b> シュタイン行政学は、ドイツ官房学を集大成し、行政法学への道を拓いたといわれます。シュタイン行政学が成立する背景、シュタインの国家観における国家と行政との関係、行政学の内容、行政法学が台頭する理由などを考えて欲しいと思われます。
レポート課題 2	現代国家と行政統制について述べよ。 <b>留意点：</b> 19世紀の立法国家から20世紀の行政国家への移行は、行政部の政策立案機能や政策決定機能を増大させました。行政部を外在的に、また内在的に統制し、行政の民主化を確保して行政責任を明確にする必要があります。

### 基本教材 1

第 1 回	国家と政府：近代国家の成立と発展
第 2 回	近代市民社会
第 3 回	資本主義社会の発展
第 4 回	大衆社会の出現
第 5 回	国家権力：権力分立
第 6 回	権力分立の意義と特性
第 7 回	権力分立の史的展開
第 8 回	権力の区分、分離、抑制
第 9 回	政治の概念
第 10 回	政治と行政
第 11 回	政府の機能
第 12 回	政府の形態
第 13 回	議会政治の変遷
第 14 回	議会の原理
第 15 回	議会の構成と運営

### 基本教材 2

第 1 回	官僚制と民主制
第 2 回	ドイツ官房学とシュタイン行政学
第 3 回	アメリカ行政学
第 4 回	官僚制
第 5 回	中央集権と地方分権
第 6 回	わが国における戦前の官吏制と戦後の公務員制
第 7 回	組織の問題点（官僚化と寡頭化）
第 8 回	政策の循環と行政活動
第 9 回	行政評価
第 10 回	稟議制
第 11 回	行政活動と能率概念
第 12 回	行政管理の機能及び原則
第 13 回	行政統制：外在的統制
第 14 回	行政統制：内在的統制
第 15 回	行政責任

科目名	危機管理論特講	担当者	オオハマ 大浜 アキヒロ 明弘	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	組織は、ある目的を持った集団である。そして、その目的に対し決定的な意義を有し、かつ、達成可能な目標を確立し、その達成を追及することを使命とする。本科目は、かかる視点を前提として、昭和期の日本軍の組織論的な研究から組織における危機管理の本質・特性・課題を考察し、その現代的意義への糸口を見出すことを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和期の日本軍の戦史の中から組織の抱える状況や問題を理解する。</li> <li>昭和期の日本軍の戦史を手掛かりに、現代に通じる本質的な意義を思考することができる。</li> </ul> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理論的考察に基づく当為 (かくあるべき) だけでなく、組織の抱える旧弊や因襲を含む存在 (過去から継続する現状) を踏まえ考察することができる。</li> <li>組織が直面する諸問題について、昭和期の日本軍の戦史を援用しつつ自らの言葉で説明する力を身につける。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学修方略 基本教材、参考図書、必要に応じその他の文献を精読する。レポート課題への自分の考えをまとめ、担当教員からの指導、相談、質疑応答等を重ね、レポートを作成する。</li> <li>学修時間 レポート課題1件について約45時間を目標とする。この時間を前提に、基準として、分析に50% (約20時間)、作成に30% (約15時間)、修正に20% (約10時間) 程度を設定する。</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>院生と担当教員との間で双方向の添削指導を行う。</p>		
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期 レポート課題1の初稿を7月末、レポート課題2の初稿を8月末までに提出する。その後、担当教員からの指導を経て、最終稿を各レポート課題ともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> <li>後期 レポート課題1の初稿を11月中旬、レポート課題2の初稿を12月中旬までに提出する。その後、担当教員からの指導を経て、最終稿を各レポート課題ともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材、参考図書その他の文献を用い、課題 (問い) への基礎的な理解ができているか。</li> <li>構成、論理展開が明確か。</li> <li>脚注、参考文献リストその他の研究倫理の基準を満たしているか。</li> </ul>
	観察記録	30 %	担当教員への質問、指導受け、不明点の解消のための検討その他のレポートの提出までの主体的な取り組みを評価する。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治、行政を研究する院生のほか、経営その他の組織に関する分野の研究を志す院生の履修を歓迎する。</li> <li>レポート作成に当たっては、基本教材等をまとめるだけでなく、現代の組織の問題に関心を持ち、フィールドワーク等の社会的な実践を含め視野を広げて考察することを心掛けて欲しい。</li> <li>担当教員は、安全保障、防衛法制 (国際法を含む)、危機管理、地域防災の分野を専門領域にするほか、防衛省で防衛法制の調査研究および教育に携わるほか、第一線部隊の指揮官、幕僚としても勤務してきた (現在も防衛省非常勤特別職国家公務員・予備自衛官として指定)。理論と実務の架橋として、担当教員を大いに利用していただきたい。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 戸部良一、寺本義也、鎌田伸一、杉之尾孝生、村井友秀、野中郁次郎 教材名： 『失敗の本質』（中央公論新社、2021年） ISBN:978-4-12-201833-4 762円＋税
	昭和期の日本軍の戦略や戦いについて組織論の立場から論考した書である。1984年に出版以来、学術分野に加え、各界の実務リーダー等に読み継がれてきた組織の危機管理の必読書である。
参考図書	菊澤研宗『組織の不条理』（中央公論新社、2017年）ISBN:978-4-12-206391-4 720円＋税 堺屋太一『組織の盛衰』（中央公論新社、2022年）ISBN:978-4-12-207217-6 900円＋税 小室直樹『危機の構造』（ダイヤモンド社、2022年）ISBN:978-4-478-11639-5 2,000円＋税
履修上のポイント	レポート課題の留意点に沿い、基本教材、参考図書その他の文献を参照しつつ論述する。この際、科目の「目的」を基準に考察することを求めたい。単に戦史をまとめたり、合理的な米軍組織と非合理的な日本軍組織の対立構造に陥ったりすることのないよう十分に留意して欲しい。危機管理の本質とは何か、現代的な意義とはどのようなものかを考えることは、今後の研究の基盤となる。
レポート課題 1	組織は、なぜ、目的合理的に行動できないのか。（3000～4000字） <b>留意点：</b> 基本教材第1章1（ノモンハン事件）・2（ミッドウェー作戦）などを参照しつつ、組織の危機管理の失敗を分析すること。
レポート課題 2	組織は、なぜ、同じやり方に固執するのか。（3000～4000字） <b>留意点：</b> 基本教材第1章3（ガダルカナル作戦）などを参照しつつ、組織の危機管理の失敗を分析すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 戸部良一、寺本義也、鎌田伸一、杉之尾孝生、村井友秀、野中郁次郎 教材名： 『失敗の本質』（中央公論新社、2021年） ISBN:978-4-12-201833-4 762円＋税
	昭和期の日本軍の戦略や戦いについて組織論の立場から論考した書である。1984年に出版以来、学術分野に加え、各界の実務リーダー等に読み継がれてきた組織の危機管理の必読書である。
参考図書	菊澤研宗『組織の不条理』（中央公論新社、2017年）ISBN:978-4-12-206391-4 720円＋税 堺屋太一『組織の盛衰』（中央公論新社、2022年）ISBN:978-4-12-207217-6 900円＋税 小室直樹『危機の構造』（ダイヤモンド社、2022年）ISBN:978-4-478-11639-5 2,000円＋税
履修上のポイント	レポート課題の留意点に沿い、基本教材、参考図書その他の文献を参照しつつ論述する。この際、科目の「目的」を基準に考察することを求めたい。単に戦史をまとめたり、合理的な米軍組織と非合理的な日本軍組織の対立構造に陥ったりすることのないよう十分に留意して欲しい。文献調査のほかフィールドワークや担当教員との相談等を通じ、現代的意義への糸口を見出していく。
レポート課題 1	組織は、なぜ、最悪を止められないのか。（3000～4000字） <b>留意点：</b> 基本教材第1章4（インパール作戦）などを参照しつつ、組織の危機管理の失敗を分析すること。
レポート課題 2	組織は、なぜ、統合・統一ができないのか。（3000～4000字） <b>留意点：</b> 基本教材第1章5（レイテ海戦）・6（沖縄戦）などを参照しつつ、組織の危機管理の失敗を分析すること。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修および本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 に基づく学修 (第 1 章 1 (ノモンハン事件))
第 3 回	基本教材 1 に基づく学修 (第 1 章 2 (ミッドウェー作戦))
第 4 回	基本教材 1 に基づく学修 (第 2 章の組織上の失敗要因分析)
第 5 回	レポート課題 1 の作成: 論点分析 (5W:Why (目的) What (目標) Who (主体) When (時代) Where (地域))
第 6 回	レポート課題 1 の作成: 指導を踏まえた初稿
第 7 回	レポート課題 1 の作成: 指導を踏まえた修正稿
第 8 回	レポート課題 1 の作成: 最終稿
第 9 回	基本教材 1 に基づく学修① (第 1 章 3 (ガダルカナル作戦))
第 10 回	基本教材 1 に基づく学修② (第 1 章 3 (ガダルカナル作戦))
第 11 回	基本教材 1 に基づく学修 (第 2 章の組織上の失敗要因分析)
第 12 回	レポート課題 2 の作成: 論点分析 (5W:Why (目的) What (目標) Who (主体) When (時代) Where (地域))
第 13 回	レポート課題 2 の作成: 指導を踏まえた初稿
第 14 回	レポート課題 2 の作成: 指導を踏まえた修正稿
第 15 回	レポート課題 2 の作成: 最終稿

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修および本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 2 に基づく学修① (第 1 章 4 (インパール作戦))
第 3 回	基本教材 2 に基づく学修② (第 1 章 4 (インパール作戦))
第 4 回	基本教材 2 に基づく学修 (第 2 章の組織上の失敗要因分析)
第 5 回	レポート課題 1 の作成: 論点分析 (5W:Why (目的) What (目標) Who (主体) When (時代) Where (地域))
第 6 回	レポート課題 1 の作成: 指導を踏まえた初稿
第 7 回	レポート課題 1 の作成: 指導を踏まえた修正稿
第 8 回	レポート課題 1 の作成: 最終稿
第 9 回	基本教材 2 に基づく学修 (第 1 章 5 (レイテ海戦))
第 10 回	基本教材 2 に基づく学修 (第 1 章 6 (沖繩戦))
第 11 回	基本教材 2 に基づく学修 (第 2 章の組織上の失敗要因分析)
第 12 回	レポート課題 2 の作成: 論点分析 (5W:Why (目的) What (目標) Who (主体) When (時代) Where (地域))
第 13 回	レポート課題 2 の作成: 指導を踏まえた初稿
第 14 回	レポート課題 2 の作成: 指導を踏まえた修正稿
第 15 回	レポート課題 2 の作成: 最終稿

科目名	組織倫理論特講	担当者	カミイ 神井 ヒロユキ 弘之	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>今日の組織のリーダーには、所属する（あるいは設立、再建に携わる）組織が持続的な発展を遂げられるよう、激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択するための「組織倫理向上の取組」を企画し、実践することが求められています。</p> <p>本講座は、持続可能な開発目標（SDGs）やCreating Shared Value（CSV）など社会の環境変化に向き合う際の指針となり得る事項に関する知識を身につけるとともに、具体的なケースを通じて、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座から、個別組織の現状の評価・分析、課題抽出を行う技術などを修得することにより、学修者が、組織のリーダーとして、組織倫理向上の取組をデザインし、実践する能力を身につけることを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>学修者が所属する（あるいは設立、再建に携わる）組織が、激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択し、持続的な発展を遂げられるよう、リーダーとして、組織倫理向上のための取組を企画・実践するため、①社会の環境変化に向き合う際の指針となり得る事項に関する知識を獲得し、②個別組織の現状の評価・分析、課題抽出を行い、それを実践する体制のデザイン等の取組を行う技能を修得し、③具体的な行動に際して、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座に配慮する態度を身につけることを目標とします。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>①（知識・想起、解釈）SDGs や CSV、東洋思想を踏まえた渋沢栄一の経営哲学など、社会の環境変化に向き合う際の指針となり得る事項に関して説明でき、そのフレームを、個別の組織が置かれている状況に適用することができる。</p> <p>②（知識・問題解決/技能）SDGs や CSV などに関する知識を不確実な未来の環境変化を予測する指針として用いること等により、具体的な組織倫理向上のための取組（ケース）を評価・分析し、課題を抽出することができる。</p> <p>③（技能/態度）②の技能で抽出した課題に対して、組織ミッションの再構築、解決のための体制のデザイン、構成員のモチベーション向上等の組織倫理向上のための取組を構想することができる。この際、国内外の先行事例に関する評価・分析を踏まえ、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座を取り入れるよう配慮することができる。【一般目標（GIO）】</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>①基本教材及び参考図書を熟読し、内容の理解を深める（自習）【SBO①②】【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>②レポート課題に則して情報を収集・分析する（自習）【SBO②③】【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>③課題レポートの初稿を作成する（レポート作成）【SBO②③】【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>④manaba folio を利用したレポート添削で教員と意見交換を行う（ディベート）【SBO①②③】【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio を利用して、教員と学修者との間での双方向を重視した指導を実施します。</li> </ul>		
スケジュール	<p>【前期】レポート課題 1 は 7 月末に草稿提出、レポート課題 2 は 8 月末に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>【後期】レポート課題 1 は 11 月中旬に草稿提出、レポート課題 2 は 12 月中旬に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>※レポート課題の草稿について、意見交換と修正を何度か行うことで、修士論文を書く際に必要となる基礎的な事項を修得することが出来ます。そのためには、レポートの草稿を極力早い時期より提出することが望まれます。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの評価は全体で、80%とします。前期レポート課題 1・2、後期レポート課題 1・2 に、それぞれ 20%を配分します。
	観察記録	20%	レポート課題の草稿提出から最終稿提出までのプロセスにおける対応（例えば、加筆、修正のコメントに対する対応）を評価します。1 つのレポート課題に、5%を配分します。
履修者への要望	<p>本講座では、組織倫理について学ぶ意義を、自らが所属する（あるいは、今後設立や再建に携わる）組織を、激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択し、持続的な発展を遂げられるような状態にすることに置いています。その趣旨を踏まえて、自分なりのオリジナルな解釈を論理的に記述することが重要です。基本教材を読むことで全てのレポート課題に対応可能ですが、参考図書等で、具体的な組織倫理向上の事例や、その論理的な分析に多く触れることがより望ましいと考えます。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： モニター デロイト編            教材名： 『SDGs が問いかける経営の未来』（日本経済新聞出版社、2018年）            ISBN：978-4-532-32236-6 2,500円＋税</p> <p>経営者の立場から、SDGs を解釈し直し、社会価値創出が経済価値創出と同等に企業活動においても重要とされる時代に、どのように経営モデルを変革し、大きな変化の中で生き抜くか、企業の経営目標の在り方、経営戦略・事業戦略の在り方、事業創造の在り方を検証した書籍です。</p>
参考図書	藤井剛『CSV時代のイノベーション戦略 「社会課題」から骨太な新事業を産み出す』（ファーストプレス、2014年）ISBN：978-4-904336-79-3 1,800円＋税
履修上のポイント	SDGs をテーマにした書籍を基本教材1としたのは、今日の組織が組織倫理向上の取組について検討するに当たって、SDGs が、社会の環境変化に向き合う際の着眼点を提示しているからです。SDGs と組織倫理の関連性について、常に念頭に置いて、レポート作成に臨むよう、留意してください。
レポート課題1	SDGs の特徴とその存在がもたらす組織の経営モデルの変革について、3,000字程度でまとめる。 <b>留意点</b> ：基本教材1の記述を基に課題をまとめることが基本となります。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。
レポート課題2	SDGs の存在がもたらす組織の経営モデルの変革が組織倫理向上の取組に及ぼす影響について、3,000字程度でまとめる。 <b>留意点</b> ：基本教材1の記述を基に課題をまとめることが基本となりますが、特に、記述を組織倫理の観点から捉え直すことが重要です。激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択し、持続的な発展を遂げるための取組を、組織倫理向上の取組と捉えてください。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。

基本教材 2 (1)・(2)	
教材(1)の概要	<p>著者名： 渋沢栄一著、守屋淳訳            教材名： 『現代語訳 論語と算盤』（筑摩書房、2010年）ISBN：978-4-48006-535-3</p> <p>「日本実業界の父」とされる渋沢栄一が、「利潤と道徳を調和させる」という、生涯を通じて貫いた経営哲学について記した書籍です。</p>
教材(2)の概要	<p>著者名： 塚越寛著            教材名： 『末広りのいい会社をつくる 人も社会も幸せになる年輪経営』（サンクチュアリ出版、2019年）ISBN：978-4-86113-862-1 1,500円＋税</p> <p>2018年渋沢栄一賞を受賞した伊那食品工業株式会社の経営理念と実践をまとめた書籍です。</p>
参考図書	<p>中野千秋・高巖編『企業倫理と社会の持続可能性』（麗澤大学出版会、2016年）ISBN：978-4-89205-633-8 2,600円＋税</p> <p>ジョン・ブルックス著、須川綾子訳『人と企業はどこで間違えるのか？ 成功と失敗の本質を探る「10の物語」』（ダイヤモンド社、2014年）ISBN：978-4-478-02977-0 1,800円＋税</p>
履修上のポイント	我が国における企業の組織倫理（経営理念）について記した古典『論語と算盤』と、現代のトップランナー企業の経営理念と実践について記した『末広りのいい会社をつくる 人も社会も幸せになる年輪経営』の2冊を基本教材2としました。基本教材1で学んだSDGs など最新の視座、グローバルな視座を保ちながら、歴史を俯瞰する視座、日本らしさを見つめ直す視座もあわせ持って、組織倫理向上について考察することが有益だと考えます。
レポート課題1	基本教材2(1)で示された渋沢栄一の経営哲学と基本教材1で示されたSDGs を踏まえた経営理念を比較し、その類似点、相違点について考察し、今後の我が国の組織倫理向上の取組に対して得られた示唆について、3,000字程度でまとめる。 <b>留意点</b> ：基本教材の記述を基に課題をまとめることが基本となります。特に組織倫理向上の観点に絞り込んで、自分なりの考察を加えることが重要と考えます。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。
レポート課題2	基本教材2(2)で示された伊那食品工業株式会社の経営理念と具体的な組織倫理向上の取組について、基本教材1や基本教材2(1)で学んだ内容を踏まえて、評価・分析し、今後の我が国の組織倫理向上の取組に対して得られた示唆について、3,000字程度でまとめる。 <b>留意点</b> ：基本教材の記述を基に課題をまとめることが基本となります。特に組織倫理向上の観点に絞り込んで、自分なりの考察を加えることが重要と考えます。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。

### 基本教材 1

第 1 回	基本教材 1 の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第 2 回	基本教材 1 に基づく学修①(世界のサステナビリティ底流)
第 3 回	基本教材 1 に基づく学修② (SDGs のビジネス言語への翻訳)
第 4 回	基本教材 1 に基づく学修③ (政府規制と ESG 投資)
第 5 回	基本教材 1 に基づく学修④ (NGO と消費者)
第 6 回	基本教材 1 に基づく学修⑤ (新たな経営モデルへのシフト)
第 7 回	基本教材 1 に基づく学修⑥ (社会課題と競争戦略)
第 8 回	基本教材 1 に基づく学修⑦ (インテリジェンス機能とサステナブルなサプライチェーン)
第 9 回	基本教材 1 に基づく学修⑧ (ブランディング力とアドボカシー能力)
第 10 回	基本教材 1 に基づく学修⑨ (新たなマネジメントシステム)
第 11 回	レポート課題 1 の草稿取りまとめ
第 12 回	教員からのレポート課題 1 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 13 回	レポート課題 2 の草稿取りまとめ
第 14 回	教員からのレポート課題 2 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

### 基本教材 2 (1)・(2)

第 1 回	基本教材 2 (1)・(2) の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第 2 回	基本教材 2 (1) に基づく学修①(処世と信条、立志と学問)
第 3 回	基本教材 2 (1) に基づく学修② (常識と習慣、仁義と富貴)
第 4 回	基本教材 2 (1) に基づく学修③ (理想と迷信、人格と修養)
第 5 回	基本教材 2 (1) に基づく学修④ (算盤と権利、実業と士道)
第 6 回	基本教材 2 (1) に基づく学修⑤ (教育と情誼、成敗と運命)
第 7 回	基本教材 2 (2) に基づく学修① (「いい会社」をめざして)
第 8 回	基本教材 2 (2) に基づく学修② (年輪経営でみんなハッピー)
第 9 回	基本教材 2 (2) に基づく学修③ (遠きをはかる経営)
第 10 回	基本教材 2 (2) に基づく学修④ (「忘己利他」こそ、人生のあるべき姿)
第 11 回	レポート課題 1 の草稿取りまとめ
第 12 回	教員からのレポート課題 1 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 13 回	レポート課題 2 の草稿取りまとめ
第 14 回	教員からのレポート課題 2 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

科目名	日本政治史論特講	担当者	タキガワ シュウゴ 瀧川 修吾	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>「温故而知新，可以為師矣」というように，過去の歴史的事実から，向後の政治をより良くするための教訓を得んとする試みは，政治史という学問の最大の使命であろう。政権の在り方や，制度の不備，格差や貧困といった俄には解決しがたい問題に起因する内政上の不満を，外交や軍事に対する人々の関心を掻きたてることで，巧みに逸らす政治手法は，他国との関係を大前提とするグローバル社会にあって，あらゆる民主主義国家とその国民が対決し，克服していかなければならない脅威といえる。本講義では，広く歴史とは何かについて学んだ上で，この厄介な問題につき，幕末から明治にかけての日本で登場した征韓論を素材に，皆さんと一緒に考えることで，豊かな知識・教養に基づく高い倫理観のほか，世界の現状を理解し説明する力，論理的・批判的思考力，問題発見・解決力，挑戦力，省察力などを高度に修得することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 日本政治史や思想史の専門書を熟読し，内容を深く理解する洞察力や省察力を養い，その成果を纏め，独自の観点から論評・解説する論理的・批判的思考力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. E. H. Carr の著作を精読し，各自の歴史観を再確認し，そこで学んだ理論の妥当性につき，日本史上の歴史的事実を事例にして考察を加えてみる。</li> <li>2. 社会科学における言葉の定義の重要性につき，「征韓論」を事例に理解する。さらに徳川幕藩体制下の対馬藩が直面した危機について理解する。</li> <li>3. 総じて，教養を身につけるために学ぶ通史とは異なり，いわば歴史を通じてものごとを深く考える楽しみに接し，自己の眼前に展開する諸問題につき，歴史的に思考する能力を養う。</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 履修者の皆さんが，これまでどの程度，歴史を学んできたかで，学修方法も再考を余儀なくされるものと予想される。よって「基本教材1」の「I 歴史家と事実」をある程度読み進めた段階で，一度，皆さんからメール等で連絡をもらい，当方が皆さんの習熟度や理解度を把握することとした。その上で必要に応じて参考図書を紹介したり，レポートの難易度や分量を加減したりするなど，調整し，皆さんそれぞれの状況に応じた到達目標が実現されるような指導をおこなう。本を熟読する際は，重要と思われる箇所を下線を引いたり，調べたことや批判，感想などを書き加えたりして，汚しながら読む（「眉批」を付ける）ことを推奨する。概ね，自主研究に20時間，レポート作成に10時間，教員とのディベートに15時間を目安とする。 テキストないし指示された参考書を熟読してもらう（概ね新書1冊と学術論文2本）。学修時間は個人差が生じざるを得ないが，質問や用語の調査なども入れて45時間超を想定している。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Zoom や Meet、メールや添付ファイル，manaba を活用し，双方向性を重視した指導を行う。</p>		
スケジュール	<p>「基本教材1」から出題した課題は，6月末までを目安に学修を終え，「レポート課題1」は7月15日を，「レポート課題2」は8月15日を，それぞれ初稿の提出締切日とする（以下全て，可能であれば，締切日以前の提出を奨励する）。最終稿は学事暦の期限を提出期限とする。</p> <p>「基本教材2」から出題した課題は，10月末までを目安に学修を終え，「レポート課題1」は11月15日を，「レポート課題2」は12月15日を，それぞれ初稿の提出締切日とする。最終稿は学事暦の期限を提出期限とする。</p> <p>※以上はあくまで目安であり，受講者各自の状況により柔軟に対応する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	教材から一定の知識を修得し，それらを客観的かつ論理的に纏めることができているか。また，学んだ知識を批評したり，援用したりするなど主体的に活用することができるか。
	観察記録	30%	当方がおこなった指導や指摘を，適切にレポートへ反映することができたか。レポートの提出期限の遵守等，コミュニケーション上のルールを守ることができたか。
履修者への要望	<p>関連科目を大学で受講していなくても及第点がとれるように，極力，親切丁寧な指導を心掛けるが，その成否は，やはり皆さんがまめに連絡をくれるか否かに掛かっていると思われる。質問してくれたことに対して減点をするようなことは一切ないので，積極的かつ気軽に質問をして頂きたい。なお，皆さんが効率よく学修を開始するためには，当方にもしかるべき準備が必要となる。よって，<b>履修登録をすると同時に，その旨を担当教員にメール (takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp) で報告すること</b>を履修の条件としたい（その後，履修取消しをした場合もご一報頂きたい）。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： E. H. カー著・清水幾太郎訳 教材名： 『歴史とは何か』（岩波書店，1962年，原著は出版） ISBN：4-00-413001-8（820円＋税）
	本書は，E. H. Carr が1961年にケンブリッジ大学でおこなった講演をもとに編まれたもので，歴史を研究する者にとっては必読文献といっても過言ではない。本書の出版からすでに半世紀が経過したが，ここで提示されている議題の数々がその重要性を失うことは，この世に人間や社会が存在する限り，決してないであろう。
参考図書	原著“ <i>What is history</i> ”は，幸いインターネット上でも閲覧できるようなので，訳本と併読することを推奨したい。もちろん Amazon 等で，ペンギンブックスなどのペーパーバックを購入するのも良い（千数百円程度）。
履修上のポイント	同書では，劈頭で掲げられていた命題が先々まで深い意味をもっていたり，再び別の視点で論じられたりといったケースがあるので，論点をノートに書き出して読み進めると良いであろう（本に線を引いたり，眉批を直接書き込むのも良い）。呉々も，新書をたった一冊読むだけなどと侮らず，その分，しっかりと基本教材を「精読」してもらいたい。読み進める中で，知らない人名や事件等が出てきたら，最低限，電子辞書やインターネットなどを用いて調べるようにすること。
レポート課題 1	歴史とは「歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり，現在と過去との絶え間ない対話」であるという Carr の主張は，いったいどのような意味か。現今を生きる自分自身の体験や経験を踏まえて論じなさい。 <b>留意点</b> ：Carr の所論と皆さんの意見等とが混在しないように，正しい「引用」と「援用」の技法を駆使してレポートを作成すること（換言すれば，要旨を纏めるだけでは不十分です）。
レポート課題 2	Carr が述べる「歴史における必然」と「歴史における偶然」とはどのような問題か。要領よく論点を纏めると共に，適当な日本史上の歴史的事実を随意に用いて説明を試みなさい。 <b>留意点</b> ：レポートの構成や用いる事例などが決まった段階で，一度当方に相談の連絡をくれた方が効率的と思料される。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 瀧川修吾 教材名： 『征韓論の登場』（櫻門書房，2014年） ISBN：978-4-901250-46-7（2,500円＋税）
	本書は，「征韓」論が幕末から明治の政治空間にどのようにして登場したかを，政治史・思想史的なアプローチで探求した専門書である。いわゆる博士論文を刊行したものであるため，章・節の設け方や脚注の付け方等々，皆さんがレポートや修士論文を作成するにあたっての見本となれば幸甚である。諸事情により入手が困難なため， <a href="mailto:takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp">takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp</a> まで御一報下さい。
参考図書	本書一冊を読破するだけでも骨が折れると思われるので，教材としては「序章「征韓」論の歴史的意義と論理的構造」と「第一章 ロシアによる対馬占拠事件」を使用する。参考図書については，適宜，紹介をする。
履修上のポイント	同書は専門書であるため，日本史の学術論文を初めて読むという履修者には，おそらく読みづらいものと思われる。まずは根気強く，導入部にあたる序章を読んでみてもらいたい。「基本教材 1」と同様，未知の人名や事件については調べる努力を惜しまないで欲しい。ついで第 1 章を読み終えたところで，「レポート課題 2」を具体的にどのようなテーマにするのか相談したいので，必ず連絡をもらいたい。そこで参考図書も決まるので，遅くとも 10 月初旬には第 1 章を読み終えて欲しい（場合によっては，先に第 1 章を読むと良いであろう）。
レポート課題 1	幕末から明治にかけての「征韓」論が当事者および歴史家によってどのように認識され，その結果，どういった学説が形成されてきたかについて論じなさい。 <b>留意点</b> ：呉々も「基本教材 2」の切り貼りにならないように，当方の指導を受けつつ，自分の言葉でレポートを作成すること。
レポート課題 2	幕末から明治の日本を取りまいていた国際的環境をテーマに，各自で自由に議題を設定し，これについて論じなさい。 <b>留意点</b> ：履修上のポイントにも書いたように，「自由」とはいえども，当方と相談の上で議題設定をすること。

### 基本教材 1

第 1 回	基本教材 1 の目次等を確認し、いわゆる「斜め読み」を行い、全体を俯瞰してみる
第 2 回	基本教材 1 の斜め読みを続けると共に、参考図書等にもアクセスしてみる
第 3 回	基本教材 1 「Ⅰ 歴史家と事実」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 4 回	基本教材 1 「Ⅱ 社会と個人」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 5 回	基本教材 1 「Ⅲ 歴史と科学と道徳」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 6 回	基本教材 1 「Ⅳ 歴史における因果関係」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 7 回	基本教材 1 「Ⅴ 進歩としての歴史」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 8 回	基本教材 1 「Ⅵ 広がる地平線」を熟読し（眉批を付ける）、参考文献にあたるなど学修する
第 9 回	基本教材 1 を読み直して整理しつつ、レポート課題 1 ・レポート課題 2 の作成に必要な文献を収集する
第 10 回	基本教材 1 を読み直して整理しつつ、レポート課題 1 ・レポート課題 2 の作成に必要な文献を収集する
第 11 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	基本教材 2 の目次等を確認し、いわゆる「斜め読み」を行い、全体を俯瞰してみる
第 2 回	基本教材 2 の斜め読みを続けると共に、参考図書等にもアクセスしてみる
第 3 回	基本教材 2 「序章「征韓」論の歴史的意義と論理的構造」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 4 回	基本教材 2 「第 1 章 ロシアによる対馬占拠事件」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 5 回	基本教材 2 「第 2 章 対馬藩の征韓論に関する比較考察」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 6 回	基本教材 2 「第 3 章 アジア雄飛論の諸相」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 7 回	基本教材 2 「第 4 章 山田方谷とアジア雄飛論」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 8 回	基本教材 2 「第 5 章 勝海舟とアジア雄飛論」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 9 回	基本教材 2 「第 6 章 アジア雄飛論と征韓論の因果関係」を熟読し、参考文献にあたるなど学修する
第 10 回	基本教材 2 を読み直して整理しつつ、レポート課題 1 ・レポート課題 2 の作成に必要な文献を収集する
第 11 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	都市計画論特講	担当者	ヤマギシ 山岸 テルキ 輝樹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、まちづくりや地方創生の背景にある我が国の「都市計画」および「住宅政策」の理論や制度、施策について下記の知識を習得することを目的とする。特に社会課題の集積地と言われる大都市住宅団地が抱える課題とその背景、実際の取り組みの理解を通して、地域課題解決のための基礎知識の獲得を目指す。</p> <p>①都市計画の基本的な制度や住宅政策の基本的な流れについて理解することができる。</p> <p>②都市計画の制度や住宅政策の面、および現実の都市空間が平成期に変節点を迎えたことを理由とともに理解することができる。</p> <p>③現代の地域社会が抱える政策課題に対して、民間によるまちづくり活動が必要であることを理解することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 都市計画や住宅政策に関する概念を理解し、地域空間の課題を都市計画および社会システムの視点から論じるための基礎知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画や住宅政策の基礎となる概要及び基礎理論を説明できる (知識)。</li> <li>人口減少等の社会の変化と地域空間の課題との関わりを理解できる (技能)。</li> <li>まちづくり活動について、その地域空間が抱える社会課題とまちづくり活動の実践との関係に触れることを通じて、地域最瀬に関するアイデアを積極的に発信することができる (態度)。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 基本教材を熟読し十分に理解したうえで具体的な考察を行い、レポートのドラフトを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画の理論と制度を体系的に概観し、また住宅政策の歴史的変遷を理解する。</li> <li>計画理論や制度を踏まえ現在の都市空間 (特に郊外住宅地) がどのように形作られているかを理解する。</li> <li>大都市近郊の郊外住宅団地において活動する NPO の取り組みを通じ、現在の地域が抱える具体的なまちづくりの課題と活動の内容を理解する。</li> <li>成熟した都市において民間によるまちづくりの担い手が不可欠であることへの理解。</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材を熟読し、副教材も参考にしつつレポートの初稿を制作する。【15 時間/レポート 1 本】</li> <li>教員による初期のコメント・指導に基づき、初稿の修正を行う。【15 時間/レポート 1 本】</li> <li>添削指導に基づく推敲を行い、最終稿を完成させる。その際与えられた資料以外の追加資料を自主的に探索し更なるインプットを行うことで、より深い理解に到達できる。【15 時間/レポート 1 本】</li> </ul>		
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題 1、課題 2 共に以下の期日までに初稿を提出する。(前期：7 月末、後期：11 月末)</li> <li>受講開始後、進捗に不安を感じた場合には早めに「履修者への要望」に記載の担当者のアドレスまでメールにて相談すること。</li> <li>最終稿の提出期限は学事暦に従う。</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか。</li> <li>自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか。</li> <li>教材以外の資料を活用して解答しているか。</li> </ul>
	観察記録	20 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出までに複数回のレポート交換ができているか。</li> <li>初稿提出期限が守られているか。</li> </ul>
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修計画のすり合わせを行うために、履修登録後、速やかに担当教員にメールにて連絡してください (yamagishi.teruki@nihon-u.ac.jp)。日程を調整し Zoom 等を用いたオンラインでの打ち合わせを行います。(オンラインでの打ち合わせが困難な場合にはメールにその旨を記載してください。)</li> <li>初稿提出のスケジュールを厳守してください。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 小嶋勝衛・横内憲久 監修 教材名： 『都市の計画と設計（第3版）』（共立出版 2017年） ① ISBN：978-4320-77188 3,700円＋税 著者名 山口幹幸・川崎直宏 編 教材名 『人口減少時代の住宅政策—戦後70年の論点から展望する』（鹿島出版会, 2015年） ② ISBN：978-4306046306 2,300円＋税 教材①は都市計画および都市デザインに関わる標準的な教科書である。都市計画に関わる歴史や理論・概念、および法制度について幅広く概観されており、都市計画に関する全体像を得るのに適している。教材②は関東大震災後からの住宅政策の歴史を、論点を明確にしつつ論じたものである。現在の地域空間がどのような政策によって誘導され形成されてきたかを理解するのに適している。
参考図書	著者名：日端康雄 教材名：『都市計画の世界史（講談社現代新書）』（講談社 2017年） ISBN：978-4062879323 1,320円 著者名：日笠端・日端康雄 教材名：『都市計画 第3版増補』（共立出版 2015年） ISBN：978-4320077140 4,400円
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「都市計画」の概要を理解する。</li> <li>・住宅地計画の方法がどのような考え方に基づいて行われているかについて理解する。</li> <li>・社会的背景の変化に伴う住宅政策の変容を理解する。</li> </ul>
レポート課題 1	高度成長期に大量の住宅供給が行われた郊外住宅地の特徴について、「近隣住区」および「用途地域」の語を交えて説明してください。 <b>留意点</b> ：住宅地計画の手法に着目して説明してください。
レポート課題 2	平成期におきた住宅政策の転換について、我が国における都市の整備状況や社会状況との関係を踏まえ説明してください。 <b>留意点</b> ：戦後の復興から成長・拡大を続けてきた時期と現在の成熟期と言われる状況を比較し、違いに着目して説明してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 山口幹幸・川崎直宏 編 教材名： 『人口減少時代の住宅政策—戦後70年の論点から展望する』（鹿島出版会, 2015年） ① ISBN：978-4306046306 2,300円＋税 著者名 ちば地域再生リサーチ 編 教材名 『市民コミュニティ・ビジネスの現場—建て替えない大地再生のマネジメント』 ② ISBN：978-4-395-01035-6 2,400円＋税 教材①は現在の地域空間がどのような政策によって誘導され形成されてきたか、その上で現在の住宅地の課題を理解するのに適している。教材②は東京近郊のニュータウンにおいて団地再生に取り組んできたNPOの活動記録である。高度成長期の都市計画や住宅政策によって作られた都市空間に対して、現在のまちづくりの活動としていかに取り組んでいるかを理解するために有益である。
参考図書	著者名：大月敏雄・住宅生産人口財団 監修 教材名：『市民がまちを育む —現場に学ぶ「住まいまちづくり」』（建築資料研究社 2022年） ISBN：978-4-86358-824-0 2,500円＋税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にまちづくりに取り組むNPOの活動記録から、当該NPOが取り組む具体的な地域課題が都市計画の課題であることを理解し、またその対策について理解する。</li> <li>・都市空間に関する課題が、行政による対策だけでなく、民間のさまざまな主体による取り組みが必要とされるようになった、その課題の特徴を踏まえて理解する。</li> </ul>
レポート課題 1	教材2②のNPOが行う具体的な地域課題解決の取り組みを一つ取り上げ、NPOの活動地域が抱える地域課題と取り組む内容の関係について具体的に説明してください。 <b>留意点</b> ：いずれの課題もその要因が都市空間としての住宅地に関わることに着目してください。
レポート課題 2	民間によるまちづくり活動の担い手が必要とされるようになった理由を、都市が成長し拡大してきた時期の課題と、成熟期と言われる課題との違いに着目し説明してください。 <b>留意点</b> ：事例として現代の都市空間が抱える具体的な課題をあげつつ論じて下さい。

### 基本教材 1

第 1 回	本科目の「目的」と「到達目標」を理解したうえで、教員との意見交換により「学修の進め方」を理解する。
第 2 回	教材 1 (1) に基づく学修 (都市の概要、都市計画の概要)
第 3 回	教材 1 (1) に基づく学修 (近代都市計画の変遷、地域計画と都市計画マスタープラン)
第 4 回	教材 1 (1) に基づく学修 (都市更新と都市開発、都市計画に関する法制度) 及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 5 回	教材 1 (2) に基づく学修 (戦後 70 年の住宅政策 1 萌芽期)
第 6 回	教材 1 (2) に基づく学修 (戦後 70 年の住宅政策 2)
第 7 回	教材 1 (2) に基づく学修 (戦後 70 年の住宅政策 3)
第 8 回	教材 1 (2) に基づく学修 (戦後 70 年の住宅政策 4)
第 9 回	教材 1 (2) に基づく学修 (戦後 70 年の住宅政策 5)
第 10 回	教材 1 (2) に基づく学修 (戦後 70 年の住宅政策 6)
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき再検討を行う。
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき再検討を行う。
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の間に係る全体的な把握を深める。
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する。

### 基本教材 2

第 1 回	教材 2 (1) に基づく学修 (人口減少時代の住宅政策 1・2)
第 2 回	教材 2 (1) に基づく学修 (人口減少時代の住宅政策 3・4)
第 3 回	教材 2 (1) に基づく学修 (人口減少時代の住宅政策 5・6)
第 4 回	教材 2 (2) に基づく学修 (はじめに、コミュニティ・システムの更新、コミュニティの衰退と生命、限界のコミュニティ)
第 5 回	教材 2 (2) に基づく学修 (ちば地域再生リサーチの設立、ちば地域再生リサーチの戦略)
第 6 回	教材 2 (2) に基づく学修 (住まいのリペア・リフォーム)
第 7 回	教材 2 (2) に基づく学修 (コミュニティ・暮らしサポート、団地学校)
第 8 回	教材 2 (2) に基づく学修 (コミュニティ・アート、エリア経済の活性化サポート)
第 9 回	教材 2 (2) に基づく学修 (住まい・町再生サポート、事業のマネジメント)
第 10 回	教材 2 (2) に基づく学修 (コミュニティ・システム更新のためのパートナーシップ、コミュニティの診断)
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき再検討を行う。
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき再検討を行う。
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の間に係る全体的な把握を深める。
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する。

科目名	地方共生論特講	担当者	カミイ 神井 ヒロユキ 弘之	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>人口減少、少子高齢化の進展する我が国においては、多様な主体が協働して、地域の活力と魅力を高め、生活の質を向上させていくことが社会的な課題となっています。この際、経済の観点のみならず、環境の観点、社会の観点からも持続性を高めることが求められています。</p> <p>本講座では、多様な主体が協働する持続可能な地域づくりのなかでも、特に、人口減少面等から社会課題が先行して顕在化している農村地域を主な対象として取り上げ、持続的な活力と魅力づくりに関する現状・課題や先進的な取組みについて、体系的な知識を身につけることにより、地域のリーダーとして、現状の評価・分析を行うとともに、地域づくりの実践活動として未来志向の対話等を実践する能力を身につけることを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>学修者が関わる地域づくりにおいて、地域の活力と魅力を高め、生活の質を向上させていく取組みを企画し、実践できるよう、社会課題が先行して顕在化している農村地域を主な対象として、①我が国の地域づくりのこれまでの経緯と現在直面している課題、関連する政策等に関する知識を獲得し、②最近の地域づくりにおける先進的な具体例について、体系的に評価・分析、課題抽出を行う技能を修得するとともに、③未来志向の対話の実践などにより、多様な主体との協働を構想し、地域づくりの持続性向上を常に模索する態度を身につけることを目標とします。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① (知識・想起・解釈) 農村地域に関する社会課題の経緯、地域づくりの現状・課題や関連する政策について知識を獲得し、それを説明できる。</p> <p>② (知識・問題解決/技能) 地方における持続的な活力と魅力づくりの先進的な事例の特長・傾向を把握しており、①で獲得した知識を活用して、具体的な地域づくりの取組 (ケース) を評価・分析し、課題を抽出することができる。</p> <p>③ (技能/態度) ②の技能で抽出した課題に対して、持続可能な地域づくりのための改善策を構想することができる。この際、未来志向の対話の実践などにより、持続可能な地域づくりのために多様な主体による協働を実現するよう配慮することができる。【一般目標 (GIO)】</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>・manaba folio を利用して、教員と学修者との間での双方向を重視した指導を実施します。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>①基本教材及び参考図書を熟読し、内容の理解を深める (自習) 【SBO①②】 【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>②レポート課題に則して情報を収集・分析する (自習) 【SBO②③】 【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>③課題レポートの初稿を作成する (レポート作成) 【SBO②③】 【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>④manaba folio を利用したレポート添削で教員と意見交換を行う (ディベート) 【SBO①②③】 【15 時間/レポート 1 本】</p>		
スケジュール	<p>【前期】レポート課題 1 は 7 月末に草稿提出、レポート課題 2 は 8 月末に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>【後期】レポート課題 1 は 11 月中旬に草稿提出、レポート課題 2 は 12 月中旬に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>※レポート課題の草稿について、意見交換と修正を何度か行うことで、修士論文を書く際に必要となる基礎的な事項を修得することが出来ます。そのためには、レポートの草稿を極力早い時期より提出することが望まれます。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの評価は全体で、80%とします。前期レポート課題 1・2、後期レポート課題 1・2 に、それぞれ 20%を配分します。
	観察記録	20%	レポート課題の草稿提出から最終稿提出までのプロセスにおける対応 (例えば、加筆、修正のコメントに対する対応) を評価します。1 つのレポート課題に、5%を配分します。
履修者への要望	<p>本講座では、多様な主体が協働する持続可能な地域づくりのなかでも、特に、人口減少面等から社会課題が先行して顕在化している農村地域を主な対象として、体系的な知識の修得と具体的な先進事例の評価・分析を行うこととしています。特に、先進事例の評価・分析については、エピソードの羅列に陥ることなく、体系的に情報を整理し、分析することが期待されます。その趣旨を踏まえて、自分なりのオリジナルな解釈を論理的に記述することが重要です。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 小田切徳美著 教材名： 『農村政策の変貌 その軌跡と新たな構想』（農山漁村文化協会、2021年） ISBN：978-4-540-20173-8 2,400円＋税
	農村政策の理論や農村実態の詳細な分析を行うと同時に、中山間地域直接支払制度、地域おこし協力隊、小さな拠点、ふるさと納税、過疎法等の農村に関連する関係省庁の政策についても幅広く取り扱い、地域政策の総合化について論じた書籍です。
参考図書	松原宏『地域経済論入門 改訂版』（古今書院、2022年）ISBN：978-4-7722-5343-7 2,800円＋税
履修上のポイント	農村の現状・課題と関連する政策をテーマにした書籍を基本教材1としたのは、人口減少面等から社会課題が顕在化している農村地域を対象として、地域づくりに関する全体像を把握することによって、多様な主体が協働する持続可能な地域づくりについて、体系的に考察することが容易になると考えたためです。基本教材1に基づいて、農村の現状・課題、関連する政策について、体系的に把握し、そこで得た知識を論理的な評価・分析に役立てられるよう、レポート課題作成に臨んでください。
レポート課題 1	「ふるさと納税」について、地域政策としての意義、効果と課題を3,000字程度でまとめてください。この際、キーワードとして、必ず「関係人口」と「返礼品競争」について触れてください。 <b>留意点：</b> 基本教材1の記述を基に課題をまとめることが基本となります。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。
レポート課題 2	「関係人口論」の解釈、意義と今後の展望について、3,000字程度でまとめてください。この際、キーワードとして、必ず「地域おこし協力隊」と「田園回帰」について触れてください。 <b>留意点：</b> 基本教材1の記述を基に課題をまとめることが基本となります。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。

基本教材 2 (1)・(2)	
教材(1)の概要	著者名： 井上岳一著 教材名： 『日本列島回復論 この国で生き続けるために』（新潮社、2019年） ISBN：978-4-10-603847-1 1,400円＋税
	「田舎の中でも、森が豊かで、水に恵まれ、川や海や湖があって、かつ、人が古くから住んできた場所」を「山水郷」と呼び、そこに「次の社会をつくる鍵があるのではないか」との問題意識で、自然、歴史、コミュニティ、テクノロジーを総動員して構築する新しい社会のあり方について論じた書籍です。
教材(2)の概要	著者名： 平井太郎著 教材名： 『地域でアクションリサーチ』（農山漁村文化協会、2022年） ISBN：978-4-86113-862-1 1,500円＋税
	地域づくりの現場において、「話し合い、知恵を寄せ合い、少しずつ事態を打開する」ために、「やりながら考える、省みながらやってみる、といったかたちで実践と研究を組み合わせ、課題に向き合う」手法として、アクションリサーチを紹介した書籍です。
参考図書	アンドレ・シャミネー著、白川部君江訳『行政とデザイン 公共セクターに変化をもたらすデザイン思考の使い方』（ビー・エヌ・エヌ新社、2019年）ISBN 978-4-8025-1149-0 3,200円＋税 内田樹著『ローカリズム宣言 「成長」から「定常」へ』（株式会社デコ、2018年）ISBN：978-4-906905-16-4 1,600円＋税
履修上のポイント	自然、歴史、コミュニティ、テクノロジーを総動員して持続可能な社会を構築する構想について記した『日本列島回復論』と、地域づくりの具体的なアプローチとして「話し合いを変える実践と理論」を記した『地域でアクションリサーチ』の2冊を基本教材2としました。基本教材1で学んだ農村の現状・課題、関連する政策に関する体系的な知識を活用して、学修者の独自の観点から、「山水郷」という構想や「アクションリサーチ」という手法を解釈し、評価することが有益だと考えます。
レポート課題 1	基本教材2(1)で示された「山水郷」のコンセプトと具体的な実践事例、今後の課題について、基本教材1で獲得した農村政策や最近の動向も踏まえて、3,000字程度でまとめてください。この際、キーワードとして、「内発的発展」と「コミュニティ」に必ず触れてください。 <b>留意点：</b> 基本教材2(1)の記述を基に課題をまとめることが基本となります。基本教材1で獲得した知見を活かして、自分なりの考察を加えるよう努めて下さい。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。
レポート課題 2	基本教材2(2)で示された「アクションリサーチ」について、その概要と意義、今後の課題を、3,000字程度でまとめてください。この際、キーワードとして「地域おこし協力隊」と「安心感のある場」に必ず触れてください。 <b>留意点：</b> 基本教材2(2)の記述を基に課題をまとめることが基本となります。基本教材1で獲得した知見を活かして、自分なりの考察を加えるよう努めて下さい。なお、引用部分と自らの考察部分の区別を明確にするなど、アカデミックな文章作成のルールを遵守するよう、留意してください。

### 基本教材 1

第 1 回	基本教材 1 の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第 2 回	基本教材 1 に基づく学修①(農村問題の理論と政策)
第 3 回	基本教材 1 に基づく学修② (農村の変貌)
第 4 回	基本教材 1 に基づく学修③ (中山間地域等直接支払制度の形成・展開・課題)
第 5 回	基本教材 1 に基づく学修④ (農村政策の摸索、地域振興一括交付金、新しい集落対策)
第 6 回	基本教材 1 に基づく学修⑤ (「小さな拠点」の形成、新しい過疎法)
第 7 回	基本教材 1 に基づく学修⑥ (地方分権改革と市町村合併、ふるさと納税)
第 8 回	基本教材 1 に基づく学修⑦ (地方創生の論点、田園回帰)
第 9 回	基本教材 1 に基づく学修⑧ (地域おこし協力隊、関係人口と「にぎやかな過疎」)
第 10 回	基本教材 1 に基づく学修⑨ (ポスト・コロナ社会と農村)
第 11 回	レポート課題 1 の草稿取りまとめ
第 12 回	教員からのレポート課題 1 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 13 回	レポート課題 2 の草稿取りまとめ
第 14 回	教員からのレポート課題 2 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

### 基本教材 2 (1)・(2)

第 1 回	基本教材 2 (1)・(2) の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第 2 回	基本教材 2 (1) に基づく学修①(この国の行く末)
第 3 回	基本教材 2 (1) に基づく学修② (求められる安心の基盤)
第 4 回	基本教材 2 (1) に基づく学修③ (山水郷の力)
第 5 回	基本教材 2 (1) に基づく学修④ (動員の果てに)
第 6 回	基本教材 2 (1) に基づく学修⑤ (山水郷を目指す若者達)
第 7 回	基本教材 2 (1) に基づく学修⑥ (そして、はじまりの場所へ)
第 8 回	基本教材 2 (2) に基づく学修① (現場とともに地域を変える方法論)
第 9 回	基本教材 2 (2) に基づく学修② (アクションリサーチを立ち上げる)
第 10 回	基本教材 2 (2) に基づく学修③ (アクションリサーチを持続させる・農村学へ)
第 11 回	レポート課題 1 の草稿取りまとめ
第 12 回	教員からのレポート課題 1 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 13 回	レポート課題 2 の草稿取りまとめ
第 14 回	教員からのレポート課題 2 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

科目名	知的財産論特講	担当者	ミヤシタ ヨシキ 宮下 義樹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>近年、ビジネスをする上でブランド戦略は切離せないものとなっている。ただし、そのブランド戦略も法令を知らないと他社に真似をされたり、あるいは他者の権利を侵害してしまうということで違法となり戦略自体が成り立たなかったりという可能性も生じる。</p> <p>そのため法律を知ることが重要である。そのなかでも知的財産法、特に商標法や不正競争防止法等の法律を理解していくことが、ビジネス上必須となっている。</p> <p>本講座では知的財産法を理解することで、ビジネス利用のために何が可能化ということの認識ができ、法律や判例の分析をすることで、論理的・批判的思考力を中心に、問題の発見・解決能力を習得することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>知的財産法の目的と目的達成のための法的内容を理解することで、企業のブランド戦略策定に必要な法的知識を培う。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的財産法の内容、保護範囲を説明できる。(知識・想起)</li> <li>2. 判例・学説を理解し、実務上の取り扱いを理解する。(技能)</li> <li>3. 制度を理解した上で、現在発生している法的問題を説明できる。(知識・解釈)</li> <li>4. 知的財産法を活用したブランド戦略を策定できるようになる。(知識・問題解決)</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本教材及び参考図書を熟読する。</li> <li>・テーマを設定し、課題レポートの題材を作成する。</li> <li>・基本教材及び参考図書を用いた自己学習 (20 時間)</li> <li>・レポート作成に関する教員との相談(15 時間)</li> <li>・レポート作成時間 (10 時間)</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを実現させるのに必要な論文やデータ等を議論や質問を行いながら確認し、収集する。</li> <li>・レポート草稿を作成し、必要な指導を行いながら、改訂作業を行い、レポートを完成させる。</li> </ul>		
スケジュール	<p>【前期】レポート課題1：7月中旬に草稿提出、レポート課題2：8月中旬に草稿提出、議論と指導に基づき修正を行い、学事暦で定める期限までに最終稿を提出する。</p> <p>【後期】レポート課題1：11月中旬に草稿提出、レポート課題2：12月中旬に草稿提出、議論と指導に基づき修正を行い、学事暦で定める期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	レポートのテーマ設定、法律理解、判例理解、という知識面での確認をしつつ、レポート内容につき論理的展開、問題設定、批判的思考、ができていのかについても評価をする。
	観察記録	30 %	教材学習の進捗とレポート作成につき、教員の指導や相談を学習に反映させているか。
履修者への要望	<p>知的財産法は、現実問題に対する解決の一方法である。基本教材や参考図書に限らず、様々な記事やニュースを確認することが望ましい。</p> <p>レポート作成は様々な情報を収集することが必要であり、自分の文章だけを用いるわけではない。その場合引用や参考文献の取り扱いは適切にすることが必須である。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 小泉直樹 教材名： 知的財産法 第2版（弘文堂 2022年） ISBN 978-4-335-35898-2 本体3,800円＋税
	知的財産法一般についてまとめている。種苗法や地理的表示法等についての説明の解説もあるため、ブランド戦略と知的財産の全体を俯瞰するための基本教材として適切である。
参考図書	『商標・意匠・不正競争判例百選 第2版』有斐閣 ISBN 9784641115484 特許庁編『工業所有権法（産業財産権法）逐条解説〔第21版〕』 <a href="https://www.jpo.go.jp/system/laws/rule/kaisetu/kogyoshoyu/chikujokaisetsu21.html">https://www.jpo.go.jp/system/laws/rule/kaisetu/kogyoshoyu/chikujokaisetsu21.html</a>
履修上のポイント	知的財産法は毎年のように改正されている生きた法律である。現在がどのような制度になっていて、その制度で社会を守り切ることが可能であるかという視点を持ち、新しいビジネスの創出と法的保護の対応について、整理していくことが重要である。
レポート課題 1	知的財産法の近年行われた改正についてまとめて、改正された理由とその改正が今後どのような影響をもたらすと考えられるかについて論じること（4000字程度） <b>留意点：</b> 改正点は担当省庁の出した資料のみでなく、実際の事件等についても調べること。
レポート課題 2	ブランドに関する知的財産法が関連する裁判例をひとつ選択し、その裁判例についての判例紹介を行う。裁判例の要約、法律上の争点、法律の解釈、判決内容への賛否を論じること。（4000字程度） <b>留意点：</b> 事実関係の整理と、事実に対する法律への解釈や対応を認識すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 茶園成樹 教材名： 『商標法 第2版』（有斐閣 2018年） ISBN 978-4-641-24311-8
	知的財産法のなかでブランド戦略をみるのならば、商標法が中心となる。商標法を理解するための教科書として、適切である。
参考図書	田中洋『デジタル時代のブランド戦略』有斐閣 ISBN 978-4-641-16622-6 山本飛翔『スタートアップの知財戦略』勁草書房 ISBN 978-4-326-40375-2
履修上のポイント	知的財産法は制定された目的があり、制定された理由がある。その目的や理由への理解を深めることで、知的財産戦略への知的財産法の活用方法の理解が深まる。 ただ知識を入力するだけでなく、自分がビジネスをするならばどのように考えるか、具体的事案に置き換えながらの学習が望ましい。
レポート課題 1	ブランドに関する知的財産法が関連する裁判例をひとつ選択し、その裁判例についての判例評釈を行う。裁判例の要約、法律上の争点、法律の解釈、判決内容への賛否という前期レポート課題1の要求に加え、裁判例の位置づけ、裁判例がもたらす影響も含めて論ずること。（4000字程度） <b>留意点：</b> 裁判例は点ではなく線である。どのような流れから判決に至ったのかという部分も含めて分析することが重要である。
レポート課題 2	知的財産法は改正を続けている。改正しているのは実際のビジネスに法が対応しきれていないからであるが、そうした法の欠缺について指摘し、それを埋めるための改正法の提案をすること。（4000字程度） <b>留意点：</b> 改正点をみつけるために、法改正の議論を確認したり、海外法との差異を比較したりすることが有用である。

### 基本教材 1

第 1 回	基本教材 1 の目次等を確認して、知的財産制度全体を俯瞰してみる。興味を持った単元を読んでみる。
第 2 回	基本教材 1 の中から興味がある部分を見つけ、参考図書も確認しながら、理解を深める。
第 3 回	教員と意見交換を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 4 回	教材に基づく学習を行い、レポート課題 1 のテーマを決定する。
第 5 回	レポート課題 1 の作成に必要な資料を収集する。
第 6 回	教員と意見交換を行い、レポート課題 1 の進捗状況を確認する。
第 7 回	教材に基づく学習を行い、レポート課題 2 のテーマを決定する。
第 8 回	レポート課題 2 の作成に必要な資料を収集する。
第 9 回	教員と意見交換を行い、レポート課題 1, 2 の進捗状況を確認する。
第 10 回	レポート課題 1, 2 の構成を整理する。
第 11 回	レポート課題 1 の草稿を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 の草稿について教員と意見交換を行い、原稿の修正を行う。
第 13 回	レポート課題 2 の草稿を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 の草稿について教員と意見交換を行い、原稿の修正を行う。
第 15 回	レポート課題 1, 2 の最終稿を提出する。

### 基本教材 2

第 1 回	教材、シラバスを確認・学習し、レポート課題の題材について草案を練る。
第 2 回	レポート課題を提出するにあたり学ぶべき学習領域について教員と意見交換を行う。
第 3 回	教員と意見交換を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 4 回	教材に基づく学習を行い、レポート課題 1 のテーマを決定する。
第 5 回	レポート課題 1 の作成に必要な資料を収集する。
第 6 回	教員と意見交換を行い、レポート課題 1 の進捗状況を確認する。
第 7 回	教材に基づく学習を行い、レポート課題 2 のテーマを決定する。
第 8 回	レポート課題 2 の作成に必要な資料を収集する。
第 9 回	教員と意見交換を行い、レポート課題 1, 2 の進捗状況を確認する。
第 10 回	レポート課題 1, 2 の構成を整理する。
第 11 回	レポート課題 1 の草稿を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 の草稿について教員と意見交換を行い、原稿の修正を行う。
第 13 回	レポート課題 2 の草稿を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 の草稿について教員と意見交換を行い、原稿の修正を行う。
第 15 回	レポート課題 1, 2 の最終稿を提出する。

科目名	国際メディア論特講	担当者	ヤスエ 安江 ノブオ 伸夫	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講座は、民主主義社会を維持する上で不可欠なメディアの特質を修得（一般目標(GIO)）することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>議論を先行させるアジェンダ設定機能がメディアに備わることについて理解する。 アジェンダ設定機能に、SNS 時代も戦争にメディアが加担した戦前も、メディア企業・政治権力・民衆も、様々な形で関わってきた。 本講座では、玉石混交のメディア情報から有益な情報を見抜く方法を修得する。 政治や社会に疑問の声を上げる高い倫理観を創造する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①民主主義とは、常に問題点を指摘し修正できる仕組みである。 そこでジャーナリズムが果たすべき役割を説明できる。(知識・想起)</p> <p>②玉石混交のメディア情報から有益な情報を見抜き、構築する方法を修得する。(技能)</p> <p>③政治権力・経済発展・ジャーナリズムをメディアと関係づけて説明できる。(知識・解釈)</p> <p>④メディア（新聞から SNS）、社会形成、政治権力の変容を測定する技能が得られる。(技能)</p> <p>⑤メディアは自国に有利な情報を国家が発信する道具としても使われる事を知る。(知識・解釈)</p> <p>⑥格差や多様性による社会分断がメディアの分断と同時進行していることを知る(知識・解釈)</p> <p>⑦日本と米国、現代と戦前のメディア状況に、得た知識を応用し説明できる。(知識・問題解決)</p> <p>⑧政治体制やメディア環境の異なる社会との意思疎通に、必要な人間力が身につく。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題レポート 1 本につき最低 45 時間の学修時間を要する。</li> <li>基本教材・参考文献の読み込み、データの探索：20 時間</li> <li>レポート執筆：10 時間 ・レポートの推敲、教員の添削指導：15 時間</li> </ul> <p>1 科目 4 単位に対し、45 時間×4 の時間が必要ということになる。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材及び参考図書等を熟読する（自習）【SBO①&amp;②】</li> <li>課題に沿って、事例やデータを収集し、問題点を抽出、分析する（自主研究）【SBO②&amp;③】</li> <li>抽出した問題点を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し、それに対する考え方をレポートとしてまとめる（レポート作成）【SBO②&amp;③&amp;④】</li> <li>上記の過程で、manaba folio の掲示板機能を利用した、受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での、教員と受講生とのディスカッション、メールなどで疑問点に関し、相談・質問する。(ディベート)【SBO②&amp;③&amp;④&amp;⑤】</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期【教材 1】:「初稿」提出:レポート課題 1 は第 11 回 (8 月初め)、課題 2 は第 13 回 (8 月中旬)。「最終稿」は課題 1、課題 2 のいずれも「学事暦で定められた日 (9 月中旬)」までに提出する。</p> <p>後期【教材 2】:「初稿」提出:レポート課題 1 は第 11 回 (12 月初め)、課題 2 は第 13 回 (12 月中旬)。「最終稿」は課題 1、課題 2 のいずれも「学事暦で定められた日 (1 月中旬)」までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート内容を、問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し、全体の記載方法、注・参考文献の適切性・記載方法、最新の研究の反映や、ご自身の研究分野との関連性などを評価する。
	観察記録	20%	スケジュールの順守の度合い、メールの送受信の状況、質疑応答の内容などを勘案する。
履修者への要望	<p>情報は比較することが望ましい。新聞は左派の『朝日新聞』、右派の『産経新聞』、経済界よりの『日本経済新聞』を 3 紙読む。日本が海外からどう見られているかを知るため、ニューヨーク・タイムズ (ネット版) の日本に関する記事を読むことをすすめる。日本メディアが転載した米メディアの日本に関する日本語記事でもよい。その場合は、転載メディアによるバイアスがかかることを認識する。庶民の世論を知る上で、ワイドショーや週刊誌にも注目する。どのメディアに接する時にも、情報に対して、以下の点を意識する。「事実なのか感想や意見、想像なのか」「過去に起きたことかこれから起きることか」「一次情報はどこの誰が、どの機関が、いつ発信したもののなのか」。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： カリン・ウォール＝ヨルゲンセン（三谷文栄・山腰修三 訳）            教材名： 『メディアと感情の政治学』（勁草書房 2020年）</p> <p>感情が事実より影響力を持つことを意味する「ポストトゥルース」がジャーナリズムや政治活動に与えた影響を論じた。原著の出版はトランプ政権誕生から二年、ブレグジット運動が高揚する2019年だ。出版直後に始まったコロナ禍と対面できない「閉塞感」。SNS とオンラインコミュニケーションへの偏り。ロシアのウクライナ侵攻を経て、著者が指摘した感情の影響力が裏付けられている。</p>
参考図書	<p>▼ヤン＝ヴェルナー・ミュラー（山岡由美訳）『民主主義のルールと精神』（みすず書房、2022年）。権威主義に圧倒される民主主義を更生させる上でメディアが重要な役割を占めることを訴える。</p> <p>▼山腰修三『ニュースの政治社会学』（勁草書房、2022年）。日本の状況を踏まえた感情とジャーナリズムの問題が認識できる。山腰修三は『メディアと感情の政治学』の翻訳を務める。</p> <p>▼澤康臣『事実はどこにあるのか』（幻冬舎、2023年）。日本国内のメディア状況をまとめた。</p> <p>▼W・リップマン（掛川トミ子 訳）『世論（上・下）』（岩波書店、1987年）。ステレオタイプにより事実がいかに歪曲するかを論じた。原著は第一次大戦直後、ラジオが登場したばかりの1922年。</p>
履修上のポイント	<p>人々は同じ火事のニュースでも家が燃え盛る映像のある方を選択する。なぜ。そこに合理的な理由があるからというより感情に響くからだ。逆に私たちが問題意識を持たねば真実を見誤り、偏った政治を選択する。権力を監視する報道機関を支えるものはいなくなる。この現象が世界で起きている。世界は自国に有利な情報を発信するのにメディアを使う。情報は商業利益と結びつく。出演する政治家のシーンのアクセス数・視聴率は本人の支持率と一致符合する。権力者が民衆に阿るポピュリズムの言動が席卷する。ファクトとエビデンスをどう追求しフェイクを見抜くかを学ぶ。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材と参考図書の問題意識を踏まえ、民主主義を守る上で、メディアや、そのユーザーである私たちのあるべき姿を論ぜよ。ポピュリズム、フェイクニュース、ニュースに接する上での注意点をポピュリズム、フェイクニュース、エコーチェンバーといった言葉を踏まえる。（5000字程度）  <b>留意点</b>：感情によって情報がどう歪曲されて行くか。商品として消費される中で客観性はどう保たれるのかを考える。オーディエンス・有権者である民衆のあるべき姿にも留意する。</p>
レポート課題 2	<p>日本のメディア報道で具体的事例を挙げ、有権者や政治家の間、メディア空間で起きている問題点を、分析し、事実より感情が影響力を持つという問題意識にそって論じる。国内外のいずれのニュース事象も可。（5000字程度）。  <b>留意点</b>：聴衆を意識したステレオタイプが常に働くことを認識。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 坂野潤治            教材名： 『帝国と立憲 日中戦争はなぜ防げなかったのか』（筑摩書房、2017年）</p> <p>“立憲主義”は帝国主義を止められなかった。敗戦に至るまで、メディアが機能しなかった背景にあったのは言論統制だけではない。権力者は自国に有利な情報をメディアに提供する。国民を動員するのが狙いだ。統制された大本営発表に国民が熱狂した。政治家は支持を狙って民衆に阿る。軍部が対外拡張に利用した。これを政治は追認した。メディアは敗戦に気づきながら、煽ることで売り上げを伸ばし、言論統制に乗り、最後まで敗戦の経緯を伝えなかった。国民の多くも勝利を信じ、事実を知ろうとしなかった。民衆は国内では政治に発言権を。世界には一等国の発言権を求めた。</p>
参考図書	<p>▼大森淳郎『ラジオと戦争』（NHK 放送文化研究所、2023年）。戦争中、国家に利用された旧・日本放送協会のラジオ放送の記録を、生存者の証言と当時の資料から検証した力作。</p> <p>▼鈴木健二『戦争と新聞（毎日新聞）』（筑摩書房、2015年文庫復刊。初刊は毎日新聞、1995年）</p> <p>▼朝日新聞取材班『新聞と戦争（上下）』（朝日新聞、2011年に文庫で復刊。初刊は2008年）            上記2点は戦時の新聞報道を検証し記録した。初刊出版当時と今日とでは言論状況が若干異なる。</p> <p>▼筒井清忠『天皇・コロナ・ポピュリズム』（筑摩書房、2022年）。指導者の誘導と民衆の間にある同調圧力、揺れるメディアの立ち位置といった状況で、戦前と今日との類似点を指摘する。</p>
履修上のポイント	<p>戦時の現象は今日の日本やロシアなどにも通じる。隣国との外交摩擦はどの国でも起こりうる。常に自国を正当化するからだ。民主主義の陥穽ともいえる。政治はポピュリズムに走る。民衆は弱腰の政治家やメディアを突き上げ、タカ派に期待する。そこにメディアの商業主義がはまる。</p>
レポート課題 1	<p>戦争当時のメディアと民衆の共犯関係はなぜ生まれたのか。新聞とラジオの競争、政治参加した民衆のリテラシー、日本のナショナリズムに言及して論じる。（5000字程度）  <b>留意点</b>：今日にも通じるジャーナリズムとメディアリテラシーの問題として捉える。</p>
レポート課題 2	<p>「基本教材1」での研究とレポート課題1を土台に、今日のメディアの問題点は戦時中とどこが似ているのかを指摘し、解決法を提言せよ。政治家、政府、メディア、経済界、私たち民衆の動きを念頭に置く。（5000字程度）  <b>留意点</b>：SNS時代の今日は、情報が拡散されるスピードがはるかに速い。権威主義が隆盛となり、本来、優れているはずの民主主義国家では感情が事実よりも偏重され、そこに阿る政治家が跋扈する。メディアを支える私たち民衆には何ができるかに留意する。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第 2 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 3 回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題 1 のテーマを考察する。
第 4 回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題 1 の関連参考図書を渉猟する。
第 5 回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第 6 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第 7 回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題 2 のテーマを考察する。
第 8 回	教材に基づく学修⑧を行い、レポート課題 1 と課題 2 の関連を考察する。
第 9 回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題 2 の関連参考図書を渉猟する。
第 10 回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題 2 の目次を作成する。
第 11 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 1 を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 2 を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の最終稿を提出する。

### 基本教材 2

第 1 回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第 2 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 3 回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題 1 のテーマを考察する。
第 4 回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題 1 の関連参考図書を渉猟する。
第 5 回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第 6 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第 7 回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題 2 のテーマを考察する。
第 8 回	教材に基づく学修⑧を行い、レポート課題 1 と課題 2 の関連を考察する。
第 9 回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題 2 の関連参考図書を渉猟する。
第 10 回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題 2 の目次を作成する。
第 11 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 1 を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 2 を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の最終稿を提出する。

科目名	日中比較社会論特講	担当者	タカツナ 高綱 ヒロフミ 博文	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講義では、上海における日本人コミュニティの歴史と日中関係史を主要なテーマとする。はじめに、本講義は前の上海日本人コミュニティの形成・発展・崩壊の歴史過程を中心に講述する。「国際都市」上海には、戦前最も多い時に約10万人の日本人が在留し、上海「共同租界」の一角には日本人コミュニティが形成されていたが、その歴史を明らかにする。次に、日本と中国の150年の歴史を世界史の文脈において考察し、両国の「敵対」・「依存」・「相互理解」の錯綜した関係を明らかにする。それによって、歴史的視点とより正確な歴史像把握の方法を身につけ、問題発見・解決力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>本講義は、近代上海における日本人の活動と意識を分析対象として取り上げ、日中関係史を歴史的に理解し、歴史学による実証的且つ批判的な研究方法論を学修する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>日中関係の歴史について現代的な視点から考察し、日中関係の新たな未来を創造することのできる人材を育成する。</p> <p>現代中国や上海に関する映像などを多く視聴し、今後の日本が中国といかに向き合うかについて考える。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自主研究) 教材及び参考文献の検索と熟読 (レポート作成) レポートの作成・レポート推敲 (ディベート) 掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス (受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動)</p> <p>学修時間：レポート課題1つにつき、凡そ45時間 (教材・参考文献の学修に20時間、レポート作成に10時間、レポートの推敲と最終稿の完成に15時間)</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)</li> <li>OER を視聴し、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：基本教材『「国際都市」上海のなかの日本人』序章から第4章を学修し、前期レポート課題については9月の学事暦に定める提出期日までに提出する。</p> <p>後期：基本教材『「国際都市」上海のなかの日本人』第5章から終章を学修し、後期レポート課題については学事暦に定める1月の提出期日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	教材理解度 15%, 論旨の一貫性 15%, 要約力 15%, 表現力 15%, 解釈の妥当性 15%
	観察記録	25%	ピア・レスポンスへの参加度, レポート添削への対応等
履修者への要望	<p>本講義は、近代上海における日本人の「帝国意識」とその行動を歴史的に検証するものであるが、レポートを作成する際には論文を作成するトレーニングであるとの自覚に基づき社会科学の方法論を積極的に修得しようとする熱意を持つことを要望する。</p> <p>なお、最終レポートは学事暦で定められた日まで提出して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 高綱博文 教材名： 『「国際都市」上海のなかの日本人』（研文出版，2009年） ISBN:978-4-87-636297-4 6,500円+税 本書の前半は、序章・第1章 上海日本人居留民社会，第2章 上海「在華紡」争議， 第3章 上海事変と上海日本人居留民，第4章 日中戦争期の「租界問題」
参考図書	榎本泰子『上海』（中公新書，2009年） ISBN:978-4-12-102030-7 800円+税
履修上のポイント	本書は、上海日本人居留民社会の初期から終焉に至る時期を考察の対象としている。特に日清戦争から第二次上海事変までの社会形成・発展期に確立した社会階層及び社会組織を具体的に解明し、それを基礎として上海日本人居留民の活動及び意識を検証したところに方法論的な特徴がある。これにより上海の日本人居留民社会が他の外国人コミュニティと比較して閉鎖的・排外的な特性を帯びた要因を析出し、「国際都市」上海における日本人コミュニティの位置付けが歴史的に解明されている。
レポート課題 1	近代上海における日本人居留民社会の形成と特徴について論述しなさい。 <b>留意点:</b> 本書(教材)の序章及び第1章を学習して、近代上海の歴史的な性格を明確にした上で、上海日本人居留民社会のあり方を検証すること。
レポート課題 2	上海日本人居留民の「帝国意識」に基づく中国民衆に対する行動について論述しなさい。 <b>留意点:</b> 本書(教材)の第2章及び第3章を学習して、上海日本人居留民の行動を具体的に検証すること。
基本教材 2	
教材の概要	著者名： 高綱博文 教材名： 『「国際都市」上海のなかの日本人』（研文出版，2009年） ISBN:978-4-87-636297-4 6,500円+税 本書の後半は、第5章 上海内山書店及び補論・第6章 上海日本人居留民の歴史意識の生成・第7章 最後の上海日本人居留民社会・第8章 上海日本人引揚者のノスタルジー・終章からなる。
参考図書	榎本泰子『上海』（中公新書，2009年） ISBN:978-4-12-102030-7 800円+税
履修上のポイント	本書は、上海日本人居留民社会の初期から終焉に至る時期を考察の対象としている。特に日清戦争から第二次上海事変までの社会形成・発展期に確立した社会階層及び社会組織を具体的に解明し、それを基礎として上海日本人居留民の活動及び意識を検証したところに方法論的な特徴がある。これにより上海の日本人居留民社会が他の外国人コミュニティと比較して閉鎖的・排外的な特性を帯びた要因を析出し、「国際都市」上海における日本人コミュニティの位置付けが歴史的に解明されている。
レポート課題 1	上海内山書店が日中文化交流に重要な役割を果たし、その書店経営が成功した理由について考察しなさい。 <b>留意点:</b> 第5章及び補論を学習し、上海日本人居留民社会における内山書店の特異性を明確にし、その内山完造の中国体験を検証すること。
レポート課題 2	敗戦後における上海日本人引揚者たちの意識のあり方について考察しなさい。 <b>留意点:</b> 第6章、第7章及び第8章を学習して、上海日本人引揚者の「歴史意識」・「帝国意識」・戦争責任認識などについて検証すること。

### 基本教材 1

第 1 回	教材及びシラバスを読み、学修課題と学修方法を理解する
第 2 回	教材の学修：序章
第 3 回	教材の学修：第 1 章
第 4 回	課題資料の検索と分析
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：第 2 章
第 10 回	教材の学修：第 3 章
第 11 回	課題資料の検索と分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材及びシラバスを読み、学修課題と学修方法を理解する
第 2 回	教材の学修：第 5 章
第 3 回	教材の学修：補論
第 4 回	課題資料の検索と分析
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：第 6 章
第 10 回	教材の学修：第 7 章・第 8 章
第 11 回	課題資料の検索と分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	日中比較社会論特講	担当者	マツシゲ ミツヒロ 松重 充浩	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義の前期では、日本・中国・韓国・台湾の歴史認識が通時的・共時的に如何に形成・展開されたのかの把握を通じて、現代東アジア地域の安定化において避けて通れない「歴史問題」をめぐる思索と対話の前提創出に必要な知見の獲得をテーマとする。</p> <p>また、後期では、近代中国東北地域の歴史と同地を巡る日中関係史を主要な対象としつつ、当該地域史・関係史を再構成する上で前提となる「問題の所在」と分析視角の把握を通じて、歴史像再構成に必要な方法論に関する知見の獲得をテーマとする。</p> <p>前後期の以上の講義によって通じて、問題発見能力、史料批判能力、論理的整合性を持った立論力の修得ができるようになります。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>本講義は、「歴史認識」と近代中国東北地域社会を分析対象として取り上げ、近代東アジア史再構成の前提となる歴史的知見と、歴史像構築に必要な史料批判と方法論を学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①知識・解釈：歴史認識、中国近代史、近代日中関係史の理解に必要な各種事象・用語の先行研究成果をふまえた正確な内容把握と、歴史的事実を整合的に再構成していく上で有用となる方法論の利用方法を理解する。</p> <p>②技能：「記録」から如何なる歴史的事実を摘出し得るのかという史料批判と、摘出した事実を如何に整合的に再構成していくかの立論の技能を高める。</p> <p>③態度：ある事象に対峙する際に、その実態を二項対立的に単純化して把握するのではなく、それが内包する、時空を跨ぐ多元的重層性と他事象との相互連関・相互変容の実態を追究する姿勢を持つようになる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材および必要に応じて参考図書を熟読しレポート(初稿)を作成する(自習・レポート作成、SBO①②【15時間/レポート1本】)</li> <li>教員によるコメント・指導に基づき初稿を修正する(自習・レポート作成、SBO①②【15時間/レポート1本】)</li> <li>インタラクティブな学習の場(ディスカッション)を通じて、最終レポートに到達する。また、必要に応じて、個別対面指導やゼミ形式での議論の機会を設ける(自主研究・レポート作成・ディベート、SBO②③④【15時間/レポート1本】)</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート作成過程における受講者からの質疑は、manaba folioの全受講者用の掲示板機能(スレッド)を使って応答し、その過程を受講者全員への公開により問題意識を共有する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>①前期：課題1・課題2ともに、初稿提出は令和5年6月末を目安とし、最終稿は学事暦で定められた日までとする。</p> <p>②後期：課題1・課題2ともに、初稿提出は令和5年12月中旬を目安とし、最終稿は学事暦で定められた日までとする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材理解度 20%、論旨の整合性 15%、要約力 15%、表現力 15%、解釈の妥当性 15%
	観察記録	20 %	提出期限の厳守、教材以外の文献・資料の活用状況、レポート添削への対応
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な学習遂行のため、履修登録をした院生は、速やかに担当教員(松重)に連絡すること。(matsushige.mitsuhiro@nihon-u.ac.jp)</li> <li>レポート作成に際して、参考文献(含、基本教材・参考図書)からの要約・引用を行う場合は、そのことを必ず註記で参照・引用頁数と共に明記すること。</li> <li>レポート作成は、前述した目標とは別に、修士論文作成に必要な書式等の基礎的技術修得のレッスンともなっている。また、自らの「問題の所在」と「課題の設定」をブラッシュアップするレッスンともなっており、この点の自覚を持って積極的な講義参加を求めたい。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 田中仁（編） 教材名： 『21世紀の東アジアと歴史問題：思索と対話のための政治史論』（法律文化社、2017年）ISBN:978-4-589-03840-1 3,300円（税込） 本書は、「第Ⅰ篇 20世紀中国政治の軌跡」「第Ⅱ篇アジアを『想像』する」「第Ⅲ篇 韓国・台湾・中国の歴史認識」の3部構成からなり、日本・中国・韓国・台湾における歴史認識の実態を追究しており、東アジアに通用する「歴史の語り」を構想する上で前提となる知見を提供する。
参考図書	寺田浩明『中国法制史』（東京大学出版会、2018年）ISBN:978-4-13-032387-1 税込4,620円。 本書は、「歴史問題」の背景にある「法」をめぐる日中間の認識構造を、その形成機序から解明すると同時に、その差異を如何に乗り越えるのかについての方向性も提示している研究成果。
履修上のポイント	まず、グローバル大国化した中国の前提となる中国近現代史の展開が如何なる「語り」を如何なる背景の中で導出されていたのかを確認し、同時に日本におけるアジア認識の特徴についても確認して下さい。次いで、韓国、台湾、中国の歴史認識が如何なる歴史的過程に規定されつつ形成されたのかを把握した上で、東アジアにおける歴史認識をめぐる共有認識の可能性に関する考察をおこなってください。
レポート課題 1	中華民国と中華人民共和国の歴史の「語り」が如何に展開し、それらが如何なる要因により規定されるものだったのかを論述せよ。 <b>留意点：</b> 中国近現代史が如何なる争点をもって展開したのかを理解した上で、歴史的事実が如何なる要因をつうじて「語り」へ転化していくのかを考察して欲しい。
レポート課題 2	日本、韓国、台湾、中国の歴史認識における特徴が如何なる背景で形成されたのかをふまえた上で、東アジア諸国間で共通の歴史認識を獲得する上での課題とその克服方法について論述せよ。 <b>留意点：</b> 東アジア諸国における歴史認識が、それぞれ如何なる他者認識を通じて形成されているのかについて留意しつつ、その相対化の可能性を考察して欲しい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 加藤聖文・田畑光永・松重充浩（編） 教材名： 『挑戦する満洲研究：地域・民族・時間』（一般社団法人国際善隣協会発行・東方書店〔販売〕、2015年）ISBN:978-4-497-21517-8 2,400円＋税 本書は、「第1部 研究の視点」「第2部 満洲国時代の検証」「第3部 周辺と満洲」の3部構成からなり、中国東北地域において歴史的に展開した諸主体、諸事情、諸地域の相互連関・相互変容の実相解明を通じて、当該研究における「問題の所在」と「分析視角と方法」に関する新たな研究水準を提供する。
参考図書	安富歩・深尾葉子編『「満洲」の成立：森林の消尽と近代空間の形成』（名古屋大学出版会、2009年）ISBN:978-4-8158-0623-1 7,400円＋税。 本書は、近代中国東北地域社会が、生態系を含む如何なる要因と構造により歴史的に形成されたかを明らかにした研究成果。
履修上のポイント	基礎教材2の読解にあたっては、先ず、日本、中国、ロシア、モンゴル、朝鮮における諸主体が中国東北地域や「満洲国」に対して如何なる施策や活動を展開していたのかを、分析対象が持つ歴史的意義をふまえつつ、理解してください。次いで、中国東北地域が如何なる歴史的継承性を内包していたのかを理解した上で、それが、前述した日本などの諸主体と如何なる相互連関を切り結ぶものだったのかと、その相互連関が如何なる相互変容を喚起し得るものだったのかについての考察をおこなってください。
レポート課題 1	「満洲国」に対する戦後日本人の「記憶」と「記録」のありようが、満洲国における日本人の活動・体験と如何なる連関をもって形成されているのかを論述せよ。 <b>留意点：</b> 満洲国における日本人の活動・体験の実態が如何なるもので、それが戦後日本社会において如何なる意味を持ったのかを考察して欲しい。
レポート課題 2	多民族居住空間であった中国東北地域において「満洲国」が持つ歴史的意義を検討する上で、重要と思われる視点やテーマを、その根拠共に論述せよ。 <b>留意点：</b> 中国人、モンゴル人、満洲人、朝鮮人、ロシア人、日本人などが、「満洲国」において如何なる相互連関・相互変容の可能性を持ち得るものだったのかに留意して考察して欲しい。

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」についての全体的な理解。
第 2 回	基本教材 1 の「総論」の学修。
第 3 回	基本教材 1 の「第 I 編」金子論文・水羽論文の学修。
第 4 回	基本教材 1 の「第 I 編」丸山論文・吉田論文の学修。
第 5 回	基本教材 1 の「第 II 編」瀧口論文・松重論文の学修。
第 6 回	基本教材 1 の「第 II 編」劉論文・高橋論文の学修。
第 7 回	基本教材 1 の「第 III 編」柳論文の学修。
第 8 回	基本教材 1 の「第 III 編」許論文の学修。
第 9 回	基本教材 1 の「第 III 編」江論文の学修。
第 10 回	基本教材 1 の全体的把握と残された課題の確認。
第 11 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿提出。
第 12 回	レポート課題 1 に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第 13 回	レポート課題 2 に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第 14 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 に関する全体的な把握を深める。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 に関する自らの考察結果を教員と共有し最終稿を提出する。

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」についての全体的な理解。
第 2 回	基本教材 2 の「第一部」松重論文・加藤論文の学修。
第 3 回	基本教材 2 の「第一部」塚瀬論文・菅野論文の学修。
第 4 回	基本教材 2 の「第二部」遠藤論文・白戸論文の学修。
第 5 回	基本教材 2 の「第二部」細谷論文・湯川論文の学修。
第 6 回	基本教材 2 の「第二部」大澤論文・佐藤論文の学修。
第 7 回	基本教材 2 の「第三部」鈴木論文の学修。
第 8 回	基本教材 2 の「第三部」青木論文の学修。
第 9 回	基本教材 2 の「第三部」麻田論文の学修。
第 10 回	基本教材 2 の全体的把握と残された課題の確認。
第 11 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿提出。
第 12 回	レポート課題 1 に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第 13 回	レポート課題 2 に関する教員からの指摘事項に基づき、初稿内容を再検討。
第 14 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 に関する全体的な把握を深める。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 に関する自らの考察結果を教員と共有し最終稿を提出する。

科目名	経済理論特講	担当者	ゴトウ 後藤 ヤスオ 康雄	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、現実の日本経済の課題を考察することで、現代経済学の柱であるミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の各視点を有機的に関連付けながら習得し、経済環境を客観的に把握するための以下の能力を得ることを目的とする。</p> <p>① 経済リソースの効率的配分を通じて、供給主体の生産性向上と経済全体の厚生増大を実現する経済学的な意義を理解し、現実の政策のあり方を考察する。</p> <p>② 集計レベルの経済をマクロ経済学の視点から理論的・実証的にとらえ、現実の日本経済や世界経済の動向を自ら考察することができる。</p> <p>③ 現実の経済データを統計的に解析する考え方の枠組みを習得することにより、ミクロ的、マクロ的な経済上の仮説を検証する手法を学ぶ。それにより、自らの問題意識を現実のデータに当てはめて分析ができる基礎的な能力を得る。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 現実の経済の理解に必要な理論と実証分析手法に関する専門的知識を習得し、自ら関心のある経済領域の説明に活用できるようになる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 学修者が経済理論・実証分析手法に関する知識を整理し、各知識の相互的な関連性を含め理解する (知識)</p> <p>② 現実の経済現象や政策課題を、学んだ知識に基づいて自ら考察することにより、より普遍的・包括的な枠組みに位置付けて理解できる技能への向上を図る (技能)</p> <p>③ いずれの経済現象にも一般的な要素と個別の要素があり、それらを峻別して理論的に理解できる部分を見極めるとともに、データに基づく客観的な判断を下せるようになることで、意思決定の前提となる経済環境に臆することなく、その動向を客観的に把握できるようになる (態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず基本となる教材や各種資料等を熟読する。その過程で、理解が困難な箇所や自らの問題意識を整理する。</li> <li>・その上で、レポートの素案を作成する。具体的には、①テーマの選定、②執筆の方向性 (着眼点、仮説等) の検討、③全体の骨子作成、をまとめる。</li> <li>・学修支援者が学術的・政策的な観点から専門知識に基づくコメントを与え、その内容を反映したファースト・ドラフトを作成する。</li> <li>・全体のプロセスを通じ、有機的な理解を促すために学修支援者と緊密な討議を行う場として、適切なタイミングでの添削指導を複数回にわたり行い、より充実したレポートの作成に導く。なお、作業過程を通じ、レポートに直接盛り込まれる情報だけでなく、必ずしも盛り込まれないがレポートの作成に資する関連資料を自らサーチして、読み込む。</li> <li>・学修時間については、レポートを1つ作成するごとに、参考文献・資料等の選定・読み込みに20時間以上、レポートの素案作成 (執筆の方向性の検討や骨子の作成等) に10時間以上、Manaba-Folioへのドラフト提出・改訂稿の作成の連絡・調整に15時間以上を目安とする。</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>教材および適宜指示・配布する講義資料、参考文献・資料類に基づく。教材の選定は基本的に教員が行うが、履修者の関心を取り入れる部分もあり得る。アクティブラーニングは予定していない。</p>		
スケジュール	<p>① 提出期限より前にManaba Folioを通じて、複数回、直接的なやりとりを行うことで理解を深めておくこと。また、初稿の提出は、学事暦に定められる最終的な提出期限の4週間前までに行っておくこと。</p> <p>② 課題への基本的な取り組み方が分からず、提出期限までの完成に不安がある場合、自ら抱え込んだままにせず、早い段階で大きなた問題意識とともにManaba Folioを通じて相談する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	① 教材の内容を十分に修得し、それらに基づいて執筆されているか ② 自らの考察を、読者に伝わるように書かれているか ③ 自主的に関心を持って情報を集め、活用して解答しているか
	観察記録	20%	① 最終提出までに複数回の指導を受けて作業が進められているか ② 最終提出4週間前に初稿を提出できているか (減点項目)
履修者への要望	<p>経済学は現実の問題意識、例えば政策課題や経営上の関心などをもって取り組むことが、深い理解に到達するために有効である。講義で直接取り扱う文献類のみならず、日常から幅広い情報源 (新聞、経済誌、各種文献等) に積極的に触れていることが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 大守 隆（編） 教材名： 『日本経済読本（第21版）』東洋経済新報社、2019年1月 ISBN:978-4492100349 2,640円（税込）
	金融、財政、景気、産業、雇用、世界経済などを幅広く捉え、現代の日本経済の課題を多面的に考察する。
参考図書	日経ビジネス編集部（編）『日経ビジネス 日本経済入門 第2版』日経ビジネス社、2019年12月、 ISBN:978-4-296-10500-7 2,750円（税込）
履修上のポイント	まず日本経済の弱み、強みは何かという問題意識を持って、現状を理解してもらいたい。その上で、それが当面の政策課題にどうつながるか、企業経営や家計マネジメントにどのような含意をもたらすか、という観点で考察を深めてもらうことを期待する。最終的には、今後の政策のあり方や経済全体のシナリオメイキングにつなげて欲しい。
レポート課題 1	教材1および参考図書の内容を参考にしつつ、わが国の金融政策の展望について自らの考えをまとめ、今後のあり方を述べてもらう。  <b>留意点：</b> 経済メカニズム（因果関係）に留意し、現実のデータを踏まえた議論を展開する。
レポート課題 2	教材1および参考図書の内容を参考にしつつ、日本の財政の先行きについて展望を述べ、財政再建の必要性と今後のあり方を考察し、考えをまとめる。  <b>留意点：</b> 経済そのもののメカニズムに加え、政治との相互作用など現実の経済に影響を及ぼす要素についても配慮する。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 森川正之（著） 教材名： 『生産性 誤解と真実』日本経済新聞出版社、2018年11月 ISBN:978-4532358037 3,000円+税
	著者名： 玄田有史（編） 教材名： 『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』慶応義塾大学出版会、2017年4月 ISBN:978-4766424072 2,200円（税込）
参考図書	宮川努（著）『生産性とは何か』筑摩書房、2018年11月 ISBN:978-4480071897 800円+税
履修上のポイント	日本経済のみならず、先進国の経済はほぼ軒並み低成長の傾向にある。こうした状況を企業と家計、生産性と賃金という相互に関連する視点から解きほぐし、まずは現状を経済理論の枠組みに基づいて理解する。その上で、政策的・マネジメント的に改善すべき点を検討し、その処方箋を自らの問題意識として考察してもらいたい。
レポート課題 1	教材2および参考図書の内容を参考にしつつ、わが国の経済成長力の先行きについて自らの考えをまとめ、今後の成長戦略の可能性を述べる。  <b>留意点：</b> 成長の3要素（労働力、資本、生産性）のいずれを高めるかを明示する。
レポート課題 2	教材2および参考図書の内容を参考にしつつ、労働市場の先行きを展望し、日本経済の成長力と関連付けながら今後のあり方について考察する。  <b>留意点：</b> 現在議論がなされている「働き方改革」の要素を織り込む。

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」に関する総合的な理解を達成し、教材に基づく学修①（日本経済の基本構造）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（歴史的経緯）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（企業の視点からの関心事項）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（家計の視点からの関心事項）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（金融政策の状況）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（財政の現状）
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（産業界と産業政策）
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑧（通商問題）
第 9 回	教材 1 に基づく学修⑨（地域政策）
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑩（経済政策全般の論点）
第 11 回	レポート課題 1・2 の最終検討（教員とのインタラクティブ討議等）
第 12 回	レポート課題 1・2 それぞれの初稿を完成し、教員に提出する
第 13 回	レポート課題 1 に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第 14 回	レポート課題 2 に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第 15 回	レポート課題 1・2 の内容を教員と共有し、了承を得た上で、最終稿を学事歴で定められた日までに提出する

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」に関する総合的な理解を達成し、教材に基づく学修①（生産性と成長会計）を行う
第 2 回	「学修の進め方」を教員との意見交換を通じて理解し、教材に基づく学修②（労働市場の基本構造）を行う
第 3 回	教材 2 に基づく学修③（技術革新と生産性）
第 4 回	教材 2 に基づく学修④（産業構造の変化）
第 5 回	教材 2 に基づく学修⑤（グローバル競争と生産性）
第 6 回	教材 2 に基づく学修⑥（資本蓄積の視点）
第 7 回	教材 2 に基づく学修⑦（賃金の決定）
第 8 回	教材 2 に基づく学修⑧（労働生産性と労働分配率）
第 9 回	教材 2 に基づく学修⑨（人的資本の向上）
第 10 回	教材 2 に基づく学修⑩（成長戦略の論点）
第 11 回	レポート課題 1・2 の最終検討（教員とのインタラクティブ討議等）
第 12 回	レポート課題 1・2 それぞれの初稿を完成し、教員に提出する
第 13 回	レポート課題 1 に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第 14 回	レポート課題 2 に対して教員からコメントを得て、それに踏まえた改訂を行う
第 15 回	レポート課題 1・2 の内容を教員と共有し、了承を得た上で、最終稿を学事歴で定められた日までに提出する

科目名	国際経済政策論特講	担当者	マエノ 前野 タカアキ 高章	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	近年の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進められると同時に、地域統合への活発な動きも見せている。特に1990年代以降、企業や産業のグローバルな経済活動に伴い部品・コンポーネントなどの中間財の貿易が拡大し、グローバル・バリュー・チェーン（GVCs）が広域に発展してきている。そのような近年の国際分業の特徴は市場のグローバル化、政治と政策、企業の行動など様々な視点から考察することが求められる。本講座は、国際分業構造の変化、企業の海外進出、地域経済の発展などの関連性に着目し、理論・実証・政策の面から国際経済政策を分析することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>最新理論、通商政策の論点、実証分析手法を理解し、仮説の提起・検証のプロセスを熟知することを到達目標とする。グローバル化での経済政策（特に、通商政策）が各国経済と地域経済に与える影響を把握するために、国際経済と経済政策の理論的考察の知識を習得し、国際経済政策問題の理論的アプローチの変遷を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。 生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。 通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。 国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>基本教材リーディング、研究文献サーベイとレポート作成を基本的な学修方法とするが、個別指導には対面指導とソーシャルメディアを利用するオンラインで行う。 レポート1本あたり、基本教材の熟読、初稿の作成、教員指導に基づく提出原稿の修正をあわせて45時間程度を要する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>基礎理論の指導や質疑応答はオンラインでのインタラクティブな指導を行う。</p>		
スケジュール	レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、提出期日は学事暦で定められた日までに提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、 <b>初稿期限（提出期限1か月前）</b> までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期に必要な質問をメールあるいは manaba folio などを使って連絡すること。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題レポートの内容を正しく理解しているかどうか、教材や参考図書を理解し、自分の意見を加えてまとめられているかどうかを基準とする。
	観察記録	20%	レポートの事前準備や最終提出までに複数回のレポート交換ができていないかなどといったレポート作成のプロセスを基準とする。
履修者への要望	基本教材を理解したうえで、その他の関連文献などから国際経済政策に関する知識を修得することを心がけてください。また、レポート作成に関しては添削や質疑応答に関する十分な時間を確保するようにしてください。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ジョン・マクラレン 著 柳瀬明彦 訳 教材名： International Trade 国際貿易—グローバル化と政策の経済分析(文真堂, 2020年) ISBN:978-4830951039 3,000円+税
	この教材は、まず国際経済に関する現実世界の政策問題を概説し、それらの主要な事実背景を提示することから、政策問題に関する課題を抽出している。その課題を理解するために必要な国際貿易理論を解説している。扱っているトピックは幅広く、グローバル化の原動力は何か、世界経済における政治と政策はどのような関係にあるか、さらに近年の重要なトピックまでも網羅している。この教材は、世界経済の現実と課題を理解・分析し、理論的アプローチを用いて望ましい国際経済政策の在り方を考察するための基本教材として位置づけられる。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若杉隆平『国際経済学(第3版)』(岩波書店, 2009年) ISBN:978-4000266994 2,900円+税</li> <li>・木村福成『国際経済学入門』(日本評論社, 2000年) ISBN:978-4535551282 3,200円+税</li> <li>・富浦英一『アウトソーシングの国際経済学』(日本評論社, 2014年) ISBN:978-4535569111 3,200円+税</li> <li>・清田耕三・神事直人『実証から学ぶ国際経済』(有斐閣, 2017年) ISBN:978-4641165175 2,800円+税</li> </ul>
履修上のポイント	教材および参考図書を熟読し、国際貿易の基本理論の理解を心がける。単に理論を解釈するのではなく、現実の世界経済の動きや事例を把握しながら貿易理論の変遷を理解すること。具体的には、伝統的貿易理論のリカード・モデル、新古典派のヘクシャー＝オリーン・モデル、そして、新貿易理論や新々貿易理論までの国際貿易理論の流れとそれらの特徴など、国際貿易理論の基本的考え方について把握するようにすること。
レポート課題 1	貿易理論の展開を考慮に入れ、近年の国際貿易はどのような特徴があるかを不完全競争理論の観点から説明せよ。また、貿易を行う国が国際分業を通じてどのようなメリットを得るのかについて論じなさい。 <b>留意点：</b> 上記の履修ポイントを押さえて、国際貿易の基礎的な理論の展開を論理的にまとめるようにすること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照すること。
レポート課題 2	教材の「最近の論点」の項目をもとに、自由貿易の推進は一国の経済成長にどのようなインパクトを与えるかを自分の意見を加えながら論じなさい。 <b>留意点：</b> 通商政策の理論、保護貿易の論拠を踏まえて、主体的な意見ではなく、具体例をあげながら論理的に結果を導くようにまとめること。また、具体例の出所なども記載すること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照すること。
基本教材 2	
教材の概要	著者名： 木村福成編著 教材名： 『これからの東アジア—保護主義の台頭とメガFTAs—』(文真堂, 2020年) ISBN:978-4830950988 2,500円+税
	この教材は、近年の世界経済における保護主義と自由貿易の動きから東アジア諸国の経済発展と主要な論点について考察している。東アジアの経済的な連結性の強化は今後の経済発展には欠かせないものであり、グローバリゼーションを効果的に活用することが求められている点について、国際貿易論、国際通商政策論、国際政治学の視点よりまとめられている。この教材は、国際経済政策の現状や課題、将来的な在り方について考察するための基本教材として位置づけられる。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馬田啓一・木村福成編著『通商戦略の論点—世界貿易の潮流を読む—』(文真堂, 2014年) ISBN:978-4830948220 2,600円+税</li> <li>・馬田啓一, 木村福成編著『国際経済の論点』(文真堂, 2012年) ISBN:978-4830947711 2,800円+税</li> <li>・渡邊頼純『GATT・WTO体制と日本—国際貿易の政治的構造』(北樹出版, 2012年) ISBN:978-4779303371 2,500円+税</li> <li>・長谷川聡哲編『アジア太平洋地域のメガ市場統合』(中央大学出版部, 2017年) ISBN:978-4805722633 2,600円+税</li> </ul>
履修上のポイント	基本教材1で学修する理論的考察を踏まえ、教材および参考図書を熟読し、日本の通商政策への取組みと、通商政策における近年の課題や将来的な方向性について理解することを心がけること。
レポート課題 1	貿易自由化を促進させた方がいいとされる理由とそうではないとする理由をそれぞれまとめ、自由貿易の在り方について自分の立場と意見を論じなさい。 <b>留意点：</b> 自由貿易の利益と不利益について理論的根拠を整理すること。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照し、出所もふまえてまとめること。
レポート課題 2	東アジアの地域経済協力についてその特徴をまとめ、国際経済活動をより円滑にするためには何が必要であるかについて論じなさい。 <b>留意点：</b> 理論的または政策的な視点からのアプローチから通商政策における論点をまとめ、日本や東アジアはどのような経済統合戦略を進めるべきかを考える。基本教材だけでは理解が不十分な場合は、参考図書や別の資料を参照し、出所もふまえてまとめること。

### 基本教材 1

第 1 回	「学べき課題」について全体的な理解をし、教材および参考図書に基づく学修を行う
第 2 回	教材および参考図書に基づく学修①（グローバル化の原動力：グローバル化の波，比較優位論）
第 3 回	教材および参考図書に基づく学修②（グローバル化の原動力：独占的競争の貿易モデル，新々貿易理論）
第 4 回	教材および参考図書に基づく学修③（グローバル化の原動力：寡占の貿易モデル）
第 5 回	教材および参考図書に基づく学修④（世界経済における政治と政策：特殊要素モデル，新古典派貿易理論）
第 6 回	教材および参考図書に基づく学修⑤（世界経済における政治と政策：関税政策，保護主義政策）
第 7 回	教材および参考図書に基づく学修⑥（世界経済における政治と政策：幼稚産業保護，貿易政策）
第 8 回	教材および参考図書に基づく学修⑦（最近の論点：オフショアリング）
第 9 回	教材および参考図書に基づく学修⑧（最近の論点：移民問題，環境問題）
第 10 回	教材および参考図書に基づく学修⑨（最近の論点：グローバル化と人権，経済統合）
第 11 回	教材および参考図書に基づく学修⑩（グローバル化のマクロ経済学的側面：貿易収支，外国為替）
第 12 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容を整理し，初稿を提出する。
第 13 回	レポート課題 1 に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第 14 回	レポート課題 2 に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを整理し，最終レポートを提出する。

### 基本教材 2

第 1 回	「学べき課題」について全体的な理解をし，教材および参考図書に基づく学修を行う
第 2 回	教材 1 で国際経済理論の再確認をし，戦後から現在に至る世界の地域経済協力の変遷について整理する。
第 3 回	教材および参考図書に基づく学修①（アジア太平洋の地域経済協力の現状：経済連携の潮流と日本の通商戦略，TPP と RCEP についてそれぞれ考察する）
第 4 回	教材および参考図書に基づく学修②（国際貿易の利益：グローバル化の推進と保護主義の台頭についてその根拠となる理論を考察する）
第 5 回	教材および参考図書に基づく学修③（国際通商秩序の危機：WTO と FTA/EPA の役割について考察する）
第 6 回	教材および参考図書に基づく学修④（経済統合と安全保障：自由貿易と安全保障の関係性について考察する）
第 7 回	教材および参考図書に基づく学修⑤（地域経済統合：東アジアにおける地域経済統合の深化と経済的影響について考察する）
第 8 回	教材および参考図書に基づく学修⑥（国際制度と企業行動：通商政策が企業の行動にもたらす影響について考察する）
第 9 回	教材および参考図書に基づく学修⑦（ASEAN の経済的連結：東アジア経済における ASEAN 地域の役割と課題について考察する）
第 10 回	教材および参考図書に基づく学修⑧（経済統合戦略：経済統合のあるべき姿をふまえて地域間の経済協定の取り組みと課題について考察する）
第 11 回	教材および参考図書に基づく学修⑨（COVID-19 の国際的影響：COVID-19 の東アジアにおける国際分業への影響について考察する）
第 12 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容を整理し，初稿を提出する。
第 13 回	レポート課題 1 に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第 14 回	レポート課題 2 に関する指摘事項について考察および検討を行う。
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを整理し，最終レポートを提出する。

科目名	国際経済政策論特講	担当者	リク 陸 ユウケン 亦 群	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	近年の世界経済では、グローバルな貿易自由化が進められると同時に、地域統合への活発な動きも見せている。特に1990年代以降、企業や産業のグローバルな経済活動に伴い部品・コンポーネントなどの中間財の貿易が拡大し、グローバル・バリュー・チェーン(GVCs)が広域に発展してきている。そのような近年の国際分業の特徴は市場のグローバル化、政治と政策、企業の行動など様々な視点から考察することが求められる。本講座は、国際分業構造の変化、企業の海外進出、地域経済の発展などの関連性に着目し、理論・実証・政策の面から国際経済政策を分析することを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>グローバル化時代下の経済政策が各国経済と地域経済に与える影響を把握するために、国際経済と経済政策の理論的考察の知識および実証分析手法を習得し、国際経済政策問題の理論的アプローチの変遷を理解し、仮説の提起・検証のプロセスを熟知することを到達目標とする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>ミクロ経済の基礎理論と国際貿易理論を応用することができる。</p> <p>生産活動のグローバル化と国際分業構造の変化を説明することができる。</p> <p>経済政策と経済開発問題の推移を説明することができる。</p> <p>通商政策と地域経済発展の関連性について把握することができる。</p> <p>国際経済政策と地域経済統合との関わりについて分析することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 基本教材リーディング 学修時間：12時間</p> <p>(自主研究) 研究論文サーベイ、参考文献の検索 学修時間：12時間</p> <p>(ディベート) オンラインディスカッション 学修時間：12時間</p> <p>(研究課題報告などの協働学習) ピア・レスポンス 学修時間：12時間</p> <p>(レポート作成) レポート作成及びレポート推敲 学修時間：12時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>基礎理論の指導や質疑応答はオンラインディスカッションを行い、研究課題報告についてはグループディスカッションを行う。</p>		
スケジュール	レポート提出には前期・後期ごとに期限が設けられており、提出期日は学事暦で定められた日までに提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限（提出期限1か月前）までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期にメールなどを使って連絡すること。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題レポートの内容を正しく理解しているかどうか、教材や参考図書を理解し、自分の意見を加えてまとめられているかどうかを基準とする。
	観察記録	20%	レポートの事前準備や最終提出までに複数回のレポート交換ができていないかなどといったレポート作成のプロセスを基準とする。
履修者への要望	基本教材を熟読し理解したうえで、上記列挙の文献に限定せず、本屋や図書館で関連文献を入手し、インターネットなどでも検索し、積極的な知識欲を持ってほしい。 レポート執筆にあたっては、自説と他説をはっきり区別し、レポート形式を守って客観的に論述し、文末に参考文献リストを付けるようにして下さい。参考文献についても、推薦参考図書に限定せず、本屋や図書館での関連文献の入手、インターネットでの検索も活用してほしい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 古沢泰治 教材名： 『国際経済学入門』（新世社，2022年）ISBN：978-4-88384-348-0 2,550円+税</p> <p>本教材は、まず国際経済に関するデータの把握から入り、国際経済学の基礎理論を概説、そのうえで不完全競争下での新貿易理論を網羅し、完全競争下の貿易政策や不完全競争下の戦略的貿易政策を解説した。さらに企業生産性の差異を国際貿易に取り込んだ「新々貿易理論」を紹介し、それをベースに直接投資、アウトソーシングや技術移転などの国際貿易の新たな側面を取り上げている。本書は、理論的アプローチを踏まえて望ましい国際経済政策の在り方を考察するための基本教材として位置づけられる。</p>
参考図書	<p>井尻直彦・羽田翔・前野高章・陸亦群『国際経済学入門』（文眞堂，2023年）ISBN:978-4-8309-5208-1 2,200円+税 若杉隆平『国際経済学(第3版)』（岩波書店，2009年）ISBN:978-4-00-026699-4 2,800円+税 清田耕三・神事直人『実証から学ぶ国際経済』（有斐閣，2017年）ISBN:978-4641165175 2,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>教材および参考書を熟読して、国際貿易の基本モデルである伝統理論のリカード・モデル、新古典派のヘクシャー＝オリーン・モデル、製品多様性、産業内貿易や規模の経済といった新国際貿易理論をマスターし、企業の異質性を踏まえて、基礎理論をしっかりと把握してください。</p>
レポート課題 1	<p>現在の国際貿易はどのようなパターンで行われているのか、それぞれの国が国際分業を通じてどのようなメリットを得たのかについて論じなさい。 <b>留意点：</b>上記の履修ポイントを押さえて、国際経済学の基礎的な理論ベースを踏まえて論理的に考察して客観的に結果をまとめるようにしてください。</p>
レポート課題 2	<p>自由貿易の推進は一国の経済成長にどのようなインパクトを与えるかを論じなさい。 <b>留意点：</b>通商政策の理論、保護貿易の論拠を踏まえて、主観的な意見ではなく、具体例を挙げながら論理的に結果を導くようにまとめてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 西口清勝 教材名： 『現代東アジア経済の展開』（青木書店，2004年）ISBN:978-4-25-020431-9 3,200円+税</p> <p>本教材は、開発経済の分析視点から、東アジア経済の「激動の10年」を「奇跡」の経済発展から危機への転落として捉え、実証と理論の両面から検討し、地域協力という最新の動向を踏まえ東アジア共同体の可能性を考察したものである。本書全体は8章から構成されている。第1章では、90年代以降の開発経済学におけるパラダイム転換に触れ、世界銀行が提起した新たなアプローチである「市場補完アプローチ」に着目している。第2章から第5章においては、「奇跡」から危機への展開とアジア通貨危機を歴史の連続性から、すなわち危機を奇跡からの連続性で要因を究明し分析が行なわれている。第6章から第8章では、東アジアにおける地域協力の問題を取り扱い、最後に東アジア共同体の可能性を展望し、日本が果たすべき役割についての著者の見解が示されている。</p>
参考図書	<p>陸亦群・前野高章・羽田翔・安田知絵『現代開発経済入門』（文眞堂，2020年）ISBN:978-4-83-095082-7 2,300円+税 馬田啓一 木村福成『検証・東アジアの地域主義と日本』（文眞堂，2008年）ISBN:978-4-83-094614-1 2,800円+税 トラン・ヴァン・トゥ 松本邦愛編『中国—ASEANのFTAと東アジア経済』（文眞堂，2007年）ISBN:978-4-83-094606-6 2,600円+税</p>
履修上のポイント	<p>本教材は「奇跡」、「危機」および「地域協力」のキーワードに沿って、三つの部分から構成されている。初心者には多少難解かと思われるところがあるが、各章において東アジア経済および地域経済協力関連の先行研究の理論的考察とリファレンスを豊富に取り上げているので、必要に応じて参照し、参考図書と合わせて読まれることが望ましい。</p>
レポート課題 1	<p>東アジアの経験を踏まえて開発戦略の展開における市場と政府について論じなさい。 <b>留意点：</b>開発戦略の展開は、経済開発の歴史的推移および開発理論の形成との関連性が重要である。マーケットフレンドリーの考え方および基本教材2の論点をきちんと整理し、それを吟味したうえで、自分の意見をまとめるようにしてください。</p>
レポート課題 2	<p>地域経済統合に向けた流れと東アジア新興国の国際経済政策選択について論じなさい。 <b>留意点：</b>東アジアにおける地域経済協力の歴史的推移をまとめることに止まらず、近年のFTA/EPA交渉、ASEAN+3、ASEAN+6、TPP交渉ならびにFTAAPなどの動向を踏まえて、基本教材の論点・見解に拘らず、国際経済政策のあり方について議論してほしい。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	基本教材の学修：「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材および参考図書に基づく学修を行う
第 2 回	基本教材の学修：リカード・モデルと比較優位、分業の利益
第 3 回	基本教材の学修：H=O モデルを始めとする新古典派貿易理論と要素賦存、要素価格均等
第 4 回	課題論文の検索と分析
第 5 回	基本教材の学修：関税と保護貿易、輸出補助金等
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成、ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材の学修：消費の多様性、独占的競争モデル、新貿易理論
第 10 回	基本教材も学修：企業の異質性、オフショアリングとメリッツ・モデル
第 11 回	課題論文の検索と分析
第 12 回	基本教材も学修：世界経済における貿易の自由化と経済統合
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成、ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	基本教材の学修：「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材および参考図書に基づく学修を行う
第 2 回	基本教材の学修：開発経済学におけるパラダイムシフト、市場補完アプローチ
第 3 回	基本教材の学修：アジアの「奇跡」からアジア通過・経済危機への展開
第 4 回	課題論文の検索と分析
第 5 回	基本教材の学修：アジア通貨・経済危機の歴史的連続性とアジア発展のための新戦略
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成、ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材の学修：アジアの経済発展、アメリカの東アジア戦略
第 10 回	基本教材も学修：オープンリージョナリズム、域内経済協力の新展開
第 11 回	課題論文の検索と分析
第 12 回	基本教材も学修：東アジア共同体の可能性と日本が果たすべき役割
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成、ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	グローバル 経営戦略論特講	担当者	クロサワ 黒澤 マサシ 壮史	期間	通年	単位数	4
-----	------------------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、国際化の進んだ現代社会において普遍的な経営戦略についての理解を深めることを目的とする。また、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 団体の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 会社経営において適切な意思決定を行うために、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することを一般目標とする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 企業を巡る経営戦略論はもとより、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。</p>		
学修方略 (方法) (LS) と学修時間	<p>【学修方略 (LS)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本図書・教材の十分な理解、参考文献の検索と適切な理解、レポート作成、受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。</li> </ul> <p>【学修時間】</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材の学修：15時間</li> <li>レポート執筆：10時間</li> <li>レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導等を含む）：20時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio（変更の可能性があります）を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。</li> <li>manaba folio（変更の可能性があります）の掲示板や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>図書館、インターネット等で自ら論文検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; ・レポート課題1 初稿締切期限：6月末 ★最終稿提出期限=前期締切日 ・レポート課題2 初稿締切期限：8月末 ★最終稿提出期限=前期締切日</p> <p>&lt;後期&gt; ・レポート課題1 初稿締切期限：10月末 ★最終稿提出期限=後期締切日 ・レポート課題2 初稿締切期限：12月末 ★最終稿提出期限=後期締切日</p> <p>※ 前期後期とも最終稿の提出は学事暦に従う</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容を十分理解・修得し、レポートが作成されているかを基準とする（論旨明確さ、独創性、文章表現の妥当性、引用の適切性等）。
	平常評価	20%	初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>初稿の提出は締め切りを遵守すること。</li> <li>経営・経済コースの経営部門のコア5科目の1つであり、他の科目（現代ファイナンス論特講、マーケティング論特講、アカウティング論特講、人材マネジメント論特講）と合わせて履修することが望ましい。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： マイケル・A・ヒット他，高木俊雄・星和樹監訳            教材名： [第3版] 『戦略経営論 競争力とグローバルイノベーション』            (センゲージラーニング社，2021年)            ISBN:978-477594019-8 3,800円+税</p> <p>前期は経営戦略の概念を十分に理解することに重点をおき，経営戦略における基本的な分析ツールを使いこなせることを目標とする。その後，グローバル企業の戦略につき，事例に基づいた「成功要因」を考える。</p>
参考図書	<p>清水勝彦『戦略の原点』（ダイヤモンド社，2007年）※新品はkindle版のみ            ISBN:978-4-47-837459-7 1,800円+税            ジェイ B. バーニー『企業戦略論（上）』（ダイヤモンド社，2003年）            ISBN:978-4-47-837452-8 2,400円+税            ジェイ B. バーニー『企業戦略論（中）』（ダイヤモンド社，2003年）            ISBN:978-4-47-837453-5 2,400円+税            ジェイ B. バーニー『企業戦略論（下）』（ダイヤモンド社，2003年）            ISBN:978-4-47-837454-2 2,400円+税            チャン・キム，レネ・モボルニュ [新版] 『ブルー・オーシャン戦略』            (ダイヤモンド社，2015年) ISBN:978-4-47-806513-6 2,000円+税</p>
履修上のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営戦略における全社戦略，事業戦略，実践として戦略的経営を理解する。</li> <li>2. グローバル時間の成功戦略を解明するため，どのような戦略が必要となるのか，考察する。</li> <li>3. 基本図書の十分な理解は前提となるものの，当初理解が困難などときには，比較的平易な参考図書（『戦略の原点』など）を利用することにより，経営理論等の理解を早期に図ること。</li> <li>4. 参考図書のバーニー教授の「資源アプローチ」，W. チャン教授らの「ブルー・オーシャン戦略」は応用編として，理解を深めること。</li> </ol>
レポート課題 1	<p>テキスト第1部（1～3章）を基に，自身が選んだ競争優位を構築している日本企業の分析を行なって下さい。</p> <p>※1：テキストで取り上げられている概念を多面的に用いながら考察すること、            ※2：特別な理由がない限り公開情報の多い上場企業を選定すること。</p>
レポート課題 2	<p>テキスト第2部（4～9章）を基に，自身が選んだ日本企業に求められる戦略立案を行なって下さい。</p> <p>※1：テキストで取り上げられている概念を多面的に用いながら考察すること、            ※2：特別な理由がない限り公開情報の多い上場企業を選定すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： ミンツバーグ他 『戦略サファリ（第二版）』            教材名： 東洋経済新報社，2012年、            ISBN: 978-449253319-2 4,620円（税込）</p> <p>後期は経営戦略論の理論的な知見を深めることを目的として，戦略サファリを教材している。</p>
参考図書	<p>マイケル・E・ポーター『競争戦略論1』（ダイヤモンド社，2018年）2,750円+税            ジェイ B. バーニー『企業戦略論（上）』（ダイヤモンド社，2003年）2,400円+税            ジェイ B. バーニー『企業戦略論（中）』（ダイヤモンド社，2003年）2,400円+税            ジェイ B. バーニー『企業戦略論（下）』（ダイヤモンド社，2003年）2,400円+税</p>
履修上のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営戦略論の学説や理論的な視点で考察することが後期の目的です</li> <li>2. 上記の目的により，難解に感じる方もいるかもしれませんが，適宜質問など受けながら進めていきます。</li> </ol>
レポート課題 1	<p>実際に存在する企業を事例として，テキストで紹介されている学派（スクール）のうち1つ以上の学派を選んだうえで，当該企業の戦略上の特性を論じること。</p>
レポート課題 2	<p>自身が理想とする学派を1つ以上選んで，その理由を論じなさい。その際，テキスト著者の見解に対して賛同するか批判的な立場を取るか明記すること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（第 1 章～）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（2 章～）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（3 章～）
第 4 回	教材に基づく学修④（4 章～）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（5 章～）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（6 章～）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（7 章～）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（8 章～）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（9 章～）
第 10 回	レポート課題 1・2 の準備
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（1 章）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（2 章）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（3 章～4 章）
第 4 回	教材に基づく学修④（5 章～6 章）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（7 章～8 章）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（9 章～10 章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（11 章～12 章）
第 8 回	レポート課題の準備 1
第 9 回	レポート課題の準備 2
第 10 回	レポート課題の準備 3
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	現代ファイナンス論特講	担当者	タテミヤ 建宮 ツトム 努	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、企業活動の意志決定に寄与するファイナンスの知識を習得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>① ファイナンス論を身につけることで、他の経営コア科目を理解するために必要な、企業の今と未来の財務的意思決定の力が身に着けられ、より深く立体的に理解することができる。</p> <p>② 不確実な未来を予測するための理論モデルを学ぶことで、日常発信される経済、経営、社会ニュースの本質を考えることができ、自らの次の行動の意志決定に活かせる</p> <p>低成長時代の企業のファイナンス戦略に関する考え方を、従来型の視点やニュースの文言にとらわれず、批判的な視点を持って自ら考えられるようになる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 企業経営に必要な、資金の調達・運用に不可欠なファイナンスに関する専門性を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 学習者がファイナンスに関する知識を列挙し、関連付けて理解する (知識)</p> <p>② 学んだ知識を活かして具体的な企業の事例を測定し、対象企業に対する自らの考えを形成できる。また自らの仕事の意思決定にも活用できる (技能)</p> <p>③ 日々受け取る経済・経営情報から、ファイナンス的な視点をベースにしたコミュニケーションができ、経営の未来の予測に対してより立体的な議論に参加できる (態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>ファイナンスの基本知識は、内容を理解し、具体的な考察を自らやってみることで身につくものであるため、まずざっと全体像を把握したのち、要所については副教材も利用して電卓、エクセルなどで計算過程をたどることが効果的である。基本をしっかり身に付けるだけの準備を行うことを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まず、基本教材を熟読したうえで、副教材も参考にしつつ、レポートドラフトを作成する (自習・レポート作成, SBO①②) 【15時間/レポート1本】</li> <li>学修支援者による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき、初稿を作成する (自習・レポート作成, SBO①②) 【15時間/レポート1本】</li> <li>最終レポートに到達するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し、更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで、より深い理解に到達する (自主研究・レポート作成・ディベート, SBO②③④) 【15時間/レポート1本】</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場 (ディスカッション) となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的にレポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>初稿は提出期限一か月前まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出すること。提出期限までに何度かmanaba folioを使って、考え方を確認・交換することで理解を深める必要がある。最低でも前後期とも課題提出期限1か月前までには初稿を提出すること。受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、初稿期限(提出期限1か月前)までに課題提出することが難しいと考えた場合には、早期に必要な質問をメールあるいはmanaba folioを使って連絡すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	① 教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③ 教材以外の資料を活用して解答しているか (加点項目)
	観察記録	20%	① 最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ② 途中稿提出期限 (最終提出1か月前) が守れているか (減点項目)
履修者への要望	<p>グローバル経営 (MBA) 部門のコア5科目の一つであり、他の科目 (グローバル経営戦略論特講、ファイナンシャルアカウンティング論特講、マーケティング論特講、人材マネジメント論特講) と合わせて履修することが望ましい。</p> <p>履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員 (建宮) に連絡すること</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： グロービス経営大学院 教材名： 『[新版]グロービスMBAファイナンス』 (ダイヤモンド社、2009年) ISBN-13: 978-4478008768 3,080円
	前期は、基本的なファイナンス理論の基本を理解し、その思考方法を身につけることを目指した。過去の結果である会計と異なり、未来を予測するための意思決定ツールであるファイナンスの基本を身につけることで、日々得られる情報から得られる気づきをより高度化する。
参考図書	石野雄一『増補改訂版道具としてのファイナンス』（日本実業出版社、2022年）2,750円
履修上のポイント	前期は、ファイナンスの基本的な視点、考え方を身につけ、具体的な日々の経営的な課題解決、ディスカッション等の中で活用できる下地をつくることを目指した。基本教材1の例題、事例などに取り組むとともに、参考図書で示した書籍にはダウンロード可能な事例を解説するためのエクセルシートが付録で提供されているので、より効率的な理解に活用して欲しい。
レポート課題 1	事業の経済性を評価するための基本的な概念である「キャッシュフロー」について具体的な算出方法を説明するとともに、キャッシュフローの算出においてはなぜ埋没コスト（サンクコスト）をカウントしないのかについて、テキスト内事例および他の具体的な事例を用いて説明せよ。 <b>留意点：</b> 基本教材1の第二章を参考に、ファイナンスの基本的な視点を身につける。
レポート課題 2	資本コストの定義式であるWACC（加重平均資本コスト）および、その要素である株式への期待リターンを導くCAPM（資本資産価格モデル）について説明せよ。 <b>留意点：</b> 基本教材1の第五、六章を参考に、ファイナンスの基本的な考え方を身につける。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 朝倉佑介 教材名： 『ファイナンス思考－日本を蝕む病と、再生の戦略論』（ダイヤモンド社、2018年） ISBN-13: 978-4478103746 1,980円
	前期に習得したファイナンスの基本的な考え方をもとに、ファイナンス思考を活かして成長を果たした企業事例を学びつつ、今後の立体的な経営ディスカッションの中で活かせる視点を身につける。教材の視点はやや一面的な部分があるため、批判的な視点も維持しつつ学習をすすめることが望ましい。
参考図書	田淵直也『ファイナンス理論全史－儲けの法則と相場の本質』（ダイヤモンド社、2017年） ISBN-13: 978-4478103753 1,980円
履修上のポイント	基本教材2は前期に学んだファイナンス理論の基本、考え方が具体的に活かされている企業事例を学ぶことで、新しい企業経営の方向性を学ぶとともに、従来型の会計重視の経営意思決定が持つ問題とそれを取り巻く環境の問題などを知るためのきっかけである。学習者は本書にとどまることなく、さらに具体的な事例を探索し、考察することが望ましい。参考図書は、アカデミックな論を展開する場合に不可欠な歴史的な視点を補足するために示した。
レポート課題 1	基本教材2第三章「ファイナンス思考を活かした経営」で示される企業の中から1社以上を選び、どのような企業行動にファイナンス的な思考が活かされているのかを整理し、従来の会計結果重視型の思考と比較しつつあなたの考えを論述しなさい。 <b>留意点：</b> 基本教材2の考え方をうのみにせず、批判的な視点も含めて論述することが望ましい。
レポート課題 2	前期、後期を通じて得られたファイナンスの基本的な知識、視点を具体的に活用できる状況を検討し、身に付けた知識、視点からどのような効果が期待できるのかについて論じなさい。 <b>留意点：</b> ファイナンスの知識、視点は、日々の意思決定活動に活かしてこそ身に付くものです。まず小さな活かせる状況を具体的に想定し、得られた知識、視点を具体的に活用できるよう想定してください。

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材 1 に基づく学修①（ファイナンスの基本）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材 1 に基づく学修②（キャッシュフロー 1）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（キャッシュフロー 2）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（現在価値）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（リスク）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（リスクとリターン）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（資本コスト）
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑧（バリュエーション）
第 9 回	教材 1 に基づく学修⑨（企業価値）
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑩（財務政策）
第 11 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材 2 に基づく学修①（PL 脳の問題）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材 2 に基づく学修②（ファイナンス思考－1）を行う
第 3 回	教材 2 に基づく学修③（ファイナンス思考－2）
第 4 回	教材 2 に基づく学修④（ファイナンス思考を活かした経営－1）
第 5 回	教材 2 に基づく学修⑤（ファイナンス思考を活かした経営－2）
第 6 回	教材 2 に基づく学修⑥（ファイナンス思考を活かした経営－3）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材 2 に基づく学修⑦（ファイナンス思考を活かした経営－4）
第 8 回	教材 2 に基づく学修⑧（PL 脳症例－1）
第 9 回	教材 2 に基づく学修⑨（PL 脳症例－2）
第 10 回	教材 2 に基づく学修⑩（なぜ PL 脳に陥るのか）
第 11 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	アカウンティング論特講	担当者	丸森 カズヒロ 丸 森 一 寛	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座では、企業などの組織の経営管理を構成する会計管理を適切に行うために必要なリテラシーを習得し、以下の能力を身に着ける。 論理的・批判的思考力、問題発見・解決力、コミュニケーション力、省察力。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>外部報告目的の財務諸表のメカニズムとその分析方法を理解して企業活動を適切に表現並びに分析できる企業会計の知識・技能・マナーと、会計情報を中心とした定量情報を利用した適切な意思決定とマネジメント・コントロールを行うために必要な知識・技能・マナーを修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>i. 企業会計における認識・測定ルールを説明できる。(知識・想起)</p> <p>ii. 企業活動と財務諸表の関係を説明できる。(知識・解釈)</p> <p>iii. 財務諸表から企業活動を測定並びに評価できる。(技能・コントロール)</p> <p>iv. 企業活動を適切に表現するために一般に公正妥当な会計ルールに配慮できる。(態度・反応)</p> <p>v. 経済性分析による意思決定のメカニズムとその利用方法を説明できる。(知識・想起)</p> <p>vi. ケースにおいて上記のメカニズムの当てはめを行うことができる。(知識・解釈)</p> <p>vii. ケースを実際に分析し、適切な意思決定を行うことができる。(技能・コントロール)</p> <p>iv. 上記分析と意思決定の限界を理解し、定性情報にも配慮することができる。(態度・反応)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>① 基本教材の学修目的、例題、まとめ、章末の演習問題、等を活用しながら、各回のテーマについて理解を深める。(自習)【SBO i. &amp; ii.】【27時間/レポート1本】</p> <p>② リポート課題に沿った事例及びデータを収集し分析する。(自主研究)【SBO ii.】【3時間/レポート1本】</p> <p>③ リポートの草案を作成する。(レポート作成)【SBO ii. &amp; iii. &amp; iv.】【3時間/レポート1本】</p> <p>④ manaba folio での掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生とのディスカッションによりレポートの最終版を完成させる。(ディベート)【SBO ii. &amp; iii. &amp; iv】【12時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・manaba folio の掲示板を利用し、受講生同士の協働学修を行う(課題図書等に関する受講生同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。</li> <li>・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前半は基本教材1を学修範囲とする。6月末までに第9章までの学修を終了させて「基本教材1」のレポート課題1を7月15日までに、また7月末までに第12章までの学修を終了させて「基本教材1」のレポート課題2を8月15日までに、それぞれ初稿を提出していただき、学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p> <p>後半は基本教材2を学修範囲とする。10月末までに第7章までの学修を終了させて「基本教材2」のレポート課題1を11月15日までに、また11月末までに第10章までの学修を終了させて「基本教材2」のレポート課題2を12月10日までに、それぞれ初稿を提出していただき、学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70 %	<p>課題に関係する重要な論点をおさえているか。</p> <p>結論が明確であるか。</p> <p>結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。</p> <p>引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。</p>
	観察記録	30 %	<p>活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。</p> <p>レポートの提出期限を厳守したか。</p> <p>受講生同士及び教員の指摘事項を真摯に検討したか。</p> <p>明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。</p>
履修者への要望	<p>会計関係の知識の有無は問いませんが、マーケティング、経営戦略の基本的な知識を習得しているか、あるいは当該科目を履修中であることが望ましいと考えます。“計画的かつ到達目標において示した時間を投入して学修できること”が履修要件と考えています。年度初めにたてた計画に従い、学修目標毎の問題について必ず回答を準備してから解答と照らし合わせ、疑問点は躊躇することなく教員にメールで質問し、各テーマの学修目標を着実にクリアしてください。また、回答の準備、質問あるいはレポートにおいては「限られた情報を前提に常に意思決定を行う。」という姿勢で臨んでください。なお、履修希望者になるべく早く学修をスタートさせていただくために、<b>履修登録を行うと同時に担当教員 (marumori.kazuhiro@nihon-u.ac.jp) にその旨メールにて連絡</b>をお願いいたします。勿論、その後の履修取り消し期間内において取り消しをすることは構いません。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：桜井久勝・須田一幸 教材名：『財務会計・入門 第15版』（有斐閣、2022年） ISBN: 978-4532134983 1,800円＋税
	最新の理論動向と手法にも触れながら、企業が営む主要な活動に焦点を当てつつ、財務会計の基本的な考え方とプロセスが理解できるよう工夫された魅力的な最新テキストである。
参考図書	無し。別途副教材を配布する。
履修上のポイント	「企業の具体的な活動（設立と資金調達、仕入・生産、販売、設備投資と研究開発、資金の調達と運用、国際、税金と配当）が財務諸表にどう表現されるか」を理解する。その際「損益とキャッシュ・フローは一致しない。」を常に意識することが重要である。さらに、財務諸表から企業活動を測定評価する基本的な手法であるファンダメンタル分析の方法とその限界を理解する。章毎のサマリー、演習問題などを活用して学修を進めてほしい。
レポート課題 1	「損益とキャッシュ・フローは一致しない。」という命題について、1)具体的に企業のどの活動によってそうなるのか、2)なぜこの命題が重要なのか、3.) 1)及び 2)から導き出される経営管理上の留意点は何か、という観点から説明してください。 <b>留意点:</b> 履修上のポイントを意識しながら第1章から第9章までを丹念に復習して臨んでください。
レポート課題 2	ケース「C社」を分析し、投資対象としてのC社の評価とその理由を論じてください。 <b>留意点:</b> ファンダメンタル分析を行った上で、これまでの学修で得た知識を最大限に活用してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：千住鎮雄、伏見多美雄 教材名：『新版 経済性工学の基礎』（日本能率協会マネジメントセンター、1994年） ISBN:4-8207-1036-2 3,107円＋税
	採算性評価に基づく意思決定に関する諸理論を統合整理し、豊富な事例により自学自習ができるように工夫されており、国内で評価の高いMBAコースの基本テキストとして採用されている。
参考図書	無し。必要に応じて副教材を配布する。
履修上のポイント	①「原価情報と意思決定」、②「投資の意思決定（短期）」、という各テーマについてその考え方を理解することにより、実務において「代替案の評価と選択」及び「投資案の評価と選択」ができるようになることを目指す。
レポート課題 1	ケース「リライアブル製作所」を分析し、生産管理について経営管理者として適切な意思決定とその根拠について論じてください。 <b>留意点:</b> 「原価情報と意思決定」がテーマです。
レポート課題 2	ケース「株式会社NBS」を分析し、①全社最適の観点からの意思決定、②分権的組織の問題点、について論じてください。 <b>留意点:</b> 「投資の意思決定（短期）」がテーマです。

基本教材 1	
第1回	第1章 会計の種類と役割
第2回	第2章 財務会計のシステムと基本原則 第3章 企業の設立と資金調達
第3回	第4章 仕入・生産活動 第5章 販売活動
第4回	第6章 設備投資と研究開発
第5回	第7章 資金の管理と運用
第6回	第8章 国際活動 第9章 税金と配当
第7回	レポート課題1. の初稿作成
第8回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第9回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
第10回	第10章 財務諸表の作成と公開
第11回	第11章 企業集団の財務報告
第12回	第12章 財務諸表による経営分析
第13回	レポート課題2. の初稿作成
第14回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第15回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
基本教材2	
第1回	I. 原価情報と意思決定 ①イーストマン・コダック社（売上総利益と貢献利益）
第2回	②メトロポリタン・シティ病院（病院のコスト）
第3回	③ヒューレット・パカード社（近年の製造業におけるCVP）
第4回	④クラーク製紙株式会社（活動分析）
第5回	⑤ポートランド電力株式会社（2段階方式のABC）
第6回	（レポート課題1.）⑥リライアブル製作所（ABCとABM）の初稿作成
第7回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第8回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
第9回	II. 投資の意思決定（短期） ①イーグルテニスクラブ（埋没原価）
第10回	②個人投資家のあなた（短期投資における独立と排反）
第11回	②個人投資家のあなた（短期投資における独立と排反）
第12回	③株式会社農創（無資格案の整理）
第13回	（レポート課題2.）④株式会社NBS（複数事業所における複数プロジェクトの評価）の初稿作成
第14回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第15回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成

科目名	アカウンティング論特講	担当者	アオキ 青木 タカシ 隆	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講座は、企業外部の利害関係者（株主・債権者等）を報告対象とする財務会計の基礎から応用にわたって学修することで以下の能力を修得することを目的とします。 論理的・批判的思考力 問題発見・解決力 省察力		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 企業が会計処理と財務諸表の作成・公開にあたって準拠すべき会計基準や会計法令を深く理解するために必要な知識の修得を目標とします。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>① 財務会計に関する基本的かつ応用的な考え方を深く理解してそれを説明できる。 ② 財務会計に関するさまざまな会計基準や会計法令を深く理解して説明できる。 ③ 財務諸表の種類およびその内容について深く理解して説明できる。 ④ 上記①から③を分析的・批判的に評価できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材を熟読したうえで、レポートドラフトを作成します。（自習・レポート作成）（SBO①②③）【15時間／レポート1本】</li> <li>担当者によるコメント・指導に基づき、初稿を作成します。（自習・レポート作成）（SBO①②③）【15時間／レポート1本】</li> <li>受講生同士のディスカッションや担当者のコメント・指導に基づき最終稿を作成します。（自主研究。レポート作成・ディスカッション）（SBO①②④）【15時間／レポート1本】</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-folio・メール・Zoomなどを用いてインタラクティブな添削・指導を行います。</p>		
スケジュール	<p>前学期は基本教材1の第1章から第9章を学修範囲とします。課題1の初稿は令和6年7月15日までに提出してください。課題2の初稿は令和6年8月15日までに提出してください。それぞれの最終稿は学事暦で定められた日までに提出してください。</p> <p>後学期は基本教材2の第10章から第14章までを学修範囲とします。課題1の初稿は令和6年11月15日までに提出してください。課題2の初稿は令和6年12月15日までに提出してください。それぞれの最終稿は学事暦で定められた日までに提出してください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	① 基本教材の内容を修得しているか。 ② 自分の意見が反映されているか。 ③ 基本教材以外の文献・資料を活用しているか。
	観察記録	30%	① 提出期限が遵守されているか。 ② 脚注や参考文献などの記載が適切であるか。
履修者への要望	財務会計の基礎的な知識を、履修にあたっての前提条件とはしません。ただし、基本教材や副教材の内容を深く修得し、レポートを作成するには、財務会計の基礎的かつ応用的な知識は必要不可欠になります。基本教材には、財務会計の基礎的な内容も十分に網羅されているため、それを修得するとともに、財務会計の応用的、発展的な内容も深く理解してください。さらに、それらの内容を分析的・批判的に評価するとともに、現行の会計基準や会計法令、それらの根拠となる考え方に對する課題や問題点を発見し、それに対する自分の考え方を整理してください。そして、それを最終的にレポートに反映できるようになることを希望します。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 桜井久勝 教材名： 『財務会計講義』（第 24 版）中央経済社 2023 年 ISBN:978-4-502-46061-6 ※仮に新版（第 25 版）が発行された場合は可能な限り新版を購入してください。
	本書は、企業が株主や債権者などの外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で実施している財務会計について、会計基準を中心としながら、会社法の計算規定などの会計法令にも触れながら、総合的かつ体系的に解説したものです。
参考図書	『会計法規集』（第 13 版）中央経済社 2023 年 ISBN:978-4-502-46071-5 ※仮に新版（第 14 版）が発行された場合は可能な限り新版を購入してください。
履修上のポイント	本書の第 1 章から第 4 章は、財務会計の総論的な論述に充てられている。これらは財務会計の基礎的な領域ではあるものの、応用的・発展的な内容も含まれている。第 5 章から第 11 章は、財務諸表の主要項目に関する会計処理を説明している。第 12 章および第 13 章は個別財務諸表・連結財務諸表の作成方法を説明している。第 14 章は、外貨建取引や外貨建財務諸表の換算を取り扱っている。それぞれの会計処理に関する会計基準・会計法令を深く理解するとともに、批判的に評価するように心掛けてください。
レポート課題 1	発生主義会計における実現原則と企業会計基準第 29 号との関係性について論じてください。 <b>留意点：</b> 収益の認識における伝統的な考え方と新たな会計基準とを対比して検討してください。
レポート課題 2	のれんの償却方法に関する見解を論じるとともに、自身の考えを述べてください。 <b>留意点：</b> 日本基準と IFRS との違いを理解したうえで検討してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 桜井久勝 教材名： 『財務会計講義』（第 24 版）中央経済社 2023 年 ISBN:978-4-502-46061-6 ※仮に新版（第 25 版）が発行された場合は可能な限り新版を購入してください。
	本書は、企業が株主や債権者などの外部の利害関係者に対して経営成績や財政状態を報告する目的で実施している財務会計について、会計基準を中心としながら、会社法の計算規定などの会計法令にも触れながら、総合的かつ体系的に解説したものです。
参考図書	『会計法規集』（第 13 版）中央経済社 2023 年 ISBN:978-4-502-46071-5 ※仮に新版（第 14 版）が発行された場合は可能な限り新版を購入してください。
履修上のポイント	本書の第 1 章から第 4 章は、財務会計の総論的な論述に充てられている。これらは財務会計の基礎的な領域ではあるものの、応用的・発展的な内容も含まれている。第 5 章から第 11 章は、財務諸表の主要項目に関する会計処理を説明している。第 12 章および第 13 章は個別財務諸表・連結財務諸表の作成方法を説明している。第 14 章は、外貨建取引や外貨建財務諸表の換算を取り扱っている。それぞれの会計処理に関する会計基準・会計法令を深く理解するとともに、批判的に評価するように心掛けてください。
レポート課題 1	自己株式の本質について論じるとともに、自身の考えを述べてください。 <b>留意点：</b> 資産説と資本減少説の特徴を理解したうえで検討してください。
レポート課題 2	連結会計主体論について論じるとともに、自身の考えを述べてください。 <b>留意点：</b> 親会社説と経済的単一体説について理解したうえで検討してください。

### 基本教材 1

第 1 回	第 1 章 財務会計の機能と制度
第 2 回	第 2 章 利益計算の仕組み
第 3 回	第 3 章 会計理論と会計基準
第 4 回	第 4 章 利益測定と資産評価の基礎概念
第 5 回	第 5 章 現金預金と有価証券
第 6 回	第 6 章 売上高と売上債権
第 7 回	レポート課題 1. の初稿作成
第 8 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第 9 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
第 10 回	第 7 章 棚卸資産と売上原価
第 11 回	第 8 章 有形固定資産と減価償却
第 12 回	第 9 章 無形固定資産と繰延資産
第 13 回	レポート課題 2. の初稿作成
第 14 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第 15 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	第 10 章 負債
第 2 回	第 10 章 負債
第 3 回	第 11 章 株主資本と純資産
第 4 回	第 11 章 株主資本と純資産
第 5 回	第 12 章 財務諸表の作成と公開
第 6 回	レポート課題 1. の初稿作成
第 7 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第 8 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成
第 9 回	第 13 章 連結財務諸表
第 10 回	第 13 章 連結財務諸表
第 11 回	第 13 章 連結財務諸表
第 12 回	第 14 章 外貨建取引等の換算
第 13 回	レポート課題 2. の初稿作成
第 14 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成
第 15 回	教員による指摘事項の理解と修正稿の作成 最終稿の作成

科目名	マーケティング論特講	担当者	アメミヤ 雨宮 フミタカ 史卓	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座はマーケティング戦略の機能・役割を基礎から応用まで論理的に修得する事により、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>① マーケティング戦略の理論と実際が、市場動向、消費者ニーズの変化を捉えながら理解できる。</p> <p>② 実際のビジネスの場面で起きた事例に基づき、各個人が分析し問題を解決する手法を考案できるようにする。</p> <p>③ 広告及び宣伝、PR等に焦点を置き、プロモーション全般の意義を理解し、マーケティング戦略の中でこれらがどのように機能しているかを論理的に解明できる。</p> <p>④ ブランド力を強化し、当該ブランドを拡張する場合、どのような広告戦略を行うべきかを既存の戦略にとらわれずに企画・検討できるようにする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>企業が製品・サービスを売るための手段としてマーケティングを捉えるだけでなく、より広い視点でマーケティングを捉える事を心掛ける。そのため、社会情勢、経済状況の変化とともに消費者の嗜好がどのように変化し、市場に影響を及ぼしてきたかを深く理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 学修者がマーケティング戦略、ブランド・マネジメント、広告・プロモーション戦略に関連する知識を修得し、それぞれの知識を理論的に関連づけて理解する。(知識・解釈)</p> <p>② 具体的な企業戦略の事例に対して、学んだ知識を活かして深く考えることで理解は一層明確になり、自らビジネスモデルを構築できる可能性を高める。(技能)</p> <p>③ 学修していく上で、修得した知識や理論と事例に基づくマーケティング戦略の間には異なる点が見受けられることがある。その場合でも、自ら修得した能力を応用的に適用することで、具体的な企業戦略や商品カテゴリー毎の市場動向に応じて、使いこなせる配慮ある行動をとることができる。(態度・反応)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二冊の基本教材を熟読したうえで、レポートドラフトを作成する。(自習・レポート作成, SBO①②)【15時間/レポート1本】</li> <li>担当者によるコメント・指導に基づき、初稿を作成する。専門用語は予め各自で調べ理解しておく。(自習・レポート作成, SBO①②)【15時間/レポート1本】</li> <li>インタラクティブな学修の場(ディスカッション)を通じて、最終的にレポートを作成する。また、必要に応じて日程を調整し、個別に対面指導やゼミ形式での討論の機会を設ける。(自主研究・レポート作成・ディベート, SBO②③④)【15時間/レポート1本】</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba-Folio・メール・Zoom等を利用し、教員と院生との間で双方向による指導を行う。</p>		
スケジュール	<p>前期 課題1 初稿：令和6年6月末を目安とする、最終稿：学事暦で定められた日まで 課題2 初稿：令和6年7月末を目安とする、最終稿：学事暦で定められた日まで</p> <p>後期 課題1 初稿：令和6年11月初旬を目安とする、最終稿：学事暦で定められた日まで 課題2 初稿：令和6年12月初旬を目安とする、最終稿：学事暦で定められた日まで</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	① 教材の基本内容を修得し、理論を踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③ 教材以外の文献・資料・データ等を活用して解答しているか
	平常評価	30%	① 提出期限を厳守し、コメントへの適切な対応がなされているか ② レポート字数・脚注・参考文献等の形式が守られているか
履修者への要望	<p>本講座は、グローバル経営 (MBA) 部門のコア5科目の一つであり、他の科目 (グローバル経営戦略論特講、アカウントング論特講、人材マネジメント論特講、現代ファイナンス論特講) と合わせて履修することが望ましい。</p> <p>履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員 (雨宮) に連絡すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： フィリップ・コトラー，ゲイリー・アームストロング，恩藏直人 教材名： 『コトラー，アームストロング，恩藏のマーケティング原理』（丸善出版，2014年） (1) ISBN:978-4-621-06622-5 4,800円+税
	著者名： 雨宮 史卓 教材名： 『広告コミュニケーション』（八千代出版，2020年） (2) ISBN:978-4-8429-1763-4 2,300円+税
	教材の1冊目は，最新の事例を数多く盛り込んだシンプルかつ体系的なマーケティングの良書である。アップ・トゥ・デートなマーケティングの本質や理念を章ごとに学んでほしい。全体を通読し，各章で学ぶコンセプトの概要，前章までに学んだコンセプトとの繋がりを理解し，体系的に学ぶことを心がけてほしい。2冊目の教材は，広告コミュニケーションを中心にプロモーション戦略，ブランド戦略に焦点を当てた内容になっている。マーケティング戦略の中で，広告・プロモーションやブランド概念がどのように機能し，役割を担っているかを理論的に学んでほしい。こちらの本も事例が多く述べられているので，自分自身がビジネスモデルを構築する場合，いかなる可能性があるかという事を念頭に置くことを望む。前期・後期ともに，この二冊を基本教材として学修してほしい。
参考図書	石井淳蔵・栗本契・嶋口充輝・余田拓郎『ゼミナール マーケティング入門』（日本経済新聞社，2004年） ISBN:4-532-13272-X 3,200円+税
履修上のポイント	まずは，マーケティングとは何か，という問いに対し企業が商品売るという視点であるのに対して，顧客は商品の価値や，それにまつわる問題解決策を購入しているという視点で理論を考察してほしい。その際に，自身が経験した具体的な購買行動に置き換えながら学ぶことで，より深い理解に繋がる可能性がある。
レポート課題 1	マーケティング戦略を成功させ，ヒット商品を市場投下している企業にはどのような差別化要因があるのだろうか。消費者ニーズや市場動向の変化を見極めながら，その要因を説明せよ。 <b>留意点：</b> 有形財・無形財にとらわれず，自分自身が興味・関心のある商品を事例として取り上げ，学んできた理論と照らし合わせて考察してほしい。
レポート課題 2	マーケティング・ミックスとプロモーション・ミックスの関係性を，商品の特質やブランド力を見極めた上で説明し，自分自身が興味・関心のある商品を例にとり，プロモーション・ミックスの最適化を論述しなさい。 <b>留意点：</b> マーケティング・ミックスの意義を深く理解し，プロモーションの種類を詳細に学んだ上で事例を選び，当該商品にはいかなるプロモーション戦略が必要かを考えてほしい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 教材名： 基本教材1と同じ (1)
	著者名： 教材名： 基本教材1と同じ (2)
参考図書	田中洋『ブランド戦略論』（有斐閣，2017年） ISBN:978-4-641-16510-6 4,000円+税
履修上のポイント	近年では，マーケティング戦略の中で，ブランド・マネジメントという領域が築かれている。その活動がブランドを基点として行われ，ブランドを構築・育成するための活動であるならば，広告を中心とした他の戦略もブランドを中心として行われるコミュニケーション活動であることを認識した上で学修してほしい。
レポート課題 1	ブランドの概念を「競争の視点」と「財務の視点」に分けて考察し，企業にとってブランドを拡張することの意義を論じなさい。 <b>留意点：</b> なぜブランドを競争の視点として捉えるかの理由を論理的に学ぶこと。そして，財務の視点においては，ブランド・エクイティ，ブランド・アイデンティティの概念を理解すること。
レポート課題 2	第四の経済価値である経験価値が，ブランドの概念にどのような影響を与えるかを考察した上で，経験価値に対する広告戦略の役割を，サービス産業を事例にあげて説明しなさい。 <b>留意点：</b> まずは，経験価値が重要視される商品とコモディティ商品の違いを理解する。そして，経験価値を消費者に訴求する具体的な広告戦略を事例と共に述べることを勧める。

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材 1, 2 に基づく学修①（マーケティングの本質）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材 1, 2 に基づく学修②（マーケティング・ミックス, 市場原理）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（企業とマーケティング戦略）
第 4 回	教材 2 に基づく学修④（プロモーションの役割と機能）
第 5 回	教材 2 に基づく学修⑤（広告コミュニケーション）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（広告とパブリック・リレーションズ）
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（消費者と購買行動）
第 8 回	教材 2 に基づく学修⑧（企業と消費者間の共感性と広告コンセプト）
第 9 回	教材 2 に基づく学修⑨（広告コンセプトとタイム・マーケット）
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑩（製品, サービス, ブランド）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材 1, 2 に基づく学修①（ニーズ, ウォンツ, デマンドの関係性）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材 1, 2 に基づく学修②（ブランド概念の変遷）を行う
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（新製品開発と製品ライフサイクル）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（コミュニケーションによる顧客価値の説得）
第 5 回	教材 2 に基づく学修⑤（ブランドの基本的概念, ブランドを軸としたマーケティング戦略の展開）
第 6 回	教材 2 に基づく学修⑥（ブランド・ライフサイクル, ブランド拡張）
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（人的販売と販売促進）
第 8 回	教材 2 に基づく学修⑧（経験価値とブランド概念）
第 9 回	教材 2 に基づく学修⑨（サービスに対する消費者行動, ストア・ブランド）
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑩（マーケティングと社会的責任）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	人材マネジメント論特講	担当者	カトウ 加藤 コウジ 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------------	----	----	-----	---

### 【科目概要】

目的	<p>本講座では、企業活動の根幹である組織・従業員のマネジメントの知識の修得を通じて、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>① 企業を構成する3つの資源（ヒト・モノ・カネ）のうち、人的資源として捉えた時の人材の性格を把握し、人材をマネジメントする方法につき自ら学ぶこと。</p> <p>② 人材マネジメントの知識を持つことで、自らの属している組織の中での従業員などの行動パターンを理解し、組織における次になすべき行動・活動を自ら考えることができること。</p> <p>③ 組織の中で繰り広げられる経営活動・人事マネジメントについて、より深い見地から理解することができるようになることで、行動に責任を持って自ら道をひらいていくようになること。</p> <p>上記の目的を通じて人材マネジメント論・経営組織論を修得することは、経営管理に繋がる重要な企業経営の知識を身に付け、経営に関してより深い理解に到達することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>企業経営に必要な組織運営，人材マネジメントに関する専門性を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 学修者が経営組織・人材マネジメントに関する知識を列挙し、それぞれの知識を関係づけて理解する(知識)</p> <p>② 具体的な企業の事例に対して、学んだ知識を活かして深く考えることで理解は一層明確になり、自ら使うことができる技能に高める(技能)</p> <p>③ 理論と具体的な組織の中での活動の間には異なる点があり、その考え方を応用的に適用することで、具体的なビジネスシーンに応じて使いこなせるように配慮ある行動となる(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>課題教材を精読し十分に理解したうえで、具体的な考察を行う。具体的な事例に当てはめるためには課題教材を学修し、その2倍以上の時間を費やし考えることで活用できる知識となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材を熟読したうえで、副教材も参考にしつつ、レポート(初稿)を作成する。 【15時間/レポート1本】</li> <li>教員による初期の気づきを与えるコメント・指導に基づき、初稿の修正を行う。 【15時間/レポート1本】</li> <li>より深い理解に到達するためのインタラクティブな学習の場(ディスカッション)となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的に提出できるレポートを作成する。最終レポートに到達するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し、更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行うことで、より深い理解に到達する。 【15時間/レポート1本】</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体】</p> <p>具体的な企業事例については、各自が教材以外の関連書籍を探し、新聞・ネットメディアなどの記事のほか、企業の公表資料などにもアクセスしていく必要がある。論文、民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。受講生の進捗状況を踏まえつつ、追加的なディスカッション(ケーススタディ)を盛り込む可能性がある。</p>		
スケジュール	<p>① 学びにあたり、提出期限までに何度かレポートを使って、考え方を確認・交換する必要がある。前後期とも最終提出期限までに十分な時間を確保するために以下の期限までに初稿提出すること(前期:7月15日、後期:11月15日)。</p> <p>② 受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからないために、レポートの初稿を作成できないと感じたときは、開始後1か月程度の早めの時期に、下記「履修者への要望」に記載したアドレスへメールで質問すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。</p> <p>③ 最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	① 教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③ 教材以外の資料を活用して解答しているか(加点項目)
	観察記録	20%	① 最終提出までに複数回のレポート交換ができていないか ② 初稿提出期限(最終提出1か月前)が守れているか(減点項目)
履修者への要望	<p>グローバル経営(MBA)部門のコア5科目の一つであり、他の科目(グローバル経営戦略論特講, アカウンティング論特講, マーケティング論特講, 現代ファイナンス論特講)と合わせて履修することが望ましい。履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員(加藤)に連絡すること(kato.kojill15@nihon-u.ac.jp)</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 佐藤剛 教材名： 『グロービスMBA組織と人材マネジメント』（ダイヤモンド社，2007年） (1) ISBN:978-4-47-800321-3 2,800円+税
	著者名： スティーブン・P・ロビンス 教材名： 『[新版]組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社，2009年） (2) ISBN:978-4-47-800459-3 2,800円+税
	前期教材の1冊目（グロービス）は経営組織と人材マネジメントの関係を理解してもらうために選んだ入門書である。全体を通読し，人材マネジメントに係る論点がどこにあるかを把握してほしい。2冊目の教材（ロビンス）は組織行動論を考えるための良書であり，前期は組織の中で個人がどのように位置づけられるかを考えてほしい。
参考図書	金井壽宏，高橋潔『組織行動の考え方』（東洋経済新報社，2004年） ISBN:978-4-49-252146-5 2,400円+税 スマントラ・ゴシャール，クリストファー・A・パートレット 『(新装版)個を活かす企業 自己変革を続ける組織の条件』（ダイヤモンド社，2007年） ISBN: 978-4-478-00194-3 2,592円+税
履修上のポイント	経営組織の中で人材がどのようにマネジメントされているのか，現代の組織運営上の問題点はどこにあるのかを把握してほしい。その際に，自分が経験した具体的な事例に置き換えながら学ぶことでより深い理解に繋がるものである
レポート課題 1	<b>教材1（グロービス）を使い，従業員にとって納得性を与えるために，人事システムにおいて考えられている仕組みについて，その項目を挙げ，内容を説明しなさい。</b> <b>留意点：</b> 人事システムを，制度・仕組みを知識として理解するだけでなく，その背景，目的まで踏まえて説明すること。
レポート課題 2	<b>個人が組織の中で活かされるために必要な動機づけに関する理論をあげ，その内容を説明するとともに，具体的なプログラムとして応用されている事例を説明しなさい。</b> <b>留意点：</b> 教材2（ロビンス）の第Ⅱ部で示されている内容を踏まえ，組織の中で個人が活かされていくために組織は何ができるのか，考えてほしい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： スティーブン・P・ロビンス 教材名： 新版『組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社，2009年） ISBN:978-4-47-800459-3 2,800円+税
	組織を運営していくために一人一人の行動と，部門の行動をどのようにコントロールするべきか考える。
参考図書	エイミー・C・エドモンドソン 『恐れのない組織——「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』（英治出版，2021年）ISBN: 978-4862762887 2,200円+税 E・H・シャイン『企業文化 改訂版：ダイバーシティと文化の仕組み』（白桃書房，2016年）ISBN: 978-4-561-23675-7 3,500円+税
履修上のポイント	組織運営においてルールは大事であるが，明文化されている仕組みだけでなく，目に見えない文化にこそ本質が宿っている場合があることも理解する。
レポート課題 1	<b>組織の中で，パワー，政治がどのように利用され権力を掌握することにつながるのか，組織内でコンフリクトが発生した時にどのように対処することができるのか，説明しなさい。</b> <b>留意点：</b> ロビンスの第Ⅲ部に示されている内容からまとめる。その際に，自分がこれまで組織の中で経験したことのある事例も活用して説明することが望ましい。
レポート課題 2	<b>組織はヒトの集団であり，構成メンバーの意識が同じ方向に向かうほど強い組織となる。組織文化が企業競争力の強化に効果を上げていることについて説明しなさい。</b> <b>留意点：</b> 企業は組織を従業員にとって働きやすく，かつ自己実現を達成できる場となるように様々な工夫をしている。本課題に関しては，教材（ロビンス）の第Ⅳ部からまとめるだけでなく，可能な限り，具体的な企業の状況を把握し，複数の企業を比較しながら説明することが望ましい。

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解。教材に基づく学修①（組織の目的、組織文化）
第 2 回	「学修の進め方」について教員との意見交換。教材に基づく学修②（組織構造）
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（人事システム、多様性のマネジメント）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（組織と人材を動かす仕組み）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（組織と人材マネジメントの実践例）
第 6 回	教材 2 に基づく学修①（組織行動学とは何か）及び「学修の進捗状況」を教員と共有
第 7 回	教材 2 に基づく学修②（個人の行動の基礎、パーソナリティと感情）
第 8 回	教材 2 に基づく学修③（動機づけの基本的なコンセプト）
第 9 回	教材 2 に基づく学修④（動機づけ：コンセプトから応用へ）
第 10 回	教材 2 に基づく学修⑤（個人の意思決定）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿提出
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解。教材に基づく学修①（集団行動の基礎）
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換。教材に基づく学修②（チームを理解する）
第 3 回	教材に基づく学修③（コミュニケーション）
第 4 回	教材に基づく学修④（リーダーシップと信頼の構築）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（パワーと政治）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（コンフリクトと交渉）及び「学修の進捗状況」を教員と共有
第 7 回	教材に基づく学修⑦（組織構造の基礎）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（組織文化）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（人材管理の考え方と方法）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（組織変革と組織開発）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿提出
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポート提出

科目名	多国籍企業特講	担当者	モロカミ シゲト 諸上 茂登	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>2008年のいわゆるリーマンショック以来、新自由主義者たちが主張してきたようなグローバリズムへの懐疑が世界的に広まった。また、今日地政学的リスクもますます逼迫化しており、グローバリズムの正当性についての見直しの機運が高まっている。本講義では、そのような国際情勢の中における近年のデジタル社会の進化、地球温暖化の問題、地政学的リスクへの対応を探りながら、日系多国籍企業の国際経営・国際マーケティングのあり方を検討する。本講義では、履修者が以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>① グローバリズム及び一律のグローバルイゼーションという幻想を理解することができる。</p> <p>② 国境を越えるビジネスにおける文化、政治制度、地理、経済（CAGE）の隔たりの影響について再評価することができる。</p> <p>③ 現代多国籍企業の一般的な戦略ロジックについて理解できるようになる。</p> <p>④ 日系多国籍企業が直面する諸課題、特に国際マーケティング上の課題と解決の方向性について理解できる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 多国籍企業を取り巻く環境と行動原理を理解する</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>① 多国籍企業経営に関するグローバルスタンダードな専門的な構成概念や知見を理解する（知識）</p> <p>② 日系多国籍企業の課題把握と問題解決のための分析枠組の構築の仕方を身につける（技能）</p> <p>③ 日系多国籍企業が今後鍛えていくべき組織能力についても自ら考え、提案することができる（態度）</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>基本教材、参考文献の他にも出来るだけ多くの関連文献を渉猟し、また新聞やネットメディアなどの記事の収集と活用も心がけたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まず基本教材を熟読し、多国籍企業経営の特質（環境や行動原理）を理解し、レポートのドラフトを作成する。【15時間/レポート1本】</li> <li>上記の基本的知識を身につけた上で、日系多国籍企業が抱える特定の課題解決の方策を考えるための分析枠組について検討する。【15時間/レポート1本】</li> <li>次に、領域を国際マーケティングに絞った上で、その基本的な課題と分析枠組および解決策について検討しレポートを仕上げる。【15時間/レポート1本】</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この講座は指導教授とのコミュニケーションを楽しみながら学術的小論文（レポートを含む）執筆の作法を学ぶ場としても活用していただきたい。</li> </ul>		
スケジュール	<p>① 初稿の作成前に教員とおよそのアイデア交換を行う。</p> <p>② 課題へのアプローチ方法がわからない場合には早い段階でメール等にて連絡すること。</p> <p>③ レポートの最終提出までに複数回の添削指導を行う。教員による最終チェックのために、学事暦に定める最終稿の提出期限の少なくとも一ヶ月前までに最終稿（案）を提出して下さい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	<p>① 教材の内容を十分に理解しているか</p> <p>② レポート課題への解答が的確であるか</p> <p>③ 基本教材、参考文献以外の資料が有効に活用できているか（加点項目）</p>
	観察記録	30%	<p>① 最終提出までに複数回のレポート交換ができているか</p> <p>② 指導教授によるレポート修正要求に的確に応じているか</p> <p>③ 途中稿提出期限（最終提出1ヶ月前）が守られているか（減点項目）</p>
履修者への要望	<p>指定した基本教材や参考文献の単なる要約レポートに終わるのではなく、それらをベースとしながらもなるべく広く関連文献（新聞、雑誌等を含む）を渉猟し比較検討した上で自らの考えを述べる。その際には他者の説（出典と引用部分を明示）と自説を明確に区別して論述すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 著者名：パンカジ・ゲマワット 教材名： 教材名：『ヨークの味は国ごとに違うべきか』（文藝春秋、2009年） （原書名：Redefining Global Strategy） ISBN-13:978-4163713700 1905円＋税
	邦訳版のタイトルは軽い感じであるが、実は本書は多国籍企業経営の入門書として世界的に評価の高い著作である。この教材を通して、多国籍企業を取り巻く環境と基本的な課題と戦略について学ぶことができる
参考図書	諸上茂登、藤沢武史、嶋正編著『国際ビジネスの新機軸―セミ・グローバリゼーションの現実の下で―』（同文館出版、2015年）
履修上のポイント	ハーバードビジネススクール教授（執筆当時）のゲマワット教授によるテキストを通して、現代多国籍企業の行動原理と基本戦略について体系的な理解に努めましょう。世界中のビジネスマンや研究者に読まれているテキストに触れることでグローバル経営に関する学習のモチベーションを高めて欲しい。
レポート課題 1	セミ・グローバリゼーションの下での現代多国籍企業が抱える基本的な諸課題について論述しなさい。 <b>留意点：</b> 最新の経営環境の変化については、新聞・ネットメディア等の記事も反映すること
レポート課題 2	国ごとの差異（CAGE/文化・政治体制・地理・経済）を成功につなぐ方策について論述しなさい。 <b>留意点：</b> ゲマワット教授のAAA戦略を参考に論述すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 著者名：諸上茂登 教材名： 教材名：『新版 国際マーケティング講義』（同文館出版、2023年12月発売） ISBN-104495646125、予定価格2,800円＋税
	90年代以降、日本企業は「技術では勝っているのに事業で負ける」と言われることが少なくない。本書ではその構造的要因を探ると同時に、国際マーケティング視点からそうした状況を脱するための様々なアイデアを提供している。新版書では、デジタル社会の進展、地政学的リスクの増大、経営活動のサステナビリティ思考、新しいイノベーション論、プラットフォーム戦略の興隆などの影響について増補を行なっている。
参考図書	諸上茂登編著『国際マーケティング・ケイパビリティ戦略計画から実行能力へー』（同文館出版、2019年）2,800円＋税
履修上のポイント	日系多国籍企業は、新しい市場動向と技術動向を捉えた起業家のマーケティング・イマジネーションを起点とするマーケティングとモノづくりのより効率的、効果的な連携によって、国際市場での競争優位性を獲得・維持・強化することが可能であることを学びましょう。
レポート課題 1	90年代以降、エレクトロニクス産業を中心に多くの日本企業が競争力を失った構造的要因について考察した上で、日本企業の課題について論述しなさい。 <b>留意点：</b> 教材の要約に終わるのではなく、できるだけ多くの関連文献を渉猟して学術的レポートとして執筆すること。
レポート課題 2	CO2削減という世界的潮流の中での日系自動車メーカーの現状と課題について論述しなさい。 <b>留意点：</b> 具体的な企業事例を交えて執筆すること。

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について理解する。(フラット化しない世界、国ごとの違いを成功につなぐ)
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換を行う。
第 3 回	教材 1 に基づく学修① (コークの味は国ごとに違うべきか)
第 4 回	教材 1 に基づく学修② (ウォルマートは外国であまり儲けていない)
第 5 回	教材 1 に基づく学修③ (ハーゲンダッツはヨーロッパの会社ではない)
第 6 回	教材 1 に基づく学修④ (インドのマクドナルドには羊バーガーがある)
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑤ (トヨタの生産ネットワークはここがすごい)
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑥ (だからレゴは後発メーカーの追従を許した)
第 9 回	教材 1 に基づく学修⑦ (IBM はなぜ新興国の社員を 3 倍にしたか)
第 10 回	教材 1 に基づく学修⑧ (世界で成功するための 5 つのステップ)
第 11 回	レポート課題 1 ・ レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1 ・ レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1 ・ レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について理解する。(世界の産業・競争構造の理解と国際マーケティング)
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換を行う。
第 3 回	教材に基づく学修① (国際マーケティングの概念と進化モデル)
第 4 回	教材に基づく学修② (グローバリゼーションの現実)
第 5 回	教材に基づく学修③ (世界的な産業・競争構造の激変)
第 6 回	教材に基づく学修④ (日本企業の競争力)
第 7 回	教材に基づく学修⑤ (持続的競争力のある企業の条件)
第 8 回	教材に基づく学修⑥ (国際マーケティング戦略の基本と典型的イメージ)
第 9 回	教材に基づく学修⑦ (国際マーケティング戦略の各論：4P を中心に)
第 10 回	教材に基づく学修⑧ (世界から敬愛される人と企業へ)
第 11 回	レポート課題 1 ・ レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1 ・ レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1 ・ レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	多国籍企業論特講	担当者	イノウエ 井上 ヨウコ 葉子	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	国際ビジネスにおける古典の基礎知識から最新の知識まで事例を交えて講義する。具体的には、国際的なビジネス環境や国際市場における経営戦略、国際ビジネスに関係する法と規制、グローバルな組織管理など、国際経営に関連するさまざまな側面を深く探求する。最新の研究、事例分析、論文執筆、プロジェクトの実施などを通じて、国際ビジネスにおける専門知識を深めることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバルな視点から、ビジネスに接するマインドと知識を習得する。</li> <li>・ クリティカルシンキングの養成：受講者に異なる国・文化におけるビジネス環境を分析してもらい、問題解決能力やクリティカルシンキングを養う。</li> </ul> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 専門的知識の獲得：国際経営に関する専門知識および各理論を理解する</li> <li>2) 研究スキルの向上：研究方法論やデータ分析のスキルを磨く機会を提供し、独自の研究プロジェクトを実施する能力を身につける。</li> <li>3) 現実世界への適用：国際ビジネスの実務において、習得した知識とスキルを活用できるよう、実務的な視点を持つ。</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 既存研究の文献・資料を幅広く読む</li> <li>② ビジネスの現状を理解する</li> <li>③ 理論と現状を常に照らし合わせることで、思考力を養成する</li> </ol> <p>上記の3点を学修するために、課題図書を読み込み、初稿作成・推敲・最終原稿作成をあわせて、レポート1本あたり45時間を要する</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Google classroomなどを活用して、できるだけ多くの学生に寄り添った形で講義を進める。</p>		
スケジュール	<p>【初稿提出期限】</p> <p>前期課題：レポート1は5月末、レポート2は8月末</p> <p>後期課題：レポート1は10月末、レポート2は12月末</p> <p>【最終提出期限】</p> <p>いずれも学事暦で定める最終提出期限までに提出すること</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	90%	既存研究の調査 独自性 既存研究と結論の相関性
	観察記録	10%	講義ルール レポート 講義への参加意欲
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際ビジネスの基本原則を理解するために、経済学、経営学、国際関係、国際マーケティングなどの基本的なコースの受講を勧める。</li> <li>・ 国際ビジネスの最新トレンドや国際政治、経済の動向を追跡し、業界の最新情報に敏感になる。</li> <li>・ 国際ビジネスに関連する実際のケーススタディを分析し、プロジェクトを実施して実務的なスキルを発展させる。</li> <li>・ 仕事で培った知識や経験を講義に活かし、manabaあるいはGoogle classroomを通じて積極的に発言する。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 江夏健一編集 教材名： 【シリーズ国際ビジネス】 1 国際ビジネス入門 中央経済社 2008年 ISBN:978-4-502-39690-8
	国際ビジネスをはじめて学ぶ学生のために、歴史、理論、戦略、組織、人事などの諸領域を体系的にわかりやすく解説している。
参考図書	国際ビジネス 1: グローバル化と国による違い チャールズ・W.L. ヒル
履修上のポイント	教科書には多くの情報が書かれているが、すべての情報が同じ重要度を持っているわけではないので、重要なポイントを押さえながら理解することが大切になる。 学修したあと、自分が理解できたかどうかを確認することも大切。理解できなかった箇所があれば、再度読み直すか、他の参考書を利用するなどして、理解を深めること。
レポート課題 1	課題図書から各自の興味のある章の一つを選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。
レポート課題 2	課題図書から、レポート課題で選んだ章と異なる章のうち、各自の興味のある章の一つを選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 江夏健一編集 教材名： 国際ビジネス理論 (シリーズ国際ビジネス) 中央経済社 2008年 ISBN:978-4-502-39610-6
	多国籍企業についての理解が深まるよう、国際ビジネスの理論を時代ごとに網羅した入門書。それぞれの理論が、ビジネスの現場で起こっている事象や背後にある論理を見抜く手がかりとなるように実践的な解説を行っている。
参考図書	国際ビジネス 1: グローバル化と国による違い チャールズ・W.L. ヒル
履修上のポイント	教科書には多くの情報が書かれているが、すべての情報が同じ重要度を持っているわけではないので、重要なポイントを押さえながら理解することが大切になる。 学修したあと、自分が理解できたかどうかを確認することも大切。理解できなかった箇所があれば、再度読み直すか、他の参考書を利用するなどして、理解を深めること。
レポート課題 1	課題図書から各自の興味のある章の一つを選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。
レポート課題 2	課題図書から、レポート課題で選んだ章と異なる章のうち、各自の興味のある章の一つを選び、その内容をテーマにレポートを作成 留意点：理論と現状を関連づけ、ケースを挙げる。

### 基本教材 1

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の理解するために学生と教員と討論
第 3 回	教材の学修（第 1 章～第 3 章）
第 4 回	教材の学修（第 4 章～第 7 章）
第 5 回	中間ディスカッション
第 6 回	レポート課題 1
第 7 回	レポート課題 1 資料収集
第 8 回	レポート課題 1 作成進捗確認
第 9 回	レポート課題 1 提出
第 10 回	教材の学修（第 8 章～第 11 章）
第 11 回	教材の学修（第 12 章～第 15 章）
第 12 回	ディスカッションレポート課題 2
第 13 回	レポート課題 2 資料収集
第 14 回	レポート課題 2 作成進捗確認
第 15 回	レポート課題 2 提出

### 基本教材 2

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の理解するために学生と教員と討論
第 3 回	教材の学修（第 1 章～第 3 章）
第 4 回	教材の学修（第 4 章～第 7 章）
第 5 回	中間ディスカッション
第 6 回	レポート課題 3
第 7 回	レポート課題 3 資料収集
第 8 回	レポート課題 3 作成進捗確認
第 9 回	レポート課題 3 提出
第 10 回	教材の学修（第 8 章～第 11 章）
第 11 回	教材の学修（第 12 章～第 14 章）
第 12 回	ディスカッションレポート課題 4
第 13 回	レポート課題 4 資料収集
第 14 回	レポート課題 4 作成進捗確認
第 15 回	レポート課題 4 提出

科目名	流通ビジネス論特講	担当者	シロトリ 白鳥 カズオ 和生	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>流通ビジネスは「変化対応業」であり、その歴史は「再編成」の歴史である。ここ数十年のデジタル革命によって、小売業界の「前提」が激変した。顧客の期待はデジタルのスピードで進化している。時代はリアルな実店舗とネット通販が競争するマルチチャネルからリアルとネットが融合するオムニチャネルへとシフトしている。リアル小売業はネット通販へ、オンライン小売業はリアル店舗へそれぞれ進出する動きもあり、新しい購買経験が生活者に提供されるようになっている。</p> <p>本科目はデジタル時代の小売業の変化を、単なる突発的な事象としてとらえるのではなく、その歴史的背景や経緯を踏まえつつ、「体験」がより重要性を増す今後の消費社会の変容の方向性を理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>問題の発見・解決能力：事象を注意深く観察し、解決策を提案できる。</p> <p>論理的・批判的思考力：得られる情報をも基に、論理的で批判的な思考ができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 流通業界の歴史的な進展を理解できる。</p> <p>② デジタル化が小売業や顧客体験に与える影響が理解できる。</p> <p>③ 有力小売業の戦略と変容の背景・流れが理解できる</p> <p>④ デジタルトランスフォーメーション (DX) 時代における企業と消費者との関わり方、マーケティングや店舗の在り方など小売ビジネスの全体像を俯瞰できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>① デジタル技術の急速な進化で伝統的なマーケティングや消費者対応が変化しているという認識を持ちつつも、変わらないビジネスの本質を抑える。</p> <p>② 教材、参考図書をベースに基本を理解し、新聞やシンクタンクなどの情報や小売の現場を訪ねることも研究にとって有用である。</p> <p>③ 基本教材の内容を理解し、それを自身で消化した上でレポート作成にあたる。初稿作成までに20時間程度の学修時間を確保する。数回の「添削指導」を通じ、より深い理解に到達する。最終的にトータルでレポート1本45時間ほどの時間を要する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba-folioを活用して、双方向を重視した指導を実施する。</p>		
スケジュール	<p>① 履修後、早めに学修計画の擦り合わせを行う。</p> <p>② &lt;前期&gt;基本教材1レポート課題1の初稿提出は2023年6月末を期限とする。</p> <p>③ &lt;前期&gt;基本教材1レポート課題2の初稿提出は2023年8月末を期限とする。</p> <p>④ &lt;後期&gt;基本教材2レポート課題1の初稿提出は2023年10月末を期限とする。</p> <p>⑤ &lt;後期&gt;基本教材2レポート課題2の初稿提出は2023年12月末を期限とする。</p> <p>⑥ いずれも最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材に対する理解、課題に対する思考のプロセスの適切であり、内容に独自性があるかを評価する。論文としての体裁がきちんと守られているかもみる。
	観察記録	20 %	提出期限が守られているか、複数回のやりとりの中で修正が行われたかを評価する。
履修者への要望	<p>「マーケティング論特講」など経営系科目と合わせて履修することが望ましい。履修登録後、速やかに学習計画の擦り合わせを行うこととする。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 矢作敏行 教材名： 『コマースの興亡史』（2021年、日本経済新聞出版）ISBN:978-4532135195
	本書は、明治から令和に至る商業の近現代史をたどり、それぞれの時代の商業（コマース）の特質を描き出している。特に小売商業者の経営革新行動を中心に分析。流通革命期におけるダイエーに代表される総合量販店の成長と凋落、セブン・イレブン・ジャパンやファーストリテリングをはじめとする専門量販店の持続的な躍進を分析し、小売企業の成長戦略のための基本的な指針を示している。また、デジタル破壊、オムニチャネル化、プラットフォームなどの先端の動きについても分析し、流通・マーケティングの視点から対面形式による商業の重要性、デジタル時代の商業倫理のあり方を示している。
参考図書	田村正紀『流通モード進化論』（2019年、千倉書房）ISBN:978-4805111703
履修上のポイント	コマースの世界ではインターネット社会の到来により、情報的にエンパワーメントされた消費者が流通・マーケティングプロセスに積極的に関与するようになる一方、企業がその一挙手一投足をデータで把握し、消費者行動をコントロールする可能性を急速に高めている。そうした認識の上で、小売商業者の経営革新行動を分析するフレームワークとしての「小売事業モデル」を理解する。そして、なぜその経営主体が存在し、どのように社会に貢献するのかを示す「基本理念」、それをどのような事業の形にして競争を勝ち抜くのかという「市場戦略」、そして戦略を実行し収益を上げる「小売業務システム」の3層からなる分析枠組みで、戦後の小売業の興亡を追ってみる
レポート課題 1	なぜ流通革命の担い手は総合量販店から専門量販店へ替わったのかを論じてください。 <b>留意点：</b> 第3章から第7章までのケースと第8章「流通革命期の総括——小売事業モデルの比較分析」を踏まえてください。
レポート課題 2	なぜデジタルプラットフォーマーは「勝者総取り」を実現できたのかを論じてください。 <b>留意点：</b> デジタル変革の3つの局面を踏まえてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ダグ・スティーブンス 教材名： 『小売の未来』（2021年、プレジデント社）ISBN:978-4833424158
	本書は、アフターコロナ時代における小売業の構造変化と再編成を予測している。アマゾンやアリババ、ウォルマートなど「怪物企業」が勢力を増す中で、リアルを中心とした中小小売業が生き残るための方法を提示している。それは消費者からの「10の問いかけ」に基づき「10のリテールタイプ」に変化していくことであり、ポジショニングこそが成否を握ると指摘している。パンデミックによる危機を100年に1度の機会と捉え復活に挑むのか。本書は後者の道を選択する勇気ある小売業者に、小売りの世界と消費者行動の深層を見極める視座を与える。
参考図書	フィリップ・コトラー 『コトラーのリテール4.0』 （2020年、朝日新聞出版）ISBN:978-4022516763 ダグ・スティーブンス 『小売再生』 （2018年、プレジデント社）ISBN:978-4833422734
履修上のポイント	パンデミックによる危機を100年に1度の機会と捉え復活に挑むのか。教材は後者の道を選択する勇気ある小売業者に、小売りの世界と消費者行動の深層を見極める視座を与えている。デジタルトランスフォーメーション（DX）化、リモートワーク、ネット販売などコロナ禍の新たなビジネス展開は、工業化社会が「前提」としてきた、集中と対面を基本とするビジネスパラダイムの見直しを、急激かつ抜本的に迫りつつあるのだということを意識する。
レポート課題 1	これから加速するであろう「怪物企業」の戦略を簡潔に説明してください。 <b>留意点：</b> エブリシング・ストアとオムニプレゼンスのキーワードを意識してください。
レポート課題 2	急激なパラダイムシフトと怪物企業との競合に対する中小小売業の武器は何かを論じてください。 <b>留意点：</b> 「10の問いかけ」と「10のリテールタイプ」を整理しつつ、考えてみてください。

### 基本教材 1

第 1 回	学ぶべき課題について全体を把握すべく、基本教材の構成（目次）意識しながら斜め読みする。
第 2 回	教員と意見交換し、レポート作成までのスケジュールと重点的に学修したい項目を検討する。
第 3 回	教材に基づく学修①（序章・第 1 章）
第 4 回	教材に基づく学修②（第 2 章）
第 5 回	教材に基づく学修③（第 3 章・第 4 章）
第 6 回	教材に基づく学修④（第 5 章・第 6 章）
第 7 回	教材に基づく学修⑤（第 7 章・第 8 章）、レポート課題 1 のテーマを考察する
第 8 回	レポート課題 1 の初稿執筆・提出
第 9 回	レポート課題 1 の再検討、最終稿作成・提出
第 10 回	教材に基づく学修⑥（第 9 章）
第 11 回	教材に基づく学修⑦（第 10 章）
第 12 回	教材に基づく学修⑧（第 11 章・終章）、レポート課題 2 のテーマを考察する
第 13 回	レポート課題 2 の初稿執筆・提出
第 14 回	レポート課題 2 の再検討、最終稿作成・提出
第 15 回	全体を通じた振り返り

### 基本教材 2

第 1 回	学ぶべき課題について全体を把握すべく、基本教材の構成（目次）意識しながら斜め読みする。
第 2 回	教員と意見交換し、レポート作成までのスケジュールと重点的に学修したい項目を検討する。
第 3 回	教材に基づく学修①（序章）
第 4 回	教材に基づく学修②（第 1 章）
第 5 回	教材に基づく学修③（第 2 章）
第 6 回	教材に基づく学修④（第 3 章）
第 7 回	教材に基づく学修⑤（第 4 章）
第 8 回	教材に基づく学修⑥（第 5 章）
第 9 回	教材に基づく学修⑦（第 6 章）
第 10 回	教材に基づく学修⑧（第 7 章）
第 11 回	教材に基づく学修⑨（第 8 章）
第 12 回	レポート課題 1 の初稿執筆・提出
第 13 回	レポート課題 1 の再検討、最終稿作成・提出
第 14 回	レポート課題 2 の初稿執筆・提出
第 15 回	レポート課題 2 の再検討、最終稿作成・提出

科目名	ビジネス法特講	担当者	ナカムラ 中村 リョウ 良	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>経済法という法典は存在しません。また経済法をどのように考えるかについては、諸説あります。ビジネス法特講においては、「市場支配」に対する国家による規制法と定義し、私的独占の禁止および公正取引確保に関する法律（以下、独占禁止法とします）をその中心と考えます。経済法を理解することなく事業活動を進めることは、多くのリスクが予想されます。そこでリスクを回避するためにも、具体的な事例を通じて経済法（特に独占禁止法）を理解することが重要です。レポート1では、経済法とは何か、独占禁止法との関係、独占禁止法の目的及びその中心的な概念である私的独占・不当な取引制限等の主要概念を中心に勉強を進めて頂きます。レポート2では、企業結合規制、不公正な取引方法、刑事罰・損害賠償・課徴金等を中心に勉強して頂きます。勉強方法としては、独占禁止法に関する資料の収集、整理、要約、論点整理、検証、レポート作成といったプロセスを通じて、経済法に対する基本的な知識を身につけるとともに、予防・事後対応等の問題回避・解決能力を取得してもらうことを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 ビジネス場面において、ビジネスの憲法とも言える独占禁止政策を理解し、違反行為を予防し、また被害にあわないよう損害を最小にする回避行動、損害賠償請求等ができるような知識・技能を修得する。</p> <p>【行動目標（SB0s）】 1 独占禁止法の意義・基礎概念をしっかりと理解する。（知識・想起）2 独占禁止法上の問題点を見いだせる。（知識・想起）3 問題回避のための必要な情報を調べられる。（知識・解釈）4 必要な情報を事例に適用できる（知識・解釈・技能）。5 バランスの取れた結果を導き出せる。（態度・反応）</p>		
学修方略 （方法）	<p>【学修方略（LS）と学修時間】 1 独占禁止法の法律要件を抽象的に理解するだけでは、十分に理解したことにはなりません。典型的な事例を分析・検討することがとても重要です。まず、教材①で独占禁止法について概観し、次に教材②を熟読して、独占禁止法の意義、違法行為類型（要件）、執行手続、エンフォースメント等について勉強します。“自習研究”【20時間】 2 1で身につけた知識を立体化するために教材②の文中で紹介されている判例・審決について教材③で確認して、レポートを作成して下さい。“レポート作成”【10時間】 3 レポート課題への質問、勉強の仕方、資料の収集方法等について、担当教員とメールでディスカッションする。“ディスカッション” (<a href="mailto:nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp">nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp</a>)。【15時間】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングに該当しない。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1 課題(1)：初稿は令和6年5月30日まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 課題(2)：初稿は令和6年8月15日まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 後期：基本教材2 課題(1)：初稿は令和6年10月10日、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。 課題(2)：初稿は令和6年12月10日、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	①初稿の締切り、②内容（課題の正確な理解）、③構成（論理性）、④情報収集（必要な情報を収集しているか）、⑤文章表現力
	観察記録	30%	レポート作成過程における質問のやりとり（質問、および添削に対する対応等）。
履修者への要望	<p>1 基本教科書について不明な点、資料の調べ方等電子メールを活用し、どのような質問でも結構ですので、積極的に質問して下さい。 2 新聞等で特に独占禁止法に関連する報道があれば是非調べてみて下さい。 3 履修登録及びレポート提出時には必ず下記アドレスあてにメールをお願い致します。 <a href="mailto:nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp">nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp</a></p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	教材名 : ① 公正取引委員会 HP ( <a href="http://www.jftc.go.jp/">http://www.jftc.go.jp/</a> ) 「動画で分かる公正取引委員会」
	著者名 : 泉水文雄、土佐和生、宮井雅明、林 秀弥 教材名 : 『経済法 (第2版)』(有斐閣 2015年) ② ISBN 978-4-641-17928-8 定価 2,900 円+税
	著者名 : 舟田 正之 (編集), 金井 貴嗣 (編集), 泉水 文雄 (編集) 教材名 : 『経済法判例・審決百選 2 版 (別冊ジュリスト) 』(有斐閣 2017年) ③ ISBN-13: 978-4641115347 定価 3024 円 (税込み)
	教材①は独占私法を管轄する「公正取引委員会」が作成している「動画」です。平易な表現で説明していますので、法律を初めて勉強する方にもよい教材です。教材②は法学部のみならず法科大学院の教科書としても使用されている教科書です。少し難解かもしれませんが挑戦してみてください。教材③は、主として独占禁止法を理解するうえで重要な判例・審決について解説しています。
参考図書	著者名 根岸 哲 (編) 書 名 『注釈独占禁止法』(有斐閣 2009年) ISBN978-4-641-01836-5 定価 7,000 円+税 著者名 武田晴人 書 名 『談合の経済学』(集英社文庫 2006年) ISBN4-08-747091-1 定価 533 円+税
履修上のポイント	独占禁止法の法律要件を抽象的に理解するだけでは、十分に理解したことにはなりません。典型的な事例を分析・検討することがとても重要です。まず、教材①で独占禁止法について概観し、次に教材②を通読し、独占禁止法の要件について勉強します。そして知識を立体化するために教材②の文中で紹介されている判例・審決について教材③で確認してください。不明な点は、担当教員にメール等で質問して下さい。
レポート課題 1	「独占禁止法の目的について論じなさい」 留意点：学説、審決・判例を必ず検証し、自らの見解を示してください。
レポート課題 2	「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」 留意点：①談合とは何か。②何故談合が行われるのか。③談合は独占禁止法違反となるか。学説、審決・判例を丁寧に検討し自らの見解を示してください。

基本教材 2	
教材の概要	教材名 : ① 公正取引委員会 HP ( <a href="http://www.jftc.go.jp/">http://www.jftc.go.jp/</a> ) 「動画で分かる公正取引委員会」
	著者名 : 泉水文雄、土佐和生、宮井雅明、林 秀弥 教材名 : 『経済法 (第2版)』(有斐閣 2015年) ① ISBN 978-4-641-17928-8 定価 2,900 円+税
	著者名 : 舟田 正之 (編集), 金井 貴嗣 (編集), 泉水 文雄 (編集) 教材名 : 『経済法判例・審決百選 2 版 (別冊ジュリスト) 』(有斐閣 2017年) ② ISBN-13: 978-4641115347 定価 3024 円 (税込み)
	教材①は独占私法を管轄する「公正取引委員会」が作成している「動画」です。平易な表現で説明していますので、法律を初めて勉強する方にもよい教材です。教材②は法学部さらには法科大学院の教科書として使用に耐える教科書です。少し難解かもしれませんが挑戦してみてください。教材③は、主として独占禁止法を理解するうえで重要な判例・審決について解説しています。
参考図書	著者名 根岸 哲 (編) 書 名 『注釈独占禁止法』(有斐閣 2009年) ISBN978-4-641-01836-5 定価 7,000 円+税 著者名 田辺 治 (編) 書 名 『企業結合ガイドライン』(商事法務 2014年) ISBN-13:978-4785721527 定価 3,400 円+税 著者名 丹宗暁信 (編) 書 名 『独占禁止手続法』(有斐閣 2002年) ISBN-13:978-4641143210 定価 4,500 円+税
履修上のポイント	教材②③を精読するとともに、インターネット等を通じて資料を検索・検討してください。
レポート課題 1	「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」 留意点：企業結合の経営学的、経済学的なメリットおよびデメリットを検討し、そのうえで、独占禁止法で企業結合を禁止する理由を論じて下さい。：
レポート課題 2	「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」 留意点：損害賠償請求訴訟の独占禁止法の執行方法における位置づけと法律要件について学説を整理してください。そのうえで、これまでの独占禁止法に関連する損害賠償請求事件を検討し、その問題点を指摘してください。：

基本教材 1

<p>第 1 回</p>	<p>①授業テーマ          経済法を学修する意義 学修方法 経済法とは何か 経済法と独占禁止法との関係とは</p> <p>②学修準備 (10 分)          担当教員にメールを送り打合せ日時を調整する。</p> <p>③学修 (360 分)  <a href="mailto:nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp">nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp</a> にメールし、Zoom 等のオンラインでの打ち合わせ日時を決める (オンラインでの打ち合わせが困難な場合はメールにその旨記載する)。          資料の収集方法、条文の読み方、審決・判例の調べ方及びまとめ方を学修する。          経済法を勉強する意義について専門的な知識を論理的に理解する。          経済法とは何かを経済法学説史を通じて理解する。          学修ノートを作成する (作成後利用するためにもデータで作成することを推奨)。</p>
<p>第 2 回</p>	<p>①授業テーマ          独占禁止法の概要 1</p> <p>②準備 (10 分)          最新の六法 (独占禁止法に改正があったので最新のものを推奨) および基本書を用意する。</p> <p>③学修 (360 分)          公正取引委員会の上記 URL の独占禁止法の概要 (教材①) について解説動画を視聴する。          この時に六法 (小型のものでよい) を手元に用意し、出来る限り条文を確認する。          その後、教材②を精読する (第 1 回で詳しく説明する)。レベルの高い基本書なので分からないところは飛ばして読み進める。          教材②で引用された条文は六法で、審決・判例は教材③で内容を確認する。          学修して分からなかった用語等について法律学辞典等を用いて調べる。          自分でしらべても不明な場合は、担当教員にメールする (nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。</p>
<p>第 3 回</p>	<p>①授業テーマ          独占禁止法総論 1</p> <p>②準備 (30 分)          ミクロ経済学 (又は価格理論) の教科書等で「完全競争」について調べておく。          教材②③を用意する。</p> <p>③学修 (360 分)          独占禁止法の基礎にある経済理論について専門的な知識を理解する。          授業で取り扱った理論について自分の言葉で説明できるようにしておく。          自分でしらべても不明な場合は、担当教員にメールする (nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。</p>
<p>第 4 回</p>	<p>①授業テーマ          独占禁止法総論 2 (「事業者」「一定の取引分野」「競争の実質的制限」「公共の利益」「公正競争阻害」)</p> <p>②準備 (30 分)          教材②③と六法を用意する。          前回学修した経済理論について、それぞれのメリット・デメリットを確認しておく。</p> <p>③学修 (360 分)          独占禁止法の基礎概念を審決・判例を参照しながら理解する (E 1, H 1, I 1)。          学修した概念を審決・判例を引用しながら自分の言葉で説明できるようになる。          自分でしらべても不明な場合は、担当教員にメールする (nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。</p>
<p>第 5 回</p>	<p>①授業テーマ          独占禁止法の概要 (私的独占)</p> <p>②準備 (60 分)          前回学修した「基礎概念」を審決・判例を引用しながら自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>③学修 (360 分)          私的独占についてその要件・効果、執行手続きについて教科書②を精読し理解する。          教科書②で引用されている学説、審決・判例について教科書③で確認する。          ここで取り扱った論点、学説、審決・判例を自分の言葉で説明できるようになる (E 1, H 1, I 1)。          不明な点があれば担当教員にメールする。</p>
<p>第 6 回</p>	<p>①授業テーマ          独占禁止法の概要 (不当な取引制限)</p> <p>②準備 (120 分)          不当な取引制限に関する経済理論を復習しておく。</p> <p>③学修 (360 分)          不当な取引制限の構成要件・効果、立証責任、執行手続き等について教科書②の該当箇所を精読する。          教科書②で引用されている審決・判例を教科書③で確認し、そこで引用されている学説、審決・判例を収集し検討する。          検討した論点、学説、審決・判例を自分の言葉で説明できるようにする。</p>

第7回	<p>①学修テーマ レポート1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成1（経済理論・学説）</p> <p>②準備（10分） 教科書②③、六法、これまで作成したノートを用意する。</p> <p>③学修（360分） 談合に関連する経済理論・学説を収集する。 収集した経済理論・学説を検討し、自分の言葉で要約する。</p>
第8回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成2（審決・判例）</p> <p>②準備（60分） 前回収集、要約した経済理論・学説を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） 談合に関連する審決・判例を収集する。 収集した学説、審決・判例を検討し、論点、事実の概要、理由を要約し整理する。 レポートの構成を考える。</p>
第9回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成（初稿作成・提出）</p> <p>②準備（10分） これまでに作成した資料、六法、教科書②③等を用意する。</p> <p>③学修（360分） 前回作成した構成に従って、資料収集。整理、要約、検討した資料を使用しレポートを作成する。 作成したレポートを初稿として担当教員に提出する。</p>
第10回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成（最終稿の作成）</p> <p>②準備（120分） 初稿に添えられたコメントを理解し適切な修正を加える。</p> <p>③学修 レポート課題1お提出するための最終チェックをする（特に脚注）。</p> <p>④レポート提出後 これまでの学修方法（学修計画を含む）について検討し改善する。</p>
第11回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成1（談合の歴史）</p> <p>②準備（60分） 近所の図書館等で参考図書（武田晴人著『談合の経済学』）を借りる。</p> <p>③学修（360分） 上記参考図書を精読し、談合の歴史・その背景を理解しておく。 その内容を整理し要約する。</p>
第12回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成2（経済理論、学説）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） 談合に関連する資料（経済理論、学説）を収集する。 収集した学説を整理し要約する。</p>
第13回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成3（審決、判例）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） 談合に関連する資料（審決・判例）を収集する。 収集した審決・判例を検討し、論点、事実の概要、理由を要約し整理する。 これまでの学説の整理と合わせてレポートの構成を考える。</p>
第14回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成4（初稿の作成と提出）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） レポートの初稿を作成し、提出する。</p>
第15回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成5（最終稿の作成と提出）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分）</p>

基本教材 2

第 1 回	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 1</p> <p>②準備 (60 分) 後期学修について打合せの日時を決める。 前期の同様担当教員にメール (<a href="mailto:nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp">nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp</a>) で日時を調整する。 前期で学修した経済理論を確認する</p> <p>③学修 (360 分) 公正競争阻害性の概要について教科書②で学修する。</p>
第 2 回	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 2</p> <p>②準備 前回で学修した内容を確認する (60 分)</p> <p>③学修 (360 分) 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。</p>
第 3 回	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 3</p> <p>②準備 前回で学修した内容を確認する (60 分)</p> <p>③学修 (360 分) 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。</p>
第 4 回	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 4</p> <p>②準備 前回で学修した内容を確認する (60 分)</p> <p>③学修 (360 分) 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。</p>
第 5 回	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 5</p> <p>②準備 前回で学修した内容を確認する (60 分)</p> <p>③学修 (360 分) 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。</p>
第 6 回	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 6</p> <p>②準備 前回で学修した内容を確認する (60 分)</p> <p>③学修 (360 分) 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。</p>
第 7 回	<p>①授業テーマ レポート課題 1 「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成 1 (経済理論、学説)</p> <p>②準備 (60 分) 前期で学修した企業結合規制に関連する経済理論を自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>③学修 (360 分) 企業結合規制についての基礎知識 (経済理論、学説等) について教科書②を精読し理解する。 企業結合規制の基礎となる論点、経済理論、学説を整理し、要約する。 不明な点があれば担当教員にメールする。</p>
第 8 回	<p>①授業テーマ レポート課題 1 「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成 2 (審決・判例)</p> <p>②準備 (60 分) 前回学修した学説を自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>③学修 (360 分) 企業結合規制に関連する審決・判例を収集する。 事前相談事例を収集する。 収集した審決、判例の事実の概要、論点、理由等を要約する。</p>

第 9 回	<p>①学修テーマ レポート課題 1 「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成 4（初稿の作成と提出）</p> <p>②準備（60 分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360 分） レポートの初稿を作成し、提出する。</p>
第 10 回	<p>①学修テーマ レポート課題 1 「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成 5（最終稿の作成）</p> <p>②準備（120 分） 初稿を修正するのに必要な資料を収集する。</p> <p>③学修（360 分） レポート課題 1 お提出するための最終チェックをする（特に脚注）。</p> <p>④レポート提出後 これまでの学修方法（学修計画を含む）について検討し改善する。</p>
第 11 回	<p>①学修テーマ 独占禁止法執行手続</p> <p>②準備（60 分）</p> <p>③学修（360 分） 独占禁止法における執行手続きについて教科書②で基礎理論を身につける。 関連する条文、審決・判例を要約する。</p>
第 12 回	<p>①授業テーマ レポート課題 2 「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成 1（経済理論、学説）</p> <p>②準備（60 分） 前期で学修した損害賠償請求制度に関連する経済理論を自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>③学修（360 分） 損害賠償請求制度の基礎知識（経済理論、学説等）について教科書②を精読し理解する。 損害賠償請求制度の基礎となる論点、経済理論、学説を整理し、要約する。 不明な点があれば担当教員にメールする。</p>
第 13 回	<p>①授業テーマ レポート課題 2 「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成 2（判例・違約金条項）</p> <p>②準備（60 分） 前回学修した学説を自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>③学修（360 分） 損害賠償請求制度に関連する判例を収集する。 違約金条項の例を収集する。 収集した判例の事実の概要、論点、理由等を要約する。 レポート課題 2 「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の構成を考える。不明な点があれば担当教員にメールする。</p>
第 14 回	<p>①学修テーマ レポート課題 2 「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成 4（初稿の作成と提出）</p> <p>②準備（60 分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360 分） レポートの初稿を作成し、提出する。</p>
第 15 回	<p>①学修テーマ レポート課題 2 「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成 5（最終稿の作成と提出）</p> <p>②準備（60 分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360 分） レポート課題 2 「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の最終稿を作成する。特にレポートの脚注を確認する。</p> <p>④レポート提出後 これまでの学修方法（学修計画を含む）の反省点および改善方法を検討する。</p>

科目名	ファミリービジネス論特講	担当者	カトウ 加藤 ヨウジ 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	--------------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、「ファミリービジネス（同族企業、家族企業）」に係る研究の基本的な科目であり、ファミリービジネスの更なる理解を深めるための出発点となる知識を修得することを目的とする。理論的にも実務的にも有用度の高い分野として、ファミリービジネスの特性を理解し、その運営・継承にあたっての問題点を発見し、解決に向けた基礎知識の獲得を本講座では目指す。</p> <p>ファミリービジネスについては、日本は老舗が多く、世界的にも注目が集まっている。地域経済活性化の担い手としてのファミリービジネスへの期待も高い。ただし、海外における注目度に対して、日本では研究が遅れていたが、現在、急速に研究が進んでいるものである。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 ファミリービジネスの経営が一般的な企業経営と何が違うのか、基本的な知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリービジネスの基礎となる概要及び基礎理論を説明できる（知識）。</li> <li>・ファミリービジネスと非ファミリービジネスの違いに基づいた経営知識を理解できる（技能）。</li> <li>・経営学の理論や心理学などの背景に基づくファミリービジネス研究に触れることで、事業経営に係る課題解決にむけたアイデアを積極的に発信することができる（態度）。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS) と準備学修時間】</p> <p>課題教材を精読し十分に理解したうえで、具体的な考察を行う必要がある。具体的な事例に当てはめるためには課題教材を学修し、十分な時間をかけて考えることで知識となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教材の熟読ならびに体系的な理解。</li> <li>2. ファミリー企業の経営手法の特徴の理解。</li> <li>3. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の比較。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本教材を熟読し、副教材も参考にしつつレポート(初稿)を作成する。【15時間/レポート1本】</li> <li>・教員による初期のコメント・指導に基づき、初稿の修正を行う。【15時間/レポート1本】</li> <li>・より深い理解に到達するための学修の場となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的に提出できるレポートを作成する。最終レポートに到達するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し、更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行う。このプロセスを通じて、より深い理解に到達する。【15時間/レポート1本】。</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>具体的な企業事例は、新聞・ネットメディアなどの記事のほか、企業の公表資料などから入手する。論文、民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源も活用する。受講生の進捗状況・理解度を踏まえつつ、追加的なディスカッション（ケーススタディ）を盛り込む可能性がある。</p>		
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学びにあたり、提出期限までに何度かレポートを使って、考え方を確認・交換する必要がある。前後期とも最終提出期限までに十分な時間を確保するために以下の期限までに<b>初稿提出</b>すること（<b>前期：7月15日、後期：11月15日</b>）。</li> <li>② 受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからないために、レポートの初稿を作成できないと感じたときは、開始後1か月程度の早めの時期に、下記「履修者への要望」に記載したアドレスへメールで質問すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。</li> <li>③ 最終稿の提出期限は学事曆に従う。</li> </ol>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	① 教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③ 教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）
	観察記録	20 %	① 最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ② 初稿提出期限（最終提出1か月前）が守れているか（減点項目）
履修者への要望	<p>経営関連科目の基礎の理解が前提なため、グローバル経営（MBA）部門のコア5科目につき、必要に応じ同時履修することが望ましい。また、ファミリービジネス関連の発展科目も履修することが望ましい。履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員（加藤）に連絡すること（kato.koji115@nihon-u.ac.jp）</p>		

【レポート課題】

基本教材 1		
教材の概要	① 著者名： 教材名：	ファミリービジネス学会、奥村昭博・加護野忠男編 『日本のファミリービジネス：その永続性を探る』 (中央経済社、2016年) ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税
	② 著者名： 教材名：	ジャスティン・B・クレイグ他 『ビジネススクールで教えているファミリービジネス経営論』 (プレジデント社、2019年) ISBN:978-4-833-42325-0 2,750円+税
	教材①はファミリービジネスの実態及び研究領域について幅広く論じたものとして、基礎的な研究成果が概説されている。教材②はケーススタディを交え深い理解に適している。いずれもファミリービジネスの実態の理解と基本的な理論に基づくその優位性・特徴に対する論点整理を進めることに適している。	
参考図書	階戸照雄、加藤孝治『ファミリーガバナンス スムーズな業承継を進めるために』 (中央経済社、2020年) ISBN:978-4-50-2344718 2,450円+税	
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本でファミリービジネスがどのような位置づけにあるのかを理解する。</li> <li>・ファミリービジネスが非ファミリービジネスとどのような点が異なるのかを理解する</li> <li>・ファミリービジネスが持つ「革新性」を理解する</li> </ul>	
レポート課題 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スリー・サークル・モデル及びスリー・ディメンション・モデルに基づき、ファミリービジネスの非ファミリービジネスとの違いを説明せよ。</li> </ul> 留意点：ファミリービジネスにおける3つの利害関係者の存在と時間的な経過による変化の様相を論じること。	
レポート課題 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリー・アントレプレナーについて、通常のベンチャー企業との違いに着眼して説明せよ。</li> </ul> 留意点：ファミリービジネスでは、単に守旧的に事業の存続を考えるのではなく、常に新しいチャレンジを行っている。その取り組みが成立する背景をファミリーとの関係で説明してほしい。	

基本教材 2		
教材の概要	① 著者名： 教材名：	ジャスティン・B・クレイグ他 『ビジネススクールで教えているファミリービジネス経営論』 (プレジデント社、2019年) ISBN:978-4-833-42325-0 2,750円+税
	② 著者名： 教材名：	小野田鶴(著、編集) 「星野佳路と考えるファミリービジネスの教科書」 (日経BP、2019年) ISBN-13:978-4296104444 1,800円+税
	長期的な計画でマネジメントされているファミリー企業は、非ファミリー企業に比べて業績において優れており、寿命が長いという研究もあるが、その一方で、閉鎖性、保守性、内紛や私物化、人材不足、事業承継の失敗など、特有の経営課題も抱えていることが指摘されている。教材には事例を踏まえながら、その解決策が提示されているので、その適否を考えながら読み進めてほしい。	
参考図書	①ジョン・A・デーヴィス他『オーナー経営の存続と継承』(流通科学大学出版、1999年) ②デニス・ケニヨン・ルヴィネ・ジョン・ウォード編『ファミリービジネス永続の戦略』(ダイヤモンド社、2007年) ③ダニー・ミラー、イザベル・ル・ブルトン=ミラー『同族経営はなぜ強いのか?』(ランダムハウス講談社、2005年) ● 参考図書に掲げる書籍は絶版となっていますが、ファミリービジネスの基本図書です。図書館などでご確認ください	
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリービジネス経営に必要な知識は、経営の基礎知識がベースであることを理解する</li> <li>・自社の経営だけでなく社会貢献を意識することにファミリービジネスの特徴を見出す</li> <li>・次世代に事業を継承するために必要なことは何か、その基本的な知識を身に着ける</li> </ul>	
レポート課題 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリービジネスと非ファミリービジネスの違いをスチュワードシップの観点から説明せよ。</li> </ul> 留意点：「スチュワードシップを考えると、非ファミリービジネスとの違いが最も明確になる」との教材著者の主張を踏まえて、違いが分かるように説明することが求められる。	
レポート課題 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリービジネスにおけるリーダーの役割について、課題図書②で示されている事例を参考に説明せよ。</li> </ul> 留意点：ファミリービジネスを率いるためにファミリーの視点、ビジネスの視点で求められるリーダーシップを、課題図書①・課題図書②を通読したうえで、説明することが必要となる。	

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解。教材に基づく学修①（第 1 章）
第 2 回	「学修の進め方」について教員との意見交換。教材に基づく学修②（第 2 章）
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（第 3・4 章）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（第 5・6 章）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（第 7.8 章）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（第 9 章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（終章）
第 8 回	教材 2 に基づく学修①（第 I 部 第 1・2 章）
第 9 回	教材 2 に基づく学修②（第 I 部 第 3 章）
第 10 回	教材 2 に基づく学修③（第 I 部 第 4 章）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿提出
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解。教材に基づく学修①
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換。教材に基づく学修②
第 3 回	教材に基づく学修③（第 I 部第 5 章）
第 4 回	教材に基づく学修④（第 II 部第 6 章）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（第 II 部第 7 章）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（第 II 部第 8 章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有
第 7 回	教材に基づく学修⑦（第 II 部第 9 章）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（第 II 部第 10 章）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（第 II 部第 11 章）
第 10 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿提出
第 11 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 12 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 13 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポート提出

科目名	ファミリー ガバナンス論特講	担当者	シナト 階戸 テルオ 照雄	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目では、ファミリー企業のガバナンスにつき、海外の豊富な具体的な企業ケース・スタディも交えて、考察してゆくことで、以下の能力を習得することを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 経営者が会社経営において適切な意思決定を行うために、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することを一般目標とする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 企業を巡るファミリーガバナンス論はもとより、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。</p>		
学修方法	<p>【学修方略 (LS)・学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本図書・教材の十分な理解、参考文献の検索と適切な理解、レポート作成、受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。</li> </ul> <p>【学修時間】</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材の学修：20 時間</li> <li>レポート執筆：10 時間</li> <li>レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導等を含む）：15 時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。</li> <li>manaba folio の掲示板や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>図書館、インターネット等で自ら論文検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; ・レポート課題1 初稿提出期限：6月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める締切日 ・レポート課題2 初稿提出期限：8月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める締切日</p> <p>&lt;後期&gt; ・レポート課題1 初稿提出期限：10月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める締切日 ・レポート課題2 初稿提出期限：12月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める締切日</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材内容を十分理解・修得し、レポートが作成されているかを基準とする（論旨明確さ、独創性、文章表現の妥当性、引用の適切性等）。
	平常評価	20 %	初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>初稿の提出は締め切りを遵守すること。</li> <li>経営関連科目の基礎的理解が前提のため、経営関連科目との同時履修が好ましい。また、他のファミリービジネス関連科目の履修も望ましいのは言うまでもない。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠雄編著、階戸照雄他著 教材名： 『日本のファミリービジネス—その永続性を探る—』（中央経済社，2016年） ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税
	前期はファミリー企業の現状と課題につき、理解を深めることに重点を置く。このため、データ・理論面だけではなく、実際のファミリー企業像が得られるよう、具体的な企業についての知識を得るように努める。
参考図書	ジョン・A・デーヴィス他『オーナー経営の存続と継承』（流通科学大学出版，1999年） ISBN:978-4-94-774630-6 2,800円+税 全国社外取締役ネットワーク編著『〈社外取締役〉のすべて』（東洋経済新報社，2004年） ISBN:978-4-49-255514-9 1,800円+税
履修上のポイント	1. ファミリー企業の定義から、その実態までの数々のデータを基に、理解を深める。 2. 一般的な企業とファミリー企業の経営課題の違いを十分理解する。 3. 一般的な企業と比較して、ファミリー企業のガバナンスの問題点を考える。
レポート課題 1	ファミリー企業成功の条件を述べよ。 <b>留意点</b> ：1社以上の具体例を説明すること。
レポート課題 2	ファミリー企業における、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の必要性につき、説明せよ。 <b>留意点</b> ：1社以上の具体例を含めること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ランデル・カーロック，ジョン・ワード（訳者）階戸照雄 教材名： 『ファミリービジネス 最良の法則』（ファーストプレス社，2015年） ISBN:978-4-90-433681-6 3,800円+税
	後期は、前期で習得した知識をベースにして、基本教材（『ファミリービジネス 最良の法則』）で広範囲に扱われている、ファミリーガバナンスを中心に知識を深めていく。本書は優れた実務的な経験を踏まえた理論書であり、深い理解が望まれる。
参考図書	階戸照雄、加藤孝治編著『ファミリーガバナンス』（中央経済社，2020年） ISBN:978-4-502-34471-8 2,450円+税
履修上のポイント	1. 欧米のファミリー企業の現状につき、知識を得る。 2. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の経営課題の違いを理解する。 3. 公開企業（非ファミリー企業）のコーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題点を理解する。 4. ファミリー企業のガバナンスの問題点を理解する。
レポート課題 1	ファミリーガバナンスとコーポレート・ガバナンスの違いにつき、説明せよ。 <b>留意点</b> ：1社以上の具体例を含めること。
レポート課題 2	ファミリーガバナンス実現のための条件を述べよ。 <b>留意点</b> ：1社以上の具体例を説明すること。

### 基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（第 1 章）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（第 2 章）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（第 3 章）
第 4 回	教材に基づく学修④（第 4 章）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（第 5 章）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（第 6 章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（第 7 章）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（第 8 章）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（第 9 章）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（終章）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（なぜファミリービジネスは悪戦苦闘しているのか）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（ファミリー計画と事業計画の策定を同時進行させる）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（ファミリーの価値観と企業文化）
第 4 回	教材に基づく学修④（ファミリーとビジネスのビジョン：ファミリーのコミットメントを探る）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（ファミリーの戦略：ファミリーの参加に関するプランニング）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（ビジネス戦略：会社の将来の計画）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（ファミリービジネスを成功へと導くための投資）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（ファミリービジネス・ガバナンスと取締役会の役割）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（ファミリーガバナンス：ファミリー集会和ファミリー協定）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（木を植える人々）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

科目名	事業承継論特講	担当者	ソネ 曾根 ヒデカズ 秀一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、「事業承継」について経営学の視点を中心に理解し、その知識を得るとともに、実践的な課題解決に関して修得することを目的とする。</p> <p>日本の地域、経済の活性化を担っていく存在として、近年、中小企業とりわけ、ファミリービジネス（同族企業、家族企業）に注目が集まっている。また、欧米の大学では、ファミリービジネス論の授業が盛んに行われ、わが国でもファミリービジネスを取り扱った授業が増えつつある。その中でも本講義では、ファミリービジネスの中でも重要項目となる事業承継に焦点をあて、理解を深めていく。「理論・概念」と「実例」の対応関係に留意し資料の読み込みがのぞまれる。</p> <p>以上の目的を達成することにより、理解力に加え、論理的かつ批判的思考力を中心に、問題発見、解決能力、計画・戦略立案、導入、遂行できる能力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 ファミリービジネスならびに事業承継の内容と位置づけについて、専門性を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリービジネスの基礎となる概要及び基礎理論を説明できる (知識)。</li> <li>・それをもとに、事業承継の仕組みを理解し、ケース事例を分析・評価・形成できる (技能)。</li> <li>・経営学の理論や情報などをもとに、事業承継に関する諸課題解決策の議論に参加し、コミュニケーションする (態度)。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教材の熟読ならびに体系的理解する。</li> <li>2. 長寿企業、ファミリー企業における事業承継の特徴や問題点を理解する。</li> <li>3. 事業承継に至るまでの後継者育成について理解する。</li> <li>4. 後継者の正統性の獲得および課題について検討を行う。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1つのレポート作成にあたり基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上 Manaba-folio への提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。(合計45時間)</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した指導を実施する。</li> </ul>		
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 複数回にわたるレポートを提出することで修士論文作成の際の必要となる基礎的な事項を修得することができる。具体的には、第1回目のレポートの草稿は、遅くとも<b>最終提出期限の1か月前</b>を目安にすること。</li> <li>● レポートの最終稿の提出時期については、学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材内容の理解、修得、レポートの構成、文章表現を基準とする。
	平常評価	20 %	草稿段階から最終稿に至るまでのプロセスや取組みを評価基準とする。
履修者への要望	<p>本講義の課題学修にあたっては、経営関連科目の基礎の理解が前提なため、経営関連科目との同時履修が望ましい。</p> <p>また、他のファミリービジネス関連の同時履修も望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 落合康裕 教材名： 『事業承継のジレンマ：後継者の制約と自律のマネジメント』（白桃書房、2016年） ISBN:978-456126682-2 3,200円+税
	テキストは長期存続している企業群4社を対象に、経営学、ファミリービジネスの視点を援用しながら事業承継をテーマに考察し論じたものである。そして、伝統と革新のダイナミズムの解明に取り組んだ研究成果である。ファミリー型長寿企業にみられる商慣習やしきたりといった厳しい伝統の継承が求められることが多いファミリー型長寿企業の経営者は、どのようにして独創的な行動をとり次世代の経営者として育っていくのか、というリサーチクエスションのもとに議論が進められていく。事業承継の理解に加えて、それに関連した諸事情の理解に有効である。
参考図書	ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠男編 『日本のファミリービジネス：その永続性を探る』（中央経済社、2016年） ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業承継の概要、プロセスについて理解する</li> <li>・ ファミリー企業と非ファミリー企業の事業承継の違いを理解する。</li> <li>・ 事業承継の課題と解決策について理解する。</li> </ul>
レポート課題 1	◎ファミリー型長寿企業の経営者は、どのようにして独創的な行動をとり次世代の経営者として育っていくのか説明せよ。  <b>留意点:</b> テキストのリサーチクエスションでもあるため、丹念に読むことで解が導かれると考える。
レポート課題 2	◎ファミリービジネスにおける承継者の正統性の獲得について、教材以外の事例もあげながら説明せよ。  <b>留意点:</b> 教材以外の正統性の獲得に関する事例を、文献やインターネット等から1つ以上具体的にあげて論じること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 曾根秀一『老舗企業の存続メカニズム：宮大工企業のビジネスシステム』 教材名： （中央経済社、2019年）ISBN:978-4-502-29981-0 3,800円+税
	本書はファミリービジネスの中でも長期存続してきた建築企業群4社を対象に、老舗企業の存続や事業承継のメカニズムを経営学（とくに経営戦略論、組織論）、経営史学融合の方法から論じたものである。そして、そこから伝統と革新のダイナミズムの解明に取り組んでいる。ファミリー型長寿企業にみられる商慣習やしきたりといった厳しい伝統の継承が求められることが多いファミリー型長寿企業の経営者は、どのようにして独創的な行動をとり次世代の経営者として育っていくのか、など先行研究では触れられてこなかった点について議論が進められる。
参考図書	デニス・ケニヨン・ルヴィネ・ジョン・ウォード編 『ファミリービジネス永続の戦略』（ダイヤモンド社、2007年） ISBN:978-4-478-33125-5 2,000円+税  星野妙子編 『ファミリービジネスの経営と革新：アジアとラテンアメリカ』（アジア経済研究所、2004年） ISBN:978-4-258-04538-9 4,500円+税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わが国における長期存続企業の事業承継について理解する。</li> <li>・ 事業承継における後継者の正統性の問題を理解する。</li> <li>・ 承継プロセスにおける承業経営者の育成、選定、役割に着目し、その必要性について理解する。</li> </ul>
レポート課題 1	◎承業経営者（中興の祖）および企業家精神の発露が長期存続に対してどのような役割を果たすのか述べよ。  <b>留意点:</b> 複数企業の事例を含めながら説明することが望ましい。
レポート課題 2	◎長期存続を果たすために最も重要なことは何であると考えるか。事業承継の視点も含めながら述べよ。  <b>留意点:</b> 著者が論じていることをまとめたうえで見解を示してほしい。

### 基本教材 1

第 1 回	オリエンテーション：より詳細な授業の概要説明と導入
第 2 回	事業承継、ファミリービジネスの定義・概要・特徴
第 3 回	事業承継、ファミリービジネスの先行研究と理論
第 4 回	事業承継のプロセスと世代間の相互作用的展開
第 5 回	ファミリービジネスのガバナンス
第 6 回	ファミリービジネスの存続と後継者育成
第 7 回	ファミリービジネスにおける承継プロセス
第 8 回	ファミリービジネス特有の経営戦略
第 9 回	ファミリービジネス内外の利害関係者との関係性と維持
第 10 回	生得的な地位と獲得的な地位とのジレンマ
第 11 回	事業承継における後継者の正統性の獲得
第 12 回	ファミリービジネスの未来と課題、レポート課題 1, 2 の初稿の提出
第 13 回	レポート課題 1 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 2 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 15 回	まとめと振り返り：レポート課題 1, 2 に関する自らの考えを共有し最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	オリエンテーション：より詳細な授業の概要説明と導入
第 2 回	老舗企業の定義・概要・特徴
第 3 回	老舗、ファミリービジネス研究の変遷
第 4 回	ファミリービジネス、事業承継を捉えた理論
第 5 回	長期存続を果たす経営の人材
第 6 回	長期存続を果たすガバナンス
第 7 回	顧客関係、組織構造、技能の継承を反映した事業承継
第 8 回	承業経営者（継承経営者）の誕生とその役割
第 9 回	生得的獲得と十全的参加
第 10 回	事業承継と存続の軌跡
第 11 回	組織文化と企業家精神
第 12 回	サステイナブルな経営論の再考、レポート課題 1, 2 の初稿の提出
第 13 回	レポート課題 1 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 2 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 15 回	まとめと振り返り：レポート課題 1, 2 に関する自らの考えを共有し最終レポートを提出する

科目名	事業創造論特講	担当者	ナカムラ ユウイチロウ 中村 裕一郎	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、新規事業創造（企業内での新規事業開発、ベンチャー企業の起業）についての知識を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>① 新規事業創造の方法論と日本の現状について、自ら学び、当該分野における課題を提示できる。</p> <p>② 自らの属している組織における新規事業創造の課題を抽出して、その課題を解決するための行動・活動を自ら考えることができる。</p> <p>③ 社会に求められる新しい事業を創造するため、指導的立場で企業内において新しい事業を立ち上げる、あるいは、自らベンチャー企業を起業することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>企業内における新規事業開発、ならびにベンチャー企業の起業に必要な事業創造に関する専門性を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>① 事業創造に関する理論や事例について説明できる。（知識）</p> <p>② 事業創造を阻害する課題を抽出し、その解決策を提示・実行できる。（技能）。</p> <p>③ 現実の社会に求められている新規事業を立ち上げるため、自ら行動し、多くの関係者と協調できる。（態度・習慣）</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>① 基本教材・副教材を学修する。（自習，SBO①②）【20時間/レポート1本】</p> <p>② レポートの初稿を作成する（自習・レポート作成，SBO①②）【10時間/レポート1本】</p> <p>③ 教員とのディスカッション（複数回の添削指導）を通じて、最終的にレポートを作成する。最終レポートを完成させるには、提示された教材以外に自ら参考資料を探索して、そこから得られる知見を加えることが必須である。（自主研究・レポート作成・ディベート，SBO②③）【15時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio の掲示板機能を利用した、複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生とのディスカッションによって、アクティブラーニングを行う。</p>		
スケジュール	<p>前期は、レポート課題1の初稿の締切りを6月末、課題2の初稿の締切りを8月末とする。最終稿の提出期限は、いずれも学事暦で定められた期日とする。</p> <p>後期は、レポート課題1の初稿の締切りを10月末、課題2の初稿の締切りを12月15日とする最終稿の提出期限は、いずれも学事暦で定められた期日とする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	① レポートが求める課題に対して適切に解答されているか ② 結論の論拠が明確で、説得力のあるものになっているか。 ③ 結論に独自性があるか。（加点項目）
	観察記録	20%	① レポートの提出期限が守られているか。 ② 教員とのディスカッションへの対応
履修者への要望	<p>提示された教材、参考図書以外に、新聞・雑誌・ネットメディアなどの記事のほか、学術論文、民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。</p> <p>学修計画のすり合わせを行うために、履修登録後、速やかに担当教員に連絡すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： グロービス経営大学院編著 教材名： 『グロービスMBA事業開発マネジメント』（ダイヤモンド社，2010年） (1) ISBN:978-4478012130 2,800円+税
	著者名： ブランク，ステイーブン G. 教材名： 『アントレプレナーの教科書[新装版]』（翔泳社，2016年） (2) ISBN:978-4798143835 2,400円+税
	教材(1)、参考図書(2)は、新規事業開発やそれに必要な事業計画書についての標準的な考え方を述べた文献。教材(2)、参考図書(3)は、事業創造の新しいプロセスについて述べた文献。レポート課題1を行うには参考図書(2)を参照すること、レポート課題2を行うには参考図書(3)を参照することが望まれる。
参考図書	(1) グロービス経営大学院編著『グロービスMBAビジネスプラン[新版]』（ダイヤモンド社，2010年） ISBN:978-4478014745 2,800円+税 (2) マウリヤ，アッシュ『実践リーンスタートアップ』（オライリー・ジャパン，2012年） ISBN:978-4873115917 2,200円+税
履修上のポイント	新規に事業を創造するための標準的なプロセスと、新しいプロセスについて学ぶ。自らの体験等を踏まえて、それらを実践するとどうなるかについて深く考察して欲しい。
レポート課題1	事業創造のプロセスにおける事業計画書（ビジネスプラン）の役割、意義について、昨今の経営環境を踏まえて、5,000字以内にまとめなさい。 <b>留意点：</b> 取り上げる事業創造のプロセスは、企業内における新規事業開発であっても、起業を前提とする事業創造であっても構わないが、どちらについての記述であるか明確にすること。
レポート課題2	シリコンバレー等のベンチャー企業で採用されるようになった新しい事業創造プロセスが日本においても実践可能なものであるかについて5,000字以内にまとめなさい。 <b>留意点：</b> 新しい事業創造プロセスを日本で実行しようとする際に阻害要因となり得るものを挙げ、その阻害要因を克服できる可能性を考察すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 米倉誠一郎 教材名： 『経営革命の構造』（岩波書店，1999年） (1) ISBN:978-4004306429 820円+税
	著者名： 中村裕一郎 教材名： 『アライアンス・イノベーション—大企業とベンチャー企業の提携:理論と実際—』（白桃書房，2013年） ISBN:978-4561266204 3,500円+税
	教材(1)は、産業革命からシリコンバレーまでの技術と組織のイノベーションの主役の変遷をたどる経営通史。参考図書(1)、(2)は、その2000年以降の変化がわたる文献。教材(2)は、大企業の事業創造にとって重要なベンチャー企業との提携が、日本ではあまり行われていない原因とその解決策を提示する。解決策としてCVCの活用を提言するが、参考図書(3)はそのCVCについて述べている。
参考図書	(1) マラビー，セバスチャン『The Power Law (ザ・パワー・ロー) ベンチャーキャピタルが変える世界 (上)』（日経BP 日本経済新聞出版，2023年） ISBN:978-4296115082 1900円+税 (2) 後藤・ウィックハム『ベンチャー・キャピタリスト—世界を動かす最強の「キングメーカー」たち』（ニューズピックス，2022年） ISBN:978-4910063218 2,600円+税 (3) ロマンズ，アンドリュー『CVC コーポレートベンチャーキャピタル—グローバルビジネスを勝ち抜く新たな経営戦略』（ダイヤモンド社，2017年） ISBN:978-4478084212 2,200円+税
履修上のポイント	イノベーションや事業創造の仕組みとしてのシリコンバレーモデルのエコシステムについての理解を深めることが目標。それには、シリコンバレーを構成する主要なメンバーへの理解が不可欠。
レポート課題1	イノベーションや事業創造における、ベンチャー企業、ベンチャーキャピタル、大企業それぞれの役割について5,000字以内にまとめなさい。 <b>留意点：</b> 昨今の企業を取り巻く経営環境の大きな変化に留意して考察すること。
レポート課題2	課題1で述べられたベンチャー企業、ベンチャーキャピタル、大企業それぞれの役割が、我が国において十分に果たされているかどうかについて5,000字以内でまとめなさい。 <b>留意点：</b> 欧米や中国の状況と比較してみることが重要。

### 基本教材 1

第 1 回	本科目の「目的」と「到達目標」を理解した上で「学修の進め方」を、教材の概要を理解する
第 2 回	教材(1)に基づく学修①（アイデアとビジネスモデル、ビジネスプラン）
第 3 回	教材(1)に基づく学修②（新事業戦略の定石）
第 4 回	教材(1)に基づく学修③（人材・組織づくりとリーダーシップ）
第 5 回	教材(1)に基づく学修④（マネジメント・システムの強化、新ビジネスに必要なもの）
第 6 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 7 回	レポート課題 1 の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第 8 回	レポート課題 1 について最終レポートを提出する
第 9 回	教材(2)に基づく学修①（製品開発モデルと顧客開発モデル）
第 10 回	教材(2)に基づく学修②（顧客発見）
第 11 回	教材(2)に基づく学修③（顧客実証）
第 12 回	教材(2)に基づく学修④（顧客開発と組織構築）
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 14 回	レポート課題 2 の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第 15 回	レポート課題 2 について最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	教材(1)に基づく学修（イノベーション・モデルの変遷）
第 2 回	教材(2) 第 1 章に基づく学修（イノベーション・モデルとしてのシリコンバレー）①
第 3 回	参考図書(1)に基づく学修（イノベーション・モデルとしてのシリコンバレー）②
第 4 回	参考図書(2)に基づく学修（シリコンバレーモデルを超える新たなイノベーション・モデル）
第 5 回	教材(2) 第 2 章に基づく学修（大企業にとってのベンチャー企業との提携の意義）
第 6 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 7 回	レポート課題 1 の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第 8 回	レポート課題 1 について最終レポートを提出する
第 9 回	教材(2) 第 3～5 章に基づく学修（日本の大企業とベンチャー企業との提携）
第 10 回	参考図書(3)に基づく学修（イノベーションを駆動する存在としてのCVCの役割）
第 11 回	教材(2) 第 8 章に基づく学修（日本の大企業がベンチャー企業との提携を成功させるための方策）
第 12 回	ここまでの学修を踏まえ、ベンチャー企業、大企業、ベンチャーキャピタルの状況について調査・考察
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 14 回	レポート課題 2 の初稿に対する教員から指摘に基づき内容を再検討する
第 15 回	レポート課題 2 について最終レポートを提出する

科目名	地方創生・振興論特講	担当者	カタガミ トシキ 片上 敏喜	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

### 【科目概要】

目的	<p>本講座では、身近にある地域の営みを見つめ直し、それらを対象とした活動から、自らの地域社会を住みやすくしていく取組みとしての地方創生・振興論の考えやアプローチのあり方等について修得することを目的とする。</p> <p>地域経済、過疎化、地域の雇用、地域環境の変化などの諸問題に対応するためには、地方自治体や企業をはじめ、関連する諸団体や人々が地域を軸として展開していく幅広い分野からのアプローチが重要となる。本講座では、地域が抱える様々な課題に、多様な側面から接近することを通じて、地域活性化の本質について理解を深めていく。</p>		
到達目標	<p><b>【一般目標 (GIO)】</b> 地方創生や地域振興は、何を持って達成されるのかということについての知識や枠組み、働きかけのあり方について修得する。</p> <p><b>【行動目標 (SBOs)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地方創生・地域振興の目指すべき方向について説明できる (知識)</li> <li>・ 地方創生・地域振興を行う時の具体的なアプローチについて理解できる (技能)</li> <li>・ 自身の身近にある地域の価値を発見し、その価値を発信していくために必要な要件やアイデアを述べることができる (態度)</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p><b>【学修方略 (LS) と学修時間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題教材の内容を十分理解した上で、地方創生や地域振興における課題や展開手法、地域を担う人びとの育成の在り方について検討を行う。また地域を活性化する目的やそれらを行うことが私たちの生活にどのような影響を持つのかということについて、考えを深める。</li> <li>・ 一つのレポート作成にあたっての教材・参考文献等の読み込みについては 20 時間以上、manaba folio への提出等については、初稿 15 時間以上、推敲 10 時間以上を目標とする (計 45 時間以上)。</li> </ul> <p><b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> manaba folio を活用した相互交流を重視した指導を行う。</p>		
スケジュール	<p>レポートを提出することを通じて、基礎的かつ応用的な知識を修得するために、課題 1・2 の初稿提出は、前期 7 月末、後期 11 月末とする。レポートの最終提出については、学事暦に定められた日までに必ず提出することを強く求める。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容の理解、修得、レポート内容・構成、文章表現等により評価する。
	観察記録	20%	初稿提出から最終稿の提出に至るまでの過程や受講者の取り組みの姿勢等から評価する。
履修者への要望	<p>履修登録を行った際に、その旨を担当教員 (katagami.toshiki@nihon-u.ac.jp) にメールで連絡をお願いします。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 岡田 知弘 教材名： 『地域づくりの経済学入門（増補改訂版）－地域内再投資力論』 （自治体研究社、2020年）ISBNコード：9784880377117 2,970円（税込）
	本テキストは、経済のグローバル化の進行の中で、どのように地域を活性化されていけば良いかという観点から編まれている。新型コロナウイルス感染症等から端を発して課題が浮き彫りになった一極集中による「過剰、過密」がもたらす多くの弊害に対して、「地域内再投資力」（＝地域内で繰り返し再投資する力）を軸に、人々の「生活領域」から活性化を考え、理解を高めていくことに適している。
参考図書	内田樹著『ローカリズム宣言「成長」から「定常」へ』 （株式会社デコ、2018年）ISBNコード：9784906905164 1,760円（税込）
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とは何かを理解する。</li> <li>・地域づくりの本義について理解する。</li> <li>・地域社会の持続可能性とは何かということについて理解する。</li> </ul>
レポート課題 1	本テキストを全て熟読した上で、地域内再投資力・地域内経済循環の重要性と具体的なアプローチについて説明を行う。 <b>留意点：</b> 教材以外で、受講者自身が関心を持つ対象を文献・インターネット・現地調査等から2つ以上、事例を取り上げて具体的に論じる。
レポート課題 2	過去の地域開発政策の失敗した要因について説明を行う。あわせて、教材以外の事例も取り上げながら、失敗例とその要因について説明を行う。 <b>留意点：</b> 教材以外で、受講者自身が関心を持つ対象を文献・インターネット・現地調査等から2つ以上、事例を取り上げて具体的に論じる。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 藤山 浩 教材名： 『田園回帰 1%戦略－地元にと仕事を取り戻す－』 （農山漁村文化協会、2015年）ISBNコード：9784540142437 2,420円（税込）
	本テキストは、地域創生・地域振興に重要な人口の問題を人々が暮らす地域のあり方とともに考え、これからの生活や暮らし、地域社会を持続的に営んでいくためのアプローチについて考察することを中心に編まれている。特に、工場誘致や観光開発といった手法で地域の活性化をはかるのではなく、地域内でいかにして経済循環を起こしていくかということについて、理解を高めていくことに適している。
参考図書	藤山浩編著『「循環型経済」をつくる』（農山漁村文化協会、2018年） ISBNコード：9784540171086 2,860円（税込） 渡邊格著『田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」』（講談社、2017年） ISBNコード：9784062817141 869円（税込）
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域振興を行う上で必要な要素について理解する</li> <li>・地域を支える根幹となる人口問題について理解する。</li> <li>・地域を支える社会システムのあり方について理解する</li> </ul>
レポート課題 1	本テキストを熟読した上で、現在の日本において大都市に人口が集中し、過剰・過密になっている現状がもたらす様々な問題について説明を行った上で、それらの問題を解決することがもたらす効果について具体的に述べる。 <b>留意点：</b> 教材以外で、受講者自身が関心を持つ対象を文献・インターネット・現地調査等から2つ以上、事例を取り上げて具体的に論じる。
レポート課題 2	本テキストで述べられている田園回帰を行うための条件の整備について、どのような要素が求められるかということの説明をした上で、それらの要素を重要視して取り組んでいる地域を、文献・インターネット・現地調査等を通じて取り上げて論じる。 <b>留意点：</b> 上記の対象地域については、2つ以上の地域を取り上げて論じる。

### 基本教材 1

第 1 回	課題に対する理解、教材に基づく学修①（はじめに・第 1 章）
第 2 回	教材 1 に基づく学修②（第 2 章）
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（第 3 章）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（第 4・5 章）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（第 6・7 章）
第 6 回	教材 1 に基づく学修および学修の進捗状況を教員と共有
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑥（第 8・9 章）
第 8 回	教材 1 に基づく学修⑦（第 10・11 章）
第 9 回	教材 1 に基づく学修⑧（第 12 章）
第 10 回	教材 1 に基づく学修および学修の進捗状況を教員と共有
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容を取りまとめて、初稿提出
第 12 回	レポート課題 1 について、教員からの指摘事項を受けて、それらの指摘に基づいた内容の再検討
第 13 回	レポート課題 2 について、教員からの指摘事項を受けて、それらの指摘に基づいた内容の再検討
第 14 回	レポート課題 1・2 に関する総合的な内容の深化
第 15 回	レポート課題 1・2 に関して、自身の考察を教員と共有して最終レポートを提出する

### 基本教材 2

第 1 回	課題に対する理解、教材に基づく学修①（はじめに・序章）
第 2 回	教材 2 に基づく学修②（第 1 章）
第 3 回	教材 2 に基づく学修③（第 2 章）
第 4 回	教材 2 に基づく学修④（第 3 章）
第 5 回	教材 2 に基づく学修⑤（第 4 章）
第 6 回	教材 2 に基づく学修および学修の進捗状況を教員と共有
第 7 回	教材 2 に基づく学修⑥（第 5 章）
第 8 回	教材 2 に基づく学修⑦（第 6 章）
第 9 回	教材 2 に基づく学修⑧（第 1～6 章）
第 10 回	教材 2 に基づく学修および学修の進捗状況を教員と共有
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容を取りまとめて、初稿提出
第 12 回	レポート課題 1 について、教員からの指摘事項を受けて、それらの指摘に基づいた内容の再検討
第 13 回	レポート課題 2 について、教員からの指摘事項を受けて、それらの指摘に基づいた内容の再検討
第 14 回	レポート課題 1・2 に関する総合的な内容の深化
第 15 回	レポート課題 1・2 に関して、自身の考察を教員と共有して最終レポートを提出する

科目名	ローカルビジネス論特講 令和4年度以前入学生は履修できません。	担当者	サトウ 佐藤 ショウヘイ 奨 平	期間	通年	単位数	4
-----	------------------------------------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>グローバル化、人口減少、少子高齢化、デジタル化、新型コロナなどの環境要因は、地域経済・社会の変容に影響を与えてきた。こうした中、地域に根ざした産業は創意工夫で日々アイデアを磨き合い、新たな製品・サービスの開発・提供を通じて、地域の魅力創出や課題解決などの顧客創造に向き合っている。グローバリゼーションの進展下において、昨今のローカルビジネスが地域密着型経営や高品質地域特産化による製品差別化で生き残りを図ろうとしているのは、その例証であるといえよう。日本が資源に乏しい国であると言われることがあるが、地域に目を向けると、むしろそこは宝の山にも思えてくることもある。近年では、潜在的な資源を顕在化することで、新たな価値創出を実現するローカルビジネスが続々と登場している。本特講では、ローカルビジネスの最新動向に注目しながら、食・農・資源・観光・まちづくり・サステナビリティ等の観点による新たな価値創出の理論と方法について理解を深め、考察を試みる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 複数の具体的な事例から、新常态社会でのローカルビジネスの方向性を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ローカルビジネスの事例調査に取り組むことができる。</li> <li>② ローカルビジネスの具体的な事例研究(ケーススタディ)から得た知見をもとに、自身の研究・実務や社会活動に生かすことができる。</li> <li>③ 地域活性化・地域創生等の課題解決型ローカルビジネスの創出に向けて行動できる。</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 基本教材の内容を理解しながらレポートを作成する。ローカルビジネスに関連する知識を広げるために、シラバスに記載した参考図書のみならず、シンクタンクや行政等の公表する論文・報告書、各種記事からも情報を収集する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基本教材の内容を理解しながらレポートを作成する。(15時間/レポート1本)</li> <li>② 教員のコメントを踏まえてレポートに加筆して仕上げる。(15時間/レポート1本)</li> <li>③ 以上を踏まえ、自身で行ったローカルビジネス調査の結果を提出する。(15時間/レポート1本)</li> </ol>		
スケジュール	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本教材1 (レポート課題1) の初稿提出期限を <b>2023年6月末</b>とする。</li> <li>・基本教材1 (レポート課題2) の初稿提出期限を <b>2023年7月末</b>とする。</li> <li>・基本教材1 の最終稿の提出期限は学事暦で定められた日までとする。</li> </ul> <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本教材2 (レポート課題1) の初稿提出期限を <b>2023年10月末</b>とする。</li> <li>・基本教材2 (レポート課題2) の初稿提出期限を <b>2023年11月末</b>とする。</li> <li>・基本教材2 の最終稿及び調査結果の提出期限は学事暦で定められた日までとする。</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	①基本教材の内容を理解したうえで解答されているか。 ②論理的に述べられているか。 ③基本教材以外の資料を活用して解答しているか。
	観察記録	20 %	①レポートの提出期限が守られているか。 ②レポートの論文としての体裁が守られているか。
履修者への要望	<p>基本教材を用いた学修と併せて、ローカルビジネス (1か所以上) を調査していただきたい。調査手法は現地調査や現地視察が望ましいが、制約がある場合は、ウェブサイトやオンライン等を駆使することでも構わない。何らかの手法を駆使して、ローカルビジネスのケーススタディ (事例研究) を完成させていく。不明点や質問等については、manaba folio で受け付ける。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 北川太一編著 教材名： 『地域産業の発展と主体形成－食と農、資源を活かす－』 放送大学教育振興会、2020年。ISBN：978-4-595-14134-8
	食と農、資源を基軸に、地域産業と主体形成にかかわる論理、鍵概念、事例について解説している。食と農、資源に関わるローカルビジネスの理論と展開を、主体形成と地域経営の観点から考察している。近年の政策動向の解説を踏まえ、地域経営の理論と展開、フードシステム、地域ブランド商品づくり、農村女性起業、農山村レクリエーション、地場産業、非営利協同セクター等の展開とそのケーススタディの知見が述べられている。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本大学食品ビジネス学科編著『人を幸せにする食品ビジネス学入門（第2版）』オーム社、2021年。</li> <li>・ 高橋正郎監修・清水みゆき編著『食料経済－フードシステムからみた食料問題－（第6版）』オーム社、2022年（佐藤奨平「第4章 食品企業の役割と食品製造業の展開」）。</li> <li>・ 小田切徳美編『新しい地域をつくる－持続的農村発展論－』岩波書店、2022年。</li> </ul>
履修上のポイント	まずは、ローカルビジネスを取り巻く近年の政策・経済・社会・技術動向をおさえつつ、「新しい内発的発展論」等の地域経営論、フードシステム論、産業集積論などのローカルビジネスの理論編を理解する。前期では、本書（基本教材1）から多様なローカルビジネスの理論とケースに触れ、そのうえで後期は応用編として、ローカルビジネスのマーケティングのあり方を検討したのち、最終的に調査をもとにケーススタディを行う。
レポート課題 1	食と農を基軸とするローカルビジネスの展開と課題をまとめ、考察を述べよ（3,000字程度）。 <b>留意点：</b> 第1章から第8章までの内容を参考にするとよい。
レポート課題 2	本書で取り上げられたケース（事例）を振り返り、特に印象に残ったものを取り上げて、その特徴と他地域への適用可能性について検討せよ（3,000字程度）。 <b>留意点：</b> 第1章から第15章までの内容をもとにしてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西村順二・陶山計介・田中洋・山口夕妃子編著 教材名： 『地域創生マーケティング』中央経済社、2021年。ISBN：978-4502396816
	本書の表紙に記載されたサブタイトルは、“Rise of the Regions in Japan :Marketing Theory and Cases”である。ローカルビジネスの応用編として、マーケティングの視点から地域創生のあり方を考えていく。多様な地域資源を活かした多様な視点・手法を理解するために、地域・都市の再生、地域の歴史・文化の再発見、伝統産業・地場産業の役割とその継承、観光産業の推進、ローカルビジネス・イノベーション、「コト」ベースのブランディング、グローバリゼーション、SDGsを題材にしたローカルビジネスのケーススタディを検討する。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関満博『地域産業の「現場」を行く』第1集～第10集(完結)、新評論、2008年～2017年。</li> <li>・ 宮副謙司『地域活性化マーケティング－地域価値を創る・高める方法論－』同友館、2014年。</li> <li>・ 岩永洋平『地域活性マーケティング』ちくま新書、2020年。</li> </ul>
履修上のポイント	前期（基本教材1）で学んだ多様なローカルビジネスの理論とケースを踏まえ、後期は応用編として、基本教材2を用いてローカルビジネスのマーケティングのあり方を検討するとともに、調査をもとにケーススタディを行う。
レポート課題 1	本書で取り上げられたケース（事例）を振り返り、特に印象に残ったものを取り上げて、その特徴と他地域への適用可能性について検討せよ（3,000字程度）。 <b>留意点：</b> 第1章から第10章までの内容をもとにしてください。
レポート課題 2	調査に基づいてローカルビジネスのケーススタディ（事例研究）を行い、まとめよ（3,000字程度）。 <b>留意点：</b> 現地調査・視察を行うことが望ましいが、制約がある場合は、ウェブサイトやオンライン等を駆使することでも構わない。何らかの手法を駆使して、ローカルビジネスのケーススタディ（事例研究）を完成させていく。

## 基本教材 1

第 1 回	本講義の目標とアプローチ— 地域をめぐる状況と先行研究—	【◆レポート課題 1 の作成を開始する】
第 2 回	国土政策の変遷と農業・農村地域政策の展開	
第 3 回	地域経営の理論と展開	
第 4 回	地域産業の発展とフードシステム 福島県におけるワイン産地の形成に向けた課題（ケーススタディ）	
第 5 回	地域住民主体による地域ブランド商品づくりの展開	
第 6 回	地域の発展における農村女性起業の役割 女性起業の展開と役割（ケーススタディ）	
第 7 回	【◆レポート課題 1：内容をまとめ、初稿を提出する】	
第 8 回	【◆レポート課題 1：教員からのコメントをもとに、内容を再検討する】	
第 9 回	田園回帰時代における農山村レクリエーションの展開	【◆レポート課題 2 の作成を開始する】
第 10 回	農山村資源を活用した地域産業の展開 海外における地域産業の展開事例・オランダ（ケーススタディ）	
第 11 回	産業集積の実態—地域学習とイノベーション— 地場産業の発展とモノづくり	
第 12 回	地域産業の主体形成と非営利協同セクターの役割 地域産業の発展と主体形成の課題	
第 13 回	【◆レポート課題 2：内容をまとめ、初稿を提出する】	
第 14 回	【◆レポート課題 2：教員からのコメントをもとに、内容を再検討する】	
第 15 回	【◆レポート課題 1 及び 2 の最終稿を提出する】	

## 基本教材 2

第 1 回	地域の活性化を考える視座	【◆レポート課題 1 の作成を開始する】
第 2 回	地域創生の論理とマーケティング・コミットメント 持続可能なまちづくりに求められる観光産業	
第 3 回	地域創生と SDGs 地域創生と地域住民・観光客の満足	
第 4 回	地域創生と「コト」ベースのブランディング （事例）地域創生におけるゲートキーパーの役割—上川町役場と上川大雪酒造との関係を中心に—	
第 5 回	（事例）地域特産品の創出と地場産業の発展 （事例）着地型観光による地域創生	
第 6 回	（事例）有田焼にみる海外展開と地域創生 （事例）山梨ワインクラスター—文化システムの視点から見た地域産業—	
第 7 回	【◆レポート課題 1：内容をまとめ、初稿を提出する】	
第 8 回	【◆レポート課題 1：教員からのコメントをもとに、内容を再検討する】	
第 9 回	調査に基づくケーススタディ（事例研究）	【◆レポート課題 2 の作成を開始する】
第 10 回	調査に基づくケーススタディ（事例研究）	
第 11 回	調査に基づくケーススタディ（事例研究）	
第 12 回	調査に基づくケーススタディ（事例研究）	
第 13 回	【◆レポート課題 2：内容をまとめ、初稿を提出する】	
第 14 回	【◆レポート課題 2：教員からのコメントをもとに、内容を再検討する】	
第 15 回	【◆レポート課題 1 及び 2 の最終稿を提出する】	

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、①調査の種類、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し、実際に調査票を作成し、面接計画を作ることを目的とする。②調査分析に必要な統計手法について学習し、実際に分析できることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて、具体的克論理的な見解を示すことができ、その限界を認識することができる。</p> <p>II. データを分析し、分析結果の意味を理解し、問題を解決することができる。</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 データを注意深く読み取り、適切な分析を行うことができ、分析結果を客観的に解釈することができる。</p> <p>【行動目標（SB0s）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる）。</li> <li>データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。</li> <li>データ分析に必要なコンピュータ・リテラシーを身につけられる。</li> <li>収集されたデータを、統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し、分析した結果を解釈することができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。 1つのレポート課題の完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材および参考文献の読み込み：20時間</li> <li>レポート課題の執筆：10時間</li> <li>Manaba-Folioへのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に、想定される質問とその回答を纏めた「Q &amp; A」を公開する。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</li> <li>オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題1：6月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材1のレポート課題2：8月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材2のレポート課題1：11月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2025年1月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材2のレポート課題2：12月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2025年1月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	79%	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に)0点となります。</li> <li>レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います(こうしたレポートは評価の対象としません)。教材の引き写しは評価の対象外とします。</li> </ul>
	観察記録	21%	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出までにManaba-Folio上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。</li> <li>草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。</li> </ul>
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをレポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献(引用文献)と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献(参考文献)とは仕分けて示してください。</li> <li>要覧にもあるように、後期課題のレポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少数の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をレポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 鈴木淳子 教材名： 『質問紙デザインの技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2016年） ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税</p> <p>(2) 著者名： 鈴木淳子 教材名： 『調査的面接の技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2005年） ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税</p>
	<p>(1)は、主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。 (2)は、研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。</p>
参考図書	<p>大竹恵子（編著）『なるほど！ 心理学調査法』（北大路書房，2017年） ISBN:978-4-7628-2990-1 2,200円+税</p> <p>高橋尚也他（編著）『心理調査と心理測定尺度 計画から実施・解析まで』（サイエンス社，2023年） ISBN 978-4-7819-1568-5 2,350円+税</p> <p>三浦麻子（監修），米山直樹・佐藤 寛（編著）『なるほど！ 心理学面接法』（北大路書房，2018年） ISBN:978-4-7628-3051-3 2,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>レポート課題における「①質問紙（アンケート調査）を行う手順」と「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所」は、教材の『質問紙デザインの技法』を参考にし、「③面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と、それらの長所と短所」は、教材の『調査的面接の技法（第2版）』を参考にすること。</p>
レポート課題 1	<p>以下に示す項目について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順 ②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所 ③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順 ④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と、それらの長所と短所 <b>留意点：</b>各項目あたり2,000字以内を目安に説明すること。</p>
レポート課題 2	<p>以下の2項目のうち、一つを選ぶこと： ①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について、調査内容をまとめ、実際に質問紙（アンケート）を作成すること。 ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について、調査内容をまとめ、ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成すること。 <b>留意点：</b>教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては、調査後に分析がしやすいように配慮すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 南風原朝和（著） 教材名： 『心理統計学の基礎 統合的理解のために』（有斐閣アルマ，2002年） ISBN:4-641-12160-5 2,200円+税</p> <p>この教材は、統計的手法について詳細に解説したものである。</p>
参考図書	<p>村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会，2008年） ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税</p> <p>松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』（北大路書房，2002年） ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税</p> <p>繁樹算男・森 敏昭・柳井晴夫『Q &amp; Aで知る統計データ解析 Dos and DON'Ts』（サイエンス社，2008年） ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税</p>
履修上のポイント	<p>データ解析用ソフトは教務課より無料提供されるが、もし所有のPCがMackintoshの場合は担当講師（田中）まで相談すること。（基本教材2に関しては）高等学校の数学Bを履修した程度の知識があることが望ましい。</p>
レポート課題 1	<p>以下に示す用語について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性 <b>留意点：</b>各用語あたり800字以内を目安に、3,000～4,800字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし、その際に用いた記号について脚注をいれること。</p>
レポート課題 2	<p>与えられたデータをもとに、統計解析ソフト（BellCurve Excel 統計，㈱社会情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い、その結果を要約すること。 ①すべての変数について度数分布、代表値、散布度を示す。 ②任意に2変数を選び相関図を描き、その相関図について相関係数を算出する。 ③3つ以上の変数を選び、重回帰分析法を実施する。 ④5つ以上の変数を選び、因子分析法を実施する。 <b>留意点：</b>分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（Manaba-Folio）に添付される。PC統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし、掲載する図表をExcelで作成するのはかまわない）。</p>

## 基本教材 1

第 1 回	教材に基づく学修(1)	質問紙調査法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：質問紙とは何か、質問紙法の基礎（教材 1; 1 章, 2 章）
第 2 回	教材に基づく学修(2)	質問紙法の調査プロセス、データ収集の技法（教材 1; 3 章, 4 章）
第 3 回	教材に基づく学修(3)	サンプリングの技法、調査実施に向けての準備（教材 1; 5 章, 6 章）
第 4 回	教材に基づく学修(4)	倫理的ガイドライン、質問紙デザインの基礎、質問紙の構成と体裁（教材 1; 7 章, 8 章, 9 章）
第 5 回	教材に基づく学修(5)	質問の種類と順序、質問作成、ワーディング（教材 1; 10 章, 11 章, 12 章）
第 6 回	教材に基づく学修(6)	選択回答法、自由回答法、予備調査（教材 1; 13 章, 14 章, 15 章）
第 7 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1：①, ②の草稿作成
第 8 回	教材に基づく学修(7)	調査的面接法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：調査的面接法とは何か（教材 2; 第 1 章）
第 9 回	教材に基づく学修(8)	調査的面接法の分類、データ収集法の組み合わせ（教材 2; 第 2 章, 第 3 章）
第 10 回	教材に基づく学修(9)	調査的面接法のデザイン（教材 2; 第 4 章）
第 11 回	教材に基づく学修(10)	調査的面接法のガイドライン（教材 2; 第 5 章）
第 12 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1：③, ④の草稿を作成 ①②とともに提出し、その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 13 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 14 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の草稿を提出し、その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(5)	レポート課題 2 の最終レポート作成

## 基本教材 2

第 1 回	教材に基づく学修(1)	心理学研究における統計の役割について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：心理学研究と統計（第 1 章）
第 2 回	教材に基づく学修(2)	分布の記述的指標（第 2 章）
第 3 回	教材に基づく学修(3)	相関係数の把握と回帰係数（第 3 章）、確率モデルと標本分布（第 4 章）
第 4 回	教材に基づく学修(4)	統計的推定・検定（第 5 章）、平均値差と連関についての統計的推定（第 6 章）
第 5 回	教材に基づく学修(5)	線形モデルの基礎（第 7 章）、偏相関と重回帰分析（第 8 章）
第 6 回	教材に基づく学修(6)	実験デザインと分散分析法（第 9 章）
第 7 回	教材に基づく学修(7)	因子分析法（第 10 章）
第 8 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 9 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 10 回	実習課題(1)	サンプルデータを確認し、Excel と統計解析ソフトの操作に慣れる
第 11 回	実習課題(2)	①サンプルデータの全変数について度数分布、代表値、散布度を示す ②任意に 2 つの変数を選び相関図を描き、その相関図について相関係数を算出する
第 12 回	実習課題(3)	③3 つ以上の変数を選び、重回帰分析法を実施する
第 13 回	実習課題(4)	④5 つ以上の変数を選び、因子分析法を実施する
第 14 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 2 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

科目名	統計基礎 I	担当者	サトウ 佐藤 トモヒコ 友彦	期間	通年	単位数	2
-----	--------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>最近の統計ソフトは大変に使い勝手が良く、統計的基礎や計算の前提条件を理解しなくても、形の上では統計の計算結果を得られるが、多くの場合、前提条件や利用条件を知らないことで、統計結果の解釈に間違いが散見される。</p> <p>本科目では、従来のような数式を中心とする説明ではなく、我々の身近にあるような具体的な例を取り上げ、できるだけ数式を介さず、統計の基本概念を理解する。また、表計算ソフトを使うことで、数学が苦手な人でも統計処理の基本的な考え方を理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 統計が身近な疑問や現象に答えてくれるものであり、比較的身近な数学であることを理解する。統計処理は、決して理解が難しい数学ではなく、非常に単純な数学的思考に立脚した数値処理であることを理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 ① 本科目では、統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意さを表す検定」について理解することを目指す。 ② 特に「検定」に関しては、その背景にある単純な仮定を理解することで、検定の「考え方」や「適用範囲」を理解する。 ③ ここでは、それらの統計処理を使って身近なデータを処理し、それによって具体的な統計処理技術の習得も目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書を熟読する。【SBO①】【30 時間/1 冊】 ② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&amp;③】【45 時間/レポート 1 件】 ※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に活用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。</p>		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているため、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のレポート提出は、基本的に認めない。【締め切り 1~2 ヶ月前にはレポート初稿を 1 本は必ず提出をしていること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学事歴で定められた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	「分散」や「検定、分散分析」について数学的背景を理解できたか。 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。
	観察記録	30%	「分散」や「検定、分散分析」についての疑問や質問が解決できたか・ 「検定、分散分析」について、議論することができるか。
履修者への要望	<p>数学、特に統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。指定教材をしっかり読むこと。また、実際に Excel を操作して分析までたどり着くには、継続的・反復的に学修する必要がある。本科目で学ぶ項目は基本的なことが主であり、数学や統計処理が得意な人は受講しても意味はないので注意すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 向後千春, 富永敦子            教材名： 『First Book 統計学がわかる』(技術評論社, 2007年),            ISBN:978-4-7741-3190-0 1,680円+税            または,            (2) 著者名： 涌井貞美            教材名： 『意味がわかる統計解析』(ベレ出版, 2013年)            ISBN:978-4-86064-345-4 2,000円+税</p> <p>(1)は、数式をなるべく使わずに統計処理の仕組みを説明し、初心者でも気軽に読めて統計を学習できる教科書。あるハンバーガーショップで起こる様々な疑問や問題を、統計処理を使って登場人物たちと一緒に解決していく。基本統計量、区間推定、検定など統計データ分析の基本を理解できる。統計が苦手と思っている人には最適な教科書である。            (2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で統計解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。            菅民郎, 『Excel で学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016 対応版』(オーム社, 2020年)            ISBN:978-4-274-22641-0 2,800円+税 (やや辞書的な扱い)            小島寛之, 『完全独習 統計学入門』(ダイヤモンド社, 2006年),            ISBN:978-4-478-82009-4 1,800円+税 (教科書同様の入門書だが, Excel との対応が乏しい)</p>
履修上のポイント	<p>本科目は、とにかく数学が苦手で、統計学が苦手な人のための科目である。多くの教科書に見られるような数式で説明することを極力避け、表計算ソフトを使うことで数式による説明を介さずに、統計データ処理を学ぶ。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ (<a href="https://www.stat.go.jp/data/">https://www.stat.go.jp/data/</a>) などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題 1	<p>(1) t 検定とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、標本の正規性や等分散性を意識してレポートを作成せよ。            (2) さらに、身の回りのデータを1組用意してt検定を行い、その結果を考察せよ。  <b>留意点</b>：(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>
レポート課題 2	<p>(1) 分散分析とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、標本の正規性や等分散性を意識してレポートを作成せよ。            (2) さらに、身の回りのデータを1組用意して分散分析を行い、その結果を考察せよ。  <b>留意点</b>：(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>

基本教材 1

第 1 回	統計と確率の関係について理解する。特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を理解する。また、授業を受講する上で必須な、各自のパソコンの Excel で「データ分析」が使えるようにするための設定手順を確認する。
第 2 回	平均と分散、特に分散についての重要性について学ぶ。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について理解する。
第 3 回	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理について理解する。
第 4 回	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができる。この信頼区間の考えが、有意差検定の基本であることを理解する。
第 5 回	有意差検定の考え方の基本を学ぶ。第 4 回内容の「信頼区間」との関係を理解する。また、有意差検定の考え、「帰無仮説」や「対立仮説」についても理解する。
第 6 回	カイ 2 乗の考え方を学ぶ。また、有意差検定の最も基本になる考えについて、カイ 2 乗検定を使った具体的な計算方法について理解する。
第 7 回	カイ 2 乗検定の実際の計算を学ぶ。特に、実際のデータを使って、カイ 2 乗検定の具体的な計算方法の手順を理解する。
第 8 回	有意差検定で、最も利用されている「t 検定(対応なし)」の考え方を学ぶ。特に、正規分布と t 分布、その信頼区間の関係について理解する。
第 9 回	実際のデータを使った「t 検定(対応なし)」の計算方法について学ぶ。計算の手順と、Excel における「データ分析」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も学ぶ。また、「t 検定(対応なし)」の前提条件である「等分散性」についても理解する。
第 10 回	実際のデータを使った「t 検定(対応あり)」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も理解する。さらに第 9 回内容の「t 検定(対応なし)」との違いについても理解する。
第 11 回	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を理解する。特に「t 検定」との違いと、「分散分析」の考え方を理解する。特に F 分布と F 値の考えを理解することを目的とする。また、分散分析の前提条件である等分散性についても理解する。
第 12 回	実際のデータを使った「分散分析(1 要因)」についての計算方法を理解する。特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順について理解する。
第 13 回	「分散分析(2 要因)」について「分散分析(1 要因)」との違いについて理解する。特に「分散分析(多要因)」で現れる「交互作用」について理解する。
第 14 回	実際のデータを使った「分散分析(2 要因)」についての計算方法を理解する。特に「交互作用」について理解する。
第 15 回	半年間の学修内容について、データ分析の立場から、統計分析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	統計基礎Ⅱ	担当者	サトウ トモヒコ 佐藤 友彦	期間	通年	単位数	2
-----	-------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>最近のコンピュータの高性能化に伴い、高性能な統計ソフトも自由に利用できるようになり、その結果、今までは難しかった多変量解析などが簡単に利用できるようになった。しかし、統計処理が簡単に利用できる一方、その基本にある数理的背景を理解しないままデータ処理を行っているケースが多く見られるようになってきた。</p> <p>本科目では、実際の修士論文や研究に利用されることが多い『多変量解析』における「回帰分析」、「相関係数」や「因子分析」などの数学的背景と前提条件、利用条件などを理解する。また、身近な具体例を使い、なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで、その基本的考え方を理解することを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>本科目では、実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学ぶ。特に、「相関」、「(重)回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の修得を目指す。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが、この「多変量統計解析」だが、その理論的背景を理解することを目指す。</p> <p>② 多変量解析が単純な数学的仮定(線形関係)の上に成り立っていることを理解する。</p> <p>③ その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを認め、その線形代数の手法が「最小 2 乗法」や「(座標)回転」や「固有値」と関係することを理解する。その上で、多変量解析では何を計算するのかを理解することで、その適用範囲を各自が理解できることを目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書および参考文献を熟読する。【SBO①】【30 時間/1 冊】</p> <p>② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&amp;③】【45 時間/レポート 1 件】</p> <p>※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。</li> <li>・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。</li> </ul>		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているため、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のリポート提出は、基本的に認めない。【締め切り 1~2 ヶ月前にはレポート初稿を 1 本は必ず提出をしていること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学事歴で定められていた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	「多変量解析」の数学的仮定を理解できたか。 「相関」や「重回帰分析」、「因子分析」とは何かを理解できたか。エクセルを使って、「多変量解析」処理を行うことができたか。
	観察記録	30%	「多変量解析」に関する疑問や不明な点が解決できたか。 「多変量解析」に関する統計処理技術を議論できたか。
履修者への要望	<p>統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。ただし、数学が特に苦手な人は、「統計基礎Ⅰ」の後に受講することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 向後千春, 富永敦子            教材名： 『FirstBook「統計学がわかる」一回帰分析・因子分析編一』(技術評論社, 2009年)            ISBN:978-4-7741-3707-0 1,680円＋税            または,            (2) 著者名： 石井俊全            教材名： 『意味がわかる多変量解析』(ベレ出版, 2014年),            ISBN:978-4-86064-398-0 1,900円＋税</p> <p>理数系以外の学生で統計を知っている人でも、「回帰分析」や「因子分析」など、データ間の「関係を調べる」ための統計データ処理の仕組みを理解している人は多くない。            (1)は、極力数式を使わず、データの「関係を調べる」ための統計データ処理の基本的な仕組みを解説している。アイスクリームショップを舞台に登場人物のアルバイトと一緒に悩みながら、気温とアイスクリームの売り上げの関係など、あなたの研究・調査に応用できるような話題を取り上げる。比較的理解することが難しいといわれている「多変量データ解析」を理解できるようになる。            (2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で多変量解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。            上田太一郎, 小林真紀, 淵上美喜, 『Excel で学ぶ回帰分析入門』(オーム社, 2004年)            ISBN:978-4-274-06556-9 2,800円＋税(回帰分析・多変量解析におけるExcelの操作説明が豊富)</p>
履修上のポイント	<p>本科目では、多変量解析の基本的な仕組みや数理的背景を理解することを目的とする。ここでは数式による説明をできるだけ避け、表計算ソフトExcelを使って、直接データを統計処理する。数学が苦手な人でも「相関」や「(重)回帰分析」、「因子分析」の基本的な仕組みを理解することを目標としている。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ(<a href="https://www.stat.go.jp/data/">https://www.stat.go.jp/data/</a>)などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題 1	<p>(1) 「相関」と「回帰分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながらレポートを作成せよ。            (2) さらに、身の回りのデータを用意し、「相関」と「回帰分析」を計算し、それぞれの結果を考察せよ。  <b>留意点</b>：(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>
レポート課題 2	<p>(1) 「因子分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながらレポートを作成せよ。            (2) さらに、身の回りのデータを用意し、「因子分析」を計算し、その結果を考察せよ。なお、PC環境により因子分析の計算が困難な場合は、「重回帰分析」を行い、その結果を考察せよ。  <b>留意点</b>：(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>

基本教材 1

第 1 回	本科目で行う「多変量解析」についての概要を理解する。また、本科目で必要な各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても理解する。
第 2 回	教科書の例題を参考に、データの構造を表す「散布図と相関」について理解する。特に、データ間の関係がデータ解析に重要な要素であることを理解する。
第 3 回	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について理解し、その計算方法を理解する。また、偏差積についても理解する。
第 4 回	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について理解する。この「無相関検定」を行う場合には、統計基礎 I で学習した「有意差検定」を利用することを理解する。
第 5 回	「回帰分析」の考え方を学ぶ。特に計算の要となる「最小二乗法」について理解する。
第 6 回	実際のデータを使った「単回帰分析」について具体的な計算方法を理解する。また、単回帰分析と相関係数との関係についても理解する。
第 7 回	「重回帰分析」の考え方と計算方法を理解する。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について理解する。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても理解する。
第 8 回	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を理解する。ここでは 1 ステップずつの計算方法を説明し、エクセルの「データ分析」を使った計算方法も理解する。
第 9 回	多変量解析における「相関行列」について理解する①。第 3 回の「相関」との関係を理解する。
第 10 回	多変量解析における「相関行列」について理解する②。「相関行列」の利用方法を理解する。
第 11 回	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを理解し、主成分分析では何が分るのかを理解する。
第 12 回	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を理解する。各自の身の回りにある具体的なデータを利用し、主成分分析の計算方法を理解する。
第 13 回	「因子分析」の考え方を理解する。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法を理解する。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても理解する。また、「主成分分析」との違いも理解する。
第 14 回	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に理解する。また、因子分析の解釈の方法も合わせて理解する。
第 15 回	半年間の学修内容について多変量解析の立場から理解し、多変量解析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	ゲーム理論	担当者	ヨネダ 米田 ヒロヤス 紘康	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ゲーム理論は 20 世紀の大数学者フォン・ノイマンと経済学者モルゲンシュテルンが共著で記した「ゲームの理論と経済行動」として創設され、現在では経営学、法学、経済学、社会学、心理学、生物学、工学、コンピュータ科学など様々な分野で利用されている。なぜなら複数人で構成される集団の中で意思決定する際に、他者行動が重要な役割を果たすからである。</p> <p>本講座では、ゲーム理論の基本的考え方を習得することを目的とする。ただ、これまでゲーム理論に全く触れてこなかった受講生がいることを想定される。そこで、比較的易しい入門書から始めていき、理論的背景を理解し、最後に現実社会でどれほど適応できるのかを理解する。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>ゲーム理論では特有の専門用語と考え方である「利得」や「ナッシュ均衡」などの考え方について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身の回りの様々なプロセスをゲーム理論的思考で考察できること</li> <li>2. それによって合理的意思決定とは何かを理解できること</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本教材・副教材を学修する (自習、SB01, 2) 【20 時間/レポート 1 本】</li> <li>2. レポートの諸侯を作成する (自習・レポート作成、SB01, 2) 【10 時間/レポート 1 本】</li> <li>3. 教員との複数回による添削を通じて、最終的にレポートを完成させる (自主研究・レポート作成・ディスカッション、SB01, 2) 【15 時間/レポート 1 本】</li> </ol> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● manaba folio の掲示板機能やメールを利用して個別指導で解決する。</li> <li>● 指定教科書にかかれていない疑問などは、その他書籍やインターネットなどを積極的に活用し各自解決することを希望する。ただし、それでも解決できない場合は、担当教員に質問すること。</li> </ul>		
スケジュール	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レポート課題 1 については草稿を 7 月末、レポート課題 2 については草稿を 8 月末 (目安) に提出すること。その間、取り上げるテーマ、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じて指導・対応する。</li> <li>● 最終稿は、レポート 1&amp;2 とともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設問内容に答えているか</li> <li>2. 適切な日本語で書かれているか</li> </ol>
	観察記録	30 %	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提出期限が厳守されているか</li> <li>2. 担当教員との対応</li> </ol>
履修者への要望	特になし		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 鎌田 雄一郎(著) 教材名： 『16歳からはじめてのゲーム理論 “世の中の意思決定”を解き明かす 6.5 個の物語』 ダイヤモンド社 1,760 円 (税込) ISBN-13:978-4478110713 著者名： 鎌田 雄一郎(著) 教材名： 『ゲーム理論入門の入門』 岩波新書 880 円 (税込) ISBN-13:978-4004317753
	ゲーム理論を知らない人でも理解できるように、全体像を捉えるための書籍です。
参考図書	・川越 敏司(著) 『はじめてのゲーム理論 2つのキーワードで本質がわかる』 ブルーバックス 1,012 円 (税込) ISBN-13:978-4062577823 ・松井 彰彦(著) 『高校生からのゲーム理論』 ちくまプリマー新書 858 円 (税込) ISBN-13:978-4480688385 ・岡田 章(著) 『ゲーム理論・入門 新版—人間社会の理解のために』 有斐閣アルマ 2,090 円 (税込) ISBN-13:978-4641220287
履修上のポイント	数学を用いる内容も部分的にあるので、戸惑う人もいるでしょう。そのような場合はスキップしてもよいので、ひとまず最後まで読み切ってください。一度で理解しようとするのではなく、何度も刷り込むように読むことで、全体像が見えてきます。ゲーム理論の基礎知識を持ち合わせていない受講生を想定し、基本教材はあえて躓かないような易しいものを選んでいきます。少し物足りなく感じるかもしれません。そのような場合は、積極的に参考図書を利用してください。
レポート課題 1	ゲーム理論の歴史的背景をまとめた上で、ゲーム理論の目的をまとめなさい。(3000 字程度から) <b>留意点</b> ：教材からの抜粋ではなく、自分自身の言葉で説明するように心がけること。また提出されたレポートはコピペチェックをかけますので、検出された場合は減点します。
レポート課題 2	レポート 1 の内容を踏まえた上で次の 2 点について述べなさい。(1) ナッシュ均衡について説明し、(2) 繰り返しゲームの特徴と均衡を説明しなさい。(3000 字程度から) <b>留意点</b> ：教材からの抜粋ではなく、自分自身の言葉で説明するように心がけること。また提出されたレポートはコピペチェックをかけますので、検出された場合は減点します。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修 (ゲーム理論とは)
第 2 回	教材の学修 (合理性とは)
第 3 回	教材の学修 (意思決定モデルの理解)
第 4 回	教材の学修 (戦略ゲームの理解)
第 5 回	教材の学修 (ナッシュ均衡の理解)
第 6 回	教材の学修 (支配戦略の理解)
第 7 回	教材の学修 (囚人のジレンマ)
第 8 回	教材の学修 (混合戦略)
第 9 回	教材の学修 (展開ゲームの理解)
第 10 回	初稿提出
第 11 回	添削指導により加筆修正
第 12 回	添削指導により加筆修正
第 13 回	添削指導により加筆修正
第 14 回	添削指導により加筆修正
第 15 回	最終稿提出

# 文化情報専攻

(シラバス)



## シラバス

シラバスには、教材の概要・参考図書・履修上のポイント・レポート課題が掲載されています。履修登録時に参照してください。

レポートの提出期限は、9月・1月（予定）となっています〔詳細は研究科報（ホームページ）にてお知らせします〕。

科目名	文化情報論特講	担当者	シマダ 島田 めぐみ ホサカ 保坂 トシコ 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>文化情報専攻での研究活動を行う際に必要なリテラシーの涵養を目的とする。具体的には、テキストを対象とする文化研究，言語と文化の教育・学習活動を対象とする言語教育研究の基盤となる文化観の様相の理解，ならびに，研究方法や研究倫理に関する基本的な知識や認識の獲得を目指す。本講義において2つのコースの領域横断的な資質・能力を学修し，各自の特別研究において領域固有の資質・能力を身に付ける。</p> <p>以上の目的を達成することにより，論理的・批判的思考能力をはじめ，倫理観，問題発見・解決力，コミュニケーション能力，省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 文化情報分野において研究・論文作成をするのに必要な資質・能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化研究，および，言語教育研究の基盤となる文化観・文化の捉え方の様相について説明できる。</li> <li>ある文化の捉え方について，別の文化観と比較できる。</li> <li>「文化翻訳：文化の往還と変容」という文化観を理解し，具体的な事例が説明できる。</li> <li>修士論文の作成に必要な先行研究・情報の収集方法や研究倫理，それぞれの分野の研究の進め方について理解し，自律的に論文作成に適用できる。</li> <li>学術的な用語を正確に使い，剽窃を避けて注や引用などを適切に用いることができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>&lt;通信授業 (在宅学習)：基本教材1&gt; 担当：保坂敏子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前期は基本教材1の(1)を熟読，後期は基本教材1の(2)を視聴して，参考図書等も参照しながら，レポート課題1と2を作成する。(自習・自主研究・レポート作成)</li> <li>レポート作成後は，manaba folio を使って，教師の個別添削指導を受けたあと，改訂したレポートのピア・レスポンスを行い，必要に応じてさらに改訂したものを最終稿とする。(ディベート，レポート作成)</li> </ul> <p>&lt;スクーリング：基本教材2&gt; 担当：島田めぐみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2024年4月27日～4月29日に3日間実施されるスクーリング (集中対面授業) に参加する (単位取得要件)。(ディベート)</li> <li>スクーリング後，期限までにレポート課題をmanaba folio に提出する。(レポート作成)</li> </ul> <p>&lt;学修時間&gt;</p> <p>在宅学修では，各レポート課題につき，完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20時間，2)レポート執筆；10時間，3)レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導，ピア・レスポンスを含む)；15時間。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio を利用して，インタラクティブな個別指導と受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>オープンエデュケーション教材 (OER) やスクーリングの講義内容について，質疑応答やディスカッションを行う。</li> </ul>		
スケジュール	<p>本講義は大学院の初年度教育に相当するので，初年度に履修すること。</p> <p>&lt;通信授業 (在宅学習) 2単位分：基本教材1&gt; 担当：保坂敏子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前期：レポート課題1 締切：6月15日 (初稿)・学事暦で定められた前期締切日 (最終稿)</li> <li>後期：レポート課題2 締切：10月15日 (初稿)・学事暦で定められた後期締切日 (最終稿)</li> </ul> <p>&lt;スクーリング 2単位分&gt;</p> <p>2024年4月27日～4月29日 (必要に応じ，オンラインを併用する)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>研究，及び論文作成に必要なリテラシー (三専攻合同講義，担当：専攻主任)</li> <li>文化情報専攻分野における様々な課題 (担当：各科目担当教員) <ul style="list-style-type: none"> <li>スクーリング・レポート課題1 締切：8月第1週 (初稿のみ)</li> <li>スクーリング・レポート課題2 締切：8月末 (初稿のみ)</li> </ul> </li> </ol>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	通信授業 (在宅学習)	50 %	<p>レポート40% (学術論文作成のスキル，課題に応じた内容)</p> <p>観察記録10% (指摘への対応，期限遵守，ピアラーニング)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最終期限に提出されなかった場合，評価外とする (0点)。</li> <li>草稿を一度も出さず，提出期限間際に提出した場合は，そのレポート課題の評価点はC以下となる。</li> </ul>
	スクーリング	50 %	<p>レポート40% (課題1 10%，課題2 30% (論旨，構成，独創性，論文作成スキル))，観察記録10% (参加状況，期限遵守)</p>
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信授業 (在宅学習) のレポートは，初稿から最終稿にいたるまで，教師のフィードバックによる書き直し，ピア・レスポンスによる推敲，最終稿の完成と段階的に進める。</li> <li>ピア・レスポンスは，それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。</li> <li>レポートでは，引用のルールや参考文献の明示，制限文字数 (参考文献，注を除いたもの) を遵守すること。無断引用等，研究倫理上の重大な問題があった場合は，評価の対象外となる。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： ①西山教行・細川英雄・大木充編 教材名： 『異文化間教育とは何かーグローバル人材育成のために』（くろしお出版、2015） ISBN-13： 978-4874246733 2,400 円+税 ②渡辺 靖 『(文化)を捉え直すーカルチュラル・セキュリティの発想（岩波新書）』（岩波書店、2015）ISBN-13： 978-4004315735 842 円（税込）</p> <p>(2) 著者名： 秋草俊一郎，井上健，古賀太，呉川，椎名正博，Dorsey, John T.，保坂敏子，松岡 教材名： 直美 JM00C 講座『文化翻訳入門ー日本と世界の文化コミュニケーションー』（日本大学総合社会情報研究科 2017） （講義映像：後期開始時に配信。一部スクーリングの際に配信する）</p> <p>教材(1)の①は、グローバル時代において、異文化間教育の意義はなにか、立ち位置はどこにあるのか、あるべき姿はどのようなものかを改めて問い直したものである。ことばや文化に関する抽象的な概念の整理と具体的な異文化間教育の事例により、ことばと文化を問い直す視点を提供している。</p> <p>教材(1)の②は、グローバル化に伴う文化的課題を世界各地の多彩な事例を示すことにより、観念論と政策論の両面から文化の捉え直しを試みたものである。</p> <p>教材(2)は2017年1月11日～2月22日に開講したJM00C講座『文化翻訳入門ー日本と世界の文化コミュニケーションー』（総合社会情報研究科制作）の講義映像である。比較文化、文学、言語教育の研究者が、「文化翻訳」をキー概念に、文化の翻訳・翻案・変容の事例を取り上げ、解説する。</p>
参考図書	<p>(1) 池田理知子・埴幸枝編著『グローバル社会における異文化コミュニケーションー身近な「異」から考える』（三修社、2019）ISBN-13： 978-4384059373 2,200 円（税込）</p> <p>(2) 『国際シンポジウム「文化翻訳が拓く異文化間コミュニケーション」報告書』（2016年2月22日開催 総合社会情報研究科主催 非売品 後期開始時に pdf で配布）</p>
履修上のポイント	<p>第三の文化や個の文化の提唱など、文化の捉え方が問い直されている。それぞれの研究領域における文化の捉え方をクリティカルに検討していただきたい。</p> <p>また、レポート作成過程でのピア・ラーニングを通じて考察を深めていただきたい。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材(1)の①②の中から2つの章を選んで要約し、それぞれの章における筆者の「文化」あるいは「異文化能力」の捉え方を比較して、自分の考えを論じる。（本文のみ3000字～4000字）</p> <p><b>留意点：</b>選択する章は、①と②からそれぞれ1つずつ取り上げても、1つの教材から2つの章を取り上げても良い。それぞれの要点を分かりやすくまとめて比較し、考察すること。</p> <p>引用のルールに気を付けながら、事実と意見、自分の意見と他人の意見を区別して書くこと。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材1-(2)を視聴し、一つの講義、あるいは、一人の講師の連続講義を選んで要約し、その講義での「文化翻訳」の捉え方について説明する。それを踏まえて、オリジナルの「文化翻訳」の事例（作品例、授業実践例）を取り上げ、「文化翻訳」の様相を記述し、なぜそれが「文化翻訳」と言えるのか具体的に論じる。（本文のみ3000字～4000字）</p> <p><b>留意点：</b>取り上げた講義の「文化翻訳」を枠組みに、オリジナルの事例について論じること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 戸田山和久 教材名： 『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（NHK 出版、2012） ISBN： 978-4-14-091194-5 1,200 円+税</p> <p>論文を書くための基本的事項が丁寧にわかりやすくまとめられている。大学生向けの書籍であるが、修士論文執筆に必要な内容が網羅されている。</p>
参考図書	<p>佐藤望編著 『アカデミック・スキルズ（第2版）ー大学生のための知的技法 入門』（慶應義塾大学出版会、2012） ISBN-13： 978-4766419603 1,080 円（税込）</p>
履修上のポイント	<p>スクーリング前半においては、①研究及び論文の最低条件を理解し、②研究を進めるための基本的なスキルを身につけるとともに、③研究及び論文作成のモチベーションを高めることを目指す。後半においては、各分野に共通する基礎的な課題を学際的に考察して、研究基盤となる知識・教養の習得に努める。いずれにおいても、事前の準備と講義中の発言及び質問など積極的な姿勢が求められる。</p>
レポート課題 1	<p>スクーリングの合同講義と専攻別講義の概要をまとめ、自分の意見を論じる。（1500字程度）</p> <p><b>留意点：</b>それぞれの講義についても簡潔にまとめること。</p>
レポート課題 2	<p>各分野の研究手法の講義や参考図書、スクーリングでの発表と討論を踏まえて、<b>研究計画書</b>をまとめ、指導教員のレビューを受けた上で提出する。（3000字～4000字）</p>

基本教材 1 (在宅学習)

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章～2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 3 章～4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 5 章～6 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：講義動画 week1 の視聴と基本教材 2
第 9 回	教材の学修：講義動画 week2 の視聴と基本教材 2
第 10 回	教材の学修：講義動画 week3 の視聴と基本教材 2
第 11 回	教材の学修：講義動画 week4 の視聴お基本教材 2
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2 (スクーリング)

第 1 回	三専攻合同講義 *専攻主任が分担して担当	研究、及び論文作成に求められるもの (加藤孝治・島田めぐみ)
第 2 回		主な研究スタイルと論文の構成－研究目的の決め方と論証・検証の方法」 (加藤孝治・島田めぐみ)
第 3 回		研究倫理 1 (田中堅一郎)
第 4 回		研究倫理 2 (田中堅一郎)
第 5 回		先行研究のレビューとその利用方法 (島田めぐみ)
第 6 回		研究及び論文についての概論 (加藤孝治・島田めぐみ)
第 7 回		研究及び論文の進め方 (加藤孝治・島田めぐみ)
第 8 回	文化情報専攻 *講義の順番は変更される可能性がある	文学研究 I (秋草俊一郎)
第 9 回		文学研究 II (野口恵子)
第 10 回		文学研究 III (山崎真紀子)
第 11 回		文化研究 I (清水亨)
第 12 回		文化研究 II (保坂敏子)
第 13 回		言語教育研究 I (川嶋正士)
第 14 回		言語教育研究 II (田嶋倫雄)
第 15 回		言語教育研究 III (島田めぐみ)

※各講義については、1 回あたり 90 分で実施する。

科目名	比較文学特講	担当者	アキクサ 秋草 シユンイチロウ 俊 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

### 【科目概要】

目的	<p>21 世紀の現在，国外で活躍する作家や，旧植民地にルーツがある作家が増えてきている。そのような作家の書く文学を指して，国文学を内包するものとして「日本語文学」と呼ぶこともある。そのような作家の言語に対する態度を記したエッセイや，その作品を実際に読むことで，母語を相対化する視点が文学作品にどのような影響をあたえるのか考えてみたい。そのような文学作品を熟読することは，当然ながら，わが国の「国語文化」を再考する機会にもなるだろう。同時に，現代における「国語」あるいは「国文学」ということば・概念の持つ意味を再考したい。文学以外が専門の受講生も歓迎する。</p> <p>以上の目的を達成することにより，豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに，論理的・批判的思考能力をはじめ，問題発見・解決力，コミュニケーション能力，挑戦力，省察力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 現在，文学を学ぶ上で重要な概念であるバイリンガリズムやポストコロニアリズムについて理解し，それが国語を構成する文学表現としてどう使われるのか知ること。またレポートの文章表現も，内容にふさわしい高いレベルを達成すること。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 論文を書く上で必要な学術的な用語を正確に使えるようになること。文芸作品を精読し，自分のことばで分析できるようになること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては，草稿から最終稿に至るまで，履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。 各レポート課題の準備から完成までに，以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間      レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を用いる。</p>		
スケジュール	<p>前期：6 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)最終稿を提出。 8 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p> <p>後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)最終稿を提出。 12 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材を精読理解し，課題に応える内容となっているか，また，学術論文の体裁が整っているか評価する。
	観察記録	20 %	メール，manaba 等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<p>レポート作成は修士論文執筆のための重要な準備である。教材を熟読し，可能な範囲で関係資料を参考にして課題にとりくむこと。引用については盗用にならないよう十分注意してほしい。manaba のコミュニティや掲示板でのディスカッションなど，積極的な参加を求める。ピアレビューは参加者の人数を見て実施する。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 多和田葉子 教材名： 『エクソフォニー——母語の外へ出る旅』（岩波現代文庫，2012） ISBN 978-4006022112 860 円＋税 『かかとを失くして 三人関係 文字移植』（講談社文芸文庫，2014） ISBN 978-4062902274 1500 円＋税
	多和田葉子は、ドイツで活躍する日本語・ドイツ語のバイリンガル作家であって、国際的な文学賞を数々受賞し、ノーベル賞に近いとも言われている。その代表的な評論と作品である。
参考図書	多和田葉子『言葉と歩く日記』（岩波新書，2013），ISBN 978-4004314653 760 円＋税
履修上のポイント	「エクソフォニー」という多和田葉子による造語が意味する概念をつかんだうえで、その作品を読んでみてほしい。
レポート課題 1	『エクソフォニー』を読んで、そこに書かれている著者の母語と外国語に対する考え方をまとめたうえで、それに対する自分の意見を述べなさい。（2000 字以上） 留意点：単純にあらすじを述べるだけにならないよう留意しなさい。
レポート課題 2	『かかとを失くして 三人関係 文字移植』に収められた短編のうち、どれか一作品を選び、作品について自由に論じなさい（引用・注・参考文献をのぞいて 3500 字以上，上限なし）。 留意点：①教材以外の参考文献・先行研究・他作品を最低二つ以上あげ、自説を説得的なものにすること，②選んだ作品からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 温又柔 教材名： 『台湾生まれ 日本語育ち』（白水社，2015），ISBN 978-4560084793 1,900 円＋税 『来福の家』（白水社，2016），ISBN 978-4560072080 1,400 円＋税
	温又柔は 1980 年生まれの比較的若い台湾出身の作家（母語は日本語）の作家である。
参考図書	リービ英雄『日本語を書く部屋』（岩波書店，2011），ISBN 978-4006021917 860 円＋税
履修上のポイント	「台湾生まれ 日本語育ち」という著者のアイデンティティはどこにあるのか、場合によってはアメリカ出身の日本語作家リービ英雄とも比較しながら考えてみてほしい。
レポート課題 1	『台湾生まれ 日本語育ち』を読んで、著者の母語と外国語に対する考え方をまとめたうえで、それに対する自分の意見を述べなさい。（2500 字以上） 留意点：単純にあらすじを述べるだけにならないよう留意しなさい。また前期の多和田の態度とくらべるなど工夫してほしい。
レポート課題 2	『来福の家』を読み、作品について論じなさい。その際、自分で現代の「移民文学」を一作品選び（ただし温・多和田の作品以外）、その作品の内容を紹介し、温の作品と比較しながら論じること。（引用・参考文献・注をのぞいて 5000 字以上）。 留意点：①教材以外の参考文献・先行研究・他作品を最低三つ以上あげ、自説を説得的なものにすること，②『来福の家』からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	世界文学特講	担当者	アキクサ 秋草 シュンイチロウ 俊 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>欧米における文学・文化の潮流を理解するために「世界文学」の考え方を学ぶ。また、人文学全般の思考の枠組みを理解するために、現在の欧米圏の学術書の文献の水準を理解できるようになることを目標とする。以上を達成することにより、狭義の文学・文化のみならず、その流通や出版、さらには論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 現在、重要な潮流である世界文学について理解し、それがどのようなディシプリンとして構成されているのか知ること。またレポートの文章表現も、内容にふさわしい高いレベルを達成すること。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 論文を書く上で必要な学術的な用語を正確に使えるようになること。理論書・文芸作品を精読し、自分のことばで分析できるようになること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間      レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を用いる。</p>		
スケジュール	<p>前期：6 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)最終稿を提出。 8 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p> <p>後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)最終稿を提出。 12 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。
	観察記録	20 %	メール、manaba 等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<p>・基本教材 1 のレポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバック・相互学習による推敲、最終稿の完成と段階的に進めること。上述したレポートの提出が遅れた場合は、成績が低くなることに留意すること。引用については盗用にならないように重々注意すること（悪質な場合は単位が取得できなくなる）。教材は品切れになってしまっていることもあるが、図書館や古書店の利用なども考慮してほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： デイヴィッド・ダムロッシュ 教材名： 『世界文学とは何か？』（国書刊行会，2011）ISBN:978-4-33-605362-6 5,600円＋税
	「世界文学」という概念を、現代のアメリカの文脈で論じたもので、時代・地域・言語もさまざまな表現活動を「生産・流通・翻訳」という三つの観点から分析している。
参考図書	秋草俊一郎編『文学 特集「世界文学」の語り方』（岩波書店，2016年10月号） ISBN: 0389-4029 2,700円＋税
履修上のポイント	21世紀において、文学や表現活動を論じるうえでの問題意識はなんなのか。論者が「世界文学」と言うとき、前提とされている歴史的な問題はなんなのか、考えてみてほしい。
レポート課題 1	『世界文学とは何か？』における文化・文学の「流通」、「翻訳」、「生産」の考え方について説明したうえで、一つ以上の章をとりあげて要約しなさい。説明と要約は自分のことばで行い、教材の丸写しをさけること。説明と要約はそれぞれ800字以内程度におさめること。 <b>留意点</b> ：従来の「世界文学」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。
レポート課題 2	課題図書のアプローチを参考にして、具体的な一つ以上の作品について論じなさい。扱う作品は『世界文学とは何か？』で扱われていない文学作品（小説あるいは詩）とする。扱う作品からの引用を二カ所以上、適切な方法で行うこと。 参考文献・注・引用をのぞいた本文4,000字以上とする。出典の記載方法は問わないが、出版社・出版年・引用頁数がわかるようにすること <b>留意点</b> ：従来の「世界文学」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： フランコ・モレッティ 教材名： 『遠読——<世界文学システム>への挑戦』（みすず書房，2016）ISBN-13: 978-4874246733 4,600円＋税
	現代において文学を論じるうえで、ひとつの作品を丁寧に時間をかけて読む「精読」ではなく、統計や二次資料などを活用した「遠読」という新しい手法を提唱している。
参考図書	パスカル・カザノヴァ『世界文学空間』（藤原書店，2002） ISBN: 978-4894343139 8,800円＋税
履修上のポイント	21世紀において、文学や表現活動を論じるうえでの問題意識はなんなのか。論者が精読にたいして「遠読」と言うとき、前提とされている歴史的な問題はなんなのか、考えてみてほしい。
レポート課題 1	『遠読』における「遠読」の考え方について説明したうえで、一つ以上の章をとりあげて要約しなさい。説明と要約は自分のことばで行い、教材の丸写しをさけること。説明と要約はそれぞれ800字以内程度におさめること。 <b>留意点</b> ：従来の「精読」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。
レポート課題 2	課題図書のアプローチを参考にして、具体的な作品（複数、あるいはその一部）について論じなさい。扱う作品は『遠読』で扱われていない文学作品（小説あるいは詩）とする。扱う作品からの引用を二カ所以上、適切な方法で行うこと。参考文献・注・引用をのぞいた本文4,000字以上とする。出典の記載方法は問わないが、出版社・出版年・引用頁数がわかるようにすること。 <b>留意点</b> ：従来の「精読」とどう異なるのか確認しつつ検証し、具体的に論述すること。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の序章～1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 2 章～3 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 4 章～5 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の 6 章～7 章
第 5 回	教材の学修：基本教材 1 の 8 章～終章
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポートで扱う作品の選定と読解
第 11 回	レポートで扱う作品の読解と先行研究の調査
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 3 章～4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 5 章～6 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の 7 章～8 章
第 5 回	教材の学修：基本教材 2 の 9 章～10 章
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポートで扱う作品の選定と読解
第 11 回	レポートで扱う作品の読解と先行研究の調査
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	翻訳論特講	担当者	アキクサ 秋草 シュンイチロウ 俊 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>文芸翻訳実践演習。現代アメリカの作家のごく短い短編を、前期と後期で一編ずつ訳していく。邦訳のない作品を選ぶので、ある程度の覚悟をもって臨んでほしい。文学研究プロパー以外の受講を歓迎するが、扱う作家のほかの邦訳済みの作品を自分で読んでみるなど、文体について研究してみることも。あたりまえだが、たんなる英文和訳ではなく、「小説」として読むにたえるレベルのものを目標してほしい。</p> <p>以上を達成することにより、外国語の運用能力、辞書や事典などを活用した調査力、論理的・批判的思考能力をはじめ、高度な文章力、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、省察力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 英文和訳と文芸翻訳の違いを理解する。現代アメリカの小説に親しむ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 作家特有の文体を認識し、日本語に置きかえることができるようになること。適切な辞書・事典など資料を活用できるようになること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間      レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を用いる。学習者の数によってはピアレビューを用いる。</p>		
スケジュール	<p>前期：6 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)最終稿を提出。 8 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p> <p>後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)最終稿を提出。 12 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、文芸翻訳として通用するか評価する。
	観察記録	20 %	メール、manaba、ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<p>レポート作成は修士論文執筆のための重要な準備である。教材を熟読し、可能な範囲で関係資料を参考にして課題にとりくむこと。manaba のコミュニティや掲示板でのディスカッションなど、積極的な参加を求める。例年、課題 2 に対していい加減な態度で接する学生が多い。辞書を引いていない、推敲不足と判断した場合、学生の怠慢と見なし、履修中止を求めることもある。受講者の要望によっては追加の課題を課すこともある。その場合、教材については相談にのるが、外国語書籍の入手方法など、今のうちに習熟してほしい。「文芸」翻訳の授業であるので、課題の作品に興味がなく、英語学習だけを目的とした学生にはすすめられない（単位取得できない可能性が高い）。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 著者名：Charles Bukowski 教材名： 教材名：Betting on the Muse: Poems & Stories ISBN: 978-1574230024
	著者チャールズ・ブコウスキー（1920—1994）はカリフォルニアを中心に活動した詩人・作家。酒と女を好み、学校システムからドロップアウトしてその日暮らしの生活をおくった自分の実人生を題材にした作品をおおく書いた。
参考図書	チャールズ・ブコウスキー『くそつたれ! 少年時代』（河出文庫） チャールズ・ブコウスキー『町でいちばんの美女』（新潮社）
履修上のポイント	教材は amazon.co.jp などで購入できる（kindle 版でももちろん可）。ブコウスキーの一見荒っぽいが、繊細な言葉遣いを、それなりの雰囲気ですすめ、上記にあげた既訳を大いに参考にしたい。最終稿の二週間前にドラフトを manaba に提出し、受講生同士でピアレビューののち、最終稿を提出すること（ただし、受講者の人数によっては教員がドラフトも添削する）。
レポート課題 1	短編 “My Madness” の前半（p. 334 から p. 335 の上から四行目）までを訳しなさい。また、基本教材 1 から別の作品をひとつ選んで、感想を書きなさい（800 字以上）。 <b>留意点：</b> 翻訳は小説として読めるように訳しなさい。
レポート課題 2	短編 “My Madness” の後半（p. 335 の上から五行目から p. 336）までを訳しなさい。また、基本教材 1 からさらに別の作品をひとつ選んで、感想を書きなさい（800 字以上）。 <b>留意点：</b> 翻訳は小説として読めるように訳しなさい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 著者名：Aleksandar Hemon 教材名： 教材名：The Liar, ( <i>The Book Other People</i> , Penguin Books, 2007)
	著者アレクサンドル・ヘモン（1964—）はサラエヴォ出身の作家。1992 年のシカゴ滞在中にボスニア紛争が勃発し、アメリカに移住し、英語作家として作品を発表するようになる。
参考図書	アレクサンダル・ヘモン『ブルーノの問題』（書肆侃々房） アレクサンダル・ヘモン『私の人生の本』（松籟社）
履修上のポイント	ヘモンは英語の母語話者ではなく、ブコウスキーにくらべて癖はないが、正確に訳すためにはボスニア紛争についての背景知識も必要。最終稿の二週間前にドラフトを manaba に提出し、受講生同士でピアレビューののち、最終稿を提出すること（ただし、受講者の人数によっては教員がドラフトも添削する）。
レポート課題 1	短編 “The Liar” の前半、p100 の下から二行目までを訳しなさい。また、基本教材 2 から別の作品をひとつ選んで、感想を書きなさい（800 字以上）。 <b>留意点：</b> 翻訳は小説として読めるように訳しなさい。
レポート課題 2	短編 “The Liar” の後半（p100 の最後の行から残りすべて）を訳しなさい。また、基本教材 2 からさらに別の作品をひとつ選んで、感想を書きなさい（800 字以上）。 <b>留意点：</b> 翻訳は小説として読めるように訳しなさい。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の読解
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の読解
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	メディア文化論特講	担当者	オザワ 小澤 エイミ 英実	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、資本主義の豊かさを象徴する大衆文化として、また「アメリカ」を象徴する記号として世界中に浸透してきたグローバル・メディアであるディズニーのコンテンツを題材にし、その表象の力学を分析・考察していく。</p> <p>教材の手法・事例を手掛かりに、メディア表象を批判的に読解・解釈・分析するリテラシー能力を養うとともに、その作品が製作された文化的・歴史的・政治的背景を学び、作品と文脈の相関性を読み解く力を養うことを目的とする。</p> <p>前期は、ディズニー映画におけるプリンセス表象を論じた教材1『ディズニー・プリンセスのゆくえ』を通し、ジェンダーやセクシュアリティを焦点にした作品分析の方法を学ぶ。ここで取り上げる「プリンセス」とは、前期で取り上げる「動物」と同様、女性の表象のみならず、家父長制社会構造を可視化するひとつのメタファー・装置であり、女性性に留まらない性にまつわる事象全般を読み解くことを目的としている。後期はディズニー映画に登場する動物に焦点をあてた教材2『ディズニーと動物』の精読を通じ、ディズニー作品が映し出すテクノロジーやモダニズムの様態を理解する。教材内で行われている分析手法を例に、実際に自分で選択したディズニー作品の分析を試みることを通じ、映像や大衆文化を読み解く力とみずからの研究手法の深化を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 メディアコンテンツを理解するうえで有益な批評研究の方法を体得し、みずから実践できるようになる。 参考文献や引用の形式を含めた、学術論文の基本的なフォーマットを習熟する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 映像作品というテキストを、ストーリーだけではない映像特有の表現方法に着目し、歴史的・文化的・政治的な問題意識をもちながら、主体的な分析や考察を行うことができる。 みずからの問題意識を発展・深化するうえで有益なメディア作品へのアプローチを学ぶ。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修を要するものとする。 1) 教材の学修: 20時間 2) レポート執筆: 10時間 3) レポート推敲と最終稿の完成(教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む): 15時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio を利用し、教員と院生との双方向性を重視した個別指導や意見交換を実施する。 ・manaba folio の掲示場や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。 ・図書館、インターネット等で独自に先行研究を渉猟し、レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期: 教材1のレポート課題(1)の草稿……6月末 教材1のレポート課題(2)の草稿……8月末 後期: 教材2のレポート課題(1)の草稿……11月15日 教材2のレポート課題(2)の草稿……12月末 最終稿の提出期限は、前期および後期の締切日とする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	1) 教材を精読して理解し、課題に応える内容になっているか。 2) 引用の適切さ、論旨の明確さ、独創性。 3) 学術論文の体裁が整っているかの3点から評価する。
	観察記録	20%	メール、manaba を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<p>・教師からのフィードバックやピア・レスポンスをもとに段階的にレポートを完成させる。 ・引用や出典の明記など、学術論文のルールに則ること。無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 本橋哲也            教材名： 『ディズニー・プリンセスのゆくえ：白雪姫からマレフィセントまで』（ナカニシヤ出版）            ISBN-13: 978-4779510588 2,000 円＋税</p> <p>『白雪姫』『シンデレラ』『アナと雪の女王』『マレフィセント』といったプリンセスが登場する作品を各章ごとに分析しながら、その歴史の変遷を辿りつつ、プリンセスの表象にどのような文化的力学が作用しているのか、その神話的作用を多角的な観点から分析していく書。初学者や一般読者にも目配りした書籍なので、作品を考察する際の着眼点や考察の手法に力点を置いて読む。</p>
参考図書	<p>若桑みどり『お姫様とジェンダー——アニメで学ぶ男と女のジェンダー入門』（ちくま新書、2003年）ISBN: 978-4480061157 780 円＋税</p>
履修上のポイント	<p>各章ごとにひとつの映画について深く分析されているので、必ず当該の作品を鑑賞した上で教材を読むことを薦める。さまざまなキーワードが配されているため、それらについて、図書館やインターネットを通して独自にリサーチし、学修を深めてもらいたい。参考図書を併読するとともに、本書を出発点に、自分なりの問題意識に向かって考察を拓げていくこと。</p>
レポート課題 1	<p>教材 1 を精読した上で、もっとも関心を持った箇所と感想、問題点、批判点などを整理して、3000 字程度でまとめる。  <b>留意点</b>：単なる概要のまとめや抜き書き、引用ではなく、問題意識や参考文献を含めたリサーチを元に、批判的・創造的・主体的なレポートを作成するよう意識すること。</p>
レポート課題 2	<p>教材 1 の精読を踏まえ、みずから選んだディズニーの映像作品の「プリンセス」「プリンス」「ヴィランズ」のキャラクターいずれかに着目し、教材 2 で行われている「キーワード」に注目するかたちで、分析・考察を試みる。（3000 字）  <b>留意点</b>：ストーリーに対する分析だけでなく、映像独自の視覚的な表現方法を意識して考察すること。必要に応じて教材 1 以外の参考文献や資料を参照し、学術的な論文のフォーマットを意識すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 清水知子            教材名： 『ディズニーと動物——王国の魔法をとく』（筑摩選書、2021）            ISBN: 978-4480017222 1,700 円＋税</p> <p>ミッキーマウスやドナルド・ダック、バンビ、ダンボといったディズニー作品におなじみの動物たちの表象に着目し、テクノロジー、モダニズム、エコロジーといったキーワードから個々の作品を学術的に分析した書。人文学の批評理論や思想がふんだんに盛り込まれており、大衆文化と人文思想の交差点を探る文化批評の実践例を目にすることもできる。</p>
参考図書	<p>アリエル・ドルフマン、アルマン・マトゥラーレ『ドナルド・ダックを読む』（山崎カヲル訳、昭文社、1984）ISBN: 978-4794960474 1,600 円＋税</p>
履修上のポイント	<p>言及される映像作品は多岐にわたるため、必ずしも取り上げられているものをすべて観ておく必要はないが、興味を覚えた内容に関してはなるべく観賞した上で読むことを薦める。さまざまな哲学や人文思想が引用されているため、精読するほど難解な手ごわい書だが、理解できない内容や関心を持った記述があれば、巻末の参考文献などを図書館やインターネットを通してリサーチし、学修を深めてもらいたい。参考図書は入手困難なため、近隣の図書館などにあれば参照してほしい。</p>
レポート課題 1	<p>教材 2 を精読した上で、もっとも関心を持った章と感想、問題点、批判点などを整理して、3000 字程度でまとめる。  <b>留意点</b>：単なる概要のまとめや抜き書き、引用ではなく、問題意識や参考文献を含めたリサーチを元に、批判的・創造的・主体的なレポートを作成するよう意識すること。</p>
レポート課題 2	<p>教材 2 の精読を踏まえ、みずから選んだディズニーの映像作品を、教材 1 で行われている手法を応用するかたちで、分析・考察を試みる。（3000 字）  <b>留意点</b>：ストーリーに対する分析だけでなく、映像独自の視覚的な表現方法を意識して考察すること。必要に応じて教材 1 以外の参考文献や資料を参照し、学術的な論文のフォーマットを意識すること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1、序章から 3 章目までを、参考図書とともに学修する
第 2 回	教材の学修：基本教材 1、4 章から 6 章までを、参考図書とともに学修する
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章から終章までを、参考図書とともに学修する
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の全体を再読し、参考図書とともに学修する
第 9 回	作品鑑賞と作品分析
第 10 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 11 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2、第一章から第四章までの精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第五章から第八章までの精読
第 3 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 9 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 10 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 11 回	参考図書および図書館やインターネットを利用した検索資料の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	日本文化論特講 I	担当者	ノグチ ケイコ 野口 恵子	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>古代の日本文学作品を取り上げる。日本の古代には人々が共有していたルールが存在していた。もちろん現在でもそうした共有ルールは存在しているが、21世紀の我々からすれば、つい我々のルールを当てはめて古代の人々を理解しようとしてしまう。それでは古代の人々の思考をきちんと理解することはできない。作品を読む際も同様で、古代の人々の共同性を想定する必要がある。こうした点を踏まえ、文学の生成と展開の様相は、どのようなものなのかを自ら考え、その時代の文化的な特徴を捉えることを目的としたい。また、資料の扱い方、分析の方法といった研究手法も身につけることも目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 研究活動しながら、モノの見方やモノに対する判断力を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 ①古代の人々は自らを取り巻く状況をどのように捉えていたのか理解する。 ②新たなモノの捉え方を身につける営みの連続により、現代社会における異文化に対する理解を深め、適用する。 ③研究史を整理・把握することで、これまでの研究状況とこれからの課題を指摘する。 ④修士論文の執筆時に必要とする研究手法を、基本教材から体得し応用する。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を利用して、個別指導を行う。受講者が複数の場合は、受講者同士の協働学修も行う。自由な質疑応答やディスカッションを歓迎する。 【学修方略 (LS) と学修時間】 ①まずは基本教材を精読し、各章ごと内容をまとめる。そして課題に取り組む。課題に対する理解が深まらない場合は、同テーマの参考図書を精読すること。比較することで、他者との考えの違いに気付き、理解を深められる。(自習)【SBO①】【20時間/レポート1本作成準備】 ②課題に沿って、用例や情報の収集を行い、整理と分析を行う。(自由研究)【SBO②】【10時間/レポート1本作成準備】 ③レポートをの草案を作成する。その際、序論+本論+結論の構成に基づくこと。(レポート作成)【SBO③】【15時間/レポート1本作成】 ④manaba folio の掲示板機能を利用して受講者同士のディスカッション、あるいは複数回の教員による個別添削指導を受け、改訂した最終稿を提出する。(ディベート)【SBO④】【5時間/ディスカッション・レポート1本作成】</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1) 締め切り→6月末(初稿) 教材1のレポート課題(2) 締め切り→8月末(初稿) 後期：教材2のレポート課題(1) 締め切り→10月末(初稿) 教材2のレポート課題(2) 締め切り→12月末(初稿) なお、いずれの最終稿提出期限は、学事歴で定められた日までとする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題にきちんと答えられていることは当然だが、レポートの形式(構成・論証・引用方法など)が守られているか、指導を受けた内容を踏まえているか。
	観察記録	20%	提出物の有無や、メールもしくはmanaba folioでの活動度、レポート個別添削指導に対する反応の有無。
履修者への要望	<p>基本教材に書かれている専門用語等、身近ではない、理解できないなどの内容がある場合は、遠慮なく教員に質問してほしい。もちろん、自分なりにまず調べてからである。 また、対面授業ではないため履修者の理解度を先行して指導することが難しいので、なるべくメール(noguchi.keiko@nihon-u.ac.jp)かmanaba folioで交流したいと考えている。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 古橋信孝 教材名： 『文学はなぜ必要か 日本文学&ミステリー案内』（笠間書院・2015年） ISBN:978-4-305-70784-0 2,400円+税
	なぜ文学が人間に必要なのかを考えている一書。同時に、言葉とはどのようなものかという問いに向き合いながら、文学の面白さと作品が成立した時代にはどのような問題を孕んでいたのかなどにも触れている。こうした考証を通して、日本語の文学の流れにまで言及している。
参考図書	古橋信孝『神話・物語の文芸史』（ペリカン社・1992年）、同編『日本文芸史』[全8巻]（河出書房新社・1986～2005年）
履修上のポイント	各時代を代表する文学作品を取り挙げている。それぞれの時代がどのような時代だったのか、また時代によって文学の性質が異なることも留意してほしい。加えて、なぜその文学がその時代に要求されたのかについても考えてほしい。なお、この教材は、著者がすでに論文などで書いた内容を踏まえ書いている箇所が多々あるので、必要に応じて著者の論文なども読む方が理解が深まるだろう。
レポート課題 1	第1章から第6章までの中から一つの章を取り上げ、そこで議論されている問題点について説明した上で、あなたの考えを理由を添えて述べなさい。（3,000字） <b>留意点：</b> 各章のタイトルはほぼ疑問形式で付されている。その問いに対して、著者はどのように結論を導いているのか、またあなたはその結論に対してどのような考えを持ったのかを述べること。
レポート課題 2	第7章から第12章までの中から一つの章を取り上げ、そこで議論されている問題点について説明した上で、あなたの考えを理由を添えて述べなさい。（3,000字） <b>留意点：</b> 各章のタイトルはほぼ疑問形式で付されている。その問いに対して、著者はどのように結論を導いているのか、またあなたはその結論に対してどのような考えを持ったのかを述べること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 梶川信行 教材名： 『額田王―熟田津に船乗りせむと一』（ミネルヴァ書房・2009年） ISBN:978-4-623-05598-2 3,000円+税
	『万葉集』の女性歌人として名高い額田王は、生身の実態を持った存在とは考えられていない。本書では七世紀に実在した皇裔の一人で、文学作品である『万葉集』に「額田王」として名を遺した女性として捉えようとしている。かつ、こうして捉えた彼女の動きの中で、どのように作品が誕生したのかを考えている一書である。
参考図書	梶川信行『創られた万葉の歌人 額田王』（はなわ書房・2000年）、多田一臣『額田王論―万葉論集―』（若草書房・2001年）など。
履修上のポイント	『万葉集』に「額田王」として名を残した女性と、『日本書紀』に「額田姫王」として名を残した女性とは同一人物である。しかし、文学作品と歴史書という編纂目的が異なる書物では、同一人物であっても扱い方が異なる。その違いに留意すること。また、本書から資料の扱い方や資料の分析方法などの研究手法を学修してほしい。
レポート課題 1	「宮廷歌人」として、額田王はどのような役割を担っていたのかを、具体例を挙げながら説明しなさい。（3,000字） <b>留意点：</b> 「宮廷歌人」は古代の完了制度の中に存在しない名称である。いわゆる専門用語であるが、そうした名称で額田王を捉えることによって、どのような問題を孕んでいるのかについて留意してほしい。
レポート課題 2	天智挽歌群と持統朝の作品における額田王の作歌状況は、それまでの作品とは異なる。両者を比べた際、どのような変化が生じているのかをそれぞれ述べなさい。（3,000字） <b>留意点：</b> 天智天皇の死後、作歌状況において明らかな違いが見られる。例えば、天武天皇の時代の作品が一首も残されていないなどである。こうした違いを見逃さないでほしい。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章から第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章から第 4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章から第 6 章
第 4 回	レポート課題 1：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：指導によるレポート内容の再検討
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：指導によるレポート内容について、レポート課題 2 に向けて学修の振り返り
第 9 回	教材学修：基本教材 1 の第 7 章から第 8 章
第 10 回	教材学修：基本教材 1 の第 9 章から第 10 章
第 11 回	教材学修：基本教材 1 の第 11 章から第 12 章
第 12 回	レポート課題 2：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：指導によるレポート内容の再検討
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 のプロローグ章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 2 章
第 4 回	レポート課題 1：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：指導によるレポート内容の再検討
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：指導によるレポート内容について、レポート課題 2 に向けて学修の振り返り
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 3 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 のエピローグ章
第 12 回	レポート課題 2：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：指導によるレポート内容の再検討
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	日本文化論特講Ⅱ	担当者	ヤマサキ 山崎 マキコ 眞紀子	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、明治期から現代までの近現代文学を学ぶことで、豊かな知識を養い、論理的かつ批判的思考力を身につけることを目的とする。学ぶ内容は具体的には以下のとおりである。</p> <p>I. 小説の書かれた時代を理解し、当時の政治・経済・文化の交錯の上に成り立っていることを自ら調べて学ぶことができる。</p> <p>II. 小説を読むうえで、断片的な出来事がどのような時間配列のもとで物語が構成されているかを自ら考えることができる。</p> <p>III. 日本近現代文学作品をレトリックや表現の緻密さに留意し、分析的に読む力を自ら切り開くことができる。</p> <p>IV. 以上の目的を踏まえて、自らが立論し論文としてまとめることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>日本近現代文学作品に書かれている内容を正確に理解し、書かれた時代背景、文化を把握し、なぜその場所、時代、言葉が選ばれているのか一つ一つ丹念に掘り下げて考察する力を身につける。それを論文形式でまとめる力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>多種多様な文学作品に触れることで、語彙力を増やし、人に正確に、かつ分かりやすく伝えるための言語の力を応用する力を修得する。(知識)</p> <p>言葉の配置や文体、比喩を駆使して、論理的かつ人を引き付ける文章を書く力を身につける。(技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>教材を熟読し、先行研究論文を読み、そのうえで自分の読みをオリジナリティをもった解釈の上で構築し、論理的に説明するレポートを 3000 字程度で書いて提出する。添削を受けて完成させる。在宅学習では各レポート課題につき完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の学修：教科書にある小説を三度繰り返し読む。先行研究論文を探し、読む。20 時間</li> <li>・レポート執筆時間：15 時間</li> <li>・レポート推敲学修（教員の添削指導および最終稿の完成を含む）：10 時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・図書館、インターネットで自立的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：6 月 5 日までに教材 1 のレポート課題 1 の初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題 1 の最終稿を提出。 8 月 5 日までに教材 1 のレポート課題 2 の初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のレポート課題 2 の最終稿を提出。</p> <p>後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題 1 の初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題 1 の最終稿を提出。 12 月 5 日までに教材 2 のレポート課題 2 の初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のレポート課題 2 の最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材の精読と理解 30% 自らの論説の妥当性と説得力 30% 学術論文としての体裁、適切な引用がなされているか 20%
	観察記録	20 %	メール、manaba 等を活用して、主体的に自らの疑問を解決することができたかどうかを評価する。
履修者への要望	<p>基本教材に掲載されている作品は、なるべく多く繰り返し読むこと。レポート作成にあたっては、大学図書館や国文学研究資料館のHPやCiNiなどのデータベースを用いて参考文献や先行研究論文を検索して読解しすること。国立国会図書館をはじめとする公共図書館、場合によっては駒場にある日本近代文学館などの専門図書館を活用し資料の入手につとめるなどして、多くの研究論文に目を通すことが望ましい。そのうえで自分が気付いた「発見」を土台にして、着想を発展させて立論し、客観的に論証できるように努める。添削を受け、再度再考し、完成度の高いものを仕上げしてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 東郷克美・高橋広満編            教材名： 『〈異界〉文学を読む』（鼎書房、2017年2月）ISBN 978-4-907282-29-5 2000円+税</p> <p>〈異界〉をキーワードにして編まれた、15人の作家の短編小説が省略なく全編掲載で載っている。明治20年代から始まる明治期の文学作品、大正期、戦前・戦後の昭和の15編の短編小説を理解しやすいように解説も施され、先行研究リストも記載されている。</p>
参考図書	『日本国語大辞典』（全13巻、小学館、2006年4月）などで、適宜、言葉の意味と用法を調べ、作家案内や関連事項については日本近代文学館編『日本近代文学事典』全六巻（講談社、1978年3月、WEB版もあり）などの文学事典などを参照にすること。
履修上のポイント	日本近代文学を精緻に読みこなすために作品に多く触れてほしい。教材は優れた短編作品が厳選されている。少し難解に思ったとしても何度でも繰り返し読むことで、作品の意味はおのずから通じてくる。解説や参考文献リストも参照して理解を深める一助とすること。作品を精読し分析して問題を発見し、それをレポートで注を付けきちんとした文章でまとめる。助言と添削を受け、バージョンアップを図っていくことが履修上ポイントである。
レポート課題 1	教材に掲載されている泉鏡花、永井荷風、佐藤春夫、芥川龍之介、谷崎潤一郎、梶井基次郎の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について2000字～3000字で論じなさい。 <b>留意点</b> ：作品は〈異界〉を通じて、何を表現したかったのかに留意すること。
レポート課題 2	教材に掲載されている夢野久作、江戸川乱歩、太宰治、萩原朔太郎、岡本かの子、井伏鱒二、中島敦、川端康成、井上靖の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について3000字～4000字で論じなさい。 <b>留意点</b> ：作品は〈異界〉を通じて、何が表現されているか、また語り方にも留意すること。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 須賀敦子編が選んだ日本の名作            教材名： 『須賀敦子編が選んだ日本の名作』（河出文庫、2020年）            ISBN 4-309-41786-8 1400円+税</p> <p>本書は須賀敦子（1919年～1998年）が日本近代文学の短編小説の中から選りすぐり、イタリア語に翻訳して1965年にイタリア・ミラノで出版された <i>Naratori giapponesi moderni</i>（『日本現代文学選』26作品が収録）の中からの13作品を収録して日本で刊行されたアンソロジーである。森鷗外、樋口一葉、谷崎潤一郎、川端康成、太宰治、林芙美子、三島由紀夫、庄野潤三、中島敦などすぐれた短編小説が収められ、作家であり翻訳者としても活躍した須賀敦子の簡単な作家案内も付されている。</p>
参考図書	基本教材1に上げた参考図書を参照。および、CiNii や Jstage、国文学文学研究資料館など学術論文検索（データベース）を行って得られる先行研究論文など。
履修上のポイント	日本現代文学を精緻に読みこなすために、作品に多く触れてほしい。小説は現在も生み出され続け、書店の店頭と並んでいる。しかし、年月とともに淘汰され、すぐれた作品のみが文学史に残り、時を経ても読み継がれていく。本書に収められた小説が、なぜ、現在まで残っているのか、その意味を考察してほしい。小説の構造や語り、語彙群がしっかりしているからかもしれないし、内容が心を打つものであるかもしれない。先行研修を踏まえて、小説の新たな魅力を掘り起こしてほしい。
レポート課題 1	教材で取りあげられている小説前半部、森鷗外～太宰治まで7人の作家の作品を任意に一作品を選び、作品の読みどころを序、本論（3章仕立て）、結論の構成で、3000字程度で論じなさい。（多少の字数不足およびオーバーは構わない） <b>留意点</b> ：作品が発表されたときの時代背景、作家の特徴などを踏まえて、作品の持つ深層を掘り下げて捉えること。そして必ず論点（問題提起）を明確にして、その問いに呼応する結論を出すこと。論点（問題提起）は大枠ではなく、細部にこだわっての視点であることが望ましい。
レポート課題 2	教材で取りあげられている小説後半部、林芙美子～中島敦6人の作家の作品を任意に一作品を選び、作品の読みどころを序、本論（3章仕立て）、結論の構成で、3000字程度で論じなさい。（多少の字数不足およびオーバーは構わない） <b>留意点</b> は上記のレポート課題1と同様である。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の前半作品, 101 頁までの作品を読む 1
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の前半作品, 101 頁までの作品を読む 2
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の前半作品, 101 頁までの作品を読む 3
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の前半作品の中からレポートを書く作品を 1 つ選び, 参考文献を読む
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1:初稿の添削を受けて修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1:添削を受けて完成稿作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の後半作品, 232 頁までの作品を読む 1
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の後半作品, 232 頁までの作品を読む 2
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の後半作品, 232 頁までの作品を読む 3
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の後半作品の中から、レポートを書く作品を 1 つ選び、参考文献を読む。
第 12 回	レポート構成を決め、参考文献からの引用部分などを決める。
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：添削を受けて完成稿作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の前半作品, P198 までの作品を読む 1
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の前半作品, P198 までの作品を読む 2
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の前半作品, P198 までの作品を読む 3
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の中からレポートを書く作品を 1 つ選び, 参考文献を読む
第 5 回	レポート課題 1：レポート作品を選び初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削を受けて完成稿作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の後半作品, P199～P453 を読む 1
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の後半作品, P199～P453 を読む 2
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の後半作品, P199～P453 を読む 3
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の後半作品の中から、レポートを書く作品を 1 つ選び、参考文献を読む。
第 12 回	レポート構成を決め、初稿を作成
第 13 回	レポート課題 2：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：修正稿の添削を受けてもう一度修正稿を作成
第 15 回	レポート課題 2：完成稿作成

科目名	アジア文化論特講	担当者	シミズ 清水 トオル 享	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>多民族国家である中国には漢民族と多様な「少数民族」が居住している。文化人類学はフィールドを出発点として、この中国のさまざまな民族の文化や社会を、多角的な視点から分析研究を進めてきた。本特講ではまず、こうした文化人類学による中国の諸民族の研究がいかになされてきたのか考察する。そして、多くの民族が交錯する雲南省を取り上げ、そのさまざまな民族の歴史の変遷と多様な文化や社会の特徴について考察を進め、理解を深めたい。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 文化人類学がどのように中国の諸民族を研究考察して来たのか。その全体像と中国における文化人類学研究の特徴について把握する。また中国のなかでも、漢民族と「少数民族」が居住する複雑な地域である雲南の歴史、文化、社会の状況について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】“知識・解釈” 本科目を学修することを通じて、自ら学び、世界の現状を理解し、それを述べる力を身につけるとともに、自ら考えて、問題を発見し、その問題を解決し、省察力をもって、説明できるようにする。【準備学修項目と準備学修時間】 レポート1本あたり45時間(教材の学修：20時間、レポート執筆：10時間、レポート推敲と最終稿完成15時間、教員の添削指導を含む)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 テーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿など、段階的に担当者とやり取りを進めながらレポートを作成する。レポート1本につき教材学修に15時間、レポート執筆に15時間、教員の添削指導を含めたレポート添削に15時間をかけることを目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング→図書館等を利用し、参考文献を調査してレポートを作成する調査学習。調査学習。基本教材の精読の上、自分の関心のあるテーマを選び、学習を深める。さらに関連文献を参照しながら、この関心のあるテーマに沿ってレポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期は基本教材1のレポート課題2編を学事暦の提出期限までに提出のこと。 後期は基本教材2のレポート課題2編を学事暦の提出期限までに提出のこと。 前後期ともに早めにテーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿についてできるだけ早めに担当者とやり取りをはじめ、初稿は前後期ともに提出期限の2週間前までに提出のこと。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材の理解、レポート課題選定および内容の妥当性を評価。
	観察記録	20%	レポート作成に向けての課題の取り組み方やその課題解決への積極性などを評価。
履修者への要望	<p>履修者は積極的に課題に取り組んでほしい。基本教材を精読することはもちろんのこと、基本教材以外の関連文献も、より多く参照し、精読した上でレポートを作成してほしい。このレポートをステップとして修士論文作成に取り組めるようにしてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 西澤治彦・河合洋尚編 教材名： 『フィールドワーク 中国という現場、人類学という実践』（風響社、2017年） ISBN:978-4-89489-242-2 3,600円＋税
	本教材は中国における文化人類学研究の研究史と現況をまとめ、今後の展望を示したものである。末成道男をはじめとした中国の文化人類学研究の先達から現在第一線で研究を進めている研究者が執筆しており、現在の中国を研究対象とした文化人類学の最前線の状況を概観できる。
参考図書	末成道男編『中国文化人類学解題』（東京大学出版会、1995年）ISBN:978-4-13-056046-7 末成道男・曾士才編『世界の先住民族—ファースト・ピープルの現在 01 東アジア』（明石書店、2005年）ISBN:4-7503-2031-5 瀬川昌久、西沢晴彦編訳『中国文化人類学リーディングス』（風響社、2006年）ISBN:4-89489-041-0
履修上のポイント	「はじめに」、「問題提議」、「あとがき」もしっかりと精読し、さらに「第1部」「第2部」「総合討論会」を通読すること。その上でそれぞれの論考のうち1編あるいは複数編を精読し、中国における文化人類学の研究の動向や問題点を把握し、考察すること。また各論考末に挙げられている参考文献も適宜参照して考察を進めてほしい。
レポート課題 1	中国における文化人類学研究の動向と課題について(その1) <b>留意点：</b> レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。
レポート課題 2	中国における文化人類学研究の動向と課題について(その2) <b>留意点：</b> レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。レポート課題1とは別にテーマを設定すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 川野明正著 教材名： 『雲南の歴史—アジア十字路口に交錯する多民族世界』（白水社、2013年） ISBN:978-4-86398-118-8 1800円＋税
	本教材は漢族と「少数民族」が混在雑居する中国雲南に関する歴史を簡潔にまとめたものである。教材の中では歴史のみならず、「少数民族」の文化や社会についても言及している。
参考図書	石島紀之著『雲南と近代中国—周辺の見点から』（青木書店、2004年） ISBN:4-250-20405-7
履修上のポイント	本教材を精読した上で、巻末にあげられている参考文献を参照し、雲南省に居住する「少数民族」の歴史や雲南省の歴史について理解を深めて、考察を進めてほしい。雲南省のさまざまな民族の文化、社会、歴史の多様性、複雑性や外部世界とのつながりを考えた上で、レポートを作成してほしい。
レポート課題 1	雲南省の「少数民族」の歴史について <b>留意点：</b> 雲南省の「少数民族」の一つを取り上げ、その歴史をレポートすること。もちろん教材以外の多くの参考文献を参照しつつレポートを作成すること。
レポート課題 2	雲南省のさまざまな時代の状況について <b>留意点：</b> 雲南省の古代から現代までの状況について、一時代をピックアップしてレポートすること。例えば古代の「滇国」、「爨氏の時代」「南詔」、「大理」、元代、明代、清代、近代などをテーマとして取り上げてレポートを作成すること。

### 基本教材 1

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の学修(「はじめに」、「問題提議」を読み込む)
第 3 回	教材の学修(「第 1 部」、「第 2 部」を読み込む)
第 4 回	教材の学修(「総合討論会」を読み込む)
第 5 回	レポート課題 1 の作成(草稿)
第 6 回	レポート課題 1 の作成(初稿の完成)
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿の作成
第 9 回	教材の学修(「はじめに」、「問題提議」を再び読み込む)
第 10 回	教材の学修(「第 1 部」、「第 2 部」を再び読み込む)
第 11 回	教材の学修「総合討論会」を再び読み込む)
第 12 回	レポート課題 2 の作成(草稿)
第 13 回	レポート課題 2 の作成(初稿の完成)
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の学修(「はじめに」を読み込む)
第 3 回	教材の学修(「概説 雲南の地理と民族」を読み込む)
第 4 回	教材の学修(「本編 雲南の歴史」を読み込む)
第 5 回	レポート課題 1 の作成(草稿)
第 6 回	レポート課題 1 の作成(初稿の完成)
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿の作成
第 9 回	教材の学修(「はじめに」を再び読み込む)
第 10 回	教材の学修(「概説 雲南の地理と民族」を再び読み込む)
第 11 回	教材の学修(「本編 雲南の歴史」を再び読み込む)
第 12 回	レポート課題 2 の作成(草稿)
第 13 回	レポート課題 2 の作成(初稿の完成)
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿の作成

科目名	英語圏文化論特講	担当者	イノ 猪野 ケイヤ 恵也	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>アイルランド文学はおおざっぱにいて、アイルランド語で書かれた文学と英語で書かれた文(アングロ・アイリッシュ文学)に分かれる。この講座ではアングロ・アイリッシュ文学を扱う。近年、英語文学においてアイルランド文学は周辺の存在ではなくなってきた。探求してみると豊かな水脈が流れており、様々な見方が可能である。アイルランド文学史を概観し、かつ二つの作品を精読し、「英米文学」という括りを再考していきたい。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 アイルランド文学の基本的な概要に焦点を当て、アイルランド文学について知見を深める。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 ・英文精読を通じて英語に対する「気づき」を深める。 ・アイルランド文学について知ることができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 ・manaba folio を利用してインターアクティブな個別指導を行う。 ・Zoom を用いてオンライン毎週一回読書会を行うので履修学生は連絡をお願いします。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 (自習)教材と参考図書の精読。 (自主研究)『アイルランド小文学史』では各トピックの特徴の把握、原書講読では英語をしっかりと精読する。 (レポート作成) レポートの執筆 レポート1通の完成まで45時間の学修時間を要する。(自習・自主研究・レポート作成) 学修時間: ・教材と参考図書の学修:20時間 ・レポート執筆: 10時間 ・教員の添削指導及び最終稿の完成:15時間</p>		
スケジュール	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題1 締切:6月末(初稿) 最終提出期限: 学事暦で定められた日までに提出する</li> <li>・レポート課題2 締切:8月末(初稿) 最終提出期限: 学事暦で定められた日までに提出する</li> </ul> <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題1 締切:10月末(初稿) 最終提出期限: 学事暦で定められた日までに提出する</li> <li>・レポート課題2 締切:12月末(初稿) 最終提出期限: 学事暦で定められた日までに提出する</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	完成したレポートがすなわち結果がすべてです。教材の理解度、課題に対して答えているかで評価する。
	観察記録	20%	レポート添削に対する応答。レポートの提出がない場合は評価しません。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信授業(在宅学修)のレポートは初稿から最終稿まで教員のフィードバックによって書き直し及び推敲、そして最終稿と段階的に進めていきます。</li> <li>・原書精読を進める際、英文読解に困難が生じた場合教員に連絡してほしい。</li> <li>・研究室訪問を歓迎します。ただし、事前連絡をお願いします。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 木村正俊編『アイルランド文学:その伝統と遺産』（開文社出版、2014） ISBN：978-4-87571-079-0 5,000 円 著者名： (2) John Banville 教材名： <i>Doctor Copernicus</i>(1976) ISBN：978-0330372343</p> <p>『アイルランド文学:その伝統と遺産』は複数の研究者によって書かれた論文集です。論文集とはいえ、解説や紹介がメインとなっているので通読すればアイルランド文学史の流れが大体理解できます。<i>Doctor Copernicus</i>(1976)はBanvilleの名作です。実験的な文体がありますが、まずは原文にぶつかってじっくり読みましょう。</p>
参考図書	<p>尾島庄太郎・鈴木弘『アイルランド文学史』（北星堂、1977） ISBN：4-590-0049-2 1,700 円(税込)</p>
履修上のポイント	<p>まずはイギリス文学史の復習をお願いします。次にアイルランドの歴史と地名をあらかじめ学修しておいてほしい。英文を読む際、英和辞書をしっかり引き、精読をしてください。英文でわからない所があれば遠慮なく質問してください。</p>
レポート課題 1	<p>『アイルランド文学:その伝統と遺産』の第1章から第14章を読み、<b>第5章、第6章、第11章、第12章、第13章、それぞれの章を要約せよ</b>。本文のみ3500字から4000字。 <b>留意点</b>：アングロ・アイリッシュ文学の起源、アイルランド文芸復興運動のそれぞれの特徴に留意する。</p>
レポート課題 2	<p><i>Doctor Copernicus</i>(1976)を読み、内容の要約をし、この作品に対してどのような問い(作品に呈する切り口や着眼点)を呈することができるのか述べよ。本文のみ3500字から4000字。 <b>留意点</b>：問いは複数挙げてよい。例えば、文体の特徴、先行の文学作品との比較など。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>(1) 木村正俊編『アイルランド文学:その伝統と遺産』（開文社出版、2014） ISBN：978-4-87571-079-0 5,000 円 著者名： (2) John McGahern 教材名： <i>Amongst Women</i>(1990) ISBN：978-0571315543</p> <p>『アイルランド文学:その伝統と遺産』は複数の研究者によって書かれた論文集です。論文集とはいえ、解説や紹介がメインとなっているので通読すればアイルランド文学史の流れが大体理解できます。<i>Amongst Women</i>(1990)は、厳格な父モランを中心とした家族の物語です。まずは原文にぶつかってじっくり読みましょう。</p>
参考図書	<p>尾島庄太郎・鈴木弘『アイルランド文学史』（北星堂、1977） ISBN：4-590-0049-2 1,700 円(税込)</p>
履修上のポイント	<p>引き続き、イギリス文学史の復習をお願いします。次にアイルランドの歴史と地名をあらかじめ学修しておいてほしい。英文を読む際、英和辞書をしっかり引き、精読をしてください。英文でわからない所があれば遠慮なく質問してください。</p>
レポート課題 1	<p>『アイルランド文学:その伝統と遺産』の第15章から第29章を読み、<b>第15章、第18章、第19章、第24章、それぞれの章を要約せよ</b>。本文のみ3500字から4000字。 <b>留意点</b>：JoyceとBeckettのエグザイルたちの文学、Heaneyの詩の特徴を把握して欲しい。</p>
レポート課題 2	<p><i>Amongst Women</i>(1990)を読み、内容を要約し、この作品についてどのような問い(作品に対する切り口やアプローチ)を呈することができるのか述べよ。本文のみ3500字から4000字。 <b>留意点</b>：背景としてのアイルランドの歴史、カトリック信仰、家父長制、文体の特徴など。</p>

基本教材 1

第 1 回	教材の学修(『アイルランド文学:その伝統と遺産』第 1 章から第 7 章)
第 2 回	教材の学修(『アイルランド文学:その伝統と遺産』第 8 章から第 14 章)
第 3 回	レポート課題 1: 初稿作成
第 4 回	レポート課題 1: 添削指導及び修正稿の作成
第 5 回	レポート課題 1: 最終稿の作成
第 6 回	教材の学修: <i>Doctor Copernicus</i> (1976) の精読(英和辞書をよく引いて精読すること)
第 7 回	教材の学修: <i>Doctor Copernicus</i> (1976) の精読の際、原文の構文などわからないことをまとめる
第 8 回	教材の学修: <i>Doctor Copernicus</i> (1976) の歴史的背景、実験的文体などわからないことをまとめる
第 9 回	教材の学修: <i>Doctor Copernicus</i> (1976) が総合的に読めているかどうか確認する
第 10 回	教材の学修: <i>Doctor Copernicus</i> (1976) についてわからないこと質問し、担当教員が答える
第 11 回	レポート課題 2 の作成にあたり、構想を考える
第 12 回	レポート課題 2: 初稿作成
第 13 回	レポート課題 2: 添削指導及び修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2: 最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1 と 2 について学修の振り返り

基本教材 2

第 1 回	教材の学修(『アイルランド文学:その伝統と遺産』第 15 章から第 22 章)
第 2 回	教材の学修(『アイルランド文学:その伝統と遺産』第 23 章から第 29 章)
第 3 回	レポート課題 1: 初稿作成
第 4 回	レポート課題 1: 添削指導及び修正稿の作成
第 5 回	レポート課題 1: 最終稿の作成
第 6 回	教材の学修: <i>Amongst Women</i> (1990) の精読(英和辞書をよく引いて精読すること)
第 7 回	教材の学修: <i>Amongst Women</i> の精読の際、原文の構文などわからないことをまとめる
第 8 回	教材の学修: <i>Amongst Women</i> の精読の際、歴史的背景、家族関係などわからないことをまとめる
第 9 回	教材の学修: <i>Amongst Women</i> が総合的に読めているかどうか確認する
第 10 回	教材の学修: <i>Amongst Women</i> についてわからないことなどを質問し、担当教員が回答する
第 11 回	レポート課題 2 の作成にあたり、構想を考える
第 12 回	レポート課題 2: 初稿作成
第 13 回	レポート課題 2: 添削指導及び修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2: 最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1 と 2 について学修の振り返り

科目名	言語教育学特講	担当者	ホサカ 保坂 トシコ 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>2001年に公開されたCEFR (Common European of Reference for Languages, ヨーロッパ言語共通参照枠)は、世界中の言語教育に大きな影響を与えている。日本では、CEFRに基づき、英語教育のCEFR-Jや日本語教育のJFスタンダード(国際交流基金)が開発され、さらに文化庁が「日本語教育の参照枠」を策定するなど、日本の言語教育の中軸になりつつある。しかし、日本での受容はCEFRの理念を抜きにしたものであり、ほぼ無批判なものだとの問題提起がなされている。</p> <p>これを踏まえ、本講義では、CEFRをより適切に活用できるようになることを目指して、CEFRの理念とより良き活用の仕方、ならびに、教育現場への導入の事例について理解を深める。そのうえで、日本国内外のそれぞれの教育現場へのCEFRの応用について考察する。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力、問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語教育学やその研究に必要な専門性(知識・技能・態度)を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFRの理念を説明することができる。</li> <li>・CEFRの適用例について評価し、論述することができる。</li> <li>・自分の係わる社会や教育現場へのCEFRの適用について提案することができる。</li> <li>・CEFRの適用例を収集し、評価し、論述することができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習)教材の熟読, OERによる自律的学習: 15時間 (自主研究)参考文献の検索と熟読: 10時間 (レポート作成)レポートの作成・レポート推敲: 15時間 (ディベート)掲示板上のディスカッション, ピア・レスポンス(受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い, 推敲する協働活動) 5時間</p> <p>★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folioのコレクションを利用して, インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・manaba folioの掲示板を利用し, 受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換, レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)</li> <li>・図書館, インターネットで自律的に論文を検索して, レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; ・レポート課題1 締切: 6月15日(初稿) 前期締切日(最終稿) ・レポート課題2 締切: 8月15日(初稿) 前期締切日(最終稿)</p> <p>&lt;後期&gt; ・レポート課題1 締切: 10月15日(初稿) 後期締切日(最終稿) ・レポート課題2 締切: 12月15日(初稿) 後期締切日(最終稿)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ, 独創性, 構成, 文章表現の妥当性, 引用の適切性等 ★前期レポート課題1, 2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度, レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは, 教師のフィードバックによる書き直し, ピア・レスポンスによる推敲, 最終稿の完成と段階的に進める。</li> <li>・初稿の提出は締め切りを遵守すること。</li> <li>・ピア・レスポンスは, それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。</li> <li>・レポートでは, 引用のルールや参考文献の明示, 制限文字数(参考文献, 注を除いたもの)を遵守すること。無断引用等, 研究倫理上の重大な問題があった場合は, 評価の対象外となる。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 西山敬之・大木充（編） 教材名： 『CEFR の理念と現実：理論編 言語政策からの考察』（くろしお出版，2021） ISBN-13：978-4874248669 3,000 円+税
	『CEFR の理念と現実』シリーズは、長年 CEFR を研究している編者たちが開催した国際研究集会「CEFR の理念と現実」を基に作成されたものである。上巻である本書は、CEFR の理念に関わる発表を中心にまとめられている。日本において CEFR が無批判に受容されている現状を問題視し、それについて見直し、CEFR の訴える外国語教育の理念の正しい理解と使い方について検討している。
参考図書	奥村三菜子・櫻井直子・鈴木裕子『日本語教師のための CEFR』（くろしお出版，2016） ISBN：978-4874247013 各 2,000 円+税 キース・モロウ『ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）から学ぶ英語教育』（研究社，2013） ISBN-13：978-4327410834 3,200 円+税 Council Europe. <i>Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment Companion Volume</i> (2020) ( <a href="https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4">https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4</a> )
履修上のポイント	CEFR は、日本では共通参照レベルや Can-do リストなどツールの側面に焦点があたりがちであるが、本講義ではヨーロッパ統合の歴史から生まれた複言語・複文化主義などの理念や、複言語・複文化能力などの言語能力観などについて理解を深めてほしい。 参考図書の『日本語教師のための CEFR』は CEFR の入門書と言えるものなので、CEFR についてあまり知識のない受講生はまず最初に読むことを勧める。 ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。
レポート課題 1	基本教材 1 や参考図書を参考に、CEFR の成立背景や目的、理念、特徴を整理したうえで、言語教育として革新的な点について考察する。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 要点をわかりやすくまとめること。
レポート課題 2	基本教材 1 から 2 つの論考を取り上げて要約したうえで、それらの論考に関連づけながら、日本社会、あるいは、自分自身が関与する言語教育における CEFR の活用法について論じる。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 海外在住などで他の国に精通している場合は、そこを取り上げることも可能である。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西山敬之・大木充（編） 教材名： 『CEFR の理念と現実：現実編 教育現場へのインパクト』（くろしお出版，2021） ISBN-13:978-4874248676 3,000 円+税
	『CEFR の理念と現実』シリーズの下巻である。本書では、教育現場という現実において CEFR がどのような効力を発揮したか、どのような限界を示しているのかについて論じられている。取り上げられた事例は、日本語教育やフランス語教育など単一言語の現場だけではなく、多言語環境における言語学習の現場も含まれる。
参考図書	細川英雄・西山教行（編） 『複言語・複文化主義とは何かーヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へー』（くろしお出版，2010 年） SBN-13：978-4874245057 2,400 円+税
履修上のポイント	CEFR の理念は活かされているかという観点から、各事例について検討してほしい。CEFR の複言語・複文化主義という理念に特化した場合、参考図書に約 10 年前の事例が掲載されているので、そちらも参考にしてほしい。 ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、第二言語習得に関する理解を深めること。
レポート課題 1	基本教材 2 や参考図書から、2 つ以上の論考を取り上げ、教育現場への CEFR 導入の効果と限界についてまとめたうえで、それに基づき、自分の教育現場への適応について論じる。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 自分の教育現場がない場合は、日本の英語教育などに置き換えることも可能である。
レポート課題 2	日本語教育における CEFR の活用例や適用例に関する記事・論文を 1～2 編取り上げ、CEFR の理念に沿うものになっているかについて分析して考察する。（3,000 字～5,000 字） <b>留意点：</b> CEFR の日本語教育における活用例の記事・論文が見つからない場合は他の言語に置き換えることも可能である。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章～第 3 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章～第 6 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章～第 8 章
第 4 回	教材の学修：参考図書
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章～第 3 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章～第 6 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章～第 8 章
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章～第 3 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章～第 6 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 7 章, 第 9 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	CEFR 関連記事・論文の検索・検討
第 9 回	CEFR 関連記事・論文の検索・検討
第 10 回	CEFR 適用例の検討
第 11 回	CEFR 適用例の検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	言語教育研究特講 (旧カリ：言語教育学特講)	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	---------------------------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>2016年から2018年の間に発行された『日本語教育』に掲載された論文のうち約4割において統計手法が用いられている。自分自身の研究で統計手法を用いなくても、統計手法が用いられた先行研究を理解するために統計手法の知識は重要である。そこで、本科目では、言語教育学における方法論のうち、統計分析を用いた手法を学ぶ。前期は、基本的な統計手法について学び、できるだけ多くの研究例を理解する。後期は、実際のデータを用いて分析を行い、報告文書を書く。そして、最終的に、統計手法を用いた研究をデザインすることを学ぶ。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力、問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語教育学の方法論の基礎となる理論、理念に関わる知識を理解し、応用する力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な統計手法について説明することができる。</li> <li>統計手法を用いた研究事例を正しい理解に基づいて説明することができる。</li> <li>データを分析し、結果を正しく解釈し、報告文書を作成することができる。</li> <li>目的に即した統計手法を選択し、その手法を用いた研究をデザインすることができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 (自習) 動画教材を視聴し、教材と関連文献を熟読する。15時間 (自主研究) 課題に関し、事例研究を実施する。10時間 (レポート作成) レポートを執筆する。10時間 (ディベート) 他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5時間 (ディベート) 他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5時間 ★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>manaba folioを通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>manaba folioを利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。</li> <li>図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 締切：6月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日)</li> <li>レポート課題2 締切：8月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日)</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 締切：10月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日)</li> <li>レポート課題2 締切：12月15日(初稿) (最終稿提出期限：学事暦で定められた日)</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>受講者に配布する評価ルーブリックに基づく。評価ルーブリックでは、レポートごとに、「考え」「つながり」「応用」の段階を設けている。また、いずれのレポートについても、形式(構成、引用のし方、適切な表現)、論旨の明快さ、課題把握の適切性も評価の観点に加える。</p> <p>*後期のレポート課題2は最終試験として初稿で評価する。</p> <p>*その他のレポートは、最終稿にて評価する。</p>
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。</li> <li>無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 島田めぐみ・野口裕之 教材名： 『日本語教育のためのはじめての統計分析』（ひつじ書房） ISBN: 978-4-89476-862-8 1,600 円+税
	日本語教育専攻の大学院生を主な対象者として書かれた統計分析の入門書である。日本語教育分野における研究例を取り上げているが、日本語教育分野に限定した内容ではない。数式を使わずに説明しているため、統計初心者にとっても理解しやすい。
参考図書	三浦省五（監修）『英語教師のための教育データ分析入門』（大修館書店） ISBN: 978-4469244939 1,600 円+税
履修上のポイント	統計に馴染みのない履修者にとって書籍だけで学ぶのは難しいかもしれない。そのため、基本教材の内容を講義する動画教材教本を提供するので、理解を深めるために視聴をすることを勧める。動画教材へのアクセス方法は、授業開始後、manaba folioを通して知らせる。最初は難しくても、動画教材、基本教材、関連論文を視聴・読解することで、必ず理解が深まるので、根気よく学んでほしい。また、ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、研究手法に関する理解を深めること。
レポート課題 1	相関分析あるいは $t$ 検定を用いた研究に関する論文を 1 編あるいは 2 編読み、十分理解した上で要約する。その際、学んだこと、疑問点などの考察を加えること。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 言語や言語教育以外の論文でも構わない。要約する論文の URL あるいは PDF ファイルも提出すること。
レポート課題 2	カイ二乗検定あるいは分散分析を用いた研究に関する論文を 1 編あるいは 2 編読み、十分理解した上で要約する。その際、学んだこと、疑問点などの考察を加えること。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 言語や言語教育以外の論文でも構わない。要約する論文の URL あるいは PDF ファイルも提出すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 島田めぐみ・野口裕之 教材名： 『統計で転ばぬ先の杖』（ひつじ書房） ISBN: 978-4-8234-1028-4 1,400 円+税
	統計分析の結果を報告する際に犯しやすい誤りを中心に取り上げ、解説されている。グラフや表の作成、統計記号の書き方、各種検定の結果報告の仕方など、統計に関する書籍にはあまり記載されていない内容が含まれる。また、最近報告が求められる効果量についてもわかりやすく解説されている。
参考図書	中野博幸・田中敏『フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析』（技術評論社） ISBN: 978-4-7741-5019-2 1,880 円+税
履修上のポイント	無料で提供されている統計ソフト js-STAR を用いて、基本教材 1 で学んだ統計手法を実際に用いて計算する。さらに、基本教材 2 の内容を理解し、適切に報告文書を作成する。js-STAR の使い方、結果の解釈の仕方について、動画教材を提供するので、必ず視聴してから課題に取り組んでほしい。動画教材へのアクセス方法は、授業開始後、manaba folioを通して知らせる。また、ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点をも理解しながら、研究手法に関する理解を深めること。
レポート課題 1	相関分析、 $t$ 検定、カイ二乗検定それぞれについて、統計ソフト（js-STAR）で計算し、その報告文書を書く。相関分析、 $t$ 検定、カイ二乗検定それぞれのデータは与えられたものを用いる。 <b>留意点：</b> 計算に用いるデータは、manaba folio を通して配布する。また、文字数の制限は設定しないので、適切な情報量を判断すること。
レポート課題 2	自分の興味のあるテーマを設定し、先行研究、研究目的、データ収集の方法、統計分析の方法を含めた実験計画を立てる。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 言語教育学あるいは言語学に関するテーマとすること。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章, 第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章, 第 4 章
第 3 回	動画教材の視聴, 論文の講読
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 6 章
第 10 回	動画教材の視聴, 論文の講読
第 11 回	動画教材の視聴, 論文の講読
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章～第 4 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 5 章～第 8 章
第 3 回	動画教材の視聴
第 4 回	データの計算
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 9 章, 第 10 章
第 10 回	動画教材の視聴
第 11 回	実験計画の検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	言語学特講	担当者	ホサカ 保坂 ミチオ 道雄	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、英語と日本語の言語事実を比較・対照しながら、両言語の奥に潜む普遍的原理を、生成文法と機能的統語論の理論に基づき、探求するものである。特に、生成文法と機能的統語論が何を指し、現在の言語研究にいかなる貢献をなしてきたかを、日英語の言語データを通じて実証的に検証し、言語研究の奥深さを学んでいただきたい。あわせて、国語である日本語の構造と英語の構造を比較学習することも目指す。また、国語科の学校文法が依拠する各種日本語文法理論を再検討することも目的の1つとする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 言語研究の基本的方法を、日本語と英語の言語現象の比較を通して、実践的に学び、修得することを目指す。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日英語の語法・文法・意味についての基本的知識を修得する。</li> <li>・生成文法による文構造の分析方法を修得する。</li> <li>・機能的統語論による談話構造の分析方法を修得する。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</li> <li>・manaba folio の掲示板機能を利用して、課題図書等に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。</li> <li>・図書館を利用して、参考文献を調査し、レポートを作成する。</li> </ul> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>まず、第一にテキストを精読し、その内容を十分に吟味し、理解した事柄を、自らの言葉で表現できることが大切である。また、その際、単なる内容のまとめではなく、その理解を深めるために、言語事実をよく観察し、テキスト外の言語事象にも目を配り、理解した内容を応用できる力を身につけてもらいたい。なお、レポート提出期限の1ヶ月前までに必ず初稿を提出すること。</p> <p>また、レポート1本につき準備から完成まで、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の学修：15時間</li> <li>・レポート執筆：15時間</li> <li>・レポート推敲 (教員の添削指導を含む)・最終稿の完成：15時間</li> </ul>		
スケジュール	<p>各テキストの内容に従って勉強を進め、レポート課題が済み次第、速やかに提出し、manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を受けることとする。なお、各レポート課題の最終提出前に、2回以上の指導を受ける必要があり、初稿提出は最終稿提出の2ヶ月前を目安とすること。また、レポート最終稿は学事暦で定められた日までに必ず提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	最終提出レポートの評価
	平常評価	40%	事前提出レポートに関する評価
履修者への要望	<p>できるだけ早めにレポートの草稿を提出できるように心掛けて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 岸本秀樹 教材名： 『ベーシック生成文法』（ひつじ書房，2009年） ISBN:978-4-89-476426-2 1,600円+税</p> <p>「人間は生まれた時から言語を獲得するシステムを内在している」という仮説が20世紀半ばに提唱されて以来、言語の研究は本格的な科学へと発展してきた。本教材では、日英語において日常的に観察される言語データを用いて、生成文法がどのような見方で言語をとらえるかが詳しく解説されており、本教材を通して、ことばを科学的に分析する方法について学んで頂きたい。</p>
参考図書	<p>中村捷・金子義明・菊池朗『生成文法の新展開』（研究社，2001年） ISBN:978-4-32-742155-7 3,000円+税 福井直樹『新・自然科学としての言語学—生成文法とは何か』（筑摩書房，2012年） ISBN:978-4480094964 1,404円 中島平三・池内正幸『明日に架ける生成文法』（開拓社，2005年） ISBN:978-4-75-891809-1 3,000円+税 小野尚之他『生成文法の軌跡と展望』（金星堂，2014年） ISBN:978-4-7647-4430-3 2,500円+税 原口庄輔・中村捷・金子義明『&lt;増補版&gt;チョムスキー理論辞典』（研究社，2016年） ISBN:978-4767434797 6,480円</p>
履修上のポイント	<p>前期の目標は、現代言語学の中核理論である生成文法の基本を学び、以下の点を中心に、英語と日本語の統語構造について考察する。</p> <p>①文の構造 ②言語獲得 ③Xバー理論 ④意味役割 ⑤主語</p>
レポート課題 1	<p>1. 第1章から第6章を読み、言語獲得と普遍文法の関係について、説明しなさい。 2. 第1章から第6章を読み、日英語の違いについて、Xバー理論に基づいて説明しなさい。</p>
レポート課題 2	<p>1. 第7章を読み、日英語のYES・NO疑問文を派生する方法について、Xバー理論に基づいて説明しなさい。 2. 第8章・第9章を読み、日英語の受動文を派生する方法について、項構造に配慮して説明しなさい。 3. 第12章・第13章を読み、日英語の主語について、項構造に配慮して説明しなさい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 高見健一 教材名： 『機能的統語論』（くろしお出版，1997年） ISBN:978-4-87-424151-6 2,640円(税込)アマゾンにてオンデマンドで入手可能</p> <p>本教材では、基本教材1で学んだ文の構造に焦点を当てて分析する形式主義的なアプローチと比較しながら、文の意味や機能に焦点を当てて分析する機能主義的なアプローチを学んでいく。具体的には、英語と日本語を比較対照しながら、それぞれの言語の構文や現象が適格となったり、不適格となったりする背後にある機能上の制約や原則の働きを考察し、その理由を探る。</p>
参考図書	<p>久野すすむ『談話の文法』（大修館書店，1978年） ISBN:978-4-46-922021-6 2,500円+税 高見健一『機能的構文論による日英語比較』（くろしお出版，1995年） ISBN:978-4-87-424107-3 4,200円+税 高見健一『日英語の機能的構文分析』（鳳書房，2001年） ISBN:978-4-90-030481-9 4,800円+税 中右実ほか『談話と情報構造』（研究社出版，1998年） ISBN:978-4-32-726002-6 2,400円+税 福地肇『談話の構造』（大修館書店，1985年） ISBN:978-4-469-14220-4 2,300円+税 西光義弘『日英語対照による英語学概論（増補版）』（くろしお出版，1999年） ISBN:978-4-87-424169-1 2,500円+税</p>
履修上のポイント	<p>後期の目標は、文の意味や機能に焦点を当てた機能文法の基本を学び、以下の点を中心に、英語と日本語の構文や現象の背後にある適格性について考察する。</p> <p>①後置文 ②省略 ③結果構文 ④受身文 ⑤Tough構文 ⑥中間態と可能態 ⑦視点 ⑧再帰代名詞 ⑨数量詞の作用域</p>
レポート課題 1	<p>基本教材2（『機能的統語論』）の第1章から第4章まで、各章ごとに内容をまとめ、練習問題を解答すること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材2（『機能的統語論』）の第5章から第9章まで、各章ごとに内容をまとめ、練習問題を解答すること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	テキスト第 1 章「ことばに対する考え方」の理解とまとめ
第 2 回	テキスト第 2 章「言葉の獲得の不思議」の理解とまとめ
第 3 回	テキスト第 3 章「普遍文法って何」の理解とまとめ
第 4 回	テキスト第 4 章「ことばの部品」の理解とまとめ
第 5 回	テキスト第 5 章「文法のコア」の理解とまとめ
第 6 回	テキスト第 6 章「構造の一般化」の理解とまとめ
第 7 回	レポート課題 1 の作成と修正 (1)
第 8 回	レポート課題 1 の作成と修正 (2)
第 9 回	テキスト第 7 章「文構造を考え直す」の理解とまとめ
第 10 回	テキスト第 8 章「意味役割の果たす役割」の理解とまとめ
第 11 回	テキスト第 9 章「能動と受動」の理解とまとめ
第 12 回	テキスト第 12 章「目的語のような主語」の理解とまとめ
第 13 回	テキスト第 13 章「主語の本当の出所」の理解とまとめ
第 14 回	レポート課題 2 の作成と修正 (1)
第 15 回	レポート課題 2 の作成と修正 (2)

### 基本教材 2

第 1 回	テキスト第 1 章「後置文」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第 2 回	テキスト第 2 章「省略」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第 3 回	テキスト第 3 章「結果構文」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第 4 回	テキスト第 4 章「受身文」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第 5 回	レポート課題 1 の作成と修正 (1)
第 6 回	レポート課題 1 の作成と修正 (2)
第 7 回	レポート課題 1 の作成と修正 (3)
第 8 回	テキスト第 5 章「Tough 構文」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第 9 回	テキスト第 6 章「中間態と可能態」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第 10 回	テキスト第 7 章「視点」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第 11 回	テキスト第 8 章「再帰代名詞」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第 12 回	テキスト第 9 章「数量詞の作用域」の理解とまとめ、及び練習問題の解答
第 13 回	レポート課題 2 の作成と修正 (1)
第 14 回	レポート課題 2 の作成と修正 (2)
第 15 回	レポート課題 2 の作成と修正 (3)

科目名	異文化間 コミュニケーション論特講	担当者	オガワ ナオト 小川 直人	期間	通年	単位数	4
-----	----------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座の目的は、今日のグローバル社会において日本人にも必要となった異文化間コミュニケーション能力の向上のため、知っておくべき様々な重要な側面について、考察しつつ理解を深めることである。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観を習得すると共に、倫理的及び批判的思考能力を始め、問題発見力・問題解決力、コミュニケーション能力、省察力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>文化背景の異なる人たちとのコミュニケーションにおいて必要となる、様々な知識を獲得するとともに、応用する力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異文化間コミュニケーションの基本的プロセスについて、説明することができる。</li> <li>異文化間コミュニケーションの効果性について、評価することができる。</li> <li>異文化間コミュニケーション能力について説明し、評価することができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 教材の熟読、OERによる自律的学習：15時間 (自主研究) 参考文献の検索と批判的リーディング：10時間 (レポート作成) レポートの作成：20時間</p> <p>★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folioの掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>manaba folioを通じて、教員からインタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>図書館、インターネットで文献資料を検索し、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <p>レポート課題1 締切：6月15日(初稿)、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 レポート課題2 締切：8月15日(初稿)、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>レポート課題1 締切：10月15日(初稿)、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。 レポート課題2 締切：12月15日(初稿)、最終稿は学事暦で定められた日までに提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	要約の正確さ、要約の構成、文章表現の妥当性、考察の独創性、引用の適切性、論旨の明確さ、注のつけ方の適切さ
	観察記録	20%	草稿の改善度：草稿への加筆、修正 レポート添削への対応
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>要約問題については、課題の章を熟読し、定めた文字数に、バランスよくまとめること。</li> <li>考察では、次の2点が重要となる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>要約した章に用いられている専門用語を用いて、考察を展開する。</li> <li>テーマに関する知識と経験を基に考察する。経験が無い場合、経験するとしたらどうするかなど、考察する。</li> </ol> </li> <li>教科書・推薦書以外の文献からの引用も勧める。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 八代智子・久保田真弓            教材名： 『異文化コミュニケーション論： グローバル・マインドとローカル・アフェクト』（松柏社，2014） ISBN： 978-4-7754-0184-2 2,400 円＋税</p> <p>これまでの異文化間コミュニケーションの研究によって明らかにされた多くの事実について、現実のグローバル社会で生きていく際にどのようにこれらの事実が関わってくるのか、という視点からまとめられている。そのため、知識を実践的に身につけることができる。</p>
参考図書	<p>西田司・小川直人・西田順子『グローバル社会のヒューマンコミュニケーション』（八朔社，2017年） ISBN： 978-4-86014-083-0 2,000 円＋税</p>
履修上のポイント	<p>教科書の前半部分では、主にコミュニケーションのプロセスと文化との関係について扱われている。普段意識せずに行っているコミュニケーションについての知識を修得し意識化することにより、自身のコミュニケーションを客観的に認識し、さらには管理することができるようになる。そういった観点からレポートを作成し、自身の異文化間コミュニケーション能力の向上へと繋げること。</p>
レポート課題 1	<p>要約：教科書の第 1 章、第 3 章、第 4 章の 3 つの章を読んで、その内容を 3,000 字程度で要約する。            考察：これら 3 つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000 字程度で考察する。  <b>留意点</b>：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。</p>
レポート課題 2	<p>要約：教科書の第 2 章、第 6 章の 2 つの章を読んで、その内容を 3,000 字程度で要約する。            考察：これら 2 つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000 字程度で考察する。  <b>留意点</b>：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 八代智子・久保田真弓            教材名： 『異文化コミュニケーション論： グローバル・マインドとローカル・アフェクト』（松柏社，2014） ISBN： 978-4-7754-0184-2 2,400 円＋税</p> <p>これまでの異文化間コミュニケーションの研究によって明らかにされた多くの事実について、現実のグローバル社会で生きていく際にどのようにこれらの事実が関わってくるのか、という視点からまとめられている。そのため、知識を実践的に身につけることができる。</p>
参考図書	<p>小川直人『多文化共生と異文化コミュニケーション—台湾における東南アジアからの人々との共生』（八朔社，2020年） ISBN： 978-4-86014-097-7 2,000 円＋税</p>
履修上のポイント	<p>教科書の後半部分では、主に異文化の人たちとの共生で表れる様々なコミュニケーションの現象について扱われている。異文化の人たちとのコミュニケーションで生じ得る現象を理解することにより、彼（女）との実際のコミュニケーションを客観的に認識し、さらには管理することができるようになる。そういった観点からレポートを作成し、自身の異文化間コミュニケーション能力の向上へと繋げること。</p>
レポート課題 1	<p>要約：教科書の第 5 章、第 7 章の 2 つの章を読んで、その内容を 3,000 字程度で要約する。            考察：これら 2 つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000 字程度で考察する。  <b>留意点</b>：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。</p>
レポート課題 2	<p>要約：教科書の第 8 章、第 9 章の 2 つの章を読んで、その内容を 3,000 字程度で要約する。            考察：これら 2 つの章の中で紹介されているいくつかの概念や事実を用いて、自身の知識や経験に基づき、1,000 字程度で考察する。  <b>留意点</b>：考察では、要約に含んだ専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の序章と第 1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章と第 4 章
第 3 回	参考図書の学修
第 4 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 5 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 2 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 6 章
第 11 回	図書館での検索資料の学修
第 12 回	図書館での検索資料の学修
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 5 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 7 章
第 3 回	参考図書の学修
第 4 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 5 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 8 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 9 章
第 11 回	図書館での検索資料の学修
第 12 回	図書館での検索資料の学修
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	社会言語学特講	担当者	インベ 石部 ナオト 尚登	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>社会言語学は、実際の社会の中で使用されている言語のあり方を考察の対象とする。言語は単にコミュニケーションのための道具であるだけでなく、様々な問題を引き起こし、問題を持続させ、また問題を解決するものでもある。本講義では、社会言語学の基礎的知識を修得するとともに、言語に関連する様々な現実の問題を知ること、言語はそれが話される社会と密接に結び付いていることを理解する。常に言語を通して社会を深く理解しようとする社会言語学的な姿勢を身に付けことを目的とする。</p>						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 社会言語学の基礎を修得し、言語の多様性を理解することを通して、豊かで柔軟な言語観を涵養する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語と社会、政治、文化の密接な関わりあいを理解できる。</li> <li>・社会の抱える諸問題を言語の観点から考えることができる。</li> <li>・自ら発見した問題に対し、実際に調査を行うことができる。</li> </ul>						
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 基本教材および参考図書を熟読する。(自習) レポート作成のための文献検索および簡易調査を行う。(自主研究) 構想段階から担当者との対話を継続し、初稿を経てレポートを完成させる。(レポート作成・ディベート) レポート課題ひとつにつき、完成までに以下を目安に、最低 45 時間の学修時間が必要となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 基本教材および参考図書の学修：10 時間</li> <li>2) レポート作成のための文献調査および簡易調査の実施：10 時間</li> <li>3) レポート執筆：10 時間</li> <li>4) レポート推敲 (教員の添削指導を含む) と最終稿の完成：15 時間</li> </ol> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 図書館やインターネット等を使用して資料調査を行い、レポートを作成する。</p>						
スケジュール	前期	レポート課題 1	初稿締切	6 月 15 日	最終稿締切	前期締切日	
		レポート課題 2	初稿締切	8 月 15 日	最終稿締切	前期締切日	
	後期	レポート課題 1	初稿締切	10 月 15 日	最終稿締切	後期締切日	
		レポート課題 2	初稿締切	12 月 15 日	最終稿締切	後期締切日	
	各レポートの最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	レポート	80%	構想 (問題発見, テーマ設定), 形式 (構成, 引用の仕方, 文章表現), 内容 (論旨の明快さ, 独創性), 課題把握の適切性で, 総合的に評価する。 なお, いずれのレポートも, 最終稿で評価を行う。				
	観察記録	20%	提出期限の順守, レポート添削への対応, 初稿から最終稿への改善の度合い (加筆, 修正) で評価する。				
履修者への要望	<p>レポートの作成にあたっては、できる限り構想の段階から担当者との対話を開始し、積極的な問い合わせやフィードバックへの対応を継続して行う。また、自身の経験を十分に活用するとともに、より多くの関連資料 (文献やデータ) を参照する。 なお、レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数 (参考文献、注を除いたもの) を遵守すること。剽窃や無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。</p>						

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 岩田祐子・重光由加・村田泰美 教材名： 『改訂版 社会言語学：基本からディスコース分析まで』（ひつじ書房，2022年） ISBN：9784823411434 2,200円＋税
	社会言語学が扱うミクロなトピックからマクロなトピックまでバランスよく配置され、それぞれに関連する古典的研究から最新の研究が紹介されている入門書である。社会言語学的研究を行うための方法論やアプローチも独立したトピックとして紹介されているという特徴があり、Appendix も充実している。
参考図書	『社会言語学』（「社会言語学」刊行会）ISSN：13464078 『ことばと社会 多言語社会研究』（「ことばと社会」編集委員会，三元社） 『社会言語科学』（社会言語科学会）ISSN：13443909
履修上のポイント	言語に起因する社会的問題を考えるにあたり、名前の付いたある「ひとつの言語」の存在を前提とするのではなく、社会の中で人々が様々なことばを話しているという事実から考察をはじめめる姿勢を身につけてほしい。多様なことばの中からある「言語」が切りだされ可視化される仕組みに目を向けることは、社会言語学の重要な特徴のひとつです。
レポート課題 1	本書で扱われているトピック（章）から 2 つを選択し、なぜそれらのトピック（章）を選択したのかの理由を含めて、それぞれ 2,000 字程度（トピック（章）2 つで 4,000 字程度）で要約する。 <b>留意点：</b> 要約と共に、自分自身の経験を取り入れて課題を完成させてください。
レポート課題 2	参考図書に挙げた 3 つの社会言語学の邦文専門雑誌に収められた論文の中から、自らが興味をもったものを 1 本選択し、その論文のレビューを行う（3,000 字）。『社会言語学』は <a href="https://syakaigen.go.wixsite.com/home">https://syakaigen.go.wixsite.com/home</a> で、『ことばと社会』は <a href="http://www.sangensha.co.jp/allbooks/kotobatosyakai.htm">http://www.sangensha.co.jp/allbooks/kotobatosyakai.htm</a> で、『社会言語科学』は <a href="https://www.jass.ne.jp/journal/backnumber/">https://www.jass.ne.jp/journal/backnumber/</a> で既刊号の目次を参照することができる。 <b>留意点：</b> 単なる論文の「紹介」に終わらず、批判的な視点からの「レビュー（批評）」を心掛けてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： かどや・ひでのり・ましこ・ひでのり編 教材名： 『行動する社会言語学』（三元社，2017年）ISBN：9784883034499 3,000円＋税
	基本教材 1 で学修した社会言語学の基礎を前提として、実際に社会におけることばに起因する問題を考える、あるいはその解決を目指して「行動する」ための論考がおさめられている。具体的な問題の再検証や認知を通して新しい言語観を提示するという点で、(古典的)社会言語学批判の書でもある。
参考図書	佐野直子『社会言語学のまなざし』（三元社，2015年） ISBN：9784883033843 1,600円＋税
履修上のポイント	言語の多様性には、複数の言語が共存する言語「外」的な多様性と、方言などの言語「内」的な多様性の二つの側面があることを常に意識して学修を進めることで、そうした言語多様性に起因する問題が実際には身の回りに多く存在していることを能動的に発見して行ってほしい。
レポート課題 1	本書の 1 章～11 章のなかから自分の研究テーマともっとも関係のある(あるいはもっとも関心をもった)論考をひとつ選択し、各論考の筆者が提示する問題意識をまとめた上で、自分の研究テーマ(関心)に引き付けて論じたレポートを作成する(3,000 字程度)。 <b>留意点：</b> 感覚的、個人的な見解ではなく、関連する複数の論文を参照した上で論理立てて論じ、その時点での結論を提示してください。
レポート課題 2	これまでの課題で学修した内容を踏まえて、自身の身の回りの社会言語学の問題を見だし、それについて実際に簡易的な調査を行い、その成果を報告する(5,000～6,000 字)。なお、レポート課題の調査地は日本以外の国や地域に設定してもかまわない。 <b>留意点：</b> 調査の成否、得られた結果の新規性よりも、問題発見と課題設定を重視して取り組むこと。調査計画や調査方法について不安がある場合は、必ず担当者に相談をおこなった上で調査を実施すること。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章～第 6 章の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章～第 12 章の精読
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 13 章～第 18 章の精読
第 4 回	レポート課題 1：レポートの構想
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	課題論文の検索
第 9 回	課題論文の精読
第 10 回	課題論文の批判的検討
第 11 回	関連資料（文献，論文）の検索，参照
第 12 回	レポート課題 2：レポートの構想
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～4 章の精読
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 5 章～8 章の精読
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 9 章～11 章の精読
第 4 回	レポート課題 1：レポートの構想，関連文献の検索
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：参考図書 of 精読
第 9 回	教材の学修：参考図書 of 精読
第 10 回	レポート課題 2：レポートの構想
第 11 回	簡易調査の計画
第 12 回	簡易調査の実施
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	第二言語習得論特講	担当者	タジマ 田嶋 ミチオ 倫雄	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、第二言語習得論の多岐にわたる理論と研究結果を概観し理解を深め、基本的なデータ収集と調査による研究手順と、履修者各自の研究計画の作成の修得により以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>第二言語習得論の学際的で多様な側面をもつ理論に照らし合わせながら、外国語の習得に関する一般の見解を概観しつつ、学術的データからの証拠を検討するため、自立した研究者としての自ら学び考える力を修得する。さらに外国語研究および教育における現状を理解し、説明する力を養う。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>履修者は自ら課題範囲内から研究題材を選択し、文献研究を通して現在の外国語教育の問題点の発見につとめ、論理的思考のもと解決策を記述する。さらに、実施可能な調査・研究の計画書および報告書を試作し説明することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>レポート課題を提出して形式的小および内容的な指導を受ける。その指導をもとに課題を加筆・修正して再提出をする。学習の振り返りと指導に基づく加筆・修正の繰り返しを通して段階的にレポート課題を仕上げていく。</p> <p>各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。</p> <p>教材の学修： 20 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲 (教員の添削指導を含む)・最終稿の完成：10 時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>履修者同士の manaba 上での議論と課題に対するフィードバックを経て協働力とコミュニケーション能力を磨く。</p>		
スケジュール	<p>前期：レポート課題 1 の初稿は 5 月末まで、レポート課題 2 の初稿は 6 月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：レポート課題 1 の初稿は 10 月末まで、レポート課題 2 の初稿は 11 月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>初稿締切の変更を要する場合は、なるべく早めにスケジュール調整の依頼を担当者までメールで通知すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	レポートの最終稿の形式 (構成、体裁、参考文献など) や内容 (論旨、独創性、考察など) を評価する。
	観察記録	40%	manaba 上にて適宜実施予定のアンケートやクイズへの参加、レポート課題の提出期限の厳守、レポート添削後の修正について評価する。
履修者への要望	メールや manaba のマイコースにて随時通知する。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Patsy M. Lightbown and Nina Spada (著) 教材名： <i>How Languages are Learned</i> . 4th ed. Oxford University Press, (2013) ISBN:978-0-19-454126-8 £37.10 4,290 円
	第二言語習得論を基礎から学び、自分の興味ある研究分野の方向性を探る上で参考になる入門書といえる。第一言語習得からはじめ、第二言語習得の特徴、理論、調査結果など多くの例が提示されていて、全体を概観でき、意欲的な履修者にも読み応えのある内容である。4th ed を使用する。
参考図書	① 白井恭弘 (著) 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』 (岩波書店, 2008 年) ISBN:978-4-00-431150-8 9248 円 ② Steven Brown & Jenifer Larson-Hall (著) <i>Second Language Acquisition Myths</i> . University of Michigan Press, (2012) ISBN:978-0-472-03498-7 4,504 円
履修上のポイント	基本教材や参考図書を中心に、また掲載されている引用文献なども参考にしながら、焦らずに熟読すること。担当教員と連絡を取り、必要な場合には内容や進度について相談すること。
レポート課題 1	教材 <i>How Languages are Learned</i> の Chapter 1 と 2 を読み、外国語を教える教師にとって第二言語習得論を知ることの重要性を日本語 3,000 字程度で述べること。 <b>留意点：</b> 教材の引用、自分の考察、今後の研究にどう役立てられるかも加えること。
レポート課題 2	教材の Chapter 3 を読み、学習の個人差について興味のある事柄を選択し、また学術雑誌から査読付き研究論文を 3 本以上 (英文の論文 1 本以上) 選び熟読し、その内容を簡潔にまとめること。 <b>留意点：</b> 先行研究をまとめたもの、自分の考察、今後の研究にどう役立てられるかも含めて 3,000 字程度で述べること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 教材 1 と同じ 教材名：
	教材 1 と同じ
参考図書	① セリガー、ハーバート & ショハミー、イラーナ (著) 『外国語教育リサーチマニュアル』 (大修館書店, 2001 年) ISBN:978-4-46-924457-1 3,080 円 ② 馬場今日子 & 新多了 (編) 『はじめての第二言語習得論講義—英語学習への複眼的アプローチ』 (大修館書店, 2016 年) ISBN:978-4-469-24608-7 2,090 円
履修上のポイント	基本教材や参考図書を中心に、また掲載されている引用文献などを参考にしながら、焦らずに熟読すること。担当教員と連絡を取り、必要な場合には内容や進度について相談すること。
レポート課題 1	教材 <i>How Languages are Learned</i> の Chapter 4 と 5 を読み、第二言語学習を説明する理論と、学習者の学習を観察することについて 3,000 字程度で述べること。 <b>留意点：</b> 教材の引用、自分の考察、今後の研究にどう役立てられるかも加えること。
レポート課題 2	教材の Chapter 6 と 7 を読み、教授法の提案と通説について興味のある事柄を選択し、学術雑誌から査読付き研究論文を 3 本以上選び (英文の論文 1 本以上)、その内容を簡潔にまとめること。 <b>留意点：</b> 研究計画書 (想定も可) を含め、学術論文の体裁を意識し 3,000 字程度で作成すること。

### 基本教材 1

第 1 回	第二言語・外国語学習の通説と各自の経験との比較
第 2 回	教材 1 第 1 章
第 3 回	教材 1 第 2 章
第 4 回	第 1 & 2 章から課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 5 回	レポート課題 1 初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 ピアフィードバックによる完成稿の作成
第 8 回	教材 1 第 3 章
第 9 回	教材 1 第 3 章 オンラインピアディスカッション
第 10 回	教材 1 第 3 章 課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 11 回	教材 1 第 3 章 課題を一つ選び査読付き学術論文の検索と要約
第 12 回	教材 1 第 3 章 課題を一つ選び査読付き英語学術論文の検索と要約
第 13 回	レポート課題 2 初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 ピアフィードバックによる完成稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材 2 第 4 章
第 2 回	教材 2 第 5 章
第 3 回	教材 2 第 4 & 5 章から課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 4 回	レポート課題 1 初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1 ピアフィードバックによる完成稿の作成
第 7 回	教材 2 第 6 章
第 8 回	教材 2 第 7 章
第 9 回	教材 2 第 6 & 7 章 課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 10 回	教材 2 第 6 & 7 章 課題を一つ選び査読付き学術論文の検索と要約
第 11 回	教材 2 第 6 & 7 章 課題を一つ選び査読付き英語学術論文の検索と要約
第 12 回	レポート課題 2 初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 ピアフィードバックによる完成稿の作成
第 15 回	第二言語・外国語学習の通説と各自の経験との比較の再考

科目名	言語教育工学特講	担当者	ホサカ 保坂 トシコ 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現在、言語教育では、印刷教材だけでなく、e-Learning 教材や Web コンテンツ、ICT (Information and Communication Technology) の各種技術、AI など、多種多様な教育メディアが利用されている。また、ICT により教室を超えた対話や学習者の自律学習が可能になり、対面授業と e-Learning を組み合わせるブレンデッドラーニングが散見される。コロナ禍においては、全面オンライン授業も実施された。このような状況を踏まえ、本講義では、言語教育における ICT の効果的な教育利用のために、インストラクショナルデザイン (Instructional Design:ID) を学ぶ。さらに、インタラクティブティーチングに関するオープンエデュケーション教材 (Open Educational Resources: OER) を使った e-Learning を実体験する。これらの知識の習得と経験を通して、言語教育におけるより効果的な e-Learning および ICT の活用能力を身に付ける。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力を中心に、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、協働力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 ICT を利用した言語教育やその研究に必要な専門性 (知識・技能・態度) を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ e-Learning の基盤となる学習理論と ID のモデルを説明できる。</li> <li>・ それを基に、言語教育の実践例を分析・評価できる。</li> <li>・ OER を使った学習を体験し、自らの学びについて、ならびに、OER を使った学習の利点と問題点について論述できる。</li> <li>・ 自分の教育現場に配慮して、e-Learning や ICT 利用した授業デザインを立案できる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 教材の熟読、OER による自律的学習：15 時間 (自主研究) 参考文献の検索と熟読：10 時間 (レポート作成) リポートの作成・リポート推敲：15 時間 (ディベート) 掲示板のディスカッション、ピア・レスポンス (受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動) 5 時間</p> <p>★学修時間は課題レポート 1 本あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・ manaba folio の掲示板を利用して、受講者同士の協働学習を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)</li> <li>・ OER を視聴し、レポートを作成する。</li> <li>・ 図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; ・レポート課題 1 締切：6 月 15 日 (初稿) 前期締切日 (最終稿) ・レポート課題 2 締切：8 月 15 日 (初稿) 前期締切日 (最終稿)</p> <p>&lt;後期&gt; ・レポート課題 1 締切：10 月 15 日 (初稿) 後期締切日 (最終稿) ・レポート課題 2 締切：12 月 15 日 (初稿) 後期締切日 (最終稿)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用の適切性等 ★前期レポート課題 1、2 と後期レポート課題 1 は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導・ピア・レスポンスは通常通り行う。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。</li> <li>・初稿の提出は締め切りを遵守すること。</li> <li>・ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。</li> <li>・レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数 (参考文献、注を除いたもの) を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 鄭仁星・久保田賢一・鈴木克明            教材名： 『最適モデルによるインストラクショナル・デザイン—ブレンド型 eラーニングの効果的な手法』（東京電機大学出版局，2008年）ISBN-10：4501543906 1,900円+税</p> <p>本書は、インストラクショナル・デザイン（Instructional Design: ID）とは何か、IDにはどのようなモデルがあるか、ブレンド型 e-Learning の環境をどう設計するかについて解説している。対面授業と e-Learning を組み合わせたブレンド型 e-Learning を設計する際の背景となる学習理論から設計の手順まで学ぶことができる。</p>
参考図書	<p>C.K. ライゲルース，B.J. ビーティ，R.D. マイヤーズ編 鈴木克明監訳            『インストラクショナルデザイン理論とモデル：学習者中心の教育を実現する』（北大路書房，2020）ISBN-10：4762831115 4,500円+税</p>
履修上のポイント	<p>教育工学は、コンピュータや ICT などを使った「テクノロジーによる教育」だけでなく、教育過程そのものをテクノロジーとして捉え直す「テクノロジーとしての教育」を研究する分野である。後者では、e-Learning や ICT を利用する教育を学習環境として授業に効果的に位置付けることが重要だとされる。ID を学び、国語や英語、日本語等の言語の授業における効果的な e-Learning や ICT の活用について検討すること。</p> <p>ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。</p>
レポート課題 1	<p>1 章～6 章や参考図書を読んで、ID の定義と背景となる学習観・学習理論、各種モデルについてまとめた上で、教材で紹介されている OPTIMAL モデルの概要と特徴を解説する。（3,000 字～4,000 字）</p> <p><b>留意点：</b>学習理論による ID モデルの違い、OPTIMAL モデルの特徴を簡潔に解説すること。</p>
レポート課題 2	<p>言語教育や異文化間教育分野の e-Learning や ICT 利用の実践例（論文・報告書）を検索し、事例を 2 つ取り上げて、基本教材の 7 章，8 章を参考に OPTIMAL モデルを枠組みに分析を行い、その結果について論じる。（3,000 字～4,000 字）</p> <p><b>留意点：</b>マイクロデザインとマイクロデザインに分けて整理すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 栗田佳代子，日本教育研究イノベーションセンター 編著            教材名： 『インタラクティブ・ティーチング—アクティブ・ラーニングを促す授業づくり—』（河合出版，2017年）ISBN:978-4-7772-1794-6 2,500円+税            講義動画：https://www.utokyofd.com/mooc/attend（8週間プログラム）            （東京大学ファカルティ・ディベロップメント HP 内）</p> <p>講義動画は JMOOC 講座として配信されたもので、現在、OER として東京大学の HP で公開されている。印刷教材は、その講義動画を学ぶための教材である。大学教員準備プログラムから生まれた講座であるが、アクティブ・ラーニングの手法やルーブリックによる評価など、インタラクティブ・ティーチングの理論や方法論が体系的に学べ、分野を問わず教師の能力開発に役に立つ。</p>
参考図書	<p>山田智久・伊藤秀明 編『オンライン授業を考える—日本語教師のための ICT リテラシー』（くろしお出版，2021年）ISBN-10:4874248799 1,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>印刷教材の課題に取り組みながら、8 週間のプログラムをそれぞれ自律的学習を進める。OER を使った自律的な学びの実体験に基づき、学んだ内容と学習方法をクリティカルに検討する。参考図書や論文をできるだけ参照して、自分の現場を念頭に置いた授業デザインを考案する。</p> <p>ピア・レスポンスによる協働活動を通して、自分の視点と他者の視点とを交流させ、レポートの考察を深めていただきたい。</p>
レポート課題 1	<p>8 週間の講義動画の受講を基に、①OER 教材の学習内容で重要だと思ったこと、および、②OER 教材で学ぶ際に感じた利点と注意点について論じる。（3,000 字～4,000 字）</p> <p><b>留意点：</b>①については、ひとつの章や項目に焦点を絞って論じること。②については、今回の自身学習経験に紐づけて論じること。</p>
レポート課題 2	<p>自分の教育現場を対象に、ICT を利用したインタラクティブな授業なデザインを検討してシラバスを作成し、その特徴や期待される効果について論じる。（3,000 字～5,000 字）</p> <p><b>留意点：</b>目的や目標の記述、評価の方法などシラバスの記述方法は、基本教材 2 の第 5 章に則ること。1 コマの指導案ではなく、ひとつのコースを計画すること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の 1 章～4 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 5 章～7 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 8 章～10 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の 7 章～8 章
第 9 回	課題論文の検索と分析
第 10 回	課題論文の検索と分析
第 11 回	課題論文の検索と分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～2 章の学修と講義動画の視聴
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 3 章～4 章の学修と講義動画の視聴
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 5 章～6 章の学修と講義動画の視聴
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の 7 章～8 章の学修と講義動画の視聴
第 5 回	教材の学修：基本教材 2 の 9 章～10 章の学修と講義動画の視聴
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	授業デザインとシラバスの検討
第 11 回	授業デザインとシラバスの検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	言語教育デザイン論特講	担当者	ヤベ ヒロコ 谷部 弘子	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>言語教育、とくに日本語の教育実践をとりあげ、学習目標に応じた授業デザインについて具体的な検討を行う。この講座を通して、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>(1) 課題に対し、論理的・批判的に考察し、論旨明快かつ具体的に自身の見解を示す力  (2) これまでの実践経験や学修で得られた知識に基づいて、独自の教材や授業を立案する力  (3) 他者との協働やコミュニケーションを通して得た知見を教育実践に応用する力</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 日本語および既存の日本語教材を分析的に捉え直す力、能動的な学習に関わる理論や理念を理解し教育実践に応用する力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】  (1) 基本教材の内容を正確に読み取り、要点を捉えてわかりやすく記述することができる。  (2) 目標言語である日本語を省察し、具体的な教材の作成や授業デザインにつなげることができる。  (3) 学習の質や内容に焦点を当てて、授業を組み立てることができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】  レポート課題を念頭に置きながら、基本教材を精読する (自習、学修時間：10 時間)。  レポート課題に関連する文献や資料にあたり、問題点を整理する (自主研究、学修時間：10 時間)。  manaba folio の掲示板を利用してディスカッションやピア・レスポンスを行う (ディベート、学修時間：5 時間)。  レポートの初稿・最終稿の執筆 (レポート作成、学修時間：15 時間)。  レポートの構成・内容について担当教員とのディスカッションを通して検討を行う (ディベート、学修時間：5 時間)。  ★学修時間は課題レポート1件あたりの目安時間  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】  manaba folio を利用して、インタラクティブな協働学習を実施する。  図書館やインターネットを活用して、資料収集やレポート作成など自主研究を行う。</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; レポート課題1 初稿締切：6月10日(月) 最終稿提出期限：学事暦で定められた日  レポート課題2 初稿締切：8月13日(火) 最終稿提出期限：学事暦で定められた日  &lt;後期&gt; レポート課題1 初稿締切：10月15日(火) 最終稿提出期限：学事暦で定められた日  レポート課題2 初稿締切：12月16日(月) 最終稿提出期限：学事暦で定められた日</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	(1) レポートの構成と内容が課題に対応しているか (2) 論旨が明快で、読みやすく記述されているか (3) 引用の仕方を含めて表現が適切であるか
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度 レポート添削への対応 など
履修者への要望	<p>・基本教材を精読するにあたっては、参考図書ほか関連する文献や資料にも目を通しながら十分に理解し、批判的に考察するように努めてほしい。  ・ディスカッションでは、感じたことを述べ合うだけでなく、なぜそう考えたのか、よりよくするためにどうすればよいのかなど、建設的な議論となるように努めてほしい。  ・レポートは、論文としての体裁を満たしていることが前提である。学会の投稿規程などを参照し、十分に推敲してから提出すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 近藤安月子・丸山千歌（2021）            教材名： 『日本語教育実践入門 日本語の分析から教材・授業の創造まで』 東京大学出版会            ISBN: 978-4130820219 2,900+税</p> <p>本書は、「開発型日本語教師」の育成を目指して、教師が自分で日本語を振り返り分析し、教材作成や授業デザインにつなげていく力を身につけることを意図して構成されている。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近藤安月子（2018）『日本語らしさの文法』 研究社 ISBN: 978-4327384777 3,080 円</li> <li>・深澤のぞみ/本田弘之（2019）『日本語を教えるための教材研究入門』 ころしお出版            ISBN: 978-4874248201 1,980 円</li> <li>・『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第2版本冊』 スリーエーネットワーク ほかに日本語教科書</li> </ul>
履修上のポイント	<p>教授項目（日本語表現）については、内省や公開されている日本語データベース等を活用して、理解を深めてほしい。</p>
レポート課題 1	<p>「まえがき」「はじめに」及び第1課から第4課までを読み、「日本語教育の視点でみる」とはどのようなことか、「日本語教育の実践に向けて」どのような点に留意すべきなのか、筆者らの考えをまとめた上で、本書作成の意図を含む筆者らの考えに対する意見を述べる。（3,000字程度）  <b>留意点：</b>引用と意見を明確にし、わかりやすく読みやすく記述すること。</p>
レポート課題 2	<p>第5課から第12課までの課で扱っている表現項目のうち一つを選んで、その課の「教材を作成する1/問題4」「教材を作成する2/問題6」に答え（それぞれの「例題」を参照）、練習や教材の作成にあたってとくに留意した点について述べる。（4,000字程度）  <b>留意点：</b>とりあげた表現項目が既存の教材でどのように扱われているかも参照してほしい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著（2015）            教材名： 『ディープ・アクティブラーニング 大学授業を深化させるために』 勁草書房            ISBN: 978-4326251018 3,300 円</p> <p>本書は、高等教育機関での学習をとりあげて、「ディープ・アクティブラーニングを生じさせやすくするには、どのようなカリキュラム・授業・評価・学習環境が求められるのか、という問いに答えるべく、企画・編纂されたものである。ディープ・アクティブラーニングの理論的基盤を論じた第1部と、物理学・哲学・教員養成など異なる領域の科目で行われた実践を紹介した第2部から構成されている。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溝上慎一（2014）『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』 東信堂            ISBN: 978-4326251018 2,640 円</li> <li>・渡部 淳（2020）『アクティブ・ラーニングとは何か』 岩波新書            ISBN: 978-4004318231 880 円</li> </ul>
履修上のポイント	<p>第2部で紹介されている実践は、言語教育とは異なる領域の事例で、理解しにくい点があるかもしれない。これまでの教育実践の経験を念頭に置き、「能動的な学習」「主体的な学び」「深い学び」とはどのようなことか、言語教育の現場に応用するとすれば、どのような活動がそれらにつながるのかを考えながら精読してほしい。</p>
レポート課題 1	<p>序章および第1部（第1章から第4章まで）を読み、なぜ学習は「アクティブ」であり「ディープ」でなければならないのか、「アクティブ」であり「ディープ」であるとはどういうことかについて整理し、それに対する自分の意見を述べる。（3,000字程度）  <b>留意点：</b>引用と意見を明確にし、わかりやすく読みやすく記述すること。第1部全体を論じても、特定の章に焦点を当てて論じてかまわない。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材1のレポート課題2で取り上げた表現項目・場面・練習・教材を基に、基本教材2で挙げられているディープ・アクティブラーニングの理論的基盤やさまざまなフィールドでの試みのうち最も関心をもった考え方や方法を応用し、新たな授業デザインを提案する。（基本教材1レポート課題2の内容とは異なる場面や教材を取り上げたい場合は事前に連絡すること）（4,000字程度）  <b>留意点：</b>提案する内容は小さな工夫でもよいので、どのような理論的基盤に拠ってその学習活動を考えたかを記述すること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 課
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 2 課
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 課・第 4 課
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 課～第 12 課の任意の課
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 課～第 12 課の任意の課
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 課～第 12 課の任意の課
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 課～第 12 課の任意の課
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の序章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 I 部 第 1 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 I 部 第 2 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の第 I 部 第 3 章・第 4 章
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 II 部（第 5 章～第 9 章）の任意の章
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 II 部（第 5 章～第 9 章）の任意の章
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の第 II 部（第 5 章～第 9 章）の任意の章
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	言語教育デザイン論特講	担当者	ハギハラ コウジ 萩原 幸司	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>言語教育、特に日本語教育の実践に関して、自分の教育理念の検討から、状況に応じた学習目標の確定、授業計画の策定に至るまでの具体的な検討を行う。この講座を通して、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題に対し、論理的、批判的、多角的に思考し、明快且つ具体的に自分の見解を述べる能力</li> <li>2. これまでの教育実践や学習で得られた知見を活かしつつ、他者との協働を通して新たな知見を得、それらを自身の教育実践に反映させ、独自の授業計画を構想する能力</li> </ol>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 日本語教育全般及び自分の教育実践を批判的、多角的に捉え直し、そこに新たな知見を採り入れて、自分の新たな教育実践を創り上げていく能力を身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本教材の内容を正確に読み取り、論理的、批判的、多角的に思考することができる</li> <li>2. 自分の教育理念に基づき、具体的な授業計画を構想することができる</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 (自習) リポート課題を念頭に置きながら、基本教材を精読する：10 時間 (自主研究) リポート課題に関連する文献や資料に当たり、問題点を整理する：10 時間 (リポート作成) リポートの初稿、更に最終稿を執筆する：15 時間 (ディベート 1) manaba folio の掲示板を利用してディスカッションやピア・レスポンスを展開する：5 時間 (ディベート 2) リポートの構成及び内容について、担当教員との対話を通して検討を重ねる：5 時間 ★学修時間は課題リポート 1 本あたりの目安時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. manaba folio を利用して、インタラクティブな協働学習を展開する</li> <li>2. 図書館やインターネットを活用し、資料の収集やリポート作成等、自主研究を進める</li> </ol>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <p>リポート課題 1：初稿は 6 月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する リポート課題 2：初稿は 8 月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>リポート課題 1：初稿は 10 月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する リポート課題 2：初稿は 12 月末まで、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	リポート	80 %	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リポートの構成と内容が課題に対応しているか</li> <li>2. 論旨が明快で、読み手に分かり易く論じられているか</li> <li>3. 引用の仕方を含めて、記述が適切であるか</li> </ol>
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度、リポート添削への対応等
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本教材を精読するに当たっては、参考図書その他、関連する文献や資料等も参照し、論理的、批判的、多角的に思考するように努めてほしい</li> <li>2. 対話では、思ったことを述べ合うだけでなく、何故そう考えるのか、改善するためにはどうすれば良いのか等、建設的な議論となるように努めてほしい</li> <li>3. リポートは、正しい引用の仕方を含め、論文としての体裁を満たしていることが前提である。学会の投稿規定等を参照し、十分に推敲してから提出するようにしてほしい</li> </ol>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 倉八順子 教材名： 『「日本語教師」という仕事 多文化と対話する「ことば」を育む』, 明石書店, 2021 ISBN 978-4-7503-5198-8 2,200 円 (税込)
	長く日本語学校で日本語教育を実践してきた著者が、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行に際し、多文化に開かれた日本語教育を省察する。題名の通り、『「日本語教師」という仕事』を正面から問う書であり、日本語教師養成課程に欠落している項目を補うものであるとも考えられる。
参考図書	館岡洋子 (編), 『日本語教師の専門性を考える』, ココ出版, 2021 ISBN 978-4-86676-033-9 2,640 円 (税込)
履修上のポイント	自分のこれまでの日本語教育実践を根本から振り返りつつ、基本教材 1 を精読してほしい。そこに、大学院で学び、研究する意義が必ず見付かるはずである。
レポート課題 1	「1 日本語教師とは何だろう」から「6 日本語を教えるには何が必要だろうか？」までを読み、「『日本語教師』という仕事」についての筆者の考えを纏めた上で、それに対する自分の見解を述べる。その際、「7 Good Language Learner に育てるために」以降を参照しても良い。 <b>留意点</b> ：引用と自己の見解を明確に区別し、読み手に分かり易く論じること
レポート課題 2	「7 Good Language Learner に育てるために」以降で論じられている学習観及びそれに基づく授業の実践例の中から、関心を引かれたものを取り上げ、そこでの学習観と実践例の繋がりを纏めた上で、同様な事例を自分が実践する場合にどうするかを論じる。 <b>留意点</b> ：取り上げた実践例が、他の実践研究でどのように扱われているかも参照してほしい

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 深澤のぞみ・本田弘之 (編著), 飯野令子・笹原幸子・松田真希子 (著) 教材名： 『日本語を教えるための教授法入門』, くろしお出版, 2021 ISBN 978-4-87424-882-9 C0081 1,980 円 (税込)
	「日本語教育の方法を学びはじめた人のために」(「はじめに」) 書かれた書であり、「日本語教育とは、日本語教師とは何か」(第 1 章) を考えるところから出発し、教授法及び教材を知り、授業の実践から評価までを考えていく。新たな実践及び研究の示唆に富むものである。
参考図書	望月雅美『どう教える？日本語教育 「読解・会話・作文・聴解」の授業』, アルク, 2021, ISBN 978-4-7574-3929-0 2,530 円 (税込)
履修上のポイント	自分のこれまでの日本語教育実践を振り返り、理念から計画、実践までの繋がりを意識しつつ基本教材 2 を精読してほしい。そこに、それまでの自分には無かった新たな実践及び研究が生まれる契機が必ずあるはずである。
レポート課題 1	第 1 章から第 5 章までを読み、関心を引かれたキーワードとその関連事項を取り上げて纏め、それに対する自分の見解を述べる。その際、第 6 章以降を参照しても良い。 <b>留意点</b> ：引用と自己の見解を明確に区別し、読み手に分かり易く論じること
レポート課題 2	基本教材 2 で扱われている教授法の中から、関心を引かれたものを取り上げ、それを応用して新たな授業計画を提案する。 <b>留意点</b> ：提案する計画は授業の中の一部でも良いので、どのような教育理念或いは理論を基にその学習活動が構想されているかが分かるように示すこと

### 基本教材 1

第 1 回	教材学修：基本教材 1 の 1、2
第 2 回	教材学修：基本教材 1 の 3、4
第 3 回	教材学修：基本教材 1 の 5、6
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正校の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材学修：基本教材 1 の 7、8
第 9 回	教材学修：基本教材 1 の 9、10（前半）
第 10 回	教材学修：基本教材 1 の 10（後半）
第 11 回	教材学修：基本教材 1 の 11、12
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正校の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材学修：基本教材 2 の第 1 章、第 2 章
第 2 回	教材学修：基本教材 2 の第 3 章
第 3 回	教材学修：基本教材 2 の第 4 章、第 5 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正校の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材学修：基本教材 2 の第 6 章
第 9 回	教材学修：基本教材 2 の第 7 章
第 10 回	教材学修：基本教材 2 の第 8 章
第 11 回	教材学修：基本教材 2 の第 9 章、第 10 章
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正校の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	日本語学特講	担当者	モリ 森 アツシ 篤嗣	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	研究において重要なことは「疑う」ことである。もっともらしく説明されていたとしても、それが事実であるかどうかを検証する必要がある。この講義では、作例などの内省と、実例によるデータを参照し、文法を中心とした現代日本語の諸問題を検証する方法を身につける。前期は、基本教材1を読み進めて現代日本語を体系的に把握すると共に、教材で説明されていることの中から「本当にそうか？」と疑いを持つ項目を選定して、作例や実例などを用いて検証を試みてもらう。後期は、基本教材2と動画からコーパスを活用する方法を身に付け、実例に基づいた検証をより効率的におこなう方法を修得する。以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力を中心に、問題発見・解決力、挑戦力、コミュニケーション力、協働力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 文法を中心とした現代日本語の諸問題を検証する方法を身につける</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文法を中心とした現代日本語の各項目について説明できる。</li> <li>説明がされている項目に「疑い」を持ち検証することができる。</li> <li>検証の方法として内省だけでなくコーパスを活用できる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 教材と関連文献を熟読する。15 時間 (自主研究) 課題の探索をおこなう。10 時間 (レポート作成) リポートの作成・リポート推敲。10 時間 (ディベート) 掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス (受講者同士で課題およびレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動) 10 時間</p> <p>★学習時間は課題レポート1件あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う。(課題図書等に関する受講者 同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)</li> <li>manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題 1 締切 6 月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿提出期限: 学事歴で定められた日)</li> <li>レポート課題 2 締切 8 月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿提出期限: 学事歴で定められた日)</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題 1 締切 10 月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿提出期限: 学事歴で定められた日)</li> <li>レポート課題 2 締切 12 月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿提出期限: 学事歴で定められた日)</li> </ul>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用の適切性等 *前期レポート課題 1・2 と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 *後期レポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導、ピア・レスポンスは通常通り行う。
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度, レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。</li> <li>早い段階で第1回目のピア・レスポンスを行い、協働学習活動を積極的にこなしてほしい。</li> <li>レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数がある場合は文字数 (参考文献、注を除いたもの) を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 庵功雄 教材名： 『新しい日本語学入門：ことばのしくみを考える [第2版]』 (スリーエーネットワーク, 2012年) ISBN: 978-4883195893 2,000円+税 現代日本語学についての概説書。音声・音韻や社会言語学にも触れているが、文法が中心となっている。日本語学の全体像を把握するのに格好の教材である。
参考図書	衣畑智秀 (編著) 『基礎日本語学』 (ひつじ書房, 2019年) ISBN: 978-4894769465 1,800円+税 原沢伊都夫 『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』 (スリーエーネットワーク, 2010年) ISBN: 978-4883195428 1,600円+税 日野資成 『ベーシック現代の日本語学』 (ひつじ書房, 2009年) ISBN: 978-4894764385 1,700円+税 藤田保幸 『緑の日本語学教本』 (和泉書院, 2010年) ISBN: 978-4757605411 1,300円+税 益岡隆志・田窪行則 『基礎日本語文法：改訂版』 (くろしお出版, 1992年) ISBN: 978-4874240663 2,200円+税 益岡隆志 (編著) 『はじめて学ぶ日本語学：ことばの奥深さを知る 15章』 (ミネルヴァ書房, 2011年) ISBN: 978-4623061211 2,800円+税
履修上のポイント	基本教材1は日本語学の基礎的内容なので、いずれの章も十分理解してほしい。説明されている項目に納得してしまうのではなく、内省を働かせ、「本当にそうか？」という疑い(批判的思考)を持って読んでほしい。 余裕があれば、参考図書にあげた文献と比較して読むと、さらに理解が深まる。特に関心がある章については、参考図書の解説を読んでみることを勧める。ピア・レスポンスの活動を通して、他者の視点も理解しながら現代日本語文法に関する理解を確実なものとしてほしい。
レポート課題 1	基本教材1の第1章～第14章を理解し、「本当にそうか？」と疑いを持つ項目を選定して、作例や実例(普段読んでいる書籍や雑誌などから)などを反例として挙げながら、「必ずしもそうは言えないのではないか」という検証を論述する。先行研究を参照する場合は、適切に引用すること。
レポート課題 2	基本教材1の第15章～第25章を理解し、「本当にそうか？」と疑いを持つ項目を選定して、作例や実例(普段読んでいる書籍や雑誌などから)などを反例として挙げながら「必ずしもそうは言えないのではないか」という検証を論述する。先行研究を参照する場合は、適切に引用すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 中俣尚己 教材名： 『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』 (ひつじ書房, 2021年) ISBN: 978-4823410598 1,800円+税 国立国語研究所が開発したコーパス検索アプリケーション「中納言」を活用して日本語研究をおこなうための解説書である。「中納言」の単なる使用方法にとどまらず、コーパスを活用した日本語研究をおこなう際のノウハウが詰め込まれている。
参考図書	李在鎬, 石川慎一郎, 砂川有里子 『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』 (くろしお出版, 2018年) ISBN: 978-4874247716 2,400円+税 野田尚史, 迫田久美子 (編著) 『学習者コーパスと日本語教育研究』 (くろしお出版, 2019年) ISBN: 978-4874248003 2,700円+税 中俣尚己 『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』 (くろしお出版, 2014年) ISBN: 978-4874246306 1,800円+税 森篤嗣 (編著) 『日本語教育への応用 (コーパスで学ぶ日本語学)』 (朝倉書店, 2018年) ISBN: 978-4254516555
履修上のポイント	基本教材2をよく読んで、コーパス検索アプリケーション「中納言」を使えるようになってほしい。そして、前期では少数の作例や実例だけで検証しようとした項目を、大量の言語データに基づいて量的に検証が可能になることを知ってほしい。また、基本教材2の著者による「中納言」の利用方法についての解説動画が公開されているので、オンデマンド教材として積極的に活用してほしい。 <a href="https://www.youtube.com/channel/UCk6pcsLUyp0Z9ZEPnVpb7TQ">https://www.youtube.com/channel/UCk6pcsLUyp0Z9ZEPnVpb7TQ</a> 余裕があれば、参考図書にあげた文献と比較して読むと、さらにコーパスに対する理解が深まる。特に関心がある章については、参考図書の解説を読んでみることを勧める。ピア・レスポンスの活動を通して、他者の方法や工夫も参照しながら、コーパスを活用した日本語研究に関する理解を確実なものとしてほしい。
レポート課題 1	基本教材1の第1章～第14章を読み返し、「本当にそうか？」と疑いを持つ項目を選定して、コーパスを活用して、「必ずしもそうは言えないのではないか」という検証を量的(パーセントや統計的有意差)かつ質的(検索結果を例文として分析)に論述する。先行研究を参照する場合は適切に引用すること。 <b>留意点</b> : レポートで扱う選定項目は前期と同じ項目でも、別の項目でも可とする。
レポート課題 2	基本教材1の第15章～第25章を読み返し、「本当にそうか？」と疑いを持つ項目を選定して、コーパスを活用して、「必ずしもそうは言えないのではないか」という検証を量的(パーセントや統計的有意差)かつ質的(検索結果を例文として分析)に論述する。先行研究を参照する場合は適切に引用すること。 <b>留意点</b> : レポートで扱う選定項目は前期と同じ項目でも、別の項目でも可とする。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1～5 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 6～10 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 11～14 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 15 章～第 17 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 18 章～第 20 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 21 章～第 23 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の第 24 章～第 25 章
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1～2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 3～4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 5～6 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の第 7 章～第 8 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 9 章～第 10 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 11 章～第 12 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の第 13 章～第 14 章
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	日本語教育方法論特講	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>日本語教育を考える際、教育の場（日本国内、国外）、機関（初等教育、中等教育、高等教育）は多種多様であり、対象者も年少者、学生、ビジネス関係者、日本の生活者など多様化している。本講義では、日本語教育の状況、言語学、異文化コミュニケーション、指導法、評価法、教授法、社会、歴史、教材などの観点から多角的に日本語教育を概観し、個々の環境に適した方法を考察する。以上の目的を達成することにより、世界の日本語教育を適切に考察する能力、日本語教育に関する問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 日本語教育について広く理解し、個々の教育現場に適した日本語教育の方法を多角的に考察する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史や社会環境と日本語教育を関連づけることができる。</li> <li>・国内外の日本語教育の多様性を説明することができる。</li> <li>・各種言語評価の理論を理解した上で、適切に活用することができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】 （自習）教材と関連文献を熟読する。15時間 （自主研究）課題に関し、事例研究を実施する。10時間 （レポート作成）レポートを執筆する。10時間 （ディベート）他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5時間 （ディベート）他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5時間 ★学修時間は課題レポート1本あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ manaba folio 上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。</li> <li>・ manaba folio を通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・ manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。</li> <li>・ 図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート課題1 締切：6月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日）</li> <li>・ レポート課題2 締切：8月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日）</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート課題1 締切：10月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日）</li> <li>・ レポート課題2 締切：12月15日（初稿）（最終稿提出期限：学事暦で定められた日）</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>受講者に配布する評価ルーブリックに基づく。評価ルーブリックでは、レポートごとに、「考え」「つながり」「応用」の段階を設けている。また、いずれのレポートについても、形式（構成、引用のし方、適切な表現）、論旨の明快さ、課題把握の適切性も評価の観点に加える。</p> <p>*後期のレポート課題2は最終試験として初稿で評価する。</p> <p>*その他のレポートは、最終稿にて評価する。</p>
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。</li> <li>・ 無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。</li> <li>・ 各レポート提出時に、レポート執筆チェックリストをあわせて提出すること。チェックリストは、学期開始後、manaba上に掲載する。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 遠藤織枝            教材名： 『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』（三修社，2020）            ISBN： 978-4-384-05973-1 2,400円+税 Kindle版：2,090円（税込）</p> <p>日本語教育の状況，歴史，言語政策，第二言語習得，教授内容，評価，社会，カリキュラムなどの観点から多角的に日本語教育を概観している本である。世界各地の日本語教育現場のレポートも掲載されており，日本語教育の多様性が理解できる。Kindle版は，下記URLから購入できる。  <a href="https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384059731/">https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384059731/</a></p>
参考図書	<p>国際交流基金『海外の日本語教育の現状 2021年度日本語教育機関調査』Web版            (https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey21.html)</p>
履修上のポイント	<p>基本教材1は日本語教育の基礎的内容なので，いずれの章も十分理解してほしい。特に，歴史や社会情勢との関係を理解し，日本語教育のあり方を考えること。また，それらを理解した上で，地域・対象者を具体的に想定し，コースデザインを検討すること。            ピア・レスポンスの活動を通して，他者の視点をも理解しながら，日本語教育に関する理解を深めること。</p>
レポート課題1	<p>第1章，第2章，第3章を読み，歴史や社会情勢がどのように日本語教育に影響を及ぼしていたかを考察し，さらにこれからの日本語教育のあり方を論じる。（4,000字～5,000字）</p> <p><b>留意点：</b>歴史的事実と日本語教育の関係を把握して，現在における学習者のニーズの変化を理解して，考察すること。教材であっても，引用する場合は，必ず出典を記載すること。「引用」か「自己の考察」かが明確にわかるように記述すること。</p>
レポート課題2	<p>第2章，第3章，第7章から第10章を中心に読んだ上で，地域・対象者を1つ設定して，どのような日本語教育を実践するか，コースデザインを検討する。国際交流基金の海外の日本語教育の現状2018年度調査の結果をニーズ把握の参考にする。地域は国内外を問わない。（3,000字～4,000字）</p> <p><b>留意点：</b>シラバス（学習項目一覧），教材，具体的な活動（1例），評価の方法を含める。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 文化庁文化審議会国語分科会            教材名： 日本語教育の参照枠 報告  <a href="https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf">https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf</a></p> <p>著者名： 遠藤織枝            教材名： 『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』（三修社，2020）8章            ISBN： 978-4-384-05973-1 2,400円+税 Kindle版：2,090円（税込）</p> <p>2021年に公開された「日本語教育の参照枠」は，CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment）を参考に策定された，学習，教授，評価に関する包括的な参照枠である。日本語能力の評価については，特に章を設け，評価に関する考え方，各種評価の説明，参照枠との対応づけなどが取り上げられている。            基本教材1でもある『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』の8章「評価」では評価・テストについての基本的な理論と各種評価が取り上げられている。</p>
参考図書	<p>Council of Europe. (2020). <i>Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment - Companion Volume</i>.  <a href="https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4">https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4</a></p>
履修上のポイント	<p>CEFRは，「Learning, teaching, assessment」とあるように，評価の枠組みでもあり，「日本語教育の参照枠」もそれに倣っている。多様な学習者の能力評価は重要であり，様々な評価の方法があること，評価の理念を学んでほしい。その上で，多様な評価・テストの実践例を自主研究，ピア・レスポンスを通して，理解を深めること。</p>
レポート課題1	<p>基本教材2「日本語教育の参照枠」で取り上げられている各種評価（pp.78-89）を理解した上で，これら評価に関する論文1編あるいは2編の要約をした上で，その評価に関し自分の意見を論じる。基本教材1（第8章）も参考にすること。（3,000字～4,000字）</p> <p><b>留意点：</b>要約は，論文を十分理解し，「自分の言葉」で書くこと。</p>
レポート課題2	<p>基本教材2と基本教材1（第8章）を試験（テスト）について理解した上で，試験（テスト）に関する論文1編あるいは2編の要約をした上で，そのテストに関し自分の意見を論じる。（3,000字～4,000字）</p> <p><b>留意点：</b>要約は，論文を十分理解し，「自分の言葉」で書くこと。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 2 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章～第 6 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章～第 8 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 9 章～第 10 章
第 11 回	コースデザインの検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 「日本語教育の参照枠」のⅠ
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 「日本語教育の参照枠」のⅡ
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 「日本語教育の参照枠」のⅢ
第 4 回	関係論文の講読
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 「日本語教育の参照枠」の参考資料
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』の第 8 章
第 11 回	関係論文の講読
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	日本語教育研究法特講 (旧カリ：日本語教育方法論特講)	担当者	ノダ 野田 ヒサシ 尚史	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------------------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>日本語教育ではさまざまな教科書・教材が使われているが、一般的には新しいものほど学習者のコミュニケーション能力を高めるための工夫が行われていると言える。しかし、日本語教科書・教材で扱われている内容は、学習者にとって必要なものになっていない部分が多に残っている。</p> <p>本講座では、従来の日本語教科書・教材を批判的に検討し、今後どのような部分をどう改善していけばよいかを検討できるようにする。その際、日本語学習者がどのように日本語を使ったり解釈したりしているかという実態を踏まえらるるようにする。</p> <p>こうした能力の修得（一般目標(GIO)）により、論理的・批判的思考能力を中心に、問題発見・解決能力、挑戦力、コミュニケーション能力、自己分析能力を身につけることを目的とする</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>日本語教育の従来の方法を理解した上で、今後それをどう改善していけばよいかを検討し、提案する能力を獲得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の日本語教科書・教材がどのように作られているのかを説明することができる。</li> <li>・従来の日本語教科書・教材の問題点を見つけ、説明することができる。</li> <li>・日本語学習者の日本語の使用や解釈の実態を分析することができる。</li> <li>・日本語教科書・教材をどう改善していけばよいかを検討し、提案することができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 教材と関連文献を熟読する。 (自主研究) 教材と関連文献を参考に、それに関連する具体例を自主的に集めたり考えたりする。また、日本語教科書・教材の分析や学習者コーパスを使った学習者の日本語の分析を自主的に行う。(レポート作成) 自主研究の結果をもとに、レポートを作成する。</p> <p>学修時間は、レポート1課題につき、準備から完成までに次の時間を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の学修：15 時間</li> <li>・事例の分析とレポートの執筆：20 時間</li> <li>・レポートの初稿の推敲と最終稿の完成（教員の添削指導への対応を含む）：10 時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・図書館やインターネットを活用して、資料を収集する。</li> <li>・日本語教科書・教材の分析や、学習者コーパスを使った学習者の日本語の分析を行い、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <p>レポート課題1 初稿締切：6月末 最終稿締切：学事暦で定められた日 レポート課題2 初稿締切：8月末 最終稿締切：学事暦で定められた日</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>レポート課題1 初稿締切：10月末 最終稿締切：学事暦で定められた日 レポート課題2 初稿締切：12月末 最終稿締切：学事暦で定められた日</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論旨の明確さ、独創性、具体性、引用を含む文章表現の妥当性など</li> <li>・前期レポート課題1・2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。</li> <li>・後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導は通常どおり行う。</li> </ul>
	観察記録	20 %	レポート添削への対応、初稿から最終稿への改善度など
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは、初稿から最終稿に至るまで、教師のフィードバックによる書き直し、自身による推敲、最終稿の完成へと、段階的に進める。</li> <li>・レポートでは、引用の方法や参考文献の明示などのルールを遵守すること。無断引用など、研究倫理上の問題があった場合は不正行為と見なされ、失格となる。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 野田尚史(編)            教材名： 『コミュニケーションのための日本語教育文法』（くろしお出版，2005）            ISBN： 978-4-87424-334-3 2,400 円＋税</p> <p>本書は、日本語を母語としない人たちに対する日本語教育の土台になっている「日本語教育文法」をコミュニケーションに役立つものにする提案を行っているものである。従来の日本語教科書・教材を批判的に検討し、具体的な問題点を指摘し、今後の進むべき方向を示している。</p>
参考図書	<p>新屋映子・姫野伴子・守屋三千代『日本語教科書の落とし穴』（アルク，1999）            ISBN： 978-4-75740-156-3 1,900 円＋税            森篤嗣・庵功雄(編)『日本語教育文法のための多様なアプローチ』（ひつじ書房，2011）            ISBN： 978-4-89476-569-6 3,400 円＋税            山内博之『プロフィシェンシーから見た日本語教育文法』（ひつじ書房，2009）            ISBN： 978-4-89476-388-3 2,200 円＋税            野田尚史(編)『日本語教育のためのコミュニケーション研究』（くろしお出版，2012）            ISBN： 978-4-87424-555-2 2,400 円＋税</p>
履修上のポイント	<p>さまざまな日本語教科書・教材があるが、特に初級教科書・教材での文法事項の扱いはどの教科書・教材でも大きな違いはない。しかし、それでよいと考えないで、実際に学習者に役に立つかどうかという観点から批判的に検討してほしい。また、最近の中級・上級の教科書・教材にはこれまでなかったような新しいタイプのものがある。そのような教科書・教材のよい点にも目を向けてほしい。</p>
レポート課題 1	<p>教材の中で自分の関心がある論文を選び、その内容に関連する具体例を挙げながら、発展的に論じる。（3000 字程度以上，上限はなし）  <b>留意点：</b>具体例は日本語教科書・教材に載っているものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。</p>
レポート課題 2	<p>特定の日本語教科書・教材を分析し、「文法事項の提出順序」「扱われているが不必要と考えられる文法事項」「扱われていないが必要だと考えられる文法事項」「文法事項の説明や練習問題の問題点」などの中から、自分の関心がある問題を具体例を挙げながら論じる。（3000 字程度以上，上限はなし）  <b>留意点：</b>具体例は日本語教科書・教材に載っているものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 野田尚史・迫田久美子(編)            教材名： 『学習者コーパスと日本語教育研究』（くろしお出版，2019）            ISBN： 978-4-87424-800-3 2,700 円＋税</p> <p>本書は、日本語学習者の言語データを集めたコーパスをどのように拡充させていけばよいか、また、すでにできているコーパスをどのように活用して日本語教育研究を行えばよいかを論じているものである。</p>
参考図書	<p>迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬(編)『日本語学習者コーパス I-JAS 入門—研究・教育にどう使うか—』（くろしお出版，2020） ISBN： 978-4-87424-825-6 2,70 円＋税            金澤裕之(編)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』（ひつじ書房，2014）            ISBN： 978-4-89476-698-3 6,500 円＋税            森篤嗣(編)『コーパスで学ぶ日本語学 日本語教育への応用』（朝倉書店，2018）            ISBN： 978-4-254-51655-5 2,400 円＋税            野田尚史(編)『日本語学習者の読解過程』（ココ出版，2020）            ISBN： 978-4-86676-021-6 3,600 円＋税</p>
履修上のポイント	<p>日本語のコーパスにはさまざまなものがあるが、特に日本語学習者の日本語を集めた学習者コーパスを使って、日本語学習者の実態を観察し、分析してほしい。どのような日本語教育を行うのがよいかを考えるためには、学習者の実態を知ることが重要だからである。</p>
レポート課題 1	<p>教材の中で自分の関心がある論文を選び、その内容に関連する具体例を挙げながら、発展的に論じる。（3000 字程度以上，上限はなし）  <b>留意点：</b>具体例は、コーパスで見つけたものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。</p>
レポート課題 2	<p>教材の各論文を参考にしながら、自分の関心がある事項（たとえば、学習者の「ほうがいい」の使い方、学習者の読解における辞書使用など）について学習者コーパスを検索したり観察したりした上で、その事項について具体例を挙げながら論じる。（3000 字程度以上，上限はなし）  <b>留意点：</b>具体例は、コーパスで見つけたものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の冒頭論文「コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図」
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の「第 1 部」の 4 論文
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の「第 2 部」の 5 論文
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：修正稿に対する推敲
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	日本語教科書・教材の分析：文法事項の提出順序の検討
第 9 回	日本語教科書・教材の分析：扱われているが不必要と考えられる文法事項の検討
第 10 回	日本語教科書・教材の分析：扱われていないが必要だと考えられる文法事項の検討
第 11 回	日本語教科書・教材の分析：文法事項の説明や練習問題の検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：修正稿に対する推敲
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の「第 1 部」と「第 2 部」の 5 論文
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の「第 3 部」と「第 4 部」の 4 論文
第 3 回	複数の学習者コーパスの試用
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：修正稿に対する推敲
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	学習者コーパスの分析：分析するコーパスの決定とそのコーパスの特徴・使い方の把握
第 9 回	学習者コーパスの分析：分析事項の決定とコーパスでの検索・観察
第 10 回	学習者コーパスの分析：検索・観察結果の検討
第 11 回	学習者コーパスの分析：分析結果のまとめ
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：修正稿に対する推敲
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	英語学特講	担当者	カワシマ 川嶋 マサシ 正士	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>大学院におけるトレーニングでは、文献を熟読し、先行研究や隣接した研究に照らし合わせて新たな知見を見出し、体系化することが重要な事柄の一つです。</p> <p>英語学は、言語理論的な研究から、英語教育における実践的な研究まで幅広く行われています。</p> <p>本講座では、英文法の専門書を共通の基底として、英語学の統語論を、経験科学の範疇において、様々な側面から考察することを目的としています。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>英語学の方法論を、英語の言語事実の研究を通じ、実践的に学修することを目標とする。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語の語法・意味について基本的知識を修得する。</li> <li>文を単位とした統語的分析方法を修得する。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>教材と関連文献の学修 (15 時間)</p> <p>レポート課題初稿作成 (15 時間)</p> <p>レポート課題最終稿の完成 (15 時間) 指導教員の添削や討論を含む</p> <p>*学修時間はレポート課題 1 件あたりの目安時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio を通じて、レポート課題提出の討論などの協働学習を行う。</li> <li>manaba folio を通じて教員とインタラクティブな学習を行う。</li> <li>manaba folio の観察記録に基づき自身の学修を振り返る。</li> <li>図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。</li> </ul>		
スケジュール	<p>＜前期＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題 1 締切 6 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日)</li> <li>レポート課題 2 締切 8 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日)</li> </ul> <p>＜後期＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題 1 締切 11 月 15 日 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日)</li> <li>レポート課題 2 締切 12 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事暦で定められた日)</li> </ul>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式 (構成, スタイルの一貫性, 引用の仕方, 表現の簡素さと適切さ), 内容 (論旨展開と結論の提示の明快さ, 先行研究の参照度と独創性, 課題把握の適切性) *後期のレポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 *その他のレポートは、最終稿で評価する。
	観察記録	20 %	討論への貢献, 指導教員の添削への対応など
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導教員のコメントや討論のフィードバックを反映しレポートを完成させてください。</li> <li>先行研究や引用と新規な知見は明確に区別してください。</li> <li>書式は、APA もしくは MLA の最新のマニュアルに準じてください。</li> <li>受講生間で積極的に情報交換や議論を行ってください。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Douglas Biber, Susan Conrad, and Geoffrey Leech 教材名： <i>Longman Student Grammar of Spoken and Written English</i>
	使用教材は、Student Grammar と題されているが、コーパス言語学の知見を活かした専門書である。高等学校や大学で英語を教えることの基本的な知識が網羅されている良書です。 指定された範囲以外も興味を持った領域は自主的に学修してください。
参考図書	Randolph Quark et al. 著 <i>A Comprehensive Grammar of The English Language</i> Pierson (Paperback)
履修上のポイント	教材の第1～3章は、文分析の根本に関する事などで、熟読の上十分理解してください。
レポート課題 1	第1章の概要をまとめ、問題意識を持った個所に関して考察しなさい（日本の教育英文法や言語理論との対比を行ってください）。 <b>留意点</b> ：英文法と英語学の関係を理解し、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察してください。
レポート課題 2	第2, 3章を読んだうえで、研究対象する章の概要をまとめ、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察しなさい。（3,000字～4,000字） <b>留意点</b> ：少なくとも先行研究1点との対比を含めます。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： Douglas Biber, Susan Conrad, and Geoffrey Leech 教材名： <i>Longman Student Grammar of Spoken and Written English</i>
	使用教材は、Student Grammar と題されているが、コーパス言語学の知見を活かした専門書である。高等学校や大学で英語を教えることの基本的な知識が網羅されている良書です。 指定された範囲以外も興味を持った領域は自主的に学修してください。
参考図書	Randolph Quark et al. 著 <i>A Comprehensive Grammar of The English Language</i> Pierson (Paperback)
履修上のポイント	教材の第4, 5章は、主部と述部構造の根本に関する事なので、熟読の上十分理解してください。
レポート課題 1	第4章の概要をまとめ、考察しなさい（日本の教育英文法や言語理論との対比） <b>留意点</b> ：英文法と英語学の関係を理解し、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察すること。
レポート課題 2	第5章を読んだうえで、研究対象とする箇所の概要をまとめ、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察しなさい。（3,000字～4,000字） <b>留意点</b> ：少なくとも先行研究1点との対比を含めます。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の第 1 章を読み、英語学研究における文法について考える
第 2 回	教材の第 1 章を振り返り、コーパス言語学と言語変異について考える
第 3 回	教材の第 1 章を振り返り、レポート課題 1 の構想を練る
第 4 回	教材の第 1 章のうち、問題意識を持った個所を研究し、レポート課題 1 の下書きをする
第 5 回	レポート課題 1 の初稿を執筆する
第 6 回	レポート課題 1 の初稿を推敲し、提出する
第 7 回	教材の第 2 章を読み、語の定義と類について考える
第 8 回	教材の第 3 章を読み、句と節について考える
第 9 回	レポート課題 1 の添削指導をもとに最終稿を作成する
第 10 回	教材の第 2, 3 章を振り返り、レポート 2 の構想を練る
第 11 回	教材の第 2, 3 章のうち、問題意識を持った個所を研究し、レポート課題 2 について下書きする
第 12 回	レポート課題 2 の初稿を執筆する
第 13 回	レポート課題 2 の初稿を推敲し、提出する
第 14 回	第 1 章から第 3 章でレポート課題 1 と 2 について参照した個所を振り返る
第 15 回	レポート課題 2 の添削指導をもとに最終稿を作成し、提出する

### 基本教材 2

第 1 回	教材の第 4 章 (4.1-4.4) を読み、名詞について考える
第 2 回	教材の第 4 章 (4.5-4.8) を読み、決定詞や冠詞について考える
第 3 回	教材の第 4 章 (4.9-4.16) を読み、代名詞について考える
第 4 回	教材の第 4 章のうち、問題意識を持った個所を研究し、レポート課題 1 の下書きをする
第 5 回	レポート課題 1 の初稿を執筆する
第 6 回	レポート課題 1 の初稿を推敲し、提出する
第 7 回	教材の第 5 章 (5.1-5.6) を読み、動詞の機能や分類について考える
第 8 回	教材の第 5 章 (5.7-5.12) を読み、動詞の構造や意味について考える
第 9 回	レポート課題 1 の添削指導をもとに最終稿を作成する
第 10 回	教材の第 5 章 (5.13-5.17) を読み、各動詞の特徴について考える
第 11 回	教材の第 5 章のうち、問題意識を持った個所を研究し、レポート課題 2 の下書きをする
第 12 回	レポート課題 2 の初稿を執筆する
第 13 回	レポート課題 2 の初稿を推敲し、提出する
第 14 回	第 4 章から第 5 章でレポート課題 1 と 2 について参照した個所を振り返る
第 15 回	レポート課題 2 の添削指導をもとに最終稿を作成し、提出する

科目名	英語教育方法論特講	担当者	ロックリー トーマス	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>内容言語統合型学習 (Content and Language Integrated Learning (CLIL)) は、第二言語の語彙力とコミュニケーション能力を養うことができるようになることを目的とする。この学習方法は、世界中のより多くの国で取り入れられてきています。CLIL の特徴は、時事問題や異文化理解についてのトピックに触れ、共同学習を通し、言語知識・スキルを高めるだけでなく、様々な思考力を育成できることである。</p> <p>このコースで受講者は、CLIL の理論について学び、実際の学習環境において自身で授業計画を作成し、振り返られるようになる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 CLIL の理論と学習環境での実際の実践について学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) CLIL の基盤となる概念枠組みを説明できる。</li> <li>2) CLIL がどのように受講者の学習状況で使用されるか、または使用される可能性があるかを説明できる。</li> <li>3) CLIL の概念的枠組みを使用して、受講者は CLIL の実践例が書かれている論文を読み調べ、2つ (あるいは3つ) の事例を要約し、CLIL としての妥当性などを講評する。そして自身の教育環境や状況に対応する CLIL レッスン計画を計画し、計画についてレポートを執筆する。</li> <li>4) CLIL の理論と実践について学んだことを振り返る。</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 教材の熟読、さらに、オープンエデュケーション教材 (Open Educational Resources: OER) (例 academia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal 等) による自律的学習 (自主研究) 参考文献の検索と熟読 (レポート作成) レポートの作成・教員によるコメントにレポート推敲</p> <p>レポート課題1につき、完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教材の学修: 20 時間</li> <li>2) レポート執筆: 10 時間</li> <li>3) レポート推敲と最終の完成 (教員の添削指導): 15 時間</li> </ol> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; ・レポート課題1 締切: 6月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切: 8月末 (初稿) 前期締切日 (最終稿)</p> <p>&lt;後期&gt; ・レポート課題1 締切: 10月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿) ・レポート課題2 締切: 12月末 (初稿) 後期締切日 (最終稿)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用の適切性等 ★前期レポート課題1、2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。
	観察記録	20%	レポート添削への対応等
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 積極的な態度で CLIL にアプローチすること。</li> <li>2) 批判的な態度で実践的な計画を考える。全てが完璧であることを期待しないようにしましょう。</li> <li>3) レポートは担当教員のフィードバックによる書き直しを繰り返しながら (特に英文の場合) 最終稿が締め切りに間に合う様、計画的に進めること。締め切りに変更が必要な場合は担当教員まで連絡する。</li> <li>4) 日本の教育現場で英語を教える受講者は、英文でレポートの作成を行うこと (不可の場合は日本語でも可。)</li> </ol> <p>！重要！後期に使用する教材は早めに購入すること。購入が難しい場合は担当教員にメールで相談すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Do Coyle, Philip Hood, David Marsh 教材名： CLIL - Content and Language Integrated Learning (Cambridge University Press, 2010) 約 4400 円 (税込み)
	この本は CLIL に関する包括的な概要を提供しています。この理論をまとめ、実際の実践について説明しています。
参考図書	1) CLIL 新しい発想の授業 - 理科や歴史を外国語で教える! ? -。笹島 茂 他 (三修社、2011 年) 2750 円 (税込み) 2) OER (例 academia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal 等)
履修上のポイント	CLIL の概念的枠組みは、柔軟な方法で言語指導と学習改善を提供している。受講者は常に、CLIL について学んだことを自身の環境や状況に関連付けるように心がけること。
レポート課題 1	基本教材 1 Chapter 1 ~ Chapter 4 を読んで、CLIL の概念的枠組みについて解説する (英語 1500-2000 words、日本語 3,000 字~4,000 字)。 <b>留意点</b> ：参考図書と OER で探した文献も参考に、CLIL の授業法を考える。
レポート課題 2	基本教材 1 Chapter 5 ~ Chapter 8 を読んで、CLIL が学習環境でどのように使用されるか、または使用される可能性があるかを説明する。 (英語 1500-2000 words、日本語 3,000 字~4,000 字)。 <b>留意点</b> ：参考図書と OER で探した文献も参考に、CLIL の授業法を考える。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 和泉 伸一 教材名： CLIL(内容言語統合型学習)：上智大学外国語教育の新たな挑戦 第3巻 授業と教材。 (ぎょうせい、2016 年) 1760 円 (税込み)
	この本には、順序関係なく使用できる幅広い CLIL アクティビティが含まれている。付属の CD-ROM には、印刷可能な CLIL アクティビティが入っている。受講者は、自分の CLIL レッスンを計画するのに役立つアイデアと活動を活用することができる。
参考図書	1) CLIL Activities with CD-ROM: A Resource for Subject and Language Teachers. Liz Dale and Rosie Tanner (Cambridge University Press) 約 4 4 0 0 円 (税込み) 2) Understanding Language Classroom Contexts - The Starting Point for Change. Martin Wedell and Angi Malderez (Bloomsbury, 2013) 約 3 8 0 0 円 (税込み) 3) OER (例 academia.edu, researchgate.net, J-CLIL Journal 等)
履修上のポイント	参考図書や論文をできるだけ参照して、自分の現場を念頭に置いた授業計画を考案する。
レポート課題 1	基本教材 Part 1 ~ Part 3.6 を読んで、学習した CLIL の概念的枠組みを使用して、環境や状況に合わせて CLIL 授業計画作成する、および CLIL の実践例を批判的に分析する。 (英語 1500-2000 words、日本語 3,000 字~4,000 字)。 <b>留意点</b> ：参考図書と OER で探した文献も参考に、CLIL の実践を考える。
レポート課題 2	参考図書 3 「OER から調べた 2 つの論文」を読んで、CLIL の理論と計画を作成して学んだことを振り返る。(英語 1500-2000 words、日本語 3,000 字~4,000 字)。 <b>留意点</b> ：OER で探した文献も参考に、CLIL の実践法を考える。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 1
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 2
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 3
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 4
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 5
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 6
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 7
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 Chapter 8
第 12 回	OER による研究論文の検索と分析（例 adamemia. edu, researchgate. net, J-CLIL Journal 等）
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章と第 2 章の学修
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 3 章と第 4 章の学修
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 5 章と参考図書 1 の中から自分の環境に合わせて自由に選んでください
第 4 回	教材の学修：基本教材参考図書 1 の中から自分の環境に合わせて自由に選んでください。
第 5 回	OER による研究論文の検索と分析（例 adamemia. edu, researchgate. net, J-CLIL Journal 等）
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	CLIL の実践例を論文で調べて、1 つの事例を要約し、CLIL としての妥当性などを講評する。
第 10 回	CLIL の実践例を論文で調べて、1 つの事例を要約し、CLIL としての妥当性などを講評する。
第 11 回	授業計画
第 12 回	授業計画
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ 田中 ケンイチロウ 堅 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、①調査の種類、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し、実際に調査票を作成し、面接計画を作ることを目的とする。②調査分析に必要な統計手法について学習し、実際に分析できることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて、具体的克論理的な見解を示すことができ、その限界を認識することができる。</p> <p>II. データを分析し、分析結果の意味を理解し、問題を解決することができる。</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。</p>						
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 データを注意深く読み取り、適切な分析を行うことができ、分析結果を客観的に解釈することができる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる）。</li> <li>データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。</li> <li>データ分析に必要なコンピュータ・リテラシーを身につけられる。</li> <li>収集されたデータを、統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し、分析した結果を解釈することができる。</li> </ul>						
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。 1つのレポート課題の完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材および参考文献の読み込み：20時間</li> <li>レポート課題の執筆：10時間</li> <li>Manaba-Folioへのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に、想定される質問とその回答を纏めた「Q &amp; A」を公開する。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</li> <li>オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。</li> </ul>						
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題1：6月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材1のレポート課題2：8月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材2のレポート課題1：11月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2025年1月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。 基本教材2のレポート課題2：12月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2025年1月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	レポート	79%	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に)0点となります。</li> <li>レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います(こうしたレポートは評価の対象としません)。教材の引き写しは評価の対象外とします。</li> </ul>				
観察記録	21%	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出までにManaba-Folio上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。</li> <li>草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。</li> </ul>					
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをレポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献(引用文献)と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献(参考文献)とは仕分けて示してください。</li> <li>要覧にもあるように、後期課題のレポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少数の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をレポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。</li> </ul>						

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 鈴木淳子 教材名： 『質問紙デザインの技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2016年） ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税</p> <p>(2) 著者名： 鈴木淳子 教材名： 『調査的面接の技法（第2版）』（ナカニシヤ出版，2005年） ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税</p>
参考図書	<p>(1)は、主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。 (2)は、研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。</p> <p>大竹恵子（編著）『なるほど！ 心理学調査法』（北大路書房，2017年） ISBN:978-4-7628-2990-1 2,200円+税</p> <p>高橋尚也他（編著）『心理調査と心理測定尺度 計画から実施・解析まで』（サイエンス社，2023年） ISBN 978-4-7819-1568-5 2,350円+税</p> <p>三浦麻子（監修），米山直樹・佐藤 寛（編著）『なるほど！ 心理学面接法』（北大路書房，2018年） ISBN:978-4-7628-3051-3 2,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>レポート課題における「①質問紙（アンケート調査）を行う手順」と「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所」は、教材の『質問紙デザインの技法』を参考にし、「③面接調査（ヒアリング調査）を行う手順」と「④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と、それらの長所と短所」は、教材の『調査的面接の技法（第2版）』を参考にすること。</p>
レポート課題 1	<p>以下に示す項目について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①質問紙法（アンケート調査）を計画し実施するまでの手順 ②質問紙法（アンケート調査）の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所 ③面接調査（ヒアリング調査）を実施するまでの手順 ④面接調査（ヒアリング調査）の形式による区分と、それらの長所と短所 <b>留意点：</b>各項目あたり2,000字以内を目安に説明すること。</p>
レポート課題 2	<p>以下の2項目のうち、一つを選ぶこと： ①任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について、調査内容をまとめ、実際に質問紙（アンケート）を作成すること。 ②任意のテーマ（できたら自分の研究課題に近いもの）について、調査内容をまとめ、ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成すること。 <b>留意点：</b>教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては、調査後に分析がしやすいように配慮すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 南風原朝和（著） 教材名： 『心理統計学の基礎 統合的理解のために』（有斐閣アルマ，2002年） ISBN:4-641-12160-5 2,200円+税</p> <p>この教材は、統計的手法について詳細に解説したものである。</p>
参考図書	<p>村井潤一郎・柏木恵子『ウォームアップ心理統計』（東京大学出版会，2008年） ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税</p> <p>松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』（北大路書房，2002年） ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税</p> <p>繁樹算男・森 敏昭・柳井晴夫『Q &amp; A で知る統計データ解析 Dos and DON' Ts』（サイエンス社，2008年） ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税</p>
履修上のポイント	<p>データ解析用ソフトは教務課より無料提供されるが、もし所有のPCがMackintoshの場合は担当講師（田中）まで相談すること。（基本教材2に関しては）高等学校の数学Bを履修した程度の知識があることが望ましい。</p>
レポート課題 1	<p>以下に示す用語について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性 <b>留意点：</b>各用語あたり800字以内を目安に、3,000～4,800字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし、その際に用いた記号について脚注をいれること。</p>
レポート課題 2	<p>与えられたデータをもとに、統計解析ソフト（BellCurve Excel 統計，㈱社会情報サービス）を用いて以下に指定された分析を行い、その結果を要約すること。 ①すべての変数について度数分布、代表値、散布度を示す。 ②任意に2変数を選び相関図を描き、その相関図について相関係数を算出する。 ③3つ以上の変数を選び、重回帰分析法を実施する。 ④5つ以上の変数を選び、因子分析法を実施する。 <b>留意点：</b>分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト（Manaba-Folio）に添付される。PC統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと（ただし、掲載する図表をExcelで作成するのはかまわない）。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材に基づく学修(1)	質問紙調査法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：質問紙とは何か、質問紙法の基礎（教材 1; 1 章, 2 章）
第 2 回	教材に基づく学修(2)	質問紙法の調査プロセス，データ収集の技法（教材 1; 3 章, 4 章）
第 3 回	教材に基づく学修(3)	サンプリングの技法，調査実施に向けての準備（教材 1; 5 章, 6 章）
第 4 回	教材に基づく学修(4)	倫理的ガイドライン，質問紙デザインの基礎，質問紙の構成と体裁（教材 1; 7 章, 8 章, 9 章）
第 5 回	教材に基づく学修(5)	質問の種類と順序，質問作成，ワーディング（教材 1; 10 章, 11 章, 12 章）
第 6 回	教材に基づく学修(6)	選択回答法，自由回答法，予備調査（教材 1; 13 章, 14 章, 15 章）
第 7 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1：①，②の草稿作成
第 8 回	教材に基づく学修(7)	調査的面接法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：調査的面接法とは何か（教材 2; 第 1 章）
第 9 回	教材に基づく学修(8)	調査的面接法の分類，データ収集法の組み合わせ（教材 2; 第 2 章, 第 3 章）
第 10 回	教材に基づく学修(9)	調査的面接法のデザイン（教材 2; 第 4 章）
第 11 回	教材に基づく学修(10)	調査的面接法のガイドライン（教材 2; 第 5 章）
第 12 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1：③，④の草稿を作成 ①②とともに提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 13 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 14 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の草稿を提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(5)	レポート課題 2 の最終レポート作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材に基づく学修(1)	心理学研究における統計の役割について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：心理学研究と統計（第 1 章）
第 2 回	教材に基づく学修(2)	分布の記述的指標（第 2 章）
第 3 回	教材に基づく学修(3)	相関係数の把握と回帰係数（第 3 章），確率モデルと標本分布（第 4 章）
第 4 回	教材に基づく学修(4)	統計的推定・検定（第 5 章），平均値差と連関についての統計的推定（第 6 章）
第 5 回	教材に基づく学修(5)	線形モデルの基礎（第 7 章），偏相関と重回帰分析（第 8 章）
第 6 回	教材に基づく学修(6)	実験デザインと分散分析法（第 9 章）
第 7 回	教材に基づく学修(7)	因子分析法（第 10 章）
第 8 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 9 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 10 回	実習課題(1)	サンプルデータを確認し，Excel と統計解析ソフトの操作に慣れる
第 11 回	実習課題(2)	①サンプルデータの全変数について度数分布，代表値，散布度を示す ②任意に 2 つの変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する
第 12 回	実習課題(3)	③3 つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する
第 13 回	実習課題(4)	④5 つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する
第 14 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 2 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

科目名	統計基礎 I	担当者	サトウ トモヒコ 佐藤 友彦	期間	通年	単位数	2
-----	--------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>最近の統計ソフトは大変に使い勝手が良く、統計的基礎や計算の前提条件を理解しなくても、形の上では統計の計算結果を得られるが、多くの場合、前提条件や利用条件を知らないことで、統計結果の解釈に間違いが散見される。</p> <p>本科目では、従来のような数式を中心とする説明ではなく、我々の身近にあるような具体的な例を取り上げ、できるだけ数式を介さず、統計の基本概念を理解する。また、表計算ソフトを使うことで、数学が苦手な人でも統計処理の基本的な考え方を理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 統計が身近な疑問や現象に答えてくれるものであり、比較的身近な数学であることを理解する。統計処理は、決して理解が難しい数学ではなく、非常に単純な数学的思考に立脚した数値処理であることを理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 ① 本科目では、統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意さを表す検定」について理解することを目指す。 ② 特に「検定」に関しては、その背景にある単純な仮定を理解することで、検定の「考え方」や「適用範囲」を理解する。 ③ ここでは、それらの統計処理を使って身近なデータを処理し、それによって具体的な統計処理技術の習得も目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書を熟読する。【SBO①】【30 時間/1 冊】 ② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&amp;③】【45 時間/レポート 1 件】 ※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に活用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。</p>		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているため、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のレポート提出は、基本的に認めない。【締め切り 1~2 ヶ月前にはレポート初稿を 1 本は必ず提出をしていること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学事歴で定められた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	「分散」や「検定、分散分析」について数学的背景を理解できたか。 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。
	観察記録	30%	「分散」や「検定、分散分析」についての疑問や質問が解決できたか・ 「検定、分散分析」について、議論することができるか。
履修者への要望	<p>数学、特に統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。指定教材をしっかり読むこと。また、実際に Excel を操作して分析までたどり着くには、継続的・反復的に学修する必要がある。本科目で学ぶ項目は基本的なことが主であり、数学や統計処理が得意な人は受講しても意味はないので注意すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 向後千春, 富永敦子 教材名： 『First Book 統計学がわかる』(技術評論社, 2007年), ISBN:978-4-7741-3190-0 1,680円+税 または, (2) 著者名： 涌井貞美 教材名： 『意味がわかる統計解析』(ベレ出版, 2013年) ISBN:978-4-86064-345-4 2,000円+税</p> <p>(1)は、数式をなるべく使わずに統計処理の仕組みを説明し、初心者でも気軽に読めて統計を学習できる教科書。あるハンバーガーショップで起こる様々な疑問や問題を、統計処理を使って登場人物たちと一緒に解決していく。基本統計量、区間推定、検定など統計データ分析の基本を理解できる。統計が苦手と思っている人には最適な教科書である。 (2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で統計解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。 菅民郎, 『Excel で学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016 対応版』(オーム社, 2020年) ISBN:978-4-274-22641-0 2,800円+税 (やや辞書的な扱い) 小島寛之, 『完全独習 統計学入門』(ダイヤモンド社, 2006年), ISBN:978-4-478-82009-4 1,800円+税 (教科書同様の入門書だが, Excel との対応が乏しい)</p>
履修上のポイント	<p>本科目は、とにかく数学が苦手で、統計学が苦手な人のための科目である。多くの教科書に見られるような数式で説明することを極力避け、表計算ソフトを使うことで数式による説明を介さずに、統計データ処理を学ぶ。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ (<a href="https://www.stat.go.jp/data/">https://www.stat.go.jp/data/</a>) などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題 1	<p>(1) t 検定とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、標本の正規性や等分散性を意識してレポートを作成せよ。 (2) さらに、身の回りのデータを1組用意してt検定を行い、その結果を考察せよ。 <b>留意点：</b>(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>
レポート課題 2	<p>(1) 分散分析とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、標本の正規性や等分散性を意識してレポートを作成せよ。 (2) さらに、身の回りのデータを1組用意して分散分析を行い、その結果を考察せよ。 <b>留意点：</b>(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>

基本教材 1

第 1 回	統計と確率の関係について理解する。特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を理解する。また、授業を受講する上で必須な、各自のパソコンの Excel で「データ分析」が使えるようにするための設定手順を確認する。
第 2 回	平均と分散、特に分散についての重要性について学ぶ。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について理解する。
第 3 回	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理について理解する。
第 4 回	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができる。この信頼区間の考えが、有意差検定の基本であることを理解する。
第 5 回	有意差検定の考え方の基本を学ぶ。第 4 回内容の「信頼区間」との関係を理解する。また、有意差検定の考え、「帰無仮説」や「対立仮説」についても理解する。
第 6 回	カイ 2 乗の考え方を学ぶ。また、有意差検定の最も基本になる考えについて、カイ 2 乗検定を使った具体的な計算方法について理解する。
第 7 回	カイ 2 乗検定の実際の計算を学ぶ。特に、実際のデータを使って、カイ 2 乗検定の具体的な計算方法の手順を理解する。
第 8 回	有意差検定で、最も利用されている「t 検定(対応なし)」の考え方を学ぶ。特に、正規分布と t 分布、その信頼区間の関係について理解する。
第 9 回	実際のデータを使った「t 検定(対応なし)」の計算方法について学ぶ。計算の手順と、Excel における「データ分析」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も学ぶ。また、「t 検定(対応なし)」の前提条件である「等分散性」についても理解する。
第 10 回	実際のデータを使った「t 検定(対応あり)」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も理解する。さらに第 9 回内容の「t 検定(対応なし)」との違いについても理解する。
第 11 回	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を理解する。特に「t 検定」との違いと、「分散分析」の考え方を理解する。特に F 分布と F 値の考えを理解することを目的とする。また、分散分析の前提条件である等分散性についても理解する。
第 12 回	実際のデータを使った「分散分析(1 要因)」についての計算方法を理解する。特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順について理解する。
第 13 回	「分散分析(2 要因)」について「分散分析(1 要因)」との違いについて理解する。特に「分散分析(多要因)」で現れる「交互作用」について理解する。
第 14 回	実際のデータを使った「分散分析(2 要因)」についての計算方法を理解する。特に「交互作用」について理解する。
第 15 回	半年間の学修内容について、データ分析の立場から、統計分析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	統計基礎Ⅱ	担当者	サトウ トモヒコ 佐藤 友彦	期間	通年	単位数	2
-----	-------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>最近のコンピュータの高性能化に伴い、高性能な統計ソフトも自由に利用できるようになり、その結果、今までは難しかった多変量解析などが簡単に利用できるようになった。しかし、統計処理が簡単に利用できる一方、その基本にある数理的背景を理解しないままデータ処理を行っているケースが多く見られるようになってきた。</p> <p>本科目では、実際の修士論文や研究に利用されることが多い『多変量解析』における「回帰分析」、「相関係数」や「因子分析」などの数学的背景と前提条件、利用条件などを理解する。また、身近な具体例を使い、なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで、その基本的考え方を理解することを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>本科目では、実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学ぶ。特に、「相関」、「(重)回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の修得を目指す。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが、この「多変量統計解析」だが、その理論的背景を理解することを目指す。</p> <p>② 多変量解析が単純な数学的仮定(線形関係)の上に成り立っていることを理解する。</p> <p>③ その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを認め、その線形代数の手法が「最小 2 乗法」や「(座標)回転」や「固有値」と関係することを理解する。その上で、多変量解析では何を計算するのかを理解することで、その適用範囲を各自が理解できることを目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書および参考文献を熟読する。【SBO①】【30 時間/1 冊】</p> <p>② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&amp;③】【45 時間/レポート 1 件】</p> <p>※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。</li> <li>指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。</li> </ul>		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているため、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際でのレポート提出は、基本的に認めない。【締め切り 1~2 ヶ月前にはレポート初稿を 1 本は必ず提出をしていること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学事歴で定められていた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	「多変量解析」の数学的仮定を理解できたか。 「相関」や「重回帰分析」、「因子分析」とは何かを理解できたか。エクセルを使って、「多変量解析」処理を行うことができたか。
	観察記録	30%	「多変量解析」に関する疑問や不明な点が解決できたか。 「多変量解析」に関する統計処理技術を議論できたか。
履修者への要望	<p>統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。ただし、数学が特に苦手な人は、「統計基礎Ⅰ」の後に受講することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 向後千春, 富永敦子            教材名： 『FirstBook「統計学がわかる」一回帰分析・因子分析編一』(技術評論社, 2009年)            ISBN:978-4-7741-3707-0 1,680円+税            または,            (2) 著者名： 石井俊全            教材名： 『意味がわかる多変量解析』(ベレ出版, 2014年),            ISBN:978-4-86064-398-0 1,900円+税</p> <p>理数系以外の学生で統計を知っている人でも、「回帰分析」や「因子分析」など、データ間の「関係を調べる」ための統計データ処理の仕組みを理解している人は多くない。</p> <p>(1)は、極力数式を使わず、データの「関係を調べる」ための統計データ処理の基本的な仕組みを解説している。アイスクリームショップを舞台に登場人物のアルバイトと一緒に悩みながら、気温とアイスクリームの売り上げの関係など、あなたの研究・調査に応用できるような話題を取り上げる。比較的理解することが難しいといわれている「多変量データ解析」を理解できるようになる。</p> <p>(2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で多変量解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。</p> <p>上田太一郎, 小林真紀, 瀧上美喜, 『Excel で学ぶ回帰分析入門』(オーム社, 2004年)            ISBN:978-4-274-06556-9 2,800円+税(回帰分析・多変量解析におけるExcelの操作説明が豊富)</p>
履修上のポイント	<p>本科目では、多変量解析の基本的な仕組みや数理的背景を理解することを目的とする。ここでは数式による説明をできるだけ避け、表計算ソフトExcelを使って、直接データを統計処理する。数学が苦手な人でも「相関」や「(重)回帰分析」, 「因子分析」の基本的な仕組みを理解することを目標としている。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ (<a href="https://www.stat.go.jp/data/">https://www.stat.go.jp/data/</a>) などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題 1	<p>(1) 「相関」と「回帰分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながらレポートを作成せよ。</p> <p>(2) さらに、身の回りのデータを用意し、「相関」と「回帰分析」を計算し、それぞれの結果を考察せよ。</p> <p><b>留意点</b>：(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>
レポート課題 2	<p>(1) 「因子分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながらレポートを作成せよ。</p> <p>(2) さらに、身の回りのデータを用意し、「因子分析」を計算し、その結果を考察せよ。なお、PC環境により因子分析の計算が困難な場合は、「重回帰分析」を行い、その結果を考察せよ。</p> <p><b>留意点</b>：(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>

基本教材 1

第 1 回	本科目で行う「多変量解析」についての概要を理解する。また、本科目で必要な各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても理解する。
第 2 回	教科書の例題を参考に、データの構造を表す「散布図と相関」について理解する。特に、データ間の関係がデータ解析に重要な要素であることを理解する。
第 3 回	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について理解し、その計算方法を理解する。また、偏差積についても理解する。
第 4 回	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について理解する。この「無相関検定」を行う場合には、統計基礎 I で学習した「有意差検定」を利用することを理解する。
第 5 回	「回帰分析」の考え方を学ぶ。特に計算の要となる「最小二乗法」について理解する。
第 6 回	実際のデータを使った「単回帰分析」について具体的な計算方法を理解する。また、単回帰分析と相関係数との関係についても理解する。
第 7 回	「重回帰分析」の考え方と計算方法を理解する。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について理解する。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても理解する。
第 8 回	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を理解する。ここでは 1 ステップずつの計算方法を説明し、エクセルの「データ分析」を使った計算方法も理解する。
第 9 回	多変量解析における「相関行列」について理解する①。第 3 回の「相関」との関係を理解する。
第 10 回	多変量解析における「相関行列」について理解する②。「相関行列」の利用方法を理解する。
第 11 回	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを理解し、主成分分析では何が分るのかを理解する。
第 12 回	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を理解する。各自の身の回りにある具体的なデータを利用し、主成分分析の計算方法を理解する。
第 13 回	「因子分析」の考え方を理解する。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法を理解する。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても理解する。また、「主成分分析」との違いも理解する。
第 14 回	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に理解する。また、因子分析の解釈の方法も合わせて理解する。
第 15 回	半年間の学修内容について多変量解析の立場から理解し、多変量解析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	ゲーム理論	担当者	ヨネダ 米田 ヒロヤス 紘 康	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ゲーム理論は 20 世紀の大数学者フォン・ノイマンと経済学者モルゲンシュテルンが共著で記した「ゲームの理論と経済行動」として創設され、現在では経営学、法学、経済学、社会学、心理学、生物学、工学、コンピュータ科学など様々な分野で利用されている。なぜなら複数人で構成される集団の中で意思決定する際に、他者行動が重要な役割を果たすからである。</p> <p>本講座では、ゲーム理論の基本的考え方を習得することを目的とする。ただ、これまでゲーム理論に全く触れてこなかった受講生がいることを想定される。そこで、比較的易しい入門書から始めていき、理論的背景を理解し、最後に現実社会でどれほど適応できるのかを理解する。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>ゲーム理論では特有の専門用語と考え方である「利得」や「ナッシュ均衡」などの考え方について理解する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身の回りの様々なプロセスをゲーム理論的思考で考察できること</li> <li>2. それによって合理的意思決定とは何かを理解できること</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本教材・副教材を学修する (自習、SB01, 2) 【20 時間/レポート 1 本】</li> <li>2. レポートの諸侯を作成する (自習・レポート作成、SB01, 2) 【10 時間/レポート 1 本】</li> <li>3. 教員との複数回による添削を通じて、最終的にレポートを完成させる (自主研究・レポート作成・ディスカッション、SB01, 2) 【15 時間/レポート 1 本】</li> </ol> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● manaba folio の掲示板機能やメールを利用して個別指導で解決する。</li> <li>● 指定教科書にかかれていない疑問などは、その他書籍やインターネットなどを積極的に活用し各自解決することを希望する。ただし、それでも解決できない場合は、担当教員に質問すること。</li> </ul>		
スケジュール	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レポート課題 1 については草稿を 7 月末、レポート課題 2 については草稿を 8 月末 (目安) に提出すること。その間、取り上げるテーマ、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じて指導・対応する。</li> <li>● 最終稿は、レポート 1&amp;2 とともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設問内容に答えているか</li> <li>2. 適切な日本語で書かれているか</li> </ol>
	観察記録	30 %	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提出期限が厳守されているか</li> <li>2. 担当教員との対応</li> </ol>
履修者への要望	特になし		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 鎌田 雄一郎(著) 教材名： 『16歳からはじめてのゲーム理論 “世の中の意思決定”を解き明かす6.5個の物語』 ダイヤモンド社 1,760円(税込) ISBN-13:978-4478110713 著者名： 鎌田 雄一郎(著) 教材名： 『ゲーム理論入門の入門』 岩波新書 880円(税込) ISBN-13:978-4004317753 ゲーム理論を知らない人でも理解できるように、全体像を捉えるための書籍です。
参考図書	・川越 敏司(著) 『はじめてのゲーム理論 2つのキーワードで本質がわかる』 ブルーバックス 1,012円(税込) ISBN-13:978-4062577823 ・松井 彰彦(著) 『高校生からのゲーム理論』 ちくまプリマー新書 858円(税込) ISBN-13:978-4480688385 ・岡田 章(著) 『ゲーム理論・入門 新版—人間社会の理解のために』 有斐閣アルマ 2,090円(税込) ISBN-13:978-4641220287
履修上のポイント	数学を用いる内容も部分的にあるので、戸惑う人もいるでしょう。そのような場合はスキップしてもよいので、ひとまず最後まで読み切ってください。一度で理解しようとするのではなく、何度も刷り込むように読むことで、全体像が見えてきます。ゲーム理論の基礎知識を持ち合わせていない受講生を想定し、基本教材はあえて躓かないような易しいものを選んでいきます。少し物足りなく感じるかもしれません。そのような場合は、積極的に参考図書を利用してください。
レポート課題 1	ゲーム理論の歴史的背景をまとめた上で、ゲーム理論の目的をまとめなさい。(3000字程度から) <b>留意点</b> ：教材からの抜粋ではなく、自分自身の言葉で説明するように心がけること。また提出されたレポートはコピペチェックをかけますので、検出された場合は減点します。
レポート課題 2	レポート 1 の内容を踏まえた上で次の 2 点について述べなさい。(1) ナッシュ均衡について説明し、(2) 繰り返しゲームの特徴と均衡を説明しなさい。(3000字程度から) <b>留意点</b> ：教材からの抜粋ではなく、自分自身の言葉で説明するように心がけること。また提出されたレポートはコピペチェックをかけますので、検出された場合は減点します。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修 (ゲーム理論とは)
第 2 回	教材の学修 (合理性とは)
第 3 回	教材の学修 (意思決定モデルの理解)
第 4 回	教材の学修 (戦略ゲームの理解)
第 5 回	教材の学修 (ナッシュ均衡の理解)
第 6 回	教材の学修 (支配戦略の理解)
第 7 回	教材の学修 (囚人のジレンマ)
第 8 回	教材の学修 (混合戦略)
第 9 回	教材の学修 (展開ゲームの理解)
第 10 回	初稿提出
第 11 回	添削指導により加筆修正
第 12 回	添削指導により加筆修正
第 13 回	添削指導により加筆修正
第 14 回	添削指導により加筆修正
第 15 回	最終稿提出

# 人間科学専攻

(シラバス)



## シラバス

シラバスには、教材の概要・参考図書・履修上のポイント・レポート課題が掲載されています。履修登録時に参照してください。

レポートの提出期限は、9月・1月（予定）となっています〔詳細は研究科報（ホームページ）にてお知らせします〕。

科目名	人間科学特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎 シヤク フミオ 釋 文雄	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	---	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>これから人間科学を学び、人間科学の諸領域の研究を行う際に必要なリテラシー、具体的には研究を行う上で欠かせない研究倫理、文献検索の方法等について理解してもらうことを目的とする。各コースの研究領域で研究実施の際に知っていなければならないことについては、特別研究指導教員が説明する。</p> <p>I. 問題発見・解決力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。  II. 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。  III. 倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 人間科学で研究・論文作成する上で「常識」とされる知識を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】  ・人間科学を学び、修士論文を作成するまでに必要なリテラシーを理解することができる。具体的には、a) 研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件を理解できる、b) 自分の研究課題に関する先行研究を文献検索することができる、c) 研究倫理について、研究を進める上でやってはいけないことを理解でき、修士論文作成に反映できる。  ・自分の研究領域において研究を進める上で必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS)】 指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、manaba folio を通して適宜科目担当者に質疑をする (レポート作成)。</p> <p>・2024年4月27日～4月29日に実質3日間実施されるスクーリング (集中対面授業) に出席することが、単位取得の要件となる。また、レポート課題についてもスクーリング後、指定された期限までに manaba folio に提出する (ディベート、自主研究)。</p> <p>【学修時間】 在宅学修では、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1) 教材の学修；20時間、2) レポート執筆；10時間、3) レポート推敲と最終稿の完成 (教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む)；15時間。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】  ・レポートの推敲過程において、manaba folio の全受講者用の掲示板機能 (「スレッド」) に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。  ・オープンエデュケーション教材 (OER) を基本教材の補助として視聴する。</p>		
スケジュール	<p>この講義は、人間科学専攻において研究を進める上で欠かせない内容であり、初年度教育に相当するので、スケジュールの調整がつかざり、初年度に履修すること。</p> <p>&lt;通信授業 (在宅学習) 2単位分：基本教材1&gt;  前期：できるかぎりスクーリング前までに基本教材1および参考文献を通読し、スクーリングに備える。基本教材1についてレポート課題を作成し、9月中旬の学事暦で定められた提出日までに最終稿を提出する。</p> <p>&lt;スクーリング 2単位分&gt;  2024年4月27日～4月29日 (必要に応じ、オンラインを併用する)  1) 研究、及び論文作成に必要なリテラシー (三専攻合同講義)  2) 人間科学専攻分野における研究基盤としての知識・教養 (担当：田中)  3) 人間科学専攻分野における様々な課題 (担当：各科目担当教員)  (1) スクーリング・レポート課題1：5月第2週 (初稿)  (2) スクーリング・レポート課題2：9月末 (初稿)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	通信授業 (在宅学修・レポート)	50 %	・最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に) ゼロ点となります。 ・草稿を一度も出さず、提出期限間際にいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は69点以下しか得られません。
	スクーリング (観察記録)	50 %	スクーリングの参加状況 (ディスカッションを含む；10%) 及びレポート課題1 (10%) 及びレポート課題2 (30%) により評価。
履修者への要望	・レポート作成にあたっては、教材の引き写しは評価の対象外とします。 ・スクーリング受講前に、基本教材1に必ず目を通して下さい。 ・いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。 ・レポート課題については、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねるのではなく、論文の体裁で書いて下さい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一(編著) 教材名： 『人間科学研究法ハンドブック (第2版)』(ナカニシヤ出版, 2011年) ISBN:978-4-77-950419-8 2,800円+税
	心理学を中心とした人間科学の研究法について、様々な視点から解説されている。章立ては以下の通り：第1章(研究とは何か)、第2章(データの収集)、第3章(研究の設計と管理)、第4章(人間科学における研究倫理について)、第5章(文献調査の方法)、第6章(メッセージ分析)、第7章(観察法)、第8章(調査的面接法)、第9章(フィールド研究におけるインタビュー)、第10章(質問紙調査法)、第11章(実験法)、第12章(研究論文の書き方1)、第13章(研究論文の書き方2)
参考図書	トラヴィアン, K. 沼口隆・沼口好雄(訳)『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』(慶應義塾大学出版会, 2012年) ISBN 978-4766419771 8,000円+税 三浦麻子『なるほど! 心理学研究法(心理学ベーシック第1巻)』(北大路書房, 2017年) ISBN978-4-7628-2966-6 2,200円+税 新堀 聡『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』(同文館出版, 2002年) ISBN 978-4-4958-6511-5 1,400円+税
履修上のポイント	参考図書などをもとに、馴染みのない専門用語を確認することが望ましい。夏期および冬期のスクーリングの講義では、基本教材1についての話題を中心とする予定である。
レポート課題1	基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章を要約し、レポートの最後に全体についてのコメントを述べること。 <b>留意点</b> ：各章を、800字程度を目安に要約し、全体についてのコメントを付記すること(合計7,000字~8,000字程度を目安にすること)。教材の引き写しは評価の対象外とする。
レポート課題2	基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章の中から1つの章を選び、その章の内容を自分の興味・関心の高いことを中心に、3,000字~4,000字でまとめること。 <b>留意点</b> ：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： スクーリングで提示された推薦図書 教材名：
参考図書	坂口典弘・山本健太郎『心理学レポート・論文の書き方 演習課題から卒論まで』(講談社, 2017年) ISBN 978-4-06-154809-1 1,900円+税 山崎茂明『科学者の発表倫理 不正のない論文発表を考える』(丸善, 2013年) ISBN 978-4-621-08654-4 2,600円+税
履修上のポイント	スクーリング前半においては、①研究及び論文の最低条件を理解し、②研究を進めるための基本的なスキルを身に付ける、とともに③研究及び論文作成のモチベーションを高めるようにする。また、後半においては、各分野に共通する基礎的な課題を学際的に考察して、研究基盤となる知識・教養の習得に努めるようにする。いずれにおいても、事前の準備と講義中の発言及び質問など積極的な姿勢がポイントとなる。
レポート課題1	スクーリングの概要を要約し、それについて意見をまとめる。特定の講義を取り上げても構わないが、その場合は先に講義担当教員のレビューを受けること(1,000字~1,500字)。
レポート課題2	各分野の研究手法の講義や基本教材および参考図書、並びにスクーリングでの発表およびディスカッションを踏まえて、 <b>研究計画書</b> (3,000字~4,000字)をまとめ、特別研究指導担当教員のレビューを受けた上で提出してください。

教材 1 (在宅学修)

1	教材に基づく学修(1)	「学ぶべき課題」について全体的に理解する：人間科学における研究とは何か（第1章）
2	教材に基づく学修(2)	データの収集（第2章）、研究の設計と管理（第3章）
3	教材に基づく学修(3)	人間科学における研究倫理（第4章）
4	教材に基づく学修(4)	文献調査の方法（第5章）
5	教材に基づく学修(5)	メッセージ分析を理解する（第6章）
6	教材に基づく学修(7)	観察法を学ぶ（第7章）
7	教材に基づく学修(8)	調査的面接法とはなにか（第8章）
8	教材に基づく学修(9)	フィールド研究で用いられる研究方法（第9章）
9	教材に基づく学修(10)	質問紙調査法（第10章）
10	教材に基づく学修(11)	実験法（第11章）
11	教材に基づく学修(12)	研究論文の書き方（第12章、13章）
12	レポート課題の作成(1)	レポート課題1の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
13	レポート課題の作成(2)	レポート課題1の最終レポート作成
14	レポート課題の作成(3)	レポート課題2の課題内容を選択し草稿を作成する。さらに教員からの指摘事項を受けて内容を再検討する
15	レポート課題の作成(4)	レポート課題2の最終レポート作成

教材 2 (スクーリング)

1	三専攻合同講義	研究、及び論文作成に求められるもの（加藤孝治・島田めぐみ・田中堅一郎）
2		主な研究スタイルと論文の構成－研究目的の決め方と論証・検証の方法（加藤孝治・島田めぐみ・田中堅一郎）
3		研究倫理1（田中堅一郎）
4		研究倫理2（田中堅一郎）
5		先行研究のレビューとその利用方法（島田めぐみ）
6		研究及び論文についての概論（加藤孝治・島田めぐみ・田中堅一郎）
7		研究及び論文の進め方（加藤孝治・島田めぐみ・田中堅一郎）
8	人間情報専攻	人間科学Ⅰ（田中堅一郎）
9		人間科学Ⅱ（田中堅一郎）
10		人間科学Ⅲ（田中堅一郎）
11		人間科学Ⅳ（田中堅一郎）
12		哲学（中澤 瞳）
13		教育学（柴山 英樹）
14		スポーツ科学（秦 光賢）
15		医療・健康科学（釋 文雄）

※各講義については、1回あたり90分で実施する。

科目名	社会哲学特講	担当者	ナカザワ 中澤 ヒトミ 瞳	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>社会哲学特講は、哲学の文献の精読と解釈を通して、自明のものとなっている社会規範を捉えなおし、哲学的な視点から批判的に、論理的に考察することを目的とする講座である。この講座を通して、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>(1) 文献の読解、要約、解釈、説明を行い、それをもとに論述することができる。</p> <p>(2) 身の回りの出来事の中から問題を発見し、分析し、批判的な思索を行うことができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 基本教材である文献の内容を正確に読み取ることができる。(思考/知識・解釈) 文献の内容を前提として、関連する問題を考察することができる。(思考/知識・問題解決)</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 (1) 『第二の性』の主張を理解し、説明することができる。(知識・解釈) (2) テーマに即した問題を身の回りの中に発見し、考察することができる。(知識・問題解決) (3) 問題を立て、その問題を通して自らの見解を論拠と一緒に提示することができる。(技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材の読解とレポートの作成が主であるが、これに加えて身近なところから問題を発見し、考察することも課題には含まれている。この作業は、主体的な学び、深い学びにつながっている。また、レポートの往復や manaba folio 上でのやりとりを介して、読み手を考えた論述、表現について学ぶことができる。この作業は対話的な学びにつながっている。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】 レポートの作成。(レポートの作成のためには、文献収集、文献読解、問題と主張と論拠の設定、アウトラインの作成、レポートの執筆、推敲、修正などが含まれる。) 一次文献(本講座では『第二の性』)の読解、および二次文献(本講座では『第二の性』、あるいはボーヴォワールの思想についての解説、研究などがなされている文献を指す)の情報収集と読解に合計 25 時間以上、提出までのレポートのやりとり(レポート執筆、指導、再提出などのやりとり)に 20 時間以上を目安としている。[最低 45 時間の学修時間を要する]</p>		
スケジュール	<p>レポートは前期(9月)・後期(1月)に提出期限が設定されている。学事歴で定められた日までに提出すること。基本教材1のレポート課題1、レポート課題2、そして基本教材2のレポート課題1、レポート課題2ともに締め切りの一か月前までに初稿を提出すること。Manaba folio 上の添付でやりとりを行い、完成まで執筆する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	課題レポートを重視する。課題未提出の場合、評価は行わない。
	平常評価	20 %	レポート添削への対応や往復による学修姿勢により評価。
履修者への要望	<p>(1) 哲学の文献を読み、その内容を理解することは簡単なことではありません。したがって、まず文献を精読する必要があります。精読するためには、以下の点に特に注意して、段落ごとにメモを取りながら読むようにしてください。①その段落の中で中心的話題となっているものはなにか。②中心的話題に対して、どのような意見が提示されているか。③その意見はどのような理由によって根拠が与えられているか。④その段落の内容は、前後の段落の内容とどのような関係にあるのか。</p> <p>(2) 哲学の文献の内容を他人に説明することもまた容易ではありません。説明の際には、精読した際のメモを見ながら、以下の点に注意して、文献全体をまとめるようにしてください。①文献全体としてなにが問題になっているのか。②その問題を通して、著者はなにを主張しているのか。③その主張の根拠となっているものはなにか。</p> <p>(3) 自らの考察を他人に分かってもらえるように説明するのも簡単ではありません。読み手を常に意識して、独りよがりの文章にならないように気をつけるために、論述の際には以下の点を明確に書くように注意してください。①問題は何か(この講座の場合はレポート課題の設題)。②その問題を通して、どのような見解を提示するのか。③その見解の根拠はなにか(根拠のもととなる文献、データはなにか)。④先行研究の中でその見解はどのような位置づけを持っているか。⑤予想され得る反論とその反論の根拠はなにか。⑥反論にどのように再反論できるか。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： シモーヌ・ド・ボーヴォワール 教材名： 『第二の性』を原文で読み直す会訳『決定版 第二の性 I 事実と神話』 河出書房新社、2023年、ISBN:4309467792、定価1,320円。
	『第二の性』はシモーヌ・ド・ボーヴォワールによって1949年に出版された、女性についての哲学的論考である。フェミニズム運動と理論の中では古典的作品であるが、本国フランスで研究対象となったのは最近のことであり、それまでは自伝的文学作品として位置づけられていた。日本で最初に翻訳された際、訳者によって構成が変更された経緯があるが、現在では原著通りの構成で翻訳が出版されている。 『第二の性』には二種類の翻訳がある。ひとつは『第二の性』を原文で読み直す会訳したもの。もうひとつは生島遼一が訳したものである（『ボーヴォワール著作集 7 第二の性**』人文書院、1966年、ISBN:4409110071 古書のみ）。『第二の性』を原文で読み直す会訳を使用して欲しい。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーヴォワールおよび『第二の性』に関する解説書のひとつとして シモーヌ編集部編、2019『シモーヌ (Les Simone) VOL.1——特集：シモーヌ・ド・ボーヴォワール「女であること」：70年後の《第二の性》』現代書館、ISBN：978-4-7684-9101-0</li> <li>・解説書とは謳っていないが、『第二の性』の理解のために役立つ本として マノン・ガルシア、横山安由美訳、2023『生まれつき男社会に服従する女はいない』みすず書房、ISBN：978-4-622-09614-6</li> <li>・フェミニズムの入門的で網羅的な文献のひとつとして 金井淑子・江原由美子編『フェミニズムの名著50』平凡社、2002年、ISBN：9784582472288</li> <li>・フェミニズムの入門書として 清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文芸春秋、2022年、ISBN：9784166613618</li> <li>・フェミニズムの入門書として、またフェミニズムに懐疑的ないし嫌悪感を抱く人々にも向けて書かれた有名な書として ベル・フックス(堀田碧訳)『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』エトセトラブックス、2020年、ISBN：9784909910080</li> </ul>
履修上のポイント	『第二の性 I 事実と神話』は、「女性とはなにか」という問いが、運命(第一部)、歴史(第二部)、神話(第三部)という三つの視点から批判的に考察されている。レポート課題に直接該当するのは、序章および運命(第一部)であるが、第二部、第三部も含めて通読すること。
レポート課題 1	『第二の性 I 事実と神話』の序章と第一部を章ごとによく読んで、これまで女性がどのように考えられてきたかについて、章ごとにその内容を説明すること。 留意点：ボーヴォワールが論述の中で使用した「他者(化)」「内在と超越」「主体-客体」という概念には必ず触れ、その概念が意味するものも説明すること。
レポート課題 2	レポート課題1でまとめた内容を前提として、「女性の他者化」とはどのような現象なのか、身近な題材を例にとって具体的に説明すること。 留意点：具体的な事例から考えることが重要である。取り上げた事例が「女性の他者化」の現象と言えるかどうか自信がない場合には、『第二の性』を読み直し、女性の他者化についてボーヴォワールがどのように説明しているのかを理解すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： シモーヌ・ド・ボーヴォワール 教材名： 『第二の性』を原文で読み直す会訳、2023『決定版 第二の性 II 体験(上)』 河出書房新社、ISBN：978-4-309-46780-1、定価1,320円。
	上に記した通り。
参考図書	上に記した通り。
履修上のポイント	『第二の性 II 体験 [上]』において、ボーヴォワールは、女性が教育と習慣によって形作られるということ論じている。レポート課題に直接該当するのは、序および第一部第一章、第二章であるがその他も目は通すこと。
レポート課題 1	『第二の性 II 体験 [上]』の第一部第一章、第二章をよく読んで、子ども時代、娘時代を通じて、女性はどういうようにして、どのような存在として形づくられるとボーヴォワールは論じているのか、その内容を章ごとに説明すること。 留意点：ボーヴォワールは、男性(少年)と女性(少女)を比較しながら論じている箇所に着目して、その点は章の説明の中に入れること。
レポート課題 2	レポート課題1でまとめた内容を前提として、「女性らしさ」について身近な題材を例にとって具体的に考えること(なお「男性らしさ」について合わせて考えても良い)。加えて、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味すること。 留意点：ボーヴォワールの見解の妥当性の吟味とは、ボーヴォワールの意見を論拠に即して検討することを指す。ボーヴォワールは「女性は教育と習慣によって形作られる」というが、はたしてそう言えるのか、言えらしたらどのような意味で言えるのか、あるいはそう言えないとするなら、どの点に誤りがあるのかを明確に示すこと。またボーヴォワールの見解に古い点があればそれを指摘すること。なお「ボーヴォワールの時代とは違って、現在は女性らしさは重要な問題ではない」などの主張をする場合は、必ず客観的論拠を示し、予想され得る反論も想定しながら論ずること。

### 基本教材 1

第 1 回	レポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 2 回	レポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 3 回	レポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 4 回	レポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 5 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 6 回	レポート課題 1 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 7 回	レポート課題 1 について最終稿を作成する。
第 8 回	「女性の他者化」（レポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 9 回	「女性の他者化」（レポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 10 回	「女性の他者化」（レポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 11 回	「女性の他者化」（レポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 12 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 13 回	レポート課題 2 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 14 回	レポート課題 2 について最終稿を作成する。
第 15 回	レポート課題 1、2 を見直し、課題の理解を深める。

### 基本教材 2

第 1 回	レポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 2 回	レポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 3 回	レポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 4 回	レポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 5 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 6 回	レポート課題 1 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 7 回	レポート課題 1 について最終稿を作成する。
第 8 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 9 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 10 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 11 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 12 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 13 回	レポート課題 2 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 14 回	レポート課題 2 について最終稿を作成する。
第 15 回	レポート課題 1、2 を見直し、課題の理解を深める。

科目名	哲学史特講	担当者	サイトウ 齋藤 ヨシユキ 宜之	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

### 【科目概要】

目的	<p>「哲学」とは「みずからの頭で考える」営為そのものです。しかしそれは、たんなる「一人よがり」であってはなりません。「哲学史」を学ぶことの意義とは、歴史上の優れた知性によって展開された様々な思考を「追体験」することによって、自らの思考力を鍛え上げることにあります。そのような学修を通じて目指してほしいのは、同時代において流通している「常識」をも相対化しうる巨視的な知性を身に付けることです。</p>		
到達目標	<p><b>【一般目標 (GIO)】</b> 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的・批判的な思考をする能力を身に付ける。 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案する能力を身に付ける。</p> <p><b>【行動目標 (SBOs)】</b> テキスト読解には文脈を把握するということが重要なので、継続的にテキストに触れること。 関連する文献についても、積極的に参照すること。</p>		
学修方略 (方法)	<p><b>【学修方略 (LS) と学修時間】</b> 文献読解とレポート作成を主にして学修を進める。一本のレポートを仕上げるための過程と必要時間の目安は以下である。文献読解 (20 時間) → レポート執筆 (15 時間) → 担当教員のコメントを受けての修正 (10 時間)。以上の過程において、疑問点等は manaba やメールで質問すること。</p> <p><b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> manaba folio 等を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p>		
スケジュール	<p>前期・後期ともに、最初の数カ月でテキストと関連文献を十分に読み込んでおくこと。疑問点については担当教員に質問し、以下の期限に遅れないようにレポートを提出すること。</p> <p>「基本教材 1」の「レポート課題 1」(初稿)を 6 月 31 日までに、「レポート課題 2」を 8 月 10 日までに提出。その後、2 つのレポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を学事歴で定められた日までに提出。</p> <p>「基本教材 2」の「レポート課題 1」は 10 月 31 日までに、「レポート課題 2」は 12 月 10 日までに提出。その後、2 つのレポートに対する担当教員のコメントを反映させた最終稿を学事歴で定められた日までに提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	テキストの内容を正確に理解したうえで、自らの頭で考え抜かれた論述を高く評価します。
	観察記録	30 %	指導過程におけるやりとりでの積極性を高く評価します。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学史とは、完成品としての「思想」のカタログなどではなく、悪戦苦闘の「思考」のドキュメントです。まずは、受講者それぞれにとって切実な「問い」を発見してください。そのうえで、自分の考えや常識的な通念はいったん括弧に入れて、テキストが発するメッセージそのものに忠実に耳を傾けることを心掛けましょう。</li> <li>・レポート執筆時には、読み手に伝わる正確な文章を書くことを心掛けてください。</li> <li>・フォントや改行の仕方、注の付け方など、形式面にも細心の注意を払ってください。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 熊野純彦 教材名： ①『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書，2006年（ISBN-13：978-4004310075） ②『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書，2006年（ISBN-13：978-4004310082）
	古代から現代までを網羅する哲学史。①はタレスに始まり，プラトン，アリストテレス，アウグスティヌス，トマス・アクィナス等，古代から中世の哲学を解説。②はデカルトに始まり，スピノザ，ライプニッツ，ロック，バークリー，ヒューム，ルソー，カント，ヘーゲル，マルクス，ニーチェ，ベルクソン，フッサール，ハイデガー，ヴィトゲンシュタイン，レヴィナス等，近代から現代の哲学を解説。
参考図書	受講者が課題として選択する哲学者に応じた文献を紹介します。推奨文献を知りたい方は，担当教員まで問い合わせてください。
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは課題図書を通読したうえで，自分が一番おもしろいと思える哲学者（学派・テーマ）を見つけください。その後で，それに関連する解説書なども読んでみましょう。可能であれば，その哲学者自身が書いた著作にもあたってみましょう。</li> <li>・「基本教材 1」では，狭義の「哲学史」（哲学のテキストを対象として編まれた歴史）の基本的展開について理解することが目標です。</li> </ul>
レポート課題 1	教材文献に含まれる哲学者から一人を選択し，その思想について説明せよ。学派やテーマを選択するのも可とする。 <b>留意点：</b> あくまで思想の「説明」に徹すること。
レポート課題 2	教材文献に含まれる哲学者から二人（ないしそれ以上）を選択し，両者の思想を比較しつつ独自の考察を加えよ。 <b>留意点：</b> たんなる思想の説明にとどまらずに，受講者独自の解釈・考察・批判等を加えること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ハンナ・アーレント 教材名： 『人間の条件』志水速雄訳，ちくま学芸文庫，1994年（ISBN-13：978-4480081568）
	この書の問いは実にシンプルです。「私たちは何をしているのか？」という問いです。アーレントは人間の行為を「労働」「仕事」「活動」の三つに分類し，それらの位置付けと意義が，古代ギリシアから近代にいたるまでにどのような変遷をたどってきたかを明らかにします。この書は，テキスト上の哲学的言説を扱うといった意味での「哲学史」ではありませんが，古代から近代にいたるまでの間における，哲学・思想・世界観の変転，科学とテクノロジーの発展，実社会における様々な変化を有機的に関連させつつ描いているという点で，広義の「哲学史」としても読まれうるものです。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンナ・アーレント『人間の条件』牧野雅彦訳，講談社学術文庫，2023年（ISBN-13：978-4065314272）[教材テキストの別訳。こちらをテキストとすることも可とする。]</li> <li>・川崎修『ハンナ・アーレント』講談社学術文庫，2014年（ISBN-13：978-4062922364）</li> <li>・日本アーレント研究会『アーレント読本』法政大学出版局，2020年（ISBN-13：978-4588151095）</li> </ul>
履修上のポイント	「基本教材 1」で得た狭義の「哲学史」についての知識を活かしつつ，「基本教材 2」では，広義の「哲学史」について学びます。古代ギリシアのポリス，望遠鏡の発明，労働形態の変化等，一般には「哲学史」に含まれないような歴史的出来事，人々の世界観や価値観にいかにより大きな変化をもたらしたかを理解することを目標とします。
レポート課題 1	「労働」「仕事」「活動」という三つの「活動力」の違いについて説明せよ。（さらに可能であれば，それらの位置付けや意義が，時代の変遷とともにどのように変化したかについても説明せよ。） <b>留意点：</b> あくまでアーレント自身の説明に即して記述すること。
レポート課題 2	『人間の条件』に学んだ知見に基づいて，一般には「哲学史」に含まれないような歴史的出来事に起因する世界観・価値観等の変化について，自由にテーマを設定したうえで論評せよ。 <b>留意点：</b> たんなる「要約」ではない「論考」としてのレポートを書くこと。

### 基本教材 1

第 1 回	基本教材の概要の把握
第 2 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 古代から中世へ』第 1～10 章（古代）
第 3 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 古代から中世へ』第 11～15 章（中世）
第 4 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 近代から現代へ』第 1～10 章（近代）
第 5 回	基本教材の読解：『西洋哲学史 近代から現代へ』第 11～15 章（現代）
第 6 回	課題の設定と関連文献の検索（推奨文献については、必要に応じて担当教員に質問）
第 7 回	関連文献の読解
第 8 回	関連文献の読解
第 9 回	レポート課題 1：初稿の執筆と提出
第 10 回	レポート課題 1：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の執筆と提出
第 12 回	レポート課題 2：初稿の執筆と提出
第 13 回	レポート課題 2：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の執筆と提出
第 15 回	学修内容全体の総括

### 基本教材 2

第 1 回	基本教材の概要の把握
第 2 回	基本教材の読解：第 1～2 章
第 3 回	基本教材の読解：第 3 章
第 4 回	基本教材の読解：第 4 章
第 5 回	基本教材の読解：第 5 章
第 6 回	基本教材の読解：第 6 章
第 7 回	課題の設定と関連文献の検索（推奨文献については、必要に応じて担当教員に質問）
第 8 回	関連文献の読解
第 9 回	レポート課題 1：初稿の執筆と提出
第 10 回	レポート課題 1：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の執筆と提出
第 12 回	レポート課題 2：初稿の執筆と提出
第 13 回	レポート課題 2：担当教員のコメントを受けての修正（必要に応じて担当教員に質問）
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の執筆と提出
第 15 回	学修内容全体の総括

科目名	宗教哲学特講	担当者	イシハマ 石浜 ヒロミチ 弘道	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>人類の歴史とともに存続してきた宗教、それは私たちの心の支えや平安のために不可欠なものであった。しかし反面、宗教の超俗的側面ゆえに、ともすれば狂信や迷信、あるいは為政者の支配の道具となり暴走したことも多々あった。そこで本科目では宗教の本質的な在り方とは何かという視点をもとに、宗教の持つ力と倫理的危うさ、そして今日世界各地で起こっている宗教的な諸事件を自ら積極的に調べることで、宗教の本来の姿を自ら研究・発見し説明できるようにしたい。そしてそれをベースとして今日の宗教的諸問題を客観的に判断し社会に発信できる能力を養う。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】          学習者は宗教の本質の理解を通して、世界の諸宗教とその排他性ゆえに生じる諸問題を正確に理解し、あるべき宗教の姿と多様な宗教の固有の存在価値を論理的に提示することを習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】          学習者が宗教のあるべき姿を理解することで既成の宗教を客観的に評価できるようになるために、宗教本質論と同時に宗教多元論の立場に立って、世界の多くの宗教の多様な価値をできる限りその内面からみつめることで現実に起こっている諸問題を説明できるようにし (知識・解釈)、さらにその解決策を指摘する (知識・問題解決)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず学習者は自分が興味のある一宗教を学修する (自習) 【15 時間/レポート 1 本】</li> <li>・さらに日本固有の宗教である神道そして仏教、キリスト教、イスラム教、新宗教をも視野に入れ、それらの経典や実践の研究、関連する諸事件分析にも同等の時間を割り幅広く学ぶことに心がける (自主研究) 【10 時間/レポート 1 本】</li> <li>・1 つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに 5 時間以上必要 (レポート作成) 【10 時間/レポート 1 本】</li> <li>・manaba folio への提出・再提出のやりとりその他に 10 時間以上が目安 (ディベート) 【10 時間/レポート 1 本】</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。</li> <li>・図書館等を利用し、参考文献等を分析・解読しレポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期： 教材 1 のレポート課題 初稿は 7 月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。          後期： 教材 2 のレポート課題 初稿は 11 月末、最終稿は学事暦で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し、課題ごおりのレポートとしての的確に書かれていること
	観察記録	20%	再提出レポートへのコメントを正しく理解し、それに沿った修正となっていること
履修者への要望	<p>哲学や宗教の書物はその思想的な理解だけではなく実践的面においても、自らの思索を深め、広い視野や客観性を高めるうえでも有効なので、テキスト内容を一字一句、しっかりと吟味しながら読解し、実践することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 波多野精一 教材名： 『宗教哲学序論・宗教哲学』（岩波文庫、2012年） ISBN:978-4-00-331453-1 1260円＋税
	日本における宗教哲学の泰斗、波多野精一については、これまでその業績、独創性、卓越性にもかかわらず、同時代の思想家に比べ、その評価が充分とは言えなかった。その理由の一つは彼の哲学的立場がキリスト教という枠組みの中でのものとみなされてきたからであろう。しかし彼の思想体系は、普遍的な宗教的世界とその背景をなす哲学的人間学からなり、既成宗教を超えて人間存在と超越者の本質に迫ることをその中心としている。
参考図書	今道友信『西洋哲学史』（講談社学術文庫、1987年）ISBN:978-4061587878 1220円＋税 ジョン・ヒック『神は多くの名前をもつ』（岩波書店、1986年）ISBN:4-00-000314-3 1900円＋税 ジャン・グロンダン『宗教哲学』（白水社・文庫クセジュ 2015年） ISBN:10-4560509999 1200円＋税 宮本武之助『波多野精一』（日本基督教団出版局、1965年）850円（古書）
履修上のポイント	波多野精一の宗教思想を深く理解するために、テキストを熟読し、同時に上記の参考書や同時代の日本の哲学書を読むことが望ましい。なお哲学や宗教の書物は用語の特殊性もありわかりにくいものも多いが、その都度こまめに哲学史や思想系の辞書を引いて確認することが望ましい。
レポート課題 1	『宗教哲学序論』第3章「正しき宗教哲学」を読み、波多野宗教哲学の方法論である「宗教的体験の反省的自己理解、その理論的回顧」とはどのようなことかを述べなさい。 <b>留意点：</b> 宗教の世界を解明する方法論は種々あるが、波多野はシュライエルマッハーからティリッヒへと続く宗教体験を重視する立場にたっている。
レポート課題 2	『宗教哲学序論』第4章「歴史的瞥見」に紹介されている4人の宗教哲学者から一人選び、そこに示されている宗教の本質を述べなさい。 <b>留意点：</b> 思想史的背景を考えつつまとめることで、哲学と宗教の関係・内容がより理解できる。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 石浜弘道 教材名： 『理性と霊性』（株・テクネ、2021、インターネット・アマゾンでのみ購入可） ISBN:978-4-909601-37-7 2550円＋税
	宗教に基づく独善主義や狂信、迷信による事件が起こる昨今において、宗教の多様性、寛容性、普遍性を説くスピリチュアリティ（霊性）の宗教が注目されている。そこで本書は諸宗教における霊性の存在とその働き、および私たちの日常の能力である理性と非日常的な能力である霊性との相互関係から霊性的宗教の意味を考察する。
参考図書	石浜弘道『霊性の宗教』（北樹出版、2010年）ISBN:978-4-77-930249-7 2500円＋税 鎌田東二『神道のスピリチュアリティ』（作品社、2003年）ISBN:978-4-87-893593-0 1900円＋税 阿部美哉『現代宗教の反近代性』（玉川大学出版部、1996年） ISBN:4-472-09881-4C3014 3456円＋税
履修上のポイント	テキストを熟読すると同時に、宗教に内在するスピリチュアリティ（霊性）を中心に考える場合、宗教体験が重要なものとなるゆえ、上記の参考図書や各自宗教の世界に触れることが望ましい。たとえば、各種の宗教行事への参加や宗教芸術の鑑賞等。
レポート課題 1	スピリチュアリティ（霊性）とは何か、またそれはどのような領域に働き、どのような意味、能力があり、どのような影響を私たちに与えるかを、理性の限界および宗教の普遍性を考慮しつつ述べなさい。その際可能であれば自分の宗教体験を合わせて述べることを望ましい。 <b>留意点：</b> テキスト序、1章1、2節、2章1節を中心によく読むこと
レポート課題 2	①諸宗教に見られる霊性の存在とその働きを、既存の宗教であるキリスト教、仏教、神道、イスラム教から1つ選び述べなさい。または②理性と霊性のそれぞれに働きと相互関係を通して霊的な宗教のあるべき姿を述べなさい。（①②どちらか一方のみ選択） <b>留意点：</b> ①についてはテキスト2章2節、②については同7章を中心によく読むこと

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教哲学方法論の考察）
第 4 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教体験に関する歴史的考察）
第 5 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教哲学の代表的哲学者の考察）
第 6 回	基本教材 1 の学修；課題として取り上げた題材について（宗教の本質に関する考察）
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	宗教の歴史的推移とそのあるべき姿に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；理性の働きとその限界を学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；霊性とは何か、なぜ必要なのかについての学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；諸宗教における霊性の存在とその働きを考察
第 6 回	基本教材 2 の学修；理性と霊性の相互関係を通しての霊性的宗教とは何かを考察
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する個人的・社会的な事例とその内容の霊性的考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	科学哲学特講	担当者	オオクマ ケイコ 大熊 圭子	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、科学（とくに自然科学）の特徴や科学的な知識の獲得に関する哲学的知識を修得することにより以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>科学技術とのかかわりなしに生きていくことが不可能と思われる現代において、科学技術の成果を批判的に捉え、自己の生き方を自主的に確立できる知識・技能・マナーを習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>①科学技術特有の方法論を説明できる。（知識・想起）</p> <p>②科学技術分野特有の、背後にある哲学的認識論について説明できる。（知識・解釈）</p> <p>③表面上の問題点だけでなく、科学技術における根本的な問題点を見出すことができる。（技能）</p> <p>④現代社会の問題として科学技術について批判的にコミュニケーションすることができる。（態度）</p>		
学修方略 （方法）	<p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>1. 基本教材を熟読し、ノートを作成する。不明な箇所については参考図書にも適宜あたり理解を深める。（自習）【SBO①&amp;②】【15時間/レポート1本】</p> <p>2. レポート課題に沿ってさらなる理解を深める（自主研究）【SBO②】【10時間/レポート1本】</p> <p>3. レポートの草案を作成する。（レポート作成）【SBO②&amp;③&amp;④】【10時間/レポート1本】</p> <p>4. manaba folio を利用し複数回にわたって行われるレポート添削での教員とのディスカッションによりレポートの最終版を完成させる。（ディベート）【SBO②&amp;③&amp;④】【10時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio を利用し複数回にわたって行われるレポート添削での教員とのディスカッション。</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 初稿提出期限：7月初</li> <li>レポート課題2 初稿提出期限：8月中</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 初稿提出期限：10月末</li> <li>レポート課題2 初稿提出期限：12月初</li> </ul> <p>各課題の最終稿は、学事暦で定められた日までに提出してください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材の内容を理解できている。課題に沿って論理的に展開されている。レポート作成の基本的ルールが守られている。
	観察記録	20%	添削箇所についてのみ修正というのではなく、その都度、全体を見直している。なぜ直した方がよいのかを理解している。縮切りぎりぎりに提出して十分な指導を受けていないということがない。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの初稿提出が最終提出期限ぎりぎりになるということのないように注意すること。</li> <li>教材や参考図書のまる写しにならないように。ノートを取りながら学修を進め、十分に理解したうえでレポートを作成していくこと。単に教材や参考図書の内容をまとめたものはノートであってレポートではないので注意すること。積極的に参考図書やその他の文献を活用すること。</li> <li>教材2については、認識論的な知識が必要問われるため、少なくとも大陸合理論・イギリス経験論、およびカントの基本的な考えについてはあらかじめ学修しておくこと。また、おそらく教材1よりも学修時間が多く必要となるのでスケジュール調整をすること。</li> <li>理解した内容をまとめるのではなく、それに関する自分の考えを明確にすること。その際に、基本教材や参考図書の内容と自分の考えとを明確に分けて述べていくこと。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： サミール・オカーシャ（直江清隆、廣瀬覚訳） 教材名： 『科学哲学 新版』（岩波書店，2023） ISBN:978-4000616096 2,000円+税
	科学哲学について、おもに科学の歴史との関係の中で説明を展開している。次いで、科学理論の方法及び説明について議論している。さらに、実在論と反実在論に関する問題についても論じている。テキスト後半では科学革命論を中心に議論が展開され、宗教や科学とのかかわりなどについて論じている。
参考図書	中山康雄『科学哲学』（人文書院，2010） ISBN:978-4409001035 2,835円（税込） 橋本毅彦『図説科学史入門』（ちくま新書，2016） ISBN:978-4480069207 1,100円（税込） A. F. チャルマーズ（高田他訳）『改定新版 科学論の展開』（恒星社厚生閣，2013） ISBN:978-4769913009 2,970円（税込） T. クーン（中山茂訳）『科学革命の構造』（みすず書房，2023） ISBN:978-4622096122 3,300円（税込） 高橋昌一郎『科学哲学のすすめ』（丸善，2002） ISBN:4621049658 2,860円（税込）
履修上のポイント	まず、科学、哲学、科学哲学の関係を明確にする（明確にできるかどうかも含めて）。また科学および科学哲学の歴史の重要性を考えること。特に後半では、科学革命論における歴史の役割を十分に理解すること。そのうえで、科学理論がいかなる方法で作られるか、また科学研究と人間とのかかわりにについて明らかにしていくこと。
レポート課題 1	①科学で説明しないものとできないもの ②科学的実在論と反実在論 以上の2つのうち、どちらかを選択して論じなさい。 <b>留意点</b> ：①単に「説明しないもの・できないもの」についてまず考え、その上で「科学で説明しないもの・できないもの」について考えてみること。 ②観察可能・不可能という点をおさえる。
レポート課題 2	科学と価値について論じなさい。 <b>留意点</b> ：科学の客観性について考えること。また科学にたいして人間はどのように関わっていくべきなのか考えること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： バートランド・ラッセル 教材名： 『哲学入門』（ちくま学芸文庫，2005） ISBN:978-4480089045 1,100円（税込）
	前半では、物質が存在するとはどういうことか、また物質の本性をいかにして知ることができるのかを議論している。後半では、科学的法則といったいわゆる普遍的な知識を取り上げ、それをどのように獲得していくのか、その妥当性はどこにあるのかなどについて議論している。さらに真偽や哲学を研究することの価値についても言及している。
参考図書	デカルト『方法序説』（岩波書店，1997） ISBN:978-4003361313 572円（税込） カント『純粋理性批判 上』（岩波書店 1961） ISBN:978-4003362532 1,210円（税込） カント『純粋理性批判 中』（岩波書店 1961） ISBN:978-4003362549 1,067円（税込） カント『純粋理性批判 下』（岩波書店 1962） ISBN:978-4003362556 1,243円（税込）
履修上のポイント	このテキストを学ぶに当たっては、基本となる認識論的知識を十分に持っている必要がある。特に、カントやデカルト、バークリーなどの考えを復習しておくこと。後半では科学的知識について言及しているので、基本教材1の内容（特に後半）も前提に考えていくこと。このテキスト自体はもともと約1世紀前に書かれたものだが、その後に登場した量子力学をはじめとする現代の科学理論の妥当性なども考慮しながら読んでいくこと。
レポート課題 1	「知識」について整理しまとめなさい。さらに知識とは何か、自分なりの考察を加えなさい。 <b>留意点</b> ：テキストではさまざまな知識について分類・分析されているが、それらの関連性に注意しながらまとめていくこと。
レポート課題 2	このテキストを読んで、特に興味を持ったところをまとめなさい。 <b>留意点</b> ：焦点を絞ること（興味を持ったことをあれこれ書かない）。なぜ興味を持ったのか書くこと。ラッセルの考えをまとめつつ、それをもとに自分の考えたことをまとめていくこと。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げるテーマの検討
第 3 回	基本教材 1 の学修：基本教材 1 を読み、その内容の概要をつかむ
第 4 回	基本教材 1 の学修：自然科学の様々な特徴について学修する
第 5 回	基本教材 1 の学修：自然科学における様々な問題点について学修する
第 6 回	基本教材 1 の学修：課題 1 に関する箇所の再学修
第 7 回	基本教材 1 の学修：課題 2 に関する箇所の再学修
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通して、課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げるテーマの検討
第 3 回	基本教材 2 の学修：基本教材 2 を読み、その内容の概要をつかむ
第 4 回	基本教材 2 の学修：個物・普遍に関する学修
第 5 回	基本教材 2 の学修：真理・価値に関する学修
第 6 回	基本教材 2 の学修：課題 1 に関する箇所の再学修
第 7 回	基本教材 2 の学修：課題 2 に関する箇所の再学修
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通して、課題に関する全体的な理解の検証

科目名	生命倫理学特講	担当者	ヨシダ カシミ 吉田 一史美	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>生命科学と医療技術の発展は、私たちの生命観や倫理観にさまざまな影響を与えてきた。本講座では、人体実験、遺伝子技術、尊厳死、安楽死、脳死、臓器移植、生殖医療、小児医療などの具体的なテーマを通して、生命倫理学の歴史、概念、論点を学ぶ。多様な生き方や価値観を理解した上で、現在および将来の倫理的諸課題に対する主体的な思考を身に付けることを目的とする。教材に記載された事項にとどまらず、歴史的な出来事や現在の社会問題などについて自分で情報を収集することと、倫理的な問題を〈問い〉として受け止めて〈応答〉することを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 人間の生命をめぐる倫理を扱う生命倫理学の基本的な知識を正確に理解した上で、個々の論点を捉えて批判的に考察を展開し、現在および将来の生命科学や医療技術をめぐる倫理的課題に対して主体的に取り組むための知的基盤と倫理観を身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 近代社会における社会的弱者の存在や優生思想の歴史を踏まえて、生命倫理学の社会的・学術的役割を説明することができ、現在の生命倫理学の各テーマについて自ら倫理的な問いを立て、主体的に思考して応答することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】(自主研究・レポート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio を利用し、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>manaba folio を利用し、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのレスポンス等)。</li> <li>図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10 時間)。manaba folio を通してレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15 時間)。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材 1 のレポート課題(1)の初稿は 7 月中旬、課題(2)の初稿は 8 月上旬を目処に提出する。いずれの課題も、最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：教材 2 のレポート課題(1)の初稿は 11 月中旬、課題(2)の初稿は 12 月上旬を目処に提出する。いずれの課題も、最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	生命倫理学に関する用語・概念を適切に理解して説明できているか、考えや記述は論理的か、という基本的な点に加えて、近年の知見や情報の反映、自分自身の専門分野や経験との関連性を評価する。
	観察記録	25%	レポートの草稿添削・コメントに対する修正が適切になされているか、とくにレポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、本文中の引用方法、図・表の活用方法、文献リストの記載方法等を評価する。
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) レポート作成のための「チェックリスト」を配布するので、提出前に活用すること。</li> <li>2) タイトル、見出し、段落を適切に使用し、学術論文の体裁・語法で記述してください。</li> <li>3) 他者の考えや文章を引用する場合は、引用であることを本文中の「引用注」で明記し、文末に「文献リスト」を作成してください。引用注と文献リストの形式については、学術論文のルールをよく勉強して、正しく表記してください。</li> <li>4) 提出された草稿に対して、形式、論理展開、正誤について添削コメント(A4, 1~2 ページ程度)を返します。修正稿および最終稿では、草稿コメントに対して適切に修正対応がなされているかという点を中心に確認します。最終稿の提出期限の 2 週間前をすぎると、添削コメントは各レポート課題につき 1 回が上限になります。</li> </ol>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 黒崎剛・吉川栄省（編著） 教材名： 『生命倫理の教科書：何が問題なのか [第2版]』（ミネルヴァ書房、2022年） ISBN:978-4-623-09370-0/3, 300円（税込） ※ または 同書の第1版（黒崎剛・野村俊明（編著）、ミネルヴァ書房、2014年）
	生命倫理の諸問題に関する基礎知識がまとめられたテキスト。生命倫理に関わるテーマを論ずる際にあらかじめ理解しておくべき事項が網羅的に記述されており、生命倫理学の歴史、キーワードや論点、世界の動向を学ぶことができる。
参考図書	米本昌平・櫛島次郎・松原洋子・市野川容孝（著） 『優生学と人間社会：生命科学の世紀はどこへ向かうのか』（講談社現代新書、2000年） ISBN:978-4-06-149511-1/1, 000円＋税
履修上のポイント	生命倫理学がもつ社会的・学術的な役割を理解するために、社会的弱者を対象に行われてきた非人道的な人体実験、近代社会に興隆した優生思想、現代の遺伝子操作に関わる先端技術をめぐる倫理的問題の構造を理解する。 なお、レポート課題2については、基本教材2『テキストブック 生命倫理』の第13章の「生命操作」「デザイナー・ベビー」を参照して、最近のゲノム編集技術について理解するとよい。
レポート課題1	生命倫理学の成立の経緯について理解し、社会的弱者のための人権運動という側面と、最初の課題として取り組まれた「人体実験」の問題化を説明すること。その上で、現在の医療倫理の原則について考察すること。 <b>留意点：</b> 教科書で言及されている史実について、自分で調べてより詳しい内容を記述すること。
レポート課題2	生命倫理学において重要な概念の一つである「優生思想」について理解し、その歴史と問題点を説明すること。その上で、遺伝子操作における「エンハンスメント」と優生思想とのかかわりについて考察すること。 <b>留意点：</b> 日本の強制不妊救済法とそれに関連する訴訟について、自分で調べて言及すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 霜田求（編） 教材名： 『テキストブック 生命倫理 [第2版]』（法律文化社、2022年） ISBN:978-4-589-04189-0/2, 530円（税込） ※ または 同書の第1版（霜田求（編著）、法律文化社、2018年）
	生命倫理の各テーマの主な論点が、異なる価値観に基づいた意見の相違や対立を踏まえて提示されたテキスト。テーマごとに設定された概念や臨床に関わる〈問〉に対して、複数の〈応答〉が示されており、主体的な思考の手がかりを得ることができる。
参考図書	松原洋子・伊吹友秀（編） 『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会、2018年） ISBN:978-4-13-062420-6/2, 500円＋税
履修上のポイント	これまで生命倫理学が取り組んできた「生命の始まりと終わりをめぐる線引きの問題」について、多様な経験や価値観をもつ人びとが存在するなかで、現代の人間社会がどのような倫理規範を形成していくことができるか、主体的に思考する。 なお、レポート課題の選択したテーマについて、基本教材1『生命倫理の教科書：何が問題なのか』に関連する章がある場合は、参照してさらに多くの情報を得るとよい。
レポート課題1	「生命の始まり」をめぐる倫理的問題について、（1）生殖補助医療、（2）人工妊娠中絶と出生前・着床前診断、（3）子どもの医療、の3つからいずれかを取り上げて論点を説明すること。その上で、テキストの各章の末尾にある〈問と応答〉から、〈問〉を1つ選び、〈応答〉について考察すること。 <b>留意点：</b> 〈問〉は、テキストに記載のものではなく、自分で新たに設定してもかまわない。
レポート課題2	「生命の終わり」をめぐる倫理的問題について、（1）高齢者医療と認知症、（2）終末期医療と尊厳死、（3）安楽死と医師による自殺幫助、（4）脳死と臓器移植、の4つからいずれかを取り上げて論点を説明すること。その上で、テキストの各章の末尾にある〈問と応答〉から、〈問〉を1つ選び、〈応答〉について考察すること。 <b>留意点：</b> 〈問〉は、テキストに記載のものではなく、自分で新たに設定してもかまわない。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修：生命倫理学の成立（序章・第 7 章）
第 3 回	基本教材 1 の学修：人体実験と医療倫理の原則（第 1 章・第 7 章）
第 4 回	基本教材 1 の学修：優生学と遺伝子操作（第 6 章・参考図書）
第 5 回	人体実験の歴史に関する文献の検索とその内容の学修
第 6 回	基本教材 1 の巻末資料の検討
第 7 回	優生思想の歴史に関する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	旧優生保護法による強制不妊訴訟に関する情報収集
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 2 の学修：生命倫理の方法・理論（第 1 章）
第 3 回	基本教材 2 の学修：生命の始まりをめぐる倫理的問題（第 II 部）
第 4 回	基本教材 2 の学修：課題として取り上げるテーマの検討（第 II 部）
第 5 回	基本教材 2 の学修：生命の終わりをめぐる倫理的問題（第 III 部）
第 6 回	基本教材 2 の学修：課題として取り上げるテーマの検討（第 III 部）
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	課題として取り上げるテーマの〈問〉と〈応答〉に関する考察
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	社会思想史特講	担当者	オカヤマ ケイジ 岡山 敬二	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、既存の観念に縛られず、諸事象を根本から見つめなすことのできる哲学的な視野を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>大量破壊兵器や環境破壊、脳死や臓器移植、遺伝子組み換えの問題など、現代技術がもたらした深刻な側面に柔軟に対応するために、人間や生命、自然や社会のすべてを一律に、技術的に処理可能な資材や人材と見立てる考え方について、その可能性や限界を見つめなおすことができる。</p> <p>技術文明の世界に生きている現代的状況を見据えながら、日常生活や科学知の自明な前提を超えて、人間と自然や社会、世界のありようを根本から見つめなおすことができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>日常の自明性の問題点を根本から見つめなおすために、既成の価値や観念に縛られずに様々な立場や視点を理解、想像し、それらを柔軟に比較・検討することができる哲学的な考察態度を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>i. 自然と文化や、人間存在をめぐる哲学的な問題を理解し説明することができる。(知識・解釈)</p> <p>ii. 現代社会の様々な問題の根拠を理解し説明することができる。(知識・想起)</p> <p>iii. 現代社会の様々な問題の解決の可能性を多角的な視野から指摘することができる。(知識・問題解決)</p> <p>iv. 現代社会の個々の問題について、様々な立場や見解の比較・検討・考察を実施することができる。(技能)</p> <p>v. 様々な立場や見解を配慮し、自らの考えをうまく伝え、他者と柔軟にコミュニケーションすることができる。(態度・習慣)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>①基本教材及び参考文献の熟読 (自習) 【SBO i.】: 【10 時間以上/レポート1本】</p> <p>②レポートの課題に沿った、基本教材の読解と解釈 (自主研究) 【SBO ii.】: 【10 時間以上/レポート1本】</p> <p>③レポートの作成 (レポート作成) 【SBO iii.】: 【10 時間以上/レポート1本】</p> <p>④manaba folio を利用した複数回のレポート添削による教員とのディスカッションを重ねての、レポートの推敲と最終稿の完成 (ディベート) 【SBO iv. &amp; v.】: 【15 時間以上/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を実施してゆく。</p>		
スケジュール	<p>最終稿の提出は、学事歴で定められた日を期限とする。これは、あくまで最終稿の期限であり、初稿は、その前に提出する。初稿提出期限の目安は以下の通りとする。</p> <p>前期 (基本教材1) : レポート課題1 (7月15日) / レポート課題2 (8月15日)</p> <p>後期 (基本教材2) : レポート課題1 (11月15日) / レポート課題2 (12月15日)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	教材の適切な読解・解釈を踏まえた、レポート課題に沿う論述・表現であるか。
	平常評価	30 %	複数回の添削指導を経たうえで、その指導に適切に対応できているか。
履修者への要望	<p>教材の文章や参考書の説明を単なる情報として受け取り、その切り貼りを伝達するという読み方、伝え方をしても、どうしても、中味が伝わらないだけでなく、内容におかしな面が出てこざるをえません。何がどうわかり、どうわからないかを自分で考え、自分の言葉で整理し、伝えることによって始めて、それは生きた言葉、内容をともなう言葉となるように思われます。それなりにでもいいですから、「自ら考える」という姿勢を忘れないようにしてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『技術への問い』（平凡社ライブラリー，2013年） ISBN:978-4-582-76800-8 1,500円＋税
	古代ギリシアのポイエシスやテクネーという言葉に含まれる意味（技術だけでなく芸術や自然の営みなども含む）を説き明かし、それを現代の産業社会における技術と対比させることで、現代技術のありようの一面性が示されてゆきます。そこから、現代社会のこの一面性にともなう危険とそれが予兆する歴史的な変化の到来を示唆しようとする試みです。
参考図書	木田元『対訳 技術の正体』（デコ，2013年） ISBN:978-4-906905-07-2 1,100円＋税 加藤尚武編著『ハイデガーの技術論』（理想社，2003年） ISBN:978-4-650-10532-3 2,000円＋税 岡山敬二「技術と存在—ハイデガー「技術への問い」を問う—」（『桜文論叢』日本大学法学部第96巻）
履修上のポイント	当教材は、5本の講演論文を収めた論文集ですが、レポートの課題に直接該当するのは、「技術への問い」（7ページ〜）です。この論文を中心に読み進めてください。その他のものは参考資料として利用してください。「技術」「真理」等の言葉の古代ギリシア的な意味と現代的な意味の違いに留意しながら、その相違を整理することが大事な作業になります。
レポート課題 1	技術と真理（アレーティア）との関係について、ポイエシスとテクネーという点から論説してください。 <b>留意点：</b> 技術（道具）や因果性、真理など、鍵となる言葉について、通俗的な意味と原初的な意味との違いをおさえてください。ポイエシスとテクネーの共通点を整理してください。主に所収論文「技術への問い」が読解の対象となります。
レポート課題 2	技術と真理（アレーティア）との関係について、ポイエシスと「集・立（Ge-stell）」という点から論説してください。 <b>留意点：</b> 技術（道具）や因果性、真理など、鍵となる言葉について、通俗的な意味と原初的な意味との違いをおさえてください。ポイエシスと「集・立（Ge-stell）」の共通点と相違点を整理してください。主に所収論文「技術への問い」が読解の対象となります。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『芸術作品の根源』（平凡社ライブラリー，2008年） ISBN:978-4-582-76645-5 1300円＋税
	芸術作品の根源を問うために、物とは何か、道具とは何かを考察し、一つの道具であるはずの農婦の靴、それを描いた一枚の絵の中から、物や道具の真相が立ち現れてくる働きが探りだされてゆきます。そこに芸術作品のなりたちを見いだすことで、日常生活に埋もれてしまっているはずの、道具的なあり方とは違った真理のありようを問いなおしてゆく試みです。
参考図書	渡邊二郎『芸術の哲学』（ちくま学芸文庫，1998年） ISBN:4-480-08426-6 1,300円＋税 木田元『ハイデガーの思想』（岩波新書，1993年） ISBN:978-4-00-430268-4 800円＋税 木田元『哲学と反哲学』（岩波現代文庫，2004年） ISBN:978-4-00-600127-8 1,180円＋税 岡山敬二「人間への問いと思索の祝祭——ハイデガー『芸術作品の根源』の根源をさぐって」（『桜文論叢』日本大学法学部第99巻） <a href="https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/treatise/treatise_99/each/06.pdf">https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/treatise/treatise_99/each/06.pdf</a>
履修上のポイント	物、道具、芸術作品、真理、世界、大地など、鍵となる言葉について、普通の意味とは違ったどのような意味が込められているのかを理解、整理してゆくことが大事な作業になります。細かな論点よりも、議論全体の流れをつかむことを優先してください。
レポート課題 1	芸術作品に見出される「道具の信頼性」とはどのようなことか、論説してください。 <b>留意点：</b> 支配的な物概念の不十分さ、道具の有用性と信頼性との意味の違い、大地と世界の意味合いをおさえてください。ゴッホの絵の作品分析が読解の手がかりになります。
レポート課題 2	芸術作品に見出される「世界と大地の闘争」とはどのようなことか、論説してください。 <b>留意点：</b> 真理観をめぐっての芸術と美術との違い、芸術と論理学との違いを整理したうえで、世界とは、大地とは、その闘争とはどのようなことか、その意味合いをおさえてください。ギリシア神殿の作品分析が読解の手がかりになります。

### 基本教材 1

第 1 回	本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材, 参考図書に関連箇所の検討
第 3 回	関連する参考文献, 参考資料の検索とその内容の学修
第 4 回	レポート課題 1 : 基本教材の関連箇所の熟読
第 5 回	レポート課題 1 : 基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 6 回	レポート課題 1 : 基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 7 回	レポート課題 1 : 初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 : 添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1 : 最終稿の作成
第 10 回	レポート課題 2 : 基本教材の関連箇所の熟読
第 11 回	レポート課題 2 : 基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 12 回	レポート課題 2 : 基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 13 回	レポート課題 2 : 初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 : 添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 : 最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材, 参考図書に関連箇所の検討
第 3 回	関連する参考文献, 参考資料の検索とその内容の学修
第 4 回	レポート課題 1 : 基本教材の関連箇所の熟読
第 5 回	レポート課題 1 : 基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 6 回	レポート課題 1 : 基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 7 回	レポート課題 1 : 初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 : 添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1 : 最終稿の作成
第 10 回	レポート課題 2 : 基本教材の関連箇所の熟読
第 11 回	レポート課題 2 : 基本教材の関連箇所の読解と解釈
第 12 回	レポート課題 2 : 基本教材の関連箇所の要約と疑問点の整理
第 13 回	レポート課題 2 : 初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 : 添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 : 最終稿の作成

科目名	心理学史特講	担当者	アラカワ 荒川	アユム 歩	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------	----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	それぞれの学問領域の研究方法や基準、考え方は、合理的理由によってのみ成立するものではなく、その学問の歴史に強く依存している。そのため、それぞれの学問に新たなブレークスルーを引き起こすには、その歴史を理解する必要がある。この授業では、心理学を例に、学問が現在のように形成された過程を歴史的に理解することで、既存の心理学を相対的に見ることができるようになることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>心理学が現在のように形成された過程を歴史的に理解し (知識)、現在の心理学を相対的に見る視点を獲得し (技能)、批判的に評価する習慣を身に着けること (態度)。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ある研究知見をうのみにせず、その知見の成立過程に目を向けることができる</li> <li>ある研究方法による知見を絶対的なもののように考えず、その研究方法について調べる手立てを身に着ける</li> <li>代表的な心理学の立場については、その立場の成立過程について知っており、必要な際に利用できる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>担当者の指導の下、教科書、参考書を手掛かりに自主的に調べて学習することが求められる。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>教科書、参考書、個人研究</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前に教材を読んで流れを理解したうえで、各課題に臨むこと。 各課題について本を1～2冊読む程度の準備学修は必要である。 レポート課題一つにつき、完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材の学習：20時間</li> <li>レポートの執筆：10時間</li> <li>レポートの推敲と担当教員の指導に基づく修正：15時間</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期:教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。いずれの課題も9月中旬の学事歴で定められた提出日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期:教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を口処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和5年1月上旬の学事歴で定められた提出日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し、取りあげた題材の適切性、資料選択の適切性、考え方の妥当性を評価する。
	平常評価	25%	レポートの構成や表現に関し、引用文献の引用の仕方を含めて、レポートとしての構成、記述の適切性、を評価する。
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> <li>基本教材2の課題2については、レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成(目次案等)について、メール等で連絡相談して下さい。</li> <li>基本教材2の課題2のテーマの選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークなテーマを歓迎します。</li> <li>レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</li> <li>基本教材2の課題2で選んだテーマに関連した文献は自分で検索して下さい。</li> <li>引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</li> </ol> <p>注1:不明の点はメール等で問い合わせて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： サトウタツヤ 教材名： 『臨床心理学小史』（ちくま新書、2022年） ISBN: 978-4480074829 880円
	臨床心理学史を概説した書籍です。
参考図書	サトウタツヤほか『心理学史（心理学のポイント・シリーズ）』（学文社、2012年） ISBN: 978-4762018800 中古本で500円程度から。入手できない場合は相談ください。
履修上のポイント	臨床心理学を題材にその現在の有り様を歴史的に相対化する経験をしたうえで、心理学が社会の中でどのように変化してきたかを立体的に見ることができるようになることを目指します。
レポート課題 1	日本の臨床心理学が現在のよう形になるにいたった理由を理論の発展ではなく、制度の変化や社会的な出来事の影響の観点から説明してください。 <b>留意点</b> ：千甲眼事件や戦争の影響などに特に注意して下さい。
レポート課題 2	現場からの社会的必要性や一般市民の関心に対して、心理学はどのように応じ、どのように発展したかについて説明してください。 <b>留意点</b> ：様々な領域の現場に触れるようにしてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： サトウタツヤ 教材名： 『方法としての心理学史』（新曜社、2011年） ISBN: 978-4788512290 2,400円+税
	心理学がどのように成立してきたのかその背景に切り込んだ本です。基本教材1より焦点を絞って深く洞察しています。
参考図書	デイヴィッド・ザルツブルグ著『統計学を拓いた異才たち』（日経ビジネス人文庫、2010年） ISBN:978-4532195397 1,143円+税 高橋 滯子著『心の科学史 西洋心理学の背景と実験心理学の誕生』（講談社学術文庫、2016年） ISBN:978-4-06-292383-5 1,280円+税
履修上のポイント	そもそも心理学とはどのような理由で生まれたのかについて考察を深め、心理学の位置づけを相対化したうえで、自身が用いる研究技法においても、それがどのような歴史に基づいて構築されているのかについて相対化できるようになることを目指します。
レポート課題 1	1879年のヴントの心理学実験室成立が心理学の成立と呼ばれるのはなぜか？その前の状況、そしてその後発展した方向性も考慮して、その理由をまとめてください。 <b>留意点</b> ：全体に同一書籍から紹介する場合には、レポート冒頭でその旨を記載するようにしてください。
レポート課題 2	自分が使う研究技法（統計・調査方法）のうちの1つを取り上げ、変化とその成立理由（特に社会的理由）に着目してその研究技法の歴史をまとめてください。 <b>留意点</b> ：新しい技法をテーマに選ぶ場合はその技法の前提となった技法も含めて書いてください。あまり難しいテーマを選びすぎないようにご注意ください。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	課題テーマの学修(臨床心理学の歴史)
第 3 回	基本教材 1 の学修：千里眼事件が臨床心理学に与えた影響について
第 4 回	基本教材 1 の学修：戦争が臨床心理学に与えた影響について
第 5 回	基本教材 1 の学修：臨床心理学以外の歴史の俯瞰的学修
第 6 回	関連する書籍の検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	歴史記述の考え方についての学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	課題テーマの学修(統計・研究法の歴史)
第 3 回	基本教材 2 の学修：実験が心理学に与えた影響について
第 4 回	基本教材 2 の学修：実験以外の心理学の方法について
第 5 回	参考図書の学修：統計的方法の歴史について
第 6 回	関連する書籍の検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	科学における方法論がもつ意味についての学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	心理学研究法特講	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現代の心理学は「科学」です。科学は、仮説の提示と経験（実験や調査・観察）による検証に基づいて発展していくシステムです。心理学が科学であるためには、客観的な経験による結果を得られるかどうかによって依存します。心理学研究法は、客観的なデータを得るための実験計画および得られたデータの客観的な提示方法の学習を目的とします。</p> <p>1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 心理学分野で論文執筆に必要な基本的なスキル（研究計画作成・データ分析・結果の記述）を習得することを目標とします。</p> <p>1) 客観的なデータを得ることができる。 2) 得られたデータを科学的に分析することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1) 客観性の基本であるデータの「信頼性」と「妥当性」の概念の習得 2) 2種の実験計画法（グループデザインと少数例の実験デザイン）の相違の理解 3) 得られたデータの客観的な表現の手段である統計法について習得 4) グラフ作成等、具体的なデータの表現方法の習得 5) 得られた結果の報告方法（検定結果の文中での表現方法等）の習得 6) 論文執筆における書式（文献引用等）の習得</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。統計基礎の学習、Excel等を用いた表計算およびグラフ作成スキル獲得、心理学研究執筆要項の学習等において、資料収集・テキストの学習に20時間、レポートをまとめるのに10時間、manaba-folioを使用したレポートの遂行作業に20時間、計50時間程度の準備学修時間を要しますので、早めに学習を始めることが必要です。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folio の掲示板を利用して、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。 ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期：グループデザインの習得 1) グループデザインの理論的背景の理解 2) 具体的な計画の作成方法と統計処理、および結果の表現方法の学習 課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ7月末と8月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。 後期：少数例の実験デザインの習得 1) 少数例の実験デザインの理解 2) 同じ目的をもつ研究のグループデザインによる実験と少数例の実験デザインによる実験の考案 課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ10月末と11月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。 修得すべきスキルが多岐にわたりますので、<u>一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です</u>。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？
	観察記録	25%	1) 締め切り直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？
履修者への要望	<p>レポート提出システムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にしてください。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。</p> <p>レポート提出システムに、紙ベースでは提示が難しいため、Web上で追加の留意点が書かれています。見落とさないように、レポートシステムに書かれている留意点を注意深くお読みください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 大山正・岩脇三良・宮埜嘉夫共著 『心理学研究法』（サイエンス社，2005年）            教材名： ISBN:978-4-78-191108-3 2,200円＋税</p> <p>著者名： 岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』（福村出版，2002年）            教材名： ISBN:978-4-57-120058-8 2,600円＋税【紀伊園屋出版社から取り寄せ（通常3日-20日で発送）】</p> <p>著者名： 後藤宗理，大野木裕明，中深潤 編 『心理学マニュアル要因計画法』（北大路書房，2000年）            教材名： ISBN:978-4-76-282196-7 1,500円＋税</p>
参考図書	<p>第1図書は，心理学の研究法にはどのようなものがあり，その方法の基礎になっている考え方および手続きについての概説がなされている。第2図書では，結果の分析に必要な統計的検定についてどのようなデータや実験計画のときは，どのような統計を利用するのかについて，フローチャートを用いてわかりやすい説明がある。第3図書は，分散分析法について概説している。</p> <p>南風原朝和，市川伸一，下山晴彦編『心理学研究法入門調査・実験から実践まで』（東京大学出版，2001年） ISBN:978-4-13-012035-7 2,800円＋税</p> <p>大野木裕明，中津潤編著『心理学マニュアル研究法レッスン』（北大路書房，2002年） ISBN:978-4-76-282264-3 1,800円＋税</p> <p>石村貞夫『SPSSによる分散分析と多重比較の手順』（東京図書，2002年） ISBN:978-4-48-902109-1 2,800円＋税</p> <p>菅民郎『Excelで学ぶ統計解析入門』オーム社，1999年） ISBN:978-4-27-406546-0 2,800円＋税</p>
履修上のポイント	<p>心理学が科学的手法を用いていることを理解した上で，それぞれの方法論のもとになった考え方を理解するようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので，必ず読むようにして下さい。また，この課題は，修士論文作成に役に立つスキルを学習することを教育目標の一つとしていますので，その中の一つである心理学領域の論文の書式も学習するようにして下さい。</p>
レポート課題 1	<p>測定の信頼性と妥当性，独立変数，従属変数，剰余変数および統制群の意味について具体的に述べよ。また，実験計画法についてまとめよ。</p> <p><b>留意点：</b>信頼性・妥当性の種類及びその検証方法，相関関係と因果関係の相違，剰余変数の統制の仕方，なぜ統制群が必要なのかについて説明して下さい。実験計画法では，分散（変動），主効果，交互作用の意味を説明して下さい。また，要因計画，反復測定（対応のある・なし）の意味についても記述して下さい。なお，説明を加えるときは，出来るだけ具体例をあげながら説明して下さい。</p>
レポート課題 2	<p><math>t</math>検定，1要因が繰り返しのある2要因分散分析法，および<math>2 \times 2</math>の<math>\chi^2</math>検定の手順について述べた後，それぞれの検定に対応した自分で考えた架空の実験データを利用して検定を行い，その結果を報告せよ。</p> <p><b>留意点：</b>統計ソフト（大学院から貸与されたものが望ましい）を利用して計算して下さい。このとき，最終的な検定結果だけでなく，途中の計算結果も報告して下さい。また，架空の結果のグラフも必ず加え，文章で説明して下さい。<math>t</math>検定は，対応のある<math>t</math>検定と，対応のない<math>t</math>検定の両方の事例を示して下さい。また，分散のあるグラフには，エラーバーをつけて下さい。エラーバーの長さは，<math>\pm 1</math>SD（標準偏差）にしてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： S・H・パーロー／M・ハーセン著高木俊一郎／佐久間徹監訳            教材名： 『一事例の実験デザイン「新装版」—ケーススタディの基本と応用—』（二瓶社，1997年）            ISBN:978-4-93-119937-8 3,000円＋税</p>
参考図書	<p>本書は，一事例の研究の歴史の概説に始まり，一事例研究の科学的研究デザインをまとめたものである。それぞれの実験デザインの利点と問題点，および統計による検定法について紹介した一事例研究のバイブル的著書である。</p> <p>アルバート・トルートマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめの応用行動分析』（二瓶社，2004年） ISBN:978-4-93-119915-6</p> <p>岩本隆茂，川俣甲子夫著『シングル・ケース研究法—新しい実験計画法とその応用 Keiso Psychology』（動草書房，1990年） ISBN:978-4-32-610083-5 4,500円＋税</p>
履修上のポイント	<p>履修上のポイント 心理学に限らず，大標本を用いた研究ができないケースが少なからずあります。このような場合，少数例のデータを利用して，いかに科学的に研究するのか？どのような根拠にもとづいて少数例の実験デザインは考案されたのかを理解するようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので，必ず読むようにして下さい。</p>
レポート課題 1	<p>少数例を用いた実験デザインにはどのようなものがあるかとまとめよ。</p> <p><b>留意点：</b>グループデザインとの基本的な考え方の相違および，少数例の実験デザインの歴史的発展について述べた後，各デザインについて説明してください。このとき，それぞれのデザインの利点と問題点を指摘してください。また，ベースラインおよび繰り返し測定の意義，さらに，独立変数導入時に一変数導入が基本であること理由についても記述してください。</p>
レポート課題 2	<p>ある技能に対する訓練方法Aの効果について，実験的に検討したい。このとき，特別な訓練をしなくても時間経過に伴ってその技能はある程度向上し，また，一度訓練されると，元の低いレベルに戻ることはないことが知られている。このような場合，どのような実験計画を立てるか，グループデザインと，少数例を用いた実験デザインの両方の計画を考案せよ。</p> <p><b>留意点：</b>両デザインの違いが分かるように説明し，出来るだけ具体的な実験例をあげて下さい。また，架空の実験結果を，両デザインともグラフと文章で表現して下さい。グラフは，テキストのグラフに準拠して下さい。また，課題の実験では，グループデザインにおける統計的検定および少数例の検定が可能ですので，検定も加えて下さい。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	グループデザインの歴史的・理論的背景の理解
第 2 回	測定の信頼性と妥当性の種類及びその検証方法の学修
第 3 回	独立変数, 従属変数, 剰余変数および統制群の意味の学修
第 4 回	実験計画法の学修
第 5 回	相関関係と因果関係の学修
第 6 回	t 検定、1 要因が繰り返しのある 2 要因分散分析法、および $2 \times 2$ の $\chi^2$ 検定の学修
第 7 回	検定結果の APA スタイルに準拠した表記法の学修
第 8 回	APA スタイルの作図法の学修
第 9 回	レポート課題 1: 初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1: 添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1: 最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2: 初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2: 添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2: 最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	少数例の実験デザインの歴史的・理論的背景の理解
第 2 回	ベースライン測定の意義の学修
第 3 回	AB デザインの問題点の学修
第 4 回	ABA デザイン等の反転デザインの学修
第 5 回	マルチベースライン (多層ベースライン) デザインの学修
第 6 回	操作交替デザインや基準変更デザインの学修
第 7 回	マルチベースラインデザイン等の少数例の実験デザインで得られたデータの検定法の学修
第 8 回	繰り返し測定の影響を受ける実験のグループデザインと少数例の実験デザインを用いた実験の考案
第 9 回	レポート課題 1: 初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1: 添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1: 最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2: 初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2: 添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2: 最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	認知心理学特論	担当者	ヤマモト マナ 山本 真菜	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>認知心理学の概念、理論などの基礎的事項の学習とともにとくに対人場面や社会的文脈における認知の問題について、テキストの読解を通じて理解する。本講座では、人の心や行動についての論理的思考・批判的思考、問題発見・解決力の修得により以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を論理的な課題に適切に適応できる能力を身に付けるために、認知心理学に関する概念や理論を理解できる力を身に付ける。</li> <li>2. 論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともその限界を認識する力、問題解決の方法と手順を立案し、問題を解決できる力を身に付けるために、認知心理学における問題の捉え方や考え方を身に付けるその視点を用いて問題を発見し解決できるようになる。</li> <li>3. 省察力を身に付けるために、認知心理学的見地から自分を認識できるようになる。</li> </ol>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 人の心や行動について、論理的思考・批判的思考をすることができ、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 認知心理学に関する概念や理論を理解することができる (知識)</li> <li>• 認知心理学における問題の捉え方や考え方を身に付け、現実社会での問題について認知心理学的視点に基づいた解決策を提案することができる (態度)</li> <li>• 認知心理学的知見から自分を認識することができる (態度)</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 基本教材を熟読し不明な点は参考図書等を利用して理解を深める【25 時間/レポート 1 本】。基本教材の内容を理解した上でレポートを作成する【10 時間/レポート 1 本】。レポート提出、担当者とのやり取り、加筆修正を経て、レポートの最終版を完成させる【10 時間/レポート 1 本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を利用したインタラクティブな添削指導を実施する。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材 1 のレポート課題 (1) の草稿は 7 月 20 日までに、レポート課題 (2) の草稿は 8 月 20 日までに提出するように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのレポート課題も前期の学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材 2 のレポート課題 (1) の草稿は 11 月 20 日までに、レポート課題 (2) の草稿は 12 月 20 日までに提出できるように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのレポート課題も後期の学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート課題の内容および目標を理解し、適切な内容を含んでいるかどうかを評価する。
	観察記録	20%	最終稿提出前に草稿を提出し、添削コメントに基づき加筆修正が行われているかどうかを評価する。
履修者への要望	<p>【レポート課題の作成にあたって】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文章表現は論文の体裁で作成してください。</li> <li>• 自分の考えと引用した考えを区別して書いてください。引用の場合には必ず引用元を記載してください。</li> <li>• 本文に引用した文献名は必ず文末に文献リストを設けて記載してください。</li> <li>• 引用文献の書き方については、日本心理学会の最新版「執筆・投稿の手びき」を参考にしてください。</li> <li>• 教材で理解できない内容があった場合には、参考図書等を基に調べて知識を得てください。</li> <li>• 初稿および最終稿の提出期限を厳守してください。初稿を提出期限後に提出した場合は添削指導が十分に行えない場合があります。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 森敏昭・井上毅・松井孝雄（著） 教材名： 『グラフィック認知心理学』（サイエンス社，1995年） ISBN 番号：978-4-7819-0776-5 価格：2,400円+税
	認知心理学を俯瞰するための基本的な内容が、具体的な研究結果や図表を多く用いて解説されている。
参考図書	著者名：日本認知心理学会（編） 教材名：『認知心理学ハンドブック』（有斐閣，2013年） ISBN 番号：978-4-641-18416-9 価格：3,600円+税
履修上のポイント	まず教材全体を一通り読み、不明な点は参考図書等を利用して理解するようにしてください。心理学関連の他科目の基本的内容も学習することが望ましい。
レポート課題 1	第1章から第6章の各章をそれぞれA4サイズ1枚に要約してまとめなさい。 <b>留意点</b> ：過不足なくわかりやすく要約すること。
レポート課題 2	第7章から第12章の各章をそれぞれA4サイズ1枚に要約してまとめなさい。 <b>留意点</b> ：過不足なくわかりやすく要約すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 日本認知心理学会（監修）村田光二（編） 教材名： 『現代の認知心理学 6 社会と感情』（北大路書房，2010年） ISBN 番号：978-4-7628-2717-4 価格：3,600円+税
	認知心理学のなかでも、とくに対人場面や社会的文脈における認知の問題について取り扱われている。あわせて、感情の問題を社会的認知の視点から検討している。
参考図書	著者名：山本真理子・外山みどり・池上知子・遠藤由美・北村英哉・宮本聡介・小森 公明（編） 教材名：『社会的認知ハンドブック』（北大路書房，2001年） ISBN 番号：978-4-7628-2225-4 価格：3,800円+税 著者名：唐沢穰・池上知子・唐沢かおり・大平英樹（編） 教材名：『社会的認知の心理学』（ナカニシヤ出版，2001年） ISBN 番号：978-4-8884-8589-0 価格：3,000円+税 著者名：S. T. フィスク，S. E. テイラー（著）宮本聡介・唐沢穰・小林知博・原奈津子（編訳） 教材名：『社会的認知研究：脳から文化まで』（北大路書房，2013年） ISBN 番号：978-4-7628-2822-5 価格：5,800円+税
履修上のポイント	まず教材全体を一通り読み、不明な点は参考図書や本書で引用されている文献を利用して理解するようにしてください。認知心理学の視点から、現実社会や日常生活での現象を考えてみてください。
レポート課題 1	本書の第1部（第1章から第6章）のなかから、自分が関心をもった章を一つ選び、要約しなさい。加えて、選択した章に出てくる理論やモデルをひとつ取り上げ、現実社会や日常生活における具体的な現象を挙げながら詳しく説明しなさい（本書で紹介されている例以外を紹介すること）。全体でA4サイズ2枚程度にまとめること。 <b>留意点</b> ：取り上げた理論やモデルが何であるか明確になるように文中で示してください。
レポート課題 2	本書の第2部（第7章から第12章）のなかから、自分が関心をもった章を一つ選び、要約しなさい。加えて、選択した章に出てくる理論やモデルをひとつ取り上げ、現実社会や日常生活における具体的な現象を挙げながら詳しく説明しなさい（本書で紹介されている例以外を紹介すること）。全体でA4サイズ2枚程度にまとめること。 <b>留意点</b> ：取り上げた理論やモデルが何であるか明確になるように文中で示してください。

### 基本教材 1

第 1 回	目的、達成目標、学習計画、成績評価方法等の講義概要の理解
第 2 回	基本教材 1 のレポート課題についての作成要領の確認
第 3 回	基本教材 1 の学修 (1) : 第 1 章から 3 章 (適宜参考図書も利用する)
第 4 回	基本教材 1 の学修 (2) : 第 4 章から 6 章 (適宜参考図書も利用する)
第 5 回	基本教材 1 の学修 (3) : 第 7 章から 9 章 (適宜参考図書も利用する)
第 6 回	基本教材 1 の学修 (4) : 第 10 章から 12 章 (適宜参考図書も利用する)
第 7 回	レポート課題 1 (1) 初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 (2) 初稿の作成と提出
第 9 回	レポート課題 1 (3) 添削コメントに基づいた修正
第 10 回	レポート課題 1 (4) 最終稿の作成と提出
第 11 回	レポート課題 2 (1) 初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2 (2) 初稿の作成と提出
第 13 回	レポート課題 2 (3) 添削コメントに基づいた修正
第 14 回	レポート課題 2 (4) 最終稿の作成と提出
第 15 回	基本教材とレポート課題 1・2 を振り返り、理解を深める

### 基本教材 2

第 1 回	基本教材 2 のレポート課題についての作成要領の確認
第 2 回	基本教材 2 の学修 (1) : 第 1 章から 3 章 (適宜参考図書も利用する)
第 3 回	基本教材 2 の学修 (2) : 第 4 章から 6 章 (適宜参考図書も利用する)
第 4 回	基本教材 2 の学修 (3) : 第 7 章から 9 章 (適宜参考図書も利用する)
第 5 回	基本教材 2 の学修 (4) : 第 10 章から 12 章 (適宜参考図書も利用する)
第 6 回	認知心理学的視点から現実社会の問題を理解する
第 7 回	レポート課題 1 (1) 初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 (2) 初稿の作成と提出
第 9 回	レポート課題 1 (3) 添削コメントに基づいた修正
第 10 回	レポート課題 1 (4) 最終稿の作成と提出
第 11 回	レポート課題 2 (1) 初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2 (2) 初稿の作成と提出
第 13 回	レポート課題 2 (3) 添削コメントに基づいた修正
第 14 回	レポート課題 2 (4) 最終稿の作成と提出
第 15 回	基本教材とレポート課題 1・2 を振り返り、理解を深める

科目名	認知心理学特講	担当者	モチヅキ マサヤ 望月 正哉	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

### 【科目概要】

目的	<p>こころの諸現象のなかでも思考や認識，記憶などを扱う認知心理学では，人のある種の情報処理装置として捉え，主に実験的手法を利用して，その特徴を明らかにしてきた。本講では，認知心理学の枠組みで扱われる諸現象について，(1)どのような研究を通じてその特徴を明らかにしてきたを理解し，(2)その内容が日常生活にどのように活用されているないし活用できる可能性をもっているかを探求する。それに加え，(3)同じ現象に対して認知心理学の中にも異なる理論・枠組みがあることを知り，人の心理的特徴を研究するうえで，理論的基盤の重要性を議論できることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材等の文献を通じて，当該領域における課題の検討や問題解決の方法に関する知識を習得する</li> <li>客観的な情報を基に，論理的・批判的な考察を通じて，認知心理学における課題に対する見解を示すことができる</li> </ul> <p>【行動目標(SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知心理学の諸現象について理解し，それを適切に説明することができる(知識)</li> <li>認知心理学の枠組みに基づいて，人の行動特徴や日常生活における問題を捉え，それに対する解決策を提案することができる(態度・習慣)</li> <li>提示されている理論や考え方を批判的に評価・吟味し，それに対する問題点や改善策を論理的に議論することができる(態度・習慣)</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)と学修時間】</p> <p>基本教材と参考文献等を読んで内容を理解したうえで，レポート課題1に向けて，その内容についてまとめる作業を25時間以上行うことを目安とする。そのうえで，レポート課題2に向けて改めて教材の理解を深めたうえで，まとめる作業を15時間以上行うことを目安とする。さらに，レポートの草稿提出，担当者とのやり取り，加筆修正を経て，レポートの最終稿の完成までの作業を5時間以上行うことを目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folioを利用したインタラクティブな添削指導を行う。また，manaba folioの掲示板を利用し，受講者同士の協働学修を行うことができる。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題(1)の草稿は7月20日までに，レポート課題(2)の草稿は8月20日までに提出するように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのレポート課題も最終稿は前期の学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：基本教材2のレポート課題(1)の草稿は11月20日までに，レポート課題(2)の草稿は12月20日までに提出できるように学生自身が各自の学修計画を立てる。いずれのレポート課題も最終稿は前期の学事暦で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート課題の内容および到達目標を理解し，適切な内容を含んでいるかどうかを評価する。
	観察記録	20%	最終稿提出前に草稿を提出し，添削コメントに基づき適切に加筆修正が行われているかどうかを評価する。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講では，基本的知識の習得に加え，それを日常生活に結びつけるという「応用への意識」と，知識の背景にある理論に対する批判的な論考という「基礎への意識」の両方ができることを目標としています。心理学的研究の遂行や修士論文の執筆には，これらの両方が必要となるということを考えながら授業に臨んでください。</li> <li>レポートを執筆する際には基本教材以外にも積極的に文献(書籍・論文)を参照してください。文献を参照する際に，その書き方(本文中の書き方，引用文献リストの書き方)は必ず日本心理学会の「執筆・投稿の手びき(<a href="https://psych.or.jp/manual/">https://psych.or.jp/manual/</a>)」に従ってください。</li> <li>初稿および最終原稿の提出期限は厳守してください。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 服部雅史，小島治幸，北神慎司(著) 教材名： 『基礎から学ぶ認知心理学—人間の認識の不思議』(有斐閣，2015年) ISBN：978-4-641-15027-0 本体1,980円＋税
	認知心理学の基礎的な概念や代表的な研究について，日常の身近な例と関連づけて紹介されており，初学者に適した教材となっている。
参考図書	著者名：日本認知心理学会(編) 教材名：『認知心理学ハンドブック』(有斐閣，2013年) ISBN：978-4-641-18416-9 本体3,600円＋税 著者名：箱田裕司，都築誉史，川畑秀明，萩原滋(著) 教材名：『認知心理学(New Liberal Arts Selection)』(有斐閣，2010年) ISBN：978-4-641-05374-8 本体3,400円＋税
履修上のポイント	はじめに教材を一通り読み，不明な点は参考図書や，各文献で紹介されている論文を確認する。また，各章の章末にテーマの関連書籍が挙げられているので，それらの文献を参照するのも良い。特にレポート課題2に向けて，認知心理学の諸現象と日常生活を結びつけ，認知心理学においてはそれをどのように理解，説明しているのか説明できるように情報を収集したり，教材を読んだりできると良い。
レポート課題1	第1章から第10章で重要と考えたキーワードを5つずつ選び(5語×10章＝計50語)，1語あたり100字以内でその内容を説明したうえで，その選出理由を1章あたり300字以内で説明する。 <b>留意点</b> ：説明の際に基本教材以外の文献を参照したら，それを引用文献として示してください。
レポート課題2	自分自身に起こった「誤り」について，(1)それがどのような事象で，(2)認知心理学的にはどのようなように説明され，(3)どのように工夫することでその誤りを防ぐことができるのかを提案する。 <b>留意点</b> ：(1)は1,000字以内，(2)は2,000字以内，(3)は1,000字以内でまとめてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： レベッカ・フィンチャー-キーファー(著) 望月正哉，井関龍太，川崎恵里子(訳) 教材名： 『知識は身体からできている—身体化された認知の心理学』(新曜社，2021年) ISBN：978-4-78-851736-3，本体2,700円＋税
	認知心理学のなかで比較的新しく出てきた考え方に「身体化された認知」「身体性認知」というものがある。本書は，それらの考え方に基づいて行われた心理学的研究について体系的に紹介し，これまで認知心理学で中心となっていた考え方とどのように対比されるかが理解できる。
参考図書	著者名：嶋田総太郎(編) 教材名：『認知科学講座1 心と身体』(東京大学出版会，2022年) ISBN：978-4-13-015201-3，本体3,200円＋税 著者名：日本認知科学会(編)，嶋田総太郎(著) 教材名：『脳のなかの自己と他者：身体性・社会性の認知脳科学と哲学』(共立出版，2019年) ISBN：978-4-32-009461-1，本体3,400円＋税
履修上のポイント	はじめに教材を一通り読み，不明な点は参考図書や，各文献で紹介されている論文を確認する。また，教材の「訳者解説」にも，教材のテーマの関連書籍が挙げられているので，それらの文献を参照するのも良い。特にレポート課題2に向けて，認知心理学の諸現象を理解する際に異なる立場があること，身体化された認知の考え方は，それまでの考え方と比較して，どういった観点が優れているのか，もしくはどういった観点は不足しているのかを意識しながら教材を読めると良い。
レポート課題1	第2章から第8章の内容を1章あたり1,000字以内で要約する。要約に際しては，その章の内容を代表すると考えた研究を1つ取り上げ，どのような研究でどのような結果が得られたか紹介する。 <b>留意点</b> ：説明の際に基本教材以外の文献を参照したら，それを引用文献として示してください。
レポート課題2	基本教材や参考図書を踏まえ，(1)伝統的な認知心理学の考え方と身体化された認知の考え方を対比的に説明したうえで，(2)身体化された認知の考え方では，うまく説明できない事象や現象，行動，課題にはどのようなものがあり，それをどのように捉えていけばよいか自身の考えを述べる。 <b>留意点</b> ：(1)(2)を合わせて5,000字以内にまとめるようにしてください。

### 基本教材 1

第 1 回	基本教材 1 の学修の進め方と，本科目のレポート課題についての作成要領の確認
第 2 回	基本教材 1 の学修(1)：第 1 章から第 2 章（適宜参考図書も利用する）
第 3 回	基本教材 1 の学修(2)：第 3 章から第 4 章（適宜参考図書も利用する）
第 4 回	基本教材 1 の学修(3)：第 5 章から第 6 章（適宜参考図書も利用する）
第 5 回	基本教材 1 の学修(4)：第 7 章から第 8 章（適宜参考図書も利用する）
第 6 回	基本教材 1 の学修(4)：第 9 章から第 10 章（適宜参考図書も利用する）
第 7 回	レポート課題 1(1) 初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1(2) 初稿の作成と提出
第 9 回	レポート課題 1(3) 添削コメントに基づいた修正
第 10 回	レポート課題 1(4) 最終稿の作成と提出
第 11 回	レポート課題 2(1) 初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2(2) 初稿の作成と提出
第 13 回	レポート課題 2(3) 添削コメントに基づいた修正
第 14 回	レポート課題 2(4) 最終の作成と提出
第 15 回	レポート課題 (1) (2) の振り返りと本課題に関する到達目標の達成度の確認

### 基本教材 2

第 1 回	基本教材 2 の学修の進め方と，本科目のレポート課題についての作成要領の確認
第 2 回	基本教材 2 の学修(1)：第 1 章から第 2 章（適宜参考図書も利用する）
第 3 回	基本教材 2 の学修(2)：第 3 章から第 4 章（適宜参考図書も利用する）
第 4 回	基本教材 2 の学修(3)：第 5 章から第 6 章（適宜参考図書も利用する）
第 5 回	基本教材 2 の学修(4)：第 7 章から第 8 章（適宜参考図書も利用する）
第 6 回	基本教材 2 の学修(4)：第 9 章と訳者解説（適宜参考図書も利用する）
第 7 回	レポート課題 1(1) 初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1(2) 初稿の作成と提出
第 9 回	レポート課題 1(3) 添削コメントに基づいた修正
第 10 回	レポート課題 1(4) 最終稿の作成と提出
第 11 回	レポート課題 2(1) 初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2(2) 初稿の作成と提出
第 13 回	レポート課題 2(3) 添削コメントに基づいた修正
第 14 回	レポート課題 2(4) 最終の作成と提出
第 15 回	レポート課題 (1) (2) の振り返りと本課題に関する到達目標の達成度の確認

科目名	社会心理学特講	担当者	ワダ マキ 和田 万紀	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	心理学の視点から社会心理学に関する研究をまず俯瞰する。そして、最近の社会心理学の研究を深く読み解き、研究成果の理解とその考察を通して、社会に生きる動物としての人間を考えることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>問題発見・解決能力＝事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。論理的批判的思考力＝得られた情報を基に、論理的で客観的な思考ができる。</p> <p>社会心理学の視点から、科学的に検証されたデータと理論を基に、個人、集団、集合、文化のレベルから現代社会を生きる人間の心理、行動を理解して考察する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>社会心理学の対象領域における研究、理論を俯瞰して、理解することができる。自分の興味に応じて、社会心理学の研究、理論を理解して、報告書を書くことができる。現代社会の問題について、社会心理学の視点から意見を述べるができる。(知識、技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>課題に沿ってテキストや参考図書、さらに必要に応じて文献検索を行い、それらの内容を理解して文章を作成する。その際に理解の困難やまとめ方が不明な場合には、manaba folio を利用して、個別に指導を受ける。そしてレポートの遂行を重ねながら、最終稿を提出する。</p> <p>1つのレポート作成につき、基本教材や参考書等を読み、まとめる作業に25時間以上、レポート提出、修正、担当者とのやり取りに20時間以上を目標とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>人間科学特講、産業組織心理学特講、調査分析特講などにおいて提供されているオープンエデュケーション教材を参考補助として視聴する。</p>		
スケジュール	<p>前期；教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)の草稿は8月末を目安に提出できるようにする。最終稿は9月中旬をめぐり、学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期；教材2のレポート課題(1)の草稿は11月下旬、課題(2)の草稿は12月中旬を目安に提出できるようにする。最終稿は1月中旬ごろを目安にして、学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	最終提出期限内に、最終稿を提出すること。課題図書や文献などの内容を十分理解しているか、最新の知見を含めて自分の言葉として表現されているか、等について評価する
	観察記録	25%	最終提出期限内に、草稿を修正しながら最終稿を提出すること。草稿は、文章表現や内容のまとめ方、引用などについて修正を重ねること。
履修者への要望	<p>文章表現は、論文の体裁を満たしていること。エッセイ等のように自分の関心事だけを述べて、提出された場合には、評価の対象とは致しません。引用文献、参考文献等は、分けて記載してください。</p> <p>心理学の基礎知識や理論について不明な場合には、適宜辞典等を参考としてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： (1)田之内厚三編 「ガイド社会心理学」北樹出版 2006年 1900円＋税 教材名： (2)池田謙一・唐沢譲・工藤恵理子編 「社会心理学」有斐閣 2010年 3456円＋税
	図書(1)は、伝統的な社会心理学の研究範囲を網羅して書かれた教科書である。 図書(2)は、最新の社会心理学の知見を網羅した教科書である。
参考図書	中島義明編 心理辞典 有斐閣 1999年 6800円＋税
履修上のポイント	図書(1)によって社会心理学研究の伝統的な研究領域の俯瞰をしてください。その後(2)に進んでください。参考図書を利用しながら、他の心理学関連科目も履修することが望ましい。
レポート課題 1	教材(1)の各章を、それぞれ1000字程度に要約してまとめなさい。最後に、課題(1)の図書を読んで何を考えたのか、さらに感想を述べなさい。 <b>留意点：</b> 最初は字数を気にせずに少し多めに文章を作成してください。それから字数に対して近づくように簡潔にまとめなおしてレポートを作成してください。
レポート課題 2	教材(2)の社会的認知・自己と他者・社会関係から集団ネットワークへ、について、それぞれ1000字程度に要約してまとめなさい。 <b>留意点：</b> 最初は字数を気にせずにまとめてみる。その後に字数に近づけるようにまとめなおすこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： (1)池田謙一・唐沢譲・工藤恵理子編 教材名： 「社会心理学」有斐閣 2010年 3456円＋税 (2)各自の興味に応じて、社会心理学関連シリーズ等や文献を検索して報告する
	(1)は、最近の社会心理学の知見を網羅した教科書である。 (2)は、これまで検討した内容を自分の興味に応じて図書選択や文献検索等を行い、課題文献を決定する。
参考図書	中島義明編 心理辞典 有斐閣 1999年 6800円＋税
履修上のポイント	教材1の課題(2)は、教材2の課題(1)と同じ教材です。不明な点は参考図書や各自文献検索等をおこなって補強してください。
レポート課題 1	社会文化社会の中の個人、の各章について、それぞれ1000字程度に要約してください。 <b>留意点：</b> 最初は字数を気にせずにまとめて、その後字数に近づくように推敲してみてください。
レポート課題 2	教材1、教材2を読んで自分の興味、専攻等と関連するテーマを選び、それに沿った図書、または文献を検索して、その内容、各章についてまとめてレポートしてください。図書の場合は各章1000字程度にまとめてみてください。文献の場合は、手続き、結果、著者の考察を述べた後で、自分の立場、考察等をまとめて記述してください。 <b>留意点：</b> 自分の興味あるテーマが、実際にどの様に研究されて考察されているのか、について社会心理学の点から検討してください。最初は字数を気にせずに記述して、それを修正しながらまとめて直す、という「訓練」を経験してください。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の確認と本科目及び課題の理解
第 2 回	課題（1）と課題（2）について、教材の確認
第 3 回	教材 1 課題（1）の学修：目次を利用して、社会心理学の研究の俯瞰をする
第 4 回	教材 1 課題（1）の学修：内容を学修する
第 5 回	教材 1 課題（1）の学修：理解に困難がある箇所を、参考図書や文献検索から参照して確認する
第 6 回	教材 1 課題（2）の学修：目次を利用して、最近の社会心理学研究を俯瞰する
第 7 回	教材 1 課題（2）の学修：内容を学修する
第 8 回	教材 1 課題（2）の学修：理解に困難がある箇所について参考図書等を参照、文献検索で確認する
第 9 回	課題（1）：初稿作成
第 10 回	課題（1）：添削指導の結果から修正稿の作成
第 11 回	課題（1）：最終稿の作成と提出
第 12 回	課題（2）：初稿の作成
第 13 回	課題（2）：添削指導の結果から修正稿の作成
第 14 回	課題（2）：最終稿の作成と提出
第 15 回	レポート課題（1）（2）を通じて本課題に関する全体的な理解の検証と確認をする

### 基本教材 2

第 1 回	教材の確認と本課題の理解
第 2 回	課題（1）の学修：目次を利用して対象となる範囲の確認と学修
第 3 回	課題（1）の学修：内容の理解に困難がある場合は参考図書等を参照して理解する
第 4 回	課題（1）の学修：各章の概要の理解の程度を確認をする
第 5 回	課題（2）の学修：自分の興味あるテーマの選定
第 6 回	課題（2）の学修：選択したテーマに関する図書または文献を入手して概観する
第 7 回	課題（2）の学修：入手した図書、文献について、その内容を理解して自分の考えをまとめる
第 8 回	課題（2）の学修：内容の理解に困難がある場合、さらに参考図書や文献等から理解をすすめる
第 9 回	課題（1）：初稿作成
第 10 回	課題（1）：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	課題（1）：最終稿の作成と提出
第 12 回	課題（2）：初稿作成
第 13 回	課題（2）：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	課題（2）：最終稿の作成と提出
第 15 回	レポート課題を通じて、本課題に対する全体的理解の検証と確認

科目名	産業・組織心理学特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅一郎	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	----------------------	----	----	-----	---

### 【科目概要】

目的	<p>本講義では、心理学の応用領域の一つである産業・組織心理学の概要を理解し、最終的には産業・組織心理学で得られた知見が職場や家庭内での問題と具体的にどう関連しているかについて考えることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報を基に、論理的・批判的に考察できる。</p> <p>II. 問題を分析し、複数の解決策を提示した上で、問題を解決することができる。</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>心理学の応用領域を理解し、得られた知識を自分の所属する職場にどのように反映できるかを考え、改善策を提案する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業・組織心理学における研究領域とその概要を理解することができる。</li> <li>産業・組織心理学で得られた知見が、職場や家庭内での問題と具体的にどう関連しているか理解できる。</li> <li>自分にとって最も関心のある産業・組織心理学のトピックについて討論し、レポートに纏めることができる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <p>1つのレポート課題の完成までに最低 45 時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材および参考文献の読み込み：20 時間</li> <li>レポート課題の執筆：10 時間</li> <li>Manaba-Folio へのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15 時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの推敲過程において、Manaba-Folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</li> <li>オープンエデュケーション教材 (OER) を基本教材の補助として視聴する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：基本教材 1 のレポート課題 1：6 月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材 1 のレポート課題 2：8 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9 月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材 2 のレポート課題 1：11 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2025 年 1 月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材 2 のレポート課題 2：12 月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2025 年 1 月上旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	79 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に) 0 点となります。</li> <li>レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います (こうしたレポートは評価の対象としません)。教材の引き写しは評価の対象外とします。</li> </ul>
	観察記録	21 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出までに Manaba-Folio 上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。</li> <li>草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は 79 点以下しか得られません。</li> </ul>
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題といえども、論文の体裁で書いて下さい。</li> <li>いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。その際、本文に引用した文献 (引用文献) と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献 (参考文献) とは仕分けて示してください。</li> <li>産業・組織心理学は心理学の応用領域の一つですが、心理学の「応用」領域を理解するためには、心理学の基礎知識や基礎的理論の理解が問われます。心理学の基礎用語が分からない場合は、「参考図書」に目を通してください。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 外島 裕 監修，田中堅一郎 編 教材名： 『産業・組織心理学エッセンシャルズ 第4版』（ナカニシヤ出版，2019年） ISBN:978-4-7795-1385-5 2,900円+税</p> <p>(2) 著者名： ベイザーマン，M.H./ ムーア，D.A. 著，長瀬勝彦 訳 教材名： 『行動意思決定論 バイアスの畏』（白桃書房，2011年） ISBN:978-4-561-26563-4 3,800円+税</p> <p>教材1(1)の内容は「仕事への動機づけ」「人事評価制度」「人事測定の方法」「職場の人間関係と意思決定」「職場におけるリーダーシップ」「職場のストレス」「組織における協力と葛藤」「ヒューマンエラー」「キャリアの発達とその開発」「売り手と買い手の心理学」「心理学で用いられる統計の基礎的知識ガイド（特論1）」「産業・組織心理学史（特論2）」から構成されている。 教材(2)は，経営における意思決定について全11章から構成されている。</p>
参考図書	<p>中島義明ほか編『心理学辞典』（有斐閣，1999年）ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 下山晴彦ほか編『誠信 心理学辞典 [新版]』（誠信書房，2014年）ISBN:978-4-414-305074 6,264円 高木修 監修，田尾雅夫 編集『組織行動の社会心理学（シリーズ21世紀の社会心理学2）』（北大路書房，2001年）ISBN:978-4-76-282224-7 2,500円+税 ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器 なぜ人は動かされるのか [第三版]』（誠信書房，2014年）ISBN:978-4-41-430422-0 2,700円+税</p>
履修上のポイント	<p>参考図書に示された『心理学辞典』『誠信 心理学辞典 [新版]』をもとに，分かりにくい専門用語を確認したり，心理学関連の他科目も学習することが望ましい。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材1の(1)について，1章から10章の各章を要約し，全体についてのコメントを述べること。 留意点：各章を800字以内で要約し，全体についてのコメントを付記すること（合計10,000字以内で収めること）。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材1の(2)について，1章から10章の中から，自分の興味・関心のあるものを1章選び，その章の内容を自分の興味・関心の高い事柄を中心に，3,000字～4,000字でまとめること。 留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 森下高治ほか 著 教材名： 『クローズアップ メンタルヘルス・安全（現代社会と応用心理学4）』（福村出版，2015年） ISBN:978-4-571-25504-5 2,400円+税</p> <p>本書は，メンタルヘルス，ヒューマンエラー，リスクマネジメントに関して応用心理学の視点から，20のトピックを中心に3章から構成されている。</p>
参考図書	<p>中島義明ほか編『心理学辞典』（有斐閣，1999年）ISBN:978-4-64-100259-3 6,800円+税 金井壽宏『キャリア・デザイン・ガイド』（白桃書房，2003年）ISBN:978-4-56-123386-2 2,100円+税 谷口弘一・福岡欣次『対人関係と適応の心理学 ストレス対処の理論と実際』（北大路書房，2006年） ISBN:978-4-76-282527-9 2,400円+税 坂野雄二 監修『学校，職場，地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル』（北大路書房，2004年） ISBN:978-4-76-282408-1 2,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>基本教材1と内容的には重複している箇所もあるが，内容的には（基本教材1と比べて）やや臨床心理学や安全工学との関連が強い。しかし基本教材1の内容が十分理解されていれば，教材2はさほど晦渋とは感じられないと思われる。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材2の第3章を要約し，全体についてのコメントを述べること。 留意点：各節を3000字以内で要約し，全体のコメントを付記すること（合計9,000字以内で収めること）。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材2を構成する20のトピックの中から，自分の興味・関心のあるものを1つ選び，その内容を当該書に示された「引用・参考図書」も参照しながら，3,000字から4,000字でまとめること。 留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材に基づく学修(1)	仕事への動機づけ (1 章)
第 2 回	教材に基づく学修(2)	人事評価制度 (2 章)
第 3 回	教材に基づく学修(3)	人事測定の方法 (3 章)
第 4 回	教材に基づく学修(4)	職場の人間関係と意思決定 (4 章)
第 5 回	教材に基づく学修(5)	職場におけるリーダーシップ (5 章)
第 6 回	教材に基づく学修(6)	職場のストレス (6 章)
第 7 回	教材に基づく学修(7)	組織における協力と葛藤 (7 章)
第 8 回	教材に基づく学修(8)	ヒューマンエラー (8 章)
第 9 回	教材に基づく学修(9)	キャリアの発達とその開発 (9 章)
第 10 回	教材に基づく学修(10)	売り手と買い手の心理学 (10 章)
第 11 回	教材に基づく学修(11)	基本教材 1 の内容を参考文献で確認する
第 12 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 13 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 14 回	レポート課題の作成(3)	基本教材 1 から 1 章を選択し、レポート課題 2 の草稿を作成して教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材に基づく学修(1)	災害と避難行動 (トピック 18)
第 2 回	教材に基づく学修(2)	災害のトラウマと心のケア (トピック 19)
第 3 回	教材に基づく学修(3)	災害看護 (トピック 20)
第 4 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 5 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 6 回	教材に基づく学修(4)	労働をとりまく今日の問題 (トピック 1), 働く意味とは (トピック 2)
第 7 回	教材に基づく学修(5)	ストレス (トピック 3), ソーシャルサポートとバーンアウト抑制 (トピック 4)
第 8 回	教材に基づく学修(6)	ストレスコーピングの実際 (トピック 5), 新型うつ (トピック 6)
第 9 回	教材に基づく学修(7)	過労死 (トピック 7), メンタルヘルスケア (トピック 8), 復職に向けて (トピック 9)
第 10 回	教材に基づく学修(8)	キャリアとワーク・エンゲージメント (トピック 10)
第 11 回	教材に基づく学修(9)	産業におけるリスクと安全 (トピック 11), 事故とヒューマンエラー (トピック 12)
第 12 回	教材に基づく学修(10)	交通事故と交通コンフリクト (トピック 13), ハザード知覚とリスクテイキング (トピック 14)
第 13 回	教材に基づく学修(11)	交通参加者の行動 (トピック 15), 運転態度 (トピック 16), 安全教育と効果 (トピック 17)
第 14 回	レポート課題の作成(3)	基本教材 2 からトピック 1 つを選択し、レポート課題 2 の草稿を作成して教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

科目名	臨床心理学特講	担当者	キクシマ 菊島 カツヤ 勝也	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	臨床心理学実践の中で、教育臨床をとりあげ、子どもに対する臨床心理学的な支援について学習する。特に、発達障害をはじめとした、様々な問題を抱えている子どもに対して、学校場面でどのような支援が行われているかについて焦点をあて、理解を深めることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力</li> <li>異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。</li> <li>○社会に貢献する姿勢</li> <li>社会に貢献する姿勢を維持することができる。</li> </ul> <p>以上の点を踏まえて、発達障害を持つ子どもに、実際の生活場面でどのような困難やつまづきが生じるのか、具体的なイメージを持てるようになること。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら学ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな知識・教養に基づく高い倫理観</li> </ul> </li> <li>豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。</li> <li>○自ら考える <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的・批判的思考力</li> </ul> </li> <li>得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</li> <li>・問題発見・解決力</li> <li>事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</li> <li>○自ら道をひらく <ul style="list-style-type: none"> <li>・挑戦力</li> </ul> </li> <li>あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。</li> <li>・コミュニケーション力</li> <li>他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。</li> <li>・リーダーシップ・協働力</li> <li>集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</li> <li>・省察力</li> <li>謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる</li> </ul> <p>以上の行動を通じて、困難を抱える子どもに対して、どのような支援ができるのか理解を深めること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>教材を読み、下記のリポート課題についてリポートを作成する。疑問が生じた場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑する。</p> <p>1つのリポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba-Folioを使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1のリポート課題(1)(2)を終了後、基本教材2のリポート課題(1)(2)を作成する。</p> <p>前期：教材1のリポート課題(1)は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。いずれのリポートも、教員より加筆・修正を指示された場合には、9月中旬の学事歴で定められた期限までに再提出する。</p> <p>後期：教材2のリポート課題(1)は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。いずれの課題も、教員より加筆・修正を指示された場合には、令和7年1月中旬の学事歴で定められた期限までに再提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	リポート	80%	課題及び教員からの指導に対して、適切な内容がまとめられていること。また、それに対する、独自の意見や疑問が記述されていること。
	観察記録	20%	リポート全体の構成や表現方法を評価する。
履修者への要望	<p>【準備学修項目】</p> <p>発達障害を持つ子どもにこれまで関わる機会の無かった方は、なるべく具体的なイメージを持っていただきたい。一般向けの本などもたくさん出ているので、それらをあたることも助けとなると思われる。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 阿部利彦（著）            教材名： 『見方を変えればうまくいく！特別支援リフレーミング』（中央法規，2013年） ISBN:978-4-8058-3859-4 2,000円+税</p> <p>著者は発達障害を持つ児童生徒に対して、主に学校場面で非常に先駆的な支援を行ってきた専門家である。本書は、3章から構成されており、特別支援の基本的な考え方、さらにたくさんの事例と対応方法が紹介され、専門家だけでなく、教員や保護者にも理解が深まるような配慮がなされており、初学者にとってわかりやすく大変有益な内容であるといえる。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿部利彦・岩澤一美『発達が気になる児童生徒の理解と指導・支援』（金子書房，2019年） ISBN:978-4-7608-3270-5 1,400円+税</li> <li>・阿部利彦他『人的環境のユニバーサルデザイン』（東洋館出版社，2019年） ISBN:978-4-491-03946-6 1,800円+税</li> <li>・阿部利彦『発達障害の子どもたちから教わった 35 のチェンジスキル』（合同出版，2020年） ISBN:978-4-7726-1416-0 1,500円+税</li> </ul>
履修上のポイント	<p>発達障害を持つ子どもに対する支援については、以下の点を十分踏まえておく必要がある。</p> <p>(1)授業場面では教育的な配慮が必要であり、本人のハンディキャップに応じた授業の工夫がなされるべきであること。</p> <p>(2)家庭場面では親のストレスや負担をなるべく減らし、まず良好な親子関係をつくることを支えていく事が求められること。</p> <p>(3)その上で、子ども自身のこころの健康な成長を支えるような支援が必要であること。</p> <p>(4)これらの支援はバラバラに行われるのではなく、それぞれが連携をしながら、実施されるべきであること。以上の点について、教材を読む事で、より具体的に理解が深まることが望まれる。</p>
レポート課題 1	<p>教材第 1 章を読み、自分で重要であると感じたり、興味を持った部分を中心に要約を行い、それに対する自分の意見や疑問を書きなさい。</p> <p><b>留意点:</b>まず発達障害がどのようなもので、どのような種類があるかについて、教材とは別に調べ、把握しておくことが望ましい。</p>
レポート課題 2	<p>教材第 2 章 CASE1～5 までを読み、自分が興味を持ったケースを 2 例とりあげて、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。</p> <p><b>留意点:</b>提案する 1 つ 1 つの支援プランについて、(1)どのような方法か、(2)その方法を実施することでどんな効果が期待できるか、を必ず含めること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 基本教材 1 と同じ。            教材名： 基本教材 1 と同じ。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿部利彦（編著）『クラスで気になる子の支援 ズバッと解決ファイル』（金子書房，2009年） ISBN:978-4-7608-2347-5 1,700円+税</li> <li>・文部科学省（2004）『小・中学校における LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）』（文部科学省の HP で閲覧可能）</li> <li>・文部科学省（2021）『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』（文部科学省 HP で閲覧可能）</li> </ul>
履修上のポイント	<p>学校場面での子どもへの支援においては、いわゆるカウンセリングなどの心理療法的な視点からの支援だけでなく、教授法、教材の工夫、療育、生活指導、ケースワーク等、様々な視点から「役に立つ」方法を組み合わせて柔軟に用いることが必要であることを、具体的に学習することが望まれる。</p>
レポート課題 1	<p>教材第 2 章 CASE6～10 までを読み、自分が興味を持ったケースを 2 例とりあげて、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。</p> <p><b>留意点:</b>正解があるわけではないので、自由に独自の支援プランを考えて提案すること。</p>
レポート課題 2	<p>教材第 2, 3 章 CASE11～16 までを読み、自分が興味を持ったケースを 2 例とりあげて、教材で解説されている支援策を参考に、それぞれのケースごとに、独自の意見も含めた「支援プラン」を提案しなさい。</p> <p><b>留意点:</b>正解があるわけではないので、自由に独自の支援プランを考えて提案すること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学習と、本科目の課題の理解。
第 2 回	教材第 1 章を読む（前半）。
第 3 回	教材第 1 章を読む（後半）。
第 4 回	教材事例 1 を読む。
第 5 回	教材事例 2 を読む。
第 6 回	教材事例 3 を読む。
第 7 回	教材事例 4 を読む。
第 8 回	教材事例 5 を読む。
第 9 回	レポート課題 1：レポート原稿の作成・提出。
第 10 回	レポート課題 1：担当教員からのフィードバック・コメントを読む。
第 11 回	レポート課題 1：必要に応じて、掲示板を利用した質疑応答。
第 12 回	レポート課題 2：レポート原稿の作成・提出。
第 13 回	レポート課題 2：担当教員からのフィードバック・コメントを読む。
第 14 回	レポート課題 2：必要に応じて、掲示板を利用した質疑応答。
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証。

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学習と、本科目の課題の理解。
第 2 回	教材事例 6 を読む。
第 3 回	教材事例 7 を読む。
第 4 回	教材事例 8 を読む。
第 5 回	教材事例 9, 10 を読む。
第 6 回	教材事例 11, 12 を読む。
第 7 回	教材事例 13, 14 を読む。
第 8 回	教材事例 15, 16 を読む。
第 9 回	レポート課題 1：レポート原稿の作成・提出。
第 10 回	レポート課題 1：担当教員からのフィードバック・コメントを読む。
第 11 回	レポート課題 1：必要に応じて、掲示板を利用した質疑応答。
第 12 回	レポート課題 2：レポート原稿の作成・提出。
第 13 回	レポート課題 2：担当教員からのフィードバック・コメントを読む。
第 14 回	レポート課題 2：必要に応じて、掲示板を利用した質疑応答。
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証。

科目名	臨床心理学特講	担当者	キタムラ セナ 北村 世都	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義では、臨床心理学の理論を概観し、特に認知症高齢者の支援に臨床心理学がどのように活用されるのかを学ぶことを目的とする。</p> <p>高齢者支援の領域には、高齢者本人への介入のみならず、高齢者施設職員の支援や家族支援など心理支援がかかわるテーマが多く含まれている。臨床心理学は、必ずしも面接室のみで完結する学問ではなく、心理学の知見を応用した科学的な心理支援に貢献できる学問である。そこで本講義では認知症高齢者の支援における臨床心理学を理解することを通して、科学的根拠をもった心理支援とは何かについても理解を深める。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>高齢者支援におけるさまざまな問題から、その背景にある課題を発見し、心理学・臨床心理学の知見を用いて課題解決を図る方法を身に着ける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 高齢者支援において活用されている、臨床心理学の主要アプローチを説明できる。</p> <p>② 高齢者支援における問題を、科学的に分析できる。</p> <p>③ 高齢者支援における問題を、心理学や臨床心理学の理論に基づいて説明できる。</p> <p>④ 主要な認知症ケアについて、心理学的知見・臨床心理学的知見から期待される介入効果とそのメカニズムを説明できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>レポート課題を踏まえて、指定の基本教材および参考文献をもとに知識を深めて、レポートを作成する。1つのレポート課題作成に対して、基本教材を理解するために20時間、レポートをまとめる作業に10時間以上、レポート提出後の修正、科目担当者との質疑を通して加筆修正し、レポート最終稿を仕上げる作業に15時間以上を必要とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba Folioを利用して、全受講者間および科目担当者との質疑応答をおこなう。</p>		
スケジュール	<p>以下の期限に基づいて、受講者自身で学修計画をたてる。</p> <p>前期 基本教材1レポート課題1：草稿6月末日提出、9月の学事暦指定日に最終稿を提出。 基本教材1レポート課題2：草稿8月10日提出、9月の学事暦指定日に最終稿を提出。</p> <p>後期 基本教材2レポート課題1：草稿10月末日提出、令和7年1月の学事暦指定日に最終稿を提出。 基本教材2レポート課題2：草稿12月中旬提出、令和7年1月の学事暦指定日に最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	1) 指定教材を正しく理解していること。 2) 提示された課題に応じたレポートであること。 3) 学術論文と同等の体裁を整えたレポートであること。
	観察記録	30%	1) 草稿提出後、必要な修正が行われていること。 2) レポートの修正内容が指導に基づいたものであること。
履修者への要望	<p>○基礎心理学の知識がない人は、その習得に努力すること。</p> <p>○レポートや論文の書き方に沿って記述し、レポートであっても論文として体裁を整えること。</p> <p>○引用文献と参考文献を分けて記載すること。</p> <p>○参考図書も積極的に活用し、その他の図書の紹介が必要であれば科目担当者に直接相談すること。</p> <p>○自分の文章が論理的に正しいかどうか、何度も繰り返し読み、他者にも読んでもらって修正の指摘を受けてから、提出すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美            教材名： 『臨床心理学入門 -- 多様なアプローチを越境する』            （有斐閣，2013年） ISBN:978-4-641-22003-4 本体 1,900円＋税：            著者名： 山口晴保・北村世都・水野裕            教材名： 『認知症の人の主観に迫る 真のパーソン・センタード・ケアを目指して』            （協同医書出版，2020年） ISBN:978-4-7639-6037-5 本体 1,500円＋税</p> <p>『臨床心理学入門』は、臨床心理学の主要なアプローチと、それら相互の関係性を概観した入門書である。臨床心理学の中でも、特に介入技法の主要なアプローチが、どのように発展してきたのか、その背景やアプローチ間の異同が平易に説明されている。</p> <p>『認知症の人の主観に迫る 真のパーソン・センタード・ケアを目指して』は、認知症ケアの実践の中で今日重視されている「その人らしさ」や「共感」について、それがどのような意味を持つのかを3人の著者が異なる視点から解説している。</p>
参考図書	<p>下山晴彦編 伊藤恵美・黒田美保・鈴木伸一・松田修著            『公認心理師技法ガイド―臨床の場で役立つ実践のすべて―』            （文光堂，2019年） ISBN:978-4-83-063626-4 6,500円＋税            トム キットウッド著，高橋誠一訳 『認知症のパーソンセンタードケア』            （クリエイツかもがわ，2017年） ISBN:978-486-342207-0 2,600円＋税</p>
履修上のポイント	<p>高齢者の臨床心理学を学ぶ前提として、まずは臨床心理学の介入（心理支援や心理療法）がどのように発展してきたのかを知り、今日の心理支援の源流を理解してほしい。参考図書では、今日行われている多様な心理支援の技法が解説されている。教材で取り扱われている心理支援の具体的な内容を知ることができるので参考にしてください。</p> <p>臨床心理学の介入を理解するためには、基礎心理学（認知心理学、生理心理学、学習心理学、発達心理学など）の知識が必要であるため、不明点はそのままにせず、自身で調べて明らかにしながら進めること。</p>
レポート課題 1	<p>以下のリンクのファイルにある事例Aさんへの心理支援を考える。（1）精神力動アプローチ、（2）ヒューマニスティックアプローチ、（3）認知行動アプローチ、のそれぞれのアプローチでは、見立て（定式化・ケースフォーミュレーションともいう）、支援目標、支援方法、想定される回復過程をそれぞれ解説しなさい。</p> <p>事例Aさん  <a href="https://drive.google.com/file/d/1wiSL1IWJwEwQIA4h0yf0NjEYGzqPc_IY/view?usp=drive_link">https://drive.google.com/file/d/1wiSL1IWJwEwQIA4h0yf0NjEYGzqPc_IY/view?usp=drive_link</a>  <b>留意点：</b>教材だけではなく、自分でさらに学びを深めて課題に取り組んでください。</p>
レポート課題 2	<p>パーソン・センタード・ケアでは、認知症の人の「その人らしさ personhood」を大切にすることが重要であるとされる。臨床心理学の知見から「その人らしさ」とは何かを解説しなさい。</p> <p><b>留意点：</b>自分の考えではなく臨床心理学の理論や先行研究を参照し、根拠を示しながら論理的に解説してください。</p>
基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 大庭輝・佐藤眞一編            教材名： 『心理学で支える認知症の理論と臨床実践』（誠信書房，2023年）            ISBN:978-4-41-441700-5 本体 2,700円＋税</p> <p>高齢者支援や認知症の支援では、基礎心理学の知見が必要になることが多い。本書では、臨床心理学だけではなく基礎心理学がどのように心理支援の実践に応用されているのかを理解することができる。</p>
参考図書	<p>小海宏之・若松直樹・川西智也            『認知症ケアのための心理アセスメントと心理支援―高齢者の心理臨床ハンドブック』            （金剛出版，2022年） ISBN:978-4-77-241904-8 本体 3,800円＋税            福島喜代子編 結城千晶著            『事例で学ぶ認知症の人の家族支援：認知行動療法を用いた支援プログラムの展開』            （中央法規，2017年） ISBN:978-4-80-585471-6 本体 2,400円＋税            佐藤眞一『認知症の人の心の中はどうなっているのか？』            （光文社信書，2018年） ISBN:978-4-33-404387-2 本体 840円＋税</p>
履修上のポイント	<p>認知症の基本的な知識が少ない人は、自身で認知症関連の書籍や動画で知識を深めること。</p>
レポート課題 1	<p>認知症の人への心理的介入の概要をまとめたうえで、基本教材2第Ⅱ部事例編で紹介されている支援方法や介入方法について、教材とは異なる別の事例を論文等から探してまとめなさい。</p> <p><b>留意点：</b>学術論文、書籍などの刊行物に掲載された事例を用い、出典を明記すること。</p>
レポート課題 2	<p>今日、実践されている認知症の家族介護者を対象にした介護者教室の事例を1つ挙げ、その実践事例に関して、（1）どのような心理的支援が行われているのか、（2）心理的支援としてより効果が期待できるように、介護者教室のプログラム改善案を考え、その根拠を説明しなさい。</p> <p><b>留意点：</b>全国の市町村や地域包括支援センター、介護施設や事業所等で実施されている介護者教室（講座）のプログラムを調べて、それをもとに（1）（2）を論じること。特に改善案では根拠を明確にすること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の準備と全体構成の把握、本科目の課題の理解、学修計画の立案
第 2 回	基本教材 1 『臨床心理学入門』第 1・2 章を通して、「臨床心理学の概要」を学修する。
第 3 回	基本教材 1 『臨床心理学入門』第 3・4 章を通して、「精神力動アプローチ」を学修する。
第 4 回	基本教材 1 『臨床心理学入門』第 5・6 章を通して、「ヒューマニスティックアプローチ」を学修する。
第 5 回	基本教材 1 『臨床心理学入門』第 7・8 章を通して、「認知行動アプローチ」を学修する。
第 6 回	基本教材 1 『臨床心理学入門』第 9・10 章を通して、「臨床心理学のアプローチの違い」を学修する。
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：指導を踏まえた修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	基本教材 1 『認知症の人の主観に迫る』第 1 章を通して、「認知症におけるメタ認知」を学修する。
第 11 回	基本教材 1 『認知症の人の主観に迫る』第 2・3 章を通して「認知症における共感」を学修する。
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：指導を踏まえた修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通し、臨床心理学特論の課題の全体的な理解と検証を行う。

### 基本教材 2

第 1 回	教材の準備と全体構成の把握、本科目の課題の理解、学修計画の立案
第 2 回	基本教材 2 第 1 章を通して、「認知症の支援と心理学の接点」を学修する。
第 3 回	基本教材 2 第 2 章を通して、「認知心理学の概要」を学修する。
第 4 回	基本教材 2 第 1 章を通して、「神経心理学の概要」を学修する。
第 5 回	基本教材 2 第 1 章を通して、「認知症の心理支援の現状と課題」を学修する。
第 6 回	基本教材 2 第 II 部の事例を読み、「認知症の心理支援の各論」を学修する。
第 7 回	基本教材 2 第 II 部の事例の 1 つと同じテーマの学術論文等を探して内容を理解する。
第 8 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：指導を踏まえた修正稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 11 回	全国の認知症家族介護者教室を集め、「認知症家族介護者教室における心理支援」を学修する。
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：指導を踏まえた修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通し、臨床心理学特論の課題の全体的な理解と検証を行う。

科目名	医療心理学特講	担当者	カマクラ 鎌倉 やよい	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目は、医療心理学として応用行動分析学の基本的な行動の原理を基盤に、患者もしくは医療者の行動変容を促す技法を身につけることを目的とする。</p> <p>医療現場においては、患者に対しては運動遵守や食事制限、医療者に対しては規定遵守など、行動変容が求められる場面が多い。これらの多くは、患者教育や医療者教育として「医療者もしくは管理者が言語的に教示する方法」が採られているが、必ずしも「当事者が実行する」とは限らない。患者自身、医療者自身が行動を変容させ、自律的に実行できるようにする技法が必要である。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>医療場面の事象について、行動の原理に基づき注意深く観察して問題を発見し、論理的・批判的思考力を身につけて、応用行動分析学の行動変容法を活用して解決策を提案する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>①医療場面における人の問題行動について、ABC分析(先行条件・行動・結果)ができる。          ②ABC分析に基づき、結果の操作によるアプローチ(分化強化)を計画することができる。          ③ABC分析に基づき、先行条件の操作によるアプローチ(先行子操作)を計画することができる。          ④行動変容法のうち、「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」を説明できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と準備学修時間】</p> <p>1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに30時間以上、Manaba Folioでのやりとりに15時間以上を目安とする。</p> <p><u>基本教材1</u>：教材に従って、基本的な行動の原理のうち特に「強化」「弁別」を十分に理解していただきたい。その上で、医療場面における患者又は医療者の行動を観察し、その行動をアセスメントとして、ABC分析を実施して行動随伴性を明らかにする。その問題行動を解決するために、結果の操作(強化)及び先行条件の操作(弁別)による行動変容のためのアプローチを検討する。</p> <p><u>基本教材2</u>：教材に基づき、新しい行動を形成する方法を学習する。第Ⅲ部から第Ⅴ部まで詳述された行動変容法のうち、「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について医療場面の具体例を検討する。ここでは、「望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法」として、「分化強化」「先行子操作」の技法を学習し、行動変容のためのアプローチを検討する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba Folioの掲示板機能を利用して、受講生相互に課題図書に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;・レポート課題1締切：6月末(初稿) ★学事暦で定められた日までに提出する          ・レポート課題2締切：8月末(初稿) ★学事暦で定められた日までに提出する          &lt;後期&gt;・レポート課題1締切：10月末(初稿) ★学事暦で定められた日までに提出する          ・レポート課題2締切：12月末(初稿) ★学事暦で定められた日までに提出する</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	1) 学習された教材内容が要約として示されていること。 2) 課題に対する回答が詳述され、教材や文献が活用されていること 3) レポートの形式的条件を満たしていること
	観察記録	30%	1) 草稿用レポート提出、修正のプロセスを経て作成されていること 2) レポート修正時には、添削やコメント内容が反映されていること 3) レポート提出など、学習スケジュールが適切であること
履修者への要望	<p>1) 以下に行動変容法を臨床応用した事例を紹介している著書および研究論文を紹介するので、参考にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>坂上貴之他：『行動分析学：行動の科学的理解をめざして』（有斐閣，2018年） ISBN：9784641221024 2,310円</li> <li>山本淳一他（編）『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』（金剛出版，2015年） ISBN：9784772414487 3,960円</li> <li>『特集，看護ケアプログラムの体系化に向けて，看護研究と行動分析学』（医学書院，看護研究，47(6)，2014年） DOI <a href="https://doi.org/10.11477/mf.1681200003">https://doi.org/10.11477/mf.1681200003</a> 有料閲覧</li> </ul> <p>2) レポートは、教材による学習内容を要約した上で、課題に応用して論じて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 今本繁，島宗理 教材名： 『対人支援の行動分析学(改訂版)』（ふくろう出版，2008年） ISBN:978-4-86-186363-9 1,900円+税
	本書は行動の法則，行動をアセスメント，介入効果を評価するためのシングルケーススタディ，行動変容アプローチの基礎知識について，実践的にわかりやすく説明されている。 次に，問題行動に対するポジティブなアプローチ，恐怖や不安へのアプローチ，セルフマネジメント，パフォーマンスマネジメントとして，行動変容のための方法論が具体的に説明され，さらに，医療・リハビリテーション分野への応用として具体例が示されている。
参考図書	P. A. アルバート，A. C. トールマン（佐久間，谷，大野，訳） 『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』（二瓶社，2004年） ISBN:978-4-86-108015-9 3,200円+税
履修上のポイント	行動は環境との相互作用である。問題行動と思われたとしても，どのような場面で引き起こされ，その結果何が生じているのか，的確にアセスメントすることが必要である。まず，教材に従って学習した後，医療場面における患者又は医療者の行動を観察し，行動アセスメントとしてABC分析を実施して，3項強化随伴性を学習する。次に，問題行動を解決する技法を学習し，なかでも結果の操作（強化）並びに先行条件の操作（弁別）によるアプローチを学習していただきたい。
レポート課題 1	医療場面における患者又は医療者の行動を観察し，問題と思われる行動について，行動アセスメントとしてABC分析を行い，その3項強化随伴性について論じなさい。 <b>留意点：</b> 病院での医療場面，外来での場面，患者として自分の行動を観察するのも良い。簡単な例として，「ゴミがベッド下に散乱する安静臥床患者」，「運動訓練をいやがる患者」，「薬を飲み忘れる患者」，「頼みにくい医師や看護師」，「外来で歩き回る患者」など，参考にしていただきたい。
レポート課題 2	高脂血症患者（男性，身長 170cm，体重 80kg）が運動して BMI:25 未満 72kg まで体重を減らすように指示されたが，歩行を増加させることができません。学生各自が ABC 分析の条件を設定して歩行の行動随伴性を示し，結果と先行条件へのアプローチを論じなさい。 <b>留意点：</b> 行動変容へのアプローチのうち，「結果の操作によるアプローチ（p80）；強化」「先行条件に焦点を当てたアプローチ（p99）；先行子操作」を理解することを目的とする。ABC 分析のための条件は学生各自が設定し，原理に基づくアプローチを考案していただきたい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： レイモンド・G・ミルテンバーガー（園山，野呂，渡部，大石，訳） 教材名： 『行動変容法入門』（二瓶社，2006年） ISBN:978-4-86-108025-8 3,600円+税
	本書は，第1部「行動と行動変化の測定」，第2部「基本的な行動の原理」，第3部「新しい行動を形成する方法」，第4部「望ましい行動を増やし，望ましくない行動を減らす方法」で構成されている。第1・2部が行動分析学の基礎がわかりやすく記され，第3・4部には行動変容を導く技法がわかりやすく述べられている。具体例が多用されているため，行動変容法について医療場面に置き換えて学習することができる。
参考図書	P. A. アルバート，A. C. トールマン（佐久間，谷，大野，訳） 『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』（二瓶社，2004年） ISBN:978-4-86-108015-9 3,200円+税 日本行動分析学会（編）『行動分析学研究アンソロジー2010』（星和書店，2011年） ISBN:978-4-79-110763-6 3,500円+税
履修上のポイント	基本教材2の第1部は行動の測定，第2部は基本的な行動原理のうち特に「強化」「刺激性制御」を，十分に理解していただきたい。第3部から行動変容法が詳しく示されている。 本講では新しい行動を形成する方法として，「シェイピング」「プロンプトと刺激性制御の転移」について学習する。その方法として前者は結果にアプローチする「分化強化」を，後者は先行条件にアプローチする「先行子操作」を中心に学習する。
レポート課題 1	望ましい行動を形成する手続きである「シェイピング」について，医療場面の具体例を示して，「漸次的接近」「分化強化」を用いて論じなさい。 <b>留意点：</b> 望ましい行動形成の医療場面として，「構音の学習」，「嚥下方法の学習」，「永久気管孔造設後のケア方法の学習」，「人工肛門造設後のケア方法の学習」，「小児へのトイレトレーニング」等が例として挙げられる。これらを参考に具体例を検討していただきたい。
レポート課題 2	新しい行動を形成する手続きである「プロンプトと刺激性制御の転移」について，医療場面の具体例を示して，「先行子操作」を用いて論じなさい。 <b>留意点：</b> 対象となる例として「採血など新しい技術の指導場面」「新たなケア方法や道具の操作の指導場面」等が例として挙げられる。これらを参考に具体例を検討していただきたい。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（応用行動分析学）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修：「3 項強化随伴性」について
第 4 回	基本教材 1 の学修：「強化」と「弁別」について
第 5 回	関連する図書の学修
第 6 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 7 回	レポート課題 1 に向けた事例の抽出
第 8 回	レポート課題 2 に向けた事例の抽出
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（応用行動分析学）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修：「シェイピング」「分化強化」について
第 4 回	基本教材 1 の学修：「プロンプトと刺激性制御の転移」と「先行子操作」について
第 5 回	関連する図書の学修
第 6 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 7 回	レポート課題 1 に向けた事例の抽出
第 8 回	レポート課題 2 に向けた事例の抽出
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	行動分析学特講	担当者	スギモト タダシ 杉本 任士	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>行動分析学はアメリカの心理学者 B. F. スキナー(1904-1990)によって創始された学問体系で、実験的行動分析学、応用行動分析学に分けられる。実験的行動分析学は、ヒトや動物の行動を実験的に検討し、行動の原理を明らかにしようとする分野であり、応用行動分析学は、さまざまな現実場面での問題(教育、臨床、福祉、産業など)の解決や、動物の訓練などに取り組んでいる。本科目では、行動分析学の基礎的な理論と技法の修得に加えて、日常生活において生じる様々な問題を、行動分析学の知見や方法論を用いて理解し、その解決策を考案できるようになることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 行動分析学というユニークな世界観・人間観に基づく学問を通して、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観、論理的かつ批判的な思考力、問題を発見し解決策を提案する力を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 (1)行動分析学の理論と技法について実証的データに基づいて理解するとともに、その理論や技法の背景となっている人間観や世界観について説明できる。(知識・問題解決、技能) (2)行動分析学の臨床応用領域における実践方法を学び、社会的場面における行動技法活用の利点や問題点について説明できる。(知識-問題解決、技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 1) 課題に従って基本教材とレポート提出システム(manaba)に掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げる。2) 「レポート提出のためのチェックリスト」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出する。3) 教員からの加筆・修正の指示に従って、再度、修正稿を提出する。4) これを繰り返して、最終稿に仕上げていく。 資料収集・テキストの学修に 20 時間、レポートをまとめるのに 10 時間、manaba を使用したレポートの修正・推敲作業に 15 時間、計 45 時間程度の準備・学修時間を要します。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba のコレクションを利用し、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba の掲示板を利用し、受講者同士の協働学修を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポート推敲のためのピア・レスポンス等)。 ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期：行動分析学の基礎の学修&gt; 1) 実体験による行動変容の理解 2) 観察による行動変容の理解 3) 言語による行動変容の理解 課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 7 月末と 8 月末とする。 最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>&lt;後期：行動分析学の原理の応用の学修&gt; 1) 応用行動分析学の問題解決手続きと ABC 分析に基づいた関数(機能)分析の理解 2) 行動分析学に基づいた問題行動の改善案の考案 課題 1 および課題 2 の草稿の提出期限は、それぞれ 10 月末と 11 月末とする。 最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。 一回の草稿提出ですべて学修するのは困難です。早めに草稿を提出し、指導を受けながら、学修を進めてください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75 %	1) 留意点に従って、課題について述べているか。 2) レポート提出システム(manaba)に掲載された資料を参考に書かれているか。 3) レポート提出のためのチェック項目に従って書かれているか。
	観察記録	25 %	1) 提出期限の直前ではなく、1 ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか。 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているか。
履修者への要望	<p>manaba にも資料を添付しますので、必ずダウンロードして参考にしてください。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料に目を通してから、レポートに取り組んでください。また、「レポート提出のためのチェックリスト」を参考に、自身のレポートが全ての項目を満たしているかチェックしてください。満たしていなければ満たしたうえで項目をチェックし、その後提出してください。提出の際は、チェックリストをレポートの最初に加えてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 眞邊 一近 教材名： 『ポテンシャル学習心理学』（サイエンス社，2020年 第2刷版） ISBN: 978-4-7819-1441-1 2,600円+税
	行動分析学の基礎になる学習心理学の知見と、その応用についてまとめられている。最新の行動分析学の用語による解説がなされている。行動の変容を引き起こす「経験」を、実体験による経験、観察による経験、言語を媒介とした経験の3種に分類し、それぞれで生じる学習について解説している。
参考図書	坂上 貴之・井上 雅彦『行動分析学』（有斐閣，2018年） ISBN: 978-4-641-22102-4 2,100円+税 杉山 尚子『行動分析学入門』（集英社，2005年） ISBN: 4-08-720307-7 840円+税
履修上のポイント	前期は、行動分析学の基礎について学修します。テキストには、基礎的な現象とその応用例が示されていますので、日常場面の具体例と関連付けながら理解するようにしてください。また、第1章に概略が示されていますので、まずは、第1章を学修してから読み進めてください。
レポート課題 1	実体験による学習(行動変容)にはどのようなものがあり、それらが我々の生活にどのように結びついているか、具体例をいくつかあげながら、そのメカニズムがわかるように概説せよ。 <b>留意点</b> ：必ず具体例をあげながら説明してください。
レポート課題 2	観察と言語による学習(行動変容)にはどのようなものがあり、それらが我々の生活にどのように結びついているか、具体例をいくつかあげながら、そのメカニズムがわかるように概説せよ。 <b>留意点</b> ：必ず具体例をあげながら説明してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： P. A. アルバート / A. C. トルーマン 著 佐久間 徹 / 谷 晋二 / 大野 裕史 訳 教材名： 『はじめての応用行動分析 日本語版第2版』（二瓶社，2004年） ISBN: 978-4-86108-015-9 3,200円+税 著者名： 井上 雅彦（監修） / 三田地 真実・岡村 章司（著） 教材名： 『保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック』（金剛出版，2019年） ISBN: 978-4-7724-1693-1 2,600円+税
	第1図書は、応用行動分析学の基本的な考え方から始まり、行動変容のための手続きを丁寧に解説した書である。行動目標の作成、データの収集とグラフ化、一事例の実験デザイン、行動の生起頻度を増大させる随伴操作、不適切な行動を減少させる結果操作、分化強化(刺激制御とシェイピング)、機能分析、行動変容の般化、行動自己管理の指導、教室での実践の順で分かりやすく述べられている。 第2図書は、保護者や学校の教員が行動分析学に基づく実践ができるように、行動分析学の実践方法についてわかりやすくまとめられている。
参考図書	プライア, K. (河嶋 孝・杉山 尚子 訳)『うまくやるための強化の原理』（二瓶社，1998年） ISBN: 978-4-931199-55-2 1,400円+税
履修上のポイント	後期は、行動分析学の応用について学修します。行動分析学は、問題行動の原因を個人の内的なプロセスに求めるのではなく、その個人を取り巻いている環境(行動随伴性)に求めます。その行動随伴性を改善することにより問題行動を修正します。問題行動の原因を個人の内的プロセスに求めることの問題点の理解と、問題行動が行動随伴性の改善によって解決可能であることを学修してください。
レポート課題 1	日常場面における問題行動の具体例をいくつかあげ、その問題行動を引き起こしている環境(行動随伴性)を、ABC分析(関数分析)を用いて明らかにせよ。 <b>留意点</b> ：第2図書の第2部を十分理解した上で取り組んでください。レポートを作成する際は、1) 問題行動の具体例をあげ、2) ABCフレームを用いたABC分析(関数分析)を行った上で、3) その行動(反応)の増加や減少につながる結果は、行動随伴性の何にあたるのかを丁寧に説明してください。問題行動は、自身の行動でも他者(ペットも含む)の行動のいずれでもかまいません。
レポート課題 2	日常場面における問題行動の具体例をあげ、その行動修正の手続きを一事例の実験デザインで提示せよ。 <b>留意点</b> ：第1図書で示されている内容を十分理解した上で取り組んでください。レポートを作成する際は、1) 具体例をあげ、2) 行動目標を示し、3) 機能分析と行動の原理を用いた介入方法を決定した上で、4) データ収集の方法について言及してください。使用するデータは架空のものでかまいません。そして、5) 予想される結果を一事例の実験デザインを用いてグラフ化し、6) 最後に考察を行ってください。それぞれのプロセスにおいて、第1図書を参考に特に注意すべき点について説明を加えてください。問題行動は、自身の行動でも他者(ペットも含む)の行動でもかまいません。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修：非連合学習について
第 3 回	基本教材 1 の学修：連合学習について
第 4 回	基本教材 1 の学修：観察による学習について
第 5 回	基本教材 1 の学修：言語による学習について
第 6 回	参考図書に関する学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	レポート課題の構成，内容についての立案検討
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 2-1 の学修：応用行動分析学の基本的な考え方について
第 3 回	基本教材 2-1 の学修：行動変容のための手続き(目標行動の設定の仕方など)について
第 4 回	基本教材 2-1 の学修：行動変容のための方法(強化や弱化など)について
第 5 回	基本教材 2-2 の学修：機能分析(ABC 分析)について
第 6 回	参考図書に関する学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	レポート課題の構成，内容についての立案検討
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	コミュニケーション心理学特講	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	----------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ヒトは他者とのコミュニケーションにより社会生活を維持しています。円滑なコミュニケーションにより、ヒトはQOL (Quality of Life) を高めることができます。コミュニケーション心理学特講では、コミュニケーションの心理学的側面についての学修を目的とします。</p> <p>1) 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案できる。 2) 論理的・批判的思考力：得られた情報を元に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>コミュニケーションを円滑に行うためには、コミュニケーションスキルの獲得が必要です。コミュニケーション心理学特講では、コミュニケーションスキルに必要な知覚・発声・認知過程とその発達について学修した後、コミュニケーションスキルの訓練方法・コミュニケーション手段の改善策など具体的な方法論についての学修を目的とします。</p> <p>1) コミュニケーションスキルに必要な知覚・発声・認知過程とその発達について説明できる。 2) コミュニケーションスキルの訓練方法・コミュニケーション手段の改善策など具体的な方法論について考案できる。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>1) コミュニケーションの基礎になる音声知覚と発声の進化と発達の習得 2) 言語の基礎となる認知機能の進化と発達の理解 3) 発話の発達の理解 4) 各種コミュニケーションスキル訓練の理解 5) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善方法の習得</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要であるかどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。知覚心理学・発達心理学コミュニケーションスキル・行動分析学の学修等において、資料収集・テキストの学修に20時間、レポートをまとめるのに10時間、manaba-folioを使用したレポートの遂行作業に15時間、計45時間程度の準備学修時間を要します。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学修を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等）。</li> <li>図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：コミュニケーションに関連する知覚と発達</p> <p>1) コミュニケーションに関連する知覚の理解 2) コミュニケーションの発達の理解</p> <p>課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ7月末と8月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>後期：コミュニケーションスキルと行動分析学</p> <p>1) コミュニケーションスキルと訓練方法の理解 2) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善案の考案</p> <p>課題1および課題2の草稿の提出期限は、それぞれ10月末と11月末にします。最終提出期限は学事暦で定められた日までに提出する。</p> <p>心理学の基礎から応用まで学修は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学修するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学修を進めていきます。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？
	観察記録	25%	1) 締め切り直前ではなく、1ヶ月以上の余裕を持って事前に草稿を提出し、十分な指導を受けたか？ 2) 草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？
履修者への要望	<p>レポートシステムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、レポート提出のためにチェック項目にチェックを入れてから提出してください。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 深田博己編著            教材名： 『コミュニケーション心理学：心理学的コミュニケーション論への招待』（北大路書房，1999年）ISBN:978-4-76-282160-8 2,500円+税【紀伊國屋在庫僅少】</p> <p>著者名： 重野純著            教材名： 日本音響学会編『音の何でも小事典：脳が音を聴くしくみから超音波顕微鏡まで』（講談社，1996年）ISBN:978-4-06-257150-0 1,100円+税</p> <p>著者名： 正高信夫著            教材名： 『0歳児がことばを獲得するとき：行動学からのアプローチ』（中央公論新社，1993年）ISBN:978-4-12-101136-7 660円+税</p> <p>第1図書は、コミュニケーション心理学を理解するのに必要な心理学の基礎的な知識を網羅的に解説した入門書である。第2図書では、音声知覚の概説がなされている。第3図書では、コミュニケーションの基礎といわれる乳児の母親とのコミュニケーションの解説がなされている。</p>
参考図書	<p>深田博己『インターパーソナルコミュニケーション：対人コミュニケーションの心理学』（北大路書房，1998年）ISBN:978-4-76-282103-5 2,500円+税</p> <p>斉藤勇編『対人社会心理学重要研究集：対人コミュニケーションの心理』（誠信書房，1987年）ISBN:978-4-41-432403-7 2,500円+税</p> <p>植村勝彦，松本青也，藤井政志『コミュニケーション学入門：心理・言語・ビジネス』（ナカニシヤ出版，2000年）ISBN:978-4-88-848536-4 2,400円+税</p> <p>坂元章編『インターネットの心理学：教育・臨床・組織における利用のために』（学文社，2000年）ISBN:978-4-76-200964-8 1,900円+税</p>
履修上のポイント	<p>コミュニケーション心理学を理解するためには、心理学の幅広い基礎知識が必要です。出来るだけ、基本教材でとりあげている各分野の心理学にふれるようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。</p>
レポート課題 1	<p>コミュニケーションに関係する外的（物理的）世界と知覚（心理的）世界のズレについて述べよ。  <b>留意点</b>：コミュニケーションに関係する聴覚や視覚およびその相互作用などによって生じる現象についてまとめてください。</p>
レポート課題 2	<p>コミュニケーションの発達過程について述べよ。  <b>留意点</b>：乳児・幼児・児童と発達する過程で、母親・家族・仲間とどのような相互作用を行いながら発達していくかについてまとめて下さい。このとき、どのような要因が「発達」を促進するか記述して下さい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 島宗理            教材名： 『パフォーマンス・マネジメント』（米田出版，2022年）ISBN:978-4-94-655307-3 1,700円+税</p> <p>著者名： 眞邊一近            教材名： 『ポテンシャル学習心理学』（サイエンス社，2023年第3刷版）ISBN:978-4-78191441-1 2,860円</p> <p>第1図書は、行動分析学に基づいたコミュニケーションスキルの向上法を具体的に解説した入門書である。部下のマネジメント・学校・病院・組織のマネジメントなどの具体例を学びながら、スキル向上の基本的な方法論が学べるよう構成されている。</p> <p>第2図書は、行動分析学の基礎となる「学習」をわかりやすく説明している。行動分析学の基礎から実践場面での具体例を学ぶことが出来る。</p>
参考図書	<p>アルバート・トルートマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめての応用行動分析』（二瓶社，2004年）ISBN:978-4-93-119915-6 3,059円+税</p> <p>相川充著『人づきあいの技術：社会的スキルの心理学』（サイエンス社，2000年）ISBN:978-4-78-190966-0 1,650円+税</p> <p>R・ネルソン・ジョーンズ著（相川充訳）『思いやりの人間関係スキル：一人で出来るトレーニング』（誠信書房，1993年）ISBN:978-4-41-430274-5 3,800円+税</p> <p>菊池章夫，堀毛一也『社会的スキルの心理学』（川島書店，1994年）ISBN:978-4-76-100527-6 3,200円+税</p> <p>井上雅彦（監修）/三田地真実・岡村章司（著）『保護者と先生のための 応用行動分析入門ハンドブック』（金剛出版，2019年）ISBN:978-4772416931 2,860円（税込）</p>
履修上のポイント	<p>第1図書は、最初の章から順番に読んでいくことを勧める。また、参考図書の『はじめての応用行動分析』と読み合わせると理解が進むだろう。第2図書は、一般向けにわかりやすく書かれているが、本書の中でいわれていることの根拠を理解する上で、上記の図書を読んだ後で読むと良いだろう。</p>
レポート課題 1	<p>コミュニケーションスキルおよびコミュニケーションスキル訓練にはどんなものがあるかまとめよ。  <b>留意点</b>：コミュニケーションの過程を概説した後、個々のスキルと訓練について述べて下さい。前期の基本教材も参考にして下さい。</p>
レポート課題 2	<p>自分の職場あるいは家庭の人間関係やコミュニケーションでなにか問題を感じている事柄をとりあげ、関数分析（ABC分析）に基づいた改善策を考察せよ。  <b>留意点</b>：自分が考えた改善策の基礎となっている行動分析学の知見・方法論が具体的にわかるように述べて下さい。ただし、企業名や個人名が特定されないように注意すること。もし個人的な問題が無ければ、地域や市町村の問題でも構いません。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	コミュニケーションに関連する心理学分野の理解
第 2 回	コミュニケーションの基礎になる感覚と知覚の学修
第 3 回	コミュニケーションの基礎になる音声知覚と発声の進化の学修
第 4 回	乳児期と幼児期の音声知覚と発声の発達の学修
第 5 回	幼児期の言語発達の学修
第 6 回	児童期の言語発達の学修
第 7 回	言語の基礎となる認知機能の進化と発達の学修
第 8 回	言語発達を促進する環境要因の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	コミュニケーションスキルの理解
第 2 回	各種コミュニケーションスキル訓練の学修
第 3 回	行動分析学の基礎の学修
第 4 回	行動随伴性の学修
第 5 回	行動の原理の学修
第 6 回	行動随伴性に基づいた関数分析（ABC 分析）の学修
第 7 回	関数分析に基づいた応用事例の学修
第 8 回	行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善案の考案
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	生涯学習論特講	担当者	コガ 古賀 トオル 徹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座（生涯学習論特講）では、生涯学習社会を迎える現在において、「教育」（学習）をどのようにとらえ、学習活動をどのように企画・構想し展開していくことができるのかを考えることを主要な「問い」とする。その様々な問題解決のために必要とされる専門的知識や基礎理論を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>(1)学修で習得した知識・技能を、生涯学習社会における様々な課題の解決に活用・適用することができる。</p> <p>(2)仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題を精査し、具体的な解決策を構想し提案することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 現代社会における「生涯学習」の意義や特質を理解する。（知識・理解） 諸外国や歴史の文書、各種統計データを読み取り、活用する研究技能を身につける。（思考／技能）</p> <p>【行動目標（SBOs）】 (1)「教育学」の考え方、研究方法の特徴を理解し説明することができる。（知識・解釈） (2)「生涯学習社会の到来と課題」について説明することができる。（知識・解釈） (3)「生涯学び続ける力」を修得させることを目的として学校教育改革が進められていることとの関連性を理解し課題を抽出し解決策を形成・提案できる。（知識・問題解決） (4)現場の取材を行い、質問事項等を考え、リサーチクエスチョンにつなげていくことができる。（技能／態度）</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】 レポートの作成（そのための取材、資料収集と整理、構想と推敲から論文提出と、さらに修正）。関連する文献や情報を集め理解するために25時間以上、提出時のレポート往復（レポート指導・再提出のやりとり）に20時間以上を目安としている。〔最低45時間の学修時間を要するものとする〕</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートで完結するが、自主的な意欲をもとにする「生涯学習の実践現場」を考察の対象とし、また取材を実施すること（フィールド・ワーク）と、それをレポートとして構成し、提出する作業（修正等の往復も含む）は、能動的であり、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」となる。レポートの往復（manaba folio）において、「読者」の存在を意識した論述の表現力や作法を身につけることができる。メールやmanaba folio上での質問も受け付けている。</p>		
スケジュール	<p>レポートは前期・後期とも、学事歴で定められた日までに提出する。</p> <p>「基本教材1」「基本教材2」とともに最終稿の締切より一ヶ月前までに初稿を提出すること。</p> <p>manaba folio上の添付で往復をすることで、完成稿へと進んでいくことになる。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題レポートを重視する。教材1(1)については教材の理解度を評価する。(2)については報告書の具体性を評価する。教材2については、主張される内容（理論）の理解度で評価する。課題未提出の場合は評価を行わない。
	観察記録	20%	レポート添削への対応や往復による学修。
履修者への要望	<p>前提として、どのような「教育」「学習」がいま求められているのか、これまではどのようなものが求められてきたのかという教育観・学習観を理解していただきたい。「教育とはこういうものだ」と誰もが漠然と語ることはできるが、その教育実践を生み出した理論や歴史を深く知っておくことで、その議論は“漠然”としたものではなく深まっていく。教材①は「近年の大学教育が対峙した課題」とそれに向き合った大学教員（学び方の変化）を理解することに役立つ構成となっている。そこに登場する学習（教育）方法・技術の工夫やICT機器の活用等について理解を深め、理論等の用語を操ることができるレベルへ向上していただきたい。おそらくご自身の（この）大学院での学びとも共通する課題が見出せると考えている。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 飯尾 淳 教材名： 『オンライン化する大学』（樹村房，2021年） ISBN:978-4-88367-342-1 1,800円+税
	この教材は、タイトルのとおり「大学」について記されたものです。副題に「コロナ禍での教育実践と考察」とありますが、近年に急速に進んだ“学習方法の改革”により大学がどのような影響を受けたのか、またこれからどのように変わっていくのかについて興味深い指摘がたくさん述べられています。生涯学習に限定しての専門書ではないのですが、“学び方の改革”という点では共通します。本講義で構想する「学校教育と生涯学習とをネットワーク的に理解する教育学的な視点」という学びのためには十分に意義があると思います。生涯学習の在り方や学び方、参加の仕方についてもコロナ禍において大きな変化を遂げております。Society 5.0やGIGAスクール構想、デジタルトランスフォーメーション(DX)等の施策、各種スローガンの共通点は「オンライン化」です。現場での対応や変化を分析・評価して、より有効な学習方法が作りあげられていくこととなります。この教材の「構成」自体が、その変化への対応・分析・評価のプロセスを示していると思いますので、より広い学びのために読み進めていただきたいと考えております。
参考図書	勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』（有斐閣ストゥディア，2015年） ISBN:978-4-641-15014-0 1,800円+税 麻生誠・堀薫夫『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会，2002年） ISBN:978-4-59-511360-4
履修上のポイント	レポート課題(1)では、教材の内容をよく読み、コロナ禍において「学び方」（学習方法）がどのように変化したのか、それにより「学び」（学習）の意味をどうとらえるべきなのかという点について考えていただきたい。参考図書にあげたものは生涯学習や教育学の入門書的なものであるが、もちろんコロナ感染より以前のものであるので、比較考察の視点でお読みいただきたい。 レポート課題(2)では、“書いてあること”の実践をみることで再確認と、実践をみることで感じとることのできる課題（解決すべき問題点）を意識してもらうことをねらいとしている。
レポート課題 1	教材を読み、「オンライン化」のポジティブ、ネガティブの両面を整理する。また、生涯学習の理念について考えたうえで、これからの「生涯学習の学びの在り方」について論じなさい。この教材は“大学での対応”が記されているので、それを社会人の学びや生涯学習の学び方についてどのように当てはめることができるのかを考えていただきたい。 <b>留意点</b> ：教材の論述内容をよく読んで、学習者の習得する力と学び方の関係性をどうとらえようとしているのか、著者の主張・示唆を読み取ること。
レポート課題 2	実際の「生涯学習」の場（博物館・美術館・生涯学習センター・市民活動支援センター等）を訪問して、そこでどのようなことが目指され、何を求めて参加者が集まり、どのような学習が行なわれているか等、見てきたことを報告してください。 <b>留意点</b> ：ここでの活動は、“実践の場”を取材することでフィールド調査やインタビュー調査の方法を習得することを目的としています（取材場所は一か所でも複数でもよい、複雑な手続きや許可が必要となるような場は避け、一般的な市民活動の場となる施設等がよい）。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 渡部淳 教材名： 『アクティブ・ラーニングとは何か』（岩波新書，2020年） ISBN:978-4-00-431823-1 800円+税
	新しい学習指導要領（中学校で2021年度より開始）は「学び方改革」として「アクティブ・ラーニング」がその柱となっている。これは「自立的学習者」「自律的市民」の育成を目指すものである。新指導要領の目標は「学びに向かう力」として生涯学び続ける意欲や態度を養うものとされ、生涯学習の観点から学校教育を捉え直したのもいえる。「学び」とは何であるのかを問い直すために、その基本的著作として読んでいただきたい。
参考図書	本田由紀『教育は何を評価してきたのか』（岩波新書，2020年） ISBN:978-4-00-431829-3 840円+税
履修上のポイント	「アクティブ・ラーニング」は現在の「学び方改革」の中心となっている。この改革は1990年代から本格的に推進されてきていて、「総合的な学習の時間」や「言語活動の充実」の導入により始まる。この時代は「生涯学習時代の到来」が宣言される時期とも重なる。さらには欧米のPISA型学力等、国際規模での影響も大きい。時代的変遷や国際的背景を整理することで、読者である私たちは「生涯学習社会」あるいは「知識基盤型社会」を包括的な視点で捉え直すことが可能となると考えている。
レポート課題 1	教材の全体を読み、特に第1～2章（1～68ページ）に記されたアクティブ・ラーニングが必要とされた理由、求められた理由についてまとめなさい。その導入を後押しした時代的変遷や国際的背景を整理することがねらいです。自身の考えや他の文献から学んだ成果を反映させていただいてもけっこうです。 <b>留意点</b> ：課題に則していれば他の参考文献類から学んだものを示してもよい。
レポート課題 2	第3～5章（69～194ページ）には、アクティブ・ラーニングの手法や定着の条件が記されている。この学習方法の導入において、何が難しいとされるのか。それを定着させることで「生涯学習」にどのように寄与することが可能なのか。読者として読み取ったことに自分の考えを加えてまとめなさい。 <b>留意点</b> ：課題に則していれば他の参考文献類から学んだものを示してもよい。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の理解①：「オンライン化」とは何か、「学び」とは何か
第 2 回	教材の理解②：学習者の成長・学び方やインタラクションとの関係性
第 3 回	教材の理解③：学校（大学）教育と社会教育・生涯学習とを関連づける
第 4 回	教材の学修（課題①）：オンライン化する学習社会と「生涯学習」の意義，位置づけ
第 5 回	レポート課題 1 について構想をまとめる，初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1 の推敲，修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 について最終稿をまとめる
第 8 回	教材の解釈と取材活動①：取材計画の構想，取材対象を設定する
第 9 回	教材の解釈と取材活動②：取材対象に対する取材方法・内容を決めて予備調査・資料集めを行う
第 10 回	教材の解釈と取材活動③：取材実施・資料収集・記録，及び分析を行う
第 11 回	取材結果の分析と報告書における表現の工夫を行う
第 12 回	レポート課題 2 について初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 について推敲，修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 について最終稿をまとめる
第 15 回	レポート 1・2 を見直し，生涯学習の理解（理論と実践）を深める

### 基本教材 2

第 1 回	教材の理解①：課題の理解
第 2 回	教材の理解②：「はじめに」「第 1 章」を読み，国際的背景を整理する
第 3 回	教材の理解③：「第 2 章」を読み，時代背景や問題点を整理する
第 4 回	資料データの理解（教材以外のデータも参照してデータの読み取り方，表現方法を学ぶ）
第 5 回	レポート課題 1 について構想をまとめる，初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1 の推敲，修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 について最終稿をまとめる
第 8 回	教材の理解④：「第 3 章」「第 4 章」を読み，技術的問題や指導法を理解する
第 9 回	教材の理解⑤：「第 5 章」を読み，定着のための条件や整備を考える
第 10 回	教材の理解⑥：他の文献，関連する文献の探索と比較考察
第 11 回	草稿作成のために文献の記述，資料・データ評価を行い構造化する
第 12 回	レポート課題 2 について初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 について推敲，修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 について最終稿をまとめる
第 15 回	レポート 1・2 を見直し，生涯学習の理解（理論と実践）を深める

科目名	学校教育学特講	担当者	クロダ ユキ 黒田 友紀	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、学校教育をめぐる現状を把握し、現在の教師や児童生徒に関する問題について、教材や参考資料にもとづいて考察・分析したうえで問題を解決する方策を模索することによって、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>1) 客観的な情報や根拠にもとづいて、論理的、批判的な考察を加えることができる。</p> <p>2) 問題を分析し、現実に即した解決策や代替案を考えることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 学校教育をめぐる現状を把握し、現在の教師や児童生徒に関する問題について根拠を示しながら論理的・批判的な考察と分析を行い、代替案や解決策を模索し提案することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材から正しく情報を理解し、教師と児童生徒の問題について説明することができる。(知識)</li> <li>・教材や参考図書を活用し、批判的に分析を行うことができる。(技能)</li> <li>・計画的に学修に取り組み、常に「自分はどうか考えるか」を意識し、できるだけ他者と意見を交換し、コミュニケーションをとることができる。(態度・習慣)</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】(レポート作成) レポートの課題に取り組むにあたって、基本教材や参考図書を熟読し、課題に関する理解を深めて考察と分析を行うこと。レポート課題1つにつき、完成までに、基本教材および必要文献の学修(20時間)、レポートにまとめる(10時間)、レポートの遂行と最終稿の完成(manaba folioを通じた添削などを含む)(15時間)を目安に、学修を進めること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館やインターネットを利用して、教材以外の論文や資料を検索して自主研究を進め、レポートを作成する。</li> <li>・レポート作成、推敲の過程において、manaba folioの受講生用の掲示板機能に届いた受講生からの質疑について、必要な場合は受講生全体に質疑応答の概要を公開する。</li> <li>・受講生どうしの意見交換やピア・レスポンスなどの協働的な学習を推奨する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1の課題1は6月末、課題2は7月末までに初稿を提出し、いずれも、最終稿は9月の課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>後期：基本教材2の課題1は10月末、課題2は12月初旬までに初稿を提出し、いずれも、1月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>※担当者のコメントにもとづいて、修正した最終原稿を9月・1月の課題提出締切日に提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストを正しく理解し、課題に適切に答え、内容を明確に記述していること。引用・参考文献なども適切に記載すること。
	観察記録	20%	再提出レポートへのコメントを適切に理解し、アドバイスに沿って修正していること。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本教材の理解を深め、課題に適切に答えること。</li> <li>・参考図書や必要な文献を積極的に活用して、考察を深めること。</li> <li>・レポートは、タイトルを付け、章(や節)に適切に分け、明瞭にまとめること。</li> <li>・引用、参考文献については、最後に明記すること。</li> <li>・枚数は、A4用紙4枚以上とする。</li> <li>・質問などがある場合は、そのままにせず、相談すること。</li> </ul> <p>※レポート作成の過程を通して、文章執筆上のスキルアップと、章立てや構成などの方法や思考を学び、修士論文執筆に生かしてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 佐久間亜紀・佐伯胖編著            教材名： 『現代の教師論』（ミネルヴァ書房，2019年）            ISBN:978-4-623-08536-1, 2,000円＋税</p> <p>本教材は、現代の学校教育のなかで教職とはどういう仕事か、教師と学校をめぐる問題をどのように考えるかについて、さまざまなトピックを扱っている。序章および第Ⅰ部では、日本の教師と学校教育の現状がまとめられており、第Ⅱ・Ⅲ部では、学校教育における課題や問題がコンパクトにまとめられている。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工藤勇一『学校の「当たり前」をやめた。一生徒も教師も変わる！公立名門中学校長の改革』（時事通信社，2018年）ISBN:978-4788715943 1,980円＋税</li> <li>・高橋哲『聖職と労働のあいだ 「教員の働き方改革」への法理論』（岩波書店，2022年）ISBN:978-4-00-061538-9 3,200円＋税</li> <li>・数見隆生『子どもの命と向き合う学校防災』（かもがわ出版，2015年）ISBN:978-4780307573 2,200円＋税</li> <li>・豊田豊『「葬式ごっこ」—八年後の証言』（Kindle版 電子書籍）ASIN:B08XMG8QD2 1,408円</li> </ul>
履修上のポイント	<p>『現代の教師論』の全体を読み、現在の日本の教師や学校をめぐる状況を把握し、学校教育における課題を理解すること。そして、教員の働き方改革、多忙化の解消、こどもの命を守ること、いじめに向き合うことのいずれかについて考察を深めてもらいたい。上記の参考図書以外にも、基本教材の章末に図書案内があるので、是非活用してほしい。</p>
レポート課題 1	<p>序章、第3・4章を読み、日本の教師や学校をめぐる問題、特に教師が専門的な能力を生かすうえで障害になっている問題とは何かを説明し、考察を加えること。  <b>留意点：</b>基本教材やその他の資料からの根拠も示したうえで論じること。</p>
レポート課題 2	<p>「働き方改革」（第6章）、「多忙化の解消」（第8章）、「子どものいのちを守ること」（第10章）、「いじめに向き合う」（第11章）のなかから、最も関心のあるものを1つ取り上げて、現代の課題や問題をまとめたうえで、問題解決の方策や意見を述べること。  <b>留意点：</b>根拠となる文章やデータにもとづいて、問題解決の方策や意見を展開すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 三成美保編            教材名： 『教育とLGBTIをつなぐ 学校・大学の現場から考える』（青弓社，2017年）2,200円＋税 ※Kindle（電子書籍）有</p> <p>学校教育でのセクシュアリティの問題について、中学校の取り組み、大学での調査や大学での支援、学校と医療の連携、教員採用試験における適性検査の問題など、各章で事例にもとづいた課題が投げかけられている。5年ほど前の著書ではあるが、日本の状況を知り、これから何が求められるのかを考えてもらいたい。</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はたちさこ、藤井ひろみ、桂木祥子編著『LGBTサポートブック：学校・病院で必ず役立つ』（保育社，2016年）ISBN:978-4586085521 2,200円 ※Kindle（電子書籍）有</li> <li>・眞野 豊              『多様な性の視点でつくる学校教育—セクシュアリティによる差別をなくすための学びへ』（松籟社，2020年）ISBN:978-4879843975 2,850円＋税</li> <li>・ユネスコ（編著）              『国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】—科学的根拠に基づいたアプローチ』（明石出版，2022年）ISBN:978-4750350486 2,860円 ※Kindle（電子書籍）有</li> </ul>
履修上のポイント	<p>学校のなかにはジェンダー化されたルールや慣習がまだまだ存在し、気が付かないまま私たちの「当たり前」を形成していることがある。そうした「当たり前」を捉え直し、子どもから大人まですべての人が幸せに過ごすことのできる学校教育（そしてその先の市民生活）を考え、考察してもらいたい。基本教材2のテキストは2017年に刊行されているため、参考図書や基本教材1の第12章も参考にしながら、ウェブなどで最新のデータや論文などを検索して、学校教育におけるジェンダーやセクシュアリティをめぐる問題や課題を検討してほしい。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材を読み、最も関心を持った章を取り上げてその内容を簡潔にまとめたうえで、セクシュアリティやジェンダーをめぐる現状について考察して自分の意見を加えること。  <b>留意点：</b>自分の経験とも照らし合わせながら、データなどに基づいて根拠のある考察を行うこと。</p>
レポート課題 2	<p>学校教育（幼稚園から大学）における性の多様化とセクシュアリティの問題について関心を持ったものをまとめ、現在の学校において、すべての児童生徒・教職員が快く過ごすために学校・教師ができることを具体的に提案すること。  <b>留意点：</b>根拠となる文書やデータに基づいて、方策や意見を展開すること。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修：レポート課題 1 の該当部分のテキスト内容を把握する
第 3 回	基本教材 1 の学修：レポート課題 1 の該当部分の理解を深めて、内容をまとめる
第 4 回	基本教材 1 の学修：学校や教師に関する問題を挙げ、参考資料や検索した資料を参考に考察を行う
第 5 回	基本教材 1 の学修：レポート課題 2 の該当部分のテキスト内容を理解する
第 6 回	基本教材 1 の学修：レポート課題 2 の該当部分の理解を深めて、内容をまとめる
第 7 回	基本教材 1 の学修：取り上げる課題について、参考資料などを用いて考察を行う
第 8 回	レポートの説得性を増すために根拠となる資料やデータを探し、考察を行う。
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	基本教材 2 の学修：レポート課題 1 の該当部分のテキスト内容を把握する
第 2 回	基本教材 2 の学修：レポート課題 1 の該当部分の理解を深めて、内容をまとめる
第 3 回	基本教材 2 の学修：参考資料や検索した資料を参考に、ジェンダー化されている事柄について考察を行う
第 4 回	基本教材 2 の学修：レポート課題 2 を理解し、基本教材 2 および 1 を読んで内容を把握する
第 5 回	基本教材 2 の学修：レポート課題 2 の理解を深めて、内容をまとめる
第 6 回	基本教材 2 の学修：レポート課題 2 について、学校・教師ができることを具体的に考える
第 7 回	レポートの説得性を増すために根拠となる資料やデータを探し、考察を加える
第 8 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 11 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 14 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証
第 15 回	基本教材 2 の学修：レポート課題 1 の該当部分のテキスト内容を把握する

科目名	教育心理学特講	担当者	トキタ 時田 ガク 学	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>教育心理学の基本的な知識・理論を理解することを試みる。その上で、実際の教育場面の中で、教育心理学的な視点を応用し、具体的に展開するには、どのような方略の可能性があるかについて考える端緒を持つことが可能となることを目的とする。</p> <p>また、心理学と教育学とは異なる視点を持っているため、教育心理学を理解するためには、心理学の基礎的な知識も必要となるため、必要に応じて教育と関連の深い心理学的知識の確認・拡充にも積極的に努めて頂いた上で、ロール・プレイング（役割演技）といった手法についての学修も行い、基本的な技能について理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 教育心理学の知識を確かなものとし、特に教育の中における心理学的な知識と教育技法としてのロール・プレイング（役割演技）の知識を深め応用の可能性を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 教育心理学の分野において基礎的な知識を習得し説明し、実施に結び付けることができる。 ロール・プレイング（役割演技）手法について、その基本的な考え方を理解し、技能を応用するきっかけを作ることができる。 前記した部分を通じて、教育者としての基本的な態度、習慣を関係づけることができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と準備学修時間】 教材・体験を理解した上で、【自主研究 25 時間/レポート毎】、課題 1，2ともそれぞれ1本のレポートを作成していただきたい【20 時間/レポート1本】。作成したレポートについては、担当教員がコメントを付すので、そのコメントを基にレポートの修正を行っていただきます。このやり取りを繰り返し行って、レポートの作成を継続し最終的に提出を行う。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材理解のための、学修体験をレポート作成に生かすことで、ロール・プレイング的考え方を身に付けていただきたい。具体的には、manaba を利用した現在までの体験の振り返りに加え、可能な限り直接指導を行いロール・プレイング体験に触れた上でレポート作成に望むこととする。</p>		
スケジュール	<p>前期：教育心理学の基礎的理解 課題 1，2 はどちらから始めてもよい。どちらの課題も早めに第一稿を作成し（6 月～8 月中を目標）、体験・担当教員のコメントを参考に調整し最終稿を作成、最終提出期限は学事暦の期限までとする。</p> <p>後期：実践と教育心理学 課題 1 から初めて当該分野の理解を図る。その後、より実践的な課題 2 に取り組む。両課題とも早めに第一稿を作成し（課題 1 は 11 月中、課題 2 は 12 月中を目標）、体験並びに担当教員のコメントを参考に、調整して、最終稿を作成、最終提出期限は学事暦の期限までとする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>①課題に対応した内容となっているか ②取り上げた理論などが適切に理解されて、自分の言葉で表現しているか ③適切な具体例が示されており、根拠となる事実が明確であり、客観的な検討がなされているか ④参考・引用文献が適切に表記されているか ○前期レポート1，2・後期レポート1は最終稿・後期レポート2は初校で評価を行う</p>
	観察記録	20%	<p>①コメントを理解しているか ②理解したコメントに適切に対応しているか</p>
履修者への要望	<p>教育心理学の枠組みを捉えて、その中で、実際の教育の中で問題となっていることについて、考察できるようになることを望みます。</p> <p>また、我が国の教育ではあまり体験することの少ない手法（ロール・プレイング・役割演技）についての理解も、理論を学び、その実践について考えられるようになることを目指します。</p> <p>課題レポート体裁・ロール・プレイング体験等の詳細は、履修確定後に示すこととなりますので、よく理解して、進めるようにしていただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊藤裕司 教材名： 「ベーシック現代心理学 教育心理学（第3版）」（有斐閣，2015年） 本体2,100円＋税 ISBN:978-4-64-107245-9
	教育心理学の基本的な知識を概括した入門書である。教育心理学の課題・立場・研究法に触れた後に、発達・適応・学級集団・学習などの基本的理論と授業法，教育評価などについて，実際的な活用を概観している。
参考図書	大村彰道（編）「教育心理学1-発達と学習指導の心理学」（東京大学出版会，1996年） 本体2,500円＋税 ISBN:978-4-13-052072-0 下山晴彦（編）「教育心理学2-発達と臨床援助の心理学」（東京大学出版会，1998年） 本体2,900円＋税 ISBN:978-4-13-052074-4 森敏昭・秋田喜代美（編）有斐閣双書「教育心理学キーワード」（有斐閣，2006年） 本体1,900円＋税 ISBN:978-4-64-105885-9
履修上のポイント	教材は，教育心理学について基本的な課題を扱ったものである。課題に関連する部分だけでなく，全体を通読し，教育心理学全体の理解に繋げていただきたい。さらに，参考図書を活用することを通じて，レポート作成を通じて，文献を調べる，原典に当たるなどの基本的と考えられる，レポート作成方法についても学んでいただきたい。
レポート課題 1	発達における代表的な理論1つ取り上げて，その理論について概説すること <b>留意点：</b> 取り上げた理論が，教育心理学のどの様な領域のことであれば説明可能であるか，などを上げた理論について，概括すること。また，教材文書の直接引用は避け，取り上げた教材の基になっている文献に可能な限りあたり，レポート作成に当たっていただきたい。
レポート課題 2	レポート課題1で取り上げた理論を基に具体的な教育場面を取り上げて，理論を基に説明せよ。 <b>留意点：</b> 初等中等教育の中で展開される教育実践に視点を当て，具体的な教育実践のなかで，教育心理学として，理論をもとに，説明を組み立てていただきたい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 千葉ロール・プレイング研究会（著），外林 大作（監修） 教材名： 教育の現場におけるロール・プレイングの手引（誠信書房，1999年） 本体2,700円 ISBN:978-4-41-440135-6
	学習を進める上で，大切であると考えられる役割関係について，具体的な資料を示しながら，理論的背景を丁寧に解説し，具体的な実践方法もある程度網羅してきである。事例研究では，少し年代的には古いがある程度、現場での取り組みについて，具体的例を挙げて実践につながるようになっている。教科書がにゅうしゅ負荷の場合は，担当講師が配布する。
参考図書	履修決定後指示致します。
履修上のポイント	ロール・プレイングは役割演技法と表記され，学習指導要領にも記載されている手法であるが，その効果的実践の効果を高めるためには，教育心理学的な基礎的知識を得ることが必要であると推察される。教材は，基本的な部分は網羅されていると考えられるので，参考図書と合わせて熟読していただきたい。また，具体的実践も必須となるので，履修決定後必要に応じて指示致します。
レポート課題 1	学校教育場面の中で，ロール・プレイング（役割演技）を展開するとき，教育心理学的な視点を加味する必要があると考えられるが，その中で重要と考えられる点について論ぜよ。 <b>留意点：</b> 教育ロール・プレイングを行う場合，心理学的な視点を持って臨むことは重要であると考えられている。本レポートではその点を踏まえ，教育心理学という観点から検討する。
レポート課題 2	学校教育の中で人間関係を考える。①教師と生徒の関係 ②生徒と生徒の関係 のどちらかを選択し，それらの関係の中でロール・プレイングを行うためには，どのように進めればよいか，理論的側面（含教育心理学）と，具体的側面の両面から論じること <b>留意点：</b> 教育実践の場における人間関係について，ロール・プレイングを基に教育心理学の理論を用いて検討することを通じて，理論と実践についての関係を考えることが可能となるようになることが目標である。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題（教育心理学）の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（教育心理学の基本的課題）の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修：教育心理学の基本的考え方①
第 4 回	基本教材 2 の学修：教育心理学の基本的考え方②
第 5 回	基本教材 2 の学修：教育心理学の基本的考え方③
第 6 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を用いた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題（教育心理学の具体的方法）の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（ロール・プレイング）の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修：
第 4 回	基本教材 2 の学修：
第 5 回	基本教材 2 の学修：
第 6 回	基本教材 2 の学修：
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 11 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を用いた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	教育臨床学特講	担当者	イノウエ マサヒコ 井上 雅彦	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講義では子どもや若者を取りまく様々な心理的・行動的な問題について、認知療法，認知行動療法，行動分析学の理論と手法を体験的に学び修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> 認知療法，認知行動療法，行動分析学の理論と手法を理解する 日常的問題を分析し，教育に生かす力を身につける		
	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> i 学校教育場面における子どもの心と行動の問題を理解する (知識・解釈) ii 認知療法・認知行動療法・行動分析の技法を説明する (知識・解釈) iii 日常場面の行動を機能分析する (技能・コントロール) iv 日常場面で生じる問題について解決方法を立案する (技能・コントロール) v 日常場面で生じる問題について行動実験を実施する (技能・コントロール)		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> ① 前期・後期とも前半部分は学校教育場面における子どもの心と行動の問題についてネット上の統計データや資料を基に考察する。 ② 後半部分は認知・行動理論に基づいた分析方法について学習しレポート課題に基づいて指導を受ける中で臨床心理学の研究方法を学習する。 ③ リポート課題に沿った資料・事例及びデータを収集し分析する。(20 時間) ④ リポートの草案を作成する。(20 時間) ⑤ manaba folio での掲示板機能を利用し教員と受講生とのディスカッションによりリポートの最終版を完成させる。(5 時間) <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】(自主研究・リポート作成)</p> manaba folio での掲示板機能を利用し教員と受講生とのディスカッションによりリポートの最終版を完成させる。		
スケジュール	①前期 (基本教材1 リポート課題1、2)に関しては最低でも8月31日までは第1回目のレポートを提出すること、学事歴で定められた日までにコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること ②後期 (基本教材2 リポート課題1、2)に関しては最低でも12月末日までは第1回目のレポートを提出すること、学事歴で定められた日まではコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること。ただし、やり取りは複数回となる可能性もあるため、コメントに十分に対応するためには前後期とも第1回目の提出は締め切りより早いほうが望ましい。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	形式が適切か、問題点が論理的かつ認知・行動理論の用語に基づいて説明・整理されているか、参考図書・他の論文などを適切に引用して考察されているかという観点から評価する。
	観察記録	30%	活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。レポートの提出期限を厳守したか。受講生同士及び教員の指摘事項を真摯に検討したか。明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。
履修者への要望	実施したワークをレポートとともにPDFもしくはワードファイルにて添付してください		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： (1)竹田伸也『認知療法トレーニング・ブック』遠見書房 2012年 1,050円            教材名： (2)竹田伸也『認知療法トレーニングブック セラピストマニュアル』遠見書房 2012年 1,890円</p> <p>認知療法は対象者の認知や行動に焦点をあて、それらの変容を通して問題解決を図る心理療法であり、うつ、不安障害、ストレス関連障害などの効果が示されてきています。また、予防的アプローチとしても教育や労働領域にも応用が期待されています。(1)が認知療法のワークブック、(2)が理論的解説書となっていますので両方を購入してください。</p>
参考図書	<p>坂上貴之・井上雅彦 『行動分析学—行動の科学的理解をめざして—』有斐閣 2018年 2100円            厚生労働省うつ病の認知療法・認知行動療法（患者さんのための資料）  <a href="https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf">https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf</a>            厚生労働省うつ病の認知療法・認知行動療法治療者用マニュアル  <a href="https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf">https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf</a></p>
履修上のポイント	<p>講義の前半はシラバスに記したインターネット上の資料を用いて学校教育の中で生じている子どもの心と行動の問題とその対応・施策について学習し、その課題について考察します。後半は教材を中心に心理療法を理解し体験的に取り組みながら学習することを目標にしています。教材は二冊とも読んで頂き、トレーニングワークを実際にやってみることで認知療法・認知行動療法の理解を深めることができます。参考図書は「行動分析学」は、認知行動療法の原理を学ぶことができるものです。</p>
レポート課題 1	<p>シラバスの「学校教育における児童生徒をとりまく課題1～3」に示された資料を基に、「不登校の実態と対応」について以下の3つの構成でレポートを作成してください。①実態についての整理・説明、②その中で課題として重要な点を取り上げ、説明する、③自分なりの解決方法について考察する。</p>
レポート課題 2	<p>教材を参考に「見つけ直し日記」と「行動実験ワークシート」をやってみて、うまくいった点、いかなかった点についてその理由を考察してください。  <b>留意点：</b>理由についての考察は、教材(2)の認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。見つけ直し日記とワークシートはレポートに添付することを原則とします。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： (1)ポール・スタラード著/下山晴彦訳            教材名： 「子どもと若者の認知行動療法ハンドブック」金剛出版 2022年 3,520円            以下の2冊のどちらか。            (2) ポール・スタラード著/下山晴彦訳            「子どものための認知行動療法ワークブッカー上手に考え、気分はスッキリ」            金剛出版 2020年 3,080円            (3) ポール・スタラード著/下山晴彦訳            「若者のための認知行動療法ワークブッカー考え上手で、いい気分」            金剛出版 2020年 3,080円</p> <p>認知行動療法は、多くの精神障害について科学的にその治療効果が実証されたものであり、我が国でもその普及が望まれています。(1)、(2)はともに認知行動療法を子どもや若者に適用するためのテキストとなっています。このワークを体験していきます。</p>
参考図書	<p>ユーナス・ランメロ他著/松見淳子監訳『臨床行動分析のABC』日本評論社 3,465円            認知行動療法の基礎になる行動分析の理論を基礎から解説し、臨床にどう生かされているかを解説した本です。実践に興味を持ちこれからさらに臨床心理学を深く学んでいく方のためのテキストです。</p>
履修上のポイント	<p>教材で学んだことを発展させ、認知行動療法の理論を学び、ワークを体験しながら進めていきます。特に教材(2)または(3)のワークブック)により、こころと行動の問題とその解決について学習し、考察することを目的としています。</p>
レポート課題 1	<p>シラバスの「学校教育における児童生徒をとりまく課題4～8」に示された資料を基に、いじめ、暴力行為、ネット依存のどれか一つについて選択し、以下の3つの構成でレポートを作成してください。①実態についての整理・説明、②その中で課題として重要な点を取り上げ、説明する、③自分なりの解決方法について考察する。</p>
レポート課題 2	<p>教材(2)または(3)のワークブックにあるワークのいくつかを自ら実施してみて、それに関してうまくいった点、いかなかった点についてその理由を考察してください。2つ以上の複数のワークを行うようにしてください。  <b>留意点：</b>理由についての考察は、認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。ワークに使用したシートはレポートに添付することを原則とします。</p>

基本教材 1

第 1 回	<p>学校教育における児童生徒をとりまく課題 1 概論</p> <p>資料 1 : 令和 4 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について  <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm</a>                      をもとに学校教育の中での子どもを取り巻く実態について理解する。</p>
第 2 回	<p>学校教育における児童生徒をとりまく課題 2 不登校の実態と教育的対応 (1)</p> <p>資料 2 : 不登校傾向にある子どもの実態調査  <a href="https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/information/2018/20181212-6917.html">https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/information/2018/20181212-6917.html</a>                      を資料 1 の不登校の実態調査と比較し、不登校の実態と対応について考察する</p>
第 3 回	<p>学校教育における児童生徒をとりまく課題 3 不登校の実態と教育的対応 (2)</p> <p>資料 3 : 不登校児童生徒への支援に関する最終報告  <a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/houkoku/1374848.htm">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/houkoku/1374848.htm</a>                      資料 4 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策 (COCOLO プラン) について  <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1397802_00005.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1397802_00005.htm</a>                      をもとに最近の不登校への教育的対応について理解し、その課題について考える</p>
第 4 回	<p>子どもの心の病とその治療 1 概論</p> <p>資料 4 : 厚生労働省 こころの病気について知る  <a href="https://www.mhlw.go.jp/kokoro/parent/mental/know/index.html">https://www.mhlw.go.jp/kokoro/parent/mental/know/index.html</a>                      を参照し、うつ、不安障害、統合失調症、薬物乱用、摂食障害について理解する</p>
第 5 回	<p>子どもの心の病とその治療 2 うつ病</p> <p>資料 5 : 奥山 こどものうつ病  <a href="https://www.ncchd.go.jp/kokoro/medical/pdf/03_h20-22guide_11.pdf">https://www.ncchd.go.jp/kokoro/medical/pdf/03_h20-22guide_11.pdf</a>                      を参照し早期発見と治療のガイドラインについて理解する</p>
第 6 回	<p>うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ 1</p> <p>資料 6 : 厚生労働省 うつ病の認知療法・認知行動療法 (患者さんのための資料)  <a href="https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf">https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf</a>                      資料 7 : 厚生労働省 うつ病の認知療法・認知行動療法治療者用マニュアル  <a href="https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf">https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf</a>                      を参照しコラム法の概要について理解する</p>
第 7 回	<p>うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ 2</p> <p>教材 (1) 竹田伸也『認知療法トレーニング・ブック』遠見書房を精読し、認知療法の実践手順について理解する</p>
第 8 回	<p>うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ 3</p> <p>教材 (2) 竹田伸也『認知療法トレーニングブック セラピストマニュアル』遠見書房を精読し技法について理解する</p>
第 9 回	<p>レポート課題 1 : 初稿の作成</p>
第 10 回	<p>レポート課題 1 : 添削指導に対する修正稿の作成</p>
第 11 回	<p>レポート課題 1 : 最終稿の作成</p>
第 12 回	<p>レポート課題 2 : 初稿の作成</p>
第 13 回	<p>レポート課題 2 : 添削指導に対する修正稿の作成</p>
第 14 回	<p>レポート課題 2 : 最終稿の作成</p>
第 15 回	<p>レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証</p>

基本教材 2

第 1 回	<p>学校教育における児童生徒をとりまく課題 4 いじめに対する教育的対応</p> <p>資料 8：いじめの重大事態の調査に関するガイドライン  <a href="https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/26/1400030_009.pdf">https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/26/1400030_009.pdf</a>                      をもとにいじめに対する教育的対応について理解し、その課題について考える</p>
第 2 回	<p>学校教育における児童生徒をとりまく課題 5 暴力行為に対する教育的対応</p> <p>資料 9：国立教育政策研究所  <a href="https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/lsyu-kaitei/lsyu-kaitei090330/lsyu-kaitei.6bouryoku.pdf">https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/lsyu-kaitei/lsyu-kaitei090330/lsyu-kaitei.6bouryoku.pdf</a>                      をもとに資料 1 の実態と比較し、暴力行為の実態と対応について考察する</p>
第 3 回	<p>学校教育における児童生徒をとりまく課題 6 インターネット・ゲーム依存への対応(1)</p> <p>資料 10：情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書  <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408175.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408175.htm</a>                      の指導書を精読し、ネット依存の実態と対応について理解する</p>
第 4 回	<p>学校教育における児童生徒をとりまく課題 7 インターネット・ゲーム依存への対応(2)</p> <p>資料 11：情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書  <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408175.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408175.htm</a>                      の動画教材を視聴し、ネット依存の実態と対応について理解する</p>
第 5 回	<p>学校教育における児童生徒をとりまく課題 8 インターネット・ゲーム依存への対応(3)</p> <p>資料 12：令和 4 年度青少年のインターネット利用環境実態調査  <a href="https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/ce23136f-8091-4491-9f29-01fc8a98cf83/18a29c16/20230401_councils_internet-kaigi_ce23136f_10.pdf">https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/ce23136f-8091-4491-9f29-01fc8a98cf83/18a29c16/20230401_councils_internet-kaigi_ce23136f_10.pdf</a>                      を精読し、資料 6 の動画教材と合わせて小 4 以下の低年齢の対応について考察する</p>
第 6 回	<p>不安とうつへの認知行動療法の統一プロトコル</p> <p>資料 13：<a href="https://www.ncnp.go.jp/cbt/research/archives/5">https://www.ncnp.go.jp/cbt/research/archives/5</a>                      を参照し、認知行動療法の基本を理解する</p>
第 7 回	<p>不安障害の診断と治療</p> <p>資料 14：傳田健三  <a href="https://journal.jspn.or.jp/jspn/openpdf/1090040389.pdf">https://journal.jspn.or.jp/jspn/openpdf/1090040389.pdf</a>                      を精読し不安障害とその治療について理解する</p>
第 8 回	<p>子どもの不安障害：認知行動療法の実践と成果</p> <p>資料 15：石川信一  <a href="http://www.jahbs.info/journal/pdf/vol27/vol27_3_2.pdf">http://www.jahbs.info/journal/pdf/vol27/vol27_3_2.pdf</a>                      を精読し子どもの不安障害の認知行動療法による治療について理解する</p>
第 9 回	<p>レポート課題 1：初稿の作成</p>
第 10 回	<p>レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成</p>
第 11 回	<p>レポート課題 1：最終稿の作成</p>
第 12 回	<p>レポート課題 2：初稿の作成</p>
第 13 回	<p>レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成</p>
第 14 回	<p>レポート課題 2：最終稿の作成</p>
第 15 回	<p>レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証</p>

科目名	生徒指導論特講	担当者	シバヤマ ヒデキ 柴山 英樹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目では、学校教育における生徒指導（生活指導）や教育実践（教育方法）のあり方について、歴史的・社会的背景を踏まえながら、探究していく。その学修を通じて、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>①経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>②仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。</p> <p>③創造力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>今日の生徒指導や教育実践における課題を把握できるようになるために、歴史的・社会的背景を理解し、論理的・批判的思考力を身に付けながら、今後の生活指導や教育方法のあり方を創造することができる。</p> <p>【行動目標（SB0s）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導や教育方法の歴史的・社会的背景を理解することができる（知識・解釈）。</li> <li>課題に関する参考図書や文献資料を収集しながら、批判的に分析ができる（技能）。</li> <li>自ら問いを立てながら考察し、自分の考えを論理的に説明することができる（知識・問題解決）。</li> <li>実践者として、これからの生活指導や教育実践のあり方を示すことができる（態度）。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>まず、基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。次に、関連する図書や文献を読み、課題に関する理解を深めてほしい。とくに、基本教材1で論じられている生活指導の立場と生徒指導の立場の特徴や違いを踏まえて検討してほしい。基本教材2は、戦後の教育実践のなかから自分の興味・関心のあるテーマや実践家を選び、それに関連する理論家・実践家に関する文献を参照しながら深く追究してほしい。</p> <p>なお、具体的なレポートに取り組む際の注意点については、全受講生用の掲示板に掲示する。</p> <p>1つのレポートにあたり、基本教材および参考文献の学修に20時間以上、学術論文の分析・考察に10時間以上、レポートの推敲と最終稿の完成（教員の添削指導を含む）に15時間以上を目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講生用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1のレポート課題は、9月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>基本教材2のレポート課題は、1月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>なお、課題提出前に草稿を提出し、担当者のコメントに基づき、修正しながら最終稿を作成する。</p> <p>基本教材1の課題1は6月末、課題2は8月末に初稿を提出すること。</p> <p>基本教材2の課題1は10月末、課題2は12月末に初稿を提出すること。</p> <p>なお、具体的な日程等については、全受講生用の掲示板に掲示する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、着眼点、論旨の明確さ、テーマ設定、文章表現の妥当性、適切な引用など。 形式面・内容面で不備がないこと。
	観察記録	20%	レポートの添削やアドバイスへの対応など。
履修者への要望	<p>課題について理解を深めて、適切に論述すること。そのためにも、積極的に参考図書や関連する事項について文献調査を行い、基本教材の立場や特徴を踏まえつつ、考察を深めること。レポートは、章立てをして、正確に引用しながら、最後に参考文献も明記すること。枚数は最低でも4枚以上。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志            教材名： 『新しい時代の生活指導』（有斐閣、2014年）            ISBN:978-4-641-22034-8 1,800円＋税</p> <p>本教材は、子どもの生活現実から出発し、子どもの自主性を重んじ、子どもの社会的な自立を支援する営みとされる生活指導について論じたものである。また、子どもを理解するとはどういうことであるのか、子どもたちをいじめや暴力行為へと駆り立てる生活現実の問題についても踏み込み、生活指導のあり方を模索している。</p>
参考図書	<p>折出健二編『生活指導—生き方についての生徒指導・進路指導とともに改訂版』（学文社、2014年） ISBN:978-4-7620-2469-6 1,900円＋税            全生研常任委員会企画 竹内常一・折出健二編『生活指導とは何か』（高文研、2015年） ISBN:978-487498-576-2 2,300円＋税</p>
履修上のポイント	<p>本書を理解するには、生活指導の理念と歴史を理解しつつ、これからの生活指導のあり方を検討していく必要がある。とくに、「生活指導」と「生徒指導」は明確に異なる概念であり、これらの違いを踏まえて考察する必要がある。本課題が「生活指導」について論じるものであることに留意すること。なお、参考図書『生活指導—生き方についての生徒指導・進路指導とともに改訂版』や『生活指導とは何か』は、生活指導に関する入門的な手引き書であり、関連する文献紹介も参考になる。</p>
レポート課題 1	<p>第Ⅰ部を読み、テキストで述べられている生活指導の原理や歴史を整理しつつ、これからの生徒指導の課題について述べなさい。  <b>留意点：</b>「生徒指導」論の問題点や課題を踏まえて考察すること。</p>
レポート課題 2	<p>第Ⅱ部を読み、子どもたちの生活現実をどのように捉えるかを整理しつつ、本書で紹介されている「生活指導実践」の事例を取り上げ、指導のあり方に関する自分の意見を述べなさい。  <b>留意点：</b>本書における「子ども理解」「生きづらさ」「いじめ」「暴力」「特別なニーズ」に関する捉え方の特徴について論じること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 田中耕治編            教材名： 『時代を拓いた教師たち：戦後教育実践からのメッセージ』（日本標準、2005年） ISBN:978-4-8208-0256-3 1,800円＋税</p> <p>著者名： 田中耕治編            教材名： 『時代を拓いた教師たちⅡ：実践を教育から問い直す』（日本標準、2009年） ISBN:978-4-8208-0422-2 1,800円＋税</p> <p>戦後の教育実践において教師たちが行った指導の特長をわかりやすくまとめたものである。『時代を拓いた教師たち』では、時代背景を踏まえながら、戦後の教育実践の大きな流れを整理しつつ、時代の流れに沿って15の実践について紹介されている。『時代を拓いた教師たちⅡ』は続編であるが、4つのカテゴリーに分類して、前作とは異なる教育実践が紹介されている。</p>
参考図書	<p>田中耕治編『戦後日本教育方法論史（上）：カリキュラムと授業をめぐる理論的系譜』（ミネルヴァ書房、2017年） ISBN:9784623078585 3,500円＋税            早稲田大学教師教育研究所監修、「戦後教育実践セミナー」編集委員会編『戦後の教育実践、開拓者たちの声を聴く』（学文社、2013年） ISBN：9784762029080 2,400円＋税</p>
履修上のポイント	<p>本書を理解するには、序章を読み、戦後の「教育実践」の流れを把握しておく必要がある。また、各章各節の実践家の取り組みを理解するには、各節のブックガイドを参照したり、Cinii等で関連する論文を検索してほしい。なお、基本教材と同じ編者が、教育方法学の理論的な系譜を軸に、時代ごとの理論や実践、論争の特徴や課題について検討したものとして、『戦後日本教育方法論史』がある。また、戦後の教育実践に関わる証言なども踏まえながら検討したものとして、『戦後の教育実践、開拓者たちの声を聴く』がある。</p>
レポート課題 1	<p>『時代を拓いた教師たち』を読み、自分が興味・関心のある節を1つ選び（15の実践のなかから1つの実践を選ぶ）、ブックガイドやCinii等で関連する論文を検索し、その内容を踏まえながら自分の意見を述べなさい。  <b>留意点：</b>基本教材は要点が整理されたものであるため、基本教材を参照しつつも、自分自身で関連する図書や文献を読み、自分なりに問いを立てながら考察すること</p>
レポート課題 2	<p>『時代を拓いた教師たち』あるいは『時代を拓いた教師たちⅡ』から、自分が興味・関心のある節を1つ選び、ブックガイドやCinii等で関連する論文を検索し、その内容を踏まえながら自分の意見を述べなさい。  <b>留意点：</b>「課題1」とは異なる節を『時代を拓いた教師たち』あるいは『時代を拓いた教師たちⅡ』から選ぶようにしていただきます。どちらの教材から選んでも構いません。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修：第 1 章および第 2 章
第 3 回	基本教材 1 の学修：第 3 章および第 4 章
第 4 回	基本教材 1 の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第 5 回	基本教材 1 の学修：「生徒指導」に関する課題の検討
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材 1 の学修：第 5 章および第 6 章
第 10 回	基本教材 1 の学修：第 7 章および第 8 章
第 11 回	基本教材 1 の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第 12 回	基本教材 1 の学修：生活指導実践の事例の検討
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 2 の学修：『時代を拓いた教師たち』序章
第 3 回	基本教材 2 の学修：目次を参照した学修内容の把握
第 4 回	基本教材 2 の学修：各章の概要の理解
第 5 回	基本教材 2 の学修：興味・関心のある章の選定
第 6 回	基本教材 2 の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第 7 回	基本教材 2 の学修：入手した文献の検討と考察
第 8 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 11 回	基本教材 2 の学修：関連する文献の検索とその内容の学修
第 12 回	基本教材 2 の学修：入手した文献の検討と考察
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

科目名	教育評価論特講	担当者	フジタ 藤田 シュイチ 主 一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	<p>教育は、子どもたちがもっているさまざまな可能性を伸ばすために、教師がはたらきかける援助活動である。教育測定が個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきたのに対し、教育評価は教育を受ける子どもたちを全人的な立場でとらえるため、その対象はきわめて広範囲にわたる。この科目は、教育評価の意義と歴史、現状を学ぶとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 教育評価にはさまざまな観点が含まれている。教育評価の意義を学び、教育実践のあり方、児童生徒の理解と方法、具体的な技法などについての知識を増やし、今日の学校教育に携わる者として児童生徒を正しく理解し導いていく基本的能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①教育評価の意義、歴史、今日的課題、目標・評価について説明できる。 ②診断的評価、形成的評価、総括的評価について説明できる。 ③心理検査の目的、役割、妥当性、信頼性について説明できる。 ④具体的な心理検査の実施方法、処理、解釈について分析・評価できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>①基本教材および参考図書等を熟読する。 ②レポート課題の内容を分析する。 ③レポートを作成する。</p> <p>なお、レポート課題1本につき、教材の学修 (20 時間)、レポートの執筆 (10 時間)、レポートの推敲と最終稿の完成および担当教員との添削指導 (15 時間)、完成までに必要な時間は 45 時間を目安にしてください。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>①基本教材 1 および 2 を熟読するが、基本教材では理解できない項目や専門用語の知識、さらに知識を増やしたい心理検査の具体例については図書館等で参考図書を閲覧する。 ②インターネットの文献検索システムを利用して、関係する著書・論文等を確認する。 ③manaba folio の機能を利用して、担当教員と受講生との間でディスカッションおよびレポート添削を行う。</p>		
スケジュール	<p>基本教材 1 のレポート課題 (1) (2) の提出は春学期 (前期) の学事歴で定められた期限まで、基本教材 2 のレポート課題 (1) (2) の提出は秋学期 (後期) の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出してください。初稿は遅くともその 1 カ月前までには提出し、内容等が十分でない場合にはコメントの中で指摘しますので、期限までに加筆修正した最終稿を再提出するようにしてください。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	100%	レポート課題 (1) (2) のそれぞれを 100 点満点で点数化し、その平均をもって最終評価とする。もちろん、提出されなかったレポート課題は 0 点となる。
	観察記録	%	
履修者への要望	<p>参考図書は、書店または図書館で購入・閲覧できるものを取り上げた。基本教材は読みやすい文章になっているが、さらに読書したい場合や、専門用語などが不明の場合には、参考図書を併読することを薦める。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 梶田勲一            教材名：『教育評価』（第2版補訂2版）（有斐閣双書，2010年）ISBN:978-4-64-111277-3 2,200円+税</p> <p>本書は、教育評価について学ぼうとする人のためにまとめられた基本的専門書であり、以下の各章から構成されている。序章「教育評価の意義」、第1章「教育評価の歩みと今日的課題」、第2章「教育活動と目標・評価」、第3章「形成的な評価」、第4章「到達基準に準拠した測定・評価」、第5章「教育目標の分類体系（タキノソノミー）とその教育的活用」、第6章「学校による評価の実際」、第7章「評価の心理的影響」、第8章「授業・教師・学校の評価」、終章「わが国における教育評価の展開」。</p>
参考図書	<p>田中耕治（編）『よくわかる教育評価』（第2版）（ミネルヴァ書房，2010年）            ISBN:978-4-62-305914-0 2,600円+税</p> <p>梶田勲一・加藤明（監修）『改訂 実践教育評価事典』（文溪堂，2010年）            ISBN:978-4-89-423701-8 2,400円+税</p> <p>梶田勲一『教育評価入門—学びと育ちの確かめのために—』（協同出版，2007年）            ISBN:978-4-31-900655-7 2,000円+税</p> <p>森敏昭・秋田喜代美（編集）『教育評価—重要用語300の基礎知識』（明治図書，2000年）            ISBN:978-4-18-212317-7 2,660円+税</p> <p>東洋・梅本堯夫・芝祐順・梶田勲一（編集）『現代教育評価事典』（金子書房，1988年）            ISBN:978-4-76-082256-0 20,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>教育評価という仕事は、期待される教育目標に対して子どもたちがいかにそれを達成したかを知るとともに、よりよい教育実践の役割と子どもたちの成長発達に貢献しようとするものである。教育測定は、個人の学力や技能などを客観的、数量的にとらえることをめざしてきた。これに対して、教育評価は教育を受ける人間全体を問題にする。この科目を履修しようとする人は、教育評価の歴史を学び、そしてぜひ全人的な視点で子どもたちを見つめてください。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材1の序章～第4章までを熟読し、各章の内容を800～1,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。</p> <p><b>留意点：</b>要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげるのではなく、各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材1の第5章～終章までを熟読し、各章の内容を800～1,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。</p> <p><b>留意点：</b>要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげるのではない。各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 花沢成一・佐藤誠・大村政男            教材名：心理検査の理論と実際（第IV版）（駿河台出版社，1999年）ISBN：978-4411003218 2,800円+税</p> <p>概説書であり、二部（「理論編」「解説編」）から構成されている。第一部の「理論編」は、Ⅰ「心理検査の定義と機能」、Ⅱ「心理検査の発達史」、Ⅲ「心理検査の使用と作成の問題」、Ⅳ「心理検査の採点の問題」、Ⅴ「心理検査の信頼性と妥当性」。第二部の「解説編」は、Ⅰ「集団式知能検査」、Ⅱ「個別式知能検査」、Ⅲ「精神発達検査」、Ⅳ「特殊性能検査」、Ⅴ「興味・態度検査」、Ⅵ「質問紙法性格検査」、Ⅶ「作業検査法性格検査」、Ⅷ「投影法性格検査」、Ⅸ「学力検査」。</p>
参考図書	<p>上里一郎（監修）『心理アセスメントハンドブック』（第2版）（西村書店，2001年）            ISBN:978-4-89-013294-2 14,000円+税</p> <p>沼初枝『臨床心理アセスメントの基礎（第2版）』（ナカニシヤ出版，2020年）            ISBN:978-4-77-9514920 2,100円+税</p> <p>松原達哉（編）『臨床心理アセスメント（改訂版）』（丸善出版，2013年）ISBN: 978-4-621-08648-3 2,730円（税込）</p> <p>村上宣寛・村上千恵子（著）『改訂 臨床心理アセスメントハンドブック』（北大路書房，2008年）            ISBN: 978-4762826252 2,700円（税込）</p>
履修上のポイント	<p>最適な評価の技法・用具を選択することは、教育評価のための資料収集にとって大切な仕事である。一般的には、①教師作成テスト、②標準テスト、③観察法、④面接法、⑤作品や表現の利用、⑥事例研究などがあげられる。それらのうちどれを採用するかは、評価の目的や対象との関係で決まる。常に適切な技法・用具を選択することに心がけなければならない。この科目を履修しようとする人は、幅広い視点から子どもたちを見つめる方法を学んでください。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材2の第一部「理論編」のⅠ～Ⅴまでの全章を熟読し、その内容を2,000～3,000字程度に要約しなさい。最後に、全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。</p> <p><b>留意点：</b>要約というのは、本文の一部分を抜粋してつなげるのではなく、各章に何が書いてあるのかを読み取り、自分が理解した内容を文章にすることである。この点に十分気をつけてください。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材2のうち、第二部「解説編」で紹介している、①知能検査、②発達検査、③性格検査、④興味・態度検査、⑤学力検査の中から、4つの検査を任意（自由）に取り上げ、その内容（目的、実施方法、結果の見方、解釈など）を説明・要約しなさい。最後に全体をとおしての考察を800～1,000字程度にまとめなさい。</p> <p><b>留意点：</b>基本教材は必要最低限の内容を説明しているため、各種検査を紹介する部分は基本教材だけでは不十分である。参考図書を利用して調べ、豊かな文章にしてください。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	基本教材 1 の学修の進め方と、本科目（教育評価論）の課題を理解する。
第 2 回	基本教材 1 の「教育評価の意義」、「教育評価の歩みと今日的課題」を学修する。
第 3 回	基本教材 1 の「教育活動と目標・評価」、「形成的な評価」を学修する。
第 4 回	基本教材 1 の「到達基準に準拠した測定・評価」、「教育目標の分類体系（タキソノミー）とその教育的活用」を学修する。
第 5 回	基本教材 1 の「学校による評価の実際」、「評価の心理的影響」を学修する。
第 6 回	基本教材 1 の「授業・教師・学校の評価」、「わが国における教育評価の展開」を学修する。
第 7 回	参考図書の中から適切な書籍を選択して学修する。
第 8 回	参考図書の中から適切な書籍を選択して、課題に沿った学修を深める。
第 9 回	レポート課題 1：初稿を作成する。
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 11 回	レポート課題 1：最終稿を作成する。
第 12 回	レポート課題 2：初稿を作成する。
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 14 回	レポート課題 2：最終稿を作成する。
第 15 回	レポート課題 1・2 をとおし、本科目（教育評価論）の課題に関して全体的な理解と検証を行う。

### 基本教材 2

第 1 回	基本教材 2 の学修の進め方と、本科目（教育評価論）の課題を理解する。
第 2 回	基本教材 2 の理論編の中で、「心理検査の定義と機能」、「心理検査の発達史」を学修する。
第 3 回	基本教材 2 の理論編の中で、「心理検査の使用と作成の問題」、「心理検査の採点の問題」、「心理検査の信頼性と妥当性」を学修する。
第 4 回	基本教材 2 の解説編の中で、「集団式知能検査」、「個別式知能検査」、「精神発達検査」を学修する。
第 5 回	基本教材 2 の解説編の中で、「集団式知能検査」、「個別式知能検査」、「精神発達検査」を学修する。
第 6 回	基本教材 2 の解説編の中で、「特殊性能検査」、「興味・態度検査」、「質問紙法性格検査」を学修する。
第 7 回	基本教材 2 の解説編の中で、「作業検査法性格検査」、「投影法性格検査」、「学力検査」を学修する。
第 8 回	参考図書の中から適切な書籍を選択して、課題に沿った学修を深める。
第 9 回	レポート課題 1：初稿を作成する。
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 11 回	レポート課題 1：最終稿を作成する。
第 12 回	レポート課題 2：初稿を作成する。
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿を作成する。
第 14 回	レポート課題 2：最終稿を作成する。
第 15 回	レポート課題 1・2 をとおし、本科目（教育評価論）の課題に関して全体的な理解と検証を行う。

科目名	健康科学特講	担当者	シャク 釋 フミオ 文雄	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>健康科学について、科学的に検証されたデータを基に、現状で最も新しく、かつ信頼性の知見を得るためには、どのような文献を基に、どのように考えればよいか、という方法論を身に着けることを目的とする。教材、参考図書を提示してあるが、必要な文献は自分自身で検索することも学ぶ。</p> <p>1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 自分自身の身近で具体的な課題を取り上げ、健康の維持・向上に関しては、ヒトの個体としての側面と、集団・社会・公衆衛生的なアプローチの両面からの考察を行い、また生命科学の基礎的な知識を学修し、それを基にした近年の医療・生命科学技術とその応用、及び実際に応用する際の社会倫理的な問題を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 健康科学に関連する課題を取り上げ、その問題点を整理し、最新の知見を基に、その課題に取り組む方向性を見出す方法論を説明することができる (知識・技能)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い (20 時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる (10 時間)。manaba folio をとおしてレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる (15 時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>manaba folio の掲示板を利用して、受講者同士の協働学習を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。</li> <li>図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：教材 1 のレポート課題 (1) の草稿は 7 月末、課題 (2) は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材 2 のレポート課題 (1) の草稿は 11 月中旬、課題 (2) は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和 7 年 1 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適正性、考え方の科学性・妥当性・再診の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性を評価する。
	観察記録	20%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの校正 (目次案など) について、メールなどで連絡相談してください (shaku.fumio@nihon-u.ac.jp)。また、時間調整により、対面でのディスカッションも歓迎いたします。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想がユニーク、オリジナルな題材を歓迎いたします。</p> <p>3) レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映したうえで、自分自身の考察を加えてください。</p> <p>4) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛け、他者に発表する場合を想定し作成してください。</p> <p>5) 教材・参考図書をすべて読み込むよりも、題材に関連した文献は自分で検索し、引用してください。</p> <p>6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載してください。</p> <p>7) 独自の考えを充実させているレポートを期待します。</p> <p>注 1: 後期の課題については、これまで生物学・生命科学を履修していなかった場合は、内容が難しいと思われるため、スクーリングを受講すると同時に、不明の点はメール等で問い合わせてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 山崎喜比古、朝倉隆司 (編)『新・生き方としての健康科学』            著者名： (有信堂高文社、2017年) ISBN:978-4-8420-6589-2 本体 2,900円+税            教材名： (2) 『健康日本 21』(厚生労働省、及び(財)健康・知力づくり事業財団)  <a href="https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/top.html">https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/top.html</a>  <a href="https://www.kenkounippon21.gr.jp/">https://www.kenkounippon21.gr.jp/</a></p> <p>(1) 健康科学に関し、全般的にまとめられたテキスト・基礎的な側面は基本教材 2 課題 1 のテキスト(『現代生命科学』)が参考となる。            (2) 厚生労働省が中心となって進められている、健康の推進を目的とした事業に関する資料。基礎的な側面には触れられていないが、参考文献も盛り込まれており、日本としての健康科学の取り組みを知るうえでは準拠すべき資料となる。</p>
参考図書	竹内康弘・田中豊穂 監修 『テキスト健康科学 改訂第2版』(南江堂、2017年) ISBN: 978-4-524-25885-7 本体 2,600円 + 税
履修上のポイント	本課題においては、健康の維持・向上のための取り組みについて、ヒト個体に対するアプローチと、人間集団に対するアプローチの面から考察する。 取り上げた教材・参考図書は、あくまで一つの参考資料に過ぎず、必要な文献は自分で調べること。特定の疾患を対象とする場合は、各々の診療ガイドラインを参考とすること(ガイドラインに批判的な見解があっても構わない)。
レポート課題 1	まず、「健康とは何か」について、自分なりに定義すること。その際、ヒトとして避けられない加齢・疾患・死への対処も含めて考察すること。そのうえで生活習慣が関連する疾患(高血圧、糖尿病等；がん、肥満を含む)から一つ取り上げ、 <u>ヒト個体の観点からその原因に関して考察し、その対策について述べなさい</u> (例：高血圧に関し、食習慣や運動不足との関連について)。 <b>留意点</b> ：なるべく自分自身の経験を基にすること(家族や周囲の方の事例でも可)。
レポート課題 2	生活習慣が関連する疾患(高血圧、糖尿病等；がん、肥満を含む)から一つ取り上げ、 <u>人間集団の観点からその原因に関して考察し、その対策について述べなさい</u> (例：高血圧に関し、職場・地域社会での取り組みや食文化との関連について) <b>留意点</b> ：なるべく自分自身の経験を基にすること(家族や周囲の方の事例でも可)。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 東京大学生命科学教科書編集委員会編            教材名： 『現代生命科学 第3版』(羊土社、2020年)            ISBN:978-4-7581-2103-3 本体 2,800円+税 s</p> <p>生命科学の基礎的な知識に関し、最新の除法を基に簡潔、かつ網羅的に記述された最良のテキスト。より詳しい内容を希望する場合は、『理系総合のための生命科学(第5版、2020年3月)』でも可</p>
参考図書	<p>(1) 福岡伸一著『生物と無生物のあいだ』(講談社現代新書、2007年)            ISBN:978-4-06-149891-4 本体 880円+税            (2) 厚生労働省『研究に関する指針一覧』  <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html</a>            (3) 経済産業省『個人遺伝情報ガイドラインと生命倫理』  <a href="https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/seimeirinri/index.html">https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/seimeirinri/index.html</a></p>
履修上のポイント	生命を構成する基本的なメカニズムを学修し、近年の医療分野への応用に関する方法論と、倫理的問題について考察を行う。これまで生命科学にあまりなじみのない場合は、スクーリング時の講義を参照すること。
レポート課題 1	新たな医療方法としての、遺伝子診断、遺伝子治療、再生医療、移植医療等のいずれかを取り上げ、対象とする疾患とその診断・治療方針の原理、及び期待される結果を論ずること。最近の生命科学技術の進展に関連する、自分自身の担当業務、または日常生活上での出来事、生命科学を基にしたヒトの死(緩和ケアを含む)に関する事項でも可。
レポート課題 2	課題 1 の診断・治療等を実施する際に生ずる倫理的問題を取り上げ、その技術の限界を踏まえたうえで、本人・家族への説明と同意、及び社会的コンセンサスをどのように得るかを論ずること。または課題 1 で取り上げた題材における、社会的な問題でも可。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（疾患）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修：「健康」の定義について
第 4 回	基本教材 1 の学修：課題として取り上げた題材について（個体レベル）
第 5 回	基本教材 1 の学修：課題として取り上げた題材について（公衆衛生的側面）
第 6 回	関連するガイドラインの検索とその内容の学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	ヒトの意識変容・行動変容に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1, 2：を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；ヒト・生命体の細胞レベルでの学修
第 6 回	基本教材 2 の学修；本課題に関する社会規範、倫理的側面に関する学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する倫理指針、及び社会的な事例の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1, 2：を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	健康科学特講	担当者	ニワ 丹羽 ヒデオ 秀夫	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	人間が生きていく上で、いわゆる五感と言われる視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚（平衡感覚）は非常に重要な働きをしている。これらの一つでも欠落すれば、生活の quality of life は損なわれるのは、自明であり、生命の危機も臨む危険性もある。感覚器は人間の臓器の中で、直接生命に関わる部位ではないが、人間の生命及び社会的生活に重要な役割を担っている。この科目では感覚器が人間の体で、どのように働きまた生活にどのように影響を及ぼすかを科学のおよび社会学的な視点から検討する。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>人間の感覚器を医学、生理学、心理学、社会学の視点から理解して、疾病、予防医学、社会医学はもちろん、社会生活の広い分野で、感覚器の有用性を確認し、活用できるようにする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感覚器について基礎的知識を身につける。</li> <li>2. 感覚器に由来する疾病を理解することができる。</li> <li>3. 感覚器に起因する状態を理解することができる。</li> <li>4. 感覚器から見た社会生活上の利益、不利益の状況を把握できる。</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>医学、生理学、心理学、社会学等の幅広い分野から論文、参考図書をできるかぎり渉猟し、理解を深める (20時間)。学習を通して獲得した合理的意見、批判的意見をレポートとして作成する (25時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書、参考図書を通して、基本的な項目や専門用語の知識を増やす。</li> <li>2. 図書館、インターネットを通しての文献検索システムを利用して、論文を渉猟する。</li> <li>3. 受講者が複数の場合、受講者同士での協働学習を行う (受講者同士の質疑応答、意見交換、レポートのピア・レスポンス等)。</li> </ol>		
スケジュール	<p>前期：教材1レポート課題1の草案を7月末までに作成、課題2の草案は8月末までに作成する。取り上げる題材については草案としてまとめる前にメール等で相談することが求められる。いずれの課題も学事歴で定められた日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2レポート課題1の草案を11月中旬、課題2は12月中旬を目標に提出する。取り上げる題材については草案としてまとめる前にメール等で相談することが求められる。いずれの課題も学事歴で定められた日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、問題提起の着眼点と妥当性、参考文献の適切な応用やレポートの適切な図、表の活用法などを評価する。
	観察記録	20%	メール等のやり取りやレポートの提出状況を通じて、学習に対する態度などを評価する。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リポートを作成する前に、リポートのテーマや構成について、メール等で相談することが望ましいです。</li> <li>● 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。</li> <li>● リポートの構成については、取り上げた題材の簡潔な総説と何か一つ最新の知見を反映した上で、自分自身の考えを加えることが望ましいです。</li> <li>● リポートは簡潔明瞭にまとめることが望ましいです。</li> <li>● 教材、参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索することをこころがけて下さい。</li> <li>● 引用した文献は必ず文末に文献リストを設けて記載して下さい。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 太田信雄 監修 行場次朗 編集 教材名： 『感覚・知覚心理学』（北大路書房、2018年）ISBN:978-4-7-7628-3042-6
	感覚器全体を、基本的な医学生理学から心理学まで幅広くカバーしており、実生活での応用も興味深く記載され、幅広い内容で解説されている。
参考図書	著者名：加我君孝、八木聡明、山下英俊、原晃ら 教材名：『感覚器〔視覚と聴覚〕と社会とのつながり ―見るよろこび・聞くよろこび―』（日本学術協力財団、2011年）ISBN:978-4-9-9049-8924
履修上のポイント	教材全体を一通り読んで、不明な点はメモをとりながら、他の参考図書、文献を参考にしながら理解に努めることが望ましい。
レポート課題 1	感覚器の基礎と臨床を理解することに努める。興味がある章を一つ選択し、A4サイズに1枚に要約してまとめなさい。 <b>留意点</b> ：わかりやすく要約すること
レポート課題 2	レポート課題1で選択下以外の章で、聴覚、味覚、嗅覚に関する章をそれぞれ要約してまとめなさい。参考図書、参考文献も加えて検討することを求めます。 <b>留意点</b> ：わかりやすく要約すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 内川恵二 編集、近江政男 編集 教材名： 『味覚・嗅覚（講座“感覚・知覚の科学”）』（朝倉書店、2008年）ISBN:978-4254106343
	著者名： 内川恵二 編集 教材名： 『聴覚・触覚・前庭感覚（講座“感覚・知覚の科学”）』（朝倉書店、2008年）ISBN:978-4254106336
	味覚、嗅覚、聴覚、前庭感覚に関する基礎的内容から臨床応用までカバーされている。
参考図書	以下の書籍は手に入る場合に限る。 山本 隆著『脳と味覚―おいしく味わう脳のしくみ』（共立出版、1996年） 小野田法彦著『脳とニオイ―嗅覚の神経科学』（共立出版、2000年） 渡辺繁『本当は怖い めまい・耳鳴り』（幻冬舎メディアコンサルティング、2017年）
履修上のポイント	教材全体を一通り読んで、不明な点はメモをとりながら、他の参考図書、文献を参考にしながら理解に努めることと基本教材1で学修した内容を更に深く探究する事が望ましい。
レポート課題 1	味覚、嗅覚に関する基礎的内容から臨床応用を理解した上で、何が問題点であるかを列挙して、現在まで解明されている事と対比した内容のレポートをまとめなさい。 <b>留意点</b> ：簡潔にまとめること
レポート課題 2	聴覚、前庭感覚に関する基礎的内容から臨床応用を理解した上で、何が問題点であるかを列挙して、現在まで解明されている事と対比した内容のレポートをまとめなさい。 <b>留意点</b> ：簡潔にまとめること

## 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 1 の学修：基本教材や参考図書を読み、内容の概要をつかむ
第 3 回	基本教材 1 の学修：基本教材や参考図書の様々な興味ある点を列挙
第 4 回	基本教材 1 の学修：課題 1 を念頭におきつつ教材の読解
第 5 回	基本教材 1 の学修：課題 2 を念頭におきつつ教材の読解
第 6 回	課題 1 のテーマを決定する
第 7 回	レポート課題 1；初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1；添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1；最終稿の作成
第 10 回	課題 2 のテーマを決定
第 11 回	レポート課題 2；初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2；添削指導に対する修正稿の作成
第 13 回	レポート課題 1；最終稿の作成
第 14 回	レポート課題 1, 2 を通して本課題に対する全体的な理解の検証
第 15 回	最終まとめと今後の発展性について意見交換する

## 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材 2 の学修：基本教材や参考図書を読み、内容の概要をつかむ
第 3 回	基本教材 2 の学修：基本教材や参考図書の様々な興味ある点を列挙
第 4 回	基本教材 2 の学修：課題 1 を念頭におきつつ教材の読解
第 5 回	基本教材 2 の学修：課題 2 を念頭におきつつ教材の読解
第 6 回	課題 1 のテーマを決定
第 7 回	レポート課題 1；初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1；添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1；最終稿の作成
第 10 回	課題 2 のテーマを決定
第 11 回	レポート課題 2；初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2；添削指導に対する修正稿の作成
第 13 回	レポート課題 1；最終稿の作成
第 14 回	レポート課題 1, 2 を通して本課題に対する全体的な理解の検証
第 15 回	最終まとめと今後の発展性について意見交換する

科目名	安全学特講	担当者	カワノ 河野 リュウタロウ 龍 太郎	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>安全学とは「安全に関する技術的側面（自然科学）、人間的側面（人文科学）、組織的側面（社会科学）を、安全哲学などの理念的側面のもとで、合法的、合情的（＝人の理解と納得を得ること）に統一・統合化した学問体系のこと」と定義されている（向殿政男氏の定義）。さらに、「安全曼荼羅」という安全問題の構造を映す、共通のフレームワークを定義に加えている。</p> <p>本講座では、主に安全工学を元に、直接的、間接的に安全を脅かすと考えられる原因や、それらもたらす結果について学習し、安全に関する考え方や安全確保の具体的方法を修得することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>社会に存在する、安全を脅かす様々な要因（組織的要因、技術的要因、人的要因など）を理解し、その上で、安全を確保するための知識や手法を理解・取得することを目的とする。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>①すでに公開されている事故事例について、その事故の構造を理解することができる。</p> <p>②事故に含まれる問題となる背後要因を特定し、その背後要因を指摘することができる。</p> <p>③事故を生じさせないため、あるいは巻き込まれないための考え方や手法を提案できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>①指定教科書および参考文献を熟読する。【SBO①】【30時間／1冊】</p> <p>②事故の構造を理解する。【SBO①&amp;②】【30時間／1冊】</p> <p>③前期・後期に与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&amp;③】【45時間／レポート1件】</p> <p>※)参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構いませんので、遠慮なく質問してください。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。</li> <li>・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和6年1月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	安全に関する基本的な考え方を理解できたか。事故の構造について理解できたか。 安全対策、特に、教育訓練の提案ができるか。
	観察記録	25%	安全に関する質問や疑問を解決できたか。安全に関する議論が行うことができるか。
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい（manaba folio や human.f.kawano@gmail.com）。</p> <p>2) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>3) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>4) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 向殿政男・北條理恵子・清水尚憲 教材名： 『安全四学』（日本規格協会 2021年） ISBN:978-4-542-30708-7 2,200円＋税
	本書は、安全を四つの分野に区分し、1 基礎安全学、2 社会安全学、3 経営安全学、4 構築安全学からなる「安全四学」として解説している。 基礎安全学では、安全のどんな分野でも、どんな立場の人でも知ってほしい安全の基本を紹介している。社会安全学では、一般の人々が知ってほしい社会を安全にしている様々な仕組みや制度などを紹介している。経営安全学では、企業や組織を経営する立場にある人が、役割上知ってほしい経営における安全の位置付けや社会貢献の重要性などを組織的な観点から紹介している。そして、構築安全学では実際に安全を設計し、管理・運営する人のために安全技術を中心として紹介している。
参考図書	村上陽一郎著 『安全学』（青土社、1998年） ISBN:978-4-79-175679-7 1,800円＋税 勝俣良介著『世界一わかりやすい リスクマネジメント集中講座』（オーム社、2017年） ISBN:978-4-274-22138-5 2,200円＋税
履修上のポイント	あらゆる人間生活にとって重要な安全について、どのような考え方があるのかを理解し、安全の着眼点の持ち方、思考の過程を学ぶ。レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、自分自身の考察を加えることを基本とする。 また、安全の考え方は全ての国民にとって重要な課題であると理解し、教育の中に取り入れていくことが重要なので、必要な考え方を身に付けるための教育内容について検討する。
レポート課題 1	一般成人が身に付けておくべき、あるいは、知っておく必要のある安全に関する知識カタログを作成してください。 <b>留意点：</b> 可能な限り広い範囲で、要素に分解して考えてください。
レポート課題 2	小学校低学年用の安全に関する教科書を作成するというイメージで、生徒の理解しておくべき安全の項目を列挙し、その中の1つの項目について例を作成してください。 <b>留意点：</b> 新聞やテレビ、書籍等で報道された事故をできるだけ詳しく調べ、レポートを作成してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ローナ・フィリン、ポール・オコンナー、マーガレット・クリチタウン著 教材名： 小松原明哲、十亀洋、中西美和訳 『現場安全の技術—ノンテクニカルスキル・ガイドブック—』（海文堂、2013年） ISBN:978-4-30-372996-7 3,900円＋税
	ノンテクニカルスキルは、テクニカルスキル(業務に直結した専門知識や技量)に対する言葉であり、「状況認識」「コミュニケーション」「リーダーシップ」「疲労管理」など、ヒューマンエラーを避け、安全を確保していくための現場スタッフが持つべきスキルである。 本書は、「人に頼る」現場で、現場スタッフが持つべきノンテクニカルスキルについて安全管理の実務の立場から詳しく述べたものである。
参考図書	ジェームズ・リーズン著、佐相邦英監修『組織事故とレジリエンス』（日科技連、2012年） ISBN:978-4-81-719353-7 4,000円＋税 マシュー・サイド著、有枝 春訳『失敗の科学』（ディスカヴァー・トゥエンティワン、2016年） ISBN:978-4-7993-2023-5 1,900円＋税
履修上のポイント	事故は単なる技術的な問題だけで発生しているのではない、ということ、事例を通して理解すること。さらに、専門知識以外のこと、すなわちノンテクニカルスキルをどのように教育訓練すればよいかを理解してもらいたい。
レポート課題 1	事故調査報告書、あるいは、ある事故について書かれた書籍を元に、何が、どのように、なぜ起こったのかの概要を説明し、当該事故に含まれるノンテクニカルスキルについて説明して下さい。 <b>留意点：</b> 事故の背後要因を十分に探索して下さい。
レポート課題 2	レポート課題1で分析したノンテクニカルスキルの教育・訓練手法についてカリキュラムと方法について考えてください。 <b>留意点：</b> 教科書の内容を十分に理解してレポートを作成してください。

### 基本教材 1

第 1 回	安全とリスクについて理解する
第 2 回	安全の基本構造と価値観の理解
第 3 回	安全、安心、リスクコミュニケーションの理解
第 4 回	安全の制度の理解
第 5 回	事故調査の理解
第 6 回	一般市民の安全の理解
第 7 回	新しい時代の安全の理解
第 8 回	企業経営の安全の理解
第 9 回	安全性と経済性の理解
第 10 回	労働安全の理解
第 11 回	リスクマネジメントの理解
第 12 回	安全に関する設計の理解
第 13 回	レポート課題 1：初稿の作成と添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：初稿の作成と添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	ノンテクニカルスキルと事故との関係の理解
第 2 回	事故における状況認識の理解
第 3 回	事故における意思決定の理解
第 4 回	事故におけるコミュニケーションの理解
第 5 回	事故におけるチーム作業の理解
第 6 回	事故におけるリーダーシップの理解
第 7 回	事故におけるストレスとストレスマネジメントの理解
第 8 回	事故における疲労と対処方法の理解
第 9 回	ノンテクニカルスキルの内容の理解
第 10 回	ノンテクニカルスキルの訓練方法の理解
第 11 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 12 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	人間工学特論	担当者	カワノ 河野 リュウタロウ 龍 太郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>国際人間工学連合(IEA)による人間工学の定義によると、「人間工学とは、システムにおける人間と他の要素とのインタラクションを理解するための科学的学問であり、ウェルビーイングとシステム全体のパフォーマンスとの最適化を図るため、理論・原則・データおよび手法を設計に適用する専門分野である」と説明されている。この考え方は航空や原子力で応用されているヒューマンファクターズの考え方とほぼ同じである。</p> <p>本講座では、日常や産業現場における人間と人間を取り巻くシステムの安全と効率に関する考え方の具体的方法を修得することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>具体的には人間の行動、能力と限界を客観的に捉え、人間と道具や器械との関係をヒューマン・マシン・システムとして考えることにより、仕事場の環境改善、安全性の向上、疲労とストレスの減少、快適性の向上、さらに仕事の満足感と生活の質の向上により、人間工学が人間の活動や作業の有効性と能率を高めることに貢献している事を理解する。さらにヒューマンエラーが生じるメカニズムを人間の特性の観点から学修し、エラーを防ぐための方策を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 実際に身の回りの題材を取り上げることで、人間工学の考え方がどのようなものであるか、自分の経験を基に理解し記述する (知識)。</p> <p>② ヒューマンエラーに関し、人間の特性 (個人と集団の両面) からその原因を考察し、対応策を考案する (知識・技能)。</p> <p>③ ヒューマンエラーの関係した事故について事故の構造を理解する。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>② 指定教科書および参考文献を熟読する。【SBO①】【30 時間/1 冊】</p> <p>②システムと人間の関係を理解する。【SBO①&amp;②】【30 時間/1 冊】</p> <p>③前期・後期の課題についてレポートを提出する。【SBO②&amp;③】【45 時間/レポート 1 件】</p> <p>※) 参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をしてください。質問内容に関しては、直接関係がないと思われることでも、何でも構いませんので遠慮なく質問してください。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨します。特に、電子メールでのコミュニケーションは、基本的に最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けてください。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。</li> <li>・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員まで質問する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：教材 1 のレポート課題 (1) の草稿は 7 月末、課題 (2) は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材 2 のレポート課題 (1) の草稿は 11 月中旬、課題 (2) は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和 6 年 1 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	安全に関する基本的な考え方を理解できたか。事故の構造について理解できたか。安全対策、特に、教育訓練の提案ができるか。
	観察記録	25%	安全に関する質問や疑問を解決できたか。安全に関する議論が行うことができるか。
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成 (目次案等) について、メール等で連絡相談して下さい (manaba folio や human.f.kawano@gmail.com)。</p> <p>2) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>3) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>4) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 横溝 克己，小松原 明哲 教材名： 『エンジニアのための人間工学(改訂第5版)』（日本出版サービス，2013年） ISBN:978-4-88922-124-4 2,940円+税 人間工学の基礎となる人体計測や作業姿勢の計測，手足と道具の関係，視覚・聴覚表示や音声伝達方法，安全性や環境などと人間工学の関わりを具体的な例から学ぶ
参考図書	(1) 岡田有策『ヒューマンファクターズ概論』（慶應義塾大学出版会，2005年） ISBN:978-4-7664-1173-7 2,500円+税 (2) 小川 鏡一『イラストで学ぶ看護人間工学』（東京電機大学出版局，2008年） ISBN:978-4-501-41640-9 3,000円+税
履修上のポイント	人間工学がカバーする領域を理解し，人間工学的思考の着眼点の持ち方，思考の過程を学ぶ。レポートの構成については，取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に，何か一点，最新の知見を反映した上で，自分自身の考察を加えることを基本とする。
レポート課題 1	日常生活において，人間工学的思考が配慮されていると考えられるものを例にあげ，ヒトの特性を考慮した上で理由を述べなさい。 <b>留意点：</b> 人体計測値，作業姿勢，手や足の機能，視覚表示など。選択した理由，客観的な観察，主観的な自分の主張を含めること。
レポート課題 2	日常生活において，人間工学的思考が配慮されていないと考えられるものを例にあげ，ヒトの特性を考慮した上で理由を述べなさい。 <b>留意点：</b> 人体計測値，作業姿勢，手や足の機能，視覚表示など。選択した理由，客観的な観察，主観的な自分の主張を含めること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 河野 龍太郎 教材名： 『医療におけるヒューマンエラー 第2版』（医学書院，2014年） ISBN:978-4260019378 2,800円+税 著者は元々航空管制官であったが，その時に自分自身で体験したエラー事象を基に，その後，心理学を勉強し，原子炉の運転に関するヒューマンエラー対策の仕事や自治医科大学での医療安全等を経て，現在は安全推進研究所に所属している。人間の行動特性を基に，エラーが生ずるメカニズムやその対応策をどのように考えるべきかが，具体的に解説されている。
参考図書	(1) 篠原一光，中村隆宏（編）『心理学から考えるヒューマンファクターズ』（有斐閣，2013年） ISBN 978-4-641-18411-4 2,600円+税 (2) 佐藤幸光，佐藤久美子『医療安全に活かす医療人間工学』（医療科学社，2007年） ISBN 978-4-86003-376-7 2,500円+税
履修上のポイント	身近に経験した具体的な事例を取り上げ，ヒューマンエラーの生じる原因を探求し，その予防・防止策を考案する。
レポート課題 1	医療に限らず，身近に経験したヒューマンエラーが原因と考えられる事故・トラブル，あるいはヒヤリ・ハット事象を一つ取り上げ，その事象に関連した人間側の要因の観点から原因を考察し，対応策を考案しなさい。 <b>留意点：</b> なるべく自分自身で経験した，または身近に生じた事象を取り上げること。交通事故でも可。
レポート課題 2	医療に限らず，身近に経験したヒューマンエラーが原因と考えられる事故・トラブル，あるいはヒヤリ・ハット事象を一つ取り上げ，その事象に関連する人間工学（＝ヒューマンファクターズ）の観点から，原因を考察し，対応策を考案しなさい。 <b>留意点：</b> なるべく自分自身で経験した，または身近に生じた事象を取り上げること。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材（事例）の検討
第 3 回	基本教材 1 の学修；「人間の特性」について
第 4 回	課題として取り上げた題材についての考察（ヒトの側からの考察）
第 5 回	課題として取り上げた題材についての考察（対象とする物の側からの考察）
第 6 回	人間工学的に配慮されている点に関する学修
第 7 回	人間工学的に配慮されていない点に関する学修
第 8 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	ヒューマンエラーに関する全般的な学修
第 3 回	課題として取り上げる事例の検討
第 4 回	取り上げた事例に対して、ヒト個人の観点から、要因としてのヒューマンエラーに関する考察
第 5 回	取り上げた事例に対して、ヒト個人の観点から、対応策の考察
第 6 回	取り上げた事例に対して、ヒト集団の観点から、要因としてのヒューマンエラーに関する考察
第 7 回	取り上げた事例に対して、ヒト集団の観点から、対応策の考察
第 8 回	関連する文献、法令・指針等の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	環境生理学特講	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>環境や運動が生体に及ぼす影響について、身近で具体的な課題を通して、基礎的な人体生理・生化学的な側面から学修することを目的とする。</p> <p>1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。</p> <p>2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>3) あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>環境や運動が生体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、精神心理や社会生活の観点も含めて学修することを目的とする。応用問題として「宇宙環境」を取り上げ、このような特殊な環境が人体にどのような影響を及ぼすか、さらには宇宙を含めた特殊な条件下での作業に従事するためには、どのような身体的要件が求められるのかを理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1) 身体活動の様々な側面に対し、定量的に評価する手法を身に付ける。またある特定の身体活動について、多角的な側面から説明することができる (知識)。</p> <p>2) 特殊な環境における人体生理の変化と適応、また特殊環境で生じる医学生理学的な問題に対処する方法論を形成する (知識・技能)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い(20 時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる(10 時間)。manaba folio を通してレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる(15 時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】(自主研究・レポート作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学修を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。</li> <li>図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和5年1月中旬の学事暦で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	75%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	観察記録	25%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成(目次案等)について、メール等で連絡相談して下さい(izumi.ryuutarou@nihon-u.ac.jp)。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。</p> <p>3) レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とします(基本教材1課題1を除く)。</p> <p>4) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。</p> <p>5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。</p> <p>6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。</p> <p>注：本レポートは開示しませんが、個人情報に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 勝田茂・征矢英昭編 『運動生理学 20 講(第 3 版)』 (朝倉書店, 2015 年) ISBN:978-4254690460 3,200 円+税</p> <p>著者名: 教材名: (2) 厚生労働省 運動基準・運動指針の改定に関する検討会 『健康づくりのための身体活動基準 2013』 2013 年 (厚生労働省ホームページより入手可能) <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/undou/index.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/undou/index.html</a></p>
	<p>(1) スポーツ・運動生理学に関し, 比較的最新の知見を基にまとめられたテキスト。 (2) 健康日本 21 (第二次) の推進に資するため, 厚生労働省でまとめられた運動の指針。各年代における運動への取り組みの方針が, 科学的な知見を基にバランス良くまとめられている。</p>
参考図書	<p>(1) 田中 喜代次, 木塚 朝博, 大藏 倫博 編著 『健康づくり・介護予防のための体力測定評価法(第 2 版)』 (金芳堂, 2013 年) ISBN:978-4-7653-1554-8 2,600 円+税</p> <p>(2) 本間 研一 監 『標準生理学(第 9 版)』 (医学書院, 2019 年) ISBN:978-4-260-03429-6 12,000 円+税</p>
履修上のポイント	<p>自分自身の生活パターンを通じて, 生理学的な活動を定量的に評価する方法を学修する。その上で環境や運動が生体に及ぼす影響について, プラス面とマイナス面を含め, 生理学的な側面はもとより, 生化学・栄養学の基礎的な側面から, 精神心理面や社会生活における位置付けを含め, 自分自身の経験を基に, 具体的な課題を取り上げて考察を行う。</p>
レポート課題 1	<p>自分自身の 1 週間の行動記録 (食事・睡眠パターンを含む) を付け, それを基に運動レベル (運動強度, 消費エネルギー, 運動の質等), 摂取した栄養素, 及び生活パターンについて解析する。次に自分が理想とする運動習慣がどのようなものかを考察する。この運動には家事を含めた日常生活上の活動, 及びデスク・ワーク以外の職場での身体活動を含む。 <b>留意点:</b> 活動度計 (アップルウォッチ等) を所有する場合は, そのデータも参照すること (その際, 精度も考察に含めること)。</p>
レポート課題 2	<p>特定の運動の一つを取り上げ, その運動が身体に及ぼす影響について, プラス面とマイナス面を含め, 生化学, 身体生理学, バイオメカニクス, 生体リズム, 精神心理, 及び社会の中における活動の観点から, 考察を行う (運動の例; マラソン, 登山, 球技, あるいは日常生活上の行動を対象としても可)。 <b>留意点:</b> なるべく自分自身の経験を基にすること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名: 立花正一監修 教材名: 『宇宙飛行士はどんな夢をみるか?』 (恒星社厚生閣, 2016 年) ISBN:978-4-7699-1587-4 3,000 円+税</p> <p>国際宇宙ステーションでの経験を踏まえ, 宇宙滞在が人体に及ぼす影響について, 一般の方にも分かりやすく解説された書。</p>
参考図書	<p>(1) 藤田真敬監修 『宇宙航空医学入門』 (鳳文書林, 2015 年) ISBN:978-4-89279-449-0 C3047 3,400 円+税</p> <p>(2) 石岡憲昭著 『宇宙生命科学入門』 (共立出版, 2017 年) ISBN:978-4-320-04732-7 2,700 円+税</p> <p>(3) JAXA ホームページより「宇宙医学」 (<a href="https://iss.jaxa.jp/med/index.html">https://iss.jaxa.jp/med/index.html</a>)、 「きぼう利用戦略」 (<a href="https://iss.jaxa.jp/kibouser/information/scheme/">https://iss.jaxa.jp/kibouser/information/scheme/</a>)、 米国の宇宙医学研究の方向性を示す Human Research Roadmap (<a href="https://humanresearchroadmap.nasa.gov/">https://humanresearchroadmap.nasa.gov/</a>)</p>
履修上のポイント	<p>宇宙という特殊環境を題材として, そのような環境が人体に及ぼす影響, 及び各種の職業・日常生活において, 必要とされる身体要件について考察する。取り上げた教材・参考図書は, あくまで一つの参考資料に過ぎず, 必要な文献は自分で調べること。</p>
レポート課題 1	<p>長期宇宙滞在が人体に及ぼす影響 (筋骨格系萎縮, 体液シフト, 放射線, 精神心理等) の中から一つ取り上げ, その対策について述べる。 <b>留意点:</b> 現在, 国際宇宙ステーションで取り組まれている健康管理対策や医学的な研究活動は, JAXA や NASA (米航空宇宙局) のホームページから参照することが出来る (参考図書 3)。</p>
レポート課題 2	<p>宇宙飛行士, あるいはその他の職業 (例えば航空機パイロット, 公共機関の運転士) への従事に際し, 特にその職業に求められる安全配慮の観点から, どのような身体的要件が求められるかを考察する。次に, その身体的要件を緩和するための医学生理学的な対応策も考案する (例: 車の運転について, 加齢に伴う身体機能の低下が問題となるなら, 医学生理学的にどのように対処すれば, その問題点を克服出来るか)。 <b>留意点:</b> 職業に関しては, 必ずしも特殊な技能だけを取り上げる必要はなく, 自動車の運転等の一般的な技能・業務でも構わない。なお, 民間航空パイロットの身体要件については, (一財) 航空医学研究センターの航空身体検査マニュアルが参照可能。 (<a href="http://www.aeromedical.or.jp/manual/index.htm">http://www.aeromedical.or.jp/manual/index.htm</a>)</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	自分自身の 1 週間の生活の記録
第 3 回	自分自身の 1 週間の生活記録の解析；摂取エネルギーと代謝量
第 4 回	自分自身の 1 週間の食生活内容の解析；栄養分析
第 5 回	自分自身の 1 週間の生活記録の解析；睡眠パターンと生活リズム
第 6 回	対象とする運動に関するテキスト・文献調査
第 7 回	対象とする運動に関する、個体レベルでの運動生理学的側面に関する学修
第 8 回	対象とする運動に関する、集団レベル、または社会科学的側面に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	極限環境と、ヒトの生存に必要とされる生理学的条件に関する学修
第 3 回	宇宙環境が人体に及ぼす影響に関する全般的な学修
第 4 回	宇宙環境が人体に及ぼす影響に関する、取り上げた課題に関する学修
第 5 回	取り上げた課題に関し、将来的な有人宇宙活動に向けての、課題と展望に関する学修
第 6 回	取り上げた課題に関し、ヒトの能力の限界と、その判定方法に関する学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	関連する法令、及び社会的な事例の検索とその内容の学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	環境生理学特講	担当者	シャク 文雄 フミオ	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>環境や運動が生体に及ぼす影響について、身近で具体的な課題を通して、基礎的な人体生理・心理学的な側面から学修することを目的とする。</p> <p>1) 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 2) 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。 3) 謙虚に自己をみつめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 環境や運動が生体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、精神・心理や社会生活の観点も含めて学修することを目的とする。環境は、物理的環境に加えて、人間集団・社会集団としての環境も含めて考える。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1) 身体活動の様々な側面に対し、定量的に評価する手法を身につける。またある特定の身体活動について、多角的な側面から説明することができる (知識) 2) さまざまな環境における人体生理の変化と適応、またそれらの環境で生じる医学生理学的・心理学的な問題に対処する方法論を形成するとともに研究のプランを考える (知識・技能)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い (20 時間)、それに対する考え方をレポートとしてまとめる (10 時間)。manaba folio をとおしてレポートの推敲を行い、最終稿を仕上げる (15 時間)。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。</li> <li>manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う (課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)。</li> <li>図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期：教材 1 のレポート課題 (1) の草稿は 7 月末、課題 (2) は 8 月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も 9 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材 2 のレポート課題 (1) の草稿は 11 月中旬、課題 (2) は 12 月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も令和 7 年 1 月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適正性、考え方の科学性・妥当性・再診の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性を評価する。
	観察記録	20%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	<p>1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの校正 (目次案など) について、メールなどで連絡相談してください (shaku.fumio@nihon-u.ac.jp)。また、時間調整により、対面でのディスカッションも歓迎いたします。</p> <p>2) 題材の選択は自由ですが、発想がユニーク、オリジナルな題材を歓迎いたします。</p> <p>3) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛け、他者に発表する場合を想定し作成してください。</p> <p>4) 教材・参考図書をすべて読み込むよりも、題材に関連した文献は自分で検索し、引用してください。</p> <p>5) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載してください。</p> <p>6) 独自の考えを充実させているレポートを期待します。</p> <p>注：本レポートは開示しませんが、個人情報にかかわる事項は記載せず、フィクションかなど工夫し記載してください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1)勝田茂・征矢英昭編 『運動生理学 20 講(第 3 版)』(朝倉書店、2015 年) 著者名： ISBN:978-4-254-69046-0 本体 3,200 円＋税 教材名： (2)厚生労働省 運動基準・運動指針の改定に関する検討会 『健康づくりのための身体活動基準 2023』2023 年(案) <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_36565.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_36565.html</a></p> <p>厚生労働省の委託の下に、診療ガイドラインの情報を提供している。但し、一部のガイドラインは有料、または作成した学会等への会員登録が必要となる。また必ずしも全てのガイドラインを網羅しているとは限らない。</p>
参考図書	<p>(1) 田中喜代次、木塚朝博、大蔵倫博 編著 『健康づくり・介護予防のための体力測定評価法(第 2 版)』(金芳堂、2013 年) ISBN:978-4-7653-1554-8 本体 2,600 円＋税 (2) 本間研一 監 『標準生理学(第 9 版)』(医学書院、2019 年) ISBN:978-4-260-03429-6 本体 12,000 円＋税</p>
履修上のポイント	<p>自分自身の生活パターンを通じて、生理学的な活動を定量的に評価する方法を学修する。そのうえで環境や運動が生体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、生理学的な側面はもとより、生化学・栄養学の基礎的な側面から、精神心理面や社会生活における位置づけを含め、自分自身の経験を基に、具体的な課題を取り上げて考察を行う。</p>
レポート課題 1	<p>自分自身の 1 週間の行動記録(食事・睡眠パターンを含む)を付け、それを基に運動レベル(運動強度、消費エネルギー、運動の質等)、摂取した栄養素、及び生活パターンについて解析する。次に自分が理想とする運動習慣がどのようなものかを考察する。この運動には家事を含めた日常生活上の活動、及びデスク・ワーク以外の職場での身体活動を含む。留意点：活動度系(アップルウォッチ等)を所有する場合は、そのデータも参照すること。</p>
レポート課題 2	<p>特定の運動を一つ取り上げ、その運動が身体に及ぼす影響について、プラス面とマイナス面を含め、生化学、身体生理学、バイオメカニクス、生体リズム、精神生理、及び社会の中における活動の観点から、考察を行う(運動の例；マラソン、登山、球技、あるいは日常生活上の行動を対象としても可)。留意点：なるべく自分自身の経験を基にすること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 羽生 和紀 教材名： 『環境心理学 第 2 版』(サイエンス社、2019 年 4 月) ISBN:978-4-7819-1443-5 本体 1,900 円＋税</p> <p>人間と環境とのあらゆる関係を研究する領域である「環境心理学」に関して、心理学専攻の学生に限定せず、建築・都市計画、環境・空間デザイン、クリエイター志望の学生にも読んでもらうことを想定し、標準的な教科書として書かれている。</p>
参考図書	<p>MERA ジャーナル(人間・環境学会発行) <a href="https://mera-web.jp/journal">https://mera-web.jp/journal</a> 「環境生理学」の各章末にも参考文献リストあり</p>
履修上のポイント	<p>人間が日常生活を送るうえで、置かれる環境は様々であるが、人間が環境にどのように左右され、社会活動を送っているか、改めてみつめ、それを自分の場合に当てはめ、研究テーマとしても考える。</p>
レポート課題 1	<p>環境とヒトとの関わりに関して、特に興味のある環境を取り上げ、どのようにヒトと関わり、影響しているか、自らの場合も必ず例としていれ、考察する。 留意点：具体的な事象を取り上げ、教材に書かれている内容よりも、その内容を踏まえたうえでの、自分自身の考えを論じてください。</p>
レポート課題 2	<p>環境のヒトへの影響について、教材にみられる多くの研究結果を参考とし、自分なりの研究計画を作成してください。 留意点：研究計画は実現可能な計画とし、既存の研究との血が気も意識して作成してください。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	自分自身の 1 週間の生活の記録
第 3 回	自分自身の 1 週間の生活の記録の解析：摂取エネルギーと代謝量
第 4 回	自分自身の 1 週間の生活の記録の解析：栄養分析
第 5 回	自分自身の 1 週間の生活の記録の解析：睡眠パターンと生活リズム
第 6 回	対象とする運動に関するテキスト・文献調査
第 7 回	対象とする運動に関する、個体レベルでの運動生理学的側面に関する学修
第 8 回	対象とする運動に関する、集団レベル、または社会科学的側面に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1, 2：を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材 2 の学修；環境の知覚・認知に関する学修
第 4 回	基本教材 2 の学修；環境の評価・査定、個人差と環境に関する学修
第 5 回	基本教材 2 の学修；対人・社会環境、住環境、教育・労働環境に関する学修
第 6 回	基本教材 2 の学修；自然環境、犯罪と環境に関する学修
第 7 回	関連する文献の検索とその内容の学修
第 8 回	環境のヒトへの影響に関する研究プランのテーマ検討
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1, 2：を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	スポーツ運動学特講	担当者	モリナガ 森長 マサキ 正樹	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	スポーツ運動学では、現象学的立場から人間の運動の構造と発生について学ぶことを目的とする。具体的には、運動モルフォロジーの方法を基に進められてきたスポーツ運動学研究のこれまでの文献やその研究方法などを精査し、その中で取り扱われる運動質や、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法といったいくつかのキーワードを基に、自身が対象とするスポーツにおけるスポーツ運動学的観点からの包括的な理解を深める。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>スポーツ運動学における運動質、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法がどのような事を意味し、どのように研究していくべきかについての方法論を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①スポーツ運動学における運動モルフォロジーを中心とした主要な研究課題が、どのような課題であるかを整理し説明することができる (知識・解釈)</p> <p>②これまでの知見を基に、自身の対象とするスポーツでの課題についてその課題を発見し、解決するためのスポーツ運動学的観点からの方法論を示すことができる (知識・問題解決)。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習)【SBO①】基本教材を熟読し課題に取り組むにあたり、必要な用語や表現の理解を深める【25時間/レポート1本】。(自主研究)【SBO①&amp;②】また、レポート課題で自身が対象とするスポーツにおける技術に関する課題の分析を行い、【10時間/レポート1本】レポートの素案を作成する(レポート作成)【SBO①&amp;②】【5時間/レポート1本】。(ディベート)【SBO①&amp;②】整理した内容を manaba folio の掲示板機能を用いて教員および受講生と作成した素案を基にディスカッションを行い最終的なレポートの作成を行う【10時間/レポート1本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio の機能を用いて、課題を進めていくうえで疑問点、不明な点は掲示板で情報を共有し、受講者同士で議論する。また、理解の難しい用語などについては担当教員に直接確認を行う</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)については7月末日、課題(2)は8月末日を目処に提出することが望ましい。最終的な課題は学事歴に定められた日までにまとめて提出すること。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)については11月下旬、課題(2)は12月下旬を目処に提出することが望ましい。最終的な学事歴に定められた日までにまとめて提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	内容については、課題に対する妥当性、これまでの文献精査からの知見の反映、研究対象とするスポーツに関する自身の考察がふくまれるか否か、その他レポートの構成を含めて評価する。
	観察記録	20 %	ポータルシステムを用いたレポート作成に関する積極的な態度などを評価する。
履修者への要望	<p>①レポートのテーマとして設定するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが対象とするスポーツに一定程度の理解がある種目を選択してください。</p> <p>②草稿提出後にレポートの構成については、参考文献の記載の仕方も含め別途指導する場合がありますので、その内容に従い加筆・修正してください。</p> <p>③スポーツ運動学に関する最新の知見を概観し、レポート作成に必要な文献は積極的に確認してください。</p> <p>④その他質問等がある場合はメール等で連絡してください。また、面接の必要がある場合は、必ず事前にメール等で相談してください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 金子明友・朝岡正雄編著 教材名： 「運動学講義」 ISBN:978-4-469-26177-6（大修館書店, 1990年）2,000円+税
	スポーツ運動学における学問としての成立過程から専門領域内容を簡潔に網羅した入門的なテキスト。
参考図書	朝岡正雄 著「スポーツ運動学序説」（不昧堂出版, 1999年）6,300円+税
履修上のポイント	スポーツ運動学は現実の運動指導に基礎を提供する実践的運動理論であることから、自身の運動を覚える体験や実践する体験、教える経験をもとにそれらの内容を踏まえながら学術的な知識として体系化して学修および考察を行っていく。まずは教材内容を熟読し、自身の経験と照らし合わせながら学修していくこと。
レポート課題①	教材の第1部（運動学講義）のLec.1からLec.7まで読み、自身が興味関心を持ったLecを3つ取り上げて、そのLec内容を要約しなさい。 <b>留意点：</b> 各Lec（章）は1つにつき約1000文字程度で要約すること。テキストの丸写しではなく、自身の意見やコメントも含めて要約すること。
レポート課題2	教材の第1部（運動学講義）のLec.8からLec.15まで読み、自身が興味関心を持ったLecを3つ取り上げて、そのLec内容を要約しなさい。 <b>留意点：</b> 各Lec（章）は1つにつき約1000文字程度で要約すること。テキストの丸写しではなく、自身の経験や体験談なども含めて要約すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 日本スポーツ運動学会編 教材名： 「コツとカンの運動学 わざを身につけるための実践」 ISBN：978-4-469-26891-1（大修館書店, 2020年）1,800円+税
	スポーツ運動学の理論領域を実践的な視点から解説したテキスト
参考図書	ウルリヒ・ゲーナー著 佐野淳 朝岡正雄 監訳 「スポーツ運動学入門—スポーツの正しい動きとは何か—」（不昧堂出版, 2003年）3,000円+税
履修上のポイント	理論的に学修されたスポーツ運動学の知識を実践的な現場で活用するための方法論やその方法論の知識的体系を理解し、考察していく。加えて、自身の経験や体験を得られた知識や言葉で表現して考察を深めていく。
レポート課題1	教材の第II章を読み、コツやカンの世界がどのような世界観で、またどのような過程で成り込んでいるのか要約を行い記述すること。 <b>留意点：</b> 要約は約1200文字程度で行い、その後自身の経験や体験などを踏まえてコメントを300文字程度つけること。
レポート課題2	教材の第III章を読み、「わざ」といわれるものがどのように発生して形成され、伝わっていくのか要約を行い記述すること。 <b>留意点：</b> 要約は約1200文字程度で行い、その後自身の経験や体験などを踏まえてコメントを300文字程度つけること。

基本教材 1

第 1 回	課題の理解のためのシラバスの確認および教材の学修
第 2 回	基本教材 1 の Lec. 1 の内容に関する学修
第 3 回	基本教材 1 の Lec. 2・3 の内容に関する学修
第 4 回	基本教材 1 の Lec. 4・5・6・7 の内容に関する学修
第 5 回	基本教材 1 の Lec. 8・9 の内容に関する学修
第 6 回	基本教材 1 の Lec. 10・11・12 の内容に関する学修
第 7 回	基本教材 1 の Lec. 13 の内容に関する学修
第 8 回	基本教材 1 の Lec. 14・15 の内容に関する学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	課題の理解のためのシラバスの確認および教材の学修
第 2 回	課題となる自身の運動技術における重要な局面の整理と検討
第 3 回	基本教材 2 から「コツとカンの世界」について学修
第 4 回	自身の経験や体験を踏まえたコツとカンの世界について考察
第 5 回	第 3 回、4 回の内容を理論的に体系化して学修
第 6 回	基本教材 2 から「わざの発生」について学修
第 7 回	自身の経験や体験を踏まえたわざの発生について考察
第 8 回	第 6 回、7 回の内容を理論的に体系化して学修
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	スポーツ医学特講	担当者	ハタ 秦 ミツマサ 光賢	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、スポーツ医学の基礎的知識を習得し、スポーツ外傷や運動器損傷、疾病、突然死などの発生原因について理解し、これらの予防法や発症時の対処法などについて独創的な意見が持てるようになることを目的とする。また、近年における平均寿命と健康寿命の解離を原因とする介護医療のひっ迫に対し、スポーツや独自に提案した運動療法がいかに社会貢献できるかをサルコペディア・フレイルやロコモティブシンドローム、生活習慣病の予防と治療などの観点から、健康寿命の延長に寄与する方法を探求する。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 スポーツ医学の概念を理解し、スポーツ外傷・運動器損傷・疾病・突然死などに対する問題解決能力を身に着ける。 【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ医学の基礎的知識を身に着ける。</li> <li>2. スポーツ外傷・疾病について理解し、その原因を列挙できる。</li> <li>3. スポーツに関連した突然死の原因を列挙できる。</li> <li>4. 一次救命処置、心肺蘇生法についての手順を説明できる。</li> <li>5. フレイル、ロコモティブシンドロームについて理解し、その対処法を説明できる。</li> <li>6. 生活習慣病について理解し、その予防・治療法について説明できる。</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 スポーツ医学・ロコモティブ症候群・生活習慣病などに関するテキストや参考文献を読み漁り、今後の展望やまだ明らかにされていない分野など、研究に興味を持てる分野を見出し(20 時間)、その課題に関する文献を検索、参考文献としてレポートを作成する(25 時間)。 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 参考書、図書館での文献検索やインターネットによる論文検索を利用したり、機会があればフィールドワーク(空手道、柔道、相撲道 等)を体験しレポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1レポート課題1の草案を7月末までに作成、課題2の草案は8月末までに作成する。 取り上げる題材については、草案としてまとめる前にメール等で相談することが望ましい。 いずれの課題も学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2または1のレポート課題1の草案は11月中旬、課題2は12月中旬を目標に提出する 取り上げる題材については、草案としてまとめる前にメール等で相談することが望ましい。 いずれの課題も学事暦で定められた日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、問題提起の着眼点と妥当性、参考文献の適切な応用とレポートの起承転結、適切な図・表の活用法などを評価する。
	観察記録	20%	メール等によるやり取りや、Manaba-Folioへの提出状況を通じて、学習に対する積極性などを評価する。
履修者への要望	<p>スポーツ医学の基礎と実践を学ぶことにより、関係各部署には幅広い領域のスペシャリストが存在することを理解して、そして興味を持っていただきたい。例えばスポーツを実践する職業(アスリート)、アスリートを育てるコーチングスタッフ、アスリートの栄養状態を管理する管理栄養士、心理状態を管理する臨床心理士や精神科医師、外傷や疾病・心肺停止などに適切に対処・予防する内科・外科医師やスポーツドクター、適切な薬剤投与やドーピングを管理する薬剤師などである。 またスポーツや運動療法、運動リハビリテーションや心臓リハビリテーションなどが、超高齢化社会の日本にとってどれほど重要な役割を果たしているかを理解していただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 藤本繁夫 他 教材名： 新・スポーツ医学（改訂新版） 嵯峨野書院（2021年） 3850円 ISBN：978-4-7823-0597-3
	外科系・内科系の外傷・障害について，発生メカニズムから，症状，応急処置，医学的治療などを解説．
参考図書	令和版 基礎から学ぶ！スポーツ救急医学 著者；興水健治 ベースボールマガジン社（2020年） 1600円 ISBN：978-4-583-11279-4
履修上のポイント	スポーツ医学の基礎を学び全体像を把握する．スポーツ外傷・疾病・突然死の発症機序や病態，それらに対する対処法を理解する．さらに，現場での問題点を考察する．
レポート課題 1	スポーツ医学とは何かについてまとめ，スポーツで発生する様々な問題点（外傷，疾病，突然死，精神的問題，ドーピング等）について一つ取り上げ，その疫学，病態生理，対処法，リハビリテーション，競技復帰，再発予防について述べる． <b>留意点：</b> それぞれ簡潔にまとめる
レポート課題 2	レポート 1 で選択した課題以外で，その疫学，病態生理，対処法，リハビリテーション，競技復帰，再発予防などに関して，最新の知見や将来展望も踏まえて述べる． <b>留意点：</b> なるべく自分自身の経験を基にする（家族や知人の事例も可）

基本教材 2	
教材の概要	(1) 最新知識 フレイルサルコペニア 吉村芳弘 日総研 2019年 2860円 著者名： ISBN：978-4-7760-1896-4 教材名： (2) ロコモティブシンドローム診療ガイド2021 日本運動器学会 文光堂 2021年 3850円 ISBN：978-4-8306-2748-4
	フレイルやサルコペニアの基本から対策，運動療法などを詳しく解説． ロコモティブシンドロームの概念や評価，予防対策についてエビデンスに基づき解説．
参考図書	動脈硬化性疾患予防ガイドライン（2022年版） 一般社団法人 日本動脈硬化学会 5760円 ISBN：978-4-9071-3006-0
履修上のポイント	スポーツ医学で学んだ知識は広く社会に貢献できるものとなることを理解する．現在，長寿大国となった日本の問題点，すなわち平均寿命と健康寿命の解離，これによる介護のひっ迫，高齢者の動脈硬化の進行による医療費の高騰など，様々な問題点をスポーツ医学・運動療法と関連付けて考える．
レポート課題 1	平均寿命と健康寿命，フレイルサルコペニアやロコモティブシンドロームの対処法と健康的に長生きすることに関するスポーツ・運動療法の役割について述べる． <b>留意点：</b> それぞれ簡潔にまとめる
レポート課題 2	平均寿命と健康寿命，動脈硬化の進行が社会にもたらす意義を若年者（現役世代）と高齢者に分けて問題点を抽出し，これらに対しスポーツ・運動療法がもたらす役割について述べる． <b>留意点：</b> それぞれ簡潔にまとめる

## 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	教材 1 の学修；スポーツ医学の定義，内科的・外科的スポーツ外傷・運動器障害の概要について理解する
第 3 回	教材 1 の学修；成長期・中高年期に特有のスポーツ外傷・運動器障害について学修する
第 4 回	教材 1 の学修；スポーツ中の一次救命処置・心肺蘇生法・自動体外式除細動器(AED)について学修する
第 5 回	教材 1 の学修；スポーツ中の突然死・熱中症など緊急を要する疾患について学修する
第 6 回	課題 1 のテーマを決定する
第 7 回	レポート課題 1；初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1；添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1；最終稿の作成
第 10 回	課題 2 のテーマを決定
第 11 回	レポート課題 2；初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2；添削指導に対する修正稿の作成
第 13 回	レポート課題 1；最終稿の作成
第 14 回	レポート課題 1, 2 を通して本課題に対する全体的な理解の検証
第 15 回	最終まとめと今後の発展性について意見交換する

## 基本教材 2

第 1 回	教材の学修と本科目の課題の理解
第 2 回	教材 2 の学修；フレイル・サルコペディア・ロコモティブシンドロームの定義と疫学を学修する
第 3 回	教材 2 の学修；ロコモティブシンドロームの評価方法，対象疾患，予防・対策について学修する
第 4 回	教材 2 の学修；動脈硬化の定義と疫学を学修する
第 5 回	教材 2 の学修；動脈硬化の評価方法，対象疾患，予防・対策について学修する
第 6 回	課題 1 のテーマを決定
第 7 回	レポート課題 1；初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1；添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1；最終稿の作成
第 10 回	課題 2 のテーマを決定
第 11 回	レポート課題 2；初稿の作成
第 12 回	レポート課題 2；添削指導に対する修正稿の作成
第 13 回	レポート課題 1；最終稿の作成
第 14 回	レポート課題 1, 2 を通して本課題に対する全体的な理解の検証
第 15 回	最終まとめと今後の発展性について意見交換する

科目名	スポーツ心理学特論	担当者	ハシグチ 橋口 ヤスカズ 泰一	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、スポーツ心理学的諸課題について具体的な解決方法を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ、論理的整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。</p> <p>III. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>問題発見・解決力 スポーツにおける諸問題の課題解決の為に、スポーツ心理学領域を理解し、具体的な解決方法の心理学的案出と課題解決の為に心理学的思考を修得することを目標とする。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>①科目内で扱った事象をスポーツ心理学的視点から説明することができる。(知識・想起・態度)</p> <p>②科目内で扱った内容をベースに自分自身を表現することができる。(知識・解釈)</p> <p>③運動・スポーツの課題を心理学的視点から捉え、課題解決の方法を論理的に記述することができる。(知識・技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>与えられた課題に沿って教材を丹念に読み、参考文献も参照しながら、レポート作成を行う。(自習した内容を自主研究に繋げレポート作成し成果物としてまとめる)</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低 45時間の学修時間を要するものとする。学修項目 課題図書内に示されているキーワードを文献等を用いて調べる</p> <p>学修時間 1つのレポート作成にあたり、30時間以上(教材学修 20時間/レポート1本, レポート執筆 10時間/レポート1本), manaba folio への提出・再提出のやりとり 15時間以上(ディスカッション 15時間/レポート1本)を目安とする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。(SB0s①)</li> <li>manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換, レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)(SB0s②③)</li> <li>図書館, インターネットを利用した参考文献を調査や、フィールドワークからレポートを作成する。(SB0s①②③)</li> </ul>		
スケジュール	<p>前期 教材1のレポート課題1草稿は7月30日に提出し、レポート課題2草稿は8月30日に提出する。両レポート課題の最終稿は9月9日に提出する。</p> <p>後期 教材2のレポート課題1草稿は11月30日に提出し、レポート課題2草稿は12月25日に提出する。両レポート課題の最終稿は年明け1月5日に提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	<p>課題に関係する重要な論点をおさえているか。</p> <p>結論が明確であるか。</p> <p>結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。</p> <p>引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。</p>
	観察記録	40%	<p>活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。</p> <p>レポートの提出期限を厳守したか。</p> <p>明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。</p>
履修者への要望	<p>教材の内容だけを取り入れるのではなく、受講者自身の考え方も取り入れ、論理的でオリジナルなレポートになるよう心がけて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 荒木雅信・山本裕二編著 教材名： 『これから学ぶスポーツ心理学 三訂版』（大修館書店，2023年） ISBN-9784469269550 2,200円（本体2,000円＋税10%）
	スポーツ心理学に関して，基礎から実践まで網羅されたテキスト
参考図書	日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』（大修館書店，2008年） ISBN-9784469062175 6,270円（本体5,700円＋税10%）
履修上のポイント	スポーツの運動学習の課題や動機づけの課題，社会心理学的課題（集団・リーダーシップ，ソーシャルスキルなど）について，教材の内容を整理し以下のレポート課題を考える。
レポート課題 1	教材の第Ⅰ部～第Ⅱ部までを読み，重要である点や興味を有した点，テキストの中から第Ⅰ部から1つ，第Ⅱ部から2つ計3つ取り上げ，その頁の要約を行い，それに対する自分の意見・コメントを述べよ。  <b>留意点：</b> 要約は1つにつき平均 800 字を目安として，そのコメントを 400 字程度で行うこと
レポート課題 2	教材の第Ⅲ部～第Ⅳ部までを読み，重要である点や興味を有した点をテキストの中から，第Ⅲ部から2つ，第Ⅳ部から1つ計3つ取り上げ，その頁の要約を行い，それに対する自分の意見・コメントを述べよ。  <b>留意点：</b> 要約は1つにつき平均 800 字を目安として，そのコメントを 400 字程度で行うこと，また動機づけや社会心理的内容は自身の経験に照らして考察すること”

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 荒木雅信・山本裕二編著 教材名： 『これから学ぶスポーツ心理学 三訂版』（大修館書店，2023年） ISBN-9784469269550 2,200円（本体2,000円＋税10%）
	スポーツ心理学に関して，基礎から実践まで網羅されたテキスト
参考図書	日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』（大修館書店，2008年） ISBN-9784469062175 6,270円（本体5,700円＋税10%）
履修上のポイント	スポーツの健康心理的課題や競技心理的課題，メンタルトレーニング的課題，臨床心理学的課題について，教材の内容を整理し以下のレポート課題を考える。
レポート課題 1	教材の第Ⅴ部～第Ⅵ部までを読み，重要である点や興味を有した点をテキスト中から，第Ⅴ部から2つ，第Ⅵ部から1つ計3つ取り上げ，その頁の要約を行い，それに対する自分の意見・コメントを述べよ。  <b>留意点：</b> 要約は1つにつき平均 800 字を目安として，そのコメントを 400 字程度で行うこと，また教材の第Ⅴ部～第Ⅵ部までの重要点や興味を有する面に加え，パラスポーツの強化における心理学的見地から言及したレポートにすること。
レポート課題 2	スポーツ心理学諸課題についてテーマを1つ設定し，その課題点の解決策について論述しなさい。  <b>留意点：</b> テーマを設定した理由を含め，課題解決の方法深く掘り下げ，実践的なレポートにすること。

### 基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	課題として取り上げる題材の検討
第 3 回	基本教材の学修；「体育・スポーツ心理学の歴史」について
第 4 回	基本教材の学修；「運動制御」について
第 5 回	基本教材の学修；「運動学習と運動指導」について
第 6 回	レポート課題 1:初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1:添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1:最終稿の作成
第 9 回	基本教材の学修；「スポーツと動機づけ」について
第 10 回	基本教材の学修；「スポーツにおける集団」について
第 11 回	基本教材の学修；「スポーツとライフスキル」について
第 12 回	レポート課題 2:初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2:添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2:最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	課題として取り上げる題材の検討
第 2 回	基本教材の学修；「スポーツメンタルトレーニング」について
第 3 回	基本教材の学修；「健康とスポーツ心理学」について
第 4 回	基本教材の学修；「スポーツ傷害の心理学」について
第 5 回	基本教材の学修；「パラスポーツと心理学」について
第 6 回	レポート課題 1:初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1:添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1:最終稿の作成
第 9 回	「スポーツ心理学の諸問題」についての整理
第 10 回	整理された「スポーツ心理学の諸問題」の問題設定
第 11 回	問題設定された「スポーツ心理学の諸問題」についての調査とその内容の学修
第 12 回	レポート課題 2:初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2:添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2:最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	コーチング学特講	担当者	ヤマモト 山本 ダイ 大	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座はスポーツ科学の個別学問領域の知見に立脚した「トレーニング理論」を体育・スポーツの指導実践に適用する手段と方法を修得することで、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>I. スポーツ科学の個別学問領域（運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ心理学等）の知見に立脚した「トレーニング理論」を説明することができる。</p> <p>II. 「トレーニング理論」に基づいた「実践的トレーニング方法」について、トレーニング計画立案やトレーニング効果（競技力）の評価方法を企画・立案することができる。</p> <p>III. 「実践的トレーニング方法」を体育・スポーツの指導実践に適用する手段と方法を、コーチング学の理論（コーチングとコーチング学の定義、コーチの役割と使命、競技力を養成するための問題解決型思考やPDCA サイクル、コーチングにおけるマネジメント、医・科学情報によるコーチング支援等）に基づいて呈示することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>スポーツ科学の個別学問領域の知見に立脚した「トレーニング理論」、及びスポーツ実践場面の問題や解決方法と自身のスポーツキャリアを照合し、「実践的コーチング」の手段と方法を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①スポーツ科学の個別学問領域で得られた知見を説明することができる。(知識・想起)</p> <p>②「トレーニング理論」に基づく「トレーニング計画」や「トレーニング効果の評価方法」を形成できる。(技能)</p> <p>③自身が形成した「トレーニング計画」や「トレーニング効果の評価方法」をコーチングの実践場面に適用できる。(技能)、(知識・問題解決)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>「①基本教材及び参考図書等の熟読 (自習) 【SBOs①】」、「②レポート課題に沿った事例あるいはデータの収集と分析 (自主研究) 【SBOs②&amp;③】」、「③レポートの作成 (レポート作成) 【SBOs②&amp;③】」、「④manaba folio での掲示板機能を利用した複数回に渡るレポート添削での教員と受講生とのディスカッション (ディベート) 【SBOs②&amp;③】」の学修方略により、「トレーニング理論」→「実践的トレーニング方法」→「体育・スポーツの指導実践へのコーチングの適用」について、自身が選択したスポーツ種目をモデルに段階的なりポートを作成する。</p> <p>学修時間は、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <p>① (自習) : 【10 時間/レポート 1 本】</p> <p>② (自主研究) : 【10 時間/レポート 1 本】</p> <p>③ (レポート作成) : 【10 時間/レポート 1 本】</p> <p>④ (ディベート) : 【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>スポーツ実践場面における指導やトレーニング方法の調査・観察 (フィールドワーク)、及び図書館を利用した先行研究に関わる文献検索を含めてレポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <p>初稿は、レポート課題 1 が 7 月末、レポート課題 2 が 8 月末とし、最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>初稿は、レポート課題 1 が 11 月下旬、レポート課題 2 が 12 月下旬とし、最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題に対する妥当性、文献に基づく知見の反映、考察の論理性を中心に評価する。
	観察記録	20%	草稿段階から最終稿に至るプロセス (manaba folio 等によるレポート作成に関わる技能や積極的態度等) を評価する。
履修者への要望	<p>①草稿段階からレポートのテーマや構成について、メール等を中心に連絡相談して下さい。</p> <p>②レポートのテーマとして選択するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが、出来れば、自身が経験したスポーツ種目の方がまとめ易いと考えられます。</p> <p>③レポート作成に際し、基本教材や参考図書はもちろんですが、文献もオンラインによる検索方法の修得も含め、積極的に検索・確認して下さい。なお、引用文献の記載方法等については草稿段階で指示します。</p> <p>④その他、質問等はメール等で連絡して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 日本コーチング学会編 教材名： 「コーチング学への招待」 ISBN：978-4-469-26819-5（大修館書店，2017年）2,700円+税
	コーチングとコーチング学、競技力とトレーニングの関係、競技力の養成、競技トレーニングの計画、コーチングにおけるマネジメントや医・科学情報による支援等に関わる知見を網羅した最新のテキストである。
参考図書	ジェリー・リンチ著 水谷豊・笈田欣治・野老稔訳 「クリエイティブ・コーチング」 ISBN-13：978-4469266160（大修館書店，2008年）1,980円
履修上のポイント	本課題においてはスポーツ科学の個別科学領域の知見に立脚した「トレーニング理論」について理解を深める。自身が選択したスポーツ種目をモデルとして、「トレーニング理論」に基づく「実践的トレーニング方法」を検討するが、指定した基本教材や参考図書に加え、必要な文献を自身で収集する。文献収集は特に、スポーツ科学の個別科学領域から得られた知見と「トレーニング理論」の対応を確認する上で重要となる。
レポート課題 1	コーチング学の定義、競技力の概念、競技力を養成するためのトレーニングの考え方等を踏まえ、自身が選択したスポーツ種目における「トレーニング方法」を指導実践に適用する「コーチング」について2000字程度で記述しなさい。 <b>留意点：</b> 第1～4章の「コーチングとは何か」、「コーチング学とは何か」、「競技力とトレーニング」、「競技力の養成」と自身が選択したスポーツ種目との対応を図る。
レポート課題 2	「コーチング」におけるトレーニング計画、トレーニング周期（トレーニング・ピリオダイゼーション）、試合に向けたコンディショニング等に関わる理論を自身が選択したスポーツ種目に適用する実践的方法について2000字程度で記述しなさい。 <b>留意点：</b> 第5～6章の「競技トレーニングの計画」、「試合への準備」に示された理論（トレーニング計画論）を自身が選択したスポーツ種目に適用する観点（ポイント）を検討する。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 日本コーチング学会編 教材名： 「コーチング学への招待」 ISBN：978-4-469-26819-5（大修館書店，2017年）2,700円+税
	コーチングとコーチング学、競技力とトレーニングの関係、競技力の養成、競技トレーニングの計画、コーチングにおけるマネジメントや医・科学情報による支援等に関わる知見を網羅した最新のテキストである。
参考図書	ジム・トンプソン（著），鈴木 佑依子（翻訳） 「ダブル・ゴール・コーチ—勝利と豊かな人生を手に入れるための指導法—」 ISBN-13：978-4491035901（東洋館出版社，2021年）2,200円
履修上のポイント	本課題においては自身が選択したスポーツ種目について、基本教材1で学修した「コーチング・トレーニング理論」、及び「トレーニング方法とトレーニングプラン」を体育・スポーツの指導実践に適用する「マネジメント」を検討する。基本教材1と同様、指定の基本教材や参考図書に加え、文献収集が必要となり、特にビジネスマネジメントやスポーツ医・科学の知見をスポーツ実践場面のマネジメントに適用する上で最新の情報を確認することが重要となる。
レポート課題 1	コーチングにおけるマネジメント理論を自身が選択したスポーツ種目（チーム）に適用する実践的方法について2000字程度で記述しなさい。 <b>留意点：</b> 第7章の「コーチングにおけるマネジメント」を自身が選択したスポーツ種目（チーム）に適用する観点（ポイント）や留意点を検討する。書籍や文献検索等により、ビジネスマネジメントに関わる知見を含め検討することが望ましい。
レポート課題 2	スポーツ医・科学をアスリートの競技力向上に導入する方法は最早、常識といっても過言ではないが、スポーツ医・科学を自身が選択したスポーツ種目に導入（チームマネジメントに導入）する際、マネージャーの役割や留意点について2000字程度で記述しなさい。 <b>留意点：</b> 第8章の「スポーツ医・科学、情報によるコーチング支援」を自身が選択したスポーツ種目（チーム）に適用する際、自身がマネージャーであると仮定し、マネージャーの役割や留意点を具体的に検討する。

### 基本教材 1

第 1 回	スポーツ・トレーニング理論全般からみた課題の理解
第 2 回	トレーニングシステムとトレーニング構造に対する学修と理解
第 3 回	選択したスポーツ種目におけるトレーニング課題の抽出と整理
第 4 回	選択したスポーツ種目におけるトレーニング課題と実践的トレーニング方法の対応に関する学修と理解
第 5 回	トレーニング負荷（量と強度）理論、およびトレーニング構成原理の学修と理解
第 6 回	トレーニング計画、トレーニング周期（ピリオダイゼーション）、試合への準備に関する学修と理解
第 7 回	トレーニング構成原理と実践的計画・管理の対応に関する学修と理解①
第 8 回	トレーニング構成原理と実践的計画・管理の対応に関する学修と理解②
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	コーチングにおけるマネジメント（チーム・組織・クラブのマネジメント）に係る学修と理解
第 2 回	コーチングにおけるマネジメント（発育・発達、タレント発掘・育成、トランスファー）に係る学修と理解
第 3 回	チームマネジメント理論をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解①
第 4 回	チームマネジメント理論をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解②
第 5 回	スポーツ医・科学によるコーチング支援（現状と課題）に係る学修と理解
第 6 回	スポーツ医・科学によるコーチング支援（トレーニングの提案と情報戦略）に係る学修と理解
第 7 回	スポーツ医・科学、情報をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解①
第 8 回	スポーツ医・科学、情報をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解②
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	コーチング学特講	担当者	ウエノ 上野 コウジ 広治	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座はスポーツ科学の個別学問領域の知見に立脚した「トレーニング理論」を体育・スポーツの指導実践に適用する手段と方法を修得することで、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>I. スポーツ科学の個別学問領域（運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ心理学等）の知見に立脚した「トレーニング理論」を説明することができる。</p> <p>II. 「トレーニング理論」に基づいた「実践的トレーニング方法」について、トレーニング計画立案やトレーニング効果（競技力）の評価方法を企画・立案することができる。</p> <p>III. 「実践的トレーニング方法」を体育・スポーツの指導実践に適用する手段と方法を、コーチング学の理論（コーチングとコーチング学の定義、コーチの役割と使命、競技力を養成するための問題解決型思考やPDCA サイクル、コーチングにおけるマネジメント、医・科学情報によるコーチング支援等）に基づいて呈示することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 スポーツ科学の個別学問領域の知見に立脚した「トレーニング理論」、及びスポーツ実践場面の問題や解決方法と自身のスポーツキャリアを照合し、「実践的コーチング」の手段と方法を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 ①スポーツ科学の個別学問領域で得られた知見を説明することができる。（知識・想起） ②「トレーニング理論」に基づく「トレーニング計画」や「トレーニング効果の評価方法」を形成できる。（技能） ③自身が形成した「トレーニング計画」や「トレーニング効果の評価方法」をコーチングの実践場面に適用できる。（技能）、（知識・問題解決）</p>		
学修方略 （方法）	<p>【学修方略（LS）と学修時間】 「①基本教材及び参考図書等の熟読（自習）【SBOs①】」、「②レポート課題に沿った事例あるいはデータの収集と分析（自主研究）【SBOs②&amp;③】」、「③レポートの作成（レポート作成）【SBOs②&amp;③】」、「④manaba folio での掲示板機能を利用した複数回に渡るレポート添削での教員と受講生とのディスカッション（ディベート）【SBOs②&amp;③】」の学修方略により、「トレーニング理論」→「実践的トレーニング方法」→「体育・スポーツの指導実践へのコーチングの適用」について、自身が選択したスポーツ種目をモデルに段階的なりポートを作成する。 学修時間は、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要する。 ①（自習）：【10時間/レポート1本】 ②（自主研究）：【10時間/レポート1本】 ③（レポート作成）：【10時間/レポート1本】 ④（ディベート）：【15時間/レポート1本】 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 スポーツ実践場面における指導やトレーニング方法の調査・観察（フィールドワーク）、及び図書館を利用した先行研究に関わる文献検索を含めてレポートを作成する。</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt; 初稿は、レポート課題1が7月末、レポート課題2が8月末とし、最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p> <p>&lt;後期&gt; 初稿は、レポート課題1が11月下旬、レポート課題2が12月下旬とし、最終稿は学事歴で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題に対する妥当性、文献に基づく知見の反映、考察の論理性を中心に評価する。
	観察記録	20%	草稿段階から最終稿に至るプロセス（manaba folio 等によるレポート作成に関わる技能や積極的態度等）を評価する。
履修者への要望	<p>①草稿段階からレポートのテーマや構成について、メール等を中心に連絡相談して下さい。</p> <p>②レポートのテーマとして選択するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが、出来れば、自身が経験したスポーツ種目の方がまとめ易いと考えられます。</p> <p>③レポート作成に際し、基本教材や参考図書はもちろんですが、文献もオンラインによる検索方法の修得も含め、積極的に検索・確認して下さい。なお、引用文献の記載方法等については草稿段階で指示します。</p> <p>④その他、質問等はメール等で連絡して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 日本コーチング学会編 教材名： 「コーチング学への招待」 ISBN：978-4-469-26819-5（大修館書店，2017年） 2,700円+税
	コーチングとコーチング学、競技力とトレーニングの関係、競技力の養成、競技トレーニングの計画、コーチングにおけるマネジメントや医・科学情報による支援等に関わる知見を網羅した最新のテキストである。
参考図書	Neville Cross・John Lyle 編著，川井昂・澤村博・小山裕三翻訳監修 「コーチと選手のためのコーチング戦略」 ISBN：978-4-8429-1455-8（八千代出版，2008年） 3,200円+税
履修上のポイント	本課題においてはスポーツ科学の個別科学領域の知見に立脚した「トレーニング理論」について理解を深める。自身が選択したスポーツ種目をモデルとして、「トレーニング理論」に基づく「実践的トレーニング方法」を検討するが、指定した基本教材や参考図書に加え、必要な文献を自身で収集する。文献収集は特に、スポーツ科学の個別科学領域から得られた知見と「トレーニング理論」の対応を確認する上で重要となる。
レポート課題 1	コーチング学の定義、競技力の概念、競技力を養成するためのトレーニングの考え方を踏まえ、自身が選択したスポーツ種目における「トレーニング方法」を指導実践に適用する「コーチング」について 2000 字程度で記述しなさい。 <b>留意点：</b> 第 1～4 章の「コーチングとは何か」、「コーチング学とは何か」、「競技力とトレーニング」、「競技力の養成」と自身が選択したスポーツ種目との対応を図る。
レポート課題 2	「コーチング」におけるトレーニング計画、トレーニング周期（トレーニング・ピリオダイゼーション）、試合に向けたコンディショニング等に関わる理論を自身が選択したスポーツ種目に適用する実践的方法について 2000 字程度で記述しなさい。 <b>留意点：</b> 第 5～6 章の「競技トレーニングの計画」、「試合への準備」に示された理論（トレーニング計画論）を自身が選択したスポーツ種目に適用する観点（ポイント）を検討する。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 日本コーチング学会編 教材名： 「コーチング学への招待」 ISBN：978-4-469-26819-5（大修館書店，2017年） 2,700円+税
	コーチングとコーチング学、競技力とトレーニングの関係、競技力の養成、競技トレーニングの計画、コーチングにおけるマネジメントや医・科学情報による支援等に関わる知見を網羅した最新のテキストである。
参考図書	基本教材 1 と同じ
履修上のポイント	本課題においては自身が選択したスポーツ種目について、基本教材 1 で学修した「コーチング・トレーニング理論」、及び「トレーニング方法とトレーニングプラン」を体育・スポーツの指導実践に適用する「マネジメント」を検討する。基本教材 1 と同様、指定の基本教材や参考図書に加え、文献収集が必要となり、特にビジネスマネジメントやスポーツ医・科学の知見をスポーツ実践場面のマネジメントに適用する上で最新の情報を確認することが重要となる。
レポート課題 1	コーチングにおけるマネジメント理論を自身が選択したスポーツ種目（チーム）に適用する実践的方法について 2000 字程度で記述しなさい。 <b>留意点：</b> 第 7 章の「コーチングにおけるマネジメント」を自身が選択したスポーツ種目（チーム）に適用する観点（ポイント）や留意点を検討する。書籍や文献検索等により、ビジネスマネジメントに関わる知見を含め検討することが望ましい。
レポート課題 2	スポーツ医・科学をアスリートの競技力向上に導入する方法は最早、常識といっても過言ではないが、スポーツ医・科学を自身が選択したスポーツ種目に導入（チームマネジメントに導入）する際、マネージャーの役割や留意点について 2000 字程度で記述しなさい。 <b>留意点：</b> 第 8 章の「スポーツ医・科学、情報によるコーチング支援」を自身が選択したスポーツ種目（チーム）に適用する際、自身がマネージャーであると仮定し、マネージャーの役割や留意点を具体的に検討する。

### 基本教材 1

第 1 回	スポーツ・トレーニング理論全般からみた課題の理解
第 2 回	トレーニングシステムとトレーニング構造に対する学修と理解
第 3 回	選択したスポーツ種目におけるトレーニング課題の抽出と整理
第 4 回	選択したスポーツ種目におけるトレーニング課題と実践的トレーニング方法の対応に関する学修と理解
第 5 回	トレーニング負荷（量と強度）理論、およびトレーニング構成原理の学修と理解
第 6 回	トレーニング計画、トレーニング周期（ピリオダイゼーション）、試合への準備に関する学修と理解
第 7 回	トレーニング構成原理と実践的計画・管理の対応に関する学修と理解①
第 8 回	トレーニング構成原理と実践的計画・管理の対応に関する学修と理解②
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

### 基本教材 2

第 1 回	コーチングにおけるマネジメント（チーム・組織・クラブのマネジメント）に係る学修と理解
第 2 回	コーチングにおけるマネジメント（発育・発達、タレント発掘・育成、トランスファー）に係る学修と理解
第 3 回	チームマネジメント理論をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解①
第 4 回	チームマネジメント理論をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解②
第 5 回	スポーツ医・科学によるコーチング支援（現状と課題）に係る学修と理解
第 6 回	スポーツ医・科学によるコーチング支援（トレーニングの提案と情報戦略）に係る学修と理解
第 7 回	スポーツ医・科学、情報をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解①
第 8 回	スポーツ医・科学、情報をスポーツ実践場面に適用する観点や留意点に係る学修と理解②
第 9 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 10 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 11 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

科目名	調査分析特講	担当者	タナカ 田中 ケンイチロウ 堅 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義の目的は、①調査の種類、その中でも質問紙法（アンケート調査）と面接調査（ヒアリング調査）について学習し、実際に調査票を作成し、面接計画を作ることを目的とする。②調査分析に必要な統計手法について学習し、実際に分析できることを目的とする。</p> <p>I. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的な考察を通じて、具体的克論理的な見解を示すことができ、その限界を認識することができる。</p> <p>II. データを分析し、分析結果の意味を理解し、問題を解決することができる。</p> <p>III. 経験や学修から得られた知識や教養に基づき、倫理的な課題を理解し説明できる。</p>						
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>データを注意深く読み取り、適切な分析を行うことができ、分析結果を客観的に解釈することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データを収集するための調査票を作成することができる（もしくは調査的面接を計画することができる）。</li> <li>データ分析に必要な統計学的知識を理解することができる。</li> <li>データ分析に必要なコンピュータ・リテラシーを身につけられる。</li> <li>収集されたデータを、統計学的知識と統計パッケージのリテラシーを駆使して分析し、分析した結果を解釈することができる。</li> </ul>						
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、Manaba-Folioを通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <p>1つのレポート課題の完成までに最低45時間の学習時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本教材および参考文献の読み込み：20時間</li> <li>レポート課題の執筆：10時間</li> <li>Manaba-Folioへのレポート課題提出後の推敲と最終稿の完成（担当教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間</li> </ul> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に、想定される質問とその回答を纏めた「Q &amp; A」を公開する。さらに「スレッド」に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</li> <li>オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。</li> </ul>						
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題1：6月末を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材1のレポート課題2：8月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。9月中旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材2のレポート課題1：11月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2025年1月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p> <p>基本教材2のレポート課題2：12月中旬を目処に初稿を提出できるように学習を進める。2025年1月上旬の学事歴で定められた期限までに最終稿を提出する。</p>						
成績評価	種別	割合	評価基準				
	レポート	79%	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に)0点となります。</li> <li>レポート課題の作成において、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います（こうしたレポートは評価の対象としません）。教材の引き写しは評価の対象外とします。</li> </ul>				
	観察記録	21%	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終提出までにManaba-Folio上でレポートの草稿の送信・返信を行ったかどうかで評価します。</li> <li>草稿を一度も出さずにいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は79点以下しか得られません。</li> </ul>				
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート作成にあたって文献を引用した場合は、それらすべてをレポートの巻末に示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。</li> <li>要覧にもあるように、後期課題のレポートでは、意味ある情報を的確に、かつ少数の値に集約して表現し、それらの値を効率よく記述しわかりやすく示すこと。表や図をレポートに提示する場合は、必ず通し番号とその表題をつけること。</li> </ul>						

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 鈴木淳子 教材名： 『質問紙デザインの技法 (第2版)』 (ナカニシヤ出版, 2016年) ISBN:978-4-7795-1075-5 2,800円+税</p> <p>(2) 著者名： 鈴木淳子 教材名： 『調査的面接の技法 (第2版)』 (ナカニシヤ出版, 2005年) ISBN:978-4-88-848960-7 2,500円+税</p>
	<p>(1)は、主として心理学で用いられる調査法の概要とその手法について解説したもの。 (2)は、研究方法としての面接・インタビューの概要とその手順について詳細に解説したもの。</p>
参考図書	<p>大竹恵子 (編著) 『なるほど! 心理学調査法』 (北大路書房, 2017年) ISBN:978-4-7628-2990-1 2,200円+税</p> <p>高橋尚也他 (編著) 『心理調査と心理測定尺度 計画から実施・解析まで』 (サイエンス社, 2023年) ISBN 978-4-7819-1568-5 2,350円+税</p> <p>三浦麻子 (監修), 米山直樹・佐藤 寛 (編著) 『なるほど! 心理学面接法』 (北大路書房, 2018年) ISBN:978-4-7628-3051-3 2,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>レポート課題における「①質問紙 (アンケート調査) を行う手順」と「②質問紙法の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所」は、教材の『質問紙デザイン』を参考にし、「③面接調査 (ヒアリング調査) を行う手順」と「④面接調査 (ヒアリング調査) の形式による区分と、それらの長所と短所」は、教材の『調査的面接の技法 (第2版)』を参考にする。</p>
レポート課題 1	<p>以下に示す項目について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①質問紙法 (アンケート調査) を計画し実施するまでの手順 ②質問紙法 (アンケート調査) の実施方法の違いによる区分と、それらの長所と短所 ③面接調査 (ヒアリング調査) を実施するまでの手順 ④面接調査 (ヒアリング調査) の形式による区分と、それらの長所と短所 <b>留意点:</b> 各項目あたり 2,000 字以内を目安に説明すること。</p>
レポート課題 2	<p>以下の 2 項目のうち、一つを選ぶこと： ①任意のテーマ (できたら自分の研究課題に近いもの) について、調査内容をまとめ、実際に質問紙 (アンケート) を作成する。 ②任意のテーマ (できたら自分の研究課題に近いもの) について、調査内容をまとめ、ヒアリング調査計画書と調査に必要な書類を作成する。 <b>留意点:</b> 教材と参考書をよく読んで作成すること。調査票の作成にあたっては、調査後に分析がしやすいように配慮すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 南風原朝和 (著) 教材名： 『心理統計学の基礎 統合的理解のために』 (有斐閣アルマ, 2002年) ISBN:4-641-12160-5 2,200円+税</p> <p>この教材は、統計的手法について詳細に解説したものである。</p>
参考図書	<p>村井潤一郎・柏木恵子 『ウォームアップ心理統計』 (東京大学出版会, 2008年) ISBN:978-4-13-012046-3 2,000円+税</p> <p>松尾太加志・中村知靖 『誰も教えてくれなかった因子分析 数式が絶対に出てこない因子分析入門』 (北大路書房, 2002年) ISBN:978-4-76-282251-3 2,500円+税</p> <p>繁榎算男・森 敏昭・柳井晴夫 『Q &amp; A で知る統計データ解析 Dos and DON' Ts』 (サイエンス社, 2008年) ISBN:978-4-78-191186-1 2,450円+税</p>
履修上のポイント	<p>データ解析用ソフトは教務課より無料提供されるが、もし所有の PC が Mackintosh の場合は担当講師 (田中) まで相談すること。(基本教材 2 に関しては) 高等学校の数学 B を履修した程度の知識があることが望ましい。</p>
レポート課題 1	<p>以下に示す用語について、教材と参考図書などを参照しながら説明せよ。 ①偏相関 ②決定係数 ③標準偏回帰係数 ④因子負荷量 ⑤多重共線性 <b>留意点:</b> 各用語あたり 800 字以内を目安に、3,000~4,800 字の範囲で説明すること。説明には数式を用いてよい。ただし、その際に用いた記号について脚注をいれること。</p>
レポート課題 2	<p>与えられたデータをもとに、統計解析ソフト (BellCurve Excel 統計, 株式会社社会情報サービス) を用いて以下に指定された分析を行い、その結果を要約すること。 ①すべての変数について度数分布, 代表値, 散布度を示す。 ②任意に 2 変数を選び相関図を描き、その相関図について相関係数を算出する。 ③3 つ以上の変数を選び、重回帰分析法を実施する。 ④5 つ以上の変数を選び、因子分析法を実施する。 <b>留意点:</b> 分析用のデータは「調査分析特講」受講者が確定した後に大学院専用サイト (Manaba-Folio) に添付される。PC 統計解析ソフトの出力結果をそのままレポートにペースト・コピーして提出しないこと (ただし、掲載する図表を Excel で作成するのはかまわない)。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	教材に基づく学修(1)	質問紙調査法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：質問紙とは何か、質問紙法の基礎（教材 1; 1 章, 2 章）
第 2 回	教材に基づく学修(2)	質問紙法の調査プロセス，データ収集の技法（教材 1; 3 章, 4 章）
第 3 回	教材に基づく学修(3)	サンプリングの技法，調査実施に向けての準備（教材 1; 5 章, 6 章）
第 4 回	教材に基づく学修(4)	倫理的ガイドライン，質問紙デザインの基礎，質問紙の構成と体裁（教材 1; 7 章, 8 章, 9 章）
第 5 回	教材に基づく学修(5)	質問の種類と順序，質問作成，ワーディング（教材 1; 10 章, 11 章, 12 章）
第 6 回	教材に基づく学修(6)	選択回答法，自由回答法，予備調査（教材 1; 13 章, 14 章, 15 章）
第 7 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1：①，②の草稿作成
第 8 回	教材に基づく学修(7)	調査的面接法について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：調査的面接法とは何か（教材 2; 第 1 章）
第 9 回	教材に基づく学修(8)	調査的面接法の分類，データ収集法の組み合わせ（教材 2; 第 2 章, 第 3 章）
第 10 回	教材に基づく学修(9)	調査的面接法のデザイン（教材 2; 第 4 章）
第 11 回	教材に基づく学修(10)	調査的面接法のガイドライン（教材 2; 第 5 章）
第 12 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1：③，④の草稿を作成 ①②とともに提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 13 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 14 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の草稿を提出し，その後の教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(5)	レポート課題 2 の最終レポート作成

### 基本教材 2

第 1 回	教材に基づく学修(1)	心理学研究における統計の役割について、「学ぶべき課題」を全体的に理解する：心理学研究と統計（第 1 章）
第 2 回	教材に基づく学修(2)	分布の記述的指標（第 2 章）
第 3 回	教材に基づく学修(3)	相関係数の把握と回帰係数（第 3 章），確率モデルと標本分布（第 4 章）
第 4 回	教材に基づく学修(4)	統計的推定・検定（第 5 章），平均値差と連関についての統計的推定（第 6 章）
第 5 回	教材に基づく学修(5)	線形モデルの基礎（第 7 章），偏相関と重回帰分析（第 8 章）
第 6 回	教材に基づく学修(6)	実験デザインと分散分析法（第 9 章）
第 7 回	教材に基づく学修(7)	因子分析法（第 10 章）
第 8 回	レポート課題の作成(1)	レポート課題 1 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 9 回	レポート課題の作成(2)	レポート課題 1 の最終レポート作成
第 10 回	実習課題(1)	サンプルデータを確認し，Excel と統計解析ソフトの操作に慣れる
第 11 回	実習課題(2)	①サンプルデータの全変数について度数分布，代表値，散布度を示す ②任意に 2 つの変数を選び相関図を描き，その相関図について相関係数を算出する
第 12 回	実習課題(3)	③3 つ以上の変数を選び，重回帰分析法を実施する
第 13 回	実習課題(4)	④5 つ以上の変数を選び，因子分析法を実施する
第 14 回	レポート課題の作成(3)	レポート課題 2 の草稿作成と教員の指摘事項を受けて内容を再検討する
第 15 回	レポート課題の作成(4)	レポート課題 2 の最終レポート作成

科目名	統計基礎 I	担当者	サトウ 佐藤 トモヒコ 友彦	期間	通年	単位数	2
-----	--------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>最近の統計ソフトは大変に使い勝手が良く、統計的基礎や計算の前提条件を理解しなくても、形の上では統計の計算結果を得られるが、多くの場合、前提条件や利用条件を知らないことで、統計結果の解釈に間違いが散見される。</p> <p>本科目では、従来のような数式を中心とする説明ではなく、我々の身近にあるような具体的な例を取り上げ、できるだけ数式を介さず、統計の基本概念を理解する。また、表計算ソフトを使うことで、数学が苦手な人でも統計処理の基本的な考え方を理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 統計が身近な疑問や現象に答えてくれるものであり、比較的身近な数学であることを理解する。統計処理は、決して理解が難しい数学ではなく、非常に単純な数学的思考に立脚した数値処理であることを理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 ① 本科目では、統計処理ではよく使われている「平均・分散」や「有意さを表す検定」について理解することを目指す。 ② 特に「検定」に関しては、その背景にある単純な仮定を理解することで、検定の「考え方」や「適用範囲」を理解する。 ③ ここでは、それらの統計処理を使って身近なデータを処理し、それによって具体的な統計処理技術の習得も目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】 指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書を熟読する。【SBO①】【30 時間/1 冊】 ② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&amp;③】【45 時間/レポート 1 件】 ※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。 ・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に活用し、各自解決する。ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。</p>		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているため、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のレポート提出は、基本的に認めない。【締め切り 1~2 ヶ月前にはレポート初稿を 1 本は必ず提出をしていること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学事歴で定められた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	「分散」や「検定、分散分析」についての数学的背景を理解できたか。 「検定、分散分析」についての統計処理を行うことができるか。 「検定、分散分析」の適用範囲を理解できたか。
	観察記録	30%	「分散」や「検定、分散分析」についての疑問や質問が解決できたか・ 「検定、分散分析」について、議論することができるか。
履修者への要望	<p>数学、特に統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。指定教材をしっかり読むこと。また、実際に Excel を操作して分析までたどり着くには、継続的・反復的に学修する必要がある。本科目で学ぶ項目は基本的なことが主であり、数学や統計処理が得意な人は受講しても意味はないので注意すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 向後千春, 富永敦子 教材名： 『First Book 統計学がわかる』(技術評論社, 2007年), ISBN:978-4-7741-3190-0 1,680円+税 または, (2) 著者名： 涌井貞美 教材名： 『意味がわかる統計解析』(ベレ出版, 2013年) ISBN:978-4-86064-345-4 2,000円+税</p> <p>(1)は、数式をなるべく使わずに統計処理の仕組みを説明し、初心者でも気軽に読めて統計を学習できる教科書。あるハンバーガーショップで起こる様々な疑問や問題を、統計処理を使って登場人物たちと一緒に解決していく。基本統計量、区間推定、検定など統計データ分析の基本を理解できる。統計が苦手と思っている人には最適な教科書である。 (2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で統計解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。 菅民郎, 『Excel で学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016 対応版』(オーム社, 2020年) ISBN:978-4-274-22641-0 2,800円+税 (やや辞書的な扱い) 小島寛之, 『完全独習 統計学入門』(ダイヤモンド社, 2006年), ISBN:978-4-478-82009-4 1,800円+税 (教科書同様の入門書だが、Excel との対応が乏しい)</p>
履修上のポイント	<p>本科目は、とにかく数学が苦手で、統計学が苦手な人のための科目である。多くの教科書に見られるような数式で説明することを極力避け、表計算ソフトを使うことで数式による説明を介さずに、統計データ処理を学ぶ。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ (<a href="https://www.stat.go.jp/data/">https://www.stat.go.jp/data/</a>) などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題 1	<p>(1) t検定とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、標本の正規性や等分散性を意識してレポートを作成せよ。 (2) さらに、身の回りのデータを1組用意してt検定を行い、その結果を考察せよ。 <b>留意点</b>：(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>
レポート課題 2	<p>(1) 分散分析とは、何を説明するための統計処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、標本の正規性や等分散性を意識してレポートを作成せよ。 (2) さらに、身の回りのデータを1組用意して分散分析を行い、その結果を考察せよ。 <b>留意点</b>：(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>

基本教材 1

第 1 回	統計と確率の関係について理解する。特に、統計から導かれる確率の考えが、個人の意思決定に利用できない理由等、統計処理の問題点を理解する。また、授業を受講する上で必須な、各自のパソコンの Excel で「データ分析」が使えるようにするための設定手順を確認する。
第 2 回	平均と分散、特に分散についての重要性について学ぶ。また、分散や標準偏差の考えと計算方法、その意味について理解する。
第 3 回	統計分布としての正規分布、大数の定理と中心極限定理について理解する。
第 4 回	データが従う統計分布が理解できると、それを利用した区間推定と信頼区間の考えを導入することができる。この信頼区間の考えが、有意差検定の基本であることを理解する。
第 5 回	有意差検定の考え方の基本を学ぶ。第 4 回内容の「信頼区間」との関係を理解する。また、有意差検定の考え、「帰無仮説」や「対立仮説」についても理解する。
第 6 回	カイ 2 乗の考え方を学ぶ。また、有意差検定の最も基本になる考えについて、カイ 2 乗検定を使った具体的な計算方法について理解する。
第 7 回	カイ 2 乗検定の実際の計算を学ぶ。特に、実際のデータを使って、カイ 2 乗検定の具体的な計算方法の手順を理解する。
第 8 回	有意差検定で、最も利用されている「t 検定(対応なし)」の考え方を学ぶ。特に、正規分布と t 分布、その信頼区間の関係について理解する。
第 9 回	実際のデータを使った「t 検定(対応なし)」の計算方法について学ぶ。計算の手順と、Excel における「データ分析」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も学ぶ。また、「t 検定(対応なし)」の前提条件である「等分散性」についても理解する。
第 10 回	実際のデータを使った「t 検定(対応あり)」を使った計算方法を理解し、その上で計算結果の解釈方法も理解する。さらに第 9 回内容の「t 検定(対応なし)」との違いについても理解する。
第 11 回	多変量の有意差検定である「分散分析」の考え方を理解する。特に「t 検定」との違いと、「分散分析」の考え方を理解する。特に F 分布と F 値の考えを理解することを目的とする。また、分散分析の前提条件である等分散性についても理解する。
第 12 回	実際のデータを使った「分散分析(1 要因)」についての計算方法を理解する。特に「等分散検定」と「分散分析」の計算手順について理解する。
第 13 回	「分散分析(2 要因)」について「分散分析(1 要因)」との違いについて理解する。特に「分散分析(多要因)」で現れる「交互作用」について理解する。
第 14 回	実際のデータを使った「分散分析(2 要因)」についての計算方法を理解する。特に「交互作用」について理解する。
第 15 回	半年間の学修内容について、データ分析の立場から、統計分析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	統計基礎Ⅱ	担当者	サトウ トモヒコ 佐藤 友彦	期間	通年	単位数	2
-----	-------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>最近のコンピュータの高性能化に伴い、高性能な統計ソフトも自由に利用できるようになり、その結果、今までは難しかった多変量解析などが簡単に利用できるようになった。しかし、統計処理が簡単に利用できる一方、その基本にある数理的背景を理解しないままデータ処理を行っているケースが多く見られるようになってきた。</p> <p>本科目では、実際の修士論文や研究に利用されることが多い『多変量解析』における「回帰分析」、「相関係数」や「因子分析」などの数学的背景と前提条件、利用条件などを理解する。また、身近な具体例を使い、なるべく数式を介さずに表計算ソフトを利用することで、その基本的考え方を理解することを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>本科目では、実際に様々な統計処理で使われることが多い「多変量」の統計処理について学ぶ。特に、「相関」、「(重)回帰分析」や「因子分析」についての考え方や処理方法の修得を目指す。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 多くの学生が統計を嫌いになるきっかけとなっているのが、この「多変量統計解析」だが、その理論的背景を理解することを目指す。</p> <p>② 多変量解析が単純な数学的仮定(線形関係)の上に成り立っていることを理解する。</p> <p>③ その上でこれら線形関係を解くための数学が「線形代数」に起因することを認め、その線形代数の手法が「最小 2 乗法」や「(座標)回転」や「固有値」と関係することを理解する。その上で、多変量解析では何を計算するのかを理解することで、その適用範囲を各自が理解できることを目指す。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>指定教科書を熟読し、不明な点や疑問点は、担当教員に質問することで各自が解決を計る。</p> <p>① 指定教科書および参考文献を熟読する。【SBO①】【30 時間/1 冊】</p> <p>② 与えられた課題についてレポートを提出する。【SBO②&amp;③】【45 時間/レポート 1 件】</p> <p>※ なお、参考文献等を読む場合やレポートを作成するに当たり、疑問点や不明な点などがある場合には、長時間悩まず、必ず教員まで質問をすること。質問内容に関しては、基本的なことや専門的なこと、直接関係がないと思われることでも、何でも構わないので、遠慮なく質問すること。レポート提出システムや電子メールでの質問や議論を推奨する。特に、電子メールでのコミュニケーションは、本大学院での基本的で最も重要なコミュニケーション手段であることを認識し、常に活用することを心掛けること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不明な点や疑問点は、悩まず manaba folio やメールを利用して個別指導で解決する。</li> <li>・指定教科書に書かれていない疑問などは、インターネット等を積極的に利用し、各自解決する。</li> </ul> <p>ただし、調べても不明な点や調べた結果が理解できない場合には、遠慮なく担当教員に質問すること。</p>		
スケジュール	<p>① レポートの受付は何時でも行っているため、レポートの完成を待たずに、疑問点や質問などがある場合には、積極的に未完成レポートを提出することを推奨する。</p> <p>② レポートのやり取りや電子メールでの質問や議論が、本科目の大きな学習目的であることを理解すること。なお、教員とのやり取り無しに、レポート提出期限間際のリポート提出は、基本的に認めない。【締め切り 1~2 ヶ月前にはレポート初稿を 1 本は必ず提出をしていること】</p> <p>③ レポートの提出期限：最終稿は学事歴で定められていた期限までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	「多変量解析」の数学的仮定を理解できたか。 「相関」や「重回帰分析」、「因子分析」とは何かを理解できたか。エクセルを使って、「多変量解析」処理を行うことができたか。
	観察記録	30%	「多変量解析」に関する疑問や不明な点が解決できたか。 「多変量解析」に関する統計処理技術を議論できたか。
履修者への要望	<p>統計処理が苦手な人が受講することをお勧めする。ただし、数学が特に苦手な人は、「統計基礎Ⅰ」の後に受講することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 向後千春, 富永敦子            教材名： 『FirstBook「統計学がわかる」一回帰分析・因子分析編一』(技術評論社, 2009年)            ISBN:978-4-7741-3707-0 1,680円＋税            または,            (2) 著者名： 石井俊全            教材名： 『意味がわかる多変量解析』(ベレ出版, 2014年),            ISBN:978-4-86064-398-0 1,900円＋税</p> <p>理数系以外の学生で統計を知っている人でも、「回帰分析」や「因子分析」など、データ間の「関係を調べる」ための統計データ処理の仕組みを理解している人は多くない。            (1)は、極力数式を使わず、データの「関係を調べる」ための統計データ処理の基本的な仕組みを解説している。アイスクリームショップを舞台に登場人物のアルバイトと一緒に悩みながら、気温とアイスクリームの売り上げの関係など、あなたの研究・調査に応用できるような話題を取り上げる。比較的理解することが難しいといわれている「多変量データ解析」を理解できるようになる。            (2)は、(1)ほど易しくないが、内容豊富で多変量解析の基本を解説している。(1)を補う本として適している。</p>
参考図書	<p>以下は必要に応じて入手するとよい。            上田太一郎, 小林真紀, 淵上美喜, 『Excel で学ぶ回帰分析入門』(オーム社, 2004年)            ISBN:978-4-274-06556-9 2,800円＋税(回帰分析・多変量解析におけるExcelの操作説明が豊富)</p>
履修上のポイント	<p>本科目では、多変量解析の基本的な仕組みや数理的背景を理解することを目的とする。ここでは数式による説明をできるだけ避け、表計算ソフトExcelを使って、直接データを統計処理する。数学が苦手な人でも「相関」や「(重)回帰分析」、「因子分析」の基本的な仕組みを理解することを目標としている。まずは、基本教材を手元に置き、手(PC)を動かして統計データ処理を行うこと。また、データは総務省統計局の統計データ(<a href="https://www.stat.go.jp/data/">https://www.stat.go.jp/data/</a>)などインターネットを活用して取得するとよい。</p>
レポート課題 1	<p>(1) 「相関」と「回帰分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながらレポートを作成せよ。            (2) さらに、身の回りのデータを用意し、「相関」と「回帰分析」を計算し、それぞれの結果を考察せよ。  <b>留意点</b>：(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>
レポート課題 2	<p>(1) 「因子分析」は何を知るための統計データ処理なのかを、自分の言葉で説明せよ。特に、説明変数や因子間の線形性について注意しながらレポートを作成せよ。            (2) さらに、身の回りのデータを用意し、「因子分析」を計算し、その結果を考察せよ。なお、PC環境により因子分析の計算が困難な場合は、「重回帰分析」を行い、その結果を考察せよ。  <b>留意点</b>：(1)レポートでは統計処理の概要だけではなく、具体例を挙げつつ、自分の言葉で説明すること。(2)分析に利用するデータは、インターネットなどから取得しても構わない。その際は出典を必ず明記すること。</p>

基本教材 1

第 1 回	本科目で行う「多変量解析」についての概要を理解する。また、本科目で必要な各自のパソコンでの統計処理を行うための設定についても理解する。
第 2 回	教科書の例題を参考に、データの構造を表す「散布図と相関」について理解する。特に、データ間の関係がデータ解析に重要な要素であることを理解する。
第 3 回	前回講義の「散布図」を基に、より定量的である「相関係数」について理解し、その計算方法を理解する。また、偏差積についても理解する。
第 4 回	相関検定で、より定量的に判断できる「無相関検定」について理解する。この「無相関検定」を行う場合には、統計基礎 I で学習した「有意差検定」を利用することを理解する。
第 5 回	「回帰分析」の考え方を学ぶ。特に計算の要となる「最小二乗法」について理解する。
第 6 回	実際のデータを使った「単回帰分析」について具体的な計算方法を理解する。また、単回帰分析と相関係数との関係についても理解する。
第 7 回	「重回帰分析」の考え方と計算方法を理解する。特に、重回帰分析での「説明変数の線形性の仮定」について理解する。また、重回帰分析で重要な条件である「多重共線性」についても理解する。
第 8 回	実際のデータを使って「重回帰分析」の計算方法を理解する。ここでは 1 ステップずつの計算方法を説明し、エクセルの「データ分析」を使った計算方法も理解する。
第 9 回	多変量解析における「相関行列」について理解する①。第 3 回の「相関」との関係を理解する。
第 10 回	多変量解析における「相関行列」について理解する②。「相関行列」の利用方法を理解する。
第 11 回	多変量解析として「主成分分析」の数学的な仕組みを理解し、主成分分析では何が分るのかを理解する。
第 12 回	実際のデータを使って、主成分分析の計算方法を理解する。各自の身の回りにある具体的なデータを利用し、主成分分析の計算方法を理解する。
第 13 回	「因子分析」の考え方を理解する。特に、因子分析の意味と、その結果の解釈の方法を理解する。また、「因子分析」の解法の基本である「行列式の解法」についても理解する。また、「主成分分析」との違いも理解する。
第 14 回	「因子分析」の計算方法について、教科書を参考に理解する。また、因子分析の解釈の方法も合わせて理解する。
第 15 回	半年間の学修内容について多変量解析の立場から理解し、多変量解析の適用範囲を正しく理解する。

科目名	ゲーム理論	担当者	ヨネダ 米田 ヒロヤス 紘康	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ゲーム理論は 20 世紀の大数学者フォン・ノイマンと経済学者モルゲンシュテルンが共著で記した「ゲームの理論と経済行動」として創設され、現在では経営学、法学、経済学、社会学、心理学、生物学、工学、コンピュータ科学など様々な分野で利用されている。なぜなら複数人で構成される集団の中で意思決定する際に、他者行動が重要な役割を果たすからである。</p> <p>本講座では、ゲーム理論の基本的考え方を習得することを目的とする。ただ、これまでゲーム理論に全く触れてこなかった受講生がいることを想定される。そこで、比較的易しい入門書から始めていき、理論的背景を理解し、最後に現実社会でどれほど適応できるのかを理解する。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>ゲーム理論では特有の専門用語と考え方である「利得」や「ナッシュ均衡」などの考え方について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身の回りの様々なプロセスをゲーム理論的思考で考察できること</li> <li>2. それによって合理的意思決定とは何かを理解できること</li> </ol>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本教材・副教材を学修する (自習、SB01, 2) 【20 時間/レポート 1 本】</li> <li>2. レポートの諸侯を作成する (自習・レポート作成、SB01, 2) 【10 時間/レポート 1 本】</li> <li>3. 教員との複数回による添削を通じて、最終的にレポートを完成させる (自主研究・レポート作成・ディスカッション、SB01, 2) 【15 時間/レポート 1 本】</li> </ol> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● manaba folio の掲示板機能やメールを利用して個別指導で解決する。</li> <li>● 指定教科書にかかれていない疑問などは、その他書籍やインターネットなどを積極的に活用し各自解決することを希望する。ただし、それでも解決できない場合は、担当教員に質問すること。</li> </ul>		
スケジュール	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レポート課題 1 については草稿を 7 月末、レポート課題 2 については草稿を 8 月末 (目安) に提出すること。その間、取り上げるテーマ、レポート作成に関する質問・疑問に対しては適宜オンライン等を通じて指導・対応する。</li> <li>● 最終稿は、レポート 1&amp;2 とともに学事暦で定められた日までに提出する。</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設問内容に答えているか</li> <li>2. 適切な日本語で書かれているか</li> </ol>
	観察記録	30 %	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提出期限が厳守されているか</li> <li>2. 担当教員との対応</li> </ol>
履修者への要望	特になし		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 鎌田 雄一郎(著) 教材名： 『16歳からはじめてのゲーム理論 “世の中の意思決定”を解き明かす 6.5 個の物語』 ダイヤモンド社 1,760 円 (税込) ISBN-13:978-4478110713 著者名： 鎌田 雄一郎(著) 教材名： 『ゲーム理論入門の入門』 岩波新書 880 円 (税込) ISBN-13:978-4004317753
	ゲーム理論を知らない人でも理解できるように、全体像を捉えるための書籍です。
参考図書	・川越 敏司(著) 『はじめてのゲーム理論 2つのキーワードで本質がわかる』 ブルーバックス 1,012 円 (税込) ISBN-13:978-4062577823 ・松井 彰彦(著) 『高校生からのゲーム理論』 ちくまプリマー新書 858 円 (税込) ISBN-13:978-4480688385 ・岡田 章(著) 『ゲーム理論・入門 新版—人間社会の理解のために』 有斐閣アルマ 2,090 円 (税込) ISBN-13:978-4641220287
履修上のポイント	数学を用いる内容も部分的にあるので、戸惑う人もいるでしょう。そのような場合はスキップしてもよいので、ひとまず最後まで読み切ってください。一度で理解しようとするのではなく、何度も刷り込むように読むことで、全体像が見えてきます。ゲーム理論の基礎知識を持ち合わせていない受講生を想定し、基本教材はあえて躓かないような易しいものを選んでいきます。少し物足りなく感じるかもしれません。そのような場合は、積極的に参考図書を利用してください。
レポート課題 1	ゲーム理論の歴史的背景をまとめた上で、ゲーム理論の目的をまとめなさい。(3000 字程度から) <b>留意点</b> ：教材からの抜粋ではなく、自分自身の言葉で説明するように心がけること。また提出されたレポートはコピペチェックをかけますので、検出された場合は減点します。
レポート課題 2	レポート 1 の内容を踏まえた上で次の 2 点について述べなさい。(1) ナッシュ均衡について説明し、(2) 繰り返しゲームの特徴と均衡を説明しなさい。(3000 字程度から) <b>留意点</b> ：教材からの抜粋ではなく、自分自身の言葉で説明するように心がけること。また提出されたレポートはコピペチェックをかけますので、検出された場合は減点します。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修（ゲーム理論とは）
第 2 回	教材の学修（合理性とは）
第 3 回	教材の学修（意思決定モデルの理解）
第 4 回	教材の学修（戦略ゲームの理解）
第 5 回	教材の学修（ナッシュ均衡の理解）
第 6 回	教材の学修（支配戦略の理解）
第 7 回	教材の学修（囚人のジレンマ）
第 8 回	教材の学修（混合戦略）
第 9 回	教材の学修（展開ゲームの理解）
第 10 回	初稿提出
第 11 回	添削指導により加筆修正
第 12 回	添削指導により加筆修正
第 13 回	添削指導により加筆修正
第 14 回	添削指導により加筆修正
第 15 回	最終稿提出



---

# 特別研究

---

# 国際情報専攻

かとう こうじ 教授  
加藤 孝治 教授

専門分野：経営学（戦略論・組織論）、ファミリービジネス研究、  
産業研究（食品企業、消費関連産業、小売企業、その他）

## 特別研究の研究領域

特別研究では幅広く経営学をベースとした研究領域を対象としています。私の専門研究対象とする産業領域は消費関連産業ですが、受講生の取り上げるテーマは特定しません。自分としては消費行動あるいは社会構造において、消費者・利用者の意識とそれに働きかける企業行動及び社会の制度の変化などに興味を持って研究に取り組んでいます。

経営学の中では、企業あるいは顧客との間の駆け引きとなる戦略論的アプローチの他、その企業そのものの競争力につながる組織論（人的資源マネジメント）的アプローチが重要です。また、消費行動・企業行動を理解するための外部環境（社会のしくみ）を整理する産業レポート的な論点整理も重要です。

もう一つの研究領域がファミリービジネスです。日本の産業構造の中に多く存在するファミリービジネスの事業承継を重要なテーマとして取り上げ、その企業が存続することによって維持される地方の経済力に関する内容も研究テーマとして取り組んでいます。

## 特別研究の指導及び研究上のポイント／特別研究の進め方

限られた期間短い時間の中で論文を書き上げていくときの難しさは、まず、そのテーマを決めるところにあります。これまでの指導経験ではテーマの決定・研究系価格の作成に時間がかかり、かつ、最後まで悩み続けるポイントです。大学院に進んでいる以上、自らのテーマ、問題意識に基づきやりたいことは臆げに分かっているものの、その問題の本質を探ろうとすればするほど難しくなります。実際に研究に着手しようとする、そもそも自分が研究したいと考えている企業・産業の実態はどのようなものか、正確に理解できていないことも多いのです。必要なことは、問題意識を正確に理解することであり、ここに時間をたっぷりとらなくてはなりません。問題意識が明確になったうえで、論文に着手すれば、大丈夫です。修士論文の作成は、最後は時間との戦いになりますが、問題意識が固まっていれば、最後のラストパートは乗り切ることが出来、研究内容は目的に沿ったものになっていくと考えます。

最初の問題設定を面倒がらずに行うことが研究を成功支えるための重要なポイントだと考えます。

夏季・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

**特別研究の研究領域**

本特別研究では、国際通商政策、経済活動のグローバル化と地域経済を主な研究領域とする。

国際通商政策の歴史的推移、世界経済のグローバル化の進展と新しい国際分業の出現、産業集積そして企業生産活動のグローバル化といった要因に着目し、地域経済問題、国際経済問題に対してグローバルなアプローチ、すなわち地球規模の政策視野をもって理論的実証的な分析を通して考察することを目指したい。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

院生各自の問題意識と主体的な研究姿勢を尊重し、研究課題を決定する。研究計画を作成し、それに即して研究指導を行うが、国際貿易と経済開発の分析視点に立って、理論と実証の両面から国際経済政策を分析する研究能力の育成を目指す。

**特別研究の進め方**

主に以下のようなプロセスで研究指導を行う。

- ① 研究テーマの選定
- ② 研究計画の作成
- ③ 研究テーマ関連の参考文献目録の作成
- ④ 先行研究成果の概観と先行研究の内容検討
- ⑤ 研究方法の策定と資料収集
- ⑥ 研究内容を具体化し、論文作成に着手
- ⑦ 論文の構成案を作成し、中間報告
- ⑧ 論文の草稿を作成し、中間報告
- ⑨ 修士論文の完稿

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

**特別研究の研究領域**

本特別研究では、国際貿易と通商政策およびグローバル化と国際制度の進展を主な研究領域とします。グローバル化の進展に伴う国際貿易構造の変化、企業の海外進出に伴う国際分業の変化、国際制度の設計に伴う貿易障壁への影響、国際取引の円滑化に伴う地域経済活性化などの国際経済的要因に着目して、理論的・実証的・政策的など幅広い分析視点から、グローバル市場やローカル市場が抱える課題を分析・考察することを目指します。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

国際経済政策を分析する研究能力を育成することを目標とします。研究課題は大学院生自身が考えている問題意識と学術的な研究意義の両面から決定していき、国際経済学の分析視点から修士論文の作成を試みます。興味のある研究分野や研究対象が国内経済や地域経済、多国籍企業や中小企業であっても、グローバル経済という研究観点を取り入れて専門的に研究を進めていきます。

**特別研究の進め方**

はじめに、ゼミでのディスカッションを通じて自分にとって興味のある研究テーマと関連するキーワードについて明確にしていきます。次に、問題意識と研究意義を再検討するために、研究テーマに関する先行研究や専門的資料などを数多くサーベイしていきます。サーベイしたものは要点を簡潔にまとめ、ゼミで報告をするようにします。以上のことが整理されたら、研究論文での仮説構築と分析手法について固めていき、最終的に論文の作成に取り組みます。状況に応じて進め方は変化するかもしれませんが、ゼミでのディスカッションを常にベースとして研究論文の作成を行っていきます。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

**特別研究の研究領域**

本特別研究では、マーケティング全般を対象とし、ブランド構築、広告コンセプト創造など幅広い分野を研究領域としています。現代は商品の本質的な機能だけで、企業が競争優位を勝ち取ることは不可能です。例えば、ファッション性の高い商品はブランド価値に代表されるように、感覚的・情緒的要素が重要ですし、実用性が重視される商品は、環境や世論形成に配慮するなどの社会的要素が中心です。また、芸術性に関わる映画や音楽に関しては、元来の消費者行動研究では限界があります。様々な製品・サービスにおいて実態をつかみにくい象徴的要素が重要視されているのが現状です。したがって、本特別研究では生活全体や文化、さらにはグローバルといった幅広い視点でのマーケティング理論の理解を目指し、消費者を生活者として分析・考察することを念頭に置きます。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

院生各自の問題意識、関心のあるテーマ、さらには主体的な研究姿勢を尊重しつつ、相談の上、研究課題を決定して行きます。マーケティングは、ビジネスと社会経済との融合領域である学問です。そのため、社会情勢の推移、学会動向の進展などを織り込んだアップ・トゥ・デートの内容を目指したいと思います。客観的に調査対象をとらえるだけでなく、対象者に対する共感的な理解や分析者の主観的な解釈も新たなマーケティング研究には求められています。したがって、先行研究の整理・分析、データ収集の方法だけでなく、多様化する生活者の価値観を把握する定性的アプローチも視野に入れて指導して行きたいと思えます。

**特別研究の進め方**

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

**特別研究の研究領域**

本特別研究では、日中関係や米中関係の変遷と、現代中国政治と対外政策の変化を研究領域とします。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

中国の各時期における内外政策の決定過程を明らかにし、日米両国の対中政策変化の原因を分析するよう指導します。院生自身が決めた研究テーマに沿って積極的に先行研究を調べ、関連資料を収集し整理したうえで、修士論文を完成させます。

**特別研究の進め方**

教員の指導を受けつつ、研究方法と目的を明確にし、慎重にテーマを選定したうえで論文を作成します。したがって、本特別研究の進め方は以下の通りです。

- ①テーマの選定
- ②研究計画書の作成
- ③テーマと関係する先行研究の調べと整理
- ④参考文献や資料の収集
- ⑤仮説の立案と検証
- ⑥論文執筆
- ⑦第一次途中報告
- ⑧論文の修正
- ⑨第二次途中報告
- ⑩論文の修正
- ⑪論文の完成

**特別研究の研究領域**

グローバルに展開する企業による形成されたグローバル・ビジネス・エコシステム（GBE）に関して、その現象と本質を解明することにフォーカスした研究です。グローバル環境における不確実性の高まり、テクノロジーの進歩、さらに消費者嗜好の分散と集中のいずれもが目まぐるしく変化する中で、グローバル企業が海外進出にあたって、単独の企業や商品での展開はもはや不可能となってきました。グローバルな競争優位は、より多くのグローバルリソースを取り込めるビジネス・エコシステムの構築と、それによる価値創造の多寡および優劣によって決定づけられるようになってきています。

本特別研究では、グローバル・ビジネス・エコシステムに関する既存研究に基づいた、従来の市場とヒエラルキーの2次元の枠組みを中心とする国際ビジネス理論に、より柔軟で、より多元的なビジネス・エコシステムという新たな分析軸を加え、より網羅的なグローバル・ビジネス視点を持つように指導する。そして、各自が、GBEの形成条件、要因、経路、段階、循環、消滅、進化を分析し、グローバル・ビジネスの理論研究をより時代に見合った形で進展させることを望む。

**特別研究の指導及び研究上のポイント／特別研究の進め方**

1. 研究の目的、目標、方法、タイムスケジュールを明確にする。
2. 文献レビューとして、関連する文献を広範囲にわたって読み込み、研究背景を理解する。
3. 研究計画に従い、対象とする研究領域でデータの収集を行う。
4. 収集したデータを分析し、得られた結果を解釈する。
5. 研究結果を整理し、論文にまとめる。
6. 研究成果は進捗にあわせて発表し、随時指導を行う。
7. 教員からのフィードバックのもとに修正を行い、最終論文の完成を目指す。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

**特別研究の研究領域**

日本政治史研究のアプローチ方法は様々です。担当教員の経歴を考えるに、対象とする時代は、幕末から昭和までが望ましいです（平成も対応できますが、古代や中・近世は荷が重いです）。つぎに内容ですが、特定の事件や制度、政策、組織、人物の他、日本が対象ならば外交や地域、思想を対象とする研究も歓迎いたします。むろん史料研究自体は行いますが、私は史学科卒ではないため、専ら古文書の解説を学びたいという方は、遺憾ながら他をお探し下さい。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

皆さんが各々に選択する研究テーマにより、ポイントは変わってくるものと思われませんが、修士論文の完成を第一に考えるならば、入学までにある程度、興味関心を整理しておき、早々に優れた先行研究と出会うことが必要です。好奇心旺盛は歓迎すべき長所ですが、2年間は一瞬です。年限を気にせず学問と向き合えれば理想ですが、まずは専門性の高い修士論文をしっかりと完成させ、どうしても心残りがあるならば、それらは博士課程で取り組みましょう。

**特別研究の進め方**

まずは皆さん自身が研究テーマを決め、指導を受けつつ、必要な参考文献や資料を収集し、論文の適切なアウトラインを作り上げることが目標です。各自の力量やテーマにも拠りますが、通常このアウトラインは何度も作り直すことになるはずですが、大抵は欲張りすぎて、一冊の本でも纏めきれない壮大な議題設定をしてしまうからなのですが、これは決して無駄にはなりません。主題の周辺を把握することは、自分の論文の学術的意義を知る上で必要な作業ですし、今後の研究課題の発見にも繋がります。イメージとしては、周辺を広く学びつつ、これだというピンポイントを見定め、深く掘り下げると良いでしょう。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

地域活性化，なかでも農村地域の振興，農業・食品産業の振興，食料・農業・農村政策を対象にした研究を行います。多様なステークホルダーが社会課題の解決のために協働するメカニズムを分析することや，従来と異なる政策革新を実現するための環境整備などについて考察することに力を入れています。また，持続可能な社会の構築のために欠かせない自然資本（森林，農地，河川など）のマネジメントについても研究しています。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

もっとも重要視しているのは，的確な問（リサーチクエスション）を立てることです。社会経験豊富な院生の皆さんは，具体的な事例の情報を数多く持っておられることが強みです。しかし，この強みは，学術的な考察を深めていく際に必要不可欠な概念の明確化，理論の組み立てにおいて，弱みになってしまうことも少なくありません。まずは，院生の皆さんが，問題意識の明確化と骨太な問題設定を行えるよう，しっかりとコミュニケーションをとって行きます。さらに，分析対象の確定，理論・先行研究の調査，分析枠組の検討，調査・分析の実施と，院生自ら，計画的に研究を進められるよう，伴走していきます。

### 特別研究の進め方

まずは，問題意識の明確化と問題設定を行うために，対話型の指導（オンライン中心）を行います。続いて，院生が，理論・先行研究の調査，概念の明確化，分析枠組の検討等を行って研究計画を作成できるよう，指導します。この際，並行して，基礎的な文献を用いて，社会科学の研究を行う際のリサーチデザイン，標準的な方法論等に関する知識の修得を支援します。

この後，院生が，研究計画に則して，自ら計画的に調査・分析を実施し，論文の執筆作業を進められるよう，指導します。時間的制約の中，着実に論文執筆を進めるため，節目節目で，論文構成案の報告，論文草稿の中間報告等の機会を設け，修士論文の完成を支援します。

夏季・冬期，春期休暇等の期間を活用して，各研究室において，面接指導やゼミナールを実施して，年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

この特別研究においては，国際政治史を含む国際政治全般を研究領域として，基本的に広範なテーマに対応します。とくに担当教員が現代ヨーロッパ政治やヨーロッパ統合研究を専攻する関係から，こうしたテーマは歓迎します。ただし中東・アラブ研究は特殊な専門知識を必要とすることから除外し，また中国や日本関連のテーマについては他に専門教員がいるため，この特別研究では対応しません。現代の国際政治は多様な国やアクターが絡む複雑な現象となっていますので，狭い領域にこだわることなく多様性をキーワードとして研究を進めていきましょう。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

基本的には院生自身がどのような問題意識をもち，どのようなテーマや領域に関心があるのか，現時点でどのような知識があるのかが研究を進める上での最初のポイントになります。その上で指導教員は院生がどのような知識を身に着ける必要があるのか，またどの方向に研究を進めればよいのか，どのような視野を持たなければいけないかをアドバイスします。ただし院生には主体的な取り組みが求められます。教員が細かな指示を出すわけではないことにご留意ください。

### 特別研究の進め方

以下の手順で特別研究を進めていき，適時打ち合わせや指導の場を設けます。

- 1) まず関心領域の中から研究テーマの候補を挙げてもらいます。
- 2) いくつかある研究テーマの候補の中から正式なテーマを決めます。
- 3) 研究を進めるために必要な文献・資料のリストを作成し収集を始めます。
- 4) 文献・資料の購読をおこなってもらい分析を進めます。
- 5) 論文の構成を決めて執筆を始めます。
- 6) 論文作成の中間報告と修正をおこなってもらいます。
- 7) 論文を完成させます。

夏期・冬期，春期休暇等の期間を活用して，各研究室において，面接指導やゼミナールを実施して，年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

経営組織論，経営戦略論，イノベーション研究など

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

本研究の研究指導は，組織・戦略・イノベーションなど幅広い経営学上のテーマに関して研究指導を行うものである。理論的な知識だけでなく，リサーチメソッドについても理解を深めることも狙いとしている。

### 特別研究の進め方

指導教員と研究テーマについて話し合いながら進めていく。原則として Zoom や Slack などのツールを通じて指導を進めていくものとする。

研究指導においては，学説や理論に関する知見だけではなく，リサーチメソッドに関する文献を読むような機会も提供していく。

夏季・冬期，春期休暇等の期間を活用して，各研究室において，面接指導やゼミナールを実施して，年間 1 時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

# 文化情報専攻

しみず  
清水

とおる  
享教授

専門分野：西南中国民族研究

## 特別研究の研究領域

中国雲南省や四川省のさまざまな民族を中心として東アジアと東南アジア大陸部のフィールドから、文化、社会、歴史の研究について対応したいと思います。歴史学、文化人類学、考古学などの学問分野からのアプローチの方法を指導します。研究課題は複眼的な視点による学際的研究や地域研究を進めるものでも構いません。

## 特別研究の指導及び研究上のポイント

自ら関心のある研究課題を設定し、その課題に一つの解答が出るように指導を進めます。各研究分野の基礎的な思考を学び、広い視点で研究課題を分析考察できるようにします。先行研究の把握、資料収集の方法を経て課題の分析考察を進めます。修士論文作成については理論上の問題がないよう丁寧な指導を心掛けます。

## 特別研究の進め方

院生自ら研究課題を設定し、研究計画を立てます。研究アプローチの分野の方法論を把握しつつ、先行研究の整理を進めます。調査や資料収集の方法を検討し、データの蓄積を進めます。分析考察を進めつつ論文の構成を考えて、作成を進めます。課題設定から執筆までその都度、Eメール、サイバーゼミ、面接授業、面接指導で論文の指導を進めます。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

やま さき まき こ  
山崎真紀子教授

専門分野：日本近現代文学

## 特別研究の研究領域

言文一致体へと移行する明治20年以降、現在までの日本文学を対象とする。つまり、現在使われている日本語で書かれた文学作品を研究していくのであるが、言葉はその時代の文化や歴史を内包し、哲学、異言語との差異化、人間の無意識、心の動きなどから生まれた思想によって生み出されたものであることを踏まえ、隣接した学問領域である文化、歴史、思想、心理などを射程に入れて研究を進めていく。上述した期間の文学作品であれば、広い領域での研究に対応する。

## 特別研究の指導及び研究上のポイント

まずは何に興味、関心を抱いているのかを見極め、何を知りたいと思うのか、具体的に説明できるようになるまで丁寧に指導し、そのうえで、知りたいことの核心を極めたうえで、研究テーマを設定していくように導いていく。研究テーマが決定したら、文書資料のみならず映像資料やフィールドワークも踏まえた資料収集の方法を指導する。各研究会、関連学会への導きを行い、研究方法の見聞を広める機会を多くもつための情報を提供する。

## 特別研究の進め方

1年次の前期は文学研究の方法を学ぶ。まずは文学理論の概論を理解することをめざし、そのうえである方法を選び、具体的な作品を挙げて分析していく。後期は受講者の興味のある作品に寄り添い、どのような方法で分析していくかを検討したうえで、研究対象と目的、方法を明確にし、研究計画書をまとめる。研究対象が決定したら、先行研究を徹底的に読み、ポイントをつかんだうえで、自らの方法との差異を見極め、自分のオリジナリティを明確にしていく。

2年次は論文執筆準備に入る。大切なのは問題提起であり、何を解き明かそうとするのかを明確化させ、それを解明していくにはどのような方法をとるのか、結論はどのように予測できるのかを見極めたうえで、6月中旬までに論題、構成を決定し、文書にまとめ提出する。それをもとに検討を重ね、決定し、7月下旬までに先行研究を収集し、8月下旬まで研究史をまとめる。9月初めから執筆を始め、その成果を中間発表会（9月末）で行い、指摘を受けたことを踏まえ論文の第一稿ものとしてまとめる。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施する。

**特別研究の研究領域**

欧米・日本の文学，翻訳研究，出版文化であれば可能なかぎり対応したい。

以下に講師の具体的研究例をあげる。

- 1) 世界文学カノン：日本や欧米の世界文学カノンがどう移り変わってきたかを，世界文学全集などを分析することで検討する。
  - 2) 自己翻訳：ウラジーミル・ナボコフをはじめ，サミュエル・ベケット，ミラン・クンデラ，西脇順三郎などに見られる self-translation の方法とその可能性を作品の分析や翻訳理論の適用によって検討する。
  - 3) ナボコフとアメリカの出版文化：『ロリータ』を出版したことで知られるナボコフと，出版社の関係およびその受容を主に渡米後に編集者とのあいだにかわした書簡や出版資料から分析する。
- 上記のほか，文芸翻訳を翻訳研究の実践の一環としておこなっている。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

院生一人一人が関心ある研究課題にとりくみ，修士論文を完成できるよう指導する。研究課題の選定，資料収集，論旨の確定，議論展開，論文執筆と段階的に指導を行う。それぞれの関心にもとづき，国内外の関連学会・国際会議やシンポジウムなどに参加するよう求める。

**特別研究の進め方**

1年次は，各自研究課題についての情報・文献を収集し，問題意識を精緻な，アカデミズムで通用するものにしてほしい。

前期：文献の検索方法について知る。詳細な研究計画を立てる。各自で関心のある学会・研究会に参加。

後期：先行研究を渉猟し，レビューを行えるようになる。

2年次以降では，修士論文の作成を行う。

前期：修士論文の題目の作成，作成計画の立案。執筆。

後期：序論，本論，結論を含む第1稿提出。研究（中間）発表会（10月）。改訂，推敲，編集作業。第2稿提出。修士論文提出（12月）。

サイバー・ゼミ，サイバー講義，e-mail を活用して指導を行うほか，グループ面接および個別指導を行う。

夏期・冬期，春期休暇等の期間を活用して，各研究室において，面接指導やゼミナールを実施して，年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

**特別研究の研究領域**

主に、日本の古代文学・古代文化に関する研究領域を対象とする。それを、日本国内における問題として捉えることもあるが、東アジアからの影響を視野に入れながら考察することもある。また享受に関する研究、つまり平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代などの後世の人々が捉えた古代文学・古代文化を研究対象にすることも重要な研究だと考えている。一方で、高等学校の国語教科書も研究対象にしている。教材化された各時代の文学作品に対して、専門的な立場からその適否を評価し、今後のあるべき方向を提言する、もしくはどのような事情で教材となったのか、その歴史的な経緯や意義などを明らかにすることも必要だと考えている。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

院生にとっての修士論文は、それを書いた時の生き様を映すものだと考えている。従って、院生が現在興味を持っていることを研究テーマとして優先したい。しかし、限られた時間の中で成果を出さなければならないので、場合によってはテーマを限定するよう求めることがある。また、学外で行われている研究の現場を、自分の目で確かめることによって研究意欲が高まることがあるので、国内外で行われている学会発表、シンポジウム、講演会などへの出席も促す。院生自身が学会での研究発表を希望する場合は、その指導も行う。加えて、現地調査を奨励する。

**特別研究の進め方**

まずは研究テーマに関連する資料収集と資料整理、その内容に対する問題提起を繰り返してもらう。こうした基本的・実践的な作業を通して論文構成を検討し、さらに考証を積み重ねた上で、最終的にはオリジナルな論証結果もしくは問題提起を明示してもらう。指導方法は、定期的な e-mail による指導が中心になるが、日時場所を調整して直接指導も数回は行いたい。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

**特別研究の研究領域**

日本語教育全般，社会言語学に関わるテーマであれば、できるだけ幅広く対応する。具体的には、教育現場における教授や評価の方法の検討，教材分析，言語テストに関する理論や実践研究，コードスイッチングなど社会言語学的現象の検討，日本語と他言語との対照研究，習得研究などが考えられる。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

研究には、適切な研究テーマを設定すること，研究を遂行するための方法に関する知識を備えていること，実際に行動する能力を持っていること，この3点が重要である。そのため，テーマの設定の仕方や研究・分析方法などについて学ぶ場を提供する。そして，それぞれ関心のあるテーマにおいて，これらのことを実践し，修士論文を執筆できるよう指導する。

**特別研究の進め方**

一年次は，まず，それぞれ関心のあるテーマについて先行研究をまとめ，自分の研究の位置付けを明確にすることから始める。また，同時に，研究方法（質的研究，量的研究，データ収集方法，データ分析方法など）について学び，適切な研究手法を選定し，研究計画を立てる。一年次後半には，データ収集をスタートさせる。二年次前半は，データ分析を行い，中間発表（10月中旬）を経て，論文を執筆する。

夏期・冬期，春期休暇等の期間を活用して，各研究室において，面接指導やゼミナールを実施して，年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施する。

### 特別研究の研究領域

英語学，英文法，英語教育における史的研究をテーマとするが，共時的な研究テーマであっても，国内・国外にかかわらずできるだけ幅広く対応する。

また，英語学と英語教育の接点についての研究テーマについても対応する。

統語理論の内的進化のみならず，学制改革などの社会的因子を含む外的な要因の与えた影響も考察した学際的な研究も行えるよう対応したい。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

各自が，自分が興味を持った分野の先行研究を通じ，深化させるべき研究疑問を発見し，これを課題として資料調査や考察を行う。

研究計画を進めるにあたり，オンラインのミーティングを複数回行い，お互いに発表，コメントなどを通じ学びあい，研究を深化させる。これらのフィードバックをもとに論文の推敲を重ねる。学会への出席や発表を通じ，自分の研究を見直す機会も設けるので，積極的に参加されたい。

### 特別研究の進め方

1年次は前期より，各自が定めた様々な先行研究や文献を調査研究し，分析する。このことと同時に，研究方法や研究の進め方について学ぶ。そのうえで，今後発展させる新規な知見がどのような関係性を持つかについて考察する。

後期開始前までに，先行研究をまとめ，後期にテーマを確定し，研究計画書を作成する。

2年次は，前期に文献調査を終え，草稿に向け，分析し考察する。後期は，9月に予定する中間発表の後に，第1稿を作成する。11月中に第2稿を提出し，指導教官の確認の後に最終稿を完成して提出する。

夏期・冬期，春期休暇等の期間を活用して，各研究室において，面接指導やゼミナールを実施して，年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

第二言語習得または英語教授法の研究である限り，可能な範囲で広範に対応する。大卒の研究テーマ例として，外国語習得の学習者観察と分析，学習者の情意面からみる外国語学習，効果的な学習方略を念頭においた外国語教授法，グローバル化を考慮した産官学連携外国語教育，国際英語としての英語教育など，英語教授法に係る範囲で課題を設定し，実際にデータ収集し精査・分析をする。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

各自が研究テーマを設定し，先行研究および資料を包括的に読解，データ収集，分析，論文執筆に取り組んでもらいたい。できるだけ多く調査・検討し，総合的・分析的・探索的・演繹的研究において自分の立ち位置を明確にし，統計手法を用いて分析し，論文にまとめていくように実施すること。また，関連する学術会議への出席や口頭研究発表を促すので，積極的に参加し，多くの学者・研究者の研究発表にも触れていくこと。

### 特別研究の進め方

第1年次は研究テーマの絞り込み，先行研究収集と精読，研究計画を作成する。5月末までに興味のある事柄の概要を決定，6月末に主要な先行研究のリスト，8月末に文献調査結果の概観をすること。10月下旬には研究テーマを仮決定し，11月下旬に試行研究調査計画書の提出，2月中旬にその結果を提出すること。第2年次には，論文の概要決定，データ収集と分析，論文の完成へと進めていく。4月初頭に論文概要を提出し，5月初旬に研究動機・文献研究・研究方法・結果（予想）から成る簡易草稿を提出する。6月下旬までにデータ収集を完了し，分析の後7月中旬に図表提出をすること。8月末を第1回草稿提出の締め切りとし，9月下旬から10月にかけて前期課程研究（中間）発表会を行う。10月末を第2回草稿提出締め切りとし，12月下旬には修士論文提出とする。尚，教員や他の院生からのフィードバックを参考に加筆・修正を繰り返し実施し，修士論文を完成させ提出すること。

夏期・冬期，春期休暇等の期間を活用して，各研究室において，面接指導やゼミナールを実施して，年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

# 人間科学専攻

なか ざわ  
中 澤

ひとみ  
瞳 准教授

専門分野：メルロ＝ポンティの現象学（主に身体論）、  
フェミニズム理論

## 特別研究の研究領域

メルロ＝ポンティの現象学、あるいはフェミニズム理論を主軸とした身体、経験に関する研究が望ましいが、身体、経験が主題ではなくてもできるだけ対応する。

## 特別研究の指導及び研究上のポイント

論文には、問題、主張、そして主張を支える論拠がある。つまり論文とは、問題提起があり、提起された問題に対して主張が提示され、主張を支える論拠が明確な文章のことである。研究においては、選択したテーマをもとにまずは関連文献の調査から始める。文献調査を行う中で論文の問題設定を行い、その問題を通してどのような主張を、どのような論拠にもとづいて展開するのかについて明確にしていく。関連文献の読解、整理、批判的検討は論文執筆の上で中心的な作業になる。

## 特別研究の進め方

- ・修士論文のテーマをもとに先行研究調査を行いながら、夏休み前までに論文で扱う問題、主張を絞り込んでいく。
- ・引き続き先行研究調査を行い、アウトラインを年末にかけて作り込んでいく。
- ・アウトラインをもとに執筆を行う。
- ・指導はメール、およびオンライン会議システムを使用する。進捗状況に応じて、適宜行う。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

おか やま けい じ  
岡 山 敬 二 准教授

専門分野：現象学を中心とする現代哲学。おもに他者論や心身問題。

## 特別研究の研究領域

哲学的な考察が要求される問題をテーマとし、西洋哲学、とくに20世紀以後の西洋現代哲学の古典的な文献を題材とした研究が望ましい。

## 特別研究の指導及び研究上のポイント

テーマを選択した動機や問題意識を整理し、その研究にとってどのような文献への参照が必要となるか検討し、基本文献を選択することが必要となる。基本文献の適切な読解を踏まえ、それについて独自に解釈、批判・検討を加えてゆくことが具体的な作業となる。こうして、先行研究との比較・検討を通じて、そのテーマについて独自の見解を論理的に説得力ある仕方で提示できるように指導してゆく。

## 特別研究の進め方

- インターネットでの指導・対話を基本とするが、適宜、状況に応じて面接等の機会を設けてゆく。
- ・1年次の夏休み前までを目途にテーマを決定し、必要な文献を検討、収集してゆく。
  - ・1年次夏休み中にテーマと文献について研究計画を作成する。
  - ・2年次前半を目途に研究計画の再確認を兼ねて中間報告を行う。
  - ・進捗状況に応じ、適宜、対応を重ねてゆく。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

組織や職場での不公正・不公平感の諸要因とその心理学的影響を中心とする研究テーマ。

1. 従業員が職場で行う自発的な役割外行動
2. 公平（あるいは不公平）な処遇が従業員の行動に及ぼす影響
3. 公正な人事評価を阻む心理的バイアスの種類とその対処方法（多面的観察評価法など）
4. 職場における従業員の問題行動（職場いじめ、セクシュアル・ハラスメントを含む）
5. 目標管理制度についての心理学的研究

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

研究テーマがどのようなものであっても、心理学の基礎知識や基本的な研究方法の習得は欠かせません。前期課程2年間はだいたい以下のような計画で研究を進めるとよいでしょう。1年次の前半では、研究テーマに必要と思われる心理学研究法を学習してください（特に、学部で心理学を専攻しなかった方は必須です）。後半では、自分の研究テーマに関連する論文の収集を行ってください。論文の入手方法も適宜教えます。論文の収集は、研究テーマに関連した数多くの文献にあたるのが望ましいでしょう。研究テーマに問題や修正が生じたときには、個人面談か随時 e-mail で相談しながら進めます。1年次までにやるべきことはかなり多く大変ですが、何とか乗り切ってください。2年次の前半では、具体的な研究計画の作成と実験・調査などのデータ収集を行ってください。後半でデータの分析を行い、論文執筆に取りかかります。この際、論文の書き方については、坂口典弘・山本健太郎『心理学レポート・論文の書き方 演習課題から卒論まで』（講談社）が必読です。データ分析については、論文作成に必要な統計的手法を自分で修得しなければなりません。論文作成の過程では、書式や分析方法の細かな指導を行うつもりです。

### 特別研究の進め方

基本的にはソーシャルネットワークによる対話を活用しますが、夏期・冬期休暇を利用して面接指導も実施したいと思います。可能ならば2泊3日のゼミ合宿で研究発表会を実施したいと思います。計画の詳細は以下のとおりです。

- 1年次（前半）：具体的な自分の研究テーマの決定。研究方法を決め、研究方法についての学習と同時に関連文献の収集。
- 1年次（後半）：論文作成に必要な実験・調査計画を作成。
- 2年次（前半）：研究テーマと研究計画の再確認（計画の一部修正も可）。実験・調査などのデータ収集の開始。統計的分析方法の学習。
- 2年次（夏期）：ゼミ合宿の開催。中間発表を行う（任意）。
- 2年次（後半）：データの分析。論文執筆。草稿のチェック、最終稿作成、修士論文の提出。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

コーチング学とは「体育・スポーツの指導実践に関する研究」を行う学問分野であり、個別科学の研究成果を評価し統合して、実践指導に活かす役割が求められます。そのため、まず自身の研究テーマに関する先行研究を精査した上で体力面、技術面、心理面等、実践指導に関わる問題を提起し、研究の仮説を立てます。その後、その問題を解決するための研究方法を運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ心理学等の個別科学領域から選択・実践し、得られた研究成果を実践指導に適用する方法について、さらに検討を進めるのがコーチング学の研究領域、および研究の進め方になります。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

コーチング学研究のポイントは「研究成果を実践指導に適用」するところまで、検討を進めることです。例えば研究成果をアスリートやコーチに解り易く（運動イメージとの照合が容易な方法で）フィードバックするまで研究を継続することが求められます。

### 特別研究の進め方

ゼミ生間の研究発表やプレゼンテーション等によるディスカッション、レポート提出・面接による指導を通して、研究を進めます。また可能な範疇で、夏季、冬季、春季休暇期間を利用し、個別科学領域における研究方法の演習も実施したいと考えています。

1年次前期は研究テーマの決定、先行研究の収集、研究方法の検討を行い、夏季は研究方法の演習、基本的な統計処理方法の学修、研究計画の発表を行います。1年次後期から2年次前期は実験、測定、調査等、研究の実施（データ収集）、およびデータ分析を行い、夏季の中間発表を経て、2年次後期に論文執筆（修士論文提出）といった研究の進め方を想定しています。

夏期・冬期・春期休暇等の期間を活用して、研究室において、面接指導やゼミナールを実施し、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

1. 「教育」・「学習」に関する研究。とてつもなく広い領域ではあるが、その考察・調査の対象における「学習」のもつ意味を問うもの。（例：PISA型学力と新しい学力観、etc）
2. 制度的な研究。歴史的な研究。比較考察の視点を含む考察。（例：近代日本における教員養成課程の変遷、インターナショナルバカロレアに関する比較研究、etc）
3. 方法・評価に関する研究。（例：ヴィゴツキーの活動学習理論、etc）
4. 地域における特色のある教育。（例：横浜市における教育型青少年ボランティア活動、ヘルシンキのデイケア・スクールのカリキュラム変容について、etc）

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

研究テーマの設定と、その考察により“何を明らかにしたいのか”を固めていくことが大事です。“（期間内に）どこまで明らかにできるのか”“どのような方法ならば導き出せるのか”という方法論・評価の視点や、先行研究の探索が重要です。すぐれた先行研究、テーマは異なっても視点の重なる研究（ヒントになる研究）を見極めるのも「研究」でつく力だと考えています。自分が明らかにすべきテーマは何か？ 資料の読解力、論理の展開と構成（文章）、調査の方法に慣れるために、研究書（文献）を読むことをおすすめします。

### 特別研究の進め方

- ・オンラインゼミで話し合いながら、研究の視点や方法論と修士論文作成のスケジュールについて指導していきます。
- ・夏期に通いもしくは合宿形式でゼミ内研究発表会を開催し、“自分の研究テーマ”について他者に説明・報告する機会をもちます。OB等も参加してくれますので、アドバイスや多様な意見をいただける貴重な機会となります。
- ・研究室への来室はいつでも歓迎いたします。時間を調整して個別にオンラインでの面談も実施することができます。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

研究領域は，教育の方法に関する思想史研究，学習指導や生徒指導に関する理論やその比較研究，教育メディアに関する理論的研究などである。

1. 教育の方法やカリキュラムに関する思想的・歴史的研究：教育方法やカリキュラムの理論と歴史
2. 生徒指導や道徳教育に関する理論・歴史・比較研究：人間形成，道徳教育，いじめ，不登校など
3. 教育メディアに関する理論的研究：教育におけるメディア及び教材に関する理論的研究

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

まずは，研究テーマについて改めて深く検討し，関連する文献（図書及び雑誌論文）を収集することです。次に，収集した先行研究を批判的に検討し，自分の研究課題を明確にします。研究課題を設定する際に，歴史的・思想的な視点や比較研究の視点などから検討することで，研究の方法についても考えていきます。研究論文は，文献や資料などを手がかりに自分の主張の根拠を示すことが不可欠ですが，自分で問いを立て，自分で考え，自分の言葉で語るということの基本を大事にしてください。

### 特別研究の進め方

- ・1年次は，各自の研究テーマについて検討しながら，論文作成の手順や方法を学び，論文作成の準備を始める。指導の際には，面接やネットワークによる対話を併用する。
- ・2年次の夏期休暇中には，各自の論文の作成計画や実施内容についてゼミで発表し，論文作成計画を完成させる。

夏期・冬期，春期休暇等の期間を活用して，各研究室において，面接指導やゼミナールを実施して，年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

日本および各国・地域の教育制度・政策，教育方法や評価，教師の支援，ジェンダー／セクシュアリティと教育を題材とした研究が望ましい。

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

自分の研究したいテーマや題材について，まずは，これまでに行われてきた研究（先行研究）を徹底的に収集し，検討することが重要である。修士論文で「何を（どこまで）」「どのように」明らかにするかを明確にし，自分の主張を論理的かつ説得的に展開することができるように指導を行う。

### 特別研究の進め方

- ・1年次前期は，研究テーマを検討・確定するために，先行研究・関連資料等の収集と検討を行う。後期は，面接やインターネットを利用して相談しながら，研究テーマの確定と具体的な研究計画の作成を行い，論文執筆を進める。
- ・2年次の夏を目安に，中間報告の機会を設け，内容の検討と今後の計画の確認を行う。後期は，進捗に応じて適宜メールかインターネットでの相談を行い，修士論文提出まで指導を行う。

夏期・冬期・春期休暇等の期間を活用して，各研究室において，面接指導やゼミナールを実施して，年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施する。

**特別研究の研究領域**

「人間の行動」を対象とした「心理学的」な研究であることと、何らかの形で「教育的」な要素があることが望ましいと考えます。この場合の「教育的」とは比較的広範囲に考えていただいて構いませんので、所謂学校教育ということにとどまらず、職場内の教育や成人を対象にした教育、地域の中での教育（人育て）なども対象となると考えます。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

研究課題は基本的に教育心理学的課題に関連する部分が多くなると考えられますが、どんな研究課題を選択されたとしても、論文（科学的論文）を執筆・完成することが最終的な目標になります。そのためには、自らの研究する研究課題を大切に吟味することが必要になります。吟味するためには、設定した課題について、関連すると考えられる資料を十分に集めることは勿論のこと、その資料を基に改めて研究課題について詳細に検討することは必要不可欠なこととなります。それらの資料は書籍にとどまらず、その分野の専門的な論文を読みこなすことも求められます。またその研究課題の解明のためには、現実世界の中で課題解決に適切なデータを収集し、収集されたデータを基に解析し、結果を研究課題と検討し、解釈することができなくてはなりません。そのためには、心理学の各分野の知識はもちろん、統計的な知識も重要となると考えます。そこで通信制大学院ではありますが、メールのやり取りだけでなく、リアルなフィールドの中で様々な場面を設定し、必要な研究指導を実施致しますので、予定の調節など必要な調整をお願いします。実際に場所と時間を設定して、面接・サブゼミナール（基礎学習のため学部ゼミナールへの出席）・合同ゼミナール・合宿を実施致しますので履修者の皆様の積極的な参加を求めます。

**特別研究の進め方**

- ① 1年次前期 研究課題の設定に必要な展望的研究、先行研究・関連資料等の資料収集、研究方法の検討。
- ② 1年次夏期 面接・ゼミナール合宿等で、研究課題についての具体的実施計画の発表と検討。
- ③ 1年次後期 必要な調査・実験などの計画と予備調査などの実施、資料収集継続。
- ④ 2年次前期 研究課題・研究計画の最終調整と調査・実験などのデータ収集。
- ⑤ 2年次夏期 データ分析とゼミナール合宿での中間発表。可能であれば論文執筆。
- ⑥ 2年次後期 分析された結果についての検討と論文執筆、原稿チェック、最終稿作成、論文提出。

夏期・冬期、春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

**特別研究の研究領域**

人間の運動の中でもスポーツにおける運動を研究対象とし、実際に行っている運動について直接観察を通して捉えられる運動の特性や構造を明らかにすることに力を置きます。スポーツ運動学研究の中核領域である運動質や運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法などについて、運動研究の発展の歴史を踏まえながら理解を深め、理論化することができるかが課題となります。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

研究課題を設定する上で、どのような運動を対象として、どのような現象について、スポーツ運動学研究領域内のどのような方法論で研究していくのかについて自身で精査しておく必要があります。スポーツ運動学における研究方法論は多岐にわたることから、関連する知識を事前に学修しておく必要もあります。さらに、その方法論がヒトを対象とする場合、倫理審査が必要になる場合もあるので周知な準備が必要です。

**特別研究の進め方**

基本的にはレポート形式やインターネットを介したオンライン形式、研究室などでの対面形式での講義や対話形式で研究を進めていきます。大まかな予定として、1年次前半（8月程度まで）は研究テーマの精査や文献調査、スポーツ運動学の研究領域内の知識整理、1年次後半から2年次前半までは研究テーマの精査ならびに検討、実行を行い、残りの期間で論文執筆を行っていくことを想定しています。

夏期・冬期・春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

**特別研究の研究領域**

メンタルヘルスをベースとした、行動科学、心身医学のほかに、緩和ケア、プライマリ・ケア、医学教育、そして禅の効果を科学的に検証する研究も対象にします。また、医療・福祉の他にもヒトに関わる内容で、在籍期間にまとめることが出来そうなテーマを歓迎します。

**特別研究の指導及び研究上のポイント**

興味のある分野で研究を進めることが第一ですが、それが、実現可能かも考えながら研究プランを組むことも大切です。具体的なプランをとともに考え、指導というよりも進めていくうえでのサポートを行う方針です。

教科書や文献を読んで、自ら考えるとともに、ディスカッションを重ねていくと、その中で新たなアイデアや突破口が見えてくる場合も多くあります。研究上ではディスカッションをできるだけ行いたいと思います。

**特別研究の進め方**

テーマ選びと、それに関連する文献の収集から始め、仮説を立て、研究計画書を作成するとともに、必要があれば倫理審査委員会へ申請します。そののち研究の実施、結果の解析を行います。最終的には論文作成になりますが、すべての期間においてできるだけコミュニケーションをとりながら、小さな疑問点でも早めに解決しつつ進めることが大切です。

誰かに研究内容をわかりやすくプレゼンテーションすることを常に考えながら進めていきましょう。

夏期・冬期・春期休暇等の期間を活用して、各研究室において、面接指導やゼミナールを実施して、年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。

### 特別研究の研究領域

スポーツ競技者及び指導者におけるパフォーマンス向上に対する心理が及ぼす影響に関する研究、アダプテッドスポーツ科学についての検討など。

- 1) スポーツ競技者の心理的コンディショニングに関する研究
- 2) スポーツメンタルトレーニングにおける研究
- 3) アダプテッドスポーツにおける心理学
- 4) パラスポーツにおける心理学的アプローチ
- 5) スポーツコーチの成長に関する研究

### 特別研究の指導及び研究上のポイント

どのような研究テーマにするか、自分の興味・関心、探求したいテーマを見つけていきましょう。

そのためには心理学の基礎知識や研究法が必須となります。特別研究は、文献の探し方、データ分析の行い方、論文の書き方を中心に指導します。研究指導の前半は、心理学の研究法について習得し、テーマに関する論文の収集し先行研究をまとめましょう。後半は、実験・調査等のデータ収集及び分析し論文を完成させます。

### 特別研究の進め方

受講生の学修環境に応じて、面談やネットワークを使つての相談を1年次から開始します。夏季・冬期・春期休暇を利用して、面接指導を適時実施します。

1年次：研究テーマの決定。研究計画作成。研究方法の習得。関連文献収集。先行研究まとめ。

2年次：研究計画再検討。実験・調査研究スタート。ゼミ合宿（予定）。中間発表。データ分析。論文執筆（論文指導）。修士論文提出。

夏季・冬期、春期休暇等の期間を活用して、研究室において、面接指導やゼミナールを実施します。年間1時間以上の対面形式による研究指導及び特別研究指導を実施いたします。